

-----  
2022年度 前期

2.0単位

アクティブラーニングの方法

前林 清和  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。防災研修や開発教育などでは、独自の学習プログラムや教材作成やそれを使った小中学校などでの、いわゆる出前授業や地域住民に対するプロジェクトを企画し、実行していく能力が求められる。本演習では、災害ボランティアをテーマとして設定し、ブレインストーミングやランキング、シミュレーションなどのプロジェクト技法を駆使し、学習テキストを作成することで、社会防災分野に関するプロジェクトを行うための方法を学んでいく。

< 到達目標 >

1、プロジェクトを実施していくための企画、合意形成、発想力、調整力などが身に付く。(技能、態度・習慣)  
2、各種ワークショップの技法を習得することができる。(知識、技能)

< 授業のキーワード >

プロジェクト技法 アクティブラーニング

< 授業の進め方 >

プロジェクト学習、グループ学習、プレゼンテーションなどを総合的に組み合わせて展開していく。

< 履修するにあたって >

積極的に授業に参加し、グループ活動でも主体的に関わることを望みます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

レポート提出とともに レポート内容について授業の中でフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

レポート100%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要、進め方、評価の仕方、自己紹介など

第2回 プロジェクトをおこなうために

プロジェクトを実施していくために具体的に必要なアクティブラーニングの意義学ぶ

第3回 プロジェクトと人間性

プロジェクトにおける人間性と人間関係のあり方と重要性について学ぶ

第4回 プロジェクトとプログラムの基本

プログラムの開発におけるコンセプト、技法、期間などについて学ぶ

第5回 教材開発の基本

実物・模型、写真・映像・イラスト、データ、プレゼンテーション資料、ワークシート、ゲーム、地域文化財、自然などの教材について学ぶ

第6回 基本的アクティビティの活用1

アイスブレイクとブレインストーミングの意義と内容について実践的に学ぶ

第7回 基本的アクティビティの活用2

ブレインストーミングとKJ法の意義とそれを使ったドリルを実践することで、その活用方法を学ぶ

第8回 討論のためのアクティビティの活用

ランキングと合意形成の意義とその方法を実践を通じて学ぶ

第9回 イメージを高めるアクティビティの活用

イメージマップの意義とその方法について実践を通じて学ぶ

第10回 疑似体験のアクティビティの活用

シミュレーションゲームの意義とその方法を実践を通じて学ぶ

第11回 教材開発の実践(導入)

「災害学習ブック」の研究開発の方針について検討し決定する

第12回 教材開発の実践(展開)

「災害学習ブック」の研究開発をチームごとに今まで学んだプロジェクト技法を使って全体のフレームを構築していく

第13回 教材開発の実践(応用1)

「災害学習ブック」の研究開発の内容と素材の吟味を種々のプロジェクト技法を駆使して検討する

第14回 教材開発の実践(応用2)

「災害学習ブック」の研究開発の内容と素材を各種プロジェクト技法を駆使して作成する

第15回 まとめ

教員と学生による討論を通じての全体の振り返りと展望

-----  
2022年度 後期  
2.0単位  
アジア社会研究  
松田 ヒロ子  
-----

< 授業の方法 >  
講義

< 授業の目的 >

台湾は1895年から1945年まで日本が統治し、現在も日本と台湾の経済的、文化的交流は非常に盛んです。近年は台湾の食文化も日本で人気ですが、台湾の歴史を理解している人は非常に少ないです。この授業では台湾の近現代史と日台関係を学びます。現代社会学部のDP1に示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、グローバルな視野と豊かな教養を身につけることを目指します。

< 到達目標 >

(1) 東アジアの歴史、地理、文化に対する関心を高め、広い視野に立って、台湾の政治、社会、経済、文化の歴史的發展を説明できるようになる。

(2) 東アジアの諸国、地域が相互に関連しあっていることを説明できるようになる。

(3) 台湾と日本の政治、経済、文化、社会的な関係を歴史的経緯を踏まえて説明できる。

< 授業の進め方 >

講義形式で進めますが、台湾に行ったことのない学生も興味を持てるように、視聴覚教材(写真や映像)を多く取り入れる予定です。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習、復習、それぞれの研究で毎週合計2時間程度

< 提出課題など >

提出課題に対するフィードバックは授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に提出する課題(50%)、レポートあるいは期末試験(50%)

履修者人数と社会状況(感染症の蔓延など)に応じて期末レポートか期末試験のどちらを実施するか決定します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や成績評価について説明します。

第2回 台湾の現在

今日の台湾の現状を、政治、経済、社会、文化的側面から学びます。

第3回 東アジアの先住民と移民

マレー・ポリネシア系の先住民と中国大陸から台湾に流入した漢族系の移民との関係について学びます。

第4回 日本の台湾植民地統治の始まり

日本が台湾を植民地支配することになった経緯と、台湾の住民の日本統治に対する反応を学びます。

第5回 植民地統治と近代化

植民地統治下の台湾の近代化の諸相を学びます。

第6回 戦争と東アジア

台湾人がアジア・太平洋戦争にどのように関与し、台湾はどのような戦争被害を受けたのか学びます。

第7回 終戦と脱植民地化

第二次世界大戦後の中国の状況と台湾の脱植民地化について学びます。

第8回 東アジアの冷戦

冷戦体制下の被害sアジア諸国の関係と米国の影響力について学びます。

第9回 独裁体制と人々の暮らし

冷戦下の台湾の政治体制と人々の生活状況を学びます。

第10回 国際的孤立

中華民国が国際連合から追放され、国際的に孤立していた経緯を学びます。

第11回 民主化運動の高揚

1980年代の民主化運動とその帰結について学びます。

第12回 民主化以降の台湾

1990年代以降の台湾の政治、経済、社会、文化の諸相を学びます。

第13回 日台関係

近年の日本と台湾の関係について学びます。

第14回 自主研究の発表

台湾や日台関係について各自が調べたことを発表します。

第15回 自主研究の発表

台湾や日台関係について各自が調べたことを発表します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

アジア地域学研究

水本 有香  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP1(知識を習得する)に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。日本とアジア諸国は、歴史的、地理的、文化的に密接な関係を持っている。今日、アジア諸国は、貧困から抜け出し、発展しつつける国と未だ貧困から抜け出せずにいる途上国が混交している。途上国には解決しなければならない問題がたくさんあるが、発展しつつける国にも環境問題や高齢化社会などの人間の安全保障を脅かす新たな問題が発生しつつある。この状況下、諸外国の抱える問題についてわたしたちが何らかの社会貢献を日本の国内外で行なおうとするとき、その国の、その地域の人々の現状、ニーズなどを知ることが大切であると同時に、その国がこれまでどのような制度や法制度をとってきたのか、特

に社会的弱者に対する法制度がどのようになっているかを知り、どのようにすべきなのかを考えることが、問題に対して課題を見つけ、解決へのアプローチを探る一つの手段になると考える。本講義は法学部以外の学生にも分かりやすいようアジア諸国と日本の諸制度とを比較しながら、受講生の興味関心に合わせて進める。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

<到達目標>

- ・日本とアジア諸国の法制度について比較、理解することが出来る。
- ・アジア諸国の法制度について理解することが出来る。
- ・アジア諸国の法制度について自ら調べ、グループで協力して発表することが出来る。

<授業のキーワード>

アジア、法制度、ASEAN

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めますが、少人数のグループワークも取り入れながら、受講生に自発的な発言を求めて、双方向の授業を重視します。

<授業時間外に必要な学修>

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

<提出課題など>

毎回、授業中に意見交換や発表、グループで作成した成果物及びレポートの提出などをしてもらい、学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

授業（グループワークを含む）への貢献度（45%）、レポート等（30%）、受講者の発表（25%）により総合的に評価する。

毎回の授業時に、出席カードを提出してもらいます。カードに記載されたことに対して、次の授業時に、総評などを行います。

<参考図書>

土屋英雄編著『中国の人権と法 - 歴史、現在そして展望』明石書店、木間正道、鈴木賢、高見澤磨、宇田川幸則著『現代中国法入門』（第7版）有斐閣、西村幸次郎著『グローバル化のなかの現代中国法』（第2版）成文堂、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』名古屋大学出版会、盛田則夫著『世界のとんでも法律集』中央公論新社、のり・たまみ著『2階でブタは飼うな！ 日本と世界のおかしな法律』講談社

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の全体、自己紹介、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 アジア法とは何か？

そもそも「アジア法」とは何かについて考える。

第3回 権力分立

立法、行政、司法の三権について知る。

第4回 憲法

憲法の成り立ち、内容について知る。

第5回 人権

国際人権法と国内法との関係について考える。

第6回 司法制度

裁判の現状と制度について知る。

第7回 教育

義務教育や職業訓練などの制度について知る。

第8回 環境

環境破壊や砂漠化などを抑止するための制度について知る。

第9回 家族

婚姻、相続、養子について知る。

第10回 ワークショップ

100円ショップを通じて流通を知る。

第11回 社会保障

公的年金、医療保険、失業保険制度について知る。

第12回 自然災害

自然災害に対する法制度について知る。

第13回 文化・芸術

世界遺産、文化、芸術に関する法制度について知る。

第14回 発表

現状と法制度を知りえた上での問題や課題について調べたことをグループで発表する。

第15回 学習内容の整理および確認

講義のふりかえりを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

アメリカ社会研究

岩本 茂樹  
-----

<授業の方法>

対面の講義形式

（ただし、新型コロナの状況でオンデマンドとなる可能性があります。（その場合は、シラバス等に追加連絡をします。）

担当教員のメールアドレス：iwamoto@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告

が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

アメリカは、18世紀の建国以来、世界中に甚大な影響を与えるような新しさや衝撃を生み出し、常に他の国から注目を浴び続けてきた。本授業では、コミックや文学、映像を軸に乗せ、分析することで、日本において「あこがれ」と「反発」の対象として見られるアメリカのさまざまな様相を学ぶ。文学や映画などで表象されるアメリカ社会を社会的に理解することを通して、現代社会学科ディプロマ・ポリシー2に準じ、グローバルな視野を有した一市民としての自覚と自ら成長し続ける意欲を持ち、そして社会に貢献する人材を育てることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、より実践的な観点からアメリカ社会と文化について解説するものである。

#### < 到達目標 >

戦後の日本とアメリカとの関係を軸として、さまざまな視点からアメリカ社会と文化の深みを学ぶことから、異文化理解のパズルを解く力を身につける。

#### < 授業のキーワード >

アメリカナイゼーション、コミュ障、共感の共同体、人道的帝国主義

#### < 授業の進め方 >

コミック、文学、さらにドキュメント映像、映画などをとりあげ、アメリカ社会と文化を読み解くと共に、メディア社会理論についても学ぶ。

対面授業の予定ですが、もしも新型コロナ感染の状況でオンデマンド授業となった場合の、動画講義のURLはマナバにて公開します。

#### < 履修するにあたって >

専門科目ゆえに、かなり突っ込んだ議論と理論などに触れることを十分理解して履修してほしい。

また、映像や文学作品をとりあげるため、戦争の場面などもあることを事前に理解しておくこと。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

現在の世界の出来事に関心を抱くとともに新聞、映画、雑誌の中で述べられるアメリカにも興味を持つこと。(予習1時間、復習1時間程度)

#### < 提出課題など >

授業後の授業内容のコメントならびに教科書からレポート課題を提示することがある。

#### < 成績評価方法・基準 >

授授業内の小テスト(80%) レポート(・コメント(20%))

\* テストは教科書のみ持ち込み可

レポートは教科書からの課題

#### < テキスト >

岩本茂樹『コミュ障のための社会学入門 - 「生きづらさ」の正体を探る』中央公論新社、2022年出版予定(1500円+税)

#### < 参考図書 >

岩本茂樹『戦後アメリカニゼーションの原風景 - 『ブロンディ』と投影されたアメリカ像』ハーベスト社、2002年

岩本茂樹『憧れのブロンディ - 戦後日本のアメリカニゼーション』新曜社、2007年

岩本茂樹『自分を知るための社会学入門』中央公論新社、2015年(1500円+税)

岩本茂樹『思考力を磨くための社会学』中央公論新社、2018年(1500円+税)

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

授業の進め方と内容について理解する。

##### 第2回 戦後日本のアメリカナイゼーション

戦後日本におけるアメリカ文化へのまなざしをコミック、文学の世界からとりあげて、理解する。

##### 第3回 記憶と記録

太平洋戦争の文学作品から、作者の意図と読者の解釈のズレを考える。

##### 第4回 移民国家アメリカ(1)

19世紀から20世紀のヨーロッパからの移民たちが夢見たアメリカを映像から学ぶ。

##### 第5回 移民国家アメリカ(2)

映像を通して19世紀のジャズ音楽を学ぶ。

##### 第6回 文化産業

芸術に関するアウラの問題とコピーについて考える。

##### 第7回 音楽と政治

心を癒す音楽の力と政治利用にされる音楽について考える。

##### 第8回 アメリカ産業のグローバル化

資本主義社会におけるアメリカの多国籍企業からグローバル化の問題を学ぶ。

##### 第9回 ナショナリズムについて

地元愛が偏った国家国民愛へとすすむことの恐れを理解する。

##### 第10回 プロパガンダ

広告業とはどのようなものを学ぶ。

##### 第11回 権力とは

知識や情報が権力として「さようすることを学ぶ。

##### 第12回 生への権力

身近な生活から、アメリカの安楽死などをとりあげて、  
広く権力問題を考える。

#### 第13回 環境問題

化学薬品による五大湖周辺の環境汚染から「自然のメス  
化」について学ぶ。

#### 第14回 現代アメリカの問題(2)

映像を通して、現代アメリカの教育と政治力を学ぶ

#### 第15回 アメリカ社会とは

授業で扱ったアメリカ社会の諸相から、「アメリカ社会  
研究」の視座について再考する。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

インターンシップ

中村 恵  
-----

#### < 授業の方法 >

集中講義

#### < 授業の目的 >

社会における活動は労働や経営等何らかの対価を得るこ  
とを目的とした活動だけではなく、自発的な意志に基づ  
き他人や社会に貢献する多くの行為、すなわちボランテ  
ィア活動からも成り立っている。本授業の目的は、ボラ  
ンティア活動に参加することを通じて、参加する団体が  
取り組んでいる課題の社会的背景を理解し、実践的な課  
題を発見することです。また、活動中に出会うさまざま  
な人とのコミュニケーションを通じて多様な価値観を学  
ぶと同時に主体的に課題に取り組む力を養うことを狙い  
とします。本科目は現代社会学部のDPが示す(1)現代  
社会の多面的、総合的な理解、と(2)諸課題の発見・  
把握及びその解決策の探求と実践 を育成することを目  
指します。本科目は実践的教育から構成される授業科目  
です。

#### < 到達目標 >

- ・自分が参加する団体が取り組んでいる課題の社会的背  
景を理解し、団体が組織する活動の実践的な課題を発見  
し、解決策を考えることができる。
- ・自らの活動を振り返り、自分の成長にとっての課題を  
見つけることができる。
- ・社会を動かす原動力としての市民の非営利活動の意義  
を説明できる。

#### < 授業の進め方 >

ボランティア・インターンシップ自体は受け入れボラン  
ティア団体の現場において実施されるが、そこでのボラ  
ンティア活動以外に、

- (1) 前期5月に開催されるボランティア・インターシ  
ップ説明会及びマナー講座等からなる事前研修、
- (2) 受け入れボランティア団体に関する事前レポート

の作成・提出、

(3) ボランティア活動後の事後レポート、

(4) 後期終了前に実施されるワークショップ形式事後  
研修

が課せられる。また、ボランティア団体からの活動評価  
も、単位認定において加味される。

#### < 履修するにあたって >

後期科目であるが、前期初めに受け入れ団体の案内及び  
科目に関するアナウンスがなされ、5月に開催されるボ  
ランティア・インターンシップ説明会及びマナー講座等  
からなる事前研修を受講することが義務付けられる。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

インターンシップの振り返り・反省・準備、事前レポー  
ト作成、事後レポート作成などを含めて、15週合計で30  
時間の授業外学修を目安とする。

#### < 提出課題など >

- ・受け入れボランティア団体に関する事前レポートの作  
成・提出
- ・ボランティア活動中の状況報告書
- ・ボランティア活動後の事後レポート

提出されたレポート等については、事後報告会において、  
講評を行う

#### < 成績評価方法・基準 >

本科目では、

- (1) 前期5月に開催されるボランティア・インターシ  
ップ説明会及びマナー講座等からなる事前研修、(2)  
受け入れボランティア団体に関する事前レポートの作成  
・提出、(3) ボランティア活動後の事後レポート、(4)  
後期終了前に実施されるワークショップ形式事後研  
修が課せられる。また、(5) 受け入れボランティア団  
体から活動に対する評価も受け、そのすべてを単位認定  
の材料とする。

単位認定は、上記(1)、(2)、(3)、(4)すべ  
ての参加、提出を前提として、

- (2) 受け入れ先に関する事前レポート10%
- (3) 事後レポート10%
- (4) ワorkshop参加態度5%
- (5) 受け入れ先評価75%

で評価する。

#### < 授業計画 >

第1~5回 課題

ボランティアとは何か、ボランティア活動の意義につい

テキストを通して学び、レポートを作成、提出。

#### 第6～10回 課題

指定した講演会を視聴し、その内容と関連する文献を参照しながらレポートを作成、提出。

#### 第11～15回 課題

指定した講演会を視聴し、その内容と関連する文献を参照しながらレポートを作成、提出。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

インターンシップ

中村 恵  
-----

#### < 授業の方法 >

集中講義、実習（対面授業）

#### < 授業の目的 >

インターンシップは、卒業後の進路を考える上での

#### （1）自己理解

インターンシップを通じて自分はどのような行動ができたか、自分の知識や能力は、実際の仕事の現場で求められる知識や能力に照らし合わせてどうだったか、自分はその仕事の現場に接して、どう考え・感じたか、何に関心をもったかを問い直すこと

#### （2）業種・職業の理解

自分が知っていた業界・職業においてはその深い理解、自分が知らなかった業種・職業においては新たな発見とその理解

を促進させることを通じて、

#### （3）就業意識

社会人として求められる態度・行動を体感することと同時に、職場、部門、会社がそれぞれ果たしている役割を深く認識すること

を向上させることを目的とする。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」と関係し、それを育成する実践教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

- ・自分の能力、知識、興味・関心などに関して、はっきりと分析し、表現することができる
- ・将来の職業選択に備えて自らの適性、能力の分析し、表現することができる
- ・将来の就職活動において志望業種・職種をスムーズに

決定することができる

#### < 授業の進め方 >

現代社会学部が斡旋する受け入れ先を中心として、大学の斡旋あるいは就活サイト等を通して自ら探した民間企業、行政機関、あるいはNPOも受け入れ先として、受け入れ先の指示に従いながら、2週間程度の就業体験を行う。インターンシップ終了後には、事後研修としてインターンシップで学習した内容に関するプレゼンテーションを実施する。なお、受け入れ先にはインターンシップ中の学生の活動評価を要請することとする。

#### < 履修するにあたって >

本科目については、現代社会学部が依頼する

（1）学部独自のインターンシップ先

での活動が評価対象の中心となるが、それだけでなく、（2）本学キャリアセンターが募集するインターンシップ

（3）企業・団体独自のインターンシップ

への参加も評価対象とする。

いずれかのインターンシップに参加した、あるいは参加予定の人で、単位認定を希望する人は、必ず後期履修登録期間中に履修登録をすること。

ただし、（2）企業・団体が独自で募集するインターンシップに参加する場合には、認定対象のインターンシップであるかどうか等を確認するため、実習申し込み前に運営委員の教員とアポイントをとったうえで、必ず面談をうけること。

運営委員教員

日高謙一 hidaka@css.kobegakuin.ac.jp

中野雅至 nakano@css.kobegakuin.ac.jp

中田敬司 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

なお、上記いずれかのインターンシップに参加する場合には、募集先、受け入れ先の指示に必ず従うこと。

また、受け入れ団体が設ける定員及び選抜等の制約により、必ずしも履修希望者が全員履修できるとは限りません。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

インターンシップの振り返り・反省・準備、事後レポート作成などを含めて、15週合計で30時間の授業外学修を目安とする。

#### < 提出課題など >

・インターンシップ活動後の事後レポート

・インターンシップの事後報告会でインターンシップ担

当教員から講評を行う

<成績評価方法・基準>

各自のインターンシップ活動前の事前研修、及びインターンシップ終了後現代社会学部が主催する事後研修二日への参加を条件として、原則受け入れ団体の活動評価に基づき評価を行うが、総合的見地からその評価を変更する場合がある。

現地研修100点

事後研修への参加がない場合には、原則「評価不能（「/」）」とする。

<授業計画>

第1回、第2回 事前研修

インターンシップにおける注意点を含むオリエンテーションとともに、

- ・面接デモンストレーションの実施
- ・ビジネスマナーに関する講習
- ・模擬エントリーシートの作成

などを行いながら、インターンシップに対する心構えを徹底する。

第3回、第4回 事前研修

就活に備えて今何をすべきかに関する講義とともに、

- ・模擬エントリーシートの講評、添削及びそれに基づく書き直し。
- ・模擬エントリーシートをもとにした模擬面接及びロールプレイング

などにより、インターンシップにおける成果向上に向けたトレーニングを行う。

第5回～第11回 現地研修

企業等受入先ごとに、現地における研修（インターンシップ）を行う

第12回、第13回 事後研修

企業等の現地研修（インターンシップ）で学んだことにつき、各自発表を行い、教員のコメントに従いながら成果報告会プレゼンテーション資料作成を行う。

第14回、第15回 事後研修

受入先企業等を招き、インターンシップの成果の報告を行う。受入先からコメントを受けると同時に、教員も交えて成果の振り返り及び今後の進路についてディスカッションする。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

英書講読

梅川 由紀  
-----

<授業の方法>

演習形式で行います。

<授業の目的>

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」に関連する科目です。

本授業は「観光」「時事問題」「ごみ屋敷」という三つのテーマに関連する英語の文章（海外の日本に関する旅行ガイドブック、ニュース記事、本など）を読み、内容を理解しながら、社会学的な考え方を学んでいく授業です。英語の文章を読み、内容を理解できるようになることを目的とします。

なお、本授業の担当者は、経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連した事例やエピソードなどを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

<到達目標>

1. 英語の文章を翻訳できるようになること。
2. 英語の文章を読み、内容を理解できるようになること。

<授業のキーワード>

観光（旅行ガイドブック）、時事問題、ごみ屋敷、英語

<授業の進め方>

授業は演習形式で行います。毎回数名を指名しますので、指名された受講生は指示された範囲の英文の翻訳を行います。内容に関するディスカッション（日本語）や社会学的な解説なども行いながら、テーマに関する理解を深めていきます。

<履修するにあたって>

英文を読むことで得られるものは、文法の知識や読解力だけではありません。日本人にはない新しいものの見方に触れたり、日本の文献では得られない新しい視点を吸収することができます。英語力を身に付けるだけでなく、このような体験ができる授業を目指します。多少英語に苦手意識のある方も歓迎します。ただし毎回の予習および、授業への出席は必須です。積極的に授業に参加することのできる受講生を歓迎します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回授業の事前・事後に2時間程度とします。

【授業前】毎回、次回授業で読む英文を事前に配布します。次回授業までに各自、予習（分からない単語を調べる、翻訳する）をして授業にのぞんでください。授業時間内に数名を指名し、翻訳してもらいます。

【授業後】授業の内容を復習してください。

< 提出課題など >

1. 授業時に以下のものを発表 / 提出してもらいます。

・指名された受講生は、指示された範囲の英文を翻訳し、発表する。

・数回、授業時にコメントシート（授業内容を踏まえ、考えたことを日本語でまとめる）を記入する。

2. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加）：30%、コメントシート：15%、翻訳：55%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

授業の進め方について説明します。授業で扱うテーマについて解説します。

第2回 観光地

海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本の観光地がどのように紹介されているのか読解します。

第3回 観光地

前回とは異なる内容の海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本の観光地がどのように紹介されているのか読解し、さらに理解を深めていきます。

第4回 旅行関連情報

海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本に関する旅行関連情報がどのように紹介されているのか読解します。

第5回 旅行関連情報

前回とは異なる内容の海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本に関する旅行関連情報がどのように紹介されているのか読解し、さらに理解を深めていきます。

第6回 観光地と旅行関連情報の発展学習

第2?5回までの発展的学習として、観光地や旅行関連情報に関する文章を読解します。内容に関するディスカッ

ションや社会学的解説も行いながら、理解を深めます。

第7回 新聞

英字新聞を用いて、時事問題について読解します。

第8回 新聞

前回とは異なる内容の英字新聞を用いて、時事問題について読解します。内容に関するディスカッションや社会学的解説も行いながら、理解を深めます。

第9回 ニュース記事

英語ニュースの記事を用いて、時事問題について読解します。

第10回 ニュース記事

前回とは異なる内容の英語ニュースの記事を用いて、時事問題について読解します。内容に関するディスカッションや社会学的解説も行いながら、理解を深めます。

第11回 ごみ屋敷のルポ

アメリカのごみ屋敷に関するルポを用いて、ごみ屋敷について読解します。

第12回 ごみ屋敷のルポ

前回は引き続き、アメリカのごみ屋敷に関するルポを用いて、ごみ屋敷について読解し、さらに理解を深めていきます。

第13回 片づけに関する文献

片づけに関する文献を用いて、ごみ屋敷について読解します。

第14回 片づけに関する文献

前回は引き続き、片づけに関する文献を用いてごみ屋敷について読解し、さらに理解を深めていきます。

第15回 ごみ屋敷と片づけの発展学習

第11?14回までの発展的学習として、ごみ屋敷と片づけに関する文章を読解します。内容に関するディスカッションや社会学的解説も行いながら、理解を深めます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

英書講読

梅川 由紀  
-----

< 授業の方法 >

演習形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」に関連する科目です。

本授業は「外国人から見た日本」「時事問題」「吸血鬼（民間伝承、噂）」という三つのテーマに関連する英語の文章（海外の日本に関する旅行ガイドブック、ニュース記事、本など）を読み、内容を理解しながら、社会的な考え方を学んでいく授業です。英語の文章を読み、

内容を理解できるようになることを目的とします。  
なお、本授業の担当者は、経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連した事例やエピソードなどを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

<到達目標>

1. 英語の文章を翻訳できるようになること。
2. 英語の文章を読み、内容を理解できるようになること。

<授業のキーワード>

外国人から見た日本（旅行ガイドブック）、時事問題、吸血鬼（民間伝承、噂）、英語

<授業の進め方>

授業は演習形式で行います。毎回数名を指名しますので、指名された受講生は指示された範囲の英文の翻訳を行います。内容に関するディスカッション（日本語）や社会的な解説なども行いながら、テーマに関する理解を深めていきます。

<履修するにあたって>

英文を読むことで得られるものは、文法の知識や読解力だけではありません。日本人にはない新しいものの見方に触れたり、日本の文献では得られない新しい視点を吸収することができます。英語力を身に付けるだけでなく、このような体験ができる授業を目指します。多少英語に苦手意識のある方も歓迎します。ただし毎回の予習および、授業への出席は必須です。積極的に授業に参加することのできる受講生を歓迎します。

<授業時間外に必要な学修>

各回授業の事前・事後に2時間程度とします。

【授業前】毎回、次回授業で読む英文を事前に配布します。次回授業までに各自、予習（分からない単語を調べる、翻訳する）をして授業にのぞんでください。授業時間内に数名を指名し、翻訳してもらいます。

【授業後】授業の内容を復習してください。

<提出課題など>

1. 授業時に以下のものを発表/提出してもらいます。
  - ・指名された受講生は、指示された範囲の英文を翻訳し、発表する。
  - ・数回、授業時にコメントシート（授業内容を踏まえ、考えたことを日本語でまとめる）を記入する。
2. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

<成績評価方法・基準>

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの

積極的参加）：30%、コメントシート：15%、翻訳：55%で評価します。

<テキスト>

なし。

<参考図書>

授業時に適宜提示します。

<授業計画>

第1回 インTRODククション

授業の進め方について説明します。授業で扱うテーマについて解説します。

第2回 日本文化

海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本の文化がどのように紹介されているのか読解します。

第3回 日本文化

前回とは異なる内容の海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本の文化がどのように紹介されているのか読解し、さらに理解を深めていきます。

第4回 日本人

海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本人がどのように紹介されているのか読解します。

第5回 日本人

前回とは異なる内容の海外の日本に関する旅行ガイドブックを用いて、日本人がどのように紹介されているのか読解し、さらに理解を深めていきます。

第6回 日本文化・日本人の発展学習

第2?5回までの発展的学習として、日本文化・日本人に関する文章を読解します。内容に関するディスカッションや社会的解説も行いながら、理解を深めます。

第7回 新聞

英字新聞を用いて、時事問題について読解します。

第8回 新聞

前回とは異なる内容の英字新聞を用いて、時事問題について読解します。内容に関するディスカッションや社会的解説も行いながら、理解を深めます。

第9回 ニュース記事

英語ニュースの記事を用いて、時事問題について読解します。

第10回 ニュース記事

前回とは異なる内容の英語ニュースの記事を用いて、時事問題について読解します。内容に関するディスカッションや社会的解説も行いながら、理解を深めます。

第11回 吸血鬼

吸血鬼に関する文献を用いて、民間伝承や噂について読解します。

第12回 吸血鬼

前回は引き続き、吸血鬼に関する文献を用いて、民間伝承や噂について読解し、さらに理解を深めていきます。

## 第13回 民間伝承・噂

民間伝承や噂に関する文献を用いて、民間伝承や噂について読解します。

## 第14回 民間伝承・噂

前回は引き続き、民間伝承や噂に関する文献を用いて民間伝承や噂について読解し、さらに理解を深めていきます。

## 第15回 吸血鬼、民間伝承・噂の発展学習

第11?14回までの発展的学習として、吸血鬼、民間伝承・噂に関する文章を読解します。内容に関するディスカッションや社会的解説も行いながら、理解を深めます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

NPO論

澤山 利広  
-----

### < 授業の方法 >

#### 講義

9/24 (金) の授業はzoomを用います。下記のURLにアクセス願います。受講希望者は必ず17:15から参加してください。5分前にはアクセスできるようにしています。その際に10/1 (金) とその後の授業の方法、及び成績評価方法・基準について説明します。

### < 授業の目的 >

実践的教育から構成される授業科目です。経済学の基礎知識を用いてNPO/NGO等を考察する力を培います。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー1 (知識・技能) に関連します。

「実務経験のある教員による授業科目」です。

### < 到達目標 >

- ・グローカリゼーションを説明できる。
- ・開発途上国と先進諸国のつながりを説明できる。
- ・民間非営利セクター (NPO・NGO) を政府セクター、企業セクターと比較して説明できる。
- ・任意の分野の課題の解決に果たす民間非営利セクターの役割を提案できる。

### < 授業のキーワード >

NPO,NGO,ボランティア、非営利セクター、国際協力、SDGs

### < 授業の進め方 >

講義と受講者による担当箇所の発表に基づくディスカッション

### < 履修するにあたって >

実践を前提とした理論学習ですので、何らかのボランティア活動などをしてしていると理解が進むと思われます。

留学生の受講を歓迎します。日本語能力試験N2相当が必須です。

### < 授業時間外に必要な学修 >

表準備等のために概ね90時間の学習が必要です。

### < 提出課題など >

レポートを課すことがあります。フィードバックは授業内で行います。詳細は授業中に発表します。

### < 成績評価方法・基準 >

到達度確認テスト[持ち込みなし。問題は2週間以上前には発表します。] (100%)。発表やレポートを課す場合には評価に加味します。

### < テキスト >

授業中に発表します。

### < 参考図書 >

授業中に発表します。

### < 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

授業方針、評価について

#### 第2回 ODAボランティアとNPO

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第3回 ODAボランティアとNPO

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第4回 ODAボランティアとNPO

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第5回 NGOとNPO

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第6回 NGOとNPO

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第7回 ボランティアとNPOによる社会づくり

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第8回 ボランティアとNPOによる社会づくり

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第9回 ボランティアとNPOによる社会づくり

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第10回 SDGs概論

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第11回 SDGs概論

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第12回 SDGs概論

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づくディスカッション

#### 第13回 SDGsの目標達成のために

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づく  
ディスカッション

第14回 SDGsの目標達成のために

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づく  
ディスカッション

第15回 SDGsの目標達成のために

講義と受講者によるテキストの担当箇所の発表に基づく  
ディスカッション

-----  
2022年度 後期

2.0単位

火災研究（連携）

菅原 隆喜  
-----

< 授業の方法 >

原則対面授業による講義、状況により遠隔授業

< 授業の目的 >

私たちは、いつでも、どこでも、だれでも、災害に遭遇するという時代に生きています。この科目は、現代社会学部社会防災学科のDPに掲げている現在の日本社会で起こり得る火災や地震などの災害の発生に対して、事後の社会的被害を最小化する「減災」を実現するために事前に備えるべきことや遭遇時の対処方法を身に着けることなど、必要な危機管理の知識、知恵を修得すること目的としています。

火災理論、火災や消防の歴史、建築物の防火対策、地震火災等に関し、専門的な知識を修得する。

阪神・淡路大震災時の経験や教訓を学び、自助・共助・公助のあり方を理解する。

消防業務や危機管理業務を理解し、消防職員や行政職員を志望する場合の参考とする。

なお、この授業の担当者は、神戸市の消防局や危機管理室での実務経験がある教員であり、行政上の防災対策や災害現場での実務、阪神・淡路大震災における消防活動等の経験をもとに、より実践的な観点から授業を進めます。

< 到達目標 >

火災理論、消防の歴史、建築物の防火対策、自助・共助・公助のあり方等について説明できる。

火災や地震等への対処方法を身につけ、自分や家族、隣人等の命を守ることができる。

将来の職場や地域社会の中で、建築物の防火対策や自主防災活動の推進等について、リーダーシップを発揮し、安全・安心な社会づくりに貢献できる。

< 授業のキーワード >

消防法、消防行政、火災、防災と減災、防災対策、阪神淡路大震災、南海トラフ巨大地震、災害時サバイバル、正常性バイアス、惨事ストレス、

< 授業の進め方 >

基本的に講義を中心に進めて行きます。講義内容に関する

質問は、授業後の対面による対応や教育支援システム「manaba」を通じての対応とします。そして、具体的な災害事例をもとに受講生自らが考えながら理解を深めていけるように進めます。

< 履修するにあたって >

日頃から災害の発生に関心を持ち、積極的に受講してください。そして、自分自身や家族、友人などの愛する人を災害から守れるようになりましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

各講義の内容に関心を持ち、日頃から新聞・テレビ・ネットで報道される防火、防災に関するニュースを視聴する。

< 提出課題など >

毎回の授業で感想、質疑などをmanabaを通じて提出、これをもって出席とします。記載内容は抽出して、次の授業でコメントします。期末に課題レポートを求めます。同じくmanabaを通じて提出してください。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的な参加態度とコメントカード... 50%、  
期末課題レポート... 50%

< テキスト >

特になし。

< 参考図書 >

「これからの防災・減災がわかる本」河田恵昭著（岩波ジュニア新書）

「はじめて学ぶ 建物と火災」社団法人日本火災学会編（共立出版）

「令和2年版消防白書」（消防庁ホームページで閲覧可）

「令和2年版防災白書」（内閣府ホームページで閲覧可）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

「減災学」の意義、授業の目的、講義の内容、到達目標、成績評価方法・基準などを理解する。

第2回 火災理論

火災という現象を知る上での基礎となる、燃焼の定義、燃焼と消火の理論、火災の定義、建物火災の性状などについて理解する。

第3回 火災統計

災害統計の意義、火災統計からみた火災の動向、火災による死傷者の状況、出火原因の推移などについて考察する。

第4回 火災の歴史

市街地大火と主なビル火災の歴史、被害拡大の要因と教訓から取り入れられた防火対策の推移と効果について理

解する。

## 第5回 消防行政

消防組織法に基づく政府・都道府県・市町村の役割、消防組織の歴史、消防行政の変遷、緊急消防援助隊、国際緊急援助隊について学ぶ。

## 第6回 消防団

消防団の歴史、消防団員の身分と権限、活動内容について理解し、高齢化・担手不足など消防団の課題を考える。

## 第7回 火災の法的意義

火災を発生させるとどのような罪に問われるのか、損害賠償請求はできるのか、などの刑法上や民法上における火災の法的意義や火災後の生活再建制度、火災保険、火災共済について理解する。

## 第8回 消防法と建築基準法の防火対策

消防法や建築基準法はどのような考え方で火災から人を守ろうとしているのかを理解し、防火・避難施設や消防設備等のしくみや使い方を習得する。

## 第9回 住宅火災

遭遇しやすい住宅火災の発生状況を理解し、火災時の対処方法を自らが実践できるようにするとともに、現在の住宅防火対策のあり方を考察する。

## 第10回 地震火災

地震火災の発生メカニズムについて、阪神・淡路大震災を例に理解し、その被害状況を再確認するとともに、地震火災への事前対策と消防広域応援による消防活動の実態について理解する。

## 第11回 阪神・淡路大震災から学ぶサバイバル術

阪神・淡路大震災で、役立った家庭防災、市民の救出救護活動、避難生活の実体験や携帯電話を使った災害時の情報収集ツールの活用方法などをもとに、災害時のサバイバルと自助・共助・公助を考える。

## 第12回 繰り返された巨大地震

中越地震、東日本大震災、熊本地震における地震火災や消防活動などについて理解する。

## 第13回 南海トラフ地震、首都直下地震への対策

周期的に発生する南海トラフ地震、首都直下地震の歴史を学び、近い将来必ず発生するこれらの地震において、その被害想定をもとにできるかぎり被害を減らすための事前対策(減災)を理解する。

## 第14回 消防実務

日常の消防業務、災害現場での活動、災害予測や避難勧告発令などの業務について理解することにより、消防職員や行政職員を志望する場合の参考とする。

## 第15回 総括

全講義の要点を再確認し、「減災学」について更に理解を深める。最後に課題を提示し、レポートにて後日提出する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

海外実習

江田 英里香、木村 佐枝子  
-----

< 授業の方法 >

経験的な演習での学びを行います。

そのための事前準備として、調べ学習などの主体的な学びを行います。

また、実習中には、活動を通じての学びを高めるために振り返りなどを毎日行い、現地での活動を通して学んだことを定着化させる作業を行います。

事後研修では、全体の活動を通して学んだ内容を自分の言葉で概念化していきます。

< 授業の目的 >

開発途上国であるカンボジアは、近年著しい経済発展を遂げている。そのカンボジアの社会、経済、文化、教育について現地の状況から学びを深める。

国際協力の視点から、カンボジアで支援を行っているODAおよびNGOの国際協力の現状について学び、内発的発展の視点から、カンボジア独自の経済発展の在り方や、ソーシャルビジネスなどについて学ぶ。

事前研修では、カンボジアの基礎知識を身につけるため、書籍・データ等からカンボジアについて事前に調べ学習を行い、カンボジアの研修においては、カンボジアの魅力を自ら掘り出し、PRできる素材を探す。帰国後の事後研修においては、調査結果にもとづく研究発表を行い報告書を作成する。研修では、写真や映像ではわからない現地の状況を肌で感じ、体験し、各個人が今後国際社会の中でどのような役割を果たすことができるか理解を深める。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

1、開発途上国の現状と国際協力に関する体験知を身につけることができる。(知識)

2、海外での調査や報告書の作成を通じて、企画力、実行力、考察力、プレゼンテーション能力を身につけることができる。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

国際協力、NGO、カンボジア、開発途上国

< 授業の進め方 >

講義とワークショップ、体験学習、プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

実習先：カンボジア

日程：2022年8月～9月上旬 7泊8日程度

費用：15万円前後 + 旅行保険 + ビザ申請料

新型コロナウイルスの状況によって開催を判断します。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターネットのニュース、記事、新聞、文献などを中心に事前・事後学習各2コマ程度

< 提出課題など >

事前レポート・プレゼン

事後レポート

授業内にてコメントや質問に対して説明すべき点をフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

説明会、事前・事後研修授業の受講態度及び実習先での活動・取組姿勢、積極的貢献50%、

事前事後研修（PPT発表、報告書、映像）50%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

『カンボジアの学校運営における住民参加』江田英里香、2019年、ミネルヴァ書房

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容と進め方の説明、自己紹介など

第2回 事前研修 1

カンボジアの文化、歴史について理解する

第3回 事前研修 2

カンボジアの現状と歴史背景に基づいた教育の現状と課題について理解する

第4回 事前研修 3

カンボジアの政治と経済、文化、社会情勢について理解を深める

第5回 事前研修 4

カンボジアの貧困問題が教育に及ぼす影響について理解する。特に、ポルポト政権時代からの教育復興と現状について理解を深める。

第6回 事前研修 5

実習先での研究テーマの検討

現地の大学生や住民などに調査をするテーマを設定し、調査方法を定める。

第7回 事前研修 6

実習先での研究テーマの検討

アンケート、インタビューなどによる調査の質問項目を決定し、調査用紙等を作成する（英語もしくはクメール

語への翻訳）

第8回 海外実習 1

カンボジアプノンペンでのODAに関する研修 日本のODAを通じて行われた支援先を見学し、経緯や現状と課題を学ぶ。

第9回 海外実習 2

カンボジアプノンペンでのODAに関する研修 日本のODAを通じて行われた支援先に行き、現地の人たちから話を伺い、理解を深める。

第10回 海外実習 3

カンボジアプノンペンでのODAに関する研修 日本のODAを通じて行われた支援先に行き、現地の人たちがどのように考えているかを理解する。

第11回 海外実習 4

カンボジアプノンペンでのNGOに関する研修 カンボジアの首都プノンペンで活動を行うNGO（日本の団体）を訪問し、活動内容を学ぶ。

第12回 海外実習 5

カンボジアプノンペンでのNGOに関する研修 カンボジアの首都プノンペンで活動を行うNGO（日本の団体）を訪問し、現場が抱える課題への理解を深める。

第13回 海外実習 6

カンボジアプノンペンでのNGOに関する研修 カンボジアの首都プノンペンで活動を行うNGO（海外の団体）を訪問し、活動内容を学ぶ。

第14回 海外実習 7

カンボジアプノンペンでのNGOに関する研修 カンボジアの首都プノンペンで活動を行うNGO（海外の団体）を訪問し、現場が抱える課題への理解を深める。

第15回 海外実習 8

カンボジアシェムリアップでのNGOに関する研修 シェムリアップで活動を行うNGO（日本の団体）を訪問し、活動内容を学ぶ。織物研究所を予定

第16回 海外実習 9

カンボジアシェムリアップでのNGOに関する研修 シェムリアップで活動を行うNGO（日本の団体）を訪問し、現場が抱える課題への理解を深める。織物研究所を予定

第17回 海外実習 10

カンボジアプノンペン大学での研修 王立プノンペン大学で行われている教育を理解し、カンボジア全体の教育状況を学ぶ。

第18回 海外実習 11

カンボジアプノンペン大学での研修 王立プノンペン大学の大学生たちと交流をし、カンボジア文化 日本文化を紹介しあい、文化の違いやそれぞれの国の良さを再確認する。

第19回 海外実習12

カンボジアプノンペンでの内戦に関する研修 プノンペンで行われた内戦が今も及ぼす現状について理解する。

第20回 海外実習 13

カンボジアブノンペンでの内戦に関する研修 内戦で被害を受けた人から話を聞き、望ましい支援のあり方を考える。

#### 第21回 海外実習 1 4

カンボジアでのグループごとの研究テーマにそった調査活動 調査先へ訪問し調査を行う。

#### 第22回 海外実習 1 5

カンボジアでのグループごとの研究テーマにそった調査活動 調査先へ訪問し、話を伺いながら、現場を視察する。

#### 第23回 海外実習 1 6

カンボジアでのグループごとの研究テーマにそった調査活動 調査した内容を振り返り、調査対象からきちんと話が聞けたかどうか、理解に間違いがないか、わからないところなどをまとめる。

#### 第24回 海外実習 1 7

追加調査 調査の足りなかった点を追加調査するとともに、調査しながら浮上した新たな課題について現地できかわからないことを調査しておく。

#### 第25回 海外実習 1 8

カンボジア文化遺産に関する研修 カンボジアにはアンコールワット遺跡群などの世界遺産があるが、いつの時代にどのような建築物ができていたのか、歴史背景と社会状況が遺跡に与えた影響について学ぶ。

#### 第26回 海外実習 1 9

カンボジア文化遺産に関する研修 カンボジアにはアンコールワット遺跡群などの世界遺産があり、観光が国の経済へ果たす役割は大きい。遺跡の保全や観光の現状と課題を理解する。

#### 第27回 事後研修 1

研究発表 現地で行った研究調査をまとめ、パワーポイントを作成する。

#### 第28回 事後研修 2

研究発表 作成したパワーポイントを通じて、各グループで学んだこと、明らかとなったことを発表し、相互に意見交換をすることで、支援のあり方やカンボジアの歴史背景が今に与える影響について理解を深める。

#### 第29回 事後研修 3

研究発表 作成したパワーポイントを通じて、各グループで学んだこと、明らかとなったことを発表し、相互に意見交換をすることで、支援のあり方やカンボジアの歴史背景が今に与える影響について理解を深める。

#### 第30回 事後研修 4

研修を通じて学んだ内容、例えば「教育」「文化」「経済」「観光」「食」などのテーマに絞り、日本と比較しながら異文化理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

海外実習

水本 有香、諏訪 清二  
-----

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDP3（主体性・協働性を身につける）に関連する科目であり、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」を養い、習得することを目指している。海外実習を履修後、更に開発途上国の現状と課題を理解する。

< 主題 > アジアの開発途上国（本講座はネパール連邦民主共和国）に赴き、日本の政府開発援助やNGOの活動を視察するとともに、その国の現状、特に生活、文化、教育などについて学ぶ。特に、開発途上国における人々の暮らしや生き方は私たちの社会の現在と未来を考える機会となり、異文化社会の理解を深め、我々の社会のあり方を考察する。

< 目標 >

・開発途上国の現状や課題について深く理解し説明ができる。

・その解決のために、日本や国際社会ではどのような取り組みを実施しているのか、また私たち自身は何ができるのか自分の目を通して理解し、行動することができる。

・当該開発途上国と日本との歴史的関係や今後の交流について理解し、日本の国際協力の必要性や国際社会の立ち位置を考察できる。なお、実習国は止む得ない事情により変更することもありえる。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の被災地の復旧、復興の支援に関する実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

アジア地域の開発途上国（ネパール連邦民主共和国）の歴史、文化、社会経済等の理解を通じて日本との関わりの意義、重要性を理解すること、またこれらの国々に対して我が国の国際協力の内容、意義について把握することを目指す。さらに、ネパールと日本社会の比較を通じ学ぶことにより、日本社会を見直すことを目標とする。

< 授業のキーワード >

開発、貧困、相互扶助、異文化理解

< 授業の進め方 >

事前研修により、訪問国の実情及び過去の報告書等を学習し、調査の主要テーマを確定する。実習後は、事後研修を通じて、調査結果のを整理し、具体的な成果品としての報告書を作成することとする。

<履修するにあたって>

実習先について

日程：

ネパール連邦民主共和国：2021年2月中旬から3月上旬の間の7泊8日

費用：

17万円程度+旅行保険。日程については変更もありうる

<授業時間外に必要な学修>

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

<提出課題など>

事前研修では、各自が(場合によりグループごと)テーマを選定し、それに基づき調査実習計画を作成し発表する(事前実習計画書)。また、事後研修では、実習の成果を取りまとめ、報告書を作成し授業で発表する。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。更に、成果品として報告書を編集・印刷製本する。

<成績評価方法・基準>

実習参加を前提として 実習先での活動全般(60%)、事前授業(20%)、事後報告(20%)

<テキスト>

実習前に配布する

<授業計画>

第1回 事前研修

実習国の基礎知識の把握と理解、安全管理確認、実習内容理解とそれに関連する調査項目等の作成 (2日間)

第2回 海外実習

7泊8日

第3回 事後研修

報告書の作成及び報告会開催 (2日間)

-----  
2022年度 後期

2.0単位

海外実習

安富 信、日比野 純一  
-----

<授業の方法>

インドネシアジョグジャカルタ市を訪れ、主に火山のムラピ山の様々な施設を訪れ、現地学習する。

<授業の目的>

ディプロマ・ポリシー3(グローバルな視野を有した一市民としての自覚と自ら成長し続ける意欲を有するとともに、価値観、意見、立場の異なるさまざまな人びとと議論し、学びを深め、協働して社会に貢献することが出来る)を身に付ける。

世界中で、地震、洪水、火山噴火などの自然災害後を絶たない。どのような地域においても、災害時には出自、ジェンダー、障がいの有無にかかわらず、全ての住民が持てる力を生かして助け合うことが求められる状況となる。その状況を想定し、コミュニティラジオを活用した情報提供・共有、ファーストエイドやメンタルヘルスについて、地域共生のためのコミュニティ防災活動を、多くの自然災害の経験から先進的な取り組みを進めているインドネシア・ジョグジャカルタ周辺地域から学ぶ。

<内容>

・インドネシアの自然災害の被災地(ムラピ火山噴火地区)で視察、ホームステイをし、同地でのコミュニティ防災の取り組みを学ぶ。

・災害を記憶の伝承と防災の知識を伝える災害ミュージアムの役割を学ぶ。

・災害と地域の経済復興について現場での取り組みを学ぶ。

・アトマジャヤ大学ジョグジャカルタ教員・ガジャマ大学教員によるコミュニティ防災に関する講義を受ける。

・担当教員の安富は、元読売新聞記者として、海外取材の経験が豊富。日比野は阪神・淡路大震災後に立ち上げた災害コミュニティFMわいわいの代表として、長くコミュニティラジオと地域のコミュニティ向上に取り組み、このインドネシアの地でも、数年前から住民への防災教育、災害経験の伝承に取り組んでおり、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

災害を身近な課題と認識し、防災・減災の意識を高めるとともに、災害時に備えると言うことを総括的に具体的に学び、地域社会を構成する多様な住民との日常的な助け合いの意義、大切さを認識し、自分自身が、地域の一員としてどのように地域社会と関わりをもつのかを考えるきっかけとする。

<授業の進め方>

事前研修により、訪問国の実情及び過去の報告書等を学習し、調査の主要テーマを確定する。実習後は、事後研修を通じて、調査結果のを整理し、具体的な成果品としての報告書を作成することとする。

<履修するにあたって>

実習先について

日程：

インドネシア共和国中部ジャワ州、ジョグジャカルタ特別州：2019年9月上旬の7泊8日

費用：

15万円程度+旅行保険。日程については変更もありうる。旅行費用も流動的。

<授業時間外に必要な学修>

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分である

と感じた事項は、教員に質問するなどしてください。

< 提出課題など >

事前研修授業では、班ごと（少人数の班を作る）の実習テーマを選定し、それに沿って学習成果を作成し発表する。また、事後研修授業では、実習中の成果を取り纏め、報告書を作成し、事業にて発表する。報告書は纏めて成果品として作成する。

< 成績評価方法・基準 >

実習参加を前提として 実習先での活動全般(60%)、事前授業(20%)、事後報告(20%)

< テキスト >

未定

< 授業計画 >

第1回 事前研修

実習国の基礎知識の把握と理解、安全管理確認、実習内容理解とそれに関連する調査項目等の作成

第2回 海外実習

7泊8日

第3回 事後研修

報告書の作成及び報告会開催（2日間）

-----  
2022年度 前期

2.0単位

開発教育学（連携）

水本 有香  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。近年、小学校、中学校、高等学校において積極的に開発教育、異文化教育、国際理解、国際協力に関する授業が行われてきた。更に、一般成人を対象として国際問題を取り扱った講演会、シンポジウム、講座などが盛んに開催されている。ただし、日本を取り巻く、また、わたしたちが暮らす地域を取り巻く環境は、年々、刻々と変化して行く。例えばここ数十年程の間に受けた授業で扱われた発展途上国が先進国へと変貌したり、先進国の中では貧困層が増加し、富裕層と貧困層の格差が拡大している。そのような状況の下、地域にいながらにして開発教育、国際理解、国際協力に関する知識等を深めるため、多様な教材が研究者、教職員、自治体、NPO法人などにより研究、開発されてきた。これらの教材は、教材の対象者が開発教育、国際理解、国際協力に関する知識等に如何に気づき、自らの問題として理解していくかを現場で実践しながら作成されている。本講義では、これらの教材の

いくつかを実践し、教材の目的、対象者、内容などを理解し、得られる学びを参考にした上で、自分が一番関心のある開発教育、国際理解、国際協力に関する知識等を得ることを目的とした教材をグループワークを通じて作成することにより、受講者自らの興味・関心を広げ、他者への理解の促し、他者の気持ちを受け止めること、自らの考えを創造していき、受講者個人、受講者同士にとっての「社会貢献」力を担当者と共に高めていく。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

自らと他者に対して気づき、理解を深めることが出来る。開発教育、国際協力・国際理解に関して自分の意見を発表出来る。

他者と協力しながら、開発教育、国際協力・国際理解を深める教材を創作することが出来る。

< 授業のキーワード >

開発教育、国際協力、国際理解

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めますが、少人数のグループワークも取り入れながら、受講生に自発的な発言を求めて、双方向の授業を重視します。

< 履修するにあたって >

授業中のグループワーク等では積極的な発言を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

毎回、授業中に作成した成果物及びレポートの提出などをしてもらいます。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の授業態度・授業への積極的貢献（40%）、レポートおよび成果物（60%）により総合的に評価する。学生に対しては次の授業時に、フィードバックなどを行います。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の全体、自己紹介、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 開発とは

貧困と開発について

第3回 開発教育

開発教育、国際理解の成り立ち、傾向など

第4回 教育と開発

開発途上国における教育の現状と課題に対する支援  
第5回 平和と開発  
世界の紛争および難民の現状など  
第6回 ジェンダーと開発  
日本および世界のジェンダーに関する現状と課題に対する対策  
第7回 スポーツと開発  
開発途上におけるスポーツの現状と課題  
第8回 観光と開発  
開発途上国における観光の現状と課題に対する対策  
第9回 環境と開発  
開発途上国における環境の現状と課題に対する支援  
第10回 防災と開発  
日本および世界の減災に関する現状と課題に対する対策  
第11回 開発教育の方法  
ロールプレイ、フォトランゲージ、ダイヤモンド・ランキングなど  
第12回 教材研究  
開発教育の教材の検討  
第13回 教材作成  
教材の開発（グループワーク）  
第14回 教材作成  
教材の開発（グループワーク）  
第15回 グループ発表・講評  
自作教材の発表及び実践

-----  
2022年度 前期

2.0単位  
開発経済学  
澤山 利広  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義では、近年の国際化の深化と拡大、世界規模の非営利革命、援助概念の変遷、そして日本の援助体制と国内の地域国際化アクターの現状と課題を把握し、日本を含むアジア各国の経済成長の軌跡と社会の変容の過程を社会主義、軍事政権、積極的非介入主義などの特徴を鑑みながら辿り、グローバル化する国際関係に果たす国際協力の役割について考察します。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー 1（知識・技能）に関連します。

「実務経験のある教員による授業科目」です。

< 到達目標 >

- ・ グローカリゼーションを説明できる。
- ・ 開発途上国と先進諸国のつながりを説明できる。
- ・ 途上国の発展段階を説明できる。

< 授業のキーワード >

国際協力

< 授業の進め方 >

テキストとレジュメを用いて講義形式です。

< 履修するにあたって >

経済学の知識がない学生さんの受講を歓迎します。留学生の受講を歓迎します。日本語能力試験N2相当が必須です。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をして授業に臨んで下さい。概ね90時間の学習が必要です。

< 提出課題など >

レポートの提出を求めています。詳細は授業中にお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

小テスト（問題は事前に発表します。持込不可）90%、授業への参加度10%で評価します。レポートを課した場合は評価の一部とすることがあります。受講者数が20名程度であれば、発表（パワーポイントを使用）を取り入れ、評価にも反映させます。

< テキスト >

渡辺利夫 『開発経済学入門（第3版）』（東洋経済新報社）

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 貧困のメカニズム

貧困のメカニズムについて理解します。

第2回 人口

地球人口の増加について理解します。

第3回 人口

各国の人口抑制政策を概観します。

第4回 農業

農地の減少を理解します。

第5回 農業

アジアにおける緑の革命の成功プロセスを理解し、アフリカにおける農業について考察します。

第6回 工業

産業間所得格差を理解します。

第7回 工業

農工二部門モデルを理解します。

第8回 輸出入

輸入代替工業化を理解します。

第9回 輸出入

輸出志向工業化を理解します。

第10回 サービス業

アジア各国のサービス業への産業シフトを概観します。

第11回 アジア型経済発展

アジア型経済発展について考察します。

## 第12回 バブル崩壊のメカニズム

バブル崩壊のメカニズムを理解します。

## 第13回 金融危機のメカニズム

金融危機のメカニズムを理解し、今後の経済政策について考察します。

## 第14回 ふりかえり

第1回目～第13回目までの講義の内容を振り返ります。

## 第15回 開発途上国の展望

今後の国際協力のありかたを展望します。

日本の国際協力の歩み（焦土からの再出発期：1945-53）

日本の国際協力の歩み（転換・成長期：1954-74）

日本の国際協力の歩み（飛躍期：1975-03）

日本の国際協力の歩み（変革期：03-）

-----  
2022年度 後期

2.0単位

開発途上国論

水本 有香  
-----

### < 授業の方法 >

講義

#### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。今日、世界の開発途上国は、長年、多くの住民が劣悪な環境下で、貧困に苦しみ続けているおり、多くの開発途上国では、安全な水を得られない、義務教育を続けることができないなどの問題が山積している。

従来、日本はかつて自らが受けてきた国際的な援助と同様に、途上国に対しても援助を行ってきた。しかしながら、それらの援助は途上国諸国の状況を十分に把握した上で実施されたものばかりではなかったため、状況は改善せず悪化、停滞するケースも少なくなかった。

同時に、国内に目を向けてみると、例えば大学がある兵庫県に約10万人の県民外国人がおり、わたしたちが生活する中で様々な問題を抱えている。

本講義では、途上国について研究する上で、「途上国＝貧困」というイメージではなく、途上国と日本、日本の中の地域といった事例の間で往復しながら、新たな途上国の視点、新たな日本の視点を確認する。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。

#### < 到達目標 >

- ・自らが学ぶ兵庫県における開発途上国への協力活動について知ることが出来る。
- ・開発途上国に関して自分の意見を発表出来る。

・自ら、他者と協力しながら、開発途上国の発展につなげる活動のありかたを理解ことが出来る。

#### < 授業のキーワード >

貧困、開発途上国、国際協力

#### < 授業の進め方 >

講義中心で進めますが、対話型の授業方式を重視し、受講生からの意見など自発的な発言を求めます。

#### < 履修するにあたって >

授業中のグループワーク等では積極的な発言を求めます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

#### < 提出課題など >

毎回、授業中に意見交換や発表、グループで作成した成果物及びレポートの提出などを求める。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献（45%）、成果物（25%）、及び発表（30%）により評価する。

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。

#### < 参考図書 >

水本有香『途上国研究-法と開発、ガバナンス、市民社会』晃洋書房、2013年5月

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

授業の全体、自己紹介、授業の進め方、評価の仕方など。

##### 第2回 開発途上国の現状を知る

開発途上国の現状を知り、経口補水塩の作成など。

##### 第3回 世界地図を描いてみる

自分たちが住む世界のグローバル化を考える。

##### 第4回 教育と子ども

開発途上国の教育の現状を考える。

##### 第5回 「貧困の環」ゲーム

開発途上国の立場を理解し、課題を考える。

##### 第6回 日本の国際協力活動

日本が行う開発途上国の支援のあり方について考える。

##### 第7回 国際協力関連講演会

青年海外協力隊について、兵庫県出身の講師を招いて講演して頂く。

##### 第8回 チョコレートと世界

チョコレートを通して日本と世界のつながりを考える。

##### 第9回 難民ワークショップ

自分たちが難民になったらどうなるのか、「逃げる」ワークショップを通じて考える。

#### 第10回 自然災害とわたしたち

自分たちが被災者になったらどうなるのか、他の地域で海外で大規模な自然災害が発生した場合、どうしたらいいのかワークショップを通じて考える。

#### 第11回 地域とフードマイレージ

私たちが普段食べている食事と世界のつながりについて考える。

#### 第12回 地域と観光

観光を通して開発途上国を考える。

#### 第13回 地域とコンビニ

コンビニを通して「食」を考える。

#### 第14回 地域と世界の食文化

世界の食文化の違いや関係性について考える。

#### 第15回 発表および講評

レポートや他者から発表による気付きを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

開発途上国論

水本 有香  
-----

#### < 授業の方法 >

##### 講義

#### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。今日、世界の開発途上国は、長年、多くの住民が劣悪な環境下で、貧困に苦しみ続けているおり、多くの開発途上国では、安全な水を得られない、義務教育を続けることができない、医者や薬不足から本来治る病気で生きることができないなどの問題が山積している。

従来、日本はかつて自らが受けてきた国際的な援助と同様に、途上国に対しても援助を行ってきた。しかしながら、それらの援助は途上国諸国の状況を十分に把握した上で実施されたものばかりではなかったため、状況は改善せず悪化、停滞するケースも少なくなかった。

同時に、国内に目を向けてみると、例えば大学がある兵庫県に約10万人の県民外国人がおり、わたしたちが生活する中で様々な問題を抱えている。

本講義では、途上国について研究する上で、「途上国＝貧困」というイメージではなく、途上国と日本、日本の中の地域といった事例の間で往復しながら、新たな途上国の視点、新たな日本の視点を確認する。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される

授業科目です。

#### < 到達目標 >

・自らが学ぶ兵庫県における開発途上国への協力活動について知ることが出来る。

・開発途上国に関して自分の意見を発表出来る。

・自ら、他者と協力しながら、開発途上国の発展につなげる活動のありかたを理解することが出来る。

#### < 授業のキーワード >

開発途上国、貧困、国際協力

#### < 授業の進め方 >

講義中心で進めますが、対話型の授業方式を重視し、受講生からの意見など自発的な発言を求めます。

#### < 履修するにあたって >

授業中のグループワーク等では積極的な発言を求めます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

#### < 提出課題など >

毎回、授業中に作成した成果物及びレポートの提出などを求める。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

#### < 成績評価方法・基準 >

毎回の授業態度・授業への積極的貢献（40%）、レポートおよび成果物（60%）により評価する。

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。

#### < 参考図書 >

水本有香『途上国研究-法と開発、ガバナンス、市民社会』晃洋書房、2013年5月

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

授業の全体、自己紹介、授業の進め方、評価の仕方など。

##### 第2回 開発途上国の現状を知る

開発途上国の現状を知り、経口補水塩の作成など。

##### 第3回 世界地図を描いてみる

自分たちが住む世界のグローバル化を考える。

##### 第4回 教育と子ども

開発途上国の教育の現状を考える。

##### 第5回 「貧困の環」ゲーム

開発途上国の立場を理解し、課題を考える。

##### 第6回 日本の国際協力活動

日本が行う開発途上国の支援のあり方について考える。

##### 第7回 国際協力関連講演会

青年海外協力隊について、兵庫県出身の講師を招いて講

演じて頂く。

#### 第8回 チョコレートと世界

チョコレートを通して日本と世界のつながりを考える。

#### 第9回 難民ワークショップ

自分たちが難民になったらどうなるのか、「逃げる」ワークショップを通じて考える。

#### 第10回 自然災害とわたしたち

自分たちが被災者になったらどうなるのか、他の地域で海外で大規模な自然災害が発生した場合、どうしたらいいのかワークショップを通じて考える。

#### 第11回 地域とフードマイレージ

私たちが普段食べている食事と世界のつながりについて考える。

#### 第12回 地域と観光

観光を通して開発途上国を考える。

#### 第13回 地域とコンビニ

コンビニを通して「食」を考える。

#### 第14回 地域と世界の食文化

世界の食文化の違いや関係性について考える。

#### 第15回 発表および講評

レポートや他者から発表による気付きを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

観光学

竹内 利江

-----  
< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示す、現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができるようになることを目指す。

観光学とは、観光に関わる人や組織、観光地や観光産業などを総合的に研究する、比較的新しい学問だが、人々の観光行動が多様化する中、さらに観光による地方創生、訪日外国人旅行者の地方誘客に向けて、観光地のさまざまな要素をコーディネートするデスティネーション・マネジメントが求められている。このマネジメントを担う法人がDMO (Destination Management / Marketing Organization) である。本授業では、特徴的な地域資源を有する観光都市は、その資源を活かして、どのような観光振興を行い、地域DMOは、どのような事業に取り組んでいるのかについて学び、地域社会で生み出す新たな観光への理解を深めていくことを目的とする。

なお、この科目の担当者は実務経験のある教員である。観光産業に従事した経験を活かし、具体的な事例を交えながら、実践力を身につける教育を行いたい。

< 到達目標 >

- ・観光庁の観光地域づくり政策とDMOについて説明できる。
- ・日本の主な観光地の地域資源を活用した観光振興について理解する。
- ・日本のDMOに関する調査を通して地域観光の課題に対して自ら意見を述べるができる。
- ・グループワークを通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力及びファシリテーションスキルを向上させる。

< 授業のキーワード >

観光地域づくり、DMO、デスティネーション・マネジメント

< 授業の進め方 >

- ・講義を中心に進めます。
- ・授業の後半に少人数のグループワークを行う予定です。履修人数や授業方法の変更によって修正する場合があります。

・毎回、講義内容に関するコメントを提出してもらいます。

アンケートを行う場合もあります。それらの内容は必要に応じて共有します。

< 履修するにあたって >

・テキストは用いません。レジュメと参考資料は配布します。

・グループワークへの積極的な参加を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

・課題レポートの作成に5時間程度。

・授業の予習・復習で1時間程度。

< 提出課題など >

・授業内で小テストを1回行います。提出期限終了後、正解について解説します。

・ケーススタディの授業(4回)では、毎回、ケーススタディに関する問いに答えてもらいます。

・地域DMOに関する調査レポートを提出してもらいます。調査対象、調査項目等の内容は、初回の授業で説明します。

・グループ発表の報告資料を提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

・小テスト 20% 授業で学修してきた知識の理解を問います(7回目に実施予定)。

・ケーススタディにおける課題(4回) 20%

・小レポート 60% 調査内容の妥当性、論理的構成について評価します。

グループで作成した報告資料を含めて総合評価します。

< 参考図書 >

・高橋一夫著『DMO 観光地経営のリノベーション』学芸出版社、2017年。

・日本政策投資銀行 地域企画部著『観光DMO設計・運営

のポイント DM0で追求する真の観光振

興とその先にある地域活性化』ダイヤモンド社、2017年。

・国土交通省・観光庁編『観光白書』（国土交通省HPでダウンロード可能）

その他、参考文献・ウェブサイトは授業中に指示します。

< 授業計画 >

## 第1回 イントロダクション

### ー観光と観光地

授業の目的や進め方、参考文献やウェブサイトの紹介等、履修にあたっての注意事項を確認し、観光の概念、観光地の諸要素等、観光の基礎を学ぶ。

## 第2回 観光産業と観光統計

観光は非常に幅広い産業と関わっている。国際的な共通基準から観光産業と観光特有商品（サービス）を確認し、観光庁と日本政府観光局（JNTO）が行っている観光統計の内容や活用方法について学ぶ。

## 第3～5回 日本の観光市場と観光産業の変容

最新の『観光白書』（国土交通省発行）をもとに、日本の国際観光と国内観光の現状と課題を学び、ICTの進展や観光行動の多様化、訪日外国人旅行者の増加等、近年の環境変化による主要な観光ビジネスの変容について確認する。

## 第6・7回 日本のDMOとデスティネーション・マネジメント

日本においてデスティネーション・マネジメントが必要とされる背景、観光庁の観光地域づくり政策とDMO形成に向けての取組みについて学び、デスティネーション・マネジメントへの理解を深める。

## 第8回 ケーススタディ

### 日本の温泉と別府観光

日本の温泉地は、古来より重要な宿泊地であり、観光地としても栄えてきた。近年、訪日外国人旅行者にとっても温泉の人気の高まっている。日本一の湧出量を誇る別府市を事例に温泉地の活性化について考える。

## 第9回 ケーススタディ

### 世界遺産と長崎観光

世界遺産は人々を惹きつける貴重な観光資源となる。世界遺産について理解し、複数の世界遺産を有する長崎市を事例として、長崎の地域資源を活かした観光への取組みについて考える。

## 第10回 ケーススタディ

### 歴史文化遺産と金沢観光

地域の伝統文化、歴史的な町並みや景観、史蹟、庭園などは、主要な観光名所である。文化財の観光活用や国土交通省が主導する「歴史まちづくり」について理解し、歴史文化都市・金沢市を事例に、伝統文化を活かした観光振興について考える。

## 第11回 ケーススタディ

### リゾートと北海道観光

北海道観光のゴールデンルートとして定着した、旭川から美瑛、富良野を結ぶ観光地の形成について振り返り、近年、インバウンドに対応したスノーリゾートとしての北海道の新たな取組みや課題について考える。

## 第12回 持続可能な観光地経営に向けて

ケーススタディについて振り返り、観光旅行者にとって、観光地にとって、観光事業者にとって持続可能な観光地経営について考える。

## 第13回 地域DMOの調査研究

地域DMOに関する調査レポートをもとに、少人数でのグループワークを行う。調査内容や個人の考察についてメンバーで意見交換する。その内容をワークシートに整理し、プレゼンテーション資料を作成する。

## 第14・15回 地域DMOの調査研究

作成した資料をもとにグループごとにプレゼンテーションを行い、その内容について全員でディスカッションする。日本の観光地の現状と課題および地域DMOによる観光地経営についての理解を深め、グループワークの振り返りを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

企業危機管理研究

中田 敬司  
-----

< 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。企業の存在意義・存在目的とは何か、また企業がその目的達成のためにどんなことを事業として経営しているのかを理解する。そしてその経営上の課題に対し企業規模ごとに検討していく。さらに様々な企業の事例を検討する中から企業危機管理の内容の理解を深めていく。この授業はどのような要因が企業の生産性を向上させ目的達成につながるのか、をテーマにパーソナリティ分析・組織論・リーダーシップ理論を含め講義のみならず実習やディスカッション実施しながら以下のことを目標に授業を実施する。

なおこの授業の担当者は10年以上企業における労働災害分野ほか危機管理研修に関わった実務経験のある教員

である。また、実践的教育から構成される科目である。よって実際の企業現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

<到達目標>

- 1 企業の存在意義・存在目的とはなにか、について理解する。
- 2 企業の抱えるリスクについて、企業の特色についての違いを理解し考えることができる。
- 3 中小企業と大企業の違いについて理解できる。
- 4 企業経営者の立場に立った企業経営の在り方について興味を持つことができる。
- 5 危機回避とはどういったことなのかを理解できる。
- 6 実務経営者から実際の経営上の危機管理について講義を聴き、その難しさを考えることができる。

<授業のキーワード>

危機管理 経営理念 経営戦略 リスクマネジメント  
危機回避

<授業の進め方>

講義とともに架空の会社組織を作りグループごとにワークやシミュレーションを行う。

<履修するにあたって>

様々な企業の経営判断や取り組みについて意識をむけてほしい。

<授業時間外に必要な学修>

配布プリントの重要箇所提示。事前・事後学習各1時間程度。

<提出課題など>

レポート提出。授業の中で、回答例等を示し解説・講評並びにフィードバックやコメントを行う。

<成績評価方法・基準>

課題レポート40%、小テストレポート40%、発表20%

<テキスト>

随時プリント配布

<参考図書>

月刊 理念と経営 致知出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義目的と講義進行方法・評価基準

第2回 企業とは? 企業の定義・目的

リーダー決めとグループづくり・企業の理解

第3回 大企業と中小企業

大企業と中小企業の違い

第4回 大企業と中小企業

大企業と中小企業の経営戦略

第5回 危機管理とは?

危機管理の定義と企業危機管理設定

第6回 組織の基本と管理の基本の理解

組織の定義・組織の3要素・組織の原則・組織活性化とは・組織化の過程(実習) 管理の5つの機能・管理サイクル他

第7回 企業危機

企業にとって危機とはなにか? リスク検討

第8回 企業危機

リスクの評価と対策

第9回 企業規模ごとの経営上の課題と危機管理

生業・家業・零細企業・小企業・中企業・大企業の特徴

第10回 企業規模ごとの経営上の課題と危機管理

生業・家業・零細企業・小企業・中企業・大企業のもつ課題と危機

第11回 ケーススタディ(倒産事例検討)

組織の問題点に関するディスカッション

第12回 ケーススタディ(災害事例検討)

災害対応準備の観点からその問題に関するディスカッション

第13回 ケーススタディ(成功・危機回避・事例検討)

その企業理念と組織姿勢に学ぶ

第14回 ケーススタディ(成功・危機回避・事例検討・整理と確認)

その企業理念と組織姿勢の事例

第15回 ケーススタディ(成功・危機回避・事例検討・整理と確認)

その企業理念と組織姿勢に学ぶ 整理と確認

-----  
2022年度 後期

2.0単位

企業社会貢献研究

寺岡 剛太、川畑 恵子、友田 景

-----  
<授業の方法>

「講義」と「演習」を中心に授業をいます。

講義は対面授業および遠隔授業併用にて行います。

11月から12月にかけて事例研究の一環としてフィールドワークを2回実施します。(予定)

<授業の目的>

現代社会学部のDPに示されている社会に貢献するマインドと能力を身につけるために、企業の社会貢献について多角的に学びます。

講義形式の授業にとどまらず、ワークショップや具体的な事例研究を通して、将来社会人として地域や社会との関係性の考察を深める機会を作ります。企業社会貢献の歴史や現状、理念など必要な知識だけでなく、総合的、多角的な視点で情報収集・考察する習慣や態度、それらをわかりやすく発表し伝える技能を習得することを目的とします。

本授業は実務経験のある教員による実践的教育から構成される授業科目です。

さらに実際に社会貢献に取り組む企業人をゲストに招くなど実践的な視点を重視します。

また、講義期間中にフィールドワークを2回取り入れる

予定です。

(講師の主な授業内容)

寺岡は、企業やNPOでの経験から、生徒ひとりひとりがこの授業で得る「学び」を深めるための「ふり返り」や「発表」を支援します。理事等で直接的に関係する団体事例もいくつか紹介します。

友田は、企業の社会的責任や社会貢献のCSR歴史的系譜から、実際に企業がどのようにCSRに取り組んでいくのか、SDGsの原型となる組織の社会的責任の国際規格であるISO26000をベースとしたワークショップをどう経営戦略にいかしているのかなどを考察します。

神崎は、CSR検定事務局やメディアとしての取材の中で出会った、興味深い社会貢献やCSRの実践者を中心にフィールドワークを行い、現地にてインタビュー形式で実践事例を掘り下げていきます。

川畑は、NPOやソーシャルビジネス? 援の実践経験をもとに、企業とNPOの協働や連携についての現状を解説します。講義の後半では、企業の社会貢献活動についてCSRレポートやインタビューなどによって各? の視点で調査し、レポートにまとめて提出してもらいます。講義で報告、意? 交換することにより、考察を深めます。  
<到達目標>

卒業後社会人となった時に、企業人として、また一市民として社会課題を的確に把握して解決に向けて貢献できる

就職活動(卒業後の働き方)を考える時に、社会貢献という視点を持つことができる

<授業のキーワード>

企業の社会貢献、CSR、CSV、NPO、ソーシャルビジネス、企業コンプライアンス、ESD、SDGs、ESG、ISO26000、中間支援NPO

<授業の進め方>

ワークショップを適宜行い、講師と受講生、または学生同士双方向のコミュニケーションを重視します。講義出席の確認及び評価はmanabaの各講義欄へのコメント内容にて行います。

また各講義欄manabaには講義の事前、または事後に講義資料および講義の動画を可能な限り掲載します。コロナ禍を踏まえ、コメントは講義? から? 週間(次の講義の前? まで)の書き込みとします。

それ以降の書き込みはできません。

<履修するにあたって>

2年次の専門分野科目でCSR論を履修していることが望ましいです。

日常から企業社会貢献の事例やNPOなどの社会課題解

決に向けた取り組み事例に関する情報収集に努め授業に参加することが望ましいです。

授業中のワークショップやプレゼンでは、積極的に質問したり意見を述べることで議論が深められるよう授業に参加することが望ましいです。

<授業時間外に必要な学修>

事例研究と各課題レポートの作成。3時間程度。

<提出課題など>

提出課題は2種類

「各講義」課題レポート

・寺岡先生、友田先生、神崎先生、川畑先生4名より各講義に対する「提出課題」の指示に従いレポートを提出

「授業科目」課題レポート

・寺岡先生より本授業科目に対する「提出課題」の指示に従いレポートを提出

提出物はすべて

「manaba course」 <https://css-manaba2.kobegakuin.ac.jp/ct/login>にて指示します。

各種の提出物に対しては必要に応じ同じく

「manaba course」にてフィードバックを行います。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加と理解30%

・各講義への出席および講義へのコメント提出

・フィールドワーク講義は1日で2回出席(第8回および9回同日・第10回および11回同日)扱いとします。

「各講義」課題レポート60%

・寺岡先生・友田先生・川畑先生・神崎先生4名の各課題レポート 各15% 計60%

・寺岡先生による「授業科目」全体に対する課題レポート10%

<テキスト>

特になし。

<参考図書>

『入門 企業と社会』 佐々木利廣 大室悦賀編著 2015年 中央経済社 2600円+税

『ソーシャル・イノベーション 思いとアイデアの力』 小池 洋次 編著 2015年 関西学院大学出版社 2400円+税

<授業計画>

第1回 講義ガイダンス(寺岡)

本講義のスタンスや考え方などをガイダンスします。また、現時点で企業の社会貢献について知っていることと目線合わせをします。

## 第2回 CSR論 (友田)

企業の社会的責任や社会貢献の歴史を学ぶ

## 第3回 CSR論 (友田)

起業の不祥事、ケーススタディから考えるコンプライアンス

## 第4回 CSR論 (友田)

組織の社会的責任の国際規格であるISO26000を用いたワークショップ(1)

## 第5回 CSR論 (友田)

組織の社会的責任の国際規格であるISO26000を用いたワークショップ(2)

## 第6回 社会貢献と協働(川畑)

法体系からみた営利と非営利の社会

## 第7回 事例研究(川畑)

社会貢献、CSRの大企業、中小企業の事例を複数紹介

## 第8回 フィールドワークによる事例研究 (神崎)

フィールドワーク先で社会貢献、CSRの実践事例をインタビュー

神戸近郊、大阪近郊の企業を予定しています。

## 第9回 フィールドワークによる事例研究 (神崎)

第8回・第9回講義同日開催(交通費各自負担)

## 第10回 フィールドワークによる事例研究 (神崎)

フィールドワーク先で社会貢献、CSRの実践事例をインタビュー

神戸近郊、大阪近郊の企業を予定しています。

## 第11回 フィールドワークによる事例研究 (神崎)

第10回・第11回講義同日開催(交通費各自負担)

## 第12回 企業とNPO(川畑)

NPOと協働、ソーシャルビジネスの視点

## 第13回 課題研究 (川畑)

各自で事例研究に取り組み課題レポートの提出を求めます。情報収集など取り組み方を学びます

## 第14回 課題研究 (川畑)

課題レポートの発表と意見交換

## 第15回 企業社会貢献のこれから(寺岡)

最後の講義としてこれまでの講義全体をふり振り返りながら、これからの企業社会貢献について意見交換、これまでの総括をします。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

企業防災研究

松山 雅洋  
-----

< 授業の方法 >

講義(対面授業)

< 授業の目的 >

(主題)

この科目は社会防災学科のDP1知識・技能に関連する。企業防災研究とは、企業が地震等の災害に対し、どのような体制を構築し備え、またどの様に対応しているのかを学び考える学問である。

本科目では、消防法で義務付けられている企業等の防火・防災について学び、防火管理者、防災管理者の国家資格取得を目指す。

また、災害時の企業活動の維持や早期回復を目指す「事業継続」及び「地域貢献・地域との共生」の観点からもアプローチして企業防災を多角的な視点で学ぶ。

なお、この科目の担当者は、消防職員として企業の防火・防災指導の実務経験のある教員である。実務経験を踏まえ、わかりやすく解説する。

< 到達目標 >

1)消防法で企業に義務付けられている防火管理者および防災管理者の国家資格を取得する。

2)災害時の企業活動の維持や早期回復を目指す「事業継続」の知識を身につける。

3)防災での企業の「地域貢献・地域との共生」の知識を身につける。

< 授業のキーワード >

防火管理者、防災管理者 事業継続 地域貢献

< 授業の進め方 >

知識が身につくように実例を示し、対話型も取り入れて授業を進める。

< 履修するにあたって >

防火管理者、防災管理者の国家資格取得に係る経費(10,000円)が必要です。経費には、テキスト2冊、CD2枚、資格登録料等を含みます。また、国家資格取得に必要な講義は、5月28日(土)、29日(日)2日間(第6回～第14回)の集中講義とします。

(注)防火管理者等の資格は、一定人数以上を収容する公官庁、企業等に消防法で義務付けられている防火管理者等になるための国家資格です。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前事後学習に1時間程度。

< 提出課題など >

授業の理解度に関する小レポートを実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度20%、小レポート40%、課題レポート40%

< テキスト >

指定テキスト及びCDを配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

シラバスの説明と授業の進め方。

第2回 事業継続計画

地震等災害時の企業の事業継続計画について学ぶ。

第3回 地域社会との共生

防災に関する企業の地域との共生について学ぶ。

#### 第4回 豪雨災害と企業

豪雨時の企業における外出抑制に関する取組や社会福祉施設の避難体制について学ぶ。

#### 第5回 危険物行政と企業

一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の防災対策を学ぶ。

#### 第6回 帰宅困難者問題

地震等での企業の帰宅困難者対策について学ぶ。

#### 第7回 企業防火・防災

防火・防災管理の意義と制度の概要について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第8回 企業防火・防災

火気取扱いの基本知識について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第9回 企業防火・防災

出火防止対策について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第10回 企業防火・防災

防火施設・消防用設備等の維持管理について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第11回 企業防火・防災

自衛消防活動について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第12回 企業防火・防災

防災管理に関する教育訓練について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第13回 企業防火・防災

防火管理の進め方と消防計画について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第14回 企業防火・防災

防災管理の進め方と消防計画について。(5月28日(土),29(日) 集中講義)

#### 第15回 総括

全講義の要点を確認し、防災行政についての理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

危機管理論

中田 敬司

#### < 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

#### < 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。危機管理の概念や組織目標達成に必要な要件について学び、どのような組織が生産性が高く組織目標達成につながっていくのか、また危機的状況を回避できるのか、過去の事例を検討し講義およびディスカッションを取り入れながら授業を実施する。

なおこの授業の担当者は10年以上企業・行政団体の危機管理研修に関わった実務経験のある教員である。また、実践的教育から構成される科目である。よって実際の現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

#### < 到達目標 >

- 1, 危機管理の概念について、実践的意味を持つものであることを理解できる。
- 2, ダリトメソッド(ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティング)の考え方を理解でき、自分自身の具体的体験に基づいて説明できるようになる。
- 3, リスクアセスメントについて、発生の可能性・結果の重要性からリスクの大きさ評価されることについて説明できる。
- 4, 目的達成のための情報収集・整理・発信等管理の仕方や評価の方法について理解できる。
- 5, 組織の中で危機管理体制が重要であることを理解できる。

#### < 授業のキーワード >

危機管理、リスクマネジメント、トラブルシューティング、ダメージコントロール、情報管理

#### < 授業の進め方 >

講義とともに少人数でのグループワークを取り入れる。

#### < 履修するにあたって >

授業出席・グループワークへの積極的参加が重要

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間

#### < 提出課題など >

授業内容に応じてレポート提出が数回予定(マナバの活用)

レポート内容について授業の中でフィードバックする。

#### < 成績評価方法・基準 >

課題レポート80% 発表20%

#### < テキスト >

授業関係のレジメの配布

< 参考図書 >

危機管理のノウハウ 佐々淳行 1~3

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

危機管理論の講義が目指すものについての理解と授業の進め方や評価、スタートに当たってのティーアップを実施する。

第2回 危機管理の概念と定義

危機管理のイメージ及び捉え方を学び、自分たちで定義を作成することで危機管理の求めるものを理解する。

第3回 ダリトメソッド

危機管理のわかりやすい考え方である、ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティングについて理解する。

第4回 ダリトメソッド

ダメージコントロールの理解と事例研究

第5回 リスクマネジメント

リスクマネジメント及びリスクアセスメントと危機対策プラン作成

第6回 トラブルシューティング

トラブルシューティングの理解と事例研究

第7回 企業・団体の危機事例検討

トラブルシューティングの理解と事例研究

第8回 中間テスト

第7回までの学習内容を振り返り整理する。

第9回 パーソナリティ分析・リーダーシップスタイル

自分自身の特徴について理解し、組織活動における自分の役割や課題を確認する。

第10回 危機管理と組織論

組織の定義や組織の原則の理解

第11回 情報管理・情報の種類及び情報収集と評価・伝達

インフォメーションとインテリジェンスの違いおよび収集・評価・伝達について理解する。

第12回 3C本部とネットワークセントリックオペレーション

危機対応の組織と情報管理戦術

第13回 企業・団体の危機事例検討とシミュレーション

事例に基づく危機管理シミュレーションを実施し実用レベルの考え方を身につける。

第14回 企業・団体の危機事例検討とシミュレーション

事例に基づく危機管理シミュレーションを実施し実用レベルの考え方を身につける。

第15回 学んだ内容の整理と確認

学習内容を整理し知識の定着を図る。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

キャリアプランニング A

浜中 恵美子  
-----

< 授業の方法 >

・講義 ・演習 ・実習

< 授業の目的 >

個人をとり巻くキャリア環境は大きく変化している。

これまでの普遍的な正解を求めるという客観主義的知識観（就活マニュアル通りの行動）でキャリアプランニングを行うことはできない。あなたが試されるのは、これまでの学生生活で身に付けた人間的魅力である。

学問的知識の獲得や能力開発のために、どのように主体的に行動してきたか、このプロセスの積み重ねが大学生活を充実させ、キャリアを切り開くカギとなる。

本講座は、社会で求められる自己表現力や創造力、課題解決能力などを身につけ、内的キャリアの育成を行う。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、大学、企業、外資系企業、病院、金融機関、官公庁などで、教育やキャリアコンサルタントなど20年以上携わり、実務経験のある教員である。より実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

社会で求められる自己表現力や創造力、課題解決能力などを身につけ、内的キャリアの養成を行う。

・キャリアプランニングの方法を習得することで、自分自身のキャリアデザインができる。

・自己のキャリア目標を設定できるようになる（ワークスタイル）。

・自己分析から自己理解でき、自信を持って自己アピールすることができるようになる。

・就職活動に向けて基本的な心構えを身につけることができる。

< 授業のキーワード >

・働く意味 ・自己理解 ・自己表現 ・就職活動 ・コミュニケーション力 ・内的キャリア

< 授業の進め方 >

・ワークシートの課題をまとめながら、自己表現できるようキャリアプランニングをしていく。

・ワークを中心にした参加型体験学習という授業形式をとる。

< 履修するにあたって >

・キャリアプランニングが積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。

・自己のキャリアプランニングが目的であるため主体的

に参画することを望む。

・状況により日程、授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

・日頃から社会、世界で起きているニュース・出来事に関心をもつ。

・業界、自己分析など就職活動に必要な研究を積む。

・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。

(事前・事後学習各1時間程度)

< 提出課題など >

・授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業に取り組む姿勢を評価 60%

( ・授業に積極的な参画 30% ・課題ワーク 30%)

2. 課題レポート40%、などを総合的に評価する

< テキスト >

・ワークシート、資料などを配布 (manabaより)

< 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

・キャリアプランニング の位置づけ、授業の進め方、評価について

・充実したやりがいのあるキャリアプランニングについて

・就職を取り巻く最新の状況について

#### 第2回 働く意味を考える

・大学から社会へのトランジションとは

・グローバル化、社会の変化、雇用問題について

・「就職するとは」「働くとは」「就職活動」について考える。

#### 第3回 企業、社会が求める能力

・社会が求めている能力(社会人基礎力)や雇用側が求めている学生の能力に

ついて考える。

#### 第4回 自己表現とコミュニケーション

・言語、身体をとおして自分を語ることを体験する。

・自分を「伝える」ということ、相手を理解するために「聴く」ということに

ついて考える。

#### 第5回 自己分析についての考え方

・これまでのさまざまな体験や大学生活をとおして、自分らしく生きるとは

どのようなことか、また表現できるかを考える。・

就職活動に必要な3要素

#### 第6回 自己理解と面接

自分の歴史を振り返る

・様々な視点から、これまでの自分の過去を振り返り、分析し自己理解を

深め、キャリアプランニングする。 ・「面接」の

意味を考え体験する。

#### 第7回 自己理解と面接

自分の価値観を確認する

・趣味や関心、価値観を分析し自己理解を深め、言語化できるようにする。

・面接を体験する。

#### 第8回 自己理解と面接

第三者の視点

・これまでの自己分析を整理し、自己の生き方や働き方をプランニングする

・第三者からフィードバックを受け、更なる自己理解を深め自己PRに繋げる

・面接を体験する

#### 第9回 自己分析を整理する

・これまでの自己分析を整理し、自己分析ノートにまとめる。

・自分についてプレゼンテーションができるようにする。

#### 第10回 産業社会・業種・職種を理解する

就職活動に必要な情報収集の方法

・情報収集の仕方を学ぶ。・職業選択について考える。産業社会の仕組みや雇用形態、特性を理解する。(企業・公務員、様々なワークスタイルを考える)

・就職活動関連情報から、企業研究やエントリーシート対策、面接対策などに

役立てる。

#### 第11回 エントリーシートについての考え方と書き方

・エントリーシートとは

・自己表現とエントリーシートのポイント

#### 第12回 グループディスカッション

・グループディスカッションとは ・グループディスカッションの留意点

・グループディスカッションで自己表現の体験

#### 第13回 キャリアプランニング

キャリアシート作成

・これまで学んだこと、研究したことをキャリアシートにまとめて今後の

キャリアプランニングに活用し、自己PRに繋げる。

#### 第14回 キャリアプランニング

キャリアシート作成

・これまで学んだこと、研究したことをキャリアシートにまとめて今後の

キャリアプランニングに活用し、自己PRに繋げる。

#### 第15回 キャリアプランニング再構成

・自信をもって自分の考えを表現できるようにする。

・フィードバックにより、将来につなぐキャリアプランニングを修正し、

今後の行動指針にする。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

キャリアプランニング B

浜中 恵美子  
-----

< 授業の方法 >

・ 講義 ・ 演習 ・ 実習

< 授業の目的 >

個人をとり巻くキャリア環境は大きく変化している。

これまでの普遍的な正解を求めるといった客観主義的知識観（就活マニュアル通りの行動）でキャリアプランニングを行うことはできない。あなたが試されるのは、これまでの学生生活で身に付けた人間的な魅力である。

学問的知識の獲得や能力開発のために、どのように主体的に行動してきたか、このプロセスの積み重ねが大学生活を充実させ、キャリアを切り開くカギとなる。

本講座は、社会で求められる自己表現力や創造力、課題解決能力などを身につけ、内的キャリアの育成を行う。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、大学、企業、外資系企業、病院、金融機関、官公庁などで、教育やキャリアコンサルタントなど20年以上携わり、実務経験のある教員である。より実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

社会で求められる自己表現力や創造力、課題解決能力などを身につけ、内的キャリアの養成を行う。

・ キャリアプランニングの方法を習得することで、自分自身のキャリアデザインができる。

・ 自己のキャリア目標を設定できるようになる（ワークスタイル）。

・ 自己分析から自己理解でき、自信を持って自己アピールすることができるようになる。

・ 就職活動に向けて基本的な心構えを身につけることができる。

< 授業のキーワード >

・ 働く意味 ・ 自己理解 ・ 自己表現 ・ 就職活動 ・ コミュニケーション力 ・ 内的キャリア

< 授業の進め方 >

・ ワークシートの課題をまとめながら、自己表現できるようキャリアプランニングをしていく。

・ ワークを中心とした参加型体験学習という授業形式をとる。

< 履修するにあたって >

・ キャリアプランニングが積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。

・ 自己のキャリアプランニングが目的であるため主体的

に参画することを望む。

・ 状況により日程、授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ 日頃から社会、世界で起きているニュース・出来事に関心をもつ。

・ 業界、自己分析など就職活動に必要な研究を積む。

・ 授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。

（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

・ 授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業に取り組む姿勢を評価 60%

（・ 授業に積極的な参画 30% ・ 課題ワーク 30%）

2. 課題レポート40%、などを総合的に評価する

< テキスト >

・ ワークシート、資料などを配布（manabaより）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・ キャリアプランニング の位置づけ、授業の進め方、評価について

・ 充実したやりがいのあるキャリアプランニングについて

・ 就職を取り巻く最新の状況について

第2回 働く意味を考える

・ 大学から社会へのトランジションとは

・ グローバル化、社会の変化、雇用問題について

・ 「就職するとは」「働くとは」「就職活動」について考える。

第3回 企業、社会が求める能力

・ 社会が求めている能力(社会人基礎力)や雇用側が求めている学生の能力に

ついて考える。

第4回 自己表現とコミュニケーション

・ 言語、身体をとおして自分を語ることを体験する。

・ 自分を「伝える」ということ、相手を理解するために「聴く」ということに

ついて考える。

第5回 自己分析についての考え方

・ これまでのさまざまな体験や大学生活をとおして、自分らしく生きるとは

どのようなことか、また表現できるかを考える。・

就職活動に必要な3要素

第6回 自己理解と面接

自分の歴史を振り返る

・ 様々な視点から、これまでの自分の過去を振り返り、分析し自己理解を

深め、キャリアプランニングする。 ・ 「面接」の

意味を考え体験する。

## 第7回 自己理解と面接

### 自分の価値観を確認する

- ・趣味や関心、価値観を分析し自己理解を深め、言語化できるようにする。
- ・面接を体験する。

## 第8回 自己理解と面接

### 第三者の視点

- ・これまでの自己分析を整理し、自己の生き方や働き方をプランニングする
- ・第三者からフィードバックを受け、更なる自己理解を深め自己PRに繋げる
- ・面接を体験する

## 第9回 自己分析を整理する

- ・これまでの自己分析を整理し、自己分析ノートにまとめる。
- ・自分についてプレゼンテーションがきるようにする。

## 第10回 産業社会・業種・職種を理解する

### 就職活動に必要な情報収集の方法

- ・情報収集の仕方を学ぶ。・職業選択について考える。産業社会の仕組みや雇用形態、特性を理解する。(企業・公務員、様々なワークスタイルを考える)
- ・就職活動関連情報から、企業研究やエントリーシート対策、面接対策などに役立てる。

## 第11回 エントリーシートについての考え方と書き方

- ・エントリーシートとは
- ・自己表現とエントリーシートのポイント

## 第12回 グループディスカッション

- ・グループディスカッションとは ・グループディスカッションの留意点
- ・グループディスカッションで自己表現の体験

## 第13回 キャリアプランニング

### キャリアシート作成

- ・これまで学んだこと、研究したことをキャリアシートにまとめて今後のキャリアプランニングに活用し、自己PRに繋げる。

## 第14回 キャリアプランニング

### キャリアシート作成

- ・これまで学んだこと、研究したことをキャリアシートにまとめて今後のキャリアプランニングに活用し、自己PRに繋げる。

## 第15回 キャリアプランニング再構成

- ・自信をもって自分の考えを表現できるようにする。
- ・フィードバックにより、将来につなぐキャリアプランニングを修正し、今後の行動指針にする。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

キャリアプランニング A

浜中 恵美子  
-----

< 授業の方法 >

・講義 ・演習 ・実習

< 授業の目的 >

「正解がない時代」大きく変化するキャリア環境における多様な働き方・生き方(ライフスキル)を学習する。職業的自立に向け、自己の学問的研究とこれまで蓄積したさまざまな体験を関連付け、より具体的な行動計画に移行する。

自己分析、企業研究、履歴書の書き方、面接方法、マナー実習など視聴覚機器を使用し現実の場面を想定した実践的プログラムを展開する。

ストレスフルな現代社会の教養として、メンタルヘルス、ストレス・マネージメントの講義も取り入れる。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)とディプロマシー3(主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度)に関連する。

授業の担当者は、大学、企業、外資系企業、病院、金融機関、官公庁で、教育やキャリアコンサルタントなど20年以上経験している実務経験のある教員である。より実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

他者の視点を借りながら、社会で求められる自己表現力や創造力、課題解決能力などを身につけ、内的キャリアの養成を行う。

・自己の生き方や働き方などを肯定的にとらえ、キャリアプランニングすることができる。

・プレゼンテーションが求められる場面、初対面の人との面談などにおいて、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるようになる。

・説得力のあるエントリーシートや履歴書を作成することができる。

・面接で自信を持って自己をアピールできる。

・グループ討議で自己の役割を積極的に遂行できる。

< 授業のキーワード >

・働く意味 ・生き方 ・自己理解 ・他者理解 ・コミュニケーション力 ・内的キャリア

・プレゼンテーション能力

< 授業の進め方 >

・ワークを中心にした参画型体験学習という授業形式をとる。

・ワークシートの課題をまとめながら、自己表現できるようキャリアプランニングをしていく。

・授業の最後にはコメントカードを記入し、体験を共有する。

<履修するにあたって>

・本講座は、積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。  
・前期開講「キャリアプランニング」を併せて体験すると理解がより深まる。

・自己のキャリアプランニングが本講座の主たる目的であるため、主体的に参画することを望む。

・状況により授業内容を変更する場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

・日頃から社会、世界で起きているニュース・出来事に  
関心をもつ

・業界や自己分析など就職活動に必要な研究を積む  
・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく

(事前・事後学習各1時間程度)

<提出課題など>

・授業内で指示します

<成績評価方法・基準>

1．授業に取り組む姿勢を評価70%

(・授業に積極的な参画 40% ・課題ワーク他  
30%)

2．課題レポート(30%)、などを総合的に評価する

<テキスト>

・ワークシート、資料などmanabaで配信

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

・充実したやりがいのあるキャリアプランニングについて

・就職を取り巻く最新の状況について考える。

・キャリアプランニングの位置づけ、授業の進め方、  
評価について

#### 第2回 キャリアプランニングと

就職活動

・大学から社会へのトランジションとは

・「就職するとは」「働くとは」「就職活動とは」について考える。

・社会(雇用側)が求めている能力について考える。

・自己分析ノート『ステップ 自分と仕事について改めて考える』の作成

#### 第3回 自己表現とコミュニケーション

・言語、身体をとおして自分を語ることを体験する。

・自分を「伝える」ということ、相手を理解するために  
「聴く」ということについて考える。

・これまでの自分の生き方やコミュニケーションスタイルを確認する。

#### 第4回 自己表現と自己PR

・様々な方向から、これまでの自分の生き方を整理する。

・自信を持って自己PRを表現する方法を学ぶ。

・第三者の視点を加えて、「自己分析ノート」にまとめる。

#### 第5回 面接と自己表現

・面接の流れ、面接のマナー、模擬面接を体験し、実際の面接に対応できる

ように学習する。

#### 第6回 自己理解と面接

自分の価値観を確認する

・趣味や関心、価値観を分析し自己理解を深め、言語化できるようにする。

・模擬面接で第三者の視点をとおして自己理解を深める。

#### 第7回 キャリアシミュレーション業界・職種を考える

・キャリア・シミュレーションをとおして具体的な職業について意識化する。

・製品の作業工程を考え、職種や働き方を理解する。

・職種や働き方について、グループ討議をとおし他者の考え方を知り理解する

・業界・企業研究方法を学習する。

#### 第8回 業界・企業研究の方法

・様々な方法による企業研究方法を学習する。(インターネットの活用方法)

・関心のある企業の検索や企業実態を調査し、今後の就職活動に生かす。

#### 第9回 職業選択と自己理解

・職業選択の基礎になる、自分自身の職業興味、性格、  
価値観などを分析し、

自己理解を深めキャリアプランニングに生かす。

#### 第10回 エントリーシート、履歴書の書き方

・エントリーシート、履歴書の書き方を習得する。

学生時代に力を入れたこと 自己PR 志望動機  
の書き方を学習する。

#### 第11回 グループ討議

・就職活動本番と同じ方法でグループ討議を実施、  
グループ討議の役割を理解

すると同時に実践スキルを習得する。

・ファシリテーター型リーダーシップの実践と構造分析により理解を深める。

#### 第12回 グループ討議

・就職活動本番と同じ方法でグループ討議を実施、  
グループ討議の役割を理解

すると同時に実践スキルを習得する。

・ファシリテーター型リーダーシップの実践と構造分析により理解を深める。

#### 第13回 就職活動とキャリアプランニング

・「エントリーシート、履歴書」、「面接」「マナー」  
など就職活動のシミュ

レーションを通し、自分らしい自己表現ができるようにする。

・第三者のフィードバックにより、自己理解を深め修正する。

・就職活動についてのまとめ。

#### 第14回 就職活動と

##### メンタルヘルス

・就職活動におけるストレスとは。・自己のストレスを知る。

・ストレスマネジメント、コーピングを理解する。

#### 第15回 キャリアプランニング

- 自分らしい生き方 -

・これまでの講義を振り返り、学んだこと、体験したことを総括し、今後の活動の方向性を確認する。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

キャリアプランニング B

浜中 恵美子

-----  
< 授業の方法 >

・講義 ・演習 ・実習

< 授業の目的 >

「正解がない時代」大きく変化するキャリア環境における多様な働き方・生き方（ライフスキル）を学習する。職業的自立に向け、自己の学問的研究とこれまで蓄積したさまざまな体験を関連付け、より具体的な行動計画に移行する。

自己分析、企業研究、履歴書の書き方、面接方法、マネー実習など視聴覚機器を使用し現実の場面を想定した実践的プログラムを展開する。

ストレスフルな現代社会の教養として、メンタルヘルス、ストレス・マネージメントの講義も取り入れる。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、大学、企業、外資系企業、病院、金融機関、官公庁で、教育やキャリアコンサルタントなど20年以上経験している実務経験のある教員である。より実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

他者の視点を借りながら、社会で求められる自己表現力や創造力、課題解決能力などを身につけ、内的キャリアの養成を行う。

・自己の生き方や働き方などを肯定的にとらえ、キャリアプランニングすることができる。

・プレゼンテーションが求められる場面、初対面の人との面談などにおいて、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるようになる。

・説得力のあるエントリーシートや履歴書を作成するこ

とができる。

・面接で自信を持って自己をアピールできる。

・グループ討議で自己の役割を積極的に遂行できる。

< 授業のキーワード >

・働く意味 ・生き方 ・自己理解 ・他者理解 ・コミュニケーション力 ・内的キャリア

・プレゼンテーション能力

< 授業の進め方 >

・ワークを中心にした参画型体験学習という授業形式をとる。

・ワークシートの課題をまとめながら、自己表現できるようキャリアプランニングをしていく。

・授業の最後にはコメントカードを記入し、体験を共有する。

< 履修するにあたって >

・本講座は、積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。

・前期開講「キャリアプランニング」を併せて体験すると理解がより深まる。

・自己のキャリアプランニングが本講座の主たる目的であるため、主体的に参画することを望む。

・状況により授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

・日頃から社会、世界で起きているニュース・出来事に関心をもつ

・業界や自己分析など就職活動に必要な研究を積む

・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく

（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

・授業内で指示します

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業に取り組む姿勢を評価 70%

（・授業に積極的な参画 40% ・課題ワーク他 30%）

2. 課題レポート（30%）、などを総合的に評価する

< テキスト >

・ワークシート、資料などmanabaで配信

< 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

・充実したやりがいのあるキャリアプランニングについて

・就職を取り巻く最新の状況について考える。

・キャリアプランニングの位置づけ、授業の進め方、評価について

#### 第2回 キャリアプランニングと

##### 就職活動

・大学から社会へのトランジションとは

・「就職するとは」「働くとは」「就職活動とは」について考える。

・社会（雇用側）が求めている能力について考える。

・自己分析ノート『ステップ 自分と仕事について改めて考える』の作成

### 第3回 自己表現とコミュニケーション

・言語、身体をとおして自分を語ることを体験する。  
・自分を「伝える」ということ、相手を理解するために「聴く」ということについて考える。

・これまでの自分の生き方やコミュニケーションスタイルを確認する。

### 第4回 自己表現と自己PR

・様々な方向から、これまでの自分の生き方を整理する。  
・自信を持って自己PRを表現する方法を学ぶ。  
・第三者の視点を加えて、「自己分析ノート」にまとめる。

### 第5回 面接と自己表現

・面接の流れ、面接のマナー、模擬面接を体験し、実際の面接に対応できるように学習する。

### 第6回 自己理解と面接

自分の価値観を確認する

・趣味や関心、価値観を分析し自己理解を深め、言語化できるようにする。  
・模擬面接で第三者の視点をとおして自己理解を深める。

### 第7回 キャリアシュミレーション業界・職種を考える

・キャリア・シュミレーションをとおして具体的な職業について意識化する。  
・製品の作業工程を考え、職種や働き方を理解する。  
・職種や働き方について、グループ討議をとおし他者の考え方を知り理解する  
・業界・企業研究方法を学習する。

### 第8回 業界・企業研究の方法

・様々な方法による企業研究方法を学習する。(インターネットの活用方法)  
・関心のある企業の検索や企業実態を調査し、今後の就職活動に生かす。

### 第9回 職業選択と自己理解

・職業選択の基礎になる、自分自身の職業興味、性格、価値観などを分析し、自己理解を深めキャリアプランニングに生かす。

### 第10回 エントリーシート、履歴書の書き方

・エントリーシート、履歴書の書き方を習得する。  
学生時代に力を入れたこと 自己PR 志望動機の書き方を学習する。

### 第11回 グループ討議

・就職活動本番と同じ方法でグループ討議を実施、グループ討議の役割を理解すると同時に実践スキルを習得する。  
・ファシリテーター型リーダーシップの実践と構造分析により理解を深める。

### 第12回 グループ討議

・就職活動本番と同じ方法でグループ討議を実施、グループ討議の役割を理解

すると同時に実践スキルを習得する。  
・ファシリテーター型リーダーシップの実践と構造分析により理解を深める。

### 第13回 就職活動とキャリアプランニング

・「エントリーシート、履歴書」、「面接」「マナー」など就職活動のシュミレーションを通し、自分らしい自己表現ができるようにする。  
・第三者のフィードバックにより、自己理解を深め修正する。

・就職活動についてのまとめ。

### 第14回 就職活動と

### メンタルヘルス

・就職活動におけるストレスとは。・自己のストレスを知る。  
・ストレスマネジメント、コーピングを理解する。

### 第15回 キャリアプランニング

- 自分らしい生き方 -

・これまでの講義を振り返り、学んだこと、体験したことを総括し、今後の活動の方向性を確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

救命処置の方法

松山 雅洋

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1知識・技能に関連する。

救命処置とは、心肺蘇生法や止血等の重篤傷病者を救命する方法である。一人でも多くの命を救うためには、市民、救急隊、医療機関の救命の連鎖が不可欠である。

救急医療、災害医療を体系的に学び、市民が行うべき救命処置に関する知識、技能を習得することを目的とする。

この科目の担当者は、消防職員として救急救助業務の実務経験のある教員である。実務経験を踏まえて分かりやすく解説する。

<到達目標>

救急医療、災害医療を体系的に理解し、市民の行うべき救命処置に関する基礎的事項及び専門的事項を習得する。救急現場、災害現場での適切な救命処置の判断ができるようになる。

<授業の進め方>

知識が身に着くように実例を示して授業を進める。

<履修するにあたって>

manabaの使用方法を確認しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

救急医療や災害医療に関する報道に注目すること。

<提出課題など>

授業の理解度に関する小レポートを実施し、次の授業で総評を行う。

<成績評価方法・基準>

授業態度20%、小レポート40%、課題レポート40%

<授業計画>

第1回 授業ガイダンス

シラバスの説明と授業の進め方。

第2回 救急隊のコロナ対策

救急隊のコロナ対策等を学ぶ。

第3回 救急医療体制

日本の救急医療体制を学ぶ。

第4回 救急救命士制度

米国パラメディック制度から救急救命士制度を考える。

第5回 市民救命士制度

普通救命講習を学ぶ。

第6回 災害医療概論

阪神淡路大震災、東日本大震災等から災害医療を学ぶ。

第7回 災害医療と市民

JR福知山線列車脱線事故事例から、住民はその時に何をすべきかを学ぶ。

第8回 トリアージ

START式一次トリアージを学ぶ。

第9回 救命処置(心肺蘇生法)

効果的な心肺蘇生法を学ぶ。

第10回 救命処置(急病)

脳卒中への対応を学ぶ。

第11回 救命処置(外傷)

高エネルギー外傷、クラッシュシンドロームについて学ぶ。

第12回 救命処置(その他)

熱中症等の応急手当を学ぶ

第13回 感染防止と消毒

標準感染防止策(スタンダードプレコ-ション)等を学ぶ。

第14回 救命処置と法律問題

傷病者発生時の現場に居合わせた人の役割と法的責任を学ぶ。

第15回 救命処置(総括)

全講義の要点を確認し、救命処置の方法についての理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

救命処置実習

松山 雅洋  
-----

<授業の方法>

実習、一部講義

<授業の目的>

この科目は、社会防災学科ディプロマポリシーに掲げる災害に対する事前の備えや事後の社会的混乱の最小化の実現するための専門知識を身に着けることができ、社会防災学科ディプロマポリシー1知識・技能に関連する。本実習では、救急医療体制の中での市民の役割を学ぶとともに、市民に応急手当を指導することができる救急インストラクター資格を取得して、地域、事業所等での応急手当の指導者となる人材の育成を目的とする。

この科目の担当者は、消防職員として救急業務の実務経験がある教員である。実務経験を踏まえて分かりやすく解説する。

<到達目標>

心肺蘇生法等応急手当の理論及び救急医療体制等を理解する。(知識)

救急インストラクター資格を取得して、市民救命士講習で受講者に応急手当を正しく指導する。(態度、知識、技能)

<授業のキーワード>

心肺蘇生法 止血法 包帯法

<授業の進め方>

ケガの手当講習、市民救命士講習を集中講義で行い、神戸市消防局の救急インストラクター講習を受講して救急インストラクター資格を習得します。救急インストラクター資格を習得後に指導実習等を行います。

<履修するにあたって>

1 けがの手当て講習等

7月の日曜日に大学で実施します。

2 救急インストラクター講習

神戸市消防局の救急インストラクター講習の受講料5,500円が必要です。受講料にはテキスト等が含まれています。

救急インストラクター講習は、次のいずれかの神戸市消防局の講習を受講します。(各10名)

8月の平日3日間

11月の第1日曜日、第2日曜、第3日曜の3日間

(注)救急インストラクターとは応急手当の基礎から指導法までを学び、地域、事業所等で応急手当を普及、指導ができる資格です。(資格試験合格者に授与)

3 講義

講義は後期の水曜3限に行います。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習を各1時間程度は行うこと。  
 <提出課題など>  
 講義時に、数回、小レポートを提出してもらいます。  
 <成績評価方法・基準>  
 救急インストラクター資格取得を前提として、講習の評価(60%)、  
 指導実習貢献度(20%)、授業レポート(20%)  
 <テキスト>  
 救急インストラクター講習時に配布します。(上記講習経費に含む)  
 <授業計画>  
 第1回 ケガの手当講習及び普通救命講習  
 外傷の応急手当及び普通救命講習より高度な救命処置を習得する。  
 第2回 同上  
 同上  
 第3回 同上  
 同上  
 第4回 同上  
 同上  
 第5回 同上  
 同上  
 第6回 同上  
 同上  
 第7回 同上  
 同上  
 第8回 救急インストラクター講習  
 地域、事業所等で応急手当の指導ができる指導技法及び資格を取得する。  
 第9回 同上  
 同上  
 第10回 同上  
 同上  
 第11回 同上  
 同上  
 第12回 同上  
 同上  
 第13回 同上  
 同上  
 第14回 同上  
 同上  
 第15回 同上  
 同上  
 第16回 同上  
 同上  
 第17回 同上  
 同上  
 第18回 同上  
 同上  
 第19回 同上  
 同上

第20回 同上  
 同上  
 第21回 同上  
 同上  
 第22回 同上  
 同上  
 第23回 授業ガイダンス  
 授業ガイダンスと授業の進め方。  
 第24回 救急活動の安全管理と法律問題  
 災害現場の安全管理と法律問題を学ぶ。  
 第25回 救急隊の救命処置  
 救急隊の救命処置について学ぶ。  
 第26回 救急隊の救命処置  
 救急隊の訓練から学ぶ。  
 第27回 救急隊の救命処置  
 救急隊の訓練から学ぶ。  
 第28回 指導技法の復習  
 市民への指導方法の復習。  
 第29回 指導実習  
 市民救命士講習を指導する。  
 第30回 指導実習  
 市民救命士講習を指導する。

-----  
 2022年度 後期  
 2.0単位  
 行政学の基礎  
 中野 雅至  
 -----

<授業の方法>  
 この授業はオンデマンド方式で行われるものである。なお、一回目の授業はズームで行う。なお、一回目の授業のパスワードなどについてはマナバで知らせることとする。

連絡先は [nakano@css.kobegakuin.ac.jp](mailto:nakano@css.kobegakuin.ac.jp)  
 特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

<授業の目的>  
 行政学の基本を学んだ上で、官庁や公務員の在り方などについて広く知るところを目的とする  
 なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。  
 <到達目標>

行政学の基礎を学んだ上で、中央官庁や地方自治体の果たす役割などについても基礎的な議論ができる程度の知識を得ることを到達目標とする

< 授業のキーワード >

官僚制・公務員・セクショナリズム

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める

< 履修するにあたって >

毎回の授業の復習をしっかりとやってほしい

< 授業時間外に必要な学修 >

授業を振り返りながら、随時、情報を整理しておくこと

< 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

< 成績評価方法・基準 >

テスト（100%）

< テキスト >

その都度指定する

< 参考図書 >

その都度指定する

< 授業計画 >

第1回 授業のガイダンス

授業の進め方などについて解説するとともに、行政学の概要について解説する

第2回 行政学の主なテーマ

官僚制・公務員制度・政策形成など、行政学の主なテーマについて解説する

第3回 官僚制とは何か

マックス・ウェーバーの学説なども紹介しながら、官僚制とは何かについて解説する

第4回 官僚制の逆機能について

官僚制は合理的なものと考えられる一方で、非効率性もたびたび指摘される。ここでは、非効率性に光を当てて官僚制を考える

第5回 公務員制度について

試験任用・給与制度など公務員制度について包括的に説明する

第6回 日本の公務員制度について

国家公務員と地方公務員、キャリア官僚など、日本特有の公務員制度について説明する

第7回 政官関係について

政治家と行政官の関係について、主に日本を念頭において様々な角度から解説する

第8回 政策形成過程について

政策がどのように作られていくのかについて幅広い角度から紹介する

第9回 ニューパブリックマネジメント（NPM）について

行政の世界では世界的潮流となっているニューパブリックマネジメントについて解説することとする

第10回 NPMの背景について

NPMがなぜ世界的な潮流になっているのかについて、その背後要因を説明する

第11回 民営化の流れについて

NPMの主要手段の一つである民営化について、様々な形態が存在することなどを説明する

第12回 顧客主義について

NPMの主要な特徴である顧客主義について、どのような取組が行われているのかなどを紹介する

第13回 NPMの好事例について

NPMで著名な自治体などがどのような取組を行っているなどを具体的に説明する

第14回 政策評価について

中央政府や地方自治体においてどのような政策評価が行われているのかについて解説する

第15回 地方分権について

地方分権の実現に向けてどのような取組が行われてきたかを解説する

-----  
2022年度 後期

2.0単位

近現代史

川口 ひとみ  
-----

< 授業の方法 >

講義形式

対面講義

授業形態を対面形式に戻すことを予定していますが、講義受講人数や新型コロナウイルス感染症の蔓延状況によっては遠隔授業を継続せざるを得ないかも知れません。これについては大学の方針が決まり次第あらためてお知らせします。

< 授業の目的 >

近現代史を、とくに日本と欧米、アジアとの関係を中心に学ぶ。歴史とは究極的には個々人の生きた歴史の蓄積であるとの考えから、複眼的に個人の内面に分け入りつつ、その背景にあるアジアで起きた様々な歴史的出来事を地域横断的に俯瞰する。

なお、この授業の担当者は高校での実務経験を4年間経験している実務経験のある教員であるので、教員志望の学生にはより実践的な観点から教育の現場の解説ができる。

本講義は現代社会学科、社会防災学科のDP1（知識・技能）、DP2（思考力・判断力・表現力等の能力）と関連する。

< 到達目標 >

1 日本を中心とした欧米、アジアの近代化についての基礎的知識を身につけることができる。

2 異文化を理解し文化を相対化して見ることができる。

3 身につけた知識を生かし世界情勢を的確に理解することができる。

< 授業のキーワード >

鄭和 マルコポーロ 漂流民 開国 日清修好条規 戦争

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

授業終わりにコメントカードを記入し次回授業時に共有します。

< 授業時間外に必要な学修 >

過去を知り、現代を考えるなかで、ひとつの媒体ではなくさまざまな媒体で世界のニュースを見て考えてください。

< 提出課題など >

\* 対面授業の場合

毎回授業終わりに出席カードに指定した課題（授業のまとめなど）を書き提出（次回授業時フィードバック）（35%）

中間確認プリント（25%）

期末確認プリント（40%）

\* 遠隔授業の場合

【授業の資料、課題提出はドットキャンパスで行なう】

- ・ 予習・授業・復習での作業は？ 書きで？ なく。
- ・ ? 書きの作業に？ いるため、ノートを必ず？ 意しておかなければならない。
- ・ ノートに書いた課題は、撮影して提出する。
- ・ 課題を提出する期限は授業の？ なわれた？ を含めて授業の4日間後とする。
- ・ 課題提出期限とは別に、クイズ形式（4択問題）で答える際に回答時間制限（10問を10分で答えなさいなど）を設ける場合がある。

< 成績評価方法・基準 >

対面授業の場合

毎回の課題提出（35%）、授業内の中間（25%）、期末確認プリント（40%）の評価を以って成績を評価する。

\* 遠隔授業の場合

提出された課題に対する評価を以て成績を評価するための材料とする。

最終的な成績は中央値補正法によって補正を？ なく。

< テキスト >

特になし。

< 参考図書 >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、近現代史を学ぶ意義について説明する。

第2回 ヨーロッパとアジアの出会い（アジアからヨーロッパへ）

鄭和の大航海。

第3回 ヨーロッパとアジアの出会い（ヨーロッパからアジアへ）

マルコポーロに誘発された大航海。

第4回 日本と海外とのつながり

長崎の出島、唐人屋敷。

第5回 アヘン戦争

アヘン戦争の概要と日本への影響。

第6回 漂流民がつなぐ世界

大黒屋光太夫、高田屋嘉兵衛、ジョン万次郎、若宮丸など。

第7回 黒船来航と日本開国

開港に至る流れと各開港場の特徴。

第8回 振り返りと質問への回答

復習と確認プリント。

第9回 各国との条約締結

日本が各国と締結した条約の概要。

第10回 日清修好条規とその運用

訴訟関係史料からみる近代日中領事裁判権の運用

第11回 混ざりあう文化の中で

明治維新、文明開化、お雇い外国人。

第12回 日清・日露戦争

日清・日露戦争を概観。

第13回 第一次世界大戦

総力戦と第一次世界大戦後の各国の情勢を概説。

第14回 第二次世界大戦と大戦後の世界

第二次世界大戦の概要と戦後のアジア秩序。

第15回 総括

総括と期末確認プリント。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

グループ・アプローチ A

和田 まり子  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習（対面授業）

< 授業の目的 >

小集団の機能・過程・ダイナミックス・特性を用い、個人の「内的成長」と対人関係の発展と改善を援助する事を目的とする。

人間は本来、コミュニティの支え無しには生きていけない社会的存在である。ところが「無縁社会」という言葉が象徴するように、人間関係の綻びがあちこちで露呈し始めた。

本講座は、様々なグループ・メソッドの体験を通じ『あなたは一人ではない』ことに気づき、『在りのままの自

分』を受け入れ、『あなた自身の力』を発揮できるような「内的成長」とコミュニケーション能力を養成する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

<到達目標>

- ・チームビルディングの必要性を習得する。
- ・多様な人とのかかわりの中で、人間は生きていることを習得する。
- ・コミュニケーション能力の基本を習得する。
- ・良い人間関係を築けるようになるために、怒りの感情をコントロールする技術を習得する。
- ・自己理解、他者理解を深め「自己肯定感を高める」能力を獲得する。

<授業のキーワード>

- ・チームビルディング ・コミュニケーション能力 ・多様性の受容 ・自己理解/他者理解
- ・怒りの感情コントロール（アンガーマネジメント）
- ・マインドフルネス ・気づき

<授業の進め方>

講義とグループワーク学習を中心に進めます。

<履修するにあたって>

コミュニケーションが苦手でも、履修を機会に積極的に人と関わるという気持ちで臨んで下さい。

<授業時間外に必要な学修>

受講したことを日常生活で実践して下さい。また、本や新聞を読む習慣を身に付けて下さい。（事前・事後学習各1時間程度）

<提出課題など>

1200字以上2000字以下のレポートを第14回の授業の日までに提出してください。詳細は授業の中で伝えます。（テーマは授業の内容、または関連する内容を事前に発表）

フィードバックはmanabaでコメントします。

<成績評価方法・基準>

授業中の質疑・発表20%      ショートレポート20%      課題レポート30%

プレゼンテーション30%

<テキスト>

- ・資料を配布

manabaにアップ。

<授業計画>

第1回    イントロダクション

- ・授業の目的と進め方
- ・グランドルール、評価について
- \*アイスブレイク

第2回    グループアプローチとは

- ・グループアプローチのねらいとメリット

- ・チームビルディングの体験

- ・グループワークを体験する

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第3回    怒りの感情コントロール

- ・怒りのコントロール（マネジメント）の技術を講義で習得

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第4回    コミュニケーション（1）

自己表現としての

- ・人間関係とコミュニケーション

- ・言語・非言語（バーバル・ノンバーバル）コミュニケーション

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第5回    コミュニケーション（2）

「聴く力」と「対話」

- ・傾聴「心で聴く」「心で観る」

- ・対話する力を磨く

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第6回    自己理解（1）

- ・ワークシートで自己理解を深める

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第7回    自己理解（2）

- ・ワークシートで自分の見えない自分の姿に気づく

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第8回    コンセンサスの形成と価値観

- ・コンセンサスとは

- ・価値観の違い

- ・エクササイズ「コンセンサスを得る」

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメント記入

第9回    多様性の受容・他者理解

- ・ダイバーシティ&インクルージョン

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第10回    気づきについて

- ・具体例を通しての講義

- ・グループワーク

- ・ショートレポート

第11回    マインドフルネス

（今ここで）

- ・講義

- ・マインドフルネス体験学習

（今ここでをエクササイズ）

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第12回 プレゼンテーションとは

- ・プレゼンテーションのためのスキルアップ
- ・資料作成方法
- ・グループでのプレゼンの準備
- ・ふりかえりカードのコメントを記入

第13回 プレゼン資料作成準備

各自担当 資料作成・グループでのプレゼンの準備

- ・ふりかえりカードのコメントを記入

第14回 プレゼン最終仕上げ

リハーサル

- ・各グループ8分～10分でプレゼン準備を行う。
- ・資料の内容をグループでフィードバックし合って、より良い内容にする
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第15回 プレゼン本番

プレゼン講評

前期振り返り

- ・プレゼンの講評
- ・グループワーク 目標のゴール到達度について
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

-----  
2022年度 前期

1.0単位

グループ・アプローチ B

今井 愛子  
-----

< 授業の方法 >

「講義」、「演習」、「実技」

< 授業の目的 >

- ・本講座は現代社会学の基礎知識、専門知識についてより理解を深めるために必要なグループ活動のあり方・進め方を学ぶことを目的とする。
- ・様々なグループ・メソッドの体験により、「主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度」を身につけ「思考力、判断力、表現力」の向上を図る。
- ・グループ・アプローチの分野に高い関心を持ち、グループ内での課題を考察し、解決するための知識や技能を身につける。また、グループ全体を考え自分の意見を素直に表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることを目的とする。
- ・本講座を担当する教員(今井愛子)は航空業界での約20年の経験を活かし、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

1. グループアプローチの理論を理解し、説明できる。(知識)
2. コミュニケーション理論を理解し、説明できる。(知識)

3. グループアプローチの技法を体験を通して、自己理解を深め、他者理解を重視できる。

(技能)

4. 体験したグループアプローチの技法を使いこなすことができる。(技能)

5. 価値観の違いを理解しようとし、自分を支える人々の存在に気づく。(態度、習慣)

6. 状況を考えて、発言したり、行動したりできる。(態度、習慣)

< 授業のキーワード >

自己理解、自己開示、他者理解、自己発見、自尊感情、価値観の多様性、リレーション

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークを中心にすすめ、受講後manabaから授業のふりかえりレポートを提出する。

第6回まででグループアプローチの基礎を学び、7回目からのプロジェクトでグループアプローチの知識を実践する。尚、プロジェクトのテーマは「キャリアデザイン」「就職対策」に関連するものとする。

・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどへの積極的な参加を推奨する。

・グループメンバーに迷惑のかからないよう行動することを原則とする。"

< 履修するにあたって >

授業で体験したグループアプローチの技法を実践し、その問題点、効果などをまとめること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、次回の授業内容に必要な準備について説明しますので、必ず準備してください。また、毎回の授業で学んだことを日常生活で意識し実践し、その効果・感想などをまとめてください。

< 提出課題など >

- ・毎回の授業報告(ふりかえりレポート)の提出
- ・実践プロジェクト企画書、報告書の提出

< 成績評価方法・基準 >

各回のふりかえりレポートの内容(含む、参画態度)40%、実践プロジェクトの発表40%、実践プロジェクト報告書20%の割合で総合的に判断する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

- ・アイスブレイク(リレー紹介、人間ビンゴ)：コミュニケーション力の1つ「関わる力」を体感する。
- ・授業概要の説明(授業の目的とゴール、進め方、ふりかえりレポート、評価方法、など)
- ・グループアプローチの概要を理解する。

第2回 自己理解

- ・コミュニケーションプロセスを理解し、その重要性をワーク「メッセージ

交換」を通して体感する。  
・ワーク後「第一印象について」ディスカッションし、コミュニケーション  
プロセスの理解を深める。  
第3回 傾聴力：相手が何を伝えたいのかを意識して聞く

・コミュニケーションの3つの力を理解し、その重要性和レベルアップの必要性を理解する。  
・ワーク「3つの聞き方」を通して、傾聴力のレベルアップ方法を考察する。  
・ワーク後「聞き方」についてディスカッションし、コミュニケーション力  
向上の必要性を理解する。  
・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

第4回 リレーションの作り方  
・質問の種類と使い方について理解する。  
・ワーク「相互インタビュー」を通して、質問の重要性を理解する。  
・ワーク後「質問」についてディスカッションし、質問力の重要性を理解する。  
・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

第5回 他者理解と価値観の多様性  
・価値観について理解する。  
・ワーク「若い女性と水夫」を通して価値観の多様性  
を理解する。  
・ワーク後「価値観」についてディスカッションし、価値観の多様性  
を理解する。  
・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

第6回 チームワークのポイント  
・チームワークのポイントを理解する。  
・ワークショップ「地図作成」を通して、チームワーク  
のポイントを確認する。  
・ワーク後「チームワーク」についてディスカッションし、チームワーク  
のポイントを理解する。  
・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

第7回 自己開示の必要性  
・プロジェクトの内容、実施方法を理解する。  
・企画書について理解する。  
・テーマについてブレインストーミングし、チームの企画  
内容を決定する。

・プロジェクト企画案を作成する。  
第8回 自己開示の必要性  
・プロジェクトの内容、実施方法を理解する。  
・企画書について理解する。  
・テーマについてブレインストーミングし、チームの企画  
内容を決定する。  
・プロジェクト企画案を作成する。

第9回 他者理解と自己発見  
・他チームの企画を知ること、自分のチーム内容を再  
考する。  
・プロジェクト企画についてプレゼンテーションを実施  
する。

第10回 他者理解と自己発見  
・他者に映った自分を意識しながら、プロジェクトの作  
業をする。  
・プロジェクト内容の詳細を決定し、役割を分担する。

第11回 価値観の多様性  
・価値観の多様性を意識し、他者の意見を傾聴しながら、  
作業を進める。  
・チーム内の自分の立場を意識しながら、各自のプロ  
ジェクト作業を進める。

第12回 価値観の多様性  
・価値観の多様性を意識し、自分と違う立場を理解しな  
がら、作業を進める。  
・リハーサルに向けて、聴衆に伝わる発表方法を考える。

第13回 自己理解  
・リハーサルを通して、チームにおける自分を理解し、  
チームワークの強化  
につなげる。  
・プレゼンテーション リハーサルを実施する。

第14回 自己理解  
・他チームの発表を通して、自分のチームについて気付  
きがあることを理解  
する。  
・プレゼンテーション発表

第15回 プロジェクト報告書の作成  
・「プロジェクト」について、ふりかえりディスカッ  
ションを実施し、  
グループアプローチについて再考する。  
・ディスカッションを踏まえて、報告書を作成する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

グループ・アプローチ C

和田 まり子  
-----

<授業の方法>

講義と演習 (対面授業)

<授業の目的>

小集団の機能・過程・ダイナミクス・特性を用い、個

人の「内的成長」と対人関係の発展と改善を援助する事を目的とする。

人間は本来、コミュニティーの支え無しには生きていけない社会的存在である。ところが「無縁社会」という言葉が象徴するように、人間関係の綻びがあちこちで露呈し始めた。

本講座は、様々なグループ・メソッドの体験を通じ『あなたは一人ではない』ことに気づき、『在りのままの自分』を受け入れ、『あなた自身の力』を發揮できるような「内的成長」とコミュニケーション能力を養成する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

<到達目標>

- ・チームビルディングの必要性を習得する。
- ・多様な人とのかかわりの中で、人間は生きていることを習得する。
- ・コミュニケーション能力の基本を習得する。
- ・良い人間関係を築けるようになるために、怒りの感情をコントロールする技術を習得する。
- ・自己理解、他者理解を深め「自己肯定感を高める」能力を獲得する。

<授業のキーワード>

- ・チームビルディング ・コミュニケーション能力 ・多様性の受容 ・自己理解/他者理解
- ・怒りの感情コントロール（アンガーマネジメント）
- ・マインドフルネス ・気づき

<授業の進め方>

講義とグループワーク学習を中心に進めます。

<履修するにあたって>

コミュニケーションが苦手でも、履修を機会に積極的に人と関わるという気持ちで臨んで下さい。

<授業時間外に必要な学修>

受講したことを日常生活で実践して下さい。また、本や新聞を読む習慣を身に付けて下さい。（事前・事後学習各1時間程度）

<提出課題など>

1,200字以上2,000字以下のレポートを第14回の授業の日までに提出してください。詳細は授業の中で伝えます。（テーマは授業の内容、または関連する内容を事前に発表）

フィードバックはmanabaでコメントします。

<成績評価方法・基準>

授業中の質疑・発表20% ショートレポート20% 課題レポート30%

プレゼンテーション30%

<テキスト>

- ・資料を配布

manabaにアップ。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

- ・授業の目的と進め方
- ・グランドルール、評価について
- \*アイスブレイク

第2回 グループアプローチとは

- ・グループアプローチのねらいとメリット
- ・チームビルディングの体験
- ・グループワークを体験する
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第3回 怒りの感情コントロール

- ・怒りのコントロール（マネジメント）の技術を講義で習得

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第4回 コミュニケーション（1）

自己表現としての

- ・人間関係とコミュニケーション
- ・言語・非言語（バーバル・ノンバーバル）コミュニケーション

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第5回 コミュニケーション（2）

「聴く力」と「対話」

- ・傾聴「心で聴く」「心で観る」

- ・対話する力を磨く

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第6回 自己理解（1）

- ・ワークシートで自己理解を深める

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第7回 自己理解（2）

- ・ワークシートで自分の見えない自分の姿に気づく

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第8回 コンセンサスの形成と価値観

- ・コンセンサスとは

- ・価値観の違い

- ・エクササイズ「コンセンサスを得る」

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメント記入

第9回 多様性の受容・他者理解

- ・ダイバーシティ&インクルージョン

- ・グループワーク

- ・ふりかえりカードにコメントを記入

第10回 気づきについて

- ・具体例を通しての講義

- ・グループワーク

- ・ショートレポート

## 第11回 マインドフルネス

(今ここで)

- ・講義
- ・マインドフルネス体験学習

(今ここでをエクササイズ)

- ・グループワーク
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

## 第12回 プレゼンテーションとは

- ・プレゼンテーションのためのスキルアップ
- ・資料作成方法
- ・グループでのプレゼンの準備
- ・ふりかえりカードのコメントを記入

## 第13回 プレゼン資料作成準備

各自担当 資料作成・グループでのプレゼンの準備

- ・ふりかえりカードのコメントを記入

## 第14回 プレゼン最終仕上げ

リハーサル

- ・各グループ8分～10分でプレゼン準備を行う。
- ・資料の内容をグループでフィードバックし合って、より良い内容にする
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

## 第15回 プレゼン本番

プレゼン講評

前期振り返り

- ・プレゼンの講評
- ・グループワーク 目標のゴール到達度について
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

-----  
2022年度 前期

1.0単位

グループ・アプローチ D

今井 愛子

-----  
< 授業の方法 >

「講義」、「演習」、「実技」

< 授業の目的 >

- ・本講座は現代社会学の基礎知識、専門知識についてより理解を深めるために必要なグループ活動のあり方・進め方を学ぶことを目的とする。
- ・様々なグループ・メソッドの体験により、「主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度」を身につけ「思考力、判断力、表現力」の向上を図る。
- ・グループ・アプローチの分野に高い関心を持ち、グループ内での課題を考察し、解決するための知識や技能を身につける。また、グループ全体を考え自分の意見を素直に表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることを目的とする。
- ・本講座を担当する教員(今井愛子)は航空業界での約2

0年の経験を活かし、実践的教育から構成

される授業科目である。

< 到達目標 >

1. グループアプローチの理論を理解し、説明できる。(知識)
2. コミュニケーション理論を理解し、説明できる。(知識)
3. グループアプローチの技法を体験を通して、自己理解を深め、他者理解を重視できる。(技能)
4. 体験したグループアプローチの技法を使いこなすことができる。(技能)
5. 価値観の違いを理解しようとし、自分を支える人々の存在に気づく。(態度、習慣)
6. 状況を考えて、発言したり、行動したりできる。(態度、習慣)

< 授業のキーワード >

自己理解、自己開示、他者理解、自己発見、自尊感情、価値観の多様性、リレーション

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークを中心にすすめ、受講後manabaから授業のふりかえりレポートを提出する。

第6回まででグループアプローチの基礎を学び、7回目からのプロジェクトでグループアプローチの知識を実践する。尚、プロジェクトのテーマは「キャリアデザイン」「就職対策」に関連するものとする。

・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどへの積極的な参加を推奨する。

・グループメンバーに迷惑のかからないよう行動することを原則とする。

< 履修するにあたって >

授業で体験したグループアプローチの技法を実践し、その問題点、効果などをまとめること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、次回の授業内容に必要な準備について説明しますので、必ず準備してください。また、毎回の授業で学んだことを日常生活で意識し実践し、その効果・感想などをまとめてください。

< 提出課題など >

- ・毎回の授業報告(ふりかえりレポート)の提出
- ・実践プロジェクト企画書、報告書の提出

< 成績評価方法・基準 >

各回のふりかえりレポートの内容(含む、参画態度)40%、実践プロジェクトの発表40%、実践プロジェクト報告書20%の割合で総合的に判断する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

- ・アイスブレイク(リレー紹介、人間ビンゴ)：コミュニケーション力の1つ「関わる力」を体感する。

・授業概要の説明（授業の目的とゴール、進め方、ふりかえりシート、評価

方法、など）

・グループアプローチの概要を理解する。

## 第2回 自己理解

・コミュニケーションプロセスを理解し、その重要性をワーク「メッセージ

交換」を通して体感する。

・ワーク後「第一印象について」ディスカッションし、コミュニケーション

プロセスの理解を深める。

## 第3回 傾聴力：相手が何を伝えたいのかを意識して聞く

・コミュニケーションの3つの力を理解し、その重要性とレベルアップの必要

性を理解する。

・ワーク「3つの聞き方」を通して、傾聴力のレベルアップ方法を考察する。

・ワーク後「聞き方」についてディスカッションし、コミュニケーション力

向上の必要性を理解する。

・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

## 第4回 リレーションの作り方

・質問の種類と使い方について理解する。

・ワーク「相互インタビュー」を通して、質問の重要性を理解する。

・ワーク後「質問」についてディスカッションし、質問力の重要性を理解

する。

・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

## 第5回 他者理解と価値観の多様性

・価値観について理解する。

・ワーク「若い女性と水夫」を通して価値観の多様性を理解する。

・ワーク後「価値観」についてディスカッションし、価値観の多様性を理解

する。

・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

## 第6回 チームワークのポイント

チームワークのポイントを理解する。

・ワークショップ「地図作成」を通して、チームワークのポイントを確認

する。

・ワーク後「チームワーク」についてディスカッションし、チームワーク

のポイントを理解する。

・伝達力向上練習としてディスカッションの内容をまとめ、発表する。

## 第7回 自己開示の必要性

・プロジェクトの内容、実施方法を理解する。

・企画書について理解する。

・テーマについてブレインストーミングし、チームの企画内容を決定する。

・プロジェクト企画案を作成する。

## 第8回 自己開示の必要性

・プロジェクトの内容、実施方法を理解する。

・企画書について理解する。

・テーマについてブレインストーミングし、チームの企画内容を決定する。

・プロジェクト企画案を作成する。

## 第9回 他者理解と自己発見

・他チームの企画を知ること、自分のチーム内容を再考する。

・プロジェクト企画についてプレゼンテーションを実施する。

## 第10回 他者理解と自己発見

・他者に映った自分を意識しながら、プロジェクトの作業をする。

・プロジェクト内容の詳細を決定し、役割を分担する。

## 第11回 価値観の多様性

・価値観の多様性を意識し、他者の意見を傾聴しながら、作業を進める。

・チーム内の自分の立場を意識しながら、各自のプロジェクト作業を進める。

## 第12回 価値観の多様性

・価値観の多様性を意識し、自分と違う立場を理解しながら、作業を進める。

・リハーサルに向けて、聴衆に伝わる発表方法を考える。

## 第13回 自己理解

・リハーサルを通して、チームにおける自分を理解し、チームワークの強化

につなげる。

・プレゼンテーション リハーサルを実施する。

## 第14回 自己理解

・他チームの発表を通して、自分のチームについて気付きがあることを理解

する。

・プレゼンテーション発表

## 第15回 プロジェクト報告書の作成

・「プロジェクト」について、ふりかえりディスカッションを実施し、

グループアプローチについて再考する。

・ディスカッションを踏まえて、報告書を作成する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

グループ・アプローチ E

浜中 恵美子  
-----

< 授業の方法 >

・ 講義 ・ 演習 ・ 実習

< 授業の目的 >

人間は本来、コミュニティの支えなしには生きていけない社会的存在である。私たちは、家族、大学ゼミ、サークルなどいくつかのグループに所属している。そのグループの中で生れ、成長し、時には癒され、時には葛藤を抱え、変化していく。グループには、ひとり一人を大きく変容させる力がある。さらに、グループのもつ機能やプロセス、グループダイナミクスなどの特性を利用し、個人の「内的成長」や対人関係の発展、改善を援助することを目的とする。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、NTLA (National Training Laboratory of Association) の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20年以上の実務を持つ教員である。グループアプローチ、ヒューマンリレーションについて、より実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

・ 固定観念にとらわれず、多様な人と関わりながら、自己の内的成長や他者の成長を支援できる

よう習得する。

・ 他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深めることができる。

・ コミュニケーション理論を習得し、日常生活の中でより良い人間関係を築くことができる。

・ 自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができる。

・ これからの人間関係を肯定的に捉え、可能性に満ちた学生生活のきっかけにすることができる。

< 授業のキーワード >

・ 内的成長・自己理解・他者理解・気づき・聴く力・支援・観察・共感・受容・身体性

< 授業の進め方 >

・ ワークシートの課題をまとめながら、自己のコミュニケーションスタイルについて考える。

・ ワークを体験しながら身につけていく。

・ 課題はフィードバックし気づきを深め共有する。

< 履修するにあたって >

・ 積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。

・ 主体的な参画を望む。

・ 状況により日程、授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ 授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。

（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

・ 授業内で指示します。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業に取り組む姿勢を評価60%

（・ 授業に積極的な参画 30% ・ 課題ワーク他 30%）

2. 課題レポート（40%）、などを総合的に評価

< テキスト >

・ 毎回、ワークシート、資料などmanabaにて配布します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

・ グループ・アプローチとは

・ コミュニケーションとグランドルール

・ 授業の考え方、ねらい、進め方、評価について

第2回 グループ・アプローチとは

・ グループとは

・ グループ・アプローチの考え方と意味

・ 体験学習の気づきのモデル

・ 対人援助のためのグループ・アプローチの見方と有効性

・ コミュニケーションのあり方を考える

第3回 グループ・アプローチと

チームワーク

・ コミュニケーションのあり方を考える

・ チームワークと課題達成

第4回 自己表現と

コミュニケーション

・ 人間関係とコミュニケーション&マナー ・ 他者を理解するということ

・ 言語、非言語コミュニケーション

・ 身体を拓く（考える、感じる、動く、他者との関係）

コミュニケーションに

ついて考える

第5回 「聴く力」と「対話」の

コミュニケーション

・ コミュニケーションの弊害について

・ 「聴く力」「対話する力」「観る力」 ・ 支援と聴く力

第6回 自分に見えない自分の姿に気づく

・ 対人関係の気づきのモデルを習得する。

・ 自己理解、他者理解を深め自己表現できるよう日常生活に活かす。

## 第7回 コンセンサスと価値観

- ・グループプロセスの見方、考え方 ・「いま、ここで」に注目
- ・コンセンサスとは
- ・グループアプローチとグループプロセスの体験 ・ふりかえり

## 第8回 創発とコミュニケーション 個人 -1-

- ・個人の発想からグループへ ・集団で新しい価値を生み出す
- ・「いま、ここで」に注目する ・グループプロセスの分析

## 第9回 創発とコミュニケーション

### 集団 -2-

- ・創発を生むコミュニケーション ・葛藤とコンセンサス
- ・集団で新たな価値を生み出すための問題解決
- ・グループプロセスの分析 ・今ここで注目

## 第10回 創発とコミュニケーション

### 組織 3

- ・組織の挑戦「創発」とコミュニケーション
- ・組織の「創発」の実際を考える

## 第11回 グループ・アプローチと

### グループダイナミクス

- ・グループダイナミクスとは
- ・グループ・アプローチ、グループダイナミクスの体験と分析
- ・ふりかえり

## 第12回 論理的思考法とコミュニケーション -1-

- ・論理的思考法で固定観念の見直し
- ・グループ・アプローチとグループプロセス

## 第13回 論理的思考法とコミュニケーション -2-

- ・オルタナティブな発想
- ・ケーススタディの分析とフィードバック

## 第14回 自分を語る

- ・全体グループアプローチ
- ・自己の構造化ー『私』を表現する
- ・フィードバックの共有化

## 第15回 グループの成長を推進するために

- ・グループメンバーの関係性とグループの成長
- ・全体のふりかえりと今後に向かって

-----  
2022年度 前期

1.0単位

グループ・アプローチ F

浜中 恵美子

-----  
< 授業の方法 >

・講義 ・演習 ・実習

< 授業の目的 >

人間は本来、コミュニティの支えなしには生きていけない社会的存在である。私たちは、家族、大学ゼミ、サークルなどいくつものグループに所属している。そのグループの中で生れ、成長し、時には癒され、時には葛藤を抱え、変化していく。グループには、ひとり一人を大きく変容させる力がある。さらに、グループのもつ機能やプロセス、グループダイナミクスなどの特性を利用し、個人の「内的成長」や対人関係の発展、改善を援助することを目的とする。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、NTLA (National Training Laboratory Association)の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20年以上の実務を持つ教員である。グループアプローチ、ヒューマンリレーションについて、より実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

・固定観念にとらわれず、多様な人と関わりながら、自己の内的成長や他者の成長を支援できる

よう習得する。

・他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深めることができる。

・コミュニケーション理論を習得し、日常生活の中でより良い人間関係を築くことができる。

・自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができる。

・これからの人間関係を肯定的に捉え、可能性に満ちた学生生活のきっかけにすることができる。

< 授業のキーワード >

・内的成長・自己理解・他者理解・気づき・聴く力・支援・観察・共感・受容・身体性

< 授業の進め方 >

・ワークシートの課題をまとめながら、自己のコミュニケーションスタイルについて考える。

・ワークを体験しながら身につけていく。

・課題はフィードバックし気づきを深め共有する。

< 履修するにあたって >

・積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。

・主体的な参画を望む。

・状況により日程、授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。

（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

・授業内で指示します。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業に取り組む姿勢を評価60%  
 (・授業に積極的な参画 30% ・課題ワーク他 30%)

2. 課題レポート(40%)、などを総合的に評価  
 <テキスト>  
 ・毎回、ワークシート、資料などmanabaにて配布します。  
 <授業計画>

第1回 イントロダクション  
 ・グループ・アプローチとは  
 ・コミュニケーションとグランドルール  
 ・授業の考え方、ねらい、進め方、評価について

第2回 グループ・アプローチとは  
 ・グループとは  
 ・グループ・アプローチの考え方と意味  
 ・体験学習の気づきのモデル  
 ・対人援助のためのグループ・アプローチの見方と有効性  
 ・コミュニケーションのあり方を考える

第3回 グループ・アプローチと  
 チームワーク  
 ・コミュニケーションのあり方を考える  
 ・チームワークと課題達成

第4回 自己表現と  
 コミュニケーション  
 ・人間関係とコミュニケーション&マナー ・他者を理解するということ  
 ・言語、非言語コミュニケーション  
 ・身体を拓く(考える、感じる、動く、他者との関係) コミュニケーションに  
 ついて考える

第5回 「聴く力」と「対話」の  
 コミュニケーション  
 ・コミュニケーションの弊害について  
 ・「聴く力」「対話する力」「観る力」 ・支援と聴く力

第6回 自分に見えない自分の姿に気づく  
 ・対人関係の気づきのモデルを習得する。  
 ・自己理解、他者理解を深め自己表現できるよう日常生活に活かす。

第7回 コンセンサスと価値観  
 ・グループプロセスの見方、考え方 ・「いま、ここで」に注目  
 ・コンセンサスとは  
 ・グループアプローチとグループプロセスの体験 ・ふりかえり

第8回 創発とコミュニケーション 個人 -1-  
 ・個人の発想からグループへ ・集団で新しい価値を生み出す

・「いま、ここで」に注目する ・グループプロセスの分析

第9回 創発とコミュニケーション  
 集団 -2-  
 ・創発を生むコミュニケーション ・葛藤とコンセンサス  
 ・集団で新たな価値を生み出すための問題解決  
 ・グループプロセスの分析 ・今ここでに注目

第10回 創発とコミュニケーション  
 組織 3  
 ・組織の挑戦「創発」とコミュニケーション  
 ・組織の「創発」の実際を考える

第11回 グループ・アプローチと  
 グループダイナミックス  
 ・グループダイナミックスとは  
 ・グループ・アプローチ、グループダイナミックスの体験と分析  
 ・ふりかえり

第12回 論理的思考法とコミュニケーション -1-  
 ・論理的思考法で固定概念の見直し  
 ・グループ・アプローチとグループプロセス

第13回 論理的思考法とコミュニケーション -2-  
 ・オルタナティブな発想  
 ・ケーススタディの分析とフィードバック

第14回 自分を語る  
 ・全体グループアプローチ  
 ・自己の構造化ー『私』を表現する  
 ・フィードバックの共有化

第15回 グループの成長を推進するために  
 ・グループメンバーの関係性とグループの成長  
 ・全体のふりかえりと今後に向かって

-----  
 2022年度 前期

2.0単位

グローバル社会論

松田 ヒロ子

-----  
 <授業の方法>

講義

<授業の目的>

グローバル化を背景に、近年の日本社会では日本以外の国で生まれ育った人や外国にルーツをもつ親に育てられた子どもの数はますます増加しています。しかしながら、日本社会は多様な文化的背景をもつ人びとを「市民」として受け入れる態勢ができていないといえます。この授業では、多文化共生に向けたシティズンシップ(市民性)のあり方について理解を深めることを目的とします。現代社会学部のDPに示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、グローバルな視野と豊かな教養を身につけるこ

とを目指します。

<到達目標>

(1) シティズンシップ概念を理解し、今後の日本のシティズンシップのあり方について自分の意見を表明できる。

(2) 日本の多文化・多民族状況やそれに伴う課題について説明できる。

<授業の進め方>

『シティズンシップ教育実践ハンドブック』を使用し、グループワークを多く行います。

グループワークが苦手な学生にはお勧めしません。

<授業時間外に必要な学修>

テキストや授業で配布した資料を予習復習として読んでください。(予習復習合わせて2時間程度)

<提出課題など>

提出課題に対するフィードバックは授業中に行います。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する課題(60%) 期末テスト(40%)

<テキスト>

多文化共生に向けた市民性教育研究会『多文化共生に向けたシティズンシップ教育ハンドブック』明石書店(2020年3月刊行)

<授業計画>

第1回 授業の概要説明

授業進め方や評価方法を説明します。

第2回 グローバル化時代の日本と多様性

グローバル化の現状や日本の多文化・多民族状況について学びます。

第3回 シティズンシップ概念の過去と現在

シティズンシップ概念の歴史の変遷とグローバル化時代におけるシティズンシップのあり方について考えます。

第4回 異文化尊重と公平(1)

異文化を尊重することと公平であることのバランスについて考えます。

第5回 異文化尊重と公平(2)

グローバル化が進展する社会における「ルール」のあり方について考えます。

第6回 合理的配慮と平等(1)

多様な人々が共生する社会における「平等」とは何か考えます。

第7回 合理的配慮と平等(2)

多文化・多国籍化する学校現場の課題について考えます。

第8回 ステレオタイプと偏見(1)

ステレオタイプと偏見とは何か、何が問題か考えます。

第9回 ステレオタイプと偏見(2)

日本社会でステレオタイプと偏見はどのような場所で見られるか、なぜそれらは生まれるのか考えます。

第10回 人権と経済効率(1)

今日の日本経済における外国人労働者の重要性について

学びます。

第11回 人権と経済効率(2)

今日の日本における外国人労働者の人権問題について学びます。

第12回 社会権とコスト(1)

グローバル化時代において社会権を擁護することの重要性と課題について学びます。

第13回 社会権とコスト(2)

病院における多言語対応を事例に、社会権とコストのバランスについて考えます。

第14回 合意形成と多数決(1)

「多数決」が持つ問題について考えます。

第15回 合意形成と多数決(2)

マイノリティの権利を擁護することの重要性について学びます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ケア社会論

前田 拓也  
-----

<授業の方法>

講義形式(対面)

<授業の目的>

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に従い、現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的な理解を目指す。

病者、高齢者や障害者を十全に配慮し、社会に包摂することは、現代社会にとって喫緊の課題である。「ケアすること」(介護、介助、看護 etc.)はしばしば、そうした世界に縁のない者からすれば、どこか遠い「あちら側」のことがらだと考えがちである。その一方で、わたしたちは、「きっとあれは大変な仕事なのだろう」ということを、すでになんとなくは「知っている」。この「落差」について、わたしたちのあたりまえの日常のなかから、まずは考えてみたい。

わたしたちは、多かれ少なかれ、日々の暮らしのなかで経験するさまざまな感情を、社会的・文化的ルールに従ってコントロールし、演技しながら生きていると言える。そして当然ながら、「ケアの現場」もまた、そんなわたしたちの日常から地続きの延長線上にあるのだということに、現場で起こるできごとは気付かせてくれる。

この講義では、「障害者の自立生活」と呼ばれる実践をおもに取り上げ、その社会的な意義と、具体的な介助現場の事例を踏まえながら、ケアのなかでどうしても避けることのできない「ネガティブな感情」をどのように処

理するかという問題について、おもに感情社会学、および障害学の視点から考える。

なお、この講義の担当者は、障害当事者団体での障害者介助の業務を8年間経験した、実務経験のある教員である。経験的データおよび実際的な観点から、ケア労働者の実態を明らかにすることを目指す。

#### <到達目標>

・病者、高齢者や障害者を「ケアする」営みの内実について、社会学の視点からとらえ、説明することができる。特に、障害者への配慮と支援の技法を検討することを通して、持続可能な社会の形成を構想するための能力を獲得することができる。

・他者同士のあいだに取り交わされる相互行為/コミュニケーションのありかたを、社会学理論を応用して説明、検討することができる。

・関連するさまざまな差別事象、差別現象、人権にかかわる問題について、応用して問題設定できる。

#### <授業のキーワード>

ケア / 介助（介護） / 障害者 / 感情労働 / 身体

#### <授業の進め方>

- ・講義形式でおこなう。
- ・各回に課題を提示する。

#### <履修するにあたって>

・ゲストスピーカーを招く予定だが、先方の都合により、授業計画が前後する可能性がある。

・2年次後期の「福祉社会学 II」もあわせて受講していることが望ましい。

#### <授業時間外に必要な学修>

事前学習：講義の対象となるテーマについて、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくことで一定のイメージをつかんでおくこと（目安：1時間程度）。

事後学習：講義ノートを再確認し、講義内で紹介した各種統計資料や文献を積極的に読むこと（目安：1時間程度）。

#### <提出課題など>

各回に課題を提示する。また、中間レポートと期末レポートを課す。

適宜、授業内でフィードバックをおこなう。

#### <成績評価方法・基準>

各回の課題：60%

中間レポート + 期末レポート：40%

#### <参考図書>

前田拓也『介助現場の社会学 身体障害者の自立生活

と介助者のリアリティ』生活書院、2009年。

{詳細,<http://maedat.com/works/kaijogenba.html>}

- - -

さらに、以下の参考文献を読んでおくことで授業内容の理解がより深まる。

・{安積純子・尾中文哉・岡原正幸・立岩真也『生の技法 家と施設を出て暮らす障害者の社会学 第3版』生活書院、2012年.,<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784865000023>}

・{渡辺一史『なぜ人と人は支え合うのか 「障害」から考える』ちくまプリマー新書、2018年.,<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480683434/>}

・{荒井 裕樹『障害者差別を問いなおす』ちくま新書、2020年.,<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480073013/>}

・{寺本晃久・岡部耕典・末永弘・岩橋誠治『良い支援？ 知的障害/自閉の人たちの自立生活と支援』生活書院、2008年.,<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784903690285>}

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

講義全体の進めかたを説明し、目標を確認する。

##### 第2回 「自立」とはなにか

講義の中心テーマである「障害者の自立」の定義から、現代社会における障害者の位置付けを検討する。

##### 第3回 「自立生活」という暮らしかた 1

障害者の自立生活の意義を、「脱施設」という主張を通して理解する。

##### 第4回 「自立生活」という暮らしかた 2

障害者の自立生活の意義を、「脱家族」という主張を通して理解する。

##### 第5回 「自立生活」という暮らしかた 3

障害者の自立生活の意義を、障害当事者の「自己決定」との関係から検討する。

##### 第6回 当事者の語りから

障害当事者をゲストとして招き、かれらの暮らしの実際とライフ・ストーリーを聴き、理解する。

##### 第7回 感情の社会学 1

「感情の社会性」を日常生活の具体例のなかから検討する。

##### 第8回 感情の社会学 2

身体をめぐるルール、とくに「身体距離」から日常世界を捉え直し、検討する。

##### 第9回 感情の社会学 3

「感情操作/感情管理」から日常世界を捉え直し、検討する。

## 第10回 感情の社会学 4

感情労働という概念から、現代社会における労働と感情の関係を検討する。

## 第11回 障害者介助の技法

感情労働の概念を用いて、「障害者を介助すること」の詳細を検討する。

## 第12回 ケアの感情社会学

「ケア」ないし「障害者の介助」における「ネガティブな感情」をどう扱うことができるかを考える。

## 第13回 ケアは「大変」か 1

ケア現場においてセクシュアリティをどのように扱うことができるかを検討する。

## 第14回 ケアは「大変」か 2

「他者をケアする」というおこないが持ちうる独特の「大変さ」はどこにあるかを検討する。

## 第15回 授業全体のまとめ

講義全体をふりかえり、要点を再確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

経済学の基礎

中村 恵  
-----

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

現代社会における経済は市場を中心として動いており、その市場は需要と供給で構成されている。経済を見る視点は国全体の経済をマクロ的視点と個々の行動主体の経済行動をとらえるミクロ的視点の両方がある。マクロ的視点の最も重要な概念であるGDPは消費、投資、輸出入、政府支出等の構成要素からなっている。また、ミクロ的視点では消費者の行動が需要曲線を導き、企業の行動が供給曲線を導いている。ただし、現実の経済では、市場の機能が十分には働かない「市場の失敗」が存在すること、経済主体の行動にはリスクや不確実性といった要素が重要な役割を果たしている。

本講義では、現代社会の重要な側面の一つである経済が市場を中心として動いていることを理解し、国全体の経済をとらえるマクロ経済学と消費者や企業など個々の行動主体の経済行動をとらえるミクロ経済学の基本的な考え方を学ぶ。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」と関係し、それを育成する。

< 到達目標 >

現代社会における経済の構成要素と市場メカニズムの働きを理解した上で、マクロ経済とミクロ経済の両方において、基礎的な経済学の思考枠組を活用できる。

< 授業の進め方 >

適宜資料を配布、あるいは投影しながら、質疑応答を取り入れた講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習、レポート作成、定期券対策勉強などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

毎回出欠とともに質問を受け付け、それに対する回答やコメントを原則次回の講義時に行う。また、学生が作成したレポート等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上にてコメント等のフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

オンラインでレポート4回提出（80%）、毎回オンラインで提出された「質問を含めた理解度チェックミニレポート」（20%）で評価を行う。

< テキスト >

講義で使用する資料は、manaba上で配布する。

< 参考図書 >

猪木武徳・鶴田忠彦・藪下史郎編著『入門・経済学』有斐閣

岩田規久男著『経済学を学ぶ』（ちくま新書）、筑摩書房

J. E. スティグリッツ、C. E. ウォルシュ著、藪下史郎（翻訳）『スティグリッツ入門経済学』東洋経済新報社

< 授業計画 >

### 第1回 市場と経済

経済学が「市場」をめぐる諸現象の背景にひそむ原理を明らかにする学問であることを、生産物市場、金融市場、労働市場の三大市場について具体的な例を観察しながら把握する。

### 第2回 市場の役割

資本主義経済の市場というものが果たす役割について解説をする。具体的には、市場は需要と供給によって構成されていること、その需要と供給が一致するところで基本的に価格が決まるとともに、同時にその配分も決定されることを学習する。

### 第3回 マクロ経済主体と経済循環

経済を巨視的にとらえるとき、企業、家計、政府、銀行、外国といった経済活動の主体が登場し、その主体の活動が相互に関連していることを、経済循環図を理解しながら学習する。

### 第4回 国内総生産と三面等価原則

国内総生産（以下GDP）が付加価値の合計として表されることを示し、その構成要素を明らかにする。そして、GDPは、生産、所得、支出の三面から見ても等価になることを理解する。

### 第5回 消費、投資、貯蓄

需要面から見たGDPの2大構成要素が消費と投資であることを学び、その背後には人々の節約である貯蓄が隠れ

ていることを明らかにし、貯蓄と投資が等しくなるところでGDPの水準が決定されることを学習する。

#### 第6回 貿易と為替レート

需要面から見たGDPの構成要素に輸出と輸入が含まれることを学び、海外との貿易の実態と自国通貨と他国通貨の交換比率である為替レートについて学習する。

#### 第7回 政府の役割

需要面から見たGDPの構成要素に、政府の財政支出と税金が含まれることを学ぶと同時に、経済をコントロールする手法としての政府による財政政策と中央銀行による金融政策の基礎を理解する。

#### 第8回 ミクロ経済学とは

前半で扱った国民経済全体をとらえようとするマクロ経済学とは異なり、消費者・家計や企業など経済の個々の主体の行動を分析する分野としてのミクロ経済学の意義を理解する。

#### 第9回 需要と供給

個々の財・サービス市場の構成要素である需要と供給のあり方は需要曲線と供給曲線によって表現され、需給の一致するところで均衡価格が決定されること、実際の価格が均衡価格にないときには、価格が数量の調整によって、価格が均衡価格に収斂していくことを学習する。

#### 第10回 需要曲線のシフトとその影響

需要曲線は環境の変化に応じて違う位置に移動し、その結果均衡価格と均衡生産量も変化する。どういう環境の変化が起こったら需要曲線はどのように変化し、その結果価格や生産量にどのような影響が起こるかを具体例をあげながら学習する。

#### 第11回 供給曲線のシフトとその影響

供給曲線は環境の変化に応じて違う位置に移動し、その結果均衡価格と均衡生産量も変化する。どういう環境の変化が起こったら供給曲線はどのように変化し、その結果価格や生産量にどのような影響が起こるかを具体例をあげながら学習する。

#### 第12回 消費者行動と効用最大化

財市場の需要主体である消費者が財を購入したことから得られる満足感を効用と表現し、消費者は一定の予算制約の中で、消費者は得られる満足感（効用）が最大になるように財を購入すること、その結果として消費者のある財に対する需要曲線が得られることを学習する。

#### 第13回 企業行動と利潤最大化

企業が利潤最大をめざす財市場の供給主体であると定義し、売上や費用が生産量に応じてどのように変化するかを学習する。このとき、売上の増加分としての限界収益、費用の増加分としての限界費用概念を正確に理解する。

#### 第14回 市場の失敗と外部（不）経済

ある特定の条件の元では、適当な市場が作り出されず、資源配分が非効率になる「市場の失敗」について公共財を例にとって学習すると同時に、ある主体の行動が他の主体に悪影響を及ぼす外部不経済の概念について学習す

る。

#### 第15回 リスクと不確実性

経済社会における情報の役割について学んだあと、リスクを伴う事象と不確実性を伴う事象の区別とそれぞれの現代社会における意義を理解し、行動主体の対応を学習する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

岡崎 宏樹  
-----

<授業の方法>

実習。アクティブラーニング。

メールでの問い合わせ先：okazaki@css.kobegakuin.ac.jp

<授業の目的>

「現代社会基礎実習A」では、兵庫県養父市・豊岡市との連携による「たじま未来プロジェクト」に取り組みます。但馬地域での様々な地域おこしの実態を学び、地域の活力と人間関係を生み出すための多様な工夫を学習します。

この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。地域の問題解決の能力を高め、社会貢献の方法を学ぶ点において、現代社会学科のディプロマ・ポリシー2・3に深く関連します。

<到達目標>

地域の現状に関する理解を深める。地域の活性化に何が必要かを考え、主体的に行動できる力を身につける。

<授業のキーワード>

地域おこし、アクティブラーニング、映像制作、ICT活用

<授業の進め方>

3つの現代社会基礎実習A（担当：清原桂子、岡崎宏樹、日高謙一）とともに、事前学習、実習先での意見交換、発表などを通じて、地域への主体的な関わりについて体験的に学びます。

・映像制作の方法の学習、映像制作の実践

・作品の公開と広報の方法の学習

<履修するにあたって>

積極的な参加を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習各2時間程度。

<提出課題など>

映像作品の提出（動画サイトで公開する予定）。指示にしたがいレポートを提出してください。作品やレポートについては授業内で講評し、フィードバックをおこないます。

<成績評価方法・基準>

授業での取り組み（調査、発表、質疑、映像制作のグル

ークワーク、討論等) 80%、レポート20%

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

#### 第2回 プロジェクトの目標を設定し計画を立てる

昨年度までの地域プロジェクトの成果と課題を確認したうえで、今回のプロジェクトの目標、対象、手段について検討する。

#### 第3回 文献研究とプロジェクトの企画

グループに分かれて映像制作の企画を立てる。関連する情報を収集し、文献による調査を進める。

#### 第4回 事前学習のグループワーク

グループごとに事前学習をふまえた映像作品の企画をまとめ、ポスター発表のための準備をする：ポスター制作や発表原稿の準備など。

#### 第5回 プレゼンテーション

ポスター発表の開催。グループごとに事前学習をふまえた映像作品の企画をプレゼンテーションする。

#### 第6回 フィールドワーク1

インターネットや教材動画を活用して養父市・豊岡市の実情を調査する。

参考：2019年度は養父市・豊岡市で合宿し、但馬地域の現地フィールドワークをおこなう。現地で映像を撮影したり、インタビューを実施したりする。

#### 第7回 フィールドワーク2

インターネットや教材動画を活用して養父市・豊岡市の実情を調査する。

#### 第8回 グループワーク1

養父市・豊岡市について、インターネットや文献を活用し、グループごとに事前調査を行う。

#### 第9回 グループワーク2

地域の観光や文化に関する取り組みについて、インタビュー動画を視聴した後、自分たちで調査を行い、結果について討議する。

#### 第10回 映像制作実習1

映像制作のためのグループワークに取り組む：撮影した映像の整理とグループわけ。制作に必要なデータの選別など。

#### 第11回 映像制作実習2

映像制作の実習を進める：映像データの編集、テロップの制作、ナレーションの録音など。

#### 第12回 映像制作実習3

映像作品を完成させる。映像や音声の最終調整やタイトル、エンドロールの制作など。

#### 第13回 発表準備とレポート作成

一連の学習をまとめたレポートを作成する。あわせて発表準備をおこなう。

#### 第14回 成果発表(グループ)

インターネットを活用し、成果内容を発表し、地域の方

と意見交換をおこなう。

#### 第15回 成果発表(個人)

調査・制作の成果について個人発表をおこなう。全体で質疑を行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

菊川 裕幸  
-----

<授業の方法>

実習、演習

<授業の目的>

現代社会学部DPに準拠し、本ゼミナールでは課題解決型学習(PBL)を取り入れる。兵庫県内に留まらず、全国の中山間地では少子高齢化、農業や伝統産業等の衰退化、人口流出など様々な課題を抱えている。それらすべての課題を解決することはできないが、兵庫県内の一部の地域に着目し、地域と共に考え、行動することで、課題解決に必要な様々なスキルを習得する。担当教員は教育現場や教育行政の立場から10年間の地域活性化や地域資源の活用に関わってきた実務経験のある教員である。その経験を活かし、多様な課題に対して、柔軟な解決策や地域との協働について実践できる能力を習得する。

<到達目標>

本講義は、3限の「ゼミナール」と連続して行う。基本的なフィールドは兵庫県丹波篠山市とし、地域住民はもとより、行政職員、農家等といった多様な連携や協働を通して、社会性を醸成することを目標とする。その中で、地域のことを学び、知り、課題を発見する(知識)。自身の活動内容を明確にし、他者に伝えるなどの基本的な行動ができるようになる(技能)。これらの基礎技能はゼミナール? につながり、段階的に学びの幅を広げていく。

<授業のキーワード>

中山間地、農業、少子高齢化、伝統産業、協働

<授業の進め方>

ゼミでは、地域を知り、地域に入り、地域で活動することが中心となる。その中で、積極的に地域の人と関わり、コミュニケーションをとることが求められる。場合によっては土日にフィールドワークを行うこともあるので、柔軟に活動に参加できる学生を求める。なお、フィールドワーク等の日程調整の都合で、内容が入れ替わる場合もある。

<履修するにあたって>

みんなで考え、汗を流し、協働していくことが基本姿勢として求められる。

<授業時間外に必要な学修>

地域のことを知るために、可能な限り現地を訪問し、フィールドワークを行っておくことが望ましい。それが無

理な場合でも、自治体のHP等を参照し、まずは地域を知ることから始める。

< 提出課題など >

グループワークでまとめた資料（ショートレポート、パワーポイント等）の提出を求める。また、それに対するフィードバックは授業時間内にディスカッション形式で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

グループワークや地域活動への興味関心や意欲、態度について50%、レポートやプレゼン力など、身につけた技能や表現方法について51%を基本とし、総合的に評価する。

< 参考図書 >

特にないが、google scholar等の論文検索ツールを活用できるように。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーションと丹波篠山市についての概要紹介

自己紹介と各自の興味のある分野、取り組んでみたい活動等について簡単に共有する。主フィールドとなる丹波篠山市について教員から概要を説明したのち、学生が主体となって同市について調査する。

第2回 丹波篠山市の概況と地域資源

丹波篠山市の概況と地域資源等について、グループディスカッションを行い、発表資料としてまとめる。第3回？第4回を目途に現地訪問を予定しているため、調査したいエリアや興味のあるエリアについてもまとめる。

第3回 丹波篠山市のフィールドワーク

丹波篠山市を訪問し、事前にチェックしたエリアを訪問する。必要に応じて関係者のインタビューや案内を頂く。

第4回 丹波篠山市のフィールドワーク

丹波篠山市を訪問し、事前にチェックしたエリアを訪問する。必要に応じて関係者のインタビューや案内を頂く。

第5回 フィールドワークから見た地域課題の抽出

第3回？第4回での訪問についてまとめ、地域の魅力とともに地域課題の抽出を行う。グループディスカッションを行い、今後の活動の方針を決める。

第6回 地域おこし協力隊経験者およびコーディネーター等との意見交換

第5回でまとめた内容をもとに、地域おこし協力隊経験者およびコーディネーター等との意見交換を行い、自分たちの現状認識と、実際の乖離部分や概ね合致した部分について知り、活動内容を再考する。

第7回 丹波篠山市の産業に触れる

再度丹波篠山市を訪問し、主産業である農業について農業者のインタビューや農作業を体験する。地域特産品について知識を深め、地域資源の活用について考える。

第8回 丹波篠山市の産業に触れる

再度丹波篠山市を訪問し、主産業である農業について農業者のインタビューや農作業を体験する。地域特産品につ

いて知識を深め、地域資源の活用について考える。

第9回 フィールドワークから見た地域課題の抽出

第7回？第8回での訪問についてまとめ、地域の魅力とともに地域課題の抽出を行う。グループディスカッションを行い、今後の活動の方針を決める。

第10回 丹波篠山市の教育に触れる

丹波篠山市の高等学校を訪問し、中山間地が抱える課題や生徒の活動について知る。また、産官学連携等ができないかを模索する。

第11回 丹波篠山市の教育に触れる

丹波篠山市の高等学校を訪問し、中山間地が抱える課題や生徒の活動について知る。また、産官学連携等ができないかを模索する。

第12回 フィールドワークから見た地域課題の抽出

第10回？第11回での訪問についてまとめ、地域の魅力とともに地域課題の抽出を行う（特に教育について）。グループディスカッションを行い、今後の活動の方針を決める。

第13回 活動予備日/先行研究調査

フィールドワークやインタビュー等が不足している場合は現地訪問を行う。そうでない場合は、先行研究の調査方法やデータ分析についての講義を行う。

第14回 総合的な具体的方策の提案に向けて

第15回の発表に向けて、これまでの学修についてまとめる。必要に応じて、関係者にアポイントを行い、発表材料の補強を行う。

第15回 講義、実習、演習の振り返り

これまでの講義や実習等を通して、気づき、学び、今後の課題等をまとめ、共有する。各自パワーポイントで発表を行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

日高 謙一

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

本実習はゼミナール と連動して開講される。現代社会基礎実習 は学外におけるアクティブ・ラーニングを中心にプログラムが構成されている。その学外研修における調査課題を設定し、調査し、地域に意見を述べ、提案することができるようになることを目的とする、実践的教育から構成される授業科目である。

学外実習が困難になった場合、資料動画の視聴やオンラインによるインタビューで代替する。

現代社会基礎実習AにおけるPBL (project based learning) を取り組むために必要な知識、資料収集のスキルを獲得し (DP1)、思考・判断する能力 (DP2) を育てるこ

とを目的とする。

<到達目標>

フィールドワークに必要な取材の技能を修得する。

キャッチコピー制作に必要な知識と技能を獲得する。

論理と感情の両面から情報の伝え方を考えることができる。

<授業の進め方>

グループワークを中心に、アイデア創出法や論理的思考法を体験しながら学んだり、キャッチコピー制作についての講義と演習を行ったり、ディスカッションを通じて成果物の質を高めたりする。

3人の教員（清原桂子、岡崎宏樹、日高謙一）のゼミナールが合同で、現代社会基礎実習と内容を連続させて行う回もある。

<授業時間外に必要な学修>

キャッチコピーとポスターの制作のために30時間以上の授業外学修が必要である。

<提出課題など>

教員による各回のフィードバックの他、成果物については地域住民や兵庫県議会サテライトゼミでのフィードバックをもとに振り返る。

<成績評価方法・基準>

発表50%、提出課題20%、授業中の質疑30%

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方、スケジュール、授業時間外の学修についてオリエンテーションを行い、自分が住んでいる地域あるいは出身地のことを紹介しながら、田舎とは、あるいは都会とは何か考える。

#### 第2回 但馬地域について学ぶ

本ゼミナールのフィールドとなる但馬地域（特に、豊岡・養父）について調べ情報を整理する。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第3回 資料収集と調査計画

資料検索の方法を学び、但馬地域（特に、豊岡・養父）の何を対象としてキャッチコピーを制作するかを議論し、計画を立てる。

#### 第4回 キャッチコピーとは何か

広告コンセプト、キャッチコピーとは何か学び、キャッチコピーを作成する練習を行う。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第5回 中間発表準備

中間発表のための事前学習の内容を整理し、発表資料を作成する。

#### 第6回 中間発表

3つのゼミナールが合同で事前学習の成果を発表し、地域おこしアイデアについての意見交換を行う。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第7回 但馬現地実習計画の作成

前週の発表及びそのフィードバックをもとに、現地実習

計画及び今後の学習計画を立てる。事前調査で得た情報を整理・確認し、調査のための役割分担を決める。

#### 第8回 現地フィールドワーク

対象地域を訪問し、視察並びに地域創生に取り組む人たちにインタビューを行い、情報を整理し、広告コンセプト案を検討する。

#### 第9回 キャッチコピーを作る

広告コンセプトを再考し、キャッチコピー案を検討する。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第10回 キャッチコピー案の発表と批評

クラス全体でキャッチコピー案を共有し、互いに他のグループのコピー案を批評する。その批評にもとづき、各グループはコピー案を再考する。

#### 第11回 ポスターの完成

完成したキャッチコピーを伝えるポスターを制作する。

#### 第12回 キャッチコピーとポスターの批評

完成させたキャッチコピーとポスターについて各グループ発表したのち、批評をもとに修正し、完成させる。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第13回 成果発表の最終準備

最終成果発表に向けてキャッチコピー、ポスターを完成させる。

#### 第14回 成果の発表

3つのゼミが合同で実習先の関係者を招き、成果物の発表と、参加者とのディスカッションを行う。現代社会実習の授業と連続して行う。

#### 第15回 個人発表

実習の振り返りを発表し、他の学生と共有する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

都村 聞人  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基幹科目（共通実習）に位置づけられ、2年次後期の現代社会基礎実習、3年次の現代社会実習（社会調査士実習）へと続く一連の「実習」のスタート段階に該当する。

ゼミナールで習得する予備的調査研究方法および社会学の研究スタイルの基礎を元に、社会調査の基礎的な技法を実習を通して学ぶ。受講者にとって比較的身近な題材や調査対象を選定したうえで、調査計画の立案から

実施までをおこなう。

前半は、グループごとに雑誌記事や広告を探索し、そこに描かれた画像・見出し・文章を調査・分析することにより、ファッションと文化の関連について考える。後半は、ファッションと文化に関してフィールドワークを行う。具体的には、「神戸×ファッション」にあらたなキーワードを自分たちで1つ加えたテーマを設定し、グループごとに調査をおこなう。最後にその成果および調査から明らかになった課題を、ZINE（小さな雑誌。フリーの小冊子）にまとめる。

この科目は、学外での実習を行う、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

テーマに沿って、社会学的な問題意識を持つことができる。

簡単な社会学的な分析課題を設定できる。

フィールドで観察・調査することができる。

フィールドワークの結果をまとめることができる。

フィールドワークの結果からさらに課題を見出すことができる。

<授業のキーワード>

ファッションと文化、消費、ジェンダー、メディア、ディスカッション、グループワーク

<授業の進め方>

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。フィールドワークの結果に関しては、グループワークで分析する。

<履修するにあたって>

ゼミナールと連携して行うので、合わせて履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、授業の対象となるテーマについて文献、各種統計、インターネット等を利用して、積極的に調べてください（目安として1時間程度）。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください（目安として1時間程度）。

<提出課題など>

調査報告書（＝期末レポート）の提出を義務づける。（フィードバック：レポートに対してコメントを行います。）

その他、各種課題の提出が必須となる。詳細は授業中に適宜指示する。

（フィードバック：課題に対してコメントを行います。）

<成績評価方法・基準>

雑誌（ZINE）発表：60%

レポート・課題：40%

<テキスト>

担当者が作成した資料を用いる。

<参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

<授業計画>

第1回 インTRODクシヨソ

現代社会基礎実習の進め方を説明する。

第2回 ファッションと文化について社会学的に考察する（1）

ファッションと消費、階層文化について、検討する。

第3回 ファッションと文化について社会学的に考察する（2）

化粧・美容整形・タトゥーなどについて、検討する。

第4回 ファッションとメディア（1）

雑誌記事などを利用し、ファッションと文化について実習を行う。

第5回 ファッションとメディア（2）

雑誌記事などを利用し、ファッションがメディアにおいていかに語られているかについて実習を行う。

第6回 映像で学ぶファッションと文化

映像資料からファッションと文化について考察する。

第7回 ゲストスピーカーへのインタビュー

ゲストスピーカーに対してインタビューを行う。

第8回 フィールドワークの事前学習

フィールドワークのための調査技術、注意点等を確認する。

第9回 フィールドワーク（1）

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークの予備調査を実施し、調査事項を確認する。

第10回 フィールドワーク（2）

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。

第11回 調査結果の整理・考察

ここまでの調査結果を整理し、考察する。

第12回 フィールドワーク（3）

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。

第13回 雑誌（ZINE）作成（1）

ファッションと文化をテーマにした調査結果を雑誌（ZINE）にまとめる。

第14回 雑誌（ZINE）作成（2）

ファッションと文化をテーマにした調査結果を雑誌（ZINE）にまとめる。

第15回 調査結果の発表

調査結果をまとめた雑誌（ZINE）の発表会を行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

前田 拓也  
-----

<授業の方法>

演習授業 / 対面

<授業の目的>

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（

卒業認定に関する基本方針)に従い、(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策を探求することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目(ゼミナール)に位置づけられる。「入門ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、大学における学び方の基礎について学習したが、この「ゼミナールⅠ」においては、3年次の「ゼミナールⅢ・Ⅳ」で専門領域について学ぶために必要となる、社会学の基礎的な知識や調査手法、論理的思考を修得することを目的とした、実践的教育から構成される授業科目である。

「わたし / 自己」というかけがえのない存在は、他者および社会との関係のなかでどのようにかたちづけられているのか。わたしたちがふだんあたりまえのようにおこなっている「装う」 服を着たり、化粧をしたり、髪型を整えたりする という行為を検討することをとおして理解する。

実習として、「都市+ファッション」をキーワードに、神戸? 大阪でのフィールドワークを実施し、街の写真を撮影したり、雑誌や新聞の記事を収集したりすることを通して、「都市」という空間のなかで、自分たちが普段、なににまなざしを向け、どのようなまなざしを意識させられているかを捉えなおし、理解することを目指す。

#### <到達目標>

- ・「ファッション」および「自己」をめぐる社会(学的)な問題関心について、身近な具体的事例との関連から検討し、論じる能力を身につける。
- ・先行研究および資料の検索、収集、整理をおこなうことができる。
- ・フィールドワークの計画や、そこから得られたデータの解釈について、他者と議論しながら検討する能力を獲得する。

#### <授業のキーワード>

ファッション / 身体 / 自己 / 都市 / ディスカッション / グループワーク

#### <授業の進め方>

演習形式で行う。また、収集したデータをグループワークで分析する。内容は「現代社会基礎実習Ⅰ(現代社会基礎実習B)」と連携する。

#### <履修するにあたって>

ペアとなる科目:ゼミナールⅠ(都村ゼミ、李ゼミと合同)

#### <授業時間外に必要な学修>

- ・事前学習:演習の対象となるテーマについて、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくことで一定のイメージをつかんでおくこと(目安:1時間

程度)。

- ・事後学習:ノートなどの資料を再確認し、講義内で紹介した各種統計資料や文献を積極的に読むこと(目安:1時間程度)。

#### <提出課題など>

- ・調査報告書(=期末レポート)の提出を義務付ける。
- ・その他、各種課題の提出が必須となる。詳細は授業中に適宜指示する。(それぞれの課題について、manabaおよび授業中にコメントし、フィードバックする。)

#### <成績評価方法・基準>

雑誌(ZINE)作成=期末レポート : 60%

平常レポート・課題 : 40%

#### <テキスト>

担当者が作成した資料を用いる。

#### <参考図書>

{藤田結子・成実弘至・辻泉編『ファッションで社会学する』有斐閣、2017年、<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641174313>}

{渡辺明日香『ころをよむ 時代をまとうファッション』NHK出版、2020年、<https://www.nhk-book.co.jp/detail/000069110272020.html>}

{アクロス編集室編『ストリートファッション 1980-2020: 定点観測40年の記録』PARCO出版、2021年、<https://publishing.parco.jp/books/detail/?id=405>}

ほか、必要に応じて適宜紹介する。

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

授業の進めかたについてあらためて説明すると同時に、受講者の自己紹介などをおこなう。

##### 第2回 都市とファッションの関係性

都市とファッションの関係性がこれまで社会学ではどのように検討されてきたかを考える。

##### 第3回 ゲストスピーカーによる講演

大阪の街場にゆかりあるゲストスピーカーを招き、街歩きの方法や、そのために必要とされる基礎的な知識についてレクチャーを受ける。

##### 第4回 現地学習での課題の検討

大阪「新世界」の街歩きに先立ち、調査課題をグループワークにて検討する。

##### 第5回 現地学習の実施

大阪「新世界」の街歩きを実施する。

##### 第6回 現地学習の振り返り

授業前半の内容を振り返り、現地学習の成果を確認する。

##### 第7回 各グループの分析課題の検討

フィールドワーク実施のための調査班を結成し、それぞれの分析課題を明確化、共有する。

## 第8回 先行研究・先行調査の探索、分析

フィールドワークのテーマに関する先行研究、およびフィールドワークのために確認しておくべき情報を持ち寄り、分析、共有する。

## 第9回 現地でのフィールドワーク 1

神戸（三宮・元町周辺）を中心にしたフィールドワークを実施する。

## 第10回 現地でのフィールドワーク 2

神戸（三宮・元町周辺）を中心にしたフィールドワークを実施する。

## 第11回 中間考察

ここまでの調査内容を振り返り、追跡調査が必要な事項を確認し、追加の調査計画を立てる。

## 第12回 追加フィールドワーク

神戸（三宮・元町周辺）を中心にしたフィールドワークを実施する。

## 第13回 実習報告書冊子作成 1

「都市」と「ファッション」をテーマとした調査結果をフォト・エスノグラフィーとしてまとめる。

## 第14回 実習報告書冊子作成 2

「都市」と「ファッション」をテーマとしたフォト・エスノグラフィーを冊子としてまとめ、完成させる。

## 第15回 授業全体のまとめ

これまでの授業内容の要点を振り返ると同時に、次年度からの学びとの関連を明確にする。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

テーマ:ファッションと政治意識のフォト・エスノグラフィー

ゼミナール で習得する予備的調査研究方法および社会学の研究スタイルの基礎を元に、社会調査の基礎的な技法を、実習を通して学ぶ。まずは受講者にとって比較的身近な題材や調査対象を選定し、調査計画の立案から実施までをおこなう。

近年、韓国文化は、ドラマやK-POPに留まらず、ファッションやコスメなど、より生活に身近な部分にまで浸透してきており、この現象は「第三次韓流ブーム」と呼ば

れている。この韓流ブームは、冷え切った日韓関係を乗り越えるきっかけとして評価されることもあれば、表面的な文化消費にとどまるものとして批判されることもある。では実際に、第三次韓流ブームのもとでは、若者の政治意識にどのような変化が生じているのだろうか。本実習では、韓国のファッションに影響を受け、韓国に親近感を持つ若者が、文化のみならず、歴史や政治の面でどのような意識を持っているのかを調査し、ファッションと政治意識の関係性について考察する。

なお、本授業は、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

- ・調査を設計し、実施する力を身につける。
- ・フィールドワークの困難さと意義について説明できる。
- ・調査によって得られたデータおよび分析結果を整理し、その内容をもとにプレゼンテーションをおこなう能力を身につける。

< 授業の進め方 >

- ・コリアンタウンでのフィールドワーク
- ・三宮でのフィールドワーク
- ・ZINEの作成
- ・調査結果に関するプレゼンテーション

これらの課題を、数人（4～5人）程度の研究班をつくり、班ごとにお互いの調査計画や調査結果を授業中に報告し、議論しながら検討を行っていく。

プレゼンテーション、ディスカッションを通じたアクティブ・ラーニングを実施する。

< 履修するにあたって >

ゼミナール と連動させて進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミでの課題を自ら発見すること（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

- ・調査報告書 (= 期末レポート) の提出を義務付ける。(manaba上で講評することでフィードバックする)
- ・その他、各種課題の提出が必須となる。(ゼミ中にコメントすることでフィードバックする)

< 成績評価方法・基準 >

授業中に制作した成果物の内容 60%、期末レポート 40%

< テキスト >

授業中に適宜指示・配布する。

< 授業計画 >

## 第1回 イン트로ダクション

本実習で行う調査の内容と方法について知る。

## 第2回 ゲストスピーカーへの質問項目の準備

グループ内でのディスカッションを通して、翌週のゲストスピーカーへの質問項目を事前に準備する。

## 第3回 ゲストスピーカーへのインタビュー

ゼミナール で招いたゲストスピーカーへのインタビューを行い、語りへの理解を深める。

## 第4回 現地調査でのインタビューの準備

生野コリアンタウンで行うインタビュー調査のための準備作業を行う。

## 第5回 現地調査 住民への意識調査

生野コリアンタウンにおける韓流ファンの日本人観光客へのインタビューを実施する。

## 第6回 現地調査 韓流ブームに関する調査

生野コリアンタウンにおいて、韓流ブームの影響に関するインタビューを実施する。

## 第7回 現地調査の振り返り

現地調査でのインタビュー内容を各班ごとに報告し、調査の成果を共有する。

## 第8回 フィールドワークの事前学習

調査地に赴き、韓流のファッションを取り入れる若者の韓国観に関するインタビューの準備を行う。

## 第9回 予備調査

調査地を街歩きしながら、韓流ファッションが若者にどのように取り入れられているのか、どういった店で衣服を購入するのかなどについて下調べを行う。

## 第10回 現地でのフィールドワーク

調査地に赴き、韓流のファッションを取り入れる若者の韓国観に関するインタビューを実施する。

## 第11回 調査結果の整理・考察

調査結果を一旦整理・考察し、追加の調査計画を立てる。

## 第12回 追加フィールドワーク

中間整理を踏まえ、追加のフィールドワークを行う。

## 第13回 ZINEの作成 : データの整理・分析

インタビュー内容の整理と考察を行い、ZINEに掲載する原稿を執筆する。

## 第14回 ZINEの作成 : デザイン・構成

調査地で撮影した写真とインタビュー結果をもとに、ZINEのデザインを行う。

## 第15回 ポスター発表会

ファッションと政治意識をテーマとしたプレゼンテーションを行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習

番匠 健一  
-----

< 授業の方法 >

対面によるゼミナール形式を基本とする。

< 授業の目的 >

この科目では、社会科学の基礎的な知識を習得しながら、社会調査・フィールドワークを行うことで、現代社会学科のDPにある「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成」の多面的・総合的理解と解決策の実践を目指す。

復興災害・観光・まちづくりをテーマ、神戸でのフィールドワークを予定している。

< 到達目標 >

・先行研究や関連資料を大学図書館、公立図書館、資料館、インターネットデータベースなどでリストアップ・収集し、批判的に整理を行うことができる能力を身につける。

・フィールドワークの計画を立て、得た情報を検討し、プレゼンテーション・レポート作成ができる能力を身につける。

< 授業のキーワード >

地域社会 / ディスカッション / グループワーク / フィールドワーク

< 授業の進め方 >

研究グループごとに、資料の収集やフィールドワークを行い、授業中に報告する。

< 履修するにあたって >

街歩きに行く機会が多いですので、神戸の街をあまり歩いたことがない、あるいは、歩くことが好きだという人はぜひ受講してください。

おおよそ本読みと街歩きを交互にやるようなイメージです。

本読みの方は、亡くなられたばかりの外岡秀俊さんの『地震と社会』を読みたいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習：テーマに関わるリーディング資料の予習（1時間）

・事後学習：授業で得た内容を独自にまとめ、発表・レポートにつなげる作業を行う（1時間）

< 提出課題など >

・期末レポート（調査報告）の提出が必須

・フィールドワークの報告、資料のコメント、講義に対するコメントシートなど

< 成績評価方法・基準 >

・期末レポート（調査報告）50%

・フィールドワークの報告、資料のコメント、講義に対するコメントシートなど50%

< 参考図書 >

ジョン・アーリ 『社会を越える社会学 移動・環境・シ

チズンシップ』法政大学出版2006年、アンソニー・エリオット、ジョン・アーリ『モバイル・ライブズ:「移動」が社会を変える モバイル・ライブズ:「移動」が社会を変える』ミネルヴァ書房2016年、ヴァレン・スミス編『ホスト・アンド・ゲスト:観光人類学とはなにか』ミネルヴァ書房2018年、山下晋司『観光文化学』新曜社2007年、橋本和也『地域文化観光論:新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版2018年

< 授業計画 >

#### 第1回 イン트로ダクション

自己紹介と、授業の進め方について説明する。

#### 第2回 観光・まちづくりを考える

この領域に関するこれまでの議論を参照し、フィールドワークの準備のための視点や論点について議論する。

#### 第3回 観光・まちづくりを考える

この領域に関するこれまでの議論を参照し、フィールドワークの準備のための視点や論点について議論する。

#### 第4回 外部講師によるレクチャー

観光・まちづくりに関する外部講師を招き、フィールドワークの方法や必要とされる知識についてレクチャーを受ける。

#### 第5回 事前準備

フィールドワークの事前準備として、持ち寄った資料の検討、フィールドワークの課題を設定する。

#### 第6回 フィールドワーク

神戸を中心にしたフィールドワークを行う。

#### 第7回 フィールドワーク

神戸を中心にしたフィールドワークを行う。

#### 第8回 調査の整理

調査でえた資料やデータを整理しプレゼンテーションの準備を行う

#### 第9回 グループ発表

フィールドワークに関する報告をパワーポイントで発表し、レポートの課題を設定する。

#### 第10回 外部講師によるレクチャー

観光・まちづくりに関する外部講師を招き、フィールドワークの方法や必要とされる知識についてレクチャーを受ける。

#### 第11回 事前準備

フィールドワークの事前準備として、持ち寄った資料の検討、フィールドワークの課題を設定する。

#### 第12回 フィールドワーク

神戸を中心にしたフィールドワークを行う

#### 第13回 調査の整理

調査でえた資料やデータを整理しプレゼンテーションの準備を行う

#### 第14回 グループ発表

フィールドワークに関する報告をパワーポイントで発表し、レポートの課題を設定する。

## 第15回 授業のふりかえり

授業全体の振り返りを行いレポート課題の設定を確認する

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習

岩本 茂樹  
-----

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

本実習科目は、現代社会学科専門教育科目の専門基幹科目共通実習に位置づけられており、現代社会学科の教育理念である「現代社会の課題を発見し、その要因を解き明かし、解決できる糸口を探ることのできる力を身につける」ことを目的とするものである。

まず、日常生活を振り返り、若者の生活実態を基軸としながら現代社会の問題について考える。そして実際の街に出て、現代社会の「いま、ここ」の問題を掘り起こしながら、問題点を整理し、分析することで、その解決に向けた方向性を探る。本科目は、質的調査力を身につけるとともに、社会における人びとの暮らしを、現代社会学科ディプロマ・ポリシー2「科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践する」ことを狙いとする。

また、この科目は学外での実習を主とする、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

・現代社会のさまざまな出来事にたいして高い関心を持つことになる

・フィールドワークを通して、現代社会の問題を掘り起こすことができ、これまで見えなかった問題が見えるようになる

・社会貢献に向けた実践力が身につくようになる

< 授業のキーワード >

問題意識、フィールドワーク、データ分析

< 授業の進め方 >

神戸市、兵庫県内のフィールドワークを行う

・フィールドワークの前に事前学習、そしてフィールドワーク後には事後学習を行う

・ゼミナール と連動させて授業を行う

・クラス独自のフィールドワーク活動として神戸市のデートスポットをテーマに行う

< 履修するにあたって >

ゼミナール（岩本担当）と連動するため、履修登録を間違えないようにすること

< 授業時間外に必要な学修 >

実習に向けた事前学習として、図書館で調べたり、予備知識を得ておくこと（週4時間程度の学習研究が必要）。

< 提出課題など >

実習ごとのレポート提出

実習でのグループ報告の作成

< 成績評価方法・基準 >

実習に向けた事前学習での意見や実習計画案作成30%、実習実践20%、実習後のプレゼンテーション30%、レポート20%

< テキスト >

特になし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本実習の進め方、スケジュールについて説明する

第2回 個人的モニュメント

個人的モニュメントと、社会的背景を探り説明するための資料を探す。

第3回 自己のつながり

自分が大切にしてきたものから自己の興味関心を考える。

第4回 自己の記憶について

自己の記憶と記録について考える。

第5回 発表の仕方

個人の発表からプレゼンテーションのあり方を考える。

第6回 神戸観光ガイドブックを調べる

神戸市観光スポットのフィールドワークに向けて、事前にグループ分けをして現地での課題を検討する。

第7回 神戸市内の観光スポットとデートスポット

神戸市内のデートスポットをフィールドワークすることをテーマとすることから、クラス内で各自の関心と問題意識について話し合う。

第8回 実習 六甲方面を中心とする神戸市内の観光スポットのフィールドワーク

土曜の振り替え授業による神戸市内の観光スポットをフィールドワークする。

第9回 神戸市内フィールドワークの報告会

グループそれぞれの視点からフィールド調査した結果を報告するとともに、全員で議論しフィールドワーク力を高める。

第10回 デートスポットと観光スポット

それぞれのグループが、年齢や状況を考量したデートのスタイルを設定し観光スポットを取り入れたデートコースを考える。

第11回 デートコースに取り入れる観光スポットの検討  
デートコースにあう観光スポットを提示したガイドブックなどの資料を収集する。

第12回 プレゼンテーションの準備

グループごとの神戸デートコースを作成するとともに、より良いガイドブックに向けた提案を検討する。

第13回 理想の神戸市内デートコースの発表

ゼミナールと連続し、理想の神戸市内デートコースのプレゼンテーションと質疑応答を行う。

第14回 プレゼンテーションの反省

ゼミナールの授業と連続で実施したプレゼンテーションの反省と、ガイドブックの改良案をまとめる。

第15回 実習の意義について

プレゼンテーションを終えて、準備や当日の実習などを反省しあうことから、今後の調査実習力の向上につなげる。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習

中野 雅至  
-----

< 授業の方法 >

実習、演習形式で行うこととする

< 授業の目的 >

この授業では「現代社会における仕事と働き方」を中心に、政治学、経済学、社会学の基礎的な知識を身につけると共に、学生が主体的に資料を収集し、それらを批判的に分析する能力を養うことを目的とする。産業構造の変化、経済格差やジェンダーによる不平等、少子高齢化や都市化と過疎化など、現代日本が直面する様々な課題について理解を深める。学外で実際に「しごとの現場」を訪ね、聞き取り調査やアンケート調査を行うことを通して、フィールド調査の基礎的な技術や知識を習得すること目標とする。

なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

< 到達目標 >

(1) 聞き取り調査やアンケート調査などフィールド調査の基本的な知識や技術を習得する。

(2) フィールド調査で集めたデータを分析し、結論を導くことができるようになる。

(3) 現代日本社会が直面する仕事と産業、ライフスタイルをめぐる課題について理解し、自分の意見を表明できるようになる。

< 授業の進め方 >

この演習はゼミナールIIと連動して実施される。三人の教員がそれぞれに異なるテーマで授業を運営するので学

生は関心に応じて、いずれかのクラスで受講する。最後のプレゼンテーションは3クラスが合同で行い、お互いの学習の成果を発表し合う予定である。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習1時間、復習1時間を行うこと

< 提出課題など >

その都度指定する

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する課題、議論や発言内容・・・50%

レポート・・・30%

プレゼンテーション・・・20%

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義の進め方などについて説明する

第2回 研修先の説明(1)

研修先についての概要を説明する

第3回 現場実習

研修先に赴き、仕事や働くことは何かについて学ぶ

第4回 現場実習の復習(1)

現場実習で何を学んだのかについて復習する

第5回 現場実習の復習(2)

現場実習で何を学んだのかについて全員で議論する

第6回 研修先の説明(2)

2回目の研修先について事前学習を行う

第7回 現場実習

研修先に赴き、仕事や働き方とは何かについて学ぶ

第8回 現場実習の復習(1)

現場実習で何を学んだのかを復習する

第9回 現場実習の復習(2)

現場実習で何を学んだのかについて全員で議論する

第10回 特別講義

仕事や働き方について特別講師を招いて議論する

第11回 特別講義

仕事や働き方について特別講師を招いて議論する

第12回 これまでの実習の整理(1)

各グループに分れて、これまでの実習を整理する

第13回 これまでの実習の整理(2)

各グループに分れて、これまでの実習を整理する

第14回 実習の成果発表

実習の成果について各自が発表を行う

第15回 実習の成果発表

実習の成果について各自が発表を行う

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習

松田 ヒロ子  
-----

< 授業の方法 >

演習と実習

遠隔授業の際のZOOM?とパスワードは、マナバのゼミナールIIのコースニュースに掲載しています。

< 授業の目的 >

この授業は、香川県小豆島を事例に近年の地方社会が直面する課題に対する理解を深めるとともに、地域活性化事業の現状について学びます。特にUターン、Iターン移住の現状を学び、移住者が地域社会で担う役割について考えます。

本科目は、現代社会学部のDPが示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、現代社会における諸課題の発見、把握及びその解決策の探求と実践能力を養うことを目指します。

< 到達目標 >

・小豆島を事例に、日本の地方社会が直面する様々な社会問題の現状について説明できる。

・小豆島を事例に、日本の地方社会が直面する様々な社会問題の原因を分析できる。

・小豆島の歴史や伝統、文化に関心をもち、自らそれについて調べ、結果を発表することができる。

・ライフヒストリー調査の理論と方法を理解し、みずからそれを実践できる。

< 授業の進め方 >

ワークショップ形式で進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習と復習合わせて2時間程度。

< 提出課題など >

提出課題へのフィードバックは授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加(50%)、ライフヒストリー調査のまとめなどの課題(30%)、プレゼンテーション(20%)

< 授業計画 >

第1回 導入

授業の進め方について説明します。

第2回 小豆島の地理と風土

小豆島の気候や風土について学びます。

第3回 小豆島の地場産業

小豆島の地場産業の歴史と現状について学びます。

第4回 小豆島の現状と課題(1)

過疎化や高齢化といった小豆島の住民が直面している課

題について調べます。

#### 第5回 小豆島の現状と課題（2）

過疎化や高齢化といった小豆島の住民が直面している課題を分析し、議論します。

#### 第6回 小豆島の地域活性化事業（1）

小豆島で近年行われている地域活性化事業について調べます。

#### 第7回 小豆島の地域活性化事業（2）

小豆島で行われている地域活性化事業について調べたことをお互いに発表します。

#### 第8回 ライフヒストリー調査法

ライフ・ヒストリー調査法について学びます。

#### 第9回 ライフヒストリー調査の実践

ライフ・ヒストリー調査を実施するための準備をします。

#### 第10回 ライフヒストリー調査

小豆島で地域活性化事業を実践している住民にライフヒストリー調査を行います。

#### 第11回 ライフヒストリー調査のまとめ

調査で得られたデータをまとめます。

#### 第12回 調査報告会

ライフヒストリー調査で得られたデータと分析結果を発表します。

#### 第13回 小豆島の地域活性化に向けて（1）

小豆島の地域活性化事業の今後のあり方について議論します。

#### 第14回 小豆島の地域活性化に向けて（2）

小豆島の地域活性化の今後について、小豆島の土庄町役場の職員の方々と意見交換します。

#### 第15回 ふりかえり

これまでの授業で学んだことをふりかえり、文章にまとめます。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習

山本 努

#### < 授業の方法 >

ゼミナール とセットでの実習となります。受講生の皆さんは指定されたテキストの精読、質疑応答などを求められます。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

#### < 授業の目的 >

DP（ディプロマ・ポリシー）の「（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握及びその

解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会調査の初歩を体験することによって、社会学の基礎を身につけます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域（都市・農村）、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

#### < 到達目標 >

1. 社会学や社会調査の基本的考え方を理解できるようになる。2. フィールドワークの初歩を体験して、現代社会の課題の一端にふれる。

#### < 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

#### < 授業の進め方 >

・実習の予定です。

・授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

・質問紙調査の初歩を体験します。

#### < 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。実習ですから、学生の主体的参加が求められます。地域での見聞き（調査）を楽しめるようになって下さい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

・事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

・参考図書は課題の提出に必要になります。詳細はmanabaに示します。

#### < 提出課題など >

・manabaにて詳細を示します。

・レポートなどの提出を求めますが、manabaで提出して下さい。

・また、受講生からの質問や私から連絡もmanabaを使います。ただし、必要に応じて、メールでも可です。

山本メール <yamamoto@css.kobegakuin.ac.jp>

・必要に応じて、授業やmanabaにてコメントします。

<成績評価方法・基準>

- ・課題の提出（50％）。
- ・授業中での質疑・報告。社会調査には種々の活動が求められます。これらへの積極的参加（50％）。
- ・欠席が多い場合は単位は認定しません。

<テキスト>

manana(または) 授業で指示します。

<参考図書>

授業で指示

<授業計画>

第1回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（質問文を作る）

ガイダンス

第2回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（質問文を作る）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第3回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（質問文を作る）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第4回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（作った質問文をプレサーベイして磨く）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第5回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（作った質問文をプレサーベイして磨く）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第6回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（作った質問文をプレサーベイして磨く）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。

2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。

3. よい質問文の原則を理解する。

第7回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（完成した質問文で調査する）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第8回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（完成した質問文で調査する）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第9回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（聞き取り結果を回収してデータにする）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第10回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（聞き取り結果を回収してデータにする）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第11回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（データを集計して分析する）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第12回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（データを集計して分析する）

1. 質問文（質問紙）を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第13回 フィールドリサーチの初歩を体験する。（分析

結果を報告する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにする。
3. よい質問文の原則を理解する。

第14回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(分析結果を報告する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようにする。
3. よい質問文の原則を理解する。

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習

梅川 由紀  
-----

< 授業の方法 >

演習および実習形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー(現代社会学科)の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業のテーマは「ごみから大学生活をよむ」とします。具体的には「ごみ、環境問題、地域社会、SDGs、大学生とライフスタイル、若者と現代社会」などの問題を扱います。テーマに関してグループで下調べをしたり、テーマに関連する人々へのインタビューや、学内・学外・関連施設等でフィールドワークを行い、現状や課題を把握します。そのうえで自分の意見を整理し、人に伝えられるようになることを目指します。従って本科目は学内・外での実習を伴う、実践的教育から構成される授業科目です。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。より実践的なアドバイスを行うことが可能です。

< 到達目標 >

1. テーマに沿った、適切なインタビューやフィールドワークができるようになること。

2. テーマに沿って、グループで建設的なディスカッションを行うことができるようになること。

3. 自分の意見を整理し、人に伝えられるようになること。

4. 分かったことや意見を、分かりやすくまとめることができるようになること。

< 授業のキーワード >

ごみ、環境問題、地域社会、SDGs、大学生とライフスタイル、若者と現代社会、インタビュー、フィールドワーク

< 授業の進め方 >

授業は演習および実習形式で行います。具体的な作業は数名のグループ単位で行います。グループごとに先行研究の検討やインタビュー項目の検討、フィールドワークの準備を行い、クラス全体でコメントしあいます。インタビュー、フィールドワークの機会は担当教員が設定し、クラス全体で一斉に行います。これらを踏まえグループごとに分析結果をまとめ、最終発表してもらいます。

< 履修するにあたって >

ゼミナール(梅川)と連続した授業です。ゼミナール(梅川)と現代社会基礎実習(梅川)の両方を受講してください。グループワークがメインとなりますので、授業への出席は必須です。なおインタビューやフィールドワークの日程は、先方の都合により前後する可能性があります。詳細は授業時に伝えます。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。授業後、次回授業までに発表資料作成、課題の実施などの作業が発生します。

< 提出課題など >

1. 各回の授業時に以下のものを発表/提出してもらいます。
  - ・ 授業時・授業時間外に調べてきたことを発表する/発表資料を提出する。
  - ・ 授業時・授業時間外に実施した課題を提出する。
2. 15回目の授業で「最終発表」をしてもらいます。
3. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加(授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加): 30%、各回の授業での発表内容・提出課題: 30%、最終発表: 40%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の進め方、テーマ、その主旨について説明します。  
またゼミ生同士で自己紹介を行います。

第2回 社会調査に関するワークショップ

ワークショップを通して、社会調査を行うことの面白さについて再確認します。

第3回 学内フィールドワーク

キャンパス内の「ごみマップ」を作成します。

第4回 通学路・街中フィールドワーク

通学路・街中の「ごみマップ」を作成します。

第5回 学内・通学路・街中フィールドワークのまとめ

「ごみマップ」から見えるものを考察します。また現代社会のごみをめぐる状況について調査します。

第6回 学内インタビュー

大学内でごみに関連する仕事を担当する人々にインタビューを行います。

第7回 学内インタビュー

前回とは異なる大学内でごみに関連する仕事を担当する人々にインタビューを行います。

第8回 学外インタビュー

大学外でごみに関連する仕事を担当する人々にインタビューを行います。

第9回 ごみ関連施設等へのフィールドワーク

ごみ関連施設等へのフィールドワークを通して、社会的な仕組みや現状を理解します。

第10回 先行研究の検討

これまでのインタビューやフィールドワークを通して分かったことを整理します。そのうえで先行研究について調べ、理解を深めます。

第11回 提言の検討

これまで得た情報や知識をもとに、ごみに関する提言を検討します。

第12回 提言の検討

前回に引き続き、提言の検討を行います。

第13回 最終発表準備

最終発表に向けて、提言をパワーポイントにまとめます。

第14回 最終発表準備

前回に引き続き、パワーポイントの作成を行います。

第15回 最終発表

グループごとに提言を発表してもらいます。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習

菊川 裕幸  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部DP(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握およびその解決策の探求と実践に準拠し、応用的な社会調査やフィールドワークの方法について学び、具体的な地域との関わり方を習得することを目的とする。また、本科目は3限のゼミナールとセットで実施する。ゼミでの学びをもとに、実際のフィールドワークも行う予定である。担当教員は、これまで兵庫県内の教育職及び教育行政に約10年間携わってきた実務経験のある教員である。これらの経験を活かし、実践的な講義を行う。

< 到達目標 >

兵庫県内で実践されている様々な地域づくりに関連する先行研究や事例を調査し、その中から、社会調査の方法やフィールドワークの実施の手順や方法を考え、適切な方法を構築できる能力を身につける(知識・態度)。また、実際にその手順実行のために必要なプレゼンテーションや必要な協力体制等の構築の方法(コミュニケーション能力、渉外能力等)を身につけ、実践できるようになる(技能)。

< 授業のキーワード >

持続可能な地域づくり、地域活性化、社会調査、フィールドワーク

< 授業の進め方 >

受講生を複数の班に分け、グループワークを基本としながら、様々な情報収集を行い、まとめたものを適宜発表する。必要に応じてレポート等を作成したり、外部講師とのディスカッションを行う。

< 履修するにあたって >

必要に応じてフィールドワークの実践を行う場合がある。自主的に学び、自発的に行動できる姿勢を求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

この科目では、地域研究を主とするため、事前学習として先行研究や事例等の調査を約1時間、事後学習として、講義で得た知識や技術のまとめ、発表資料作成等に約1時間を要する。

< 提出課題など >

教員が指定したテーマでのショートレポートの作成(3回程程度)、フィールドワークのレポート、発表資料の提出などを求める。

< 成績評価方法・基準 >

ショートレポートに対する評価30%、フィールドワーク

のレポート30%、発表資料等の提出物20%、プレゼンテーション能力、質疑応答などのコミュニケーション能力20%を基準とし、総合的に評価する。

<参考図書>

寛 裕介『持続可能な地域のつくり方』英治出版2021年  
<授業計画>

#### 第1回 講義ガイダンス

担当教員の自己紹介、授業の進め方に関する説明を行う。

#### 第2回 文献調査の方法

兵庫県内の地域づくりの取り組み事例や先行研究について、文献調査を行う。文献調査の方法や、論文の内容の理解（社会調査やフィールドワークの方法）ができるように、読み取りを行う。（事後学習として、1時間程度いくつか事例の調査を実施する。）

#### 第3回 文献調査の方法

第2回の講義を踏まえて、論文もしくは事例報告1本程度を、まとめて発表する。その際に、今後の自身の調査研究にどのような応用ができるのかなどの視点も盛り込み、教員や他の生徒とディスカッションを行う。（事後学習として、1時間程度でショートレポートを作成する。）

#### 第4回 持続可能な地域のつくり方

持続可能な地域のつくり方について、参考図書を用いながら、教員のこれまでの取り組み事例と併せて紹介する。地方創成カレッジやSDGs、ローカルSDGsについて学ぶ。（事前、事後学習として地方創成カレッジについて1時間程度概要を理解しておく）

#### 第5回 持続可能な地域のつくり方

第4回の講義を踏まえて、自身が地域づくりを実践したいと考える地域について調査し、地域の課題や解決すべき問題点、必要な調査方法等についてまとめる。（事後学習として、1時間程度まとめた内容のショートレポートを作成する。）

#### 第6回 外部講師と情報交換

地域づくりに関する実務経験や実績のある外部講師を招聘し、フィールドワークや地域づくりの疑問点や課題点などを共有し、ディスカッションを行う。

#### 第7回 フィールドワーク実践

丹波市、丹波篠山市、三田市等を中心に、フィールドワークを行う。これまでの講義の学びを活かし、地域の特色や課題を抽出できるように調査を行う。

#### 第8回 フィールドワーク実践

丹波市、丹波篠山市、三田市等を中心に、フィールドワークを行う。これまでの講義の学びを活かし、地域の特色や課題を抽出できるように調査を行う。

#### 第9回 フィールドワークの振り返り

フィールドワークで得た知見をもとに振り返りを行う。

第10回?12回のプレゼンテーション資料の作成につなげられるようにグループディスカッションを行う。

#### 第10回 フィールドワークのまとめ

第9回でディスカッションを行った内容をもとに、フィ

ールドワークのまとめを作成する。いくつかのテーマを設定し、地域の特色、課題、解決策等を中心にまとめる。

#### 第11回 フィールドワークのまとめ

第10回でディスカッションを行った内容をもとに、フィールドワークのまとめを作成する。いくつかのテーマを設定し、地域の特色、課題、解決策等を中心にまとめる。

#### 第12回 フィールドワークのまとめ発表、外部講師との意見交換

第10回?11回でまとめた内容を発表する。その際、外部講師を招聘し、実践家の立場から、発表内容について助言や評価を得る。各グループ、教員間においても積極的なディスカッションを展開する。

#### 第13回 応用的な研究の方法

再度、文献を調査し、論文や事例研究としての調査方法やまとめ方、論文の作成方法などについて学ぶ。質的研究や量的研究の違いを知る。

#### 第14回 応用的な研究の方法

再度、文献を調査し、論文や事例研究としての調査方法やまとめ方、論文の作成方法などについて学ぶ。統計処理の方法やアンケートの作成方法について学ぶ。

#### 第15回 授業の振り返り

これまでの授業を振り返り、ゼミナールにつなげる。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習A

岡崎 宏樹

-----  
<授業の方法>

実習。アクティブラーニング。

メールでの問い合わせ先：okazaki@css.kobegakuin.ac.jp

<授業の目的>

「現代社会基礎実習A」では、兵庫県養父市・豊岡市との連携による「たじま未来プロジェクト」に取り組みます。但馬地域での様々な地域おこしの実態を学び、地域の活力と人間関係を生み出すための多様な工夫を学習します。

この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。地域の問題解決の能力を高め、社会貢献の方法を学ぶ点において、現代社会学科のディプロマ・ポリシー2・3に深く関連します。

<到達目標>

地域の現状に関する理解を深める。地域の活性化に何が必要かを考え、主体的に行動できる力を身につける。

<授業のキーワード>

地域おこし、アクティブ・ラーニング、映像制作、ICT活用

<授業の進め方>

事前学習、実習先での意見交換、発表などを通じて、地

域への主体的な関わりについて体験的に学びます。

- ・映像制作の方法の学習、映像制作の実践
- ・作品の公開と広報の方法の学習

<履修するにあたって>

グループワークに取り組みます。積極的な参加を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習各2時間程度。

<提出課題など>

映像作品の提出（動画サイトで公開する予定）。指示にしたがいレポートを提出してください。作品やレポートについては授業内で講評し、フィードバックをおこないます。

<成績評価方法・基準>

授業での取り組み（調査、発表、映像制作のグループワーク、討論等）80%、レポート20%

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

#### 第2回 プロジェクトの目標を設定し計画を立てる

昨年度までの地域プロジェクトの成果と課題を確認したうえで、今回のプロジェクトの目標、対象、手段について検討する。

#### 第3回 文献研究とプロジェクトの企画

グループに分かれて映像制作の企画を立てる。関連する情報を収集し、文献による調査を進める。

#### 第4回 事前学習のグループワーク

グループごとに事前学習をふまえた映像作品の企画をまとめ、ポスター発表のための準備をする：ポスター制作や発表原稿の準備など。

#### 第5回 プレゼンテーション

ポスター発表の開催。グループごとに事前学習をふまえた映像作品の企画をプレゼンテーションする。

#### 第6回 フィールドワーク1

インターネットや教材動画を活用して養父市・豊岡市の実情を調査する。

参考：2019年度。養父市・豊岡市で合宿し、但馬地域の現地フィールドワークをおこなう。現地で映像を撮影したり、インタビューを実施したりする。

#### 第7回 フィールドワーク2

インターネットや教材動画を活用して養父市・豊岡市の実情を調査する。

#### 第8回 グループワーク1

養父市・豊岡市について、インターネットや文献を活用し、グループごとに事前調査を行う。

#### 第9回 グループワーク2

地域の観光や文化に関する取り組みについて、インタビュー動画を視聴した後、自分たちで調査を行い、結果について討議する。

#### 第10回 映像制作実習1

映像制作のためのグループワークに取り組む：撮影した映像の整理とグループわけ。制作に必要なデータの選別など。

#### 第11回 映像制作実習2

映像制作の実習を進める：映像データの編集、テロップの制作、ナレーションの録音など。

#### 第12回 映像制作実習3

映像作品を完成させる。映像や音声の最終調整やタイトル、エンドロールの制作など。

#### 第13回 発表準備とレポート作成

一連の学習をまとめたレポートを作成する。あわせて発表準備をおこなう。

#### 第14回 成果発表（グループ）

インターネットを活用し、成果内容を発表し、地域の方と意見交換をおこなう。

#### 第15回 成果発表（個人）

調査・制作の成果について個人発表をおこなう。全体で質疑を行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習B

都村 聞人  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基幹科目（共通実習）に位置づけられ、2年次後期の現代社会基礎実習、3年次の現代社会実習（社会調査士実習）へと続く一連の「実習」のスタート段階に該当する。

ゼミナールで習得する予備的調査研究方法および社会学の研究スタイルの基礎を元に、社会調査の基礎的な技法を実習を通して学ぶ。受講者にとって比較的身近な題材や調査対象を選定したうえで、調査計画の立案から実施までをおこなう。

前半は、グループごとに雑誌記事や広告を探索し、そこに描かれた画像・見出し・文章を調査・分析することにより、ファッションと文化の関連について考える。後半は、ファッションと文化に関してフィールドワークを行う。具体的には、「神戸×ファッション」にあらたなキーワードを自分たちで1つ加えたテーマを設定し、グループごとに調査をおこなう。最後にその成果および調査から明らかになった課題を、ZINE（小さな雑誌。フリ

一の小冊子)にまとめる。

この科目は、学外での実習を行う、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

テーマに沿って、社会学的な問題意識を持つことができる。

簡単な社会学的な分析課題を設定できる。

フィールドで観察・調査することができる。

フィールドワークの結果をまとめることができる。

フィールドワークの結果からさらに課題を見出すことができる。

<授業のキーワード>

ファッションと文化、消費、ジェンダー、メディア、ディスカッション、グループワーク

<授業の進め方>

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。フィールドワークの結果に関しては、グループワークで分析する。

<履修するにあたって>

ゼミナール と連携して行うので、合わせて履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、授業の対象となるテーマについて文献、各種統計、インターネット等を利用して、積極的に調べてください(目安として1時間程度)。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください(目安として1時間程度)。

<提出課題など>

調査報告書(=期末レポート)の提出を義務づける。(フィードバック:レポートに対してコメントを行います。)

その他、各種課題の提出が必須となる。詳細は授業中に適宜指示する。

(フィードバック:課題に対してコメントを行います。)

<成績評価方法・基準>

雑誌(ZINE)発表:60%

レポート・課題:40%

<テキスト>

担当者が作成した資料を用いる。

<参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

現代社会基礎実習Bの進め方を説明する。

第2回 ファッションと文化について社会学的に考察する(1)

ファッションと消費、階層文化について、検討する。

第3回 ファッションと文化について社会学的に考察する(2)

化粧・美容整形・タトゥーなどについて、検討する。

第4回 ファッションとメディア(1)

雑誌記事などを利用し、ファッションと文化について実習を行う。

第5回 ファッションとメディア(2)

雑誌記事などを利用し、ファッションがメディアにおいていかに語られているかについて実習を行う。

第6回 映像で学ぶファッションと文化

映像資料からファッションと文化について考察する。

第7回 ゲストスピーカーへのインタビュー

ゲストスピーカーに対してインタビューを行う。

第8回 フィールドワークの事前学習

フィールドワークのための調査技術、注意点等を確認する。

第9回 フィールドワーク(1)

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークの予備調査を実施し、調査事項を確認する。

第10回 フィールドワーク(2)

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。

第11回 調査結果の整理・考察

ここまでの調査結果を整理し、考察する。

第12回 フィールドワーク(3)

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。

第13回 雑誌(ZINE)作成(1)

ファッションと文化をテーマにした調査結果を雑誌(ZINE)にまとめる。

第14回 雑誌(ZINE)作成(2)

ファッションと文化をテーマにした調査結果を雑誌(ZINE)にまとめる。

第15回 調査結果の発表

調査結果をまとめた雑誌(ZINE)の発表会を行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会基礎実習B

李 洪章

-----  
<授業の方法>

実習

<授業の目的>

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

テーマ:ファッションと政治意識のフォト・エスノグラフィ

ゼミナール で習得する予備的調査研究方法および社会学の研究スタイルの基礎を元に、社会調査の基礎的な技法を、実習を通して学ぶ。まずは受講者にとって比較的

身近な題材や調査対象を選定し、調査計画の立案から実施までをおこなう。

近年、韓国文化は、ドラマやK-POPに留まらず、ファッションやコスメなど、より生活に身近な部分にまで浸透してきており、この現象は「第三次韓流ブーム」と呼ばれている。この韓流ブームは、冷え切った日韓関係を乗り越えるきっかけとして評価されることもあれば、表面的な文化消費にとどまるものとして批判されることもある。では実際に、第三次韓流ブームのもとでは、若者の政治意識にどのような変化が生じているのだろうか。本実習では、韓国のファッションに影響を受け、韓国に親近感を持つ若者が、文化のみならず、歴史や政治の面でどのような意識を持っているのかを調査し、ファッションと政治意識の関係性について考察する。

なお、本授業は、実践的教育から構成される授業科目である。

#### <到達目標>

- ・調査を設計し、実施する力を身につける。
- ・フィールドワークの困難さと意義について説明できる。
- ・調査によって得られたデータおよび分析結果を整理し、その内容をもとにプレゼンテーションをおこなう能力を身につける。

#### <授業の進め方>

- ・コリアンタウンでのフィールドワーク
- ・三宮でのフィールドワーク
- ・ZINEの作成
- ・調査結果に関するプレゼンテーション

これらの課題を、数人(4~5人)程度の研究班をつくり、班ごとにお互いの調査計画や調査結果を授業中に報告し、議論しながら検討を行っていく。

プレゼンテーション、ディスカッションを通じたアクティブ・ラーニングを実施する。

#### <履修するにあたって>

ゼミナール と連動させて進める。

#### <授業時間外に必要な学修>

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと(目安として1時間程度)。

事後学習：配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミでの課題を自ら発見すること(目安として1時間程度)。

#### <提出課題など>

- ・調査報告書(=期末レポート)の提出を義務付ける。(manaba上で講評することでフィードバックする)
- ・その他、各種課題の提出が必須となる。(ゼミ中にコメントすることでフィードバックする)

#### <成績評価方法・基準>

授業中に制作した成果物の内容 60%、期末レポート 40%

#### <テキスト>

授業中に適宜指示・配布する。

#### <授業計画>

##### 第1回 イントロダクション

本実習で行う調査の内容と方法について知る。

##### 第2回 ゲストスピーカーへの質問項目の準備

グループ内でのディスカッションを通して、翌週のゲストスピーカーへの質問項目を事前に準備する。

##### 第3回 ゲストスピーカーへのインタビュー

ゼミナール で招いたゲストスピーカーへのインタビューを行い、語りへの理解を深める。

##### 第4回 現地調査でのインタビューの準備

生野コリアンタウンで行うインタビュー調査のための準備作業を行う。

##### 第5回 現地調査 住民への意識調査

生野コリアンタウンにおける韓流ファンの日本人観光客へのインタビューを実施する。

##### 第6回 現地調査 韓流ブームに関する調査

生野コリアンタウンにおいて、韓流ブームの影響に関するインタビューを実施する。

##### 第7回 現地調査の振り返り

現地調査でのインタビュー内容を各班ごとに報告し、調査の成果を共有する。

##### 第8回 フィールドワークの事前学習

調査地に赴き、韓流のファッションを取り入れる若者の韓国観に関するインタビューの準備を行う。

##### 第9回 予備調査

調査地を街歩きしながら、韓流ファッションが若者にどのように取り入れられているのか、どういった店で衣服を購入するのかなどについて下調べを行う。

##### 第10回 現地でのフィールドワーク

調査地に赴き、韓流のファッションを取り入れる若者の韓国観に関するインタビューを実施する。

##### 第11回 調査結果の整理・考察

調査結果を一旦整理・考察し、追加の調査計画を立てる。

##### 第12回 追加フィールドワーク

中間整理を踏まえ、追加のフィールドワークを行う。

##### 第13回 ZINEの作成 : データの整理・分析

インタビュー内容の整理と考察を行い、ZINEに掲載する原稿を執筆する。

##### 第14回 ZINEの作成 : デザイン・構成

調査地で撮影した写真とインタビュー結果をもとに、ZINEのデザインを行う。

##### 第15回 ポスター発表会

ファッションと政治意識をテーマとしたプレゼンテーションを行う。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習C

山本 努  
-----

< 授業の方法 >

ゼミナール とセットでの実習となります。受講生の皆さんは指定されたテキストの精読、質疑応答などを求められます。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

< 授業の目的 >

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会調査の初歩を体験することによって、社会学の基礎を身につけます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

< 到達目標 >

1.社会学や社会調査の基本的考え方を理解できるようになる。2.フィールドワークの初歩を体験して、現代社会の課題の一端にふれる。

< 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

< 授業の進め方 >

・実習の予定です。

・授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

・質問紙調査の初歩を体験します。

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。実習ですから、学生の主体的参加が求められます。地域での見聞き(調査)を楽しめるようになって下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

・参考図書は課題の提出に必要なになります。詳細はmanabaに示します。

< 提出課題など >

・manabaにて詳細を示します。

・レポートなどの提出を求めますが、manabaで提出して下さい。

・また、受講生からの質問や私から連絡もmanabaを使います。ただし、必要に応じて、メールでも可です。

山本メール <yamamoto@css.kobegakuin.ac.jp>

・必要に応じて、授業やmanabaにてコメントします。

< 成績評価方法・基準 >

・課題の提出(50%)。

・授業中での質疑・報告。社会調査には種々の活動が求められます。これらへの積極的参加(50%)。

・欠席が多い場合は単位は認定しません。

< テキスト >

manaba(または)授業で指示します。

< 参考図書 >

授業で指示

< 授業計画 >

第1回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(質問文を作る)

ガイダンス

第2回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(質問文を作る)

1.質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。

2.質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。

3.よい質問文の原則を理解する。

第3回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(質問文を作る)

1.質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。

2.質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。

3.よい質問文の原則を理解する。

第4回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(作った質問文をプレサーベイして磨く)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第5回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(作った質問文をプレサーベイして磨く)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第6回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(作った質問文をプレサーベイして磨く)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第7回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(完成した質問文で調査する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第8回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(完成した質問文で調査する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第9回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(聞き取り結果を回収してデータにする)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第10回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(聞き取り結果を回収してデータにする)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。

2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。

3. よい質問文の原則を理解する。

第11回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(データを集計して分析する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第12回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(データを集計して分析する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第13回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(分析結果を報告する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第14回 フィールドリサーチの初歩を体験する。(分析結果を報告する)

1. 質問文(質問紙)を自分で作れるようになる。
2. 質問文を作るのは難しい作業だということを理解できるようになる。
3. よい質問文の原則を理解する。

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会基礎実習C

菊川 裕幸  
-----

<授業の方法>

演習、実習

<授業の目的>

現代社会学部DP(1)現代社会の多面的、総合的な理解、  
(2)諸課題の発見・把握およびその解決策の探求と実

践に準拠し、持続可能な地域デザイン、地方創成のあり方について知る。実務経験のある外部講師を招聘し、グループワークを通して実践的な地域課題の抽出方法やその解決策を提案できるようにする。担当教員は10年間にわたり、教育職および教育行政職に携わり、地域活性化に向けた取り組みを行ってきた実務経験のある教員である。実務経験を活かし、具体的な地域デザインや地方創成の方法について紹介する。また本授業は、地域づくりの経験のある実務家を招聘した実践的教育から構成される授業科目である。

#### <到達目標>

持続可能な地域デザインの方法や地方創成について、事例を基に学ぶことができる（知識）。様々な立場での取り組みを知ること、多様な視点を持った地域づくりに参画できるようになる（態度）。グループ内でのロールプレイングに加え、地域で活躍する実務家を招聘し意見交換を行うことで、自ら課題を見つけ、その解決への提案ができる力を醸成する（技能）。

#### <授業のキーワード>

地域デザイン、地域課題、持続可能性、地方創成、協働

#### <授業の進め方>

丹波市、丹波篠山市といった兵庫県丹波エリアをフィールドとし、地域での取り組み事例を学びつつ、地域で活動するために必要な知識や技術を習得する。グループワークを基本とする。

#### <授業時間外に必要な学修>

事前、事後学習として、約1時間程度の先行事例調査、ショートレポートの作成等を求めます。

#### <提出課題など>

ショートレポート、グループワークでの発表資料等

#### <成績評価方法・基準>

ショートレポートに対する評価30%、発表資料等の提出物20%、プレゼンテーション能力、質疑応答などのコミュニケーション能力20%、最終試験30%を基準とし、総合的に評価する。

#### <参考図書>

筧 裕介『持続可能な地域のつくり方』英治出版2021年

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス・グループ分け

教員の自己紹介、授業の進め方、成績評価などの説明を行い、グループ分けを行う。グループに分かれて、自己紹介を行う。

##### 第2回 持続可能な地域デザイン

持続可能な地域デザインのモデルケースについて解説を行う。丹波篠山市や丹波市といった中山間地の事例を中心に紹介する。

##### 第3回 地方創成の現状

地方創成の現状について、データや各地域の事例を紹介する。（事後学習として1時間程度のショートレポート作成を行う）。

##### 第4回 外部講師との意見交換

中山間地で活躍する実務家を招聘し、地域活動の実態と課題等について事例紹介を行っていただき、それをもとにディスカッションを行う。

##### 第5回 地域活動に向けて

地域活動を展開するにあたり、グループに分かれてテーマに沿ったロールプレイングを行い、その振り返りを発表する。（例；行政、地域住民の間で意見が分かれた場合の対応等）

##### 第6回 地域活動に向けて

地域活動を展開するにあたり、グループに分かれてテーマに沿ったロールプレイングを行い、その振り返りを発表する。また、円滑な地域活動のために必要な能力について考える。

##### 第7回 ビジネスプランの構築

高校生ビジネスプランコンテストなどの事例を紹介し、若年層のアイデアや社会に対する考え方を知る。事例を基に、大学生のビジネスプランを構築する。

##### 第8回 ビジネスプランの計画

テーマに沿って（地域性等を考慮）、グループごとにビジネスプランや地域活性化のアイデアを計画する。

##### 第9回 ビジネスプランの発表

第8回で計画したビジネスプランを発表する。（事後学習として、1時間程度でショートレポートを作成する）発表終了後、ディスカッションを行う。

##### 第10回 外部講師との意見交換

行政経験のある講師を招聘し、グループで考案したビジネスプランを具現化させるために必要な連携や施策提案の方法について意見交換を行う。

##### 第11回 持続可能な地域デザインの構築

これまでの授業を活かし、持続可能な地域デザインや地域づくりの手法について考える。実現可能性は低くてもよいが、独創的かつ新規性の高い内容にする。

##### 第12回 持続可能な地域デザインの構築

第11回で考案した内容をグループディスカッションでさらに深め、パワーポイントにまとめて発表できるようにする。

##### 第13回 持続可能な地域デザインの構築

グループごとに、まとめた内容を発表する。発表後は質疑応答の時間を設け、活発な意見交換を行う。（事後学習として1時間程度のショートレポートを作成する）

##### 第14回 授業の振り返り

これまでの授業を振り返り、論点の整理を行う。

##### 第15回 最終試験

これまでの授業を振り返り、出題されたテーマについて論述する。単純に知識を問う問題ではなく、論理的に自分の考えを第三者に伝えること。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

現代社会研究

山本 努  
-----

< 授業の方法 >

・テキストを使って講義をおこないます。受講生の皆さんには指定されたテキストを持参して授業に出て下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡、質問など受け付けます。

< 授業の目的 >

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法による、現代社会の解読を示しながら、社会学の基礎的概念や考え方を紹介します。具体的には、過疎農山村問題、人口還流、限界集落論、高齢者生きがい研究などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

< 到達目標 >

1. 過疎農山村社会学の基本的考え方を理解できるようになる。2. 現代日本の過疎農山村問題の社会的解読の成果を理解できるようになる。3. そこから現代社会一般への興味や関心が高まるようになる(ことをめざします)。

< 授業のキーワード >

家族、地域問題、過疎、農山村、高齢化、少子化、人口減少、

< 授業の進め方 >

テキストを使って授業をおこないます。テキストを必ず持参して授業に出席して下さい。

( \*テキストなしでは、後の課題や試験にも対応できなくなります )

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。私語など受講生に迷惑となる行為には厳しく対処します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

< 提出課題など >

授業で指示します。必要なコメントは授業やmanabaで示します。

< 成績評価方法・基準 >

・課題提出(または定期試験)・・・100%

\*ただし、欠席の多い場合は単位を認めない。

< テキスト >

山本努『人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学(増補版)』学文社

\*必ず増補版を入手して下さい(同名の増補版でないものと間違えないで下さい)。

< 参考図書 >

徳野貞雄『都市の幸福、農村の幸福』NHK出版、  
徳野貞雄監修『暮らしの視点からの地方再生』九州大学出版会、

山本努編『地域社会学入門』学文社、

< 授業計画 >

第1回 過疎農山村問題の社会学について  
ガイダンス

第2回 過疎問題の変容と生活構造論の課題、その1  
過疎とは何か、農村的生活論との関わりで

第3回 過疎問題の変容と生活構造論の課題、その2  
過疎は1990年ころから新しい過疎になってきた

第4回 市町村合併の進行と過疎の新段階の登場

高齢者減少型過疎という段階、大分県中津江村調査から

第5回 かつては、奥地の集落に多くの人が住んでいた

少子型過疎の出現、島根県弥栄村調査から

第6回 過疎地域への人口還流はあるのか？

人口還流の基礎分析、定住経歴の変容と農村流動化

少子型過疎の出現、島根県弥栄村調査から

第7回 人口還流してきた人の動機と生活構造

家や地域を継ぐために帰ってきたのか？、大分県中津江村、

広島県北広島町調査から

第8回 限界集落論の登場、その意義

大野晃の高知山村調査の驚くべき知見

第9回 限界集落論への概念的な疑問

過疎概念との対比する、集落消滅はどのくらい起こっているのか

第10回 限界集落高齢者の暮らしと生活意識

広島県湯来町(中国山地)高齢者の生きがい意識

第11回 都市と農村の機能的特性と過疎研究

農村の土台の上に都市があるという学説、矢崎武夫の都市概念

第12回 農業、農村の現代的機能

大内力の「農業の基本的価値」、祖田修の「農業、農村の役割論」

第13回 「食」と「農」の分離の問題

食糧自給率とフードマイレージにみる日本社会の特異性

第14回 東京のブラックホール化、地方の人口消滅

農村的後背地のない社会は滅びるというソロキンの学説、現代は死滅しつつある消費社会という鈴木広の学説

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 前期

2.0単位

現代社会研究

梅川 由紀  
-----

< 授業の方法 >

講義形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「日常生活における環境（ごみ問題、ごみ屋敷など）」「身近な自然環境（自然保護、コモンズなど）」「地域社会における環境（歴史的環境、開発など）」という三つのキーワードから、環境と人間のかかわり方について環境社会学的に検討します。環境社会学の基本的な考え方を理解し、物事を多角的に考察できるようになることを目的とします。なかでも受講者の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に展開できるようになることを目指します。

なお、本授業の担当者は経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連したテーマや事例などを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

< 到達目標 >

1. 授業で扱う問題について、現状・論点・解決策などを説明できるようになること。
2. 授業で扱った問題のうち受講生の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に論じることができるようになること。

< 授業のキーワード >

日常生活における環境（ごみ、ごみ屋敷など）、身近な自然環境（自然保護、コモンズなど）、地域社会における環境（歴史的環境、開発など）

< 授業の進め方 >

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。受講者の理解を深めるために、積極的に映像資料を活用します。毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。コメントシートには、授業を受けて考えたことなどを書いてもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回授業の事前・事後に2時間程度とします。特に授業後は、授業内容を振り返るとともに、関心を持った内容に関しては積極的に本・論文・ニュースなどに目を通し、

理解を深めるようにしてください。

< 提出課題など >

1. 毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。フィードバックは、次回授業開始時にクラス全体に向けて行います。
2. 学期末には期末レポートを課します。フィードバックは、クラス全体に向けて行います。

< 成績評価方法・基準 >

コメントシート：30%、期末レポート：70%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

鳥越皓之，2004，『環境社会学－生活者の立場から考える』東京大学出版会。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション：環境社会学の視点  
授業の進め方について説明します。また、環境社会学とはどのような学問かについて学びます。

第2回 ごみ処理場（日常生活における環境）  
「ごみ処理場が自宅近くに建設されること」をめぐる問題について検討します。

第3回 不法投棄（日常生活における環境）  
なぜ不法投棄は生じてしまうのか、その仕組みについて考察します。

第4回 リサイクル（日常生活における環境）  
どうすればリサイクルに協力的になってもらえるか、検討します。

第5回 ごみ屋敷（日常生活における環境）  
いわゆる「ごみ屋敷」問題とはどのような問題なのか、その基礎について学びます。

第6回 ごみ屋敷（日常生活における環境）  
「ごみ屋敷」の当事者の目線に寄り添って、ごみ屋敷問題について考察します。

第7回 保護区（身近な自然環境）  
「自然を守る」とはどのようなことなのか、検討します。

第8回 コモンズ（身近な自然環境）  
「コモンズ」という自然とのかかわりかたについて学びます。

第9回 まちづくりと観光（身近な自然環境）  
まちづくりや観光と、自然の関係について学びます。

第10回 生活環境主義（身近な自然環境）  
「生活環境主義」という考え方について学びます。

第11回 歴史的環境（地域社会における環境）  
歴史的遺産などを保存すること、取り壊すことの論点に

ついて検討します。

#### 第12回 景観（地域社会における環境）

望ましい景観とは何か、景観問題の難しさについて考察します。

#### 第13回 開発（地域社会における環境）

環境と開発は両立しうるのか、考察します。

#### 第14回 環境正義（地域社会における環境）

社会的弱者が環境負荷の高い地域に居住せざるを得ない、不平等状態について考察します。

#### 第15回 環境と人間のこれから

これまでの内容を振り返り、これからの環境と人間のあり方について考察します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

現代社会研究

金 悠進

#### ----- < 授業の方法 >

講義（原則対面授業。状況により遠隔授業併用）

#### < 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解を目指すものである。たとえば私たちは、見知らぬ土地で自分の知らなかったような生き方をする人や、個性豊かな街の風景、SNSを通じて知る友人の思いがけない趣味・思考など、他者に出会う。何気ない日常のなかに溶け込こみすぎて気づかなかった違和感、主観からは到底理解できないような出来事はたくさん起きる。しかし、私たちは普段、そうした他者や出来事を、なにか「理解しがたいもの」として片づけてしまっている。本授業では、そうした何気ない日常から浮かび上がる違和感に着目し、それを社会的な視点から捉えることを通して、現代社会における文化のあり方について多角的に考える。

#### < 到達目標 >

何気ない日常のなかから自ら問いを立て、先行研究を探索し、その答えを見出していく作業を通じて、社会学の骨格の一部を成す「他者の言動・行動の意味を理解する」研究手法を学習する

#### < 授業のキーワード >

文化、越境、他者、メディア、歴史

#### < 授業の進め方 >

基本的には教員による講義を中心に進めるが、適宜、受講生による質疑応答・コメントに沿って進める。

#### < 履修するにあたって >

授業内容だけでなく積極的な問題提起をふまえたコメントシートの提出を求めます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間

程度）。

・事後学習：講義ノートや配布資料を復習すること（目安として1時間程度）。

・その他：レポート課題に必要な資料を収集すること。

< 提出課題など >

コメントシート（授業中にコメントすることでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

授業内コメントシート 40%、レポート 60%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 授業の進め方の確認

本授業の趣旨について解説する。

第2回 趣味の要因

「なぜ私はこの音楽が好きなのか？」という問いについて考察する。

第3回 趣味とオタク

「なぜ秋葉原はオタクの街なのか？」という問いについて考察する。

第4回 流行と街

「なぜ渋谷は流行発信地なのか？」という問いについて考察する。

第5回 不良と文化

「なぜ不良は逸脱した行為をするのか？」という問いについて考察する。

第6回 排外主義

「なぜ排外主義的な言動・行動が目立つのか？」という問いについて考察する。

第7回 ネット右翼

「ネトウヨとは何か？なぜ生まれたのか？」という問いについて考察する。

第8回 サブカルチャーと政治

「なぜ音楽に政治を持ち込んでではないのか？」という問いについて考察する。

第9回 「日本スゴイ」言説

「なぜ『日本スゴイ』言説が受容されているのか？」という問いについて考察する。

第10回 欧米とアジア

「日本にとって欧米、アジアとは何か？」という問いについて考察する。

第11回 韓流とアジア

「韓流ブームとは何だったのか？」という問いについて考察する。

第12回 K-POPとアジア

「なぜK-POPは世界的に流行しているのか？」という問いについて考察する。

第13回 伝統の創造

「なぜ演歌は『日本の心』となったのか？」という問いについて考察する。

第14回 映像のなかの文化

教養としての映画と音楽

第15回 論点の整理

第15回 論点の整理 第2回? 14回に取り上げられたテーマを整理しながら、文化と他者理解に関して社会的な問いを立て、考察することの意義について再確認する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会実習 A

駒田 安紀  
-----

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この授業では、現代社会における問題群の中から医療に焦点を当て、医療や健康に関する学生の知や意識、態度、生活に関する調査を行う。テーマは広く医療に関する問題（病と健康・医療政策・社会病理など）を扱い、学生の関心に沿って質問紙を作成する。

前期は予備調査をクラス内で実施し、その集計結果に基づいて質問項目の修正を行い、本調査の準備を進める。

この科目は現代社会学科のディプロマ・ポリシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

- ・質問紙調査の手法を理解する。
- ・先行研究からテーマ設定と質問項目の検討ができるようになる。
- ・データの単純集計・クロス集計ができるようになる。
- ・自分の調査プロセスを振り返り、互いに議論できるようになる。

< 授業のキーワード >

質問紙調査、予備調査、医療・健康

< 授業の進め方 >

関心の近い学生同士でグループを組む。作業は個人単位で進める。

< 履修するにあたって >

後期科目「現代社会実習」とあわせて履修する必要がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間内に完了しなかった課題については、宿題とする。（事後学習1時間程度）

夏季休暇中に学内学生を対象に質問紙調査を実施することを課題とする。

< 提出課題など >

毎回ワークを実施するので、その成果を提出する。ワークの成果には担当教員がコメントを入れ、それぞれ次の授業にて個別に返却する。達成できたあるいはできなかったポイントが多く、多くの学生に共通している場合、全体に対する講義の中でそれらを伝え、次のワークに繋がるようにする。

< 成績評価方法・基準 >

個人ワーク提出物（70%）、レポート（30%）

< テキスト >

適宜紹介する。

< 参考図書 >

適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的と進め方を確認し、調査テーマについて考え始める。

第2回 現代における医療の諸問題

現代における医療の諸問題について講義を通して学び、各自の関心を定める。

第3回ブレインストーミング

医療の諸問題に関するブレインストーミングを行い、調査テーマの候補を挙げる。テーマごとにグループを組む。

第4回 先行研究の収集と検討

個人で先行研究の収集と検討を行い、グループで検討する。

第5回 質問項目案の作成

収集・検討した先行研究に基づき、仮説・質問項目案を作成する。

第6回 質問項目の検討

グループ内で質問項目を互いに検討し、改善する。

第7回 調査における倫理

社会調査における倫理について、講義とワークを通して理解を深める。

第8回 予備調査の実施

クラス内での予備調査を実施する。回答はパソコンで行う。

第9回 単純集計・クロス集計の実施

回答されたデータから、エクセルを用いて単純集計・クロス集計を行う。

第10回 集計結果に基づく質問項目の修正

集計内容を基に、本調査に向けて質問項目の修正を行う。グループ内で質問項目を検討し、改善する。

第11回 分析計画の作成

統計手法について講義を通して学び、分析計画を立てる。

第12回 分析計画の完成

引き続き統計手法について講義を通して学び、分析計画を完成させる。

第13回 質問項目の見直し

分析計画を基に、さらに質問項目の見直しを行う。

## 第14回 質問項目の最終確認

クラス全体で質問項目を共有し、最終確認を行う。

## 第15回 質問紙の作成、調査実施について

質問紙を完成させる。調査実施に先立って方法を理解し、ルールを共有する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

現代社会実習 B

渡辺 拓也  
-----

### < 授業の方法 >

講義と演習形式で進めます。

### < 授業の目的 >

本講義科目は、「専門教育科目」に属し、「ゼミナール」の研究テーマを掘り下げる際に必要な調査法を習得する科目として位置づけられる。社会調査の歴史や概要について学習し、そのうえで、調査設計から実施までの一連の調査プロセスを、さまざまな角度から総合的に体得することを目的とする。

最終的には、後期「現代社会実習」での本調査に向けた予備調査を、個人ないしグループで実施できるようにする。この科目は現代社会学科のディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

### < 到達目標 >

1. 社会調査の歴史や技法に関する知識を獲得する。
2. 既存の調査研究の精読を通じて、社会調査の面白さや困難さを把握する。
3. 調査設計から実施、報告書執筆までの一連のプロセスを体得する。

### < 授業のキーワード >

社会調査の歴史・調査法・調査設計・質的調査

### < 授業の進め方 >

各自の関心を掘り下げながら、調査設計、予備調査、本調査、レポート作成までをグループワークや個別指導も交えながら進めていく。

### < 履修するにあたって >

日常生活を送るうえで疑問に感じたことや不思議に思ったことを意識し、ノートなどに書き留める習慣をつけること。写真など、様々なメディアも活用する。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事前に指示されたテキストに目を通してから授業に参加してください。（事前・事後学習各1時間程度）

### < 提出課題など >

調査に向けた下調べ、調査計画、予備調査の成果、データの分析結果、執筆中の報告書の経過など、授業の進行に応じた毎回の提出物を提出する。授業では、提出物に対してコメント、追加の作業の指示を行うので、次の授業時までに進めておくこと。

### < 成績評価方法・基準 >

講義ごとの調査にまつわる調べ物、調査に向けた準備作業、予備調査の進捗、本調査の進捗、データの分析など、平常課題60%、最終レポート40%で評価する。

### < テキスト >

授業時間中に適宜指定します。

### < 参考図書 >

岡井崇之編『アーバンカルチャーズ 誘惑する都市文化、記憶する都市文化』（晃洋書房、2019年、税別2600円）

『飯場へ 暮らしと仕事を記録する』渡辺拓也、洛北出版、2600円（税別）

### < 授業計画 >

#### 第1回 実習の目的

本講義「現代社会実習」の目的について全体で確認する。

#### 第2回 社会調査の概要

社会調査の意義や目的について、歴史的な観点から考える。

#### 第3回 調査方法の検討

フィールドワーク、インタビュー、定点観測など、自分の関心にあった調査方法を検討する。

#### 第4回 調査設計

それぞれの関心に基づいて調査設計を行う。

#### 第5回 予備調査の実施

個人ないしグループで予備調査を実施する。

#### 第6回 本調査の実施

予備調査の反省をふまえて本調査を行う。

#### 第7回 本調査の実施

これまでの調査経過をふまえて追加調査を行う。

#### 第8回 データの作成

収集したデータの整理。テキスト起こしやフィールドノーツの整理を中心に行う。

#### 第9回 データの整理

収集したデータの整理。データの特徴や傾向を大まかに掴む。

#### 第10回 データの分析

整理したデータをいくつかのカテゴリーに分け、データの共通性を明確化させる。

#### 第11回 データの分析

作り出したカテゴリーの特性をより具体的に把握するために、カテゴリー内のデータをさらに細かいサブカテゴリーに分ける。

#### 第12回 報告書原稿の作成

整理・分析したデータを元に、報告書の原稿を執筆する。

#### 第13回 報告書原稿の作成

整理・分析したデータを元に、報告書の原稿を執筆する。

#### 第14回 報告書原稿の完成

お互いの原稿の読み合わせたコメントをふまえて報告書を完成させる。

第15回 参加者全員による総括

本講義について全体で総括し、卒業研究との関連性について各自、考えてもらう。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会実習 A

駒田 安紀

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この授業では、現代社会における問題群の中から医療に焦点を当て、医療や健康に関する学生の知や意識、態度、生活に関する調査を行う。テーマは広く医療に関する問題（病と健康・医療政策・社会病理など）を扱い、学生の関心に沿って質問紙を作成する。

後期では、夏季休暇中に実施した調査の結果をまとめ、レポートを執筆する。

この科目は現代社会学科のディプロマ・ポリシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

- ・ 質問紙調査の手法を理解する。
- ・ 集計と、統計手法を用いた結果のまとめができるようになる。
- ・ 調査プロセスを振り返り、議論できるようになる。
- ・ 結果をレポートにまとめる。

< 授業のキーワード >

質問紙調査、検定、医療・健康

< 授業の進め方 >

後期全体を通して、夏季休暇中に行ったオンライン調査のデータを用い、集計や分析を行う。

授業は個人ワークを中心に進める。ワークについては次週までに必ずコメントをつけて返却する。

< 履修するにあたって >

前期科目「現代社会実習」とあわせて履修する必要がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間内に完了しなかった課題については、宿題とする。（事後学習1時間程度）

< 提出課題など >

毎回ワークを実施するので、その成果を提出する。

ワークの成果には担当教員がコメントを入れ、それぞれ次の授業の前に個別に返却する。

< 成績評価方法・基準 >

個人ワーク提出物（50%）・レポート（50%）

< テキスト >

適宜紹介する。

< 参考図書 >

適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション・調査実施の振り返り

授業の目的と進め方を確認し、調査実施の振り返りを行う。

第2回 レポート前半の執筆

引き続き、調査を実施する。

第3回 レポート前半の修正

担当教員のフィードバックに基づき、レポート前半部分を修正する。

第4回 データの配布と倫理

データを配布し、データ使用上の倫理について確認する。分析準備を進める。

第5回 データクリーニング

データクリーニングを行う。矛盾回答について洗い出しを行うとともに、データを数値化する。

第6回 度数分布表の作成

度数分布表を作成し、結果を記述する。

第7回 分析の実施

クロス表の作成と独立性の検定を実施し、結果を記述する。

第8回 分析の実施

平均値の差の検定を実施し、結果を記述する。

第9回 分析の実施

相関係数を求め、結果を記述する。

第10回 分析に関する補足

3種類の分析について振り返り、理解を深める。

第11回 考察

得られた結果を基に、考察を行う。

第12回 レポート後半部分の執筆

結果と考察を用いて、レポートの後半部分を執筆する。

第13回 レポート下書きの完成

レポート全体の下書きを完成させる。

第14回 レポートの修正

担当教員のフィードバックに応じ、レポートを修正する。

第15回 レポートの完成・提出

担当教員のフィードバックに応じ、レポートを完成させる。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

現代社会実習 B

菊川 裕幸

-----  
< 授業の方法 >

演習、実習

< 授業の目的 >

現代社会学部DP（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握およびその解決策の探求と実践に準拠し、持続可能な地域デザイン、地方創成のあり

方について知る。実務経験のある外部講師を招聘し、グループワークを通して実践的な地域課題の抽出方法やその解決策を提案できるようにする。担当教員は10年間にわたり、教育職および教育行政職に携わり、地域活性化に向けた取り組みを行ってきた実務経験のある教員である。実務経験を活かし、具体的な地域デザインや地方創成の方法について紹介する。また本授業は、地域づくりの経験のある実務家を招聘した実践的教育から構成される授業科目である。

#### <到達目標>

持続可能な地域デザインの方法や地方創成について、事例を基に学ぶことができる（知識）。様々な立場での取り組みを知ること、多様な視点を持った地域づくりに参画できるようになる（態度）。グループ内でのロールプレイングに加え、地域で活躍する実務家を招聘し意見交換を行うことで、自ら課題を見つけ、その解決への提案ができる力を醸成する（技能）。

#### <授業のキーワード>

地域デザイン、地域課題、持続可能性、地方創成、協働

#### <授業の進め方>

丹波市、丹波篠山市といった兵庫県丹波エリアをフィールドとし、地域での取り組み事例を学びつつ、地域で活動するために必要な知識や技術を習得する。グループワークを基本とする。

#### <授業時間外に必要な学修>

事前、事後学習として、約1時間程度の先行事例調査、ショートレポートの作成等を求めます。

#### <提出課題など>

ショートレポート、グループワークでの発表資料等

#### <成績評価方法・基準>

ショートレポートに対する評価30%、発表資料等の提出物20%、プレゼンテーション能力、質疑応答などのコミュニケーション能力20%、最終試験30%を基準とし、総合的に評価する。

#### <参考図書>

筧 裕介『持続可能な地域のつくり方』英治出版2021年

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス・グループ分け

教員の自己紹介、授業の進め方、成績評価などの説明を行い、グループ分けを行う。グループに分かれて、自己紹介を行う。

##### 第2回 持続可能な地域デザイン

持続可能な地域デザインのモデルケースについて解説を行う。丹波篠山市や丹波市といった中山間地の事例を中心に紹介する。

##### 第3回 地方創成の現状

地方創成の現状について、データや各地域の事例を紹介する。（事後学習として1時間程度のショートレポート作成を行う）。

##### 第4回 外部講師との意見交換

中山間地で活躍する実務家を招聘し、地域活動の実態と課題等について事例紹介を行っていただき、それをもとにディスカッションを行う。

##### 第5回 地域活動に向けて

地域活動を展開するにあたり、グループに分かれてテーマに沿ったロールプレイングを行い、その振り返りを発表する。（例；行政、地域住民の間で意見が分かれた場合の対応等）

##### 第6回 地域活動に向けて

地域活動を展開するにあたり、グループに分かれてテーマに沿ったロールプレイングを行い、その振り返りを発表する。また、円滑な地域活動のために必要な能力について考える。

##### 第7回 ビジネスプランの構築

高校生ビジネスプランコンテストなどの事例を紹介し、若年層のアイデアや社会に対する考え方を知る。事例を基に、大学生のビジネスプランを構築する。

##### 第8回 ビジネスプランの計画

テーマに沿って（地域性等を考慮）、グループごとにビジネスプランや地域活性化のアイデアを計画する。

##### 第9回 ビジネスプランの発表

第8回で計画したビジネスプランを発表する。（事後学習として、1時間程度でショートレポートを作成する）発表終了後、ディスカッションを行う。

##### 第10回 外部講師との意見交換

行政経験のある講師を招聘し、グループで考案したビジネスプランを具現化させるために必要な連携や施策提案の方法について意見交換を行う。

##### 第11回 持続可能な地域デザインの構築

これまでの授業を活かし、持続可能な地域デザインや地域づくりの手法について考える。実現可能性は低くてもよいが、独創的かつ新規性の高い内容にする。

##### 第12回 持続可能な地域デザインの構築

第11回で考案した内容をグループディスカッションでさらに深め、パワーポイントにまとめて発表できるようにする。

##### 第13回 持続可能な地域デザインの構築

グループごとに、まとめた内容を発表する。発表後は質疑応答の時間を設け、活発な意見交換を行う。（事後学習として1時間程度のショートレポートを作成する）

##### 第14回 授業の振り返り

これまでの授業を振り返り、論点の整理を行う。

##### 第15回 最終試験

これまでの授業を振り返り、出題されたテーマについて論述する。単純に知識を問う問題ではなく、論理的に自分の考えを第三者に伝えること。

2022年度 前期

2.0単位

現代生活論

李 洪章

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解を目指すものである。

私たちは常々、生活の様々な局面において、不安や生きづらさなど、人間の存在や価値にかかわる課題に直面しながら生活している。現代社会において特に問題となるのは、「無縁社会」などといった言葉で表現されるような、家族や階層などの社会集団における紐帯の弱体化に伴う個人化現象や、原発事故に代表される科学の高度化に伴う人知を超えたリスクなどである。

本授業ではまず、そうした現代社会のあり方を明らかにしていきながら、生活上のリスクや不安と向き合い、乗り越えていくうえで、他者との関係の結び方、すなわち「共同性」について考えることの重要性を学んでいく。

< 到達目標 >

現代社会をとらえるさまざまな見方や考え方を学びつつ、異なる出自をもつ他者を排除することなく、現代社会に生きるうえでの不安を共有しあえるような社会のあり方を模索できる。

< 授業のキーワード >

リスク、個人化、共同性

< 授業の進め方 >

講義形式で進める。受講者数によってはグループワークを導入することもある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：講義ノートや配布資料を復習すること（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

授業内ショートレポート

（授業中にコメントすることでフィードバックする）

期末レポート

（manaba上で講評することでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

授業内ショートレポート 100%

< テキスト >

授業中に適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 インTRODククション

ディスカッションを通じて、私たちが生活のどのような場面で不安や生きづらさを感じるのかを話し合う。

第2回 リスク社会

産業社会とリスク社会の相違について考える

第3回 ネオリベリズムについて

グローバル化の進展と私たちの日常生活のあり方がいかに関連しているのかを学ぶ。

第4回 個人化とは（1）：若者と個人化

個人化の進展が、若者の生活スタイルに及ぼす影響について考える。

第5回 個人化とは（2）：自己責任について考える

個人化社会の特徴を、「自己責任」という言葉を通して見てみる。

第6回 家族の個人化（1）：日本における家族の個人化  
日本の家族において個人化はどのように進行しているのかを知る

第7回 家族の個人化（2）：「絆」とは？

日本の家族において「絆」という言葉がいかなる文脈で語られてきたのかを知ることで、共同性の変化のあり様を把握する。

第8回 死の個人化

現代社会を生きる人々にとっての死の意味について考える。

第9回 日本の排外主義

近年顕在化してきた日本の排外主義と、リスク/個人化との関連性を探る。

第10回 反原発運動とナショナリズム

日本の反原発運動がなぜ排他的なナショナリズムと結びつくのかを考える

第11回 マイノリティにとってのリスク

日本のエスニック・マイノリティは何をリスクと感じ、不安をおぼえているのかを知る

第12回 マイノリティと個人化

マイノリティ社会においても同様に個人化が進展しているのかを知る

第13回 マイノリティの共同性

マイノリティとして日本社会で生活する人々が、マイノリティ/マジョリティとどのように繋がり、不安や生きづらさを乗り越えようとしているのかを知る

第14回 ディスカッション（1）：リスクとどう向き合うのか

わたしたちは人知を超えたリスクとどのように向き合えばよいのかについて話し合う

第15回 ディスカッション（2）：生活上の不安とどう向き合うのか

第一回目の授業で挙げた不安や生きづらさを乗り越えるためになすべきこと、なされるべきことについて話し合う

-----  
2022年度 前期

2.0単位

公共政策研究

豊島 英明  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は、DPに定められている一般教養と専門知識の習得を目指しています。

公共政策は、社会全体の諸課題の構造と解決策を学ぶ学問で、習得した知識・思考法は、学部のカリキュラム全体に役立ちます。

「問題発見 解決策立案 遂行 効果評価」という一連の政策プロセスを、理論のみならず、多様な行政実例とともに学ぶため、公務員志望者には受講を推奨します。また、公共政策学の対象は、行政のみならず、民間企業や中間団体（NPO等）による社会貢献活動も含まれることから、民間企業等志望者にとっても有益な知識を習得できます。

テクノロジーの劇的な進展が公共政策に与える影響について、行政での実際の活用事例や今後の適用可能性も含めて学びます。

なお、この授業の担当者は、市役所業務（まちづくり・広報・企業誘致・経理・研修・国際交流・行財政改革・行政評価等）を30年間経験している、豊富な実務経験のある教員であるため、より実践的な観点から公共政策を解説します。

< 到達目標 >

公共政策の全体像と、活用する思考法を説明できる。  
（知識面）

新聞等で報道される公共領域の事象に関して、公共政策研究を通じて得た主要論点を踏まえ、自らの見解を示すことができる。（態度・習慣面）

学生同士、あるいは行政等関係者との対話を通じて、社会課題を解決するための仮説を構築できる。（技能面）

< 授業のキーワード >

公共政策、行政、思考法、社会貢献活動、テクノロジー

< 授業の進め方 >

パワーポイントを説明する形式で授業を行います。

パワーポイント資料は、下記の One Drive のアドレスに格納しています。

授業開催日の1週間前までには格納しますので、授業を受講される際には、当該資料を印刷/ダウンロード等したうえで、当日出席してください。

（教室での資料配布はありません）

【One Drive アドレス】

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/1/ch135060\\_css\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EoTsDh-SwUBAiaS6HRwdWpMBAHd8Ci8J-Atzw7KMgd3kkA?e=Sfrf1H](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/1/ch135060_css_kobegakuin_ac_jp/EoTsDh-SwUBAiaS6HRwdWpMBAHd8Ci8J-Atzw7KMgd3kkA?e=Sfrf1H)

不明な点などがあれば、下記の教員連絡先にご連絡ください。

toyoshima@css.kobegakuin.ac.jp

< 履修するにあたって >

授業中の私語は厳禁です。

授業中に質問をする場合があります。わからなくても何か答えてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の授業終了後、当該講義内容に関連する情報を自ら収集し、受講学生同士で議論し、理解を深めてください。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価はレポートで行います。最終授業でレポートを提出してもらいます（800字以上、Word（ワード）文書）。課題内容は、授業中に指示します。評価割合はレポートが100%です。

< テキスト >

所定テキストはありません。

< 参考図書 >

授業中に、随時紹介します。

< 授業計画 >

第1回 公共政策学とは

公共政策とは何か、そして公共政策学の誕生経緯と特徴を学びます。

第2回 政策問題の認識・解釈・構造分析

政策プロセス（問題認識 解決策立案 遂行 効果評価）の第一段階を学びます。問題の認識・解釈・構造分析の仕方が、後のプロセスに重大な影響を及ぼします。

第3回 政策問題の解決案を設計する

解決案の設計プロセス（現状調査 将来予測 費用便益分析 政策手段の選択）を学びます。

第4回 証拠に基づく政策立案

政策立案がKKD（勘と経験と度胸）では困ります。EBPM（Evidence-based Policy Making、証拠に基づく政策立案）に関する手法・実例を学びます。

第5回 バックカスティング

場当たり政策は不可です。軸をぶらさないよう、視点を将来に移し、そこから現状を視る戦略的思考法（バックカスティング）を、国資料等の活用を通じて学びます。

第6回 自治体SDGs

政策立案にSDGs（2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」）を活用する自治体が増えています。理論と実践例を学びます。

第7回 クロスSWOT分析

自治体の内部・外部環境に関する4要素（S=強み、W=弱み、O=機会、T=脅威）を統合的に考察して、政策を立

案する思考法（フレームワーク）を学びます。

#### 第8回 テクノロジーの活用

昨今のテクノロジーの進展は劇的です。進展の推移・現況と、行政での実際の活用事例（AIやRPA等）、今後の展望について学びます。

#### 第9回 中間団体の公共政策

国家と個人の間にある団体を「中間団体」といい、公共領域ではNPOやNGOなどが該当します。中間団体の意義・機能、行政との協働政策を学びます。

#### 第10回 民間セクターの公共政策

民間でも「社会課題の解決が企業の成長につながる」との認識のもとに、社会貢献とビジネスの相乗効果を志向した活動を展開しています。理論と実践を学びます。

#### 第11回 自治体PR戦略

政策は自治体内部の遂行だけでは不十分です。対外的発信によって、移住者・進出企業・観光客・協力者等が増え、持続的発展を可能にします。豊富な事例を学びます。

#### 第12回 危機管理

危機管理に関する知見と実践がなければ、公共政策の土台となる「住民の安全安心」を守ることはできません。震災やコロナなどの事例をもとに学びます。

#### 第13回 政策評価

政策プロセス（問題認識 解決策立案 遂行 効果評価）の最終段階です。誰/何に対してどのような効果（＝政策目的）が生じたのかを測定する方法を学びます。

#### 第14回 Society5.0（未来を創る）

「Society5.0」とは、AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技术をあらゆる産業や社会に取り入れて実現する新たな未来社会の姿です。「未来を創る公共政策」を学びます。

#### 第15回 総括

今までの授業を振り返り、まとめます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

国際協力論 （連携）

江田 英里香  
-----

< 授業の方法 >

【授業の方法】

授業は、「対面」で実施します。

授業の冒頭では、前回の授業のフィードバックや質問に対する回答を行います。

授業では、テキストを利用せず、授業当日のスライドのみで授業をすすめます。必ず、ノートをとるようにしてください。

授業の最後には、その日の授業に対するショートレポートをオンライン（manaba）にて提出していただきます。

【中間レポート】

中間レポートを課しますが、レポートの提出後は学生同士がお互いのレポートを読み合う回を設けます。自分のレポートの書き方を客観的に見て、レポートの書き方そのものを学んでいただくことが狙いです。

< 授業の目的 >

本講義では、近年のグローバル化の広がりの中で起きてる地球規模での課題として「貧困問題」を取り上げ、それらが起きる要因とそれらから起因する課題について理解を深め、国際協力が果たす役割について検討します。

本科目は、ディプロマポリシーの1（知識を習得する）、2 - 1（技能・スキルを習得する）に関連します。

なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

地球規模の課題や各国が置かれている「貧困問題」について基礎的な知識を習得することができる。

貧困問題の原因と結果について基礎的な知識を習得することができる。

これまで行われてきた国際協力についての基礎的な知識を習得することができる。

国際協力が世界の課題に対してどのような役割を担うことができるのか自分の言葉で説明をすることができる。

各回の論述や課題において、調べたり、論じるなどの態度の習得をすることができる。

< 授業のキーワード >

開発途上国、国際協力、NGO、NPO、国連機関、貧困

< 授業の進め方 >

授業内では、映像を使ったり、ワークを行ったりします。

< 履修するにあたって >

積極的な参加を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で出すキーワードについて、新聞やインターネットのニュースなどを利用して、事前1時間、事後2時間程度の学習が必要となります。

< 提出課題など >

授業の後に提出するショートレポート、中間レポート、最終レポートを課します。

ショートレポートやレポートに記載された共有すべき疑問や質問に対しては、振り返りやまとめで総括的にフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

授業の後に提出するショートレポート 40%

中間レポート 30%

最終レポート 30%

上記を総合的に評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

## < 授業計画 >

### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方について説明します。

### 第2回 世界の国々とSDGs

世界の国々とSDGsの取り組みについて検討します。

### 第3回 貧困とは

貧困とはどのような状況なのか、定義や状況について検討します。

### 第4回 世界の国々と貧困

先進国と途上国の関係から貧困を考えます。

### 第5回 貧困の原因と結果

貧困の結果と原因について検討します。

### 第6回 世界が100人の村だったら

「世界が100人の村だったら」を用いて、世界の貧困の状況について検討します。

### 第7回 貧困の現状と取り組み

世界の貧困の現状と取り組みについて、国を取り上げて検証します【ワーク】。

### 第8回 紛争・戦争

紛争や戦争が引き起こす様々な問題を検討します。

### 第9回 社会の不平等

平等と公平について検討します。

### 第10回 搾取

貧困の原因としての「搾取」について映像を用いて検討します。

### 第11回 児童労働

貧困の結果としての「児童労働」について映像を用いて検討します。

### 第12回 世界的な取り組み

国際協力における取組について検討します。

### 第13回 国際協力の担い手とその方法

国際協力に対する様々な担い手とその方法について検討します。

### 第14回 ソーシャルイノベーション

これからの国際協力について検証します。

### 第15回 これからの国際協力

これから求められる国際協力とは何かについて検討します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

国際協力論

江田 英里香  
-----

## < 授業の方法 >

### 【授業の方法】

授業は、「対面」で実施します。

授業の冒頭では、前回の授業のフィードバックや質問に対する回答を行います。

授業では、テキストを利用せず、授業当日のスライドの

みで授業をすすめます。必ず、ノートをとるようにしてください。

授業の最後には、その日の授業に対するショートレポートをオンライン（manaba）にて提出していただきます。

### 【中間レポート】

中間レポートを課しますが、レポートの提出後は学生同士がお互いのレポートを読み合う回を設けます。自分のレポートの書き方を客観的に見て、レポートの書き方そのものを学んでいただくことが狙いです。

### < 授業の目的 >

グローバル化が広がる一方で、対極にあるローカライゼーションの動きも強くなってきている現代、双方を合わせたグローカライゼーションが重要となっています。

本講座では、地球規模の課題や各国・地域の諸分野の課題に対して、国際協力ボランティアの役割と可能性について検証します。主に国際協力について具体的な課題として「教育の問題」をピックアップし、教育における国際協力の在り方について検討します。

「教育の問題」として、何が問題となっているのか、世界の教育の現状について検証したうえで、各国政府やNGOによる国際協力がどのように行われているのか検討します。また、実際に国際協力で自分たちができることを企画することで、社会のニーズとボランティア活動の価値について理解を深めていきます。

本講義を通して、国際協力についての知識のみならず、実践につながる能力を養うことを目的とします。

なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連します。

### < 到達目標 >

教育の問題における国際協力の役割について理解することができる。

グループワークを通して、聞く話すなどのコミュニケーション能力を習得することができる。

問題を解決するための活動の企画を立案することができる。

### < 授業のキーワード >

国際協力、教育開発、基礎教育、SDGs

### < 授業の進め方 >

授業内では、映像を使ったり、ワークを行ったりします。

### < 履修するにあたって >

ご自身の意見をしっかりと述べてください。他の学生さんとの意見交換（オンディマンドの場合には、前半部分

で紹介)を積極的に行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

テレビやインターネット、新聞などのニュース、文献やインターネットの記事などを中心に授業の前後1時間程度。

< 提出課題など >

授業内での課題レポート、毎回の授業でのミニツペーパーまたは小テスト、授業内小論文

これらに対するコメントや指導は、随時授業内でフィードバックとして説明します。

< 成績評価方法・基準 >

・毎回の授業でのミニツペーパーまたは小テスト  $\Rightarrow$  manabaにて提出のこと

・中間レポート  $\Rightarrow$  manabaにて提出のこと

・最終レポート  $\Rightarrow$  manabaにて提出のこと

上記を総合的に評価します。

< テキスト >

ありません

< 参考図書 >

随時指定します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

全15回の授業の予定についての説明を行います。

第2回 世界の国々と教育

世界の国々と教育について検討します。

第3回 教育について

教育の役割について検討します。

第4回 教育について

教育の役割について事例をもとに検討します。

第5回 教育の現状と課題

国内外の教育の現状について学びます。

第6回 教育の現状と課題

国内外の教育の現状について学びます。

第7回 教育の社会的意義

教育の課題を乗り越える方法について検証します。

第8回 世界の教育開発の変遷

世界の教育開発のこれまでの変遷について検討します。

第9回 教育格差

教育格差が起こる原因と結果について検証します。

第10回 途上国の子どもたち1【貧困】

途上国の子どもたちの問題を取り上げ、検証します。

第11回 途上国の子どもたち2【児童婚】

途上国の子どもたちの問題を取り上げ、検証します。

第12回 途上国の子どもたち3【戦争】

途上国の子どもたちの問題を取り上げ、検証します

第13回 国際協力の担い手

国際協力の担い手としての国連組織、ODAやNGOの役割について検討します。

第14回 自分たちにできる国際協力

自分たちにできる国際協力とは何か考えます。

第15回 授業全体を通して「教育支援」とは授業全体を通して

-----  
2022年度 後期

2.0単位

国際宗教比較論

グランバック リサ  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

本科目は、全学DPに示すように幅広い知識に基づいて他者および異文化を理解することができる。現代社会における宗教をめぐる状況は、国際的な社会変動の情勢を背景に、さらに複雑になりつつある。このようなグローバルな状況が私たちの生活にどのような問題をもたらすか、揺れ動く現代社会のなかで、「宗教」が持つ世界観とその現代的意義とはなにかについて理解を深めるため、諸宗教の歴史とその背景にある文化・社会的要因に注意を払いながら学修をすすめる。この科目はディプロマポリシー1(知識を習得する)に関連する。

< 到達目標 >

多様化・多元化していく現代社会を理解するためのひとつの手がかりとして世界の諸宗教の信仰と実践を、現代日本の宗教事情と比較しながら考察する。

< 授業のキーワード >

宗教・無宗教、世界観と現代社会、多様性、日常・非日常、生活と儀礼

< 授業の進め方 >

毎回の授業では配布資料をもとに講義、ディスカッションを行う。生徒は授業内課題をプレゼンする。授業内プレゼンは評価の対象とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の授業に関わる配布資料を事前に読んでおく。

< 成績評価方法・基準 >

講義への積極的な参加と授業内でのプレゼンを評価の対象とする。

< テキスト >

『一番わかりやすいキリスト教入門』 月本昭男(編修)、インフォヴィジュアル研究所(著) 東洋経済新報社

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

なぜ「宗教」を学ぶのか

第2回 宗教とは何か

「宗教」はどのように定義されるのか

信仰・無宗教、宗教性(スピリチュアリティ)、世界観(コスモロジー)

宗教の機能

第3回 神道から「宗教」を考え直す

「神道」はどんな宗教、「神」はどんなモノ  
 日常・非日常の意義  
 第4回 キリスト教 1  
 キリスト教の信仰と教え  
 第5回 キリスト教 2  
 現代社会を創ったプロテスタント派  
 第6回 キリスト教 3  
 キリスト教文化と現代アメリカ社会  
 第7回 ユダヤ教  
 儀式を通して歴史を覚え、よりいいひとになるために  
 第8回 イスラーム 1  
 イスラームの多様性、その教えと歴史  
 第9回 イスラーム 2  
 ムスリムたちの生活、礼拝、巡礼（ハッジ）  
 第10回 イスラーム3  
 モスク、宗教美術と文化  
 第11回 仏教 1  
 仏教の教え入門：「中道」、「無我」、「縁起」  
 宗教の多様性を考える：テーラワーダ仏教（上座部）、  
 チベット仏教、大乘仏教  
 第12回 儀式・儀礼と現代社会  
 クリスマスの歴史と変化  
 第13回 仏教 2  
 仏教の世界観（コスモロジー）：地獄・天界・極楽  
 第14回 仏教 3  
 仏教とキリスト教における「悪」  
 第15回 現代宗教  
 現代日本と宗教の在り方

-----  
 2022年度 後期  
 2.0単位  
 国際情勢論（連携）  
 前田 美子  
 -----

< 授業の方法 >  
 対面授業  
 < 授業の目的 >  
 紛争・テロ、気候変動、感染症の蔓延、人権侵害、貧困  
 など国境を越えて解決が求められる課題が山積している。  
 本授業では、国際情勢に関するメディアの情報を読み解  
 き、さまざまな地球規模の課題が自分たちの生活と密接  
 に関連していることを知り、解決策を議論することを目  
 的とする。  
 本授業では、ディプロマポリシーが掲げる「主体性を持  
 って多様な人びとと共同して学ぶ態度」を培うことを目  
 指す。  
 なお、本授業は、開発途上国で国際協力の仕事に従事し  
 た「実務経験のある教員」が担当する。  
 < 到達目標 >  
 日本に入ってくる世界の情報には偏りがあることを知

る。  
 地球規模の課題とそれを解決するための国際的な取り  
 組みについて理解する。  
 地球規模の課題が自らの生活と密接に関連しているこ  
 とを知り、その解決のために、現在そして将来の自分  
 には何が出来るか考えることができる。  
 < 授業のキーワード >  
 ニュース、地球規模の課題、SDGs  
 < 授業の進め方 >  
 ・講義、参加型学習（学生による発表を含む）  
 ・受講生の人数や国際情勢の変化により、講義内容およ  
 び講義の順番を変更することがある。  
 < 授業時間外に必要な学修 >  
 事前・事後学習として、授業で紹介された参考文献など  
 を読む、また発表資料を準備する（各回1 - 2時間程度）  
 < 提出課題など >  
 発表資料や振り返りの提出（フィードバックは授業内  
 に行う。）  
 < 成績評価方法・基準 >  
 ・発表や議論など、授業内のアクティビティへの積極  
 的な参加態度：25点（授業に出席するだけでは加点され  
 ない。）  
 ・授業内容に関する小テスト、発表資料や振り返りの提  
 出：15点×5回  
 < テキスト >  
 なし  
 < 参考図書 >  
 授業時に適時提示する。  
 < 授業計画 >  
 第1回 オリエンテーション  
 世界人口の構成と多様性を考える  
 第2回 ニュース  
 新聞の国際情勢に関するニュースを分析する  
 第3回 ニュース  
 新聞の国際情勢に関するニュースを分析する  
 第4回 SDGs（経済）  
 SDGsを通して地球規模の経済的課題を理解する  
 第5回 SDGs（社会）  
 SDGsを通して地球規模の社会的課題を理解する  
 第6回 SDGs（環境）  
 SDGsを通して地球規模の環境問題を理解する  
 第7回 水をめぐる地球規模の課題  
 水をめぐる環境問題について考察する  
 第8回 水をめぐる地球規模の課題  
 水をめぐる経済的問題について考察する  
 第9回 水をめぐる地球規模の課題  
 水をめぐる紛争問題について考察する  
 第10回 スマホをめぐる地球規模の課題  
 スマホをめぐる人権問題について考察する  
 第11回 スマホをめぐる地球規模の課題

スマホをめぐる紛争問題について考察する  
第12回 コロナ危機に対する地球規模の課題  
コロナ危機に対する世界の動きを考察する  
第13回 国際協調  
地球規模の課題への取り組みとしての国際協調の在り方  
について議論する  
第14回 国際協調  
地球規模の課題への取り組みとしての国際協調の在り方  
について議論する  
第15回 まとめ  
これまでの授業を振り返り、地球規模の課題に対して、  
現在そして将来の自分にできることは何かを考える

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

国内実習

柴田 真裕

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー3（主体性を  
持って多用な人々と共同して学ぶ態度）に関連する。  
SDGs（持続可能な開発目標）でも挙げられているが、今  
後の社会の変化に合わせ、持続的に存在していくために  
さまざまな取り組みがなされており、それは「防災」・  
「防犯」のみならず、エネルギー保全や、ICT活用など、  
さまざまな場面において見られる。  
本科目では、2030年に達成させるべきSDGsをテーマにそ  
の取り組みに触れると同時に、今後の社会のあり方を検  
討することを目的とする。

< 到達目標 >

社会防災学科在学中に必要な市民意識を身につける

< 授業のキーワード >

SDGsを通して、今後の社会のあり方を知ると同時に、私  
たちはどう生きていくべきかを考察する。

< 授業の進め方 >

SDGsとは何か、また現代社会の現状について考える。

サステイナブルな社会づくりを行なっている現場を見  
学する（主に東京都内）

ただし、新型コロナウイルスの影響により変更となる可  
能性が十分あります。

あらかじめご理解ください。

< 履修するにあたって >

3泊4日程度の学外実習を計画しています。

交通費、宿泊費等が発生します。

履修者15名までで実施いたします。

< 授業時間外に必要な学修 >

文献等で実習先について調べる

< 提出課題など >

事後レポートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

事後レポート50%、授業への参加度50%

< テキスト >

指定しない

< 参考図書 >

指定しない

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方についての説明を行う。

第2回 事前研修（SDGsについて）

事前の研修とSDGs（持続可能な開発目標）について理解  
を深める。

第3回 事前研修（SDGsについて）

SDGs（持続可能な開発目標）についてグループでまとめ  
る

第4回 事前研修（SDGsについて）

SDGs（持続可能な開発目標）についてまとめたことを発  
表する

第5回 サステイナブルな社会づくり（科学技術に関し  
て）

国立研究開発法人 日本科学未来館 視察

第6回 サステイナブルな社会づくり（科学技術に関し  
て）

国立研究開発法人 日本科学未来館 考察

第7回 サステイナブルな社会づくり（世界の現状を知  
る）

JICA東京 視察

第8回 サステイナブルな社会づくり（世界の現状を知  
る）

JICA東京 考察

第9回 サステイナブルな社会づくり（企業が行うSDGs  
）

panasonicセンター東京 視察と考察

第10回 サステイナブルな社会づくり（防災とまちづく  
り）

そなえりあ東京 視察と考察

第11回 サステイナブルな社会づくり（未来の暮らし）

Fujisawa SST 視察と考察

第12回 サステイナブルな社会づくり（次世代の通信）

NTTdocomo WHARF 視察と考察

## 第13回 事後研修

各自、学外実習での学びをまとめる

## 第14回 事後研修

グループで各自の実習の学びを共有し、討論を行う。

## 第15回 事後研修

グループの意見を集約し、学びの成果を発表する。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

国内実習

諏訪 清二  
-----

### < 授業の方法 >

学内では講義とワークショップ、実習、発表などを組み合わせた授業を行う。

3泊4日の高知県での視察、実習を含む。

### 連絡方法

seijisuwa@css.kobegakuin.ac.jp

seijisuwa@yahoo.co.jp

### < 授業の目的 >

・ 本科目は社会防災学科ディプロマポリシー3（主体性を持って多用な人々と共同して学ぶ態度）に関連している。

・ 防災において先進的な地方自治体や教育委員会、学校は様々な防災管理、防災教育を実施している。そういった、国内でも最先端の防災管理・防災教育にとりくむ現場を実際に見て学ぶ。

・ 小学校などで防災教育の授業を実施する機会を得て、学生が防災教育の実践を通してより良い防災教育の在り方を考え、教材開発などにとりくむ。

担当教員は、兵庫県立舞子高等学校環境防災科で長く防災教育を実践してきた。現在も、高知県など多くの地域、学校等で防災教育を広めるとりくみを進めている。本実習は、そのネットワークを使って行うものである。

### < 到達目標 >

- ・ 学生一人一人の防災意識が向上する。
- ・ 主体的にとりくむ姿勢が獲得・形成される。

### < 授業のキーワード >

- ・ 災害と防災に主体的に向き合う
- ・ 具体的な行動を起こす

### < 授業の進め方 >

・ 事前研修では、防災管理と防災教育の基礎についての講義、防災管理の課題を考えるワークショップ、実際に防災教育を実施するための教材・教授法の準備を進める。

・ 現地研修では、近い将来、発生が予測されている南海トラフ巨大地震と津波、山間部での土砂災害などの対策を積極的にすすめている高知県西部の市町で防災管理の現場を実際に視察し、自ら課題を設定して解決を図る。また、防災教育の実施者としての機会を得て、防災教育の準備、実践、総括を経て、防災教育の指導法、教材の開発などにとりくむ。

・ 事後学習では、現地での活動を総括し相互評価するとともに、具体的な成果物を作成して発表する。

### < 履修するにあたって >

2泊3日での学外実習を実施する。なお、履修者は15名を定員とする。

### < 授業時間外に必要な学修 >

文献、インターネット等で実習先について事前学習すること。

防災教育の方法について、事例を探しておくこと。

### < 提出課題など >

実習全体についての総括レポートの提出を求めます。

### < 成績評価方法・基準 >

総括レポート40%、キャンパスでの講義、実習への参加度30%、現地実習への参加度30%

### < テキスト >

指定しない

### < 参考図書 >

「防災教育の不思議な力」岩波書店

「防災教育の Teppan」 株式会社明石スクールユニファームカンパニー

### < 授業計画 >

第1回 ガイダンスと防災管理・防災教育の基礎

国内実習全体のスケジュール、学習内容の説明を理解する。

「防災管理・防災教育」の基礎的な知識を学ぶ。

第2回 日本の災害と防災

日本の災害の歴史、防災対策などを学び、将来の災害にどう備えるべきかをワークショップを通して考える。

第3回 これからの防災管理と防災教育

ワークショップで考えた防災管理・防災教育を発表し、相互評価する。

第4回 高知県の防災対策

高知県西部の市町で行われている防災対策についての講義を通して「防災管理」を学ぶ。

ワークショップを通して、課題とその解決策を考える。

## 第5回 防災対策の提案

ワークショップで考えた高知県の防災管理・防災対策を発表し、相互評価する。

## 第6回 高知県の防災教育

高知県西部の市町で行われている防災教育の実践を学ぶ。

## 第7回 防災教育教材の開発と授業設計

現地研修で行う防災教育の授業案を作成する。

## 第8回 防災教育教材の開発と授業設計

現地研修で行う防災教育の教材を準備する。

## 第9回 防災教育実践練習

現地研修で行う防災教育授業の模擬授業を通して内容、方法をブラッシュアップする。

## 第10回 現地研修

四万十町の津波防災対策視察

四万十町の津波襲来地域で、避難タワーや避難経路、避難場所などを視察し、街を挙げての津波防災対策を学ぶ。

## 第11回 現地研修

四万十町の小学校での防災教育実習

四万十町の小学校で各学年への防災教育を実施する。教職員と意見交換を行う。

## 第12回 現地研修

黒潮町にある中学校での防災教育の視察

県立高校での防災管理・防災教育のワークショップ

黒潮町の中学校で防災教育のとりくみを聞き、避難経路を実際に歩いて、防災対策を学ぶ。

県立高校で防災を学ぶ高校生と意見交換、ワークショップを行う。

## 第13回 現地研修

四万十市の小学校での防災教育実習

四万十町の小学校で各学年への防災教育を実施する。教職員と意見交換を行う。

## 第14回 事後研修

実習を通して設定した課題とその解決策、学んだことなどを発表し、相互評価する。

## 第15回 事後研修

総括を行う。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

国内実習

柴田 真裕

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー3（主体性を持って多用な人々と共同して学ぶ態度）に関連する。SDGs（持続可能な開発目標）でも挙げられているが、今後の社会の変化に合わせ、持続的に存在していくためにさまざまな取り組みがなされており、それは「防災」・「防犯」のみならず、エネルギー保全や、ICT活用など、さまざまな場面において見られる。

本科目では、2030年に達成させるべきSDGsをテーマにその取り組みに触れると同時に、今後の社会のあり方を検討することを目的とする。

< 到達目標 >

社会防災学科在学中に必要な市民意識を身につける

< 授業のキーワード >

SDGsを通して、今後の社会のあり方を知ると同時に、私たちはどう生きていくべきかを考察する。

< 授業の進め方 >

SDGsとは何か、また現代社会の現状について考える。

サステナブルな社会づくりを行なっている現場を見学する（主に東京都内）

ただし、新型コロナウイルスの影響により変更となる可能性が十分あります。

あらかじめご理解ください。

< 履修するにあたって >

3泊4日程度の学外実習を計画しています。

交通費、宿泊費等が発生します。

履修者15名まで

< 授業時間外に必要な学修 >

文献等で実習先について調べる

< 提出課題など >

事後レポートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

事後レポート50%、授業への参加度50%

< テキスト >

指定しない

< 参考図書 >

指定しない

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方についての説明を行う。

第2回 事前研修（SDGsについて）

事前の研修とSDGs（持続可能な開発目標）について理解

を深める。

### 第3回 事前研修 (SDGsについて)

SDGs (持続可能な開発目標) についてグループでまとめる

### 第4回 事前研修 (SDGsについて)

SDGs (持続可能な開発目標) についてまとめたことを発表する

### 第5回 サステナブルな社会づくり (科学技術に関して)

国立研究開発法人 日本科学未来館 視察

### 第6回 サステナブルな社会づくり (科学技術に関して)

国立研究開発法人 日本科学未来館 考察

### 第7回 サステナブルな社会づくり (世界の現状を知る)

JICA東京 視察

### 第8回 サステナブルな社会づくり (世界の現状を知る)

JICA東京 考察

### 第9回 サステナブルな社会づくり (企業が行うSDGs)

panasonicセンター東京 視察と考察

### 第10回 サステナブルな社会づくり (防災とまちづくり)

そなえりあ東京 視察と考察

### 第11回 サステナブルな社会づくり (未来の暮らし)

Fujisawa SST 視察と考察

### 第12回 サステナブルな社会づくり (次世代の通信)

NTTdocomo WHARF 視察と考察

### 第13回 事後研修

各自、学外実習での学びをまとめる

### 第14回 事後研修

グループで各自の実習の学びを共有し、討論を行う。

### 第15回 事後研修

グループの意見を集約し、学びの成果を発表する。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

国内実習

諏訪 清二  
-----

#### < 授業の方法 >

学内では講義とワークショップ、実習、発表などを組み合わせた授業を行う。

3泊4日の高知県での視察、実習を含む。

#### 連絡方法

seijisuwa@css.kobegakuin.ac.jp

seijisuwa@yahoo.co.jp

#### < 授業の目的 >

- ・ 本科目は社会防災学科ディプロマポリシー3 (主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度) に関連している。
  - ・ 防災において先進的な地方自治体や教育委員会、学校は様々な防災管理、防災教育を実施している。そういった、国内でも最先端の防災管理・防災教育にとりくむ現場を実際に見て学ぶ。
  - ・ 小学校などで防災教育の授業を実施する機会を得て、学生が防災教育の実践を通してより良い防災教育の在り方を考え、教材開発などにとりくむ。
- 担当教員は、兵庫県立舞子高等学校環境防災科で長く防災教育を実践してきた。現在も、高知県など多くの地域、学校等で防災教育を広めるとりくみを進めている。本実習は、そのネットワークを使って行うものである。

#### < 到達目標 >

- ・ 学生一人一人の防災意識が向上する。
- ・ 主体的にとりくむ姿勢が獲得・形成される。

#### < 授業のキーワード >

- ・ 災害と防災に主体的に向き合う
- ・ 具体的な行動を起こす

#### < 授業の進め方 >

- ・ 事前研修では、防災管理と防災教育の基礎についての講義、防災管理の課題を考えるワークショップ、実際に防災教育を実施するための教材・教授法の準備を進める。
- ・ 現地研修では、近い将来、発生が予測されている南海トラフ巨大地震と津波、山間部での土砂災害などの対策を積極的にすすめている高知県西部の市町で防災管理の現場を実際に視察し、自ら課題を設定して解決を図る。また、防災教育の実施者としての機会を得て、防災教育の準備、実践、総括を経て、防災教育の指導法、教材の開発などにとりくむ。
- ・ 事後学習では、現地での活動を総括し相互評価するとともに、具体的な成果物を作成して発表する。

#### < 履修するにあたって >

2泊3日での学外実習を実施する。なお、履修者は15名を定員とする。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

文献、インターネット等で実習先について事前学習すること。

防災教育の方法について、事例を探しておくこと。

< 提出課題など >

実習全体についての総括レポートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

総括レポート40%、キャンパスでの講義、実習への参加度30%、現地実習への参加度30%

< テキスト >

指定しない

< 参考図書 >

「防災教育の不思議な力」岩波書店

「防災教育の Teppan」株式会社明石スクールユニフォームカンパニー

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと防災管理・防災教育の基礎

国内実習全体のスケジュール、学習内容の説明を理解する。

「防災管理・防災教育」の基礎的な知識を学ぶ。

第2回 日本の災害と防災

日本の災害の歴史、防災対策などを学び、将来の災害にどう備えるべきかをワークショップを通して考える。

第3回 これからの防災管理と防災教育

ワークショップで考えた防災管理・防災教育を発表し、相互評価する。

第4回 高知県の防災対策

高知県西部の市町で行われている防災対策についての講義を通して「防災管理」を学ぶ。

ワークショップを通して、課題とその解決策を考える。

第5回 防災対策の提案

ワークショップで考えた高知県の防災管理・防災対策を発表し、相互評価する。

第6回 高知県の防災教育

高知県西部の市町で行われている防災教育の実践を学ぶ。

第7回 防災教育教材の開発と授業設計

現地研修で行う防災教育の授業案を作成する。

第8回 防災教育教材の開発と授業設計

現地研修で行う防災教育の教材を準備する。

第9回 防災教育実践練習

現地研修で行う防災教育授業の模擬授業を通して内容、方法をブラッシュアップする。

第10回 現地研修

四万十町の津波防災対策視察

四万十町の津波襲来地域で、避難タワーや避難経路、避難場所などを視察し、街を挙げての津波防災対策を学ぶ。

第11回 現地研修

四万十町の小学校での防災教育実習

四万十町の小学校で各学年への防災教育を実施する。教職員と意見交換を行う。

第12回 現地研修

黒潮町にある中学校での防災教育の視察

県立高校での防災管理・防災教育のワークショップ

黒潮町の中学校で防災教育のとりくみを聞き、避難経路を実際に歩いて、防災対策を学ぶ。

県立高校で防災を学ぶ高校生と意見交換、ワークショップを行う。

第13回 現地研修

四万十市の小学校での防災教育実習

四万十町の小学校で各学年への防災教育を実施する。教職員と意見交換を行う。

第14回 事後研修

実習を通して設定した課題とその解決策、学んだことなどを発表し、相互評価する。

第15回 事後研修

総括を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

災害医療論

中田 敬司

-----  
< 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。自然災害・人為的災害・複合災害等についての理解を深め大規模災害時の効果的医療活動のあり方について海外での災害医療援助活動を視野に入れながら考えることができるようになるため以下のことを目標に授業を実施する。あわせて組織論・リーダーシップ・チームワーク・マネジメント・ロジスティクス等もふくめ 講義のみならずシミュレーション設定やグループディスカッション・発表・解説といったスタイルで進める。教官は経験に基づき実際の災害医療現場について指導する。国際災害医療援助を含め災害医療体制づくりに必要な基礎的知識と医療活動に必要な判断力・行動力・協調性・積極性等をグループワー

クを活用した授業を実施する。

なおこの授業の担当者は15年以上災害医療分野に関わった実務経験のある教員である。また、実践的教育から構成される科目である。よって実際の現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

<到達目標>

- 1 災害とは何か、その定義や基本的考え方、及び3つの種類について理解できる。
- 2 災害の種類やタイプについて具体的にどのようなものがあるか理解できる。
- 3 大規模災害時における効果的医療支援の在り方について考えることができる。
- 4 トリアージについて、そのカテゴリー及び一次・二次トリアージ方法について理解できる。
- 5 組織論について、組織の定義・成立の3要素・TMI理論・組織目標達成要件を理解し、活用ができる。
- 6 ロジスティクス(輸送・調達・通信・記録・情報収集・伝達等)の重要性について理解できる。
- 7 国際災害支援の特殊性について<亜急性期からの活動の特徴を理解でき、その対応を考えることができる。>
- 8 NGOや政府医療チーム・DMATメンバーとして災害現場に赴いて頑張りたいと意識できる。

<授業のキーワード>

国際災害、災害医療、トリアージ、ロジスティクス、PTSD

<授業の進め方>

講義とともに少人数のグループワークも取り入れます。

<履修するにあたって>

授業への積極的参加姿勢を望むとともに実習ではリーダーシップ、メンバーシップを發揮して欲しい。

<授業時間外に必要な学修>

3回の授業に一回程度で小テストを実施し理解度を確認するとともに、各回の授業終了の際、予習箇所について明示する。事前および事後学習にそれぞれ1時間

<提出課題など>

レポートの提出およびレポート内容について授業の中でフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

課題レポート70%、プレゼンテーション30%

<テキスト>

随時紹介

<参考図書>

災害医学 改訂2版 南山堂

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義目的と講義の進め方・評価基準

第2回 災害とは

災害の定義・災害医療総論・リーダー決めとグループづ

くり

第3回 災害医療総論

災害サイクルについて

第4回 災害時の生活環境と医療活動・ニーズ

災害発生時の生活環境・避難所の問題と対応・医療ニーズの変化

第5回 トリアージの基礎知識

トリアージの基礎知識とトリアージ実習

第6回 災害時の精神保健

災害時特有の精神疾患について・事例とその対応(国際災害時の対応)

第7回 国際災害医療活動における安全管理

安全管理の重要性と危機管理対策・シミュレーション(実習)

第8回 災害医療のロジスティクス概論

国際災害医療活動のロジスティクス・シミュレーション(実習)

第9回 国際災害医療活動の実際

国際災害活動の事例報告と検討

第10回 国内災害における援助活動

国内災害の状況とその対応について

第11回 DMATの活動

DMATの意義と活動及び研修について

第12回 緊急援助チームの組織論

チームビルディング

第13回 緊急援助チームの組織論

リーダーシップ論

第14回 ケーススタディ

総合シミュレーション

第15回 学んだ内容の整理と確認

学んだ内容の整理と確認

-----  
2022年度 前期

2.0単位

災害救助の方法

松山 雅洋  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1知識・技能に関連する。

大災害時の被害を軽減するには、市民の自助・共助が不可欠である。災害時の市民の助け合いに貢献できるように、避難支援の方法や市民が行える災害救助技術に関する知識を習得する。

この科目の担当者は、消防職員として救急救助の実務経験がある教員である。実務経験を踏まえて分かりやすく解説する。

<到達目標>

災害時の市民の助け合いの必要性を理解する。  
市民が行える災害救助技術に関する知識を習得する。  
津波、河川、土砂災害時の避難支援の方法を習得する。  
< 授業のキーワード >  
災害時の市民の助け合い、避難支援、救助  
< 授業の進め方 >  
知識が身につくように実例を示して授業を進める。  
毎回のテーマを小レポートに記入することで共通の理解を深める。  
< 履修するにあたって >  
火災や自然災害に興味を持つこと。後期科目の「災害救助実習」受講希望者は、原則としてこの科目を受講すること。manabaの使用方法を確認しておくこと。  
< 授業時間外に必要な学修 >  
火災、地震、風水害等の報道を注目すること。  
< 提出課題など >  
授業の理解度に関する小レポートを毎回実施し、次の授業時に総評を行う。  
< 成績評価方法・基準 >  
授業態度20%、小レポート40%、課題レポート40%  
< 授業計画 >  
第1回 授業ガイダンス  
シラバスの説明と授業の進め方。  
第2回 災害救助概論  
市民救助の必要性と災害救助活動の原則を学ぶ。  
第3回 現場指揮と安全管理  
避難支援・救助の指揮と安全管理を学ぶ。  
第4回 救助資機材と物理学  
救助資機材と物理、力学について学ぶ。  
第5回 クラッシュシンドロームと高エネルギー事故  
救助現場で留意すべきクラッシュシンドロームや高エネルギー事故について学ぶ。  
第6回 倒壊家屋からの救助  
ヘビーウエイトリフティング・ムービングやシュアリングなどの倒壊家屋の救助方法について学ぶ。  
第7回 火災から救助・避難支援  
火災の性状と大規模火災時の消火、救助、避難支援について学ぶ。  
第8回 水難救助  
水難事故での救助方法について学ぶ。  
第9回 ロープワーク  
基本的なロープワークレスキューを学ぶ。  
第10回 津波での救助・避難支援  
津波での避難支援、救助活動の特性について学ぶ。  
第11回 土砂災害の避難支援・救助  
土砂災害での避難支援、救助活動の特性について学ぶ。  
第12回 搬送法  
徒手搬送、ロープ搬送、担架搬送の方法を学ぶ。  
第13回 感染防止  
感染防止方法を学ぶ。

第14回 日本の救助体制  
消防、警察、自衛隊の救助について学ぶ。  
第15回 総括  
全講義の要点を確認し、救助の方法について理解を深める。  
-----  
2022年度 後期  
1.0単位  
災害救助実習  
松山 雅洋  
-----  
< 授業の方法 >  
実習  
< 授業の目的 >  
この科目は、社会防災学科ディプロマポリシーに掲げる災害に対する事前の備えや事後の社会的混乱の最小化の実現するための専門知識を身に着けることができ、社会防災学科ディプロマポリシー1知識・技能に関連する。大災害の被害を軽減するには、市民の自助・共助が不可欠である。本実習では、災害時の避難支援の方法や市民が行える災害救助技術を身に着けることによって、災害時の市民の助け合いに貢献できる人材を育成する。この科目の担当者は、消防職員として救急救助の実務経験がある教員である。実務経験を踏まえて分かりやすく解説する。  
< 到達目標 >  
災害時の市民の助け合いの必要性を理解する。  
市民が行える災害救助技術を身に着ける。  
< 授業のキーワード >  
災害時の市民の助け合い、救助技術  
< 授業の進め方 >  
実習は安全管理を徹底して行う。  
< 履修するにあたって >  
原則として前期科目の「災害救助の方法」を履修しておくこと。定数20名とする。  
実習に必要なグローブ、安全靴等の経費は実費。受講前に金額等は案内する。  
< 授業時間外に必要な学修 >  
各講義、実習の復習をしっかりと行うこと。  
< 提出課題など >  
数回、授業に関する小レポートを実施する。  
< 成績評価方法・基準 >  
授業態度40%、授業の理解度に関する小レポート30%、実習貢献度30%  
< 授業計画 >  
第1回 授業ガイダンス  
シラバスの説明と授業の進め方  
第2回 現場指揮と安全管理  
避難支援・救助の指揮と安全管理を学ぶ。  
第3回 地震体験と消火訓練  
地震時の身体防護、火災の消火訓練を行う。第3回から

第6回は、兵庫県広域防災センターで10月の日曜日(9時～17時)に実施する。

#### 第4回 倒壊家屋からの救助訓練

身近にある道具での倒壊家屋からの救助訓練を行う。第3回から第6回は、兵庫県広域防災センターで10月の日曜日(9時～17時)に実施する。

#### 第5回 ロープワーク

ロープワークの基本訓練を行う。第3回から第6回は、兵庫県広域防災センターで10月の日曜日(9時～17時)に実施する。

#### 第6回 煙の中の行動訓練

耐熱耐煙訓練室で煙の中の行動訓練を行う。第3回から第6回は、兵庫県広域防災センターで10月の日曜日(9時～17時)に実施する。

#### 第7回 レスキューシステムの理論

レスキューシステムがどのようにして生まれたのかなどの基本的内容を学習する。

#### 第8回 レスキューシステムの実践

レスキューシステムのうち、ベビーウェイトリフティング、クリビングを習得する。

#### 第9回 着衣泳法

着衣泳法、溺水救助の実技を習得する。第9回,10回は、ホトアイランドスポーツセンターで

10月の土曜日午前に実施する。

#### 第10回 着衣泳法

着衣泳法、溺水救助の実技を習得する。第9回,10回は、ホトアイランドスポーツセンターで

10月の土曜日午前に実施する。

#### 第11回 ロープワークと搬送法

役に立つロープワークと搬送法の実技を習得する。

#### 第12回 ロープワークと搬送法

役に立つロープワークと搬送法の実技を習得する。

#### 第13回 消防トレーニング理論

消防のトレーニング理論を学ぶ。

#### 第14回 消防トレーニングの実践

消防のトレーニングを実践する。

#### 第15回 総括

全講義の要点を確認し、災害時の救助方法についての理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

災害情報論

安富 信  
-----

#### < 授業の方法 >

座学が基本だが、授業中の積極的な意見発表を促す。レポートを書くための練習時間も授業に取り入れ、中間で一度、レポート作成時間を作り、添削して返却する。

#### < 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー1(社会科学および人文科学を中止とした学際的な学修を通じて、現代社会で起こりうる災害に対する事前の備えや、事後の社会的混乱の最小化を実現するための専門知識を身につけ活用することができる)を身に付ける。

近年多発する地震、水害などの自然災害において、地方自治体が住民に発する情報は極めて重要なアイテムになっている。しかしながら、その発信の仕方やツールなどの不十分さがあり、必ずしも住民に伝わっているとはいえない。「命を守るための」情報が、現状では「命を守れていない」のが実情だ。どうすれば、災害時に住民が適切な避難行動をすべきかを学ぶ。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

自然災害における自治体の情報発信とは何かを理解することができる。過去の大地震などでのマスコミの報道の事例を理解できる。

#### < 授業のキーワード >

命、情報

#### < 授業の進め方 >

授業計画に沿って進めるが、新たな災害の発生などがあれば、テーマを変更することがある。毎回出席カードに授業の感想などを書いてもらう。毎日、新聞を読み、とくに災害事象について理解してほしい。季節感を大切に、情報に敏感になる。おしゃべり、居眠りする学生は退室してもらいます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

新聞を読み、テレビを見て、ラジオを聴くなど最低2時間、予習、復習する。

#### < 提出課題など >

期末レポートの提出を求め、評価付けして返却する。

#### < 成績評価方法・基準 >

毎回の授業の感想文(30%)、期末レポート(70%)

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

本講座の概要と進め方

##### 第2回 災害情報とは

災害情報の基礎を学ぶ

##### 第3回 災害情報とは

災害情報のツールを学ぶ

##### 第4回 災害情報とは

政府や地方自治体などが発する災害情報の種類を学ぶ

##### 第5回 災害情報の課題

地方自治体の発信する災害情報の課題を学ぶ

##### 第6回 災害情報の課題

## 新しい時代の災害情報

### 第7回 災害報道の基礎

阪神・淡路大震災とそれ以前の災害での報道を考える

### 第8回 災害報道 阪神淡路大震災

阪神・淡路大震災でのマスコミ報道の課題を学ぶ1（集团的過熱取材）

### 第9回 災害報道 阪神淡路大震災

阪神・淡路大震災でのマスコミ報道の課題を学ぶ2（ヘリコプター取材）

### 第10回 災害報道 阪神淡路大震災

阪神・淡路大震災でのマスコミ報道の課題を学ぶ3（広報）

### 第11回 災害報道 阪神淡路大震災まとめと振り返り

阪神・淡路大震災でのマスコミ報道の課題を学ぶ、まとめ（役に立つ報道とは）

### 第12回 災害報道 阪神淡路大震災以降

阪神・淡路大震災以降の災害でのマスコミ報道から学ぶ

### 第13回 災害報道 東日本大震災

東日本大震災でのマスコミ報道から学ぶ

### 第14回 レポート試験

災害情報についてレポートを書く

### 第15回 レポート返却と振り返り

災害情報についてのレポートの採点・添削を返却し、授業全体を総括する

-----  
2022年度 後期

2.0単位

災害情報論

安富 信

#### < 授業の方法 >

座学が中心だが、積極的な意見発表、意見交換を促す。災害情報論 よりも長いレポートを書くための時間も設け、途中で書いてもらい、添削もする。

#### < 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー1（社会科学および人文科学を中止とした学際的な学修を通じて、現代社会で起こりうる災害に対する事前の備えや、事後の社会的混乱の最小化を実現するための専門知識を身につけ活用することができる）を身に付ける。講義を進めている間に毎年のように、水害や噴火災害、地震が発生するので、適宜、これらを取り上げ、解説する。「減災の正四面体」とは何かも学ぶことが最大のポイントだ。さらに、マスコミの災害報道などで惹き起こされる「風評被害」とは何かを学び、住民にとって有益な災害情報とは？ 災害報道とは？を考えたい。また、余裕があれば、東日本大震災での大津波により、炉心溶融という大事故を惹き起こした東北電力福島第一原子力発電所での情報発信についても考えたい。現代社会に於ける最大級ともいえる危機管理事象に於いて、政府や東京電力が国民や住民に対してどの

ような発信をしたのかを検証し、クライシスコミュニケーションやアウトリーチといった最新の情報発信論も学ぶ。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

危機管理事象に於ける情報発信のあり方を理解でき、災害情報論 で学んだ、「命を守る情報」についてさらに理解を深める。災害時のマスコミ報道はいかにあるべきかも考えることができる。

#### < 授業のキーワード >

震災、津波、原発、危機管理、減災の正四面体

#### < 授業の進め方 >

授業計画に沿って進めるが、新たな危機管理事象の発生があれば、この限りにない。毎回出席カード学んだことに関する感想をしっかりと書いてもらう。なるべく毎日、新聞を読み、災害報道をしっかりと理解してほしい。新たな災害の発生により、シラバス通りに進まないことは毎年のようにある。

#### < 履修するにあたって >

レポートや感想文はしっかりと書いてもらう

#### < 授業時間外に必要な学修 >

日々、新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミに触れる。予習、復習を最低2時間程度する。

#### < 提出課題など >

レポートのほか、毎回の出席カード感想文はしっかりと書いてもらう。（遠隔授業の場合はマナバに感想を書いてもらう）。レポートは評価して返却する。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業中の態度、発表、感想文、適宜のレポート（40%）、期末レポート（60%）

#### < テキスト >

授業で示す

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

本講座の概要と進め方

##### 第2回 東日本大震災について

東日本大震災の概要について学ぶ

##### 第3回 大津波について

東日本大震災で発生した大津波の意味を考える

##### 第4回 福島第一原発の基礎を学ぶ

福島第一原発の立地、その他について学ぶ

##### 第5回 福島第一原発の基礎を学ぶ

わが国に於ける原発立地の意味と現状

##### 第6回 福島第一原発の基礎を学ぶ

事故はどのようにして起きたのか

##### 第7回 福島第一原発事故について学ぶ

住民の避難は？

第8回 福島第一原発事故について学ぶ

政府の対応、保安院

第9回 福島第一原発事故について学ぶ

その時マスコミは？

第10回 福島第一原発事故の情報発信について

何故大事故になったのか？

第11回 福島第一原発事故の情報発信について

後手後手の政府対応、わからない記者会見

第12回 福島第一原発事故の情報発信について

いわゆる朝日新聞の誤報とは？

第13回 福島第一原発事故の影響について

福島の現状と他の原発への影響

第14回 危機管理事象に於ける情報発信

危機管理事象に於いて、当事者はどのような情報発信をすべきかを考える

第15回 振り返りと発表

全14回の講義から、危機管理事象下の情報発信について、まとめ、発表する

-----  
2022年度 前期

2.0単位

災害の社会学

伊藤 亜都子

-----  
< 授業の方法 >

対面

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー 1（知識・技能）、2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

自然災害がもたらす被害は、その社会のあり方と深い関係を持っており、大規模な災害は、われわれの社会のあり方を問い直すものである。社会学的な視点から災害について考察し、緊急時にも平常時にも強いまちづくり・社会づくりを考える。

なお、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災の震災資料の収集整理を行う震災資料専門員として、被災者個人および仮設住宅、災害ボランティア団体などを数多く訪問してきた実務経験のある教員である。従って、当時の様子について、実際に見聞きしてきたものを当時の資料を活用しながら、解説する予定であり、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

1. 災害の社会学に関する基礎的な知識を習得する。
2. 災害について、社会のあり方と関連づけて考えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

社会学、脆弱性、回復力、地域防災、災害ボランティア、

災害弱者、ジェンダー、災害文化

< 授業の進め方 >

原則として対面で授業を進めます。

資料等は随時、配布します。講義、グループワークなどを取り交えて実施します。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習、復習(各1時間程度)を行う。

< 提出課題など >

授業時間内の小レポート、小テストなど。

< 成績評価方法・基準 >

毎授業内の小レポートと取組態度(50%)、グループ発表(10%)、授業内小テスト(40%)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとイントロダクション

まず、ガイダンスとして授業の進め方や内容について説明します。続いて、イントロダクションとして、「社会学とは」について簡単に説明します。

第2回 災害と社会の関係(1)

災害と社会の関係を考えるために、「脆弱性Vulnerability」と「復元=回復力Resilience」について学びます。

第3回 災害と社会の関係(2)

災害と社会の関係を考えるために、「ロジスティック」、災害時のエージェント(自助、共助、公助)について学びます。

第4回 日本人の災害観について

災害に対する考え方(天災論、人災論、共生論など)から、災害に対する考え方の変遷を学び、現在の防災に対する意識について考えます。

第5回 災害における生命と心

災害の原因別の死者・行方不明者の状況、死因、「災害関連死」、「心のケア」などについて考える。

第6回 避難行動と防災意識

津波や水害時の避難行動(あるいはなぜ避難しないのか)、防災知識・防災意識向上の必要性について考えます。

第7回 災害文化と防災教育(1)

防災意識、災害文化とは。「釜石の奇跡」から、津波防災と避難行動について考える。

第8回 災害文化と防災教育(2)

「釜石の奇跡」から、「風化」、子どもたちへの教育の重要性について考える。

第9回 災害文化と防災教育(3)

「釜石の奇跡」から、巨大防波堤、地域を巻き込んだ防災教育、ハザードマップの使い方、などについて考える。

第10回 災害弱者について(1)

高齢者、障害者、外国人、妊産婦、幼児、疾病者などが災害時に置かれる環境について学びます。

第11回 災害弱者について(2)

地域における災害時要援護者への対応と課題について考

えます。

## 第12回 災害とジェンダー

災害時の環境について女性の視点から考えます。

## 第13回 災害と地域防災について

災害に対して、地域でどのように対応すればよいだろうか。ワークショップ形式でシミュレーションを行う。

## 第14回 原子力災害

東日本大震災によって生じた原発事故によって、長期的な避難生活をされている人々について学び、リスク社会について考える。

## 第15回 復習

これまでの授業全体をふりかえり、総括を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

災害復興研究

宮定 章  
-----

### < 授業の方法 >

「講義」、「演習」、「実習」

### < 授業の目的 >

災害からの復興について、時系列的に流をつかみ、その時々が生じる問題について把握することを目標とする。特に、復興まちづくりに注目する。被災地における復旧・復興の考え方や大まかな流れについて、阪神・淡路大震災や東日本大震災をもとにつかんだうえで、避難生活、住宅再建、産業の復興、まちの復興などの側面について学ぶ。それぞれの局面において誰がどのような役割を果たしたのかについて、自助・共助・公助、あるいは協働、中間支援などの考え方をもとに考える。

本講義は、防災地域支援の実務経験のある教員が、地域に焦点を充てる実践的教育から構成される授業科目である。

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

### < 到達目標 >

被災地の生活再建の状況を、講義、フィールドワークにて、学際的に把握することにより、平常時における生活や家族の持続性について考え、災害に備えるとはどういうことかを意識、知識を得ることを到達目標とする。

### < 授業のキーワード >

災害被害、復興事業、生活再建、フィールドワーク、現場

### < 授業の進め方 >

講義、グループワーク、現地フィールドワーク等を取り入れて授業を進める。

「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク(1回/日)を日曜日に行う。それには、4講義分を充当する。よって、大学の教室では、11講義である。現地フィールドワークの日程等については、講義の前半に伝える。

履修希望者は初回と2回目の授業に「必ず」出席のこと。受講上の諸注意事項(約束事・講義開催日の日程、現地フィールドワークの日程)、授業内小レポートの執筆・提出等についての規定について初回と2回目の授業で「一度だけ」詳しく説明しますので、必ず出席してください。

受講者の理解度により、講義を進めていく中で、各回のテーマや事例を若干変更する可能性があります。

講義内容によって、数回の対面授業を行う場合がある。受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

第1回目の講義で説明致しますので、受講希望の方は、必ず出席してください。

### < 履修するにあたって >

小レポートは、議論を深めるため受講生同士で、各々書いた文章を見せ合います。小レポートを元に、発表や議論したり等を行うことがあります。

フィールドワークでは、被災した方等に会います。震災の事を、真摯に受け止めることを基本とします。

### < 授業時間外に必要な学修 >

レポート(3回)を書くために、準備が必要な場合。(事前・事後学習各1時間程度)

### < 提出課題など >

レポート(3回)

### < 成績評価方法・基準 >

授業内容の区切り(2~3週ごと)に、3回の小レポートを執筆していただきます。

講義最終日にを行います。

小レポート3回の得点(200点満点×3回)と授業内試験(400点満点)の合計点(1000点)を100点に圧縮して評価点とします。

小レポートは記述方式で、講義のテーマに沿って、自身の考えとの共通部分、相違点を、記述していただきますので、講義に出席することをお勧めします。

### < 参考図書 >

・大矢根淳他編『復興コミュニティ論入門』弘文堂,2007年(購入可)

・阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション編『『共働』共同建替事業の記録~「みくら5」の完成まで~』,2004年(購入可)

・認定NPO法人 まち・コミュニケーション編『月刊まち・コミ』(下記WEBにて閲覧可) <http://machi-comi.wjg.jp/m-comi/magazine/database.htm>

### < 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と配点の説明

第2回 阪神・淡路大震災の住宅被害と再建

神戸市の人的・建物被害、人口の動向、復興制度、産業

第3回 復興事業と住民参加

各地区で行われた復興事業と住民参加の事例について学ぶ

#### 第4回 阪神・淡路大震災とボランティア・NPO

ボランティア元年と言われた阪神・淡路大震災、様々なボランティア・NPO組織について学ぶ

#### 第5回 被災者の生活再建と各組織の対応

発災1年～5年を対象とする。

#### 第6回 被災者の生活再建と各組織の対応（発災5年～10年 成熟期）

発災5年～10年を対象とする。

#### 第7回 被災者の生活再建と各組織の対応（発災10年～20年 多様期）

発災10年～20年を対象とする。

#### 第8回 東日本大震災について

既成市街地の復興（地方の商店街）・漁村部の被害と生活再建について学ぶ。

#### 第9回 東日本大震災について

漁村部（町中・浜）の復興計画策定と住民参加について学ぶ

#### 第10回 東日本大震災について

従前地域から転出した被災者の生活再建について学ぶ。

第11回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

「阪神・淡路大震災25年目」現地フィールドワーク

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

第12回～第15回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

「阪神・淡路大震災25年目」現地フィールドワーク

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

第13回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

「阪神・淡路大震災25年目」現地フィールドワーク

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

第14回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク振り返り（1回/日）を日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

「阪神・淡路大震災25年目」現地フィールドワーク

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

#### 第15回 授業内試験と答え合わせ。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

災害分析の基礎

佐伯 琢磨  
-----

<授業の方法>

講義形式で解説する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

我々の生活は、地震、津波、噴火、豪雨、地すべり、雪崩などの自然災害の「リスク」と切り離すことができない。これらの災害は、同じような土地条件や社会環境のところで繰り返し発生している。本講義では、まず、データを集計し分析する技術の一つである統計学の基礎的手法とリスクを定量的に評価するために必要となる確率の考え方とを習得する。その後、既往の災害事例および比較的災害の発生頻度が高い災害や一度発生するとその規模が大きい災害に絞って、災害の分析方法を学び、例題を演習として行う。その結果、災害の発生要因が分かり、防災・減災の方向性を理解する。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ講義を行う。

<到達目標>

これまでに培われた自然災害に関する科学的研究成果や被災経験・教訓などの「知」を最大限に活かし、その結果を防災・減災に役立て、地域の防災力を向上するための基礎的知識の習得することができる。

<授業のキーワード>

災害発生の統計処理と発生確率

<授業の進め方>

まず、災害に内容および分析方法について説明する。演習を通して、内容を理解する。

なお、事前・事後学習各1時間程度の授業時間外の自習を課し、授業の中で、回答例等を示し解説・講評並びにフィードバックやコメントを行う。

<履修するにあたって>

Excelを使った経験がある方が望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

世の中で発生した災害に対して、その報道内容に注目し

ておくこと

< 提出課題など >

演習課題をmanabaで提出。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験（60％）、小テスト（40％）で評価する。

< テキスト >

指定しない、適宜資料を配布する。

< 参考図書 >

・今野紀雄著：図解雑学「統計」、ナツメ社

< 授業計画 >

#### 第1回 ガイダンス

「災害分析の基礎」の進め方について説明し、以降の各章の位置づけを確認する。

#### 第2回 データの特徴をつかむには

集計表とグラフ、ヒストグラム作成について説明し、例題を演習として行う。

#### 第3回 データの基礎集計

度数分布を統計量を用いて記述する方法を学ぶ。変数の分布の中心を表す代表値について、例題を演習として行う。

#### 第4回 ばらつきとは

平均からのバラつきを把握する重要性について説明し、分散、標準偏差について演習を通じて学ぶ。

#### 第5回 順列と組み合わせ

二項分布や正規分布を導出するための基礎となる、順列および組み合わせについて学ぶ。

#### 第6回 二項分布

正規分布のもととなる、二項分布について学ぶ。

#### 第7回 正規分布

様々な物理現象を説明するのに役に立つ、正規分布について学ぶ。

#### 第8回 正規分布の災害分野への応用

災害分野における様々な現象への、正規分布の適用事例について、紹介する。

#### 第9回 回帰分析

説明変数と目的変数の関係を分析するのに役立つ、回帰分析について学ぶ。

#### 第10回 数量化 類

回帰分析では扱えないカテゴリ分けされたデータについても扱える数量化理論のうち、数量化 類について学ぶ。

#### 第11回 回帰分析と数量化 類の災害分野への応用

災害分野におけるデータ分析において、応用されている回帰分析と数量化 類の事例について、紹介する。

#### 第12回 長期的な地震の発生確率について

政府の地震調査研究推進本部（地震本部）では、地震の発生確率の長期評価を行い、確率論的地震動予測地図を作成しているが、その導出方法について解説する。

#### 第13回 ふりかえり（1）

自然災害を実際に分析し、防災計画には被害内容の把握が重要であることを学ぶ。

#### 第14回 ふりかえり（2）

自然災害を実際に分析し、防災計画には被害内容の把握が重要であることを学ぶ。

#### 第15回 ふりかえり（3）

自然災害を実際に分析し、防災計画には被害内容の把握が重要であることを学ぶ。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

災害臨床心理学

高橋 哲  
-----

< 授業の方法 >

対面授業でおこないます。

< 授業の目的 >

1 阪神大震災における日本臨床心理士会現地活動本部長

2 スマトラ沖地震における兵庫県教委派遣によるスリランカ、インドネシアなどでの現地の支援者研修

3 中国四川大地震でのJICA派遣による現地の支援者に対する研修

4 東日本大震災における文部科学省委託被災地担当スーパーバイザーとしての東北三県の学校支援

などの被災地支援経験を踏まえ

1 被災体験の後で人々の心にどのような変化が起こるのか

2 その心の変化から人々はどのようにして回復するのか

を明らかにし、心の専門家ではない立場でも可能な災害後の心理支援の方法を学び、初歩的な心理支援を実践できる技術を習得する。

< 到達目標 >

災害が発生した後の心の変化について理解する。

災害後に傷ついた心の回復のプロセスについて理解する。専門家以外でもできる心理支援の方法（傾聴、リラクゼーション法、など）を習得する。

< 授業のキーワード >

災害後の心の変化

こころのケア

被災体験

心の回復プロセス

PTSD

トラウマカウンセリング

リラクゼーション

ストレスチェックリスト

< 授業の進め方 >

講義に加え、ロールプレイなど、学生自身が考えていく実習を取り入れながら授業を進める。

ストレスチェックなどを実施し、自分自身への理解を深める。

リラクゼーション法を体験し、習得する。

<履修するにあたって>

自分で考えることが基本になるので、レポート課題に際しては、ユニークで、個性的なものを作成し提出してください。

<授業時間外に必要な学修>

災害に関する報道などを詳細に確認するようにしてください。

新型コロナウイルス感染症被害についても、多くの報道をチェックするようにしてください。

<提出課題など>

中間レポート1200字程度

最終レポート複数課題、あわせて2000字程度<

<成績評価方法・基準>

1 災害後の心の変化、また回復過程について、基礎的な知識が身についているか

2 災害後の心理的な援助を行うための初歩的な技術が習得できているか。

3 被災者に対する共感的な態度が見についているかを評価します。

評価方法

12月ごろの中間レポート2第(各20%)と最終レポート2第(各30%)で評価します。

レポートはmanabaへの提出の形にします。

<テキスト>

使いません。

<参考図書>

授業後半でデータの形で配布します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス(心理学への招待)、語ることの練習

表現されたものについて、自分の感覚を語る。

表現によって自分のことを知ろう。

言葉ではない表現について、言葉で語る。

描画による心理テストを用いて自分の性格や隠された不安を知る。

第2回 災害後の心の変化について知る。その1  
ストレスについて考える。

様々の自然災害の映像を見ながら、災害後どのようなストレスを感じるのかについて想像する。

記憶について考える。

災害後のストレスについて分類する。

第3回 災害後の心の変化について知る。その2  
恐怖の反応について

とても怖いことを体験した後、心はどのように変化するのか?

そのような変化からどのようにして回復するのか?

どのような時に回復が妨げられるのか?

回復が妨げられているとき、どのような支援をすればよいのか?

などについて考える。

第4回 ロールプレイの練習

様々な役割を演じながら、その時の気持ちを考える。

被災した人々に話しかけると、どのような話題が適切なのかを考える。

素敵な異性に話しかけてみよう。

公園のベンチで読書をしている人に話しかけてみよう。

避難所で疲れて座っているお年寄りに話しかけてみよう。

ディスカッション どのような声掛けが適切か考えてみよう。

第5回 リラクゼーションの実習

緊張感をほぐす様々なやり方を試してみる。

呼吸法の練習

漸進性弛緩法の練習

自律訓練法の体験

相手にリラクゼーションやマッサージをしてもらおう練習。

第6回 災害後の心変化について知る、その3  
喪失の反応について

喪失体験のロールプレイ

喪失を体験すると心はどのように変化するのか、そのプロセスを考える。

喪失体験から回復するには何が必要かを考える。

モーニングワークについて知る。

喪失体験をした人に対する適切な支援について考える。

第7回 災害後の心の変化について知る、その4  
日常生活ストレスについて

災害後の日常生活ではどのようなストレスが考えられるだろうか?

ストレスを緩和する方法を考えよう。

避難所や仮設住宅でのいろいろなイベントを考えよう。

第8回 災害後の様々なストレスから回復できなかったときの病態について知る。

PTSDについて知る。

PTSDについて、事例を通じて知る。

PTSDの脳科学的な背景について知る。

第9回 スクリーニングのためのストレスチェックリストを体験する。

ストレスチェックリストを受けてみる。

チェックリストの採点、判定について知る。

チェックリストの実施の仕方を実習する。

学校で子供たちにストレスチェックを行うための授業を組み立てる練習

チェックリスト高得点の事例を通してトラウマについて考える。

第10回 カウンセリングの基礎について学ぶ  
受容的、共感的な傾聴スタイルを学ぶ。

カウンセリングのロールプレイを練習する。

トラウマ体験の傾聴を練習する。

第11回 災害後のこころのケアのプロセスを知る、その1

初期の援助、中・長期の援助の違いについて知る。

初期の援助の方法を身に付ける。

初期の援助の基礎となるストレスマネジメントの方法を知る。

心理教育、リラクゼーションを実施する仕方について学ぶ。

第12回 災害後のこころのケアのプロセスを知る、その2

初期の援助、中・長期の援助の違いについて知る。

中・長期の援助の方法を身に付ける。

中長期の援助技法としての表現活動について学ぶ。

様々な表現技法、作文、描画、詩、俳句、写真などを体験する。

学校で子供たちに表現活動を実施するときの授業を組み立てる。

第13回 災害後の心理的变化と混同されやすい発達障害について学ぶ

発達障害概念の変遷、なぜそのような概念が取り入れられ、現在教育現場で隆盛となっているのかについて知る。

災害後の心理的な変化とどのような点で混同されやすい

のかを知る。

第14回 自然災害の一種として考えられる感染症被害について、総合的に学習する。

新型コロナ感染症について、その心理学的な意味を考え、防災の観点からどのようなことができるのかを考える。

第15回 授業全体の振り返りと重要ポイントの確認

15回の授業内容を振り返り、知っておかねばならないこと、防災の専門家としてできた方がよいことを再確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ジェンダー論

山口 真紀  
-----

<授業の方法>

対面授業(予定)

<授業の目的>

本講義では、私たちが長いあいだにつくりあげてきたジェンダー意識(社会的、文化的につくられた性差)について理解し、それがいかに人々を束縛しているかを捉え、どうすればそれらを変えることができるかについて考えることを目的とします。性差をめぐる「常識」や「当たり前」を問い直す視角を得ることは、自分自身の生活や未来を考える上で役に立つだけでなく、周りの人たちの生きやすさを考える手立てともなります。

・本科目は、全学DPにおける、広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性の涵養を促す科目に位置付けられるものです。

<到達目標>

・ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか/維持されてきたのかを考察する視点を身につけることができる

・ジェンダーやセクシュアリティをめぐる概念、歴史について正確な知識を得ることができる

・ジェンダーをめぐる現代社会の諸問題について理解し、自分の言葉で論じることができるようになる

<授業のキーワード>

ジェンダー、セクシュアリティ、ジェンダー・アイデンティティ

<授業の進め方>

・授業資料およびミニレポートは、dotCampusにて提示

・回収します。

・時勢および受講生の関心を優先するため、必ずしもシラバスとおりに進むものではありません

<履修するにあたって>

レポート課題は、授業日を含めて3日目の23:59を

締め切りとします。

締め切り後の提出は、いかなる場合であっても受け付けません。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ 講義の予習・復習として指定した課題（文献講読や映像視聴など）については必ず取り組んでください

・ 講義の予習・復習として、日頃から、自身の身の周りの出来事とジェンダーとのかかわりについて考え、ニュースや新聞、誰かの書き物に対してジェンダーの視点から批評を試みてください。

（事前・事後学習各1時間程度）

< 成績評価方法・基準 >

授業参加：50%

中間試験：20%

最終試験：30%

< テキスト >

講義では考えるきっかけやヒントとして、下記の素材を使用します。

1) ニュースなどの現代的なトピック

2) ドキュメンタリーなどの映像資料

3) 論文・小説・漫画などのテキスト資料

講義内で指示した素材については、必ず予習をしてください。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

ジェンダーとは何か。身体と性差を考える際に、ジェンダー概念が明らかにした視座について確認する。

第2回 ジェンダー概念

私たちの身の周りで「常識」となっているジェンダー・ステレオタイプについて確認し、性別二元論、性別役割分業意識から生じる性差別について考える。

第3回 フェミニズムの思想と実践

第一派フェミニズムの潮流を確認する。欧米および日本における女性参政権運動を概観し、運動と社会の関係について考える。

第4回 フェミニズムの思想と実践

第二派フェミニズムの潮流について確認する。日本のウーマン・リブの運動及び主張がどのようなクリティカルな視点を持っていたのか、当時の女性たちの言葉をもとに考察する。

第5回 近代家族・ケア労働

こんにち私たちが標準的であるとイメージする家族の形態が成立した過程と、その特徴について確認し、性別役割分業における家事労働の不可視化について理解する。

第6回 ジェンダーと表象 広告

身の周りのメディアにおける広告でどのようなジェンダー表象がなされているか考察する。特に、性差別的であると批判された最近の事例について、それがなぜ性差別であると言えるのか考える。

第7回 ジェンダー表象 物語

映画やおとぎばなしを題材に、私たちの馴染みのある物語のなかでどのようなジェンダー表象がなされているか考察する。

第8回 映像視聴

ジェンダー・セクシュアリティに関わる概念や事象にまつわる映像を視聴する。

第9回 映像視聴

ジェンダー・セクシュアリティに関わる概念や事象にまつわる映像を視聴し、ミニレポートを作成する。

第10回 セクシュアリティ

ジェンダー・アイデンティティおよびセクシュアル・オリエンテーションの概念を理解する。

第11回 セクシュアリティ

同性愛をめぐる歴史を確認し、ゲイ・スタディーズおよびレズビアンスタディーズの主張と議論を理解する。

第12回 男性学

女性学を經由して近年興隆している「男性学」の諸概念について知り、現代における「男らしさ」について考える。

第13回 性暴力・性労働

性暴力の実態と、それを明らかにすることの難しさ、女性の被害経験について考える。性労働について、当事者から提示されている知見を学ぶ。

第14回 インターセクショナルリティ/マイクロアグレッション

ジェンダーやセックスだけでなく、人種、社会階層や経済的階層、セクシャリティ、能力、障害の有無、身体的特徴などのさまざまなカテゴリーが「交差する」こと（インターセクショナルリティ）によって生じうる問題について理解する。また、私たちの日常に潜むマイクロアグレッション（偏見や差別に基づく見下しや侮辱、否定的な態度）について考察する。

第15回 共生

共生のための社会構想について、受講者とディスカッションを行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

仕事とキャリア

和田 まり子  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

社会には様々な職業が存在している。販売職のように、日常生活で観察可能な仕事もあれば、そうではないが社会にとって重要な他の仕事も多く存在する。それらの仕事や職業を具体的に学ぶと同時に、会社の中の職業分類である機能職能という分け方についても学習することを

目的とする。

さらに、職業的生涯は一つの仕事だけから成り立っているわけではない。多くの場合いくつかの仕事を体験する機会が多い。そうした仕事経験の連鎖をキャリアと呼ぶ。本講義では、学生自身の将来のキャリア展望を考えさせることも、もう一つの大きな目的とする。

なお、本科目は実務経験のある教員によって行われており、学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成することを目的とする。この講義は実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

社会に存在する職業について、日頃は観察が困難な仕事も含めて、どのような構成になっているか、会社の中の仕事の分類はどのようになっているかを理解し、説明することができる。また、変化が早い現代で「生涯学び続ける」ということを学ぶ。

<授業のキーワード>

人生100年時代の社会人基礎力。キャリアは自分で作る。

<授業の進め方>

適宜資料を配布、あるいは投影しながらの講義とともに、質疑応答、グループ討議、グループ発表などを取り入れて進める。

<履修するにあたって>

難しい言葉や知らない言葉は、そのままにしないで調べる癖をつける。その繰り返しで、大きく成長する15回の授業を体験してください。

<授業時間外に必要な学修>

予習・復習、レポート作成、定期試験対策勉強などを含めて、15週合計で30時間の授業外学修を目安とする。

<提出課題など>

学生へのフィードバックとして、

(1) 毎回出欠とともに質問等を受け付け、それに対する回答を原則次回の講義にて行う。

(2) 学生が作成したエッセイ等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上あるいは口頭にてコメント等のフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

講義中のレポート3回(小レポート600字~800字2回40%、1200字~1600字のレポート60%、合計100%)によって評価する。

<参考図書>

小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、2005年  
E.ラジアール『人事と組織の経済学』日本経済新聞社、1998年  
P.ミルグローム & J.ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年

<授業計画>

## 第1回 イントロダクション

必修科目である仕事と産業入門で学んだ就業者、雇用の概念、及びそれらの職業別、産業別構成について復習する。

## 第2回 統計上の職業分類(1)

自分が知っている職業名を書き出させ、それが統計上のどの職業小分類あるいは中分類にあてはまっているかを整理する。

## 第3回 統計上の職業分類(2)

前回抽出した自分が知っている職業名があてはまる統計上の職業小分類あるいは中分類の人数を合計し、自らがどれほどの職業を知っているかを確認する。

## 第4回 社会で必要とされる力

社会で必要とされる社会人基礎力について理解を深め、実践できるようにする。

## 第5回 社会で必要とされる力

人生100年時代を生き抜くためのキャリアの考え方を理解する。

## 第6回 B2Bの仕事 外資系商社

SDGSに貢献しているグローバル企業を知る

## 第7回 製造業の仕事

知られざるB to B企業は製造業に多く、その実態を知る。

## 第8回 起業

これからの時代に増える小さな起業について、社会で活躍している人の事例を通して解説する。

## 第9回 IoT AIの知識

産業横断的に必要なIoTやAIの知識を深める。ITリテラシーを伸ばす。

## 第10回 企業を知る

企業情報の収集について、有名企業だけではなく、優良企業の情報の集め方を学ぶ。

## 第11回 企業を知る

前回の企業情報の収集のしかたについてまとめるとともに、第4回から第10回までで学んだ内容に関するレポートを作成する。

## 第12回 会社の中の仕事分類(機能職能)

統計上の職業分類では会社の中の仕事分類は十分にわからない。自ら会社の中にどのような仕事が存在しそうかを考えながら、どの会社においても共通の機能職能と呼ばれる仕事群から、会社の仕事は基本的に成り立っていることを学ぶ。

## 第13回 営業・販売職という仕事

大卒者の求人の中で最も多いと思われる営業・販売職について、ビデオを鑑賞しながらその実態を学びながら、ひとつの職能が他の職能にもつながり、長い経験の中でキャリアを形成していることを知る。

第14回 労働法の基本~アルバイトをする前に知っておくべきこと

学生としての労働であるアルバイトで知っておくべきこ

とを、労働基準法を中心にして学習する。

## 第15回 仕事とキャリアのまとめ

これまでの講義のまとめを行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

仕事と産業研究

中村 恵  
-----

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

本講義では、8名の企業及び公共部門の中堅マネジャーをZoomオンラインゲストスピーカーとして招き、各企業や組織及び属する産業の実態を学ぶと同時に、スピーカーの仕事やキャリアの実際を尋ねながら、（１）日本の労働市場及び雇用慣行の実態と雇用システム、（２）労働市場及び雇用慣行の理論的背景、（３）組織の中における技能やキャリア形成のしくみを深く学習することを目的とする。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成すると同時に、企業等からスピーカーを招いてその知見を学ぶ実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

日本の産業及び職業の構造とその特徴について説明することができる。

労働市場の実態と雇用形態別構造について理解し、労働課題の現状について説明することができる。

企業の中の仕事やキャリアの在り方について、海外と比較しながら日本の組織の特徴を指摘することができる。

< 授業の進め方 >

適宜資料を配布、あるいは投影しながら、質疑応答も取り入れた講義形式で行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習、事前・事後レポート作成、最終レポート作成などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

8つの事例について事後レポート（8回）を求められる。

事後レポートは原則manabaに提出することとする。

学生へのフィードバックとして、

（１）毎回講義中に質問を受け付け、それに対する回答を原則その講義中にて行う。

（２）毎回出欠とともに質問等を受け付け、それに対する回答を原則次回の講義にて行う。

（３）提出されたレポートに対して、原則次回以降の講

義中に適宜コメントを行う。

< 成績評価方法・基準 >

事後レポート8回分（80%）、および講義内での質疑への参加度（20%）で評価する。

< 授業計画 >

第1回 大卒者の進路

近年の大卒者の進路・就職先をデータに基づき概観し、大卒者がどのような産業・業種及び職業で働いているかについて概観する。

第2回 会社・組織の中の仕事とその分類

会社の組織の在り方と従業員の構成を概観したうえで、営業・販売、人事・労務、経理・財務等に代表される企業内の仕事の代表的機能分類を学習し、それがさらに多様な個別の仕事に展開されることを把握する。

第3回 日本の労働市場と雇用慣行

日本の労働市場と雇用慣行について、諸外国の実態にも触れながら、その真の実態と特徴について学習する。

第4回 製造業の実際及びその仕事とキャリア（１）

製造業に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、メーカーの性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第5回 旅行業の実際及びその仕事とキャリア

旅行業に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、メーカーの性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第6回 新聞業界の実際及びその仕事とキャリア

新聞業界に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、メーカーの性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第7回 公務部門の実際及びその仕事とキャリア

県庁、市役所等で公務員として働く中堅マネジャーによる公務部門の紹介とともに、本人の就活、入庁から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、公務部門の性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第8回 中間的まとめとこれまでの振り返り

これまでの業界の実際とそこに属する人々の働き方、キャリアに関する特徴をまとめ、ディスカッションを行う。

第9回 ホテル業の実際及びその仕事とキャリア

旅行業に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、メーカーの性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第10回 卸売業界の実際及びその仕事とキャリア

商社等卸売業に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至る

までの仕事経験を語ってもらうことにより、卸売業の性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第11回 人材・出版・広告業界の実際及びその仕事とキャリア

人材・出版・広告業に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、卸売業の性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第12回 小売業界の実際及びその仕事とキャリア

スーパー、百貨店、専門店等小売業に属する企業の中堅マネジャーによる業界・企業紹介とともに、本人の就活、入社から現在に至るまでの仕事経験を語ってもらうことにより、小売業の性質とそこにおける仕事とキャリアの特徴について学習する。

第13回 キャリア支援及び就活について

外部のキャリア支援担当者を招き、キャリア支援の現状についての報告及び就活をめぐる課題についてアドバイスを得ながら、担当者とディスカッションを行う。

第14回 事例による仕事とキャリアの差異と共通点

8つの事例の検討をもとに、それぞれの業種における仕事とキャリアの違いと共通点について、統計データや参考資料も参照しながら、その理論的背景も含めて学習する。

第15回 労働市場および雇用慣行の実態とその将来～理論的考察も含めて

5つの事例を振り返りながら、日本の労働市場および雇用慣行の実態とその将来について、理論的考察も含めて学習する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

仕事と産業入門

中野 雅至、都村 聞人、日高 謙一  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「(1)社会科学及び人文科学の学際的な学修を通じて、仕事と産業に係る諸事象を多面的、総合的に理解することができる、(2)現代社会における仕事と産業における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探究することができる」を目指している。

本科目は、専門分野科目（仕事と産業分野）のひとつであり、1年次後期以降に開講される仕事と産業分野の科目の入門に位置づけられる。

まず、日本の労働市場の性格、雇用失業情勢の現状、

雇用に関する企業行動の変化、雇用政策の流れについて検討する。次に、社会学的観点から、雇用とジェンダー、人的資本理論と教育の収益率、労働時間とワーク・ライフ・バランスについて検討する。最後に戦後日本経済の歴史を振り返りながら、企業や産業の盛衰の歴史と現代社会における消費の意味について検討する。以上により、仕事と産業についての総合的な理解を深めることを目的とする。

なお、本科目はオムニバス講義であり、第1回～第5回は中野、第6回～第10回は都村、第11回～第15回は日高が担当する。

< 到達目標 >

労働市場の変化、雇用失業情勢、雇用に関する企業行動、雇用政策について、説明することができる。

ジェンダー、教育、ワーク・ライフ・バランスなどと労働の関連について、社会学的に考えることができる。

若年者雇用の問題について理解を深め、自らのキャリア形成について考えることができる。

経済指標について理解し、戦後の日本経済の変化について説明することができる。

経済成長と生産性、イノベーションについて基礎的な事項を理解し、将来を展望することができる。

身近な問題から消費の意味について考えることができる。

< 授業のキーワード >

労働市場、雇用政策、ジェンダー、人的資本理論、ワーク・ライフ・バランス、就職活動、経済指標、生産性、イノベーション、消費

< 授業の進め方 >

適宜資料を配布、あるいは投影しながら、質疑応答も取り入れた講義形式で行う。

< 履修するにあたって >

経済学、労働経済学、社会学、経営学の観点から、仕事と産業の基礎について学びましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となるテーマについて、文献、各種統計、インターネット等を利用して、積極的に調べてください（目安として1時間程度）。

事後学習として、講義時の配布資料を再確認し、各テーマに対する理解を深めてください。また、参考文献を提示するので、興味があるものを積極的に読んでください。（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

各授業に関する小テストあるいはレポートを提出してもらう場合があります。

（フィードバック：内容に対してコメントを行います。）

< 成績評価方法・基準 >

3名の担当者ごとに課される小テストおよびレポート（各教員が33%）によって評価を行う。

<テキスト>

使用しない。講義資料を配布する。

<参考図書>

授業の際に紹介する。

<授業計画>

#### 第1回 日本の労働市場

日本では「人に職をつける」と言われるのに対して、欧米では「職に人をつける」と言われる。このような違いはなぜ生じるのか？ 日本の労働市場の性格について説明する。（担当：中野雅至）

#### 第2回 日本の雇用失業情勢

労働力人口が減少しているにもかかわらず、かつてに比べて日本の失業率は高い。また、非正規労働は増える一方である。一体、日本の雇用失業情勢はどのような現状にあるのか？ 若年者・高齢者などの属性にも注目しながら、日本の雇用失業情勢の現状を説明する。（担当：中野雅至）

#### 第3回 雇用に関する企業行動

バブル経済崩壊後、雇用失業情勢が悪化する中で、企業はどのように行動を変えていったのか？ 企業を中心に日本の雇用失業情勢を考えてみる。（担当：中野雅至）

#### 第4回 雇用政策の流れ

これまで厚労省はどのような雇用政策を追求してきたのか。時期に応じて変化してきた雇用政策の流れを概観する。（担当：中野雅至）

#### 第5回 日本の労働市場の変化

バブル経済崩壊以降、日本の労働市場は大きく変化してきた。長期不況や人口減少によって労働市場がどのように変化しつつあるのかについて解説することとする。（担当：中野雅至）

#### 第6回 雇用とジェンダー

男女間賃金格差、性別職務分離などの観点から、雇用とジェンダーの問題を検討する。（担当：都村聞人）

#### 第7回 人的資本理論と教育の収益率

大学への進学には、コストとメリットがある。大学に進学するメリットのひとつとして、生涯所得の増加があげられる。本講義では、人的資本理論の基礎について学び、教育の収益率について、統計データを参照しながら考察する。（担当：都村聞人）

#### 第8回 労働時間とワークライフバランス

労働時間の多寡は、余暇、休息、家庭における活動（家事、育児など）などに影響を与える。つまり、労働時間とワークライフバランスは大きな関連を持っている。本講義では、労働時間と生活の関係について、統計データを参照しながら考察する。（担当：都村聞人）

#### 第9回 若年者雇用をとりまく問題

非正規雇用の増大、高い離職率などの問題を検討しながら、若年者の雇用について考える。また、就労支援についても検討したい。（担当：都村聞人）

#### 第10回 キャリア形成と就職活動

近年の就職活動の概要を説明する。そのうえで、各自の希望にそったキャリア形成について考えるきっかけとしたい。（担当：都村聞人）

#### 第11回 経済指標で見る日本の戦後史

高等学校で学ぶ現代社会、政治・経済の知識を振り返りつつ、戦後日本経済の歩みをより深く学ぶ。まずは、GDPや日銀・業況DIなどの経済状況をとらえる指標について理解し、最近1?2年間の日本経済、過去10年間、20年間と振り返る期間を伸ばしていく。（担当：日高謙一）

#### 第12回 経済指標で見る日本の戦後史

金利、為替、株価、国際収支などの経済指標をもとに、現在に至る戦後の約70年間の日本経済の歩みを振り返る。さらに、戦前から戦後にかけて約90年間の日本経済の連続性についての議論を学び、現在の日本経済の課題を考える参考にする。（担当：日高謙一）

#### 第13回 経済成長と生産性

人口が減少していく中で生産性の上昇が日本の経済成長に必要なと言われる。そこで、生産性と経済成長に関する議論を整理して学び、生産性の概念を理解する。また、人口と経済成長の関係についても考察する。（担当：日高謙一）

#### 第14回 経済成長とイノベーション

経済成長のためのイノベーションの重要性を学ぶ。しかし、イノベーションの実現プロセスは不確実性に満ちている。また、成熟した経済では、有形資産よりもソフトウェアやブランドなどの無形資産を生み出すイノベーションの重要性が高まる。IoTやAIなどのテクノロジーを基盤としたものづくりの未来を展望する。（担当：日高謙一）

#### 第15回 現代社会における消費の意味

私たちは、一杯のコーヒーに百数十円支払うこともあれば千円近く支払うこともあるし、二次元の世界に夢中になり現実でもそのキャラクターに出会うためにお金を支払う。私たちはお金を支払って何を消費しているのだろうか？現代社会における消費のキーワードである「体験」、「ブランド」、「物語」を事例を通じて学ぶ。（担当：日高謙一）

-----  
2022年度 後期

2.0単位

市民と生活研究

李 洪章

-----  
<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解を目指すものである。

たとえば、知らない土地で、自分の知らなかったような

生き方をする人との出会いや、SNSでの友人とのやり取りにおけるディスコミュニケーション、恋人が隠しもっていた思いも寄らない趣味、閑静な街の風景に突如として現れる仰々しい落書きなど、何気ない日常のなかにも、主観からは到底理解できないような出来事はたくさん起きる。しかし、私たちはそれを、普段は「変なもの」「おかしいこと」として片づけてしまっている。

本授業では、そうした何気ない日常の「裂け目」に着目し、それを社会的な視点からとらえることを通して、「生活」とは何かについて多角的に考える。

#### <到達目標>

実際に自ら問いを立て、先行研究を探索し、他の受講生とのディスカッションを通して答えを見出していく作業を通じて、社会学の骨格の一部を成す「他者の言動の意味を理解する」研究手法を体験的に学習する。

#### <授業のキーワード>

日常、生活、理解、他者

#### <授業の進め方>

教員による一方的な講義ではなく、受講生個人によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答・コメントによって進めます。授業序盤に準備期間を設け、テーマ設定・参考文献の選定・事例の収集・発表スライドの作成を段階的に進めます。6週目以降は、受講生自身がプレゼンテーション・コメントを行い、報告者以外の受講生はそれを聴講し、コメントシートを記入・提出します。

#### <履修するにあたって>

- ・個人プレゼンテーションを行うことを義務づけます。プレゼンを行う意思のない方は受講を避けてください。
- ・ディスカッションへの積極的な参加を求めます。
- ・原則、発表テーマはシラバスの第6-14週の主題に掲げたものを選んでいただきますが、それ以外のどうしても発表したい内容がある場合は検討します。

#### <授業時間外に必要な学修>

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：講義ノートや配布資料を復習すること（目安として1時間程度）。

プレゼンテーションの準備

#### <提出課題など>

コメントシート

（manaba上でコメントすることでフィードバックする）

プレゼンテーション

（授業中にコメントすることでフィードバックする）

#### <成績評価方法・基準>

授業内コメントシート 40%、プレゼンテーション 60

%

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 授業の進め方の確認

本授業の趣旨について解説するとともに、発表の方法と順番を決定する。

第2回 テーマ設定

本授業で取り上げるテーマについて、その概要を確認する。そのうえで、自らが調べたいテーマを決定する。

第3回 参考文献の選定

第2回に決定したテーマに関連する先行研究をリストアップする。

第4回 事例の収集

考察の対象とする事例を、資料（インターネット記事、雑誌、新聞など）から見つけ出す。

第5回 発表スライドの作成

学術的な議論の組み立て方を意識しながら、報告スライドを作成する。

第6回 韓流と嫌韓

受講生の発表に基づきながら、「なぜ韓流と嫌韓は同時に訪れるのか」という問いについて考察する。

第7回 結婚の必要性

受講生の発表に基づきながら、「結婚はあたりまえの行為なのか」という問いについて考察する。

第8回 「ハーフ」への羨望

受講生の発表に基づきながら、「『ハーフ』であることは羨ましいことなのか」という問いについて考察する。

第9回 ミスコンと性差別

受講生の発表に基づきながら、「ミスコンは性差別にあたるのか」という問いについて考察する。

第10回 「日本スゴイ」言説

受講生の発表に基づきながら、「なぜ『日本スゴイ』言説が受容されているのか」という問いについて考察する。

第11回 「理解できない」文化

受講生の発表に基づきながら、「わたしたちの「常識」からは理解が困難な文化を許容すべきか」という問いについて考察する。

第12回 お笑いと言

受講生の発表に基づきながら、「お笑いにおいて政治的問題は取り扱うべきなのか」という問いについて考察する。

第13回 児童ポルノと表現の自由

受講生の発表に基づきながら、「児童ポルノの禁止は表現規制にあたるのか」という問いについて考察する。

第14回 不登校の要因

受講生の発表に基づきながら、「不登校は本人の問題なのか」という問いについて考察する。

## 第15回 論点の整理

第6回～14回に取り上げられたテーマを整理しながら、日常生活に関して社会学的な問いを立て、考察することの意義について再確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

市民と生活入門

梅川 由紀、前田 拓也、松田 ヒロ子、李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に従い、「現代社会の多面的、総合的な理解」を目指す。わたしたちが生き、暮らす市民社会は、どのように成り立っているのだろうか。またなにが問題とされ、どのような解決が求められているのだろうか。この授業は、「市民」と「生活」をキーワードに、現代社会を社会科学的に理解し、分析するための方法とアプローチを学ぶ。社会学を専門とする教員4名が、それぞれ異なる視点から現代社会の諸問題を読み解く方法について交替で講義する。

< 到達目標 >

- ・現代社会が直面する諸問題について自分なりの意見を織り交ぜながら議論することができる。
- ・家族や友人、食や芸能など、身近な事柄と社会制度や社会構造のあり方の関連性を理解し、説明できる。

< 授業の進め方 >

4名の教員がそれぞれ、4回（松田）－4回（前田）－3回（梅川）－4回（李）ずつ、交替で授業を担当する。ほぼ毎回課題が出されるので、教員の指示に従い提出すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に様々な資料を調べたり、文献を読んだりする（1時間程度）。事後的に、課題を行ったり授業と関連する著作や論文を読む（1時間程度）。

< 提出課題など >

提出した課題については各教員が授業中にフィードバックするか、マナバを通じてフィードバックする。具体的な方法については各教員に問い合わせること。

< 成績評価方法・基準 >

この授業はオムニバスであるため、4名の担当者がそれぞれに授業の中で課題を出し、評価する。25点×4名＝100点で評価する。

< テキスト >

テキストは使用しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

この授業の目的や概要、授業の進め方について説明する。

また現代社会学部がよく広報活動で掲げている「社会問題を解決する」ことの意味について考える。（担当：松田ヒロ子）

第2回 コロナ禍からみる私たちの社会

コロナ禍からみる私たちの社会と「社会課題」について考える。（担当：松田ヒロ子）

第3回 コロナ禍からみる近代世界

感染症の世界史を振り返ることにより、私たちが生きる近代世界の特徴について考える。（担当：松田ヒロ子）

第4回 コロナ禍からみる現代世界

コロナ禍から、「グローバリゼーション」の持つ意味について考える。（担当：松田ヒロ子）

第5回 「社会問題」の捉え方

わたしたちが日々営んでいる「ふつうの暮らし」のなかに知らず知らず巻き込まれている「しんどさ」や「生きづらさ」を社会問題として意識化するためのヒントを、具体的な事例のなかに探る。（担当：前田拓也）

第6回 病者/障害者と社会的障壁

重い病をかかえる人びとや障害をもつ人びとの直面する困難や不利益を、個人的な問題ではなく「社会の問題」と捉える視点について考え、理解する。（担当：前田拓也）

第7回 貧困/働くことと社会的不利益

貧困状態にある人びとの直面する困難や不利益を、個人的な問題ではなく「社会の問題」と捉える視点について考え、理解する。（担当：前田拓也）

第8回 ジェンダーと性差別

性差によって、とくに女性がしばしば直面する困難や不利益を、個人的な問題ではなく「社会の問題」と捉える視点について、ジェンダーの視点から考え、理解する。（担当：前田拓也）

第9回 ごみ

ごみをめぐる問題はリサイクルや減量化にとどまりません。ごみを通して私たちの生活と現代社会の問題を考察してみましょう。（担当：梅川由紀）

第10回 ごみ屋敷

いわゆる「ごみ屋敷」の当事者とはどのような人たちでしょうか。地域社会の中でどのようにかかわっていくことが望ましいでしょうか。理解を深めていきましょう。（担当：梅川由紀）

第11回 自然保護

「自然を守る」とはどのように自然とかがかわることでしょうか。「ありのままの自然」を維持することでしょうか。自然と人々の生活のかかわり方について検討してみましょう。（担当：梅川由紀）

第12回 常識とは何か

「常識」は私たちが日常生活を円滑に営む上で必要なものであるが、その「常識」を共有できず、生きづらさを感じたり、社会から疎外されたりする人々もいる。こうした「常識」が持つ二面性について理解する。（担当：

李洪章)

### 第13回 食とマイノリティ

私たちが無意識のうちに口にしている「ソウルフード」のルーツを探ることで、マイノリティの生活史の一端を理解する。(担当: 李洪章)

### 第14回 芸能とマイノリティ

日本の芸能界やスポーツ界と、民族的マイノリティである在日朝鮮人の関わりを探ることで、在日朝鮮人の生活史の一端を理解する。(担当: 李洪章)

### 第15回 災害とマイノリティ

震災やコロナ禍を例に挙げ、マイノリティが災害をいかに経験するのかわかることを通じて、多文化共生のあり方について考える。(担当: 李洪章)

-----  
2022年度 前期

2.0単位

時事英語 A

川部 和世  
-----

#### < 授業の方法 >

わかりやすい時事英語の講義と演習の授業です。日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米など世界各地のニュース記事を読み、聞き、楽しみながら英字新聞に慣れ親しんで、vocabulary, フレーズを身につけていくことを目指します。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目です。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは, manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合(基準を適用しない場合)の文例特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

基礎的な時事英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。わかりやすく短い英文、易しい記事から聞き、読んでいきます。その中で得た知識、単語、フレーズ、英文法を使って基本的な英作文の練習や記事についての意見を短く発表することが目的です。実践的な知識や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことから、自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養います。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の

実践的教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

インターネットで国際化が加速する世界で、わかりやすい英語で書かれた世界のニュースを読む力とニュースについて考え、短かく意見を発表する力を身に付けることも目指します。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して時事英語に興味を持ち、楽しみながら、時事英語のスキル、知識を習得していきましょう。

#### < 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。コミュニケーション力。

#### < 授業の進め方 >

まず、教科書は早めに入手して下さい。わからない単語、ニュースの下調べをしておいて下さい。教科書に付属のCDを聞いて、その音声を利用して、重要なフレーズを認識して下さい。授業では、1ユニットを二つに分けて、1週目に1ページから3ページをし、次週に4ページから6ページを扱います。まず、1週目はニュースに含まれる重要語句を学び、ニュースの大まかな内容を説明します。理解をするために問題4問に答えて内容を確認します。便利な英語表現を学びます。2週目に関連する文法事項を説明します。その確認問題としてニュース記事の部分訳の問題をします。最後に役立つ表現を使って簡単な英作文問題とニュースをもとに短い発表をします。この参加型、学習者中心の発表を通して、activeに自分の視点からニュースの内容をより深く理解し、授業で得た知識を実際に使うことでスピーキング力も習得できます。1学期を終える頃には、楽しみながら英語でニュース記事を読み、自分自身の意見を表現出来るようになることを目指します。

#### < 履修するにあたって >

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ(B5サイズ)を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。ショートプレゼンテーションの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

#### < 提出課題など >

隔週のノート提出、ショートプレゼンテーションの原稿、ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、ショートプレゼンテーション原稿 提出30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

<テキスト>

News Matters—Understanding English Newspapers <New Edition> ISBN978-4-523-17809-5 C0082

¥1900 英字新聞と文法演習 [ 改訂新版 ] 南雲堂

<参考図書>

辞書（英和）を毎回持参すること（電子辞書可）

<授業計画>

第1回 4/13 Unit 1 Doraemon to hit U.S. television this summer

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第2回 4/20 Unit 1 Doraemon to hit U.S. television this summer,

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第3回 4/27 Unit 2 Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第4回 5/11 Unit 2 Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第5回 5/18 Unit 3 Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第6回 5/25 Unit 3 Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第7回 6/1 Unit 4 German fans bring own sofas to watch World Cup

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第8回 6/8 Unit 4 German fans bring own sofas to w

atch World Cup

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第9回 6/15 Unit 5 Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第10回 6/22 Unit 5 Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第11回 6/29 Unit 6 Japanese Brazilian teacher a student favorite

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第12回 7/6 Unit 6 Japanese Brazilian teacher a student favorite

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第13回 7/13 Unit 7 Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas

Before reading/ Vocabulary / News article / Comprehension /

Useful expressions

第14回 7/20 Unit 7 Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas

Short presentation

Grammar and usage, English translation, Practice writing English,

Short presentation

第15回 7/23 (土) The final presentation

The final presentation (暗記して発表)

-----  
2022年度 前期

2.0単位

時事英語 B

保澤 美佳  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業では「15 Selected Units of English through the News Media」を使用し、currentな文脈で英文読解力を鍛える。また、ニュースメディアで使われる独特の英語の表現や構成を学ぶと共に、英語の論理構成を理解する。この科目はディプロマポリシー1（知識を習得する）に関連する。

< 到達目標 >

目標は次の通りである。 基本的な時事英単語の習得。

英文読解力の向上。最終的には、辞書を使用しなくても、英字新聞などのメディアの記事の大意が理解できるようになることを目指す

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。 | 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。 | 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。（週30分程度） | 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。（週1時間程度）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30%（プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%）、授業内評価40%（小テスト20%、授業参加度20%）、授業外評価（課題）30%

< テキスト >

【時事英語】15章版：ニュースメディアの英語 演習と解説2022年度版 出版社：朝日出版 1,320円（税込） ISBN：978-4-255-15680-4

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit1

エストニアからの教訓：コロナ禍でのデジタル学習に秀でる

第3回 Unit1

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第4回 Unit2

外国人選手にとって、東京五輪は多種多様な課題の山

第5回 Unit2

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第6回 Unit3

日本、東京五輪で記録的メダルラッシュ

第7回 Unit3

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第8回 Unit4

日本のポップカルチャー、コロナ禍での様相

第9回 Unit4

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第10回 Unit5

コロナ禍でユダヤ教超正統派社会からの脱出早まる

第11回 Unit5

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第12回 Unit6

福島原発事故から10年、再生可能エネルギーへの道

第13回 Unit6

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験（プレゼンテーション）の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験（プレゼンテーション）を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

時事英語 A

川部 和世  
-----

< 授業の方法 >

わかりやすい時事英語の講義と演習の授業です。NTV News 24 English 2(Englishで考える日本事情)のニュース記事を読み、聞き、楽しみながら英字新聞に慣れ親しんで、vocabulary, フレーズを身につけていくことを目指します。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目です。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(doIph

in1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは、manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合（基準を適用しない場合）の文例特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

基礎的な時事英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。わかりやすく短い英文、易しい記事から聞き、読んでいきます。その中で得た知識、単語、フレーズ、英文法を使って基本的な英作文の練習や記事についての意見を短く発表することが目的です。実践的な知識や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことから、自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養います。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

インターネットで国際化が加速する世界で、わかりやすい英語で書かれた英語のニュースを読む力とニュースについて考え、短かく意見を発表する力を身に付けることも目指します。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して時事英語に興味を持ち、楽しみながら、時事英語のスキル、知識を習得していきましょう。

#### < 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。コミュニケーション力。

#### < 授業の進め方 >

まず、教科書は早めに入手して下さい。わからない単語、ニュースの下調べをしておいて下さい。教科書の音声を聞き、内容を認識して下さい。授業では、1チャプターを二つに分けて、1週目に1ページ目から3ページ目をし、次週に4ページ目から6ページ目を扱います。まず、1週目はニュースに含まれる重要語句を学び、ニュースの大まかな内容をDVDを観て理解します。その後、音声を聞き、穴埋め問題をします。2週目に理解度を深める問題をし、内容説明をします。その後学んだ単語、フレーズを使って簡単な英作文問題とそれに基づいた短い発表をします。この参加型、学習者中心の発表を通して、activeに自分の視点からニュースの内容をより深く理解し、授業で得た知識を実際に使うことでスピーキング力も習得できます。1学期を終える頃には、楽しみながら

英語でニュース記事を読み、自分自身の意見を表現出来るようになることを目指します。

#### < 履修するにあたって >

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ（B5サイズ）を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。ショートプレゼンテーションの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

#### < 提出課題など >

隔週のノート提出、ショートプレゼンテーションの原稿、ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、ショートプレゼンテーション原稿 提出 30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

#### < テキスト >

NTV News24 English 2 日テレNews 24 Englishで考える日本事情 2

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著 英宝社 ¥2400

ISBN978-4-269-17024-7

#### < 参考図書 >

辞書（英和）を毎回持参すること（電子辞書可）

#### < 授業計画 >

第1回 9/21 Chapter 1 ANA Debuts Virtual Travel System

Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation

第2回 9/28 Chapter 1 ANA Debuts Virtual Travel System

Short presentation

Comprehension check / Write and speak about yourself (Short presentation) / Vocabulary building

第3回 10/5 Chapter 2 700,000 Japanese Could Suffer Gambling Addiction

Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation

第4回 10/12 Chapter 2 700,000 Japanese Could Suffer Gambling Addiction

Short presentation

Comprehension check / Write and speak about yourself

If (Short presentation)/ Vocabulary building  
第5回 10/19 Chapter 3 University Grad Employment  
Rate Hits All-time High  
Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation  
第6回 10/26 Chapter 3 University Grad Employment  
Rate Hits All-time High

Short presentation  
Comprehension check / Write and speak about yourself  
If (Short presentation)/ Vocabulary building  
第7回 11/2 Chapter 4 First Self-driving Car Trial  
on Public Roads  
Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation  
第8回 11/9 Chapter 4 First Self-driving Car Trial  
on Public Roads

Short presentation  
Comprehension check / Write and speak about yourself  
If (Short presentation)/ Vocabulary building  
第9回 11/16 Chapter 5 Japan Mulls Congestion Pricing for Kyoto, Kamakura  
Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation  
第10回 11/30 Chapter 5 Japan Mulls Congestion Pricing for Kyoto, Kamakura

Short presentation  
Comprehension check / Write and speak about yourself  
If (Short presentation)/ Vocabulary building  
第11回 12/7 Chapter 6 All Aboard the 'Love Train'  
Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation  
第12回 12/14 Chapter 6 All Aboard the 'Love Train'

Short presentation  
Comprehension check / Write and speak about yourself  
If (Short presentation)/ Vocabulary building  
第13回 12/21 Chapter 7 Seven Eleven Japan to Add Lockers for E-commerce  
Warm-up activity / Listening / Check your vocabulary / Note-taking (DVD) / Dictation  
第14回 1/11 Chapter 7 Seven Eleven Japan to Add Lockers for E-commerce

Short presentation  
Comprehension check / Write and speak about yourself  
If (Short presentation)/ Vocabulary building

第15回 1/18 The final presentation  
The final presentation (暗記して発表)

-----  
2022年度 後期  
2.0単位  
時事英語 B  
保澤 美佳  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業では「15 Selected Units of English through the News Media」を使用し、currentな文脈で英文読解力を鍛える。また、ニュースメディアで使われる独特の英語の表現や構成を学ぶと共に、英語の論理構成を理解する。この科目はディプロマポリシー1(知識を習得する)に関連する。

<到達目標>

目標は次の通りである。基本的な時事英単語の習得。

英文読解力の向上。最終的には、辞書を使用しなくても、英字新聞などのメディアの記事の大意が理解できるようになることを目指す。

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

学期末試験30%(プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40%(小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題)30%

<テキスト>

【時事英語】15章版: ニュースメディアの英語 演習と解説2022年度版 出版社: 朝日出版 1,320円(税込) ISBN: 978-4-255-15680-4

<授業計画>

第1回 Unit7

探査機「はやぶさ2」が小惑星から採集した砂塵、地球に

第2回 Unit7

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第3回 Unit8

カマラ・ハリスは歴史を作る。彼女の「大きなブレンド」家族もだ

第4回 Unit8

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第5回 Unit9

以前シャイだった大坂なおみ、4回目の四大大会優勝

第6回 Unit9

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第7回 復習

復習

第8回 Unit10

松山英樹、日本人初のマスターズ優勝

第9回 Unit10

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第10回 Unit11

中国大手ハイテク企業、社員死亡で注視される

第11回 Unit11

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第12回 Unit12

ミャンマー、軍事クーデターに芸術家たちが抗議

第13回 Unit12

時事的な話題を読解する。内容を踏まえてディスカッションを中心に行う。

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験（プレゼンテーション）の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験（プレゼンテーション）を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

時事問題基礎

坂本 暁彦  
-----

< 授業の方法 >

現時点では講義中心で、コロナの影響が収まれば、学生との質疑応答や学生同士のグループワークも適宜行う可能性もあります。

また現時点では、上記のように対面講義を予定していま

す。ただ今後のコロナ感染の推移で、オンデマンド形式等の可能性もあります。

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示すような、社会の諸事象を総合的に理解し、課題解決の方途を探究し実践することを目指す科目である。就職対策関係の講座に属し、論作文や面接対策に必要な資質の育成への導入科目として位置づけられる。その点において、実践的教育から構成される授業科目である。授業では、主に日本の直面する時事問題を題材にして、学生はニュースの分析方法を修得し、時事問題の背後にある本質的事項を理解する。それにより、学生は多様な意見の対立があることを理解し、様々な要素を総合的に把握して自分自身の考えを構成し、発表できるようになることを目的とする。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシ-1（知識・技能）に関連する。

担当講師は、民間で長年に渡って公務員試験や就職試験対策の時事対策講座や面接講座・論作文講座の講師を務めてきた、実務経験のある教員である。従って、従来からの経験は時事問題の解説においても実社会で特に興味を持って捉えられるテーマの選別とポイントを突いた解説能力として活用できるものと考ええる。

< 到達目標 >

1. 学生は近年におけるさまざまな時事問題を理解するのに不可欠な情報を習得できる(知識)。
2. 学生は国内的な時事問題に関心を持ち、その背後関係に興味を持てるようになる(態度・習慣)。
3. 学生はニュースの表面的な報道だけに影響されず、根底にいかなる利害対立があるのかまで考えることができるようになる(態度・習慣)。
4. 学生は意見の対立の理由まで理解して自らの見解を打ち立て、他者との討論が出来るようになる(技能)。

< 授業のキーワード >

格差社会・危機管理(大規模地震や伝染病対策)・プライマリーバランス・働き方改革・女性活躍社会・教育改革・超高齢社会・コロナ後の観光政策

< 授業の進め方 >

時事問題の解説を講義形式で行いつつ、適度に発問を行い問題の背景を考えてもらう。その際にいかなる立場の対立があるのかを受講生に更なる質問で考えさせ、相互の立場からいかなる主張が可能かを理解させる。そして定期的に、その結果を各自小レポートにまとめてもらい提出を求める。あるいは、時に一定のテーマについての討論会としてのグループワークも行うことも考える。

< 履修するにあたって >

日頃から新聞を読む習慣を付けておくこと。講師の質問

や他の受講生との討論に積極的に対応すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業前に、既に提示済の次の授業相当分のテキストの該当箇所やレジュメを繰り返し読むこと。特に事前学習として、問題の背後にどのような意見の対立があり、その根拠はどこにあるのかをしっかりと把握することを期待する。以上の事前学習時間は1時間30分程度必要と考える。

授業後の学習としては、授業の説明を参考にしながら、各種の意見の根拠やそれへの反論・再反論まで考えながらレジュメやテキストのみならず、参考文献として提示した指定図書についても復習として読み込むことを期待する。以上の事後学習時間も1時間30分程度必要と考える。(事前・事後学習各1時間30分程度)。

< 提出課題など >

講義で取り扱った時事問題について、自分自身の意見の根拠や対立する意見への反論をまとめた数回の小レポートの提出を課す。この小レポートの提出にあたって、前提として講師からの発問とそれへの回答を実施することもあるので、それらを参考に自分の言葉でまとめること。フィードバックとして後日、レポート課題の講師の参考例を交付すると同時に、再度そのテーマに関する検討を行うことも考える。

< 成績評価方法・基準 >

講義全体で定期的に4回から5回の小レポートの提出を求め、小レポート内容、授業中の発言状況等により総合的に評価する予定である。その際小レポート90%や発言状況等は10%で評価する予定である。しかし、コロナの状況で学生に発言を求めることが不適切の場合は、小レポート100%で評価する。

< テキスト >

『朝日キーワード2023』(朝日新聞出版)及び講師のオリジナルレジュメなどの配布資料

< 参考図書 >

『日経キーワード2022 - 2023』(日経HR)

< 授業計画 >

第1回 講義の実施方針や進め方の説明。及び予行演習としての問題分析。

新聞記事の読み方の概略説明・討論のやり方の説明。1回目であることに鑑みて、一つのテーマに関して固定的な見方にとらわれず、賛否両論の根拠と、どちらからでも他説への反論ができるような、相対主義的な見方の重要性を認識させる。後半では予行演習として「夫婦別姓」・「いじめ」や「児童虐待」などから問題を選択し実践する予定である。

第2回 世代間格差・雇用格差・子どもの貧困と教育格差などの格差社会

近時のジニ係数の高まりに象徴される日本社会における

様々な格差の広がりや、金融資産の保有に関わる世代間格差、正規社員と非正規社員に関する雇用格差、家計の年収に関わる子どもの貧困や教育格差、などの側面から考察する。

第3回 行政の危機管理としての地震などの大規模災害や新型感染症への対処の在り方。

南海トラフを中心とする東南海地震・首都直下型地震の問題点と対策を考える。また、近時の台風や集中豪雨、土砂崩れ等の自然災害の拡大についても言及する。最後にコロナウィルスに代表される新型感染症の流行の背景と対処方法を考える。

第4回 TPP・EPAなどの貿易自由化と日本の農業の在り方について

貿易の自由化が進む中で、日本農業の在り方を考える。そのために日本の食糧自給率の向上と日本農業の競争力向上のために何が必要かを分析する。

関連してTPPやEPAなどの貿易自由化の歴史にも言及する。

第5回 日本の集団的自衛権・安全保障・憲法改正問題のポイント分析

最初に、憲法改正問題の全般的な論点について解説する。次に安全保障や緊急事態条項にかかわる憲法改正問題を解説し、安保関連法の施行や日米同盟の在り方、あるいは周辺国との外交軍事関係を探求する。領土問題にも言及する。

第6回 新推計人口「2065年の人口8808万人」

人口減少社会における問題点と対策を解説する。主に生産年齢人口の減少の影響や社会保険制度をめぐる問題に焦点を当てる。特に生産年齢人口の補充策として、外国人の新在留資格制度、女性の働きやすい環境整備としての待機児童対策や保育の無償化、高齢者の就業問題、非正規雇用者の正規社員化などの問題も論じる。

第7回 財政赤字の累積とプライマリーバランスの確保

最初に、日本の財政の現状に関して持続可能な財政の確保に向けた消費税増税や基礎的財政収支の黒字化の必要性を説明する。そのための方策として、行政改革や行政効率化、社会保障制度の見直しと国民負担の在り方の分析も行う。また社会保険制度としての年金制度について

も説明する予定である。

## 第8回 日銀の異次元金融緩和政策と出口戦略その他の関連問題

最初に、日銀にこれまでの金融政策を概観し、以上を前提に今後の金融政策の可能性と出口戦略を分析する。世界各国の金融政策の動向と国際的な財政的債務の高まりについても解説する。前回の補充として社会保険制度の問題に触れることも考える。

## 第9回 「働き方改革」の実現可能性

同一労働・同一賃金や、長時間労働の制限や過労死防止策、あるいはワークライフバランスに配慮した働きやすい職場の実現について考える。働き方改革関連法や人手不足、最低賃金の問題にも言及する。

## 第10回 女性活躍推進法とワークライフバランス

最初に女性の活躍が求められる社会状況を説明する。次に男女平等と男女共同参画のあるべき姿について考える。同時に、女性活躍社会を実効化するための解決策を考える。ワークライフバランスでは女性以外の問題にも言及する。

## 第11回 温暖化と脱炭素社会の問題点や今後のエネルギー政策の方向性

第一に、温暖化問題やパリ協定について説明し、具体的な温暖化対策を検討する。第二に、原発の再稼働や代替エネルギー確保の現状を説明し、今後の新エネルギー確保のための方策にも言及する。

## 第12回 日本の未来の教育の方向性

第一に青少年の問題行動・国際的な学力低下・グローバル教育や情報社会などの観点から対策が求められる教育問題を考察する。第二に、初等中学校改革・大学入試改革・高等教育の実践化や国際化などの観点からの問題についても解説する。

## 第13回 『2025年問題』と超高齢社会の衝撃

高齢者の身体的あるいは経済的自立・健康増進、あるいは生き甲斐の確保のための方策を検討し、家族や社会の負担の在り方を分析する。また時間が許せば自宅や介護施設での「みとり」や認知症の問題にも言及する。

## 第14回 コロナ後の観光立国の在り方と地方創生

コロナ後の有るべき観光政策の在り方を考える。終了した東京オリンピックや2025年の大阪万博開催などを受けて、観光政策の拡充が日本経済の持続的活性化と地方創生の決め手として重要であることを論じる。

## 第15回 国際化と多様性許容社会の創出

グローバル化の前提としての社会の多様化への意識改革や寛容化の必要性を分析する。題材として外国人との共存・指導的立場の女性の増加・閉じこもりやニートの社会復帰・高齢者や障害者の雇用問題・LGBTなど、これまでの授業の復習的要素も含めて論じる。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

時事問題基礎

坂本 暁彦  
-----

< 授業の方法 >

現時点では講義中心で、コロナの影響が収まれば、学生との質疑応答や学生同士のグループワークも適宜行う可能性もあります。

また現時点では、上記のように対面講義を予定していません。ただ今後のコロナ感染の推移で、オンデマンド形式等の可能性もあります。

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示すような、社会の諸事象を総合的に理解し、課題解決の方途を探索し実践することを目指す科目である。就職対策関係の講座に属し、論作文や面接対策に必要な資質の育成への導入科目として位置づけられる。その点において、実践的教育から構成される授業科目である。この科目の履修により、学生は日本と関係の深い国際問題を題材にして、ニュースの分析方法を習得し、国際問題の背後にある本質的事項を理解することが出来るようになる。それにより、学生が多様な意見の対立があることを理解し、様々な要素を総合的に把握して自分自身の考えを構成し、かつ発表できる態度を習得することを目的とする。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー1(知識・技能)に関連する。

担当講師は、民間で長年に渡って公務員試験や就職試験対策の時事講座や面接講座・論作文講座の講師を務めてきた実務経験のある講師である。従って、従来からの経験は時事問題の解説においても実社会で特に興味を持って捉えられるテーマの選択とポイントを突いた解説能力として活用できるものとする。

< 到達目標 >

1. 学生は近年における様々な国際問題を理解するのに不可欠な情報を習得できる(知識)。
2. 学生は国際的な時事問題に関心を持ち、その背後関

係に興味を持つことが出来るようになる(態度・習慣)。

3. 学生はニュースの表面的な報道だけに影響されず、その背後にいかなる利害対立があるのかまで考えることが出来るようになる(態度・習慣)。

4. 学生は意見の対立の理由まで理解して自らの見解を打ち立て、他者との討論が出来るようになる(技能)。

<授業のキーワード>

米中の覇権対立・台湾などの日本の周辺有事・温暖化防止「パリ協定」・中東問題とタリバン政権復活・権威主義的体制と民主主義

<授業の進め方>

時事問題の解説を講義形式で行いつつ、適度に発問を行い問題の背景を考えてもらう。その際にいかなる立場の対立があるのかを受講生に更なる質問で考えさせ、相互の立場からいかなる主張が可能かを理解させる。そして定期的に、その結果を各自小レポートにまとめてもらい提出を求める。あるいは、時に一定のテーマについての討論会としてのグループワークも行うことも考える。

<履修するにあたって>

日頃から新聞を読む習慣を付けておくこと。講師の質問や他の受講生との討論に積極的に対応すること。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の授業前に、既に提示済の次の授業相当分のテキストの該当箇所やレジュメを繰り返し読むこと。特に事前学習として、問題の背後にどのような意見の対立があり、その根拠はどこにあるのかをしっかりと把握することを期待する。以上の事前学習時間は1時間30分程度必要と考える。

授業後の学習としては、授業の説明を参考にしながら、各種の意見の根拠やそれへの反論・再反論まで考えながらレジュメやテキストのみならず、参考文献として提示した指定図書についても復習として読み込むことを期待する。以上の事後学習時間も1時間30分程度必要と考える。(事前・事後学習各1時間30分程度)。

<提出課題など>

講義で取り扱った時事問題について、自分自身の意見の根拠や対立する意見への反論をまとめた数回的小レポートの提出を課す。この小レポートの提出にあたって、前提として講師からの発問とそれへの回答を実施することもあるので、それらを参考に自分の言葉でまとめること。フィードバックとして後日、レポート課題の講師の参考例を交付すると同時に、再度そのテーマに関する検討を行うことも考える。

<成績評価方法・基準>

講義全体で定期的に4回から5回的小レポートの提出を求め、小レポート内容、授業中の発言状況等により総合的に評価する予定である。その際小レポート90%や発言状況等は10%で評価する予定である。しかし、コロナの状況で学生に発言を求めることが不適切の場合は、小レポート100%で評価する。

<テキスト>

『朝日キーワード2023』(朝日新聞出版)及び講師のオリジナルレジュメなどの配布資料

<参考図書>

『日経キーワード2022 - 2023』(日経HR)

<授業計画>

第1回 講義の実施方針や進め方の説明。及び戦後の国際関係をめぐる歴史的経緯の説明(その1)

時事問題の読み方の概略や討論のやり方の説明。初回であることに鑑みて、一つのテーマに関して固定的な見方にとらわれず、賛否両論の根拠と、どちらからでも他説への反論が出来るような、相対主義的な見方の重要性を認識させる。後半からは今回の講義全体の基礎となる基本的な情報の確認としての戦後国際政治史の概略の説明に入る。

第2回 戦後の国際関係をめぐる歴史的経緯の説明(その2)

前回に引き続き、今回の講義の基礎知識としての戦後国際政治史を冷戦の開始・激化・デタント・再緊張・終結の流れに従って考察し、国際問題への関心を喚起する。尚、必要に応じて関連国の歴史にも波及して説明することもある。

第3回 戦後の国際関係をめぐる歴史的経緯の説明(その3)及びアメリカの外交姿勢の概観

引き続き、戦後の国際政治史の説明を行い完結させる。次にアメリカの現政権下での、中国の人権姿勢や対外攻勢をめぐり米中対立・中東諸国との関係やイランとの核対立・温暖化対策や貿易自由化をめぐり政策姿勢などを解説する。その際、アメリカ社会の構造変化にも留意する。

第4回 日本の周辺有事問題や固有の領土をめぐり諸問題

中国の香港・台湾への強圧的姿勢や海洋進出・軍備拡張、あるいは北朝鮮の核開発などへの日本の対応を考察する。また、近時の韓国との外交関係のもつれや韓国・中国やロシアに関し日本が直面する領土問題についても分析する。

第5回 ヨーロッパ統合問題や英国のEU離脱

戦後のEC・EUの歴史を説明し、欧州統合の現状を考える。及びEUの抱える移民問題や英国の離脱問題の背景についても考察する。

第6回 世界の強権的指導者と、その背景の分析

世界における権威主義的体制の台頭と個性的指導者の分析を行う。特に中国の習近平主席・ロシアのプーチン大統領・トルコのエルドアン大統領や、欧州・ブラジル・インドなどにおけるポピュリズムの動向にも注目する。

第7回 地球温暖化問題の歴史と「パリ協定」の発効、あるいはアメリカの動向

主に温暖化を中心とした国際環境問題の歴史を振り返り

ながら、先進国と発展途上国の利害対立を解説する。その上で、近年のパリ協定発効の歴史的意義とアメリカの動向を説明する。さらにSDGs(持続可能な開発目標)についても留意する。

#### 第8回 中東をめぐる諸問題の解説(その1)

依然として解決の道が見えない、イスラエルとパレスチナなどアラブ諸国との対立の背景を、紀元前の出来事や20世紀前半の歴史に触れながら解説する。さらに、欧米とイスラム世界との微妙な関係を16世紀の宗教改革へのイスラム文化の影響も踏まえながら説明する。

#### 第9回 中東をめぐる諸問題の解説(その2)

イスラム国の拡大と消滅・シリア内戦と難民流出、あるいはイエメンをめぐるサウジアラビアとイランの対立、イランの核合意離脱、アメリカの外交政策の目的など、近時の複雑な中東情勢への理解を深める。アフガニスタンにおけるタリバン政権の復活の背景とテロ活動への影響についても分析する。

#### 第10回 日本の集団的自衛権・安全保障・憲法改正問題のポイント分析

まず日本の安全保障の歴史的経緯について概観する。次に安全保障にかかわる憲法改正問題を解説し、安保関連法や集団的自衛権、あるいは周辺国との外交軍事関係の在り方について分析する。憲法改正問題については上記以外も補充的に説明する予定である。

#### 第11回 WTOとEPAとの関係、あるいはTPPやAPEC・ASEANなど貿易協定や自由貿易圏をめぐる問題の解説

最初に貿易の自由化の背景やその歴史的経過について解説する。次に現時点での自由貿易圏や経済統合に関わる国際機関や国際協定を分析する。その際にEU統合の状況との比較や米中貿易紛争、あるいはアメリカ・メキシコ・カナダ協定についても触れる予定である。

#### 第12回 核軍縮問題

第一に、戦後の国際社会における核兵器の開発や制限・削減に関わる歴史的経過について説明する。第二に、現時点での各国の核保有の状況と、近年の核兵器禁止条約や核安全保障サミットの開催についても触れる予定である。

#### 第13回 中国の一带一路政策と勢力圏拡大の現状と東シナ海・沖縄等をめぐる問題

中国の勢力拡大や海上進出の状況とその要因について、中国の歴代王朝の例を交えながら説明する。また、それとの関係で沖縄米軍基地の普天間から辺野古への移転問題の背景と現状についても分析する。

#### 第14回 世界の難民・移民問題の背景と現状

最初に、世界的な難民発生歴史的経過と現状を解説する。例として、パレスチナ・シリア・イエメン・南スーダン・ミャンマー(ロヒンギャ)・スリランカ・ベネズエラなどに触れる。次に、EUの難民制度改革や、移民問題とポピュリズム高揚との関係についても説明する。

#### 第15回 日本の近現代史と周辺国との歴史問題

19世紀後半以降の欧米の動向と近代日本の対応、及びアジアの状況を解説し、それとの関係で現時の中国や韓国(特に慰安婦・徴用工問題)との歴史的外交的問題の背景に言及する。対中韓については、近代以前の関係についても触れる予定である。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

自己防衛実習

佐藤 桂生

-----  
<授業の方法>

(1) 実習 (2) 実技

対面(実技)形式

<授業の目的>

社会貢献活動をする際、特に海外での活動は危険を伴う。そしてそれがいつ何時、自分が被害者になるかわからないのが現状である。この世の中に暴力(物理的に無能力、言論を含めて)がある限り、それらから自己の生活を守る手段、方法を習得することは、降りかかる火の粉を未然に防止する意味でも大変重要なことである。生活に直結した様々な出来事に対処するための自己防衛技術(護身術)、心がけを身につける。

目標としては、(1)伝統的な礼法、作法の習得 (2)

基本動作と基本技術の習得

(3)自己防衛技術(護身術)の習得

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

本科目の担当者は警察での勤務及び護身術・逮捕術、剣道指導の実務経験のある教員である。

<到達目標>

(1)基本動作の練度を高めることによって、自然に体が反応できるようにする。

(2)不注意による無能力な暴力に遭遇しないように自己防衛意識を身につける。

<授業のキーワード>

基本術技のポイントの理解と反復練習

<授業の進め方>

(1)前回の復習及び注意点を確認し、練度を高める。(2)積み上げ方式で授業を進行する。

<履修するにあたって>

(1)運動のできる服装とする。(2)体格、体力に関係なく履修できる。(3)リズム体操感覚でよい。(4)自然な自己防衛の技術が身につく。

< 授業時間外に必要な学修 >

テレビ、新聞等の、暴力事案の報道内容などを参考にし、自分なりの対応を考える習慣を身につける。(事前・事後学習各1時間程度)

< 提出課題など >

講義中、既習技を試範させて習得状況をみる。

< 成績評価方法・基準 >

実技の習得度・日々の出席・取り組みの姿勢等で評価する。

< テキスト >

適宜プリント等の参考資料を配布する。

< 授業計画 >

第1回 護身術の意義と目的

授業を進める上での注意点等を説明する。

自己紹介 護身術の意義、目的 護身術の必要性 護身術の法的根拠(緊急避難、正当防衛)、社会的評価を説明する。 実施上の留意事項(服装、準備運動) 術技の総論(術技の名称等)の説明

第2回 単独及び相対動作による「体のさばき」「受け身」相手の攻撃から身を守る基本的、効果的な技を説明して実施する。

実施上の用語の解説(受、取) 礼法、作法の重要性 体のさばき(前さばき、後ろさばき) 受け身(前方、後方、前回り) 単独及び相対動作による「体のさばき」、「受け身」の説明、実施

第3回 単独及び相対動作による「当て身」相手の攻撃から身を守る基本的な技を説明、実施する。

前回までの復習 術技の理合(足さばき) 当て身の名称と方法 単独及び相対動作による「当て身」の説明、実施

第4回 単独及び相対動作による「体のさばき」「受け身」「当て身」体の運用、受け身、当て身の応用、実戦的な技を説明、実施する。

前回までの復習 受け身(前方、後方、前回り) 当て身(前突き、ひじ当て、手刀、ひざ当て、前けり) 単独及び相対動作による当て身技の説明、実施 体のさばきから当て身技への連絡変化

第5回 単独及び相対動作による「離脱技」相手から身を守るための離脱技を基本から応用までを説明、実施する。

前回までの復習 護身に役立つ「物」の活用法 相対動作による離脱技の説明、実施 ひたたくり防止対応策の説明、実施

第6回 単独及び相対動作による「離脱技」相手から身を守るための離脱技を基本から応用技までを説明、実施する。

前回までの復習 相対動作による離脱技の説明、実施 痴漢被害防止対応策の説明、実施 防犯グッズの紹介と活用法 防犯ブザー、防犯スプレー

第7回 単独及び相対動作による「関節技を利用した投

げ技」相手の力を利用して投げる技の、基本的事項を説明し、実施する。

前回までの復習 関節技の説明、実施 投げ技の説明、実施 危機管理対応策 第8回 単独動作及び相対動作による「投げ技」の説明、実施

前回までの復習 投げ技の説明と実施 得意技を作る。

第9回 相対動作による応用技

前回までの復習 応用の投げ技の説明、実施 連絡技、離脱技から投げ技への連絡変化等。

第10回 相対動作による応用技

前回までの復習 応用の投げ技の説明、実施 連絡技、離脱技から投げ技への連絡変化等。

第11回 相対動作による応用技

前回までの復習 応用の投げ技の説明、実施 連絡技、離脱技から投げ技への連絡変化等。

第12回 相対動作による、制圧技の説明、実施

前回までの復習 体さばき、離脱技及び投げ技より連絡した制圧技の説明、実施

第13回 相対動作による、制圧技の説明、実施

前回までの復習 体のさばき、離脱技及び投げ技より連絡した制圧技の説明、実施

第14回 総復習 既習技(基本技)の総復習

前回までの復習 受け身 当て身技 離脱技 関節技 制圧技

第15回 総復習 既習技(応用技)の総復習

前回までの復習 受け身、当て身技、離脱技、関節技を利用した投げ技等を利用した、制圧までの一連の術技の実施

-----  
2022年度 前期

2.0単位

自然災害学

佐伯 琢磨、望月 智也

-----  
< 授業の方法 >

講義形式で解説する。

【連絡先(メールアドレス、LMS)】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

自然災害の発生メカニズムおよび国内外の災害事例を通して、災害の備えや災害時の行動について学ぶ。

さらに、被災地神戸において学ぶという優位性を生かし、地震による人的・物的被害を再認識して、近い将来発生することが懸念されている巨大地震に備える姿勢を身に

つける。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ講義を行う。

<到達目標>

今まで、なぜ自然災害が発生し、人類が被災してきたかという歴史を学び、今後の防災・減災に役立つ知識の習得することができる。

<授業のキーワード>

自然災害の発生メカニズムと対策

<授業の進め方>

映像および配布資料によって、自然災害の発生メカニズムと対策について説明する。

<履修するにあたって>

自然災害に関して、興味を持つこと。

<授業時間外に必要な学修>

世の中で発生している自然災害に関する報道内容について、注目すること。

<提出課題など>

課題に対するレポート

<成績評価方法・基準>

定期レポート(40%)と定期試験(60%)により評価する。

<テキスト>

指定しない、適宜資料を配布する。

<参考図書>

自然災害と防災の事典 京都大学防災研究所 監修 丸善出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方と授業概要を説明する。

第2回 地震による災害について(1)

地震発生メカニズム、地震動に伴う液状化発生メカニズムおよび国内の被災事例について解説する。

第3回 地震による災害について(2)

海外の被災事例、災害の備え、災害時の行動について解説する。

第4回 津波による災害について

発生メカニズム、国内外の被災事例、災害の備え、災害時の行動について解説する。

第5回 台風・高潮による災害について

発生メカニズム、国内外の被災事例、災害の備え、災害時の行動について解説する。

第6回 豪雨災害について

発生メカニズム、国内の被災事例、雨の強さと降り方および災害時の行動について解説する。

第7回 土砂災害について

発生メカニズム、国内の被災事例、災害の備え、災害時の行動について解説する。

第8回 火山噴火による災害について

発生メカニズム、国内の被災事例、災害の備え、災害時の行動について解説する。

第9回 竜巻による災害について

発生メカニズム、国内の被災事例、災害の備え、災害時の行動について解説する。

第10回 雷による災害について

発生メカニズム、国内で被災が多い地域などについて解説する。

第11回 企業防災の実務(入門編)

災害リスクマネジメント企業の実務担当者を講師に迎え、企業防災の実務の基礎を学ぶ。

第12回 最近の話題

地震保険・火災保険など、損害保険について解説する。

第13回 最近の話題

南海トラフ巨大地震による予想被害と防災・減災対策について解説する。

第14回 最近の話題

都市型水害の発生メカニズムと被災事例および防災・減災対策について解説する。

第15回 ふりかえり

これまでの講義の要点をまとめる。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

自然災害学

奥村 与志弘

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義では「水」に起因する災害に焦点を絞り、自然災害の基礎ならびに各種災害の発生メカニズムを理解する。また、近年多発している巨大災害事例と近い将来の発生が懸念されている巨大災害について学び、災害大国で生きていくために必要な実践的な知識と考え方を習得する。

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する

<到達目標>

「水」に起因する災害の多い日本で生きていくために必要な災害の発生メカニズムと防災・減災対策に関する実践的な知識ならびに考え方を習得することによって、将来、様々な分野で活躍することが期待される学生たちがそれぞれの分野において多様な社会的な問題に直面したとき、防災・減災の観点から思考し、解決策を見いだせるようになる。

<授業の進め方>

パワーポイントを用いた講義を中心に進めますが、想像力の育成と思考力の向上、多様な考え方の共有を重視し、

下記の進め方の組み合わせで授業を進めます。

1. パワーポイントを用いた講義  
 2. ワークショップ  
 3. 授業後の小レポートとそれを用いたディスカッション

< 授業時間外に必要な学修 >  
 事前・事後学習各1時間程度  
 < 成績評価方法・基準 >  
 授業中の発表・質疑30%, レポート70%  
 < 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨN  
 本講義の意義, 目標, 進め方について説明する.

第2回 災害学の基礎  
 災害に関する基本を理解する.

第3回 津波災害事例(東日本大震災)  
 東日本大震災の概要を知り, その災害学上の意味を理解する.

第4回 高潮災害事例(伊勢湾台風)  
 伊勢湾台風の概要を知り, その災害学上の意味を理解する.

第5回 豪雨災害事例(兵庫県で発生した最近の事例)  
 都賀川水難事故と佐用町河川災害の概要を知り, その災害学上の意味を理解する.

第6回 土砂災害事例(2014年8月広島土砂災害)  
 土砂災害事例(2014年8月広島土砂災害)

第7回 津波災害  
 津波災害の発生メカニズムを理解する.

第8回 高潮災害  
 高潮災害の発生メカニズムを理解する.

第9回 豪雨災害  
 豪雨災害の発生メカニズムを理解する.

第10回 地盤災害  
 地盤災害の発生メカニズムを理解する.

第11回 防災・減災(1)  
 現在の被害レベルを維持するための防災・減災を理解する.

第12回 防災・減災(2)  
 現在の被害レベルをさらに小さくするための防災・減災を理解する.

第13回 防災・減災(3)  
 巨大災害による被害を小さくするための防災・減災を理解する.

第14回 南海トラフ沿いの巨大地震と津波  
 南海トラフ沿いの巨大地震と津波を迎え撃つための方法を理解する.

第15回 まとめ  
 災害大国で生きていくために必要なことは何かを考える.

-----  
 2022年度 前期

2.0単位

質的調査法

前田 拓也  
 -----

< 授業の方法 >

講義(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目では, 現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に従い, 現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策を探求することを目指す。

また, この科目は, 一連の社会調査法科目の1つに位置づけられ, 社会調査士資格のF科目(質的な調査と分析の方法に関する科目)に該当する。

講義では, さまざまな「質的データ」の収集や分析方法について解説する。フィールドワーク、参与観察、インタビューなどの質的調査の方法、および、ライフヒストリー分析、会話分析、新聞記事やビジュアル・データ等の内容分析等の質的データの分析の方法に関する基本的な知識を身につける。今後質的調査を実施する際に選択することになる方法と、調査の目的や問いとの関係がどのような対応関係にあるのかを明確にしながら学ぶ。

さらに, 質的調査を実施するにあたって, 最低限身につけるべき調査倫理について学ぶ。

< 到達目標 >

・質的調査の方法の特徴を, おもに量的調査との対比を通じて理解できる。

・エスノグラフィなど, 質的調査をもとに書かれた資料を収集し, その方法論とともに読解, 検討することができる。また, 質的調査の方法を, それを用いて書かれたテキストと関連づけて理解することができる。

・質的調査によって得られたデータを, 後に利用可能なかたちで記録することができる。

・質的調査の方法をもちいた調査計画を, 具体的に構想, 立案することができる。

< 授業のキーワード >

質的調査 / フィールドワーク / 参与観察 / インタビュー調査 / 聞き取り調査 / 調査倫理

< 授業の進め方 >

・講義形式でおこなう。

・指定の教科書を利用して, 各回に課題が提示される。

< 履修するにあたって >

・卒業論文執筆などのため将来的に質的調査を実施する予定の者は履修することが望ましい。

・社会調査士科目【F科目】(質的な調査と分析の方法

に関する科目)に該当する。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事後学習：講義ノートを再確認し、講義内で紹介した各種文献、おもにエスノグラフィを積極的に読むこと(目安：1時間程度)。

・中間レポートとして、日常の観察記録を必要とする(目安：1時間程度)。

< 提出課題など >

各回に課題を提示する。また、中間レポート と期末レポートを課す。

< 成績評価方法・基準 >

各回の課題：60%

中間レポート + 期末レポート：40%

< テキスト >

前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編『最強の社会調査入門 これから質的調査をはじめ人のために』(ナカニシヤ出版, 2016年) {詳細,<http://maedat.com/works/saikyo.html>}

< 参考図書 >

・{谷富夫・山本勉編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』(ミネルヴァ書房, 2010年) ,<https://www.minervashobo.co.jp/book/b79068.html>}

・{岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』(有斐閣, 2016年) ,<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150379>}

ほか、適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業のすすめかたと評価方法について確認する

第2回 社会調査とは何か

社会調査の歴史を、実例を元に概観する

第3回 質的調査の考えかた

質的調査とはなにか、量的調査との対比を手がかりにイメージをつかむ

第4回 調査技法 1

フィールドワーク / 対象となる社会に身を置くことを通じた調査と記録の方法

第5回 調査技法 2

参与観察 / 対象となる社会への部分的な参加を通じた調査と記録の方法

第6回 分析技法 1

フィールドワーク / フィールドワークから得られたデータの分析と記述の方法を学ぶ

第7回 調査技法 3

インタビュー / 人に話を聞き、記録するための方法

第8回 分析技法 2

インタビュー / インタビューから得られたデータをどのように分析するか、ライフストーリー法を中心に学ぶ  
第9回 分析技法 3

インタビュー / インタビューから得られたデータをどのように分析するか、会話分析を中心に学ぶ  
第10回 調査技法 4

メディアを用いた調査 / 新聞・雑誌記事の収集やビジュアルな記録を得る方法

第11回 分析技法 4

メディアを用いた調査 / 新聞・雑誌記事やビジュアルな記録の分析方法を、内容分析等を中心に学ぶ

第12回 質的調査の実際 1

調査の企画からデータ素材の収集までのプロセスを概観する

第13回 質的調査の実際 2

データの分析から論文の執筆までのプロセスを概観する

第14回 質的調査と調査倫理

調査を実施するにあたって必要となる対象者への配慮と手続きについて学ぶ

第15回 まとめ

講義内容の振り返りとまとめ

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会と文化

岩本 茂樹

-----  
< 授業の方法 >

講義形式

(ただし、新型コロナの状況でオンデマンドとなる可能性があります。(その場合は、シラバス等に追加連絡をします。))

担当教員のメールアドレス：iwamoto@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義は、現代社会学科における専門分野科目の「地域と文化」に位置づけられている。文学、さらに絵画や音楽、映像を素材として、人間が紡ぎだしてきた社会と文化が社会的価値観や文化構造の枠組みのなかで創造されてきたことを理解するとともに、現代社会学科ディプロマ・ポリシー 1 に準じて、文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、より実践的な観点から社会と文化について解説するものである。

<到達目標>

「社会的知覚」にスポットをあて、人間が築きあげてきた社会と文化は、社会的位置関係や地域によって異なることを学ぶことで、グローバルな視野を有した一市民としての自覚と自ら成長し続ける意欲を身につける。

<授業のキーワード>

社会的知覚、暗黙のルール、コミュ障、文化資本

<授業の進め方>

講義中心の授業を進めますが、授業後に、学んだ内容に関する意見を書いてもらい、次回の授業でフィードバックし、双方向型の授業を取り入れます。また、文化の理解を深める意味から、映画や文学作品などを取り入れた授業を展開する。

なお、オンデマンド授業のURLはマナバにて公開します。

<履修するにあたって>

ノンフィクション作品、文学や映画などに興味関心を持って、授業にのぞんでもらいたい。

<授業時間外に必要な学修>

授業に沿って、教科書内容を復習すること。授業や、教科書でとりあげたテーマについて、自ら深める学習をすること。(予習1時間、復習1時間程度)

<提出課題など>

授業後のコメントの提出。授業、教科書の内容に基づくレポート提出。

<成績評価方法・基準>

授授業内の小テスト(80%) レポート(・コメント(20%))

\*テストは教科書のみ持ち込み可

レポートは教科書からの課題

<テキスト>

岩本茂樹『コミュ障のための社会学入門 - 「生きづらさ」の正体を探る』中央公論新社、2022年出版予定(1500円+税)

<参考図書>

岩本茂樹『自分を知るための社会学入門』中央公論新社、2015年

岩本茂樹『思考力を磨くための社会学』中央公論新社、2018年

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方と授業概要の説明を受け、講義の全体像を把握する。

第2回 社会と自己

ミクロな世界では、自己が身につけた知識や情報で対応するが、そのことを鳥瞰的にマクロな視点で眺めたときはどうなのか。そのズレについて具体的な事例から、社会と自己の関係について理解する。

第3回 出会い

時代や社会の違いが作り出す「出会い」について考える。

第4回 愛するということ

「愛すること」について社会学と隣接する心理学的アプローチと資本主義社会での問題を考える。

第5回 人びとの距離と空間

非接触動物がとる距離の問題から、人と人との間を保つ空間・距離について学ぶ。

第6回 状況にあった振る舞い

集まりの場において、状況によって私たちは決まった振る舞いをしていることを理解するとともに、その背後にある構造を学ぶ。

第7回 儀礼的無関心

演技の視点から、日常生活を読み解く。

第8回 社会的知覚(1)

時代によって異なる動物へのまなざしから社会的知覚を学ぶ。

第9回 社会的知覚(2)

絵画や写真を素材に、時代や社会による自然風景へのまなざしの変化から、社会と文化の関係を理解する。

第10回 家族とは何か

家族の関係は、「実体的なものなのか、それとも互いに築き上げていく構成的なものなのか」について、映像を視聴しながら考える。

第11回 コミュニケーション能力について

コミュニケーション能力が問われる時代について考える。

第12回 記憶のなかの自己

記憶が常に上書き保たれていく問題について考える。

第13回 文化の位相

社会階層で異なる嗜好や趣味を通して文化の位相について考える。

第14回 文化資本

社会的位置関係には、文化という資本力による影響があることを学ぶ。

第15回 要点の整理

これまでの講義内容を振り返りながら、異文化理解に向けた実践力を身につける。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会と文化

岡崎 宏樹

-----  
<授業の方法>

## 講義

授業資料：manabaで確認してください。

### < 授業の目的 >

本講義は、文化・芸術を社会学の視点から考察し、これらが、政治、宗教、経済、メディアほか、多様な関係性のなかで存立することを論じる。

前半は、ホイジンガとカイヨワの遊びの理論、エリアスの文明化論、ブルデューの趣味の理論、チクセントミハイのフロー理論、ジラルルの模倣の欲望理論などを学ぶ。また、スポーツ、音楽、文学、ファッション、サブカルチャーなどの事例をとりあげて社会的考察を深める。後半には、音楽文化を社会学の視座から学ぶ。文化は社会、政治、経済、宗教など多様な領域との関係性の中で存在する。本講義は、音楽を考察対象として、現代社会において文化がどのように存立するかを学び、音楽文化の表現者やファンの分析を通じて、現代に生きる人間の生き方なり方を考察する。また、人種・民族問題、青年期、経済社会、宗教と音楽文化の関係性を、ポピュラー音楽を題材に学び、日本のポピュラー音楽における文化の創造と継承について考える。その際、表現者の社会的影響力や社会的責任についても検討する。さらに音楽によるコミュニケーションを理論的に考察し、音楽の社会的影響力や関係形成力に対する理解を深める。

この授業は、現代社会における文化の形成を多面的・総合的に理解する力を高める点で、現代社会学のディプロマ・ポリシーの1に深く関連する。

### < 到達目標 >

現代の文化について、とりわけ音楽文化について、社会、政治、経済、宗教など多様な角度から理解し、主体的に考察できる。

### < 授業のキーワード >

音楽、文化、現代社会、

### < 授業の進め方 >

授業では、関連する映像や音楽の資料を視聴しつつ、配布した資料に基づいて授業を進める。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各2時間程度。

授業で取り上げた文献や音楽資料を研究し、予習・復習をおこなうこと。

文献や音楽資料を収集し、各自でレポート作成すること。

### < 提出課題など >

提出課題としては、現代社会と音楽文化の関係を考察するレポートが課されます。レポートについては授業内に講評し、フィードバックをします。

### < 成績評価方法・基準 >

成績は、平常点(70%)、レポート(30%)によって総合的に評価する。平常点は、ショートエッセイないしmanabaの小テストを中心に評価する。レポートでは、現代社会と音楽文化の関係を主体的に考察する能力を評価す

る。

### < テキスト >

授業資料：manabaに掲載する。

### < 参考図書 >

井上俊編『〔全訂新版〕現代文化を学ぶ人のために』世界思想社、2014年発行

井上俊・長谷正人編『文化社会学入門 テーマとツール』ミネルヴァ書房、2010年発行

### < 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション：遊びと文化

授業の進め方と全体の概要について説明する。文化社会学や音楽社会学について概説し、遊びをキーワードに文化を解説する。

#### 第2回 文化体験の分析

チクセントミハイの「フロー理論」によってスポーツや文化における体験を分析する。

#### 第3回 恋愛という文化

ホイジンガとカイヨワの遊びの理論を概説し、井上俊の研究を参照し、遊びという視点から恋愛を考察する。

#### 第4回 スポーツと文明化

エリアスの文明化論を概説し、現代スポーツに現れた暴力の問題について考察する。

#### 第5回 消費文化と資本主義

ボードリヤールの消費社会論を概説し、消費という視点からファッション文化や音楽文化を考察する。

#### 第6回 人種・民族問題と音楽文化

アメリカ1950年代前半のポピュラー音楽、公民権運動の高まりを背景とした大衆の音楽聴取の変容について学ぶ。また、エスニシティの枠を超えた音楽文化の融合と新たな表現の登場について学ぶ。

#### 第7回 消費文化と資本主義

イギリス1960年代前半のポピュラー音楽、ポピュラー音楽の表現者の自己形成について学ぶ。また、若者文化としてのロック音楽とその社会的影響力について学ぶ。

#### 第8回 人種・民族問題と音楽文化

アメリカ1950年代前半のポピュラー音楽、公民権運動の高まりを背景とした大衆の音楽聴取の変容について学ぶ。また、エスニシティの枠を超えた音楽文化の融合と新たな表現の登場について学ぶ。

#### 第9回 青年期と音楽文化(1)

イギリス1960年代前半のポピュラー音楽、ポピュラー音楽の表現者の自己形成について学ぶ。また、若者文化としてのロック音楽とその社会的影響力について学ぶ。ブルデューの『ディスタンクシオン』における趣味の理論を概説し、現代のファン研究や「趣味縁」をめぐる研究を紹介する。

#### 第10回 経済社会と音楽文化(1)

アメリカ1980年代前半のポピュラー音楽、ミュージック・ビデオの発展と音楽文化の変容について学ぶ。 ヒッ

ブ・ポップにおける政治性と娯楽性の関係について学ぶ。  
第11回 経済社会と音楽文化(2)  
アメリカ1980年代後半のポピュラー音楽、消費社会における音楽文化の課題と表現者の倫理・社会的責任について学ぶ。  
第12回 日本の音楽文化(1)  
欧米のポピュラー音楽の輸入と表現の変化について学ぶ。  
第13回 日本の音楽文化(2)  
日本独自の新たな音楽文化の創造と継承、海外への発信について学ぶ。  
第14回 サブカルチャーの社会学  
オタク文化の誕生と展開をふまえて、サブカルチャーと現代社会の関係を考察する。  
第15回 地域プロジェクト

文化による地域活性化をめざすプロジェクトを事例として、文化と地域社会の関係を考察する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会と文化研究

グランバック リサ

-----  
< 授業の方法 >

対面従業

< 授業の目的 >

テーマ：宗教と文化

本科目は、全学DPIに示されるように、重工者が、幅広い知識に基づいて他者および異文化を理解できるようになることを目指す。世界の文化・社会は、それぞれの歴史の中で、さまざまな宗教と密接な関係をもちつつ発展してきた。したがって、現代においてもそれぞれの社会の持つ習慣、ものの考え方、各国の時事問題などを理解するためには、宗教についての知識は欠かすことのできないものである。本講義では、身の回りにある日本の宗教的習慣から始め、世界の諸宗教と関連する具体的な事例をとり挙げつつ、現代社会における宗教と文化の状況と方向性について考える。クラスでは、特に「食文化」、「ジェンダー」、「マテリアルカルチャー」、「経済活動」などの視点から、宗教と文化の関係を検討し、宗教のもつ社会的な意味と役割を再検討していく。この科目はディプロマポリシー1(知識を習得する)と関連するものである。

< 到達目標 >

宗教と社会の相互的な展開を手がかりとして、宗教の意味と役割を批判的に考察しながら、現代社会の構成と性質を再考する。

< 授業のキーワード >

宗教の変化、経済と権力、マテリアルカルチャー、宗教

と食物、ジェンダー

< 授業の進め方 >

毎回の授業では配布資料をもとに講義、ディスカッションを行う。受講者は与えられた授業内課題についてプレゼンテーションを行うことが求められる。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、指定されたテキストの読解を課します。

< 成績評価方法・基準 >

講義への積極的な参加と授業内でのプレゼンを評価の対象とする。

< テキスト >

特になし。資料を授業中またはManabaにて配布する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

宗教と文化の関係

第2回 習俗・習慣からみた宗教と社会の関係性

お盆 (1) : インドの仏教と中国の儒教・道教が作った日本の宗教習俗

第3回 習俗・習慣からみた宗教と社会の関係性

お盆 (2) : 仏教とジェンダー、女性の救済問題

第4回 社会の影響により宗教がどのように変わっているのか (1)

観音信仰 : 女性、男性、その他 観音信仰の歴史と変化

第5回 社会の影響により宗教がどのように変わっているのか (2)

現代社会に対応する観音信仰 水子観音、ボケ封じ観音、嫁いらず観音

第6回 宗教と食文化 (1)

宗教の中の肉と米、ワインとパン

第7回 宗教と食文化 (2)

食べ物を作るための祭り

第8回 宗教と食文化 (3)

精進料理 毎日の料理と食事が修行となる? 特にアメリカの仏教徒を見る

第9回 経済から宗教を検討する (1)

宗教とマテリアルカルチャー(物質文化)

第10回 経済から宗教を検討する (2)

仏教とお金と権力

第11回 経済から宗教を検討する (3)

貿易を守る日本の神々

第12回 イギリス文化と宗教

クリスマスを作ったイギリスの文化 家族、宗教、ビジネス

第13回 宗教と現代日本社会 (1)

伊勢参り、七福神めぐりなどの現代宗教「ツーリズム」

第14回 宗教と現代日本社会 (2)

パワースポットと現代日本の宗教のありかた

第15回 最後に

レビューとまとめ

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会学概論

岡崎 宏樹  
-----

< 授業の方法 >

講義：小テストとレポートについてはmanabaを活用する。

< 授業の目的 >

この授業の目的は、社会学の主要な理論を理解し、社会的な物の見方を習得することにある。自己と他者、自己と社会、現代社会の理論の3つが主要テーマである。

この授業では、主要な社会学理論を学んで、社会的な物の見方を習得し、これによって社会的存在としての人間の在り方への理解を育むとともに、現代社会を多様な角度から考察し判断する力を培う。授業は「自己と他者」「自己と社会」「現代社会の理論」の3つから構成される。「自己と他者」（全4回）においては、社会的存在としての自己と他者の関わりに焦点をあてて、関連する社会学理論を解説する。「自己と社会」（全4回）においては、デュルケム、ジンメル、ウェーバーといった近代社会学の創始者たちの古典的理論を解説し、経済や宗教との関わりに留意しつつ、自己と社会の関係を考察する。さらに人間と社会に関する総合理論として作田啓一の人間学について学ぶ。「現代社会の理論」（全5回）では、現代を代表する社会学理論を解説し、消費社会やグローバル化、情報化する社会の課題を学ぶとともに、他者と共に生きる社会における倫理的課題について考察する。

この授業の目的は、現代社会学科のディプロマ・ポリシー1・2に深く関連する。

< 到達目標 >

社会的な物の見方を学んで、人間は本来社会的存在であることを深く理解し、現代の社会について多様な角度から主体的に考察し公正に判断することができるようになる。

< 授業のキーワード >

社会学理論、自己、他者、現代社会

< 授業の進め方 >

YouTube動画、配布資料で学習した後、manabaの小テストに取り組みます。

manaba小テストの提出期限は授業週の土曜日17:00まで。受講生の理解度等に応じて、授業のスピードや内容を変更することがあります。

< 履修するにあたって >

疑問や要望は、メール、マナバなどで随時問い合わせてください。

メール：okazaki@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各2時間程度。指定図書『命題コレクション社会学』や参考書および授業内に示した文献を精読すること。授業内で指定した資料を読解すること。

< 提出課題など >

授業内に小テスト+ショートエッセイ。レポート。授業内に講評し、評価をフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、平常点（70%）、授業内試験（30%）によって総合的に評価します。平常点は、manabaで実施する小テストによって評価します。

< テキスト >

配布資料のデータはmanabaにアップロードします。

< 参考図書 >

『はじまりの社会学』奥村隆編、ミネルヴァ書房（2018年発行）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

イントロダクション：社会とは何か

第2回 アイデンティティとモラトリアム

青年期の自己とモラトリアム（エリクソン）

第3回 役割と社会化

社会的存在としての人間という視点から、役割取得を通じたアイデンティティ形成と相互作用を通じた社会化について考察する。さらにミードの自我論について学ぶ。

第4回 ジェンダーとエスニシティ

ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティの基本的な考え方について学ぶ。さらにLGBTQをめぐる社会の変化、BLM運動について考察する。

第5回 モデル=ライバル論

模倣の欲望とモデル=ライバル論（ジラール）

第6回 アノミーとエゴイズム

アノミーとエゴイズム（デュルケム）

第7回 社交と個性化

個性・流行・社交（ジンメル）

第8回 資本主義の精神

宗教倫理と資本主義経済（ウェーバー）

第9回 他人指向型

他人指向型と現代人のコミュニケーション（リースマン）

第10回 消費社会

現代の経済と消費社会のしくみ（ボードリヤール）

第11回 ポスト消費社会

社会の情報化とポスト消費社会（見田宗介）

第12回 親密性の変容

地域社会の変貌と親密性の変容（ベラー/ギデンズ）

第13回 リスク社会

グローバル化とリスク社会（ベック）

第14回 現代社会の理論

他者と共に生きる社会（パウマン）

第15回 要点の復習、発展的学習の指針

全体の振り返り、要点の復習。1～14回の授業内容をふまえた総復習をおこないます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会学概論

山本 努

-----  
< 授業の方法 >

テキストを使って講義をおこないます。授業の進行次第で受講生の皆さんとの質疑応答なども含めたく思います。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

< 授業の目的 >

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法による、現代社会の解読を示しながら、社会学の基礎的概念や考え方を紹介します。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

< 到達目標 >

1.社会学の基本的考え方を理解できるようになる。2,それによって、社会学の専門的な書籍を読みこなすことができるようになる。3,そこから、現代社会、あるいは、社会というものが、興味深い探求の課題(つまり、「問題」)であることを理解できるようになる。

< 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

< 授業の進め方 >

・講義(対面授業及び遠隔授業の併用)の予定です。

・授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。私語など受講生に迷惑となる行為には厳しく対処します。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

< 提出課題など >

・必要に応じてmanaba(または授業)にて指示します。

・また、受講生からの質問や私から連絡もmanabaを使います。ただし、必要に応じて、メールでも可です。

山本メール <yamamoto@css.kobegakuin.ac.jp>

< 成績評価方法・基準 >

・課題提出(または定期試験)・・・100%出席

\*ただし、欠席の多い場合は単位を認めない。

< テキスト >

山本努編『新版 現代の社会的解読』学文社

\*「新版」を使います。購入時に注意して下さい。

< 参考図書 >

加藤秀俊『社会学』中公新書

< 授業計画 >

第1回 社会学とはどのような学問か?

ガイダンス

第2回 社会学の基礎

文化とは

第3回 社会学の基礎

社会とは

第4回 社会学の基礎

制度と社会構造

第5回 集団

集団とは、内集団・外集団、準拠集団など

第6回 制度と社会構造

制度の理解

第7回 制度と社会構造

## 社会構造の理解

### 第8回 行為論

#### 行為と行動の理解

### 第9回 集団と集団類型

#### 大きな集団、小さな集団など

### 第10回 集団、集団類型：続

### 第一次集団、第二次集団、組織

### 第11回 集団、制度の例解

## 家族の構造

### 第12回 集団・制度の例解

## 家族の機能

### 第13回 社会調査

#### 社会調査とはどのようなことか、社会調査の方法、個性記述と法則定立

### 第14回 社会調査

#### 現地調査の成果、文献調査の成果

### 第15回 まとめ

#### 質疑応答、今後の勉強のための文献案内 (授業の進行によっては、試験となる)

---

## 2022年度 前期

### 2.0単位

#### 社会貢献実習

#### 諏訪 清二

---

#### < 授業の方法 >

2時間連続の講義。1時間目は主に講義を行い知識の習得を中心とする。2時間目はワークショップにとりくみ、データや考えの整理方法、わかりやすい発表方法などを実践的に学ぶ。

避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### 連絡方法

seijisuwa@css.kobegakuin.ac.jp

seijisuwa@yahoo.co.jp

#### < 授業の目的 >

社会貢献とは社会の利益に資する行いを指し、本来はボ

ランティア活動やNGO/NPO、企業のCSR活動等、いわゆる非営利の公益活動を意味するが、近年は経済的持続性の観点から社会的課題をビジネス手法で解決するソーシャルビジネスが台頭し、幅広い概念と実践を含んでいる。この講義では、そうした幅広い社会貢献活動の具体的な事例と実践者の思いを、テキストだけではなく、実践者から直接話を聴くことを通して学ぶ。さらに、学生自らが自分自らの社会貢献活動のプロジェクトを立案し、発表することを目標に、そのプロセスで必要な社会貢献のスキルを習得する。この講義は専門基幹科目の共通実習分野の一つで、「社会貢献入門」等を経てより実践的な知見を体験的に学び、「社会貢献実習」への導入となる科目である。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

本授業は、実践的教育から構成される授業科目である。担当者は高等学校での英語教員の経験が長く、また防災教育の実践にも長くかかわってきた。その実務経験を活かし、英語と防災の知識の涵養も目指す。

#### < 到達目標 >

#### < 知識 >

「社会貢献の状況(事例、分類、歴史、概念等)と実践者の志を理解し、人に説明できる(具体的事例を3つは言える)」

#### < 技能 >

「社会貢献活動に必要なスキルを体得する。具体的には、ニーズの特定と解決方法が立案できる(授業の最後に少なくとも1つ)、協調的・建設的な対話ができる(講師・他学生による評価で半数以上が認める)、自分の考えを適切に他者に伝え、理解・共感を得ることができる(プレゼンを聞いた人の半分以上が理解したと答える)」

#### < 態度・習慣 >

「社会の問題や困っている人に対して関心、共感を抱くようになる」(授業の最後に、新たに関心を持った問題を2つ以上挙げられる)

#### < 授業のキーワード >

社会貢献、ボランティア、ソーシャルビジネス、NGO/NPO、市民社会、新しい公共、スポーツ

#### < 授業の進め方 >

実習を効果的に行うため、授業は2コマ続けて行う。また、以下の3ステップを並行しながら進めていく。

#### ステップ1

講義「社会貢献とは何かについて理解する」ことを目標として、国内外の事例、概念を紹介する。

#### ステップ2

フィールドワーク「社会貢献の現場に赴く、或いは実践者を招き、具体的なノウハウ、苦労、実践者の志など現場でしか見聞きできない知見を得る」

#### ステップ3

グループワーク「自分の社会貢献プロジェクトを立案する」ことを目標として、ニーズと対策の分析、インタビュー、ディスカッション、プレゼンテーション等の方法をワークを通して体験的に学ぶ。

<履修するにあたって>

この授業は講義だけではなく、フィールドワークとグループワークを多用して実践的、体験的に学ぶことを方針としています。受け身ではなく、積極的に参加すればするほど自分にとって学びとなると同時に、他の学生にとっても貢献することになります。自発的に発言し、かつ他の人の話をよく聴き、ともに授業を作っていくという態度で臨んでください（講師は楽しくて実りある授業になるようにしたいと思っていますので、いろんな意見、提案を歓迎します）。

外部の方を訪問したり、講師に招くことがあります。服装や態度、言葉使いなどに気をつけてください。

ボランティアやNGO/NPO活動に少しでも関心があることが望ましいですが、今はあまりなくても知ってみようという姿勢で臨んでもらえるとよいと思います。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習各1時間程度

特に関連分野の本を読む

<提出課題など>

各回授業のあとのふりかえりシート（学び、気づきのまとめ）

小テスト（定期的に2～3回実施）

社会貢献プロジェクトのプレゼンテーション資料  
授業の中で回答例を示す。

<成績評価方法・基準>

授業ごとの振り返りシート 20%

小テスト 20%

プレゼンテーションと相互評価 30%

最終レポート 30%

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

イントロダクション

社会貢献の事例と実践者

フィールドワーク 1

（ボランティア活動の実際）

授業の進め方と評価方法についての説明を行う。社会貢献の概要について知る。グループワークで身の回りの社会貢献を探す。

（宿題：自分のイチオシ実践者を探す）

説得力のある文章の書き方を学び、実際に小論文を書く。

第2回 「イチオシの社会貢献」発表

ボランティア活動支援室見学

「自分のイチオシ実践者」の発表。具体的な社会貢献の事例（国内・国外）とその実践者のプロフィールや志を知り、社会貢献の在り方を考える。

ボランティア活動支援室の見学、大学が行うボランティアについての理解、インタビュー実践練習。

第3回 講義とディスカッション1

講師の体験談1 海外の社会貢献事例

講師の話聞いてその分野での社会貢献の実際を考え提案する。

第4回 講義とディスカッション2

講師の体験談2 災害支援と社会貢献

講師の話聞いてその分野での社会貢献の実際を考え提案する。

第5回 実際の社会貢献から学ぶ 1

地域に根差した介護、看護サービスを学ぶ。

第6回 実際の社会貢献から学ぶ 2

貧困、多文化に生きるこどもたちの支援を学ぶ。

第7回 実際の社会貢献から学ぶ 3

企業のCSRに学ぶ。

第8回 生き方を学ぶ 1

NP0による貧困支援の実際を学び、その中で人がどのように生きようとしているのかを知る。また、社会的課題を持つように思える人に対する「見方」について考える。

第9回 生き方を学ぶ 2

DVDを見ながら、社会貢献の方法、生き方を学ぶ。

第10回 生き方を学ぶ 3

こども支援の課題と実践を学ぶ。

第11回 中間まとめ

国際、地域、福祉、貧困などのテーマごとに学んできたことをまとめる。

第12回 社会貢献プロジェクトの立案(個人編)

自分が行いたい社会貢献の具体案を作成する。

第13回 社会貢献プロジェクトの立案とプレゼンテーション資料の作成 1

グループに分かれ関心の在る分野での社会貢献のプロジェクトを検討、作成する。

第14回 社会貢献プロジェクトの立案とプレゼンテーション資料の作成 2

グループに分かれ関心の在る分野での社会貢献のプロジェクトを検討、作成する。

第15回 社会貢献プロジェクトプレゼンテーション大会  
グループごとに作成したプロジェクトを発表し、相互評価する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会貢献実習

柴田 真裕  
-----

< 授業の方法 >

「実習」

< 授業の目的 >

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー3（主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度）に関連する。

兵庫県、とりわけ神戸市はさまざまな災害を経験してきた歴史を有している。

本科目では、その中でも特に「阪神淡路大震災」について改めて調べるとともに、

その歴史の史跡等を実際に訪れ、歴史に触れることで、今後の災害対策を考えることを目的とする。

また、発表等の自己表現の手法についても学習し、大学生に必要な発表手法、グループワークについて学ぶ。

< 到達目標 >

社会防災学科在学中に持つべき防災意識の向上を図る

< 授業のキーワード >

過去の歴史から学び、今後の迫りくる災害への対策を考える

< 授業の進め方 >

「阪神淡路大震災」についてグループごとにテーマを設定し、調べ、討論する

調べた災害に関し、県内に現存する史跡を訪れる

過去の災害から得られた教訓等をまとめ、発表する。

< 履修するにあたって >

学外実習として、施設を訪れます。

その際には土日に授業日を振り返ることがあります。

（日程は初回授業の際にお伝えします。）

< 授業時間外に必要な学修 >

文献等で実習先について調べる

< 提出課題など >

事後レポートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

レポート（最終報告書）50%、授業への参加度50%

< テキスト >

指定しない

< 参考図書 >

指定しない

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方についての説明を行う。

第2回 自己表現?ppt?

パワーポイントを用いた発表手法について学び、自己表現する

第3回 自己表現?ppt発表?

パワーポイントを用いた発表を行い、自己表現する

第4回 自己表現?word?

ワードを用いたレポート作成について学び、自己表現する

第5回 自己表現? レポート発表?

各自が作成したレポートを用いて、発表し、自己表現する

第6回 グループ討議

各グループでテーマを設定し、討論を行い、成果を発表する

第7回 グループワーク

各グループが設定したテーマについての事前調べを行い、発表する。

第8回 グループワーク

各グループが設定したテーマについての事前調べを行い、発表する。

第9回 グループワーク

各グループが設定したテーマについての事前調べを行い、発表する。

第10回 学外実習

各グループが調べた災害に関する史跡を訪れる。

第11回 学外実習

各グループが調べた災害に関する史跡を訪れる。

第12回 振り返りとまとめ発表

各グループが調べ、訪れた場所についてのまとめを行い、発表する。

第13回 振り返りとまとめ発表

各グループが調べ、訪れた場所についてのまとめを行い、発表する。

第14回 振り返りとまとめ発表

各グループが調べ、訪れた場所についてのまとめを行い、発表する。

第15回 報告書の作成と総括

授業の総まとめとして報告書を作成し、授業の総括を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会貢献実習

田中 綾子  
-----

< 授業の方法 >

2時間連続の講義。1時間目は主に講義を行い知識の習得を中心とする。2時間目はワークショップにとりくみ、データや考えの整理方法、わかりやすい発表方法などを実践的に学ぶ。

< 授業の目的 >

社会貢献とは社会の利益に資する行いを指し、本来はボランティア活動やNGO/NPO、企業のCSR活動等、いわゆる非営利の公益活動を意味するが、近年は経済的持続性の観点から社会的課題をビジネス手法で解決するソーシャルビジネスが台頭し、幅広い概念と実践を含んでいる。この講義では、そうした幅広い社会貢献活動の具体的な事例と実践者の思いを、テキストだけではなく、実践者から直接話を聴くことを通して学ぶ。さらに、学生自らが自分なりの社会貢献活動のプロジェクトを立案し、発表することを目標に、そのプロセスで必要な社会貢献のスキルを習得する。この講義は専門基幹科目の共通実習分野の一つで、「社会貢献入門」等を経てより実践的な知見を体験的に学び、「社会貢献実習 ・ 」への導入となる科目である。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

実践的教育から構成される授業である。

< 到達目標 >

< 知識 >

「社会貢献の状況(事例、分類、歴史、概念等)と実践者の志を理解し、人に説明できる(具体的事例を3つは言える)」

< 技能 >

「社会貢献活動に必要なスキルを体得する。具体的には、ニーズの特定と解決方法が立案できる(授業の最後に少なくとも1つ)、協調的・建設的な対話ができる(講師・他学生による評価で半数以上が認める)、自分の考えを適切に他者に伝え、理解・共感を得ることができる(プレゼンを聞いた人の半数以上が理解したと答える)」

< 態度・習慣 >

「社会の問題や困っている人に対して関心、共感を抱くようになる」(授業の最後に、新たに関心を持った問題を2つ以上挙げられる)

< 授業のキーワード >

社会貢献、ボランティア、ソーシャルビジネス、NGO/NPO、市民社会、新しい公共、国際協力

< 授業の進め方 >

実習を効果的に行うため、授業は2コマ続けて行う。また、以下の3ステップを並行しながら進めていく。

ステップ1

講義「社会貢献とは何かについて理解する」ことを目標として、国内外の事例、概念を紹介する。

ステップ2

フィールドワーク「社会貢献の現場に赴く、或いは実践者を招き、具体的なノウハウ、苦勞、実践者の志など現場でしか見聞きできない知見を得る」

ステップ3

グループワーク「自分の社会貢献プロジェクトを立案する」ことを目標として、ニーズと対策の分析、インタビュー、ディスカッション、プレゼンテーション等の方法をワークを通して体験的に学ぶ。

< 履修するにあたって >

この授業は講義だけではなく、フィールドワークとグループワークを多用して実践的、体験的に学ぶことを方針としています。受け身ではなく、積極的に参加すればするほど自分にとって学びとなると同時に、他の学生にとっても貢献することになります。自発的に発言し、かつ他の人の話をよく聴き、ともに授業を作っていこうという態度で臨んでください。

(講師は楽しくて実りある授業になるようにしたいと思っていますので、いろんな意見、提案を歓迎します)。

外部の方を訪問したり、講師に招くことがあります。服装や態度、言葉使いなどに気をつけてください。

ボランティアやNGO/NPO活動に少しでも関心があることが望ましいですが、今はあまりなくても知ってみようという姿勢で臨んでもらえるとよいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回 事前学習 30分程度 アサインメント 30分程度  
課題 3時間程度

< 提出課題など >

グループワークのワークシート3回分と最終提案プレゼンテーション 授業中のコメントまたは記入等によりフィードバックする

< 成績評価方法・基準 >

アサインメント取り組み状況 20点

授業への貢献度(発言等) 20点

グループワーク成果物 10点×3

最終課題 提案パワーポイント 30点

< テキスト >

使用しない。毎回授業資料・ワークシート等を配布または共有する。

< 参考図書 >

JICA(独立行政法人国際協力機構)事業・プロジェクト  
<https://www.jica.go.jp/activities/index.html>

『ボランティア解体新書:戸惑いの社会から新しい公共への道』江田 英里香編著 木立の文庫

『FACTFULNESS(ファクトフルネス)10の思い込みを乗り

越え、データを基に世界を正しく見る習慣』ハンス・ロスリング (著) 日経BP

『ソーシャルデザイン実践ガイド』筧裕介著 英治出版  
<授業計画>

## 第1回 オリエンテーション インTRODクシヨ

社会貢献の事例と実践者

フィールドワーク 1

(ボランティア活動の実際)

授業の進め方と評価方法についての説明を行う。社会貢献の概要について知る。グループワークで身の回りの社会貢献を探す。

(宿題:自分のイチオシ実践者を探す)

## 第2回 「イチオシの社会貢献」発表

ボランティア活動支援室見学

「自分のイチオシ実践者」の発表。具体的な社会貢献の事例(国内・国外)とその実践者のプロフィールや志を知り、社会貢献の在り方を考える。

ボランティア活動支援室の見学、大学が行うボランティアについての理解、インタビュー実践練習。

## 第3回 講義とディスカッション1

講師の体験談1 海外の社会貢献事例

講師の話を聞いてその分野での社会貢献の実際を考え提案する。

## 第4回 講義とディスカッション2

講師の体験談2 災害支援と社会貢献

講師の話を聞いてその分野での社会貢献の実際を考え提案する。

## 第5回 実際の社会貢献から学ぶ 1

地域に根差した介護、看護サービスを学ぶ。

## 第6回 実際の社会貢献から学ぶ 2

貧困、多文化に生きる子どもたちの支援を学ぶ。

## 第7回 実際の社会貢献から学ぶ 3

企業のCSRに学ぶ。

## 第8回 生き方を学ぶ 1

NPOによる貧困支援の実際を学び、その中で人がどのように生きようとしているのかを知る。また、社会的課題を持つように思える人に対する「見方」について考える。

## 第9回 生き方を学ぶ 2

DVDを見ながら、社会貢献の方法、生き方を学ぶ。

## 第10回 生き方を学ぶ 3

子ども支援の課題と実践を学ぶ。

## 第11回 中間まとめ

国際、地域、福祉、貧困などのテーマごとに学んできたことをまとめる。

## 第12回 社会貢献プロジェクトの立案(個人編)

自分が行いたい社会貢献の具体案を作成する。

## 第13回 社会貢献プロジェクトの立案とプレゼンテーション資料の作成 1

グループに分かれ関心の在る分野での社会貢献のプロジェクトを検討、作成する。

## 第14回 社会貢献プロジェクトの立案とプレゼンテーション資料の作成 2

グループに分かれ関心の在る分野での社会貢献のプロジェクトを検討、作成する。

第15回 社会貢献プロジェクトプレゼンテーション大会  
グループごとに作成したプロジェクトを発表し、相互評価する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会貢献実習

諏訪 清二  
-----

<授業の方法>

2コマ連続の講義。前半のは講義を中心に、知識習得に重きを置く。後半はワークショップ、発表などを行い、共同作業の方法、考えをまとめる方法を学び、発表の練習を積む。

避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

連絡方法

seijisuwa@css.kobegakuin.ac.jp

seijisuwa@yahoo.co.jp

<授業の目的>

「社会貢献」が盛んに、そして当たり前になる流れにある。ただ、社会貢献には「これ」という定型はない。わたしたちが各々、自らの、あるいは所属する組織などにおいて、その信条に基づいて、社会に対して責任を持ち、貢献する行為を行なう。

社会貢献の内容及び手段は、わたしたちの身近な事柄から、既成概念を打ち破るような事柄まで多岐に渡る。わたしたちが、普段から広い視野を持ち、調べること、聞くこと、伝えること、考えること、判断することにより、社会貢献として自らが何を対象として、誰に対して行なうのか、それがどうなるのかということまでを考える。本講座では、社会に存在する事象を知ることと、行動することを通じて「社会に貢献する」ことを学ぶ。

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。担当者は高等学校での英語教員の経験が長く、また防災教育の実践にも長くかかわってきた。その実務経験を活かし、実践的な英語活用能力の育成と防災の知識の涵養も目指す。

<到達目標>

普段耳にする身近なテーマから耳馴染みのないテーマまで、ときに自らの力、ときにチームの力で取り組むこと

により、いつか、どこかで、だれかのための何かをするため、より豊かな人間性を育むことを目的とする。社会のなかで生活する自己の役割や立場を理解することができる・実践を通じて、社会のさまざまな課題とその対処を把握し、社会貢献の意義を理解することができる。

< 授業のキーワード >

災害支援 芸術 国際 障害

< 授業の進め方 >

芸術、災害、国際の三つのテーマを設定する。外部から専門家を招いたの講義を取り入れ、その内容をもとにして少人数グループでの討論、意思決定、表現を行う。ワークショップの成果があがるように、思考整理方法、文章作成方法、発表方法などを具体的に学ぶ。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前、事後学習を各1時間程度

< 提出課題など >

毎時、小レポート(400字程度)を課す。

講義全体に関するレポート(2000字程度)を課す。

授業の中で回答例を示す。

< 成績評価方法・基準 >

出席・毎時の小レポート 3割

最終のグループ発表 3割

講義全体に関するレポート 4割

< テキスト >

講義時に資料を配布する。ポートフォリオとして保存すること。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

表現活動

授業の進め方および計画説明、他己紹介、模擬ディスカッション

第2回 絵を通した被災地支援

一枚の絵を文章化する作業を通して、読みやすい文章、説得力のある文章の書き方を学ぶ。合わせて、書いた内容を全員の前で発表し、表現力の向上を目指す。

第3回 絵を通した被災地支援

被災者、特に子どもたちを絵画で支援する「アトリエ太陽の子」の主宰者・中嶋洋子氏の講演から、被災地支援の在り方を学ぶ。実際に絵を描き、絵画の持つ力を実感する。

第4回 絵を通した被災地支援

絵画・芸術活動を通して社会に貢献する方法をグループで検討し、発表するレベルにまとめる。

第5回 芸術による社会貢献 発表

グループで検討した「芸術を通した社会貢献」を発表し、相互評価する。

第6回 障害児・者への支援

障害の種類、災害時の障害児・者の実態、支援の在り方などを学びグループ討論を通して課題の整理と解決策の提案を行う。

第7回 障害児・者への支援

特別支援学校の教員を講師に招き、障害児・者をめぐる今日的な課題について学ぶ。

第8回 重度訪問介護

「特定非営利活動法人かめのすけ」代表の三宅直樹先生の講演

第9回 障害児・者への支援の在り方 発表

障害児・者をはじめとする災害時要援護者について学び、災害時に彼らが安心できるユニバーサルな支援の在り方についてグループで考え、発表、相互評価する。

第10回 開発途上国への支援

ネパールでの地震被災地支援、防災教育を学び、被災地支援の在り方をグループで考え発表する。

第11回 開発途上国への支援

青年海外協力隊員として海外で活動した若者を講師に招き、活動の実際を学ぶ。

第12回 開発途上国への支援

海外の被災地で行われている支援の一つを取り上げ、その長短を批判的に議論し、改善点、支援の方向性を考えて提言する。

第13回 学生が行う社会貢献

絵・芸術、障害児・者、開発途上国支援の三つのグループに分かれ、自分たちが行いたい支援・貢献を具体的に考え、提言レベルにまとめる。

第14回 学生が行う社会貢献

第13回の続き。発表に向けてプレゼンテーション資料を作成する。

第15回 発表と相互評価

提言を発表し、相互評価する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会貢献実習

柴田 真裕  
-----

< 授業の方法 >

「演習」「実習」

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

「社会貢献」が盛んに、そして当たり前になる流れにある。ただ、社会貢献には「これ」という定型はない。わたしたちが各々、自らの、あるいは所属する組織などにおいて、その信条に基づいて、社会に対して責任を持ち、貢献する行為を行なう。

社会貢献の内容及び手段は、わたしたちの身近な事柄から、既成概念を打ち破るような事柄まで多岐に渡る。わ

たしたちが、普段から広い視野を持ち、調べること、聞くこと、伝えること、考えること、判断することにより、社会貢献として自らが何を対象として、誰に対して行なうのか、それがどうなるのかということまでを考える。本講座では、社会に存在する事象を知ることと、行動することを通じて「社会に貢献する」ことを学ぶ。

<到達目標>

普段耳にする身近なテーマから耳馴染みのないテーマまで、ときに自らの力、ときにチームの力で取り組むことにより、いつか、どこかで、だれかのための何かをするため、より豊かな人間性を育むことを目的とする。社会のなかで生活する自己の役割や立場を理解することができる・実践を通じて、社会のさまざまな課題とその対処を把握し、社会貢献の意義を理解することができる。

<授業のキーワード>

災害支援 芸術 国際 障害

<授業の進め方>

芸術、災害、国際の三つのテーマを設定する。外部から専門家を招いたの講義を取り入れ、その内容をもとにして少人数グループでの討論、意思決定、表現を行う。ワークショップの成果があがるように、思考整理方法、文章作成方法、発表方法などを具体的に学ぶ。

<授業時間外に必要な学修>

事前、事後学習を各1時間程度

<提出課題など>

毎時、小レポート（400字程度）を課す。  
講義全体に関するレポート（2000字程度）を課す。  
授業の中で回答例を示す。

<成績評価方法・基準>

出席・毎時の小レポート 3割  
最終のグループ発表 3割  
講義全体に関するレポート 4割

<テキスト>

講義時に資料を配布する。ポートフォリオとして保存すること。

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、表現活動

授業の進め方および計画説明、他己紹介、模擬ディスカッション

第2回 絵を通した被災地支援

一枚の絵を文章化する作業を通して、読みやすい文章、説得力のある文章の書き方を学ぶ。合わせて、書いた内容を全員の前で発表し、表現力の向上を目指す。

第3回 絵を通した被災地支援

被災者、特に子供たちを絵画で支援する「アトリエ太陽の子」の主宰者・中嶋洋子氏の講演から、被災地支援のあり方を学ぶ。実際に絵を描き、絵画の持つ力を実感する。

第4回 絵を通した被災地支援

絵画・芸術活動を通して社会に貢献する方法をグループで検討し、発表するレベルにまとめる。

第5回 芸術による社会貢献 発表

グループで検討した「芸術を通した社会貢献」を発表し、相互評価する。

第6回 障害児・者への支援

障害の種類、災害時の障害児・者の実態、支援の在り方などを学びグループ討論を通して課題の整理と解決策の提案を行う。

第7回 障害児・者への支援

特別支援学校の教員を講師に招き、障害児・者をめぐる今日的な課題について学ぶ。

第8回 重度訪問介護

「特定非営利活動法人かめのすけ」代表の三宅直樹先生  
第9回 障害児・者への支援の在り方 発表

障害児・者をはじめとする災害時要援護者について学び、災害時に彼らが安心できるユニバーサルな支援の在り方についてグループで考え、発表、相互評価する。

第10回 開発途上国への支援

ネパールでの地震被災地支援、防災教育を学び、被災地支援の在り方をグループで考え発表する。

第11回 開発途上国への支援

青年海外協力隊員として海外で活動した若者を講師に招

き、活動の実際を学ぶ。

## 第12回 開発途上国への支援

海外の被災地で行われている支援の一つを取り上げ、その長短を批判的に議論し、改善点、支援の方向性を考えて提言する。

## 第13回 学生が行う社会貢献

絵・芸術、障害児・者、開発途上国支援の三つのグループに分かれ、自分たちが行いたい支援・貢献を具体的に考え、提言レベルにまとめる。

## 第14回 学生が行う社会貢献

第13回の続き。発表に向けてプレゼンテーション資料を作成する。

## 第15回 発表と相互評価

提言を発表し、相互評価する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会貢献実習

須釜 幸男  
-----

< 授業の方法 >

「講義」、「演習」、「実習」

< 授業の目的 >

「社会貢献」が盛んに、そして当たり前の流れにある。その一方で、社会貢献には「これ」という定型が存在しない。私達が単独・組織で、その信条に基づき、社会に対して責任を持ち、貢献する行為を実行している。社会貢献の内容・手段は、私達の身近な事柄から、既成概念を打ち破るような事柄まで、多岐に亘る。私達が日頃から広い視野を持って、調べ、聞き、伝え、考え、判断することにより、社会貢献として自らが何を対象として、(1)誰に対して行動するのか、(2)その実践がどういう方向・結果を生み出すのかを考える。本講座では、社会に存在する事象を知ること、行動を通じて、自らが「社会に貢献する」重要性を学ぶ。この科目は実務経験のある教員による実践的教育から構成される授業として、社会防災学科ディプロマポリシー3「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」に関連する。

< 到達目標 >

普段よく耳にする身近なテーマから、耳馴染みないテーマまで、時に自らの力で、時にチームの力で取り組み、

いつか、どこかで、誰かのための何かをするべく、より豊かな人間性を育むことを目的とする。具体的には社会のなかで生活する自己の役割・立場を理解でき、実践を通じて、社会の様々な課題とその対処を把握し、社会貢献の意義を理解できることである。

< 授業のキーワード >

社会貢献、ボランティア、市民社会、NGOとNPO、CSR(企業の社会的責任)、ソーシャルビジネス(社会的事業)、グループワーク、文献研究、フィールドワーク、ケーススタディ、実践報告など

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークを取り入れ、受講生からの活発で自発的な発言・行動を期待する。学外での体験・調査を共同レポートにまとめると共に、発表を実施する。他グループの発表を傾聴・評価し、有益な講評や提案を行なう。フィールドワークは公共施設や社会インフラ施設、報道機関、医療機関、百貨店、ホテルなど、現代社会に密着した施設を訪問予定である。これまでの実施例としては、電力会社との共同学習、水力発電所、火力発電所、原子力発電所への見学など。

< 授業時間外に必要な学修 >

報道や文芸、エンターテイメントから社会の時流とニーズを看取すると同時に、自分には何が可能かを思案・実践すること(事前・事後学習各1時間程度)

< 提出課題など >

随時、指定する予定

< 成績評価方法・基準 >

レポート(30%)、受講時の発言、質疑などの積極性(30%)、発表(40%)

< テキスト >

特に無し(プリントを配布する)

< 参考図書 >

前林清和編著、須釜幸男ほか『アクティブラーニング理論と実践』デザインエッグ、2015年。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業展開を説明し、自己紹介やグループ編成などを実施する

第2回 文献研究

企業や団体、個人での社会貢献活動の事例を読み解く

第3回 文献研究

日本内外での社会貢献活動の歴史・動向を紐解く

第4回 フィールドワークの準備

訪問先の概要・社会貢献活動を調査し、質問項目をまとめる

第5回 フィールドワークの準備

訪問計画をグループごとに発表・講評し合い、計画を磨き上げる

第6回 フィールド実習

調査訪問先の歴史や社会貢献活動、体験者の説明・感想

を聞く  
第7回 フィールド実習  
具体的活動について、用意した質問項目からヒアリングを実施する  
第8回 フィールド実習  
具体的活動について、用意した質問項目からヒアリングを実施する  
第9回 フィールドワーク  
訪問先の社会貢献活動を肌で感じ、自ら体験してみる  
第10回 フィールドワーク  
訪問先の社会貢献活動を肌で感じ、自ら体験してみる  
第11回 フィールドワークの整理  
訪問先で学んだ内容を各自が整理し、レポートを作成する  
第12回 フィールドワークの整理  
各レポートを基に、グループ内でディスカッションを実施する  
第13回 中間報告の準備  
中間報告（グループ発表）の資料を作成する  
第14回 中間報告の準備  
効果的なプレゼン方法を検討し、質問と応答を想定する  
第15回 中間報告会  
グループ単位による実践報告の上、互いに傾聴し、講評し合う  
第16回 中間報告会の振り返り  
中間報告会后に、講評（訪問先や他グループ）を踏まえ報告内容を再検討する  
第17回 中間報告会の振り返り  
中間報告会后に、講評（訪問先や他グループ）を踏まえ報告内容を再検討する  
第18回 ケーススタディ  
社会貢献に著名な歴史的企業や偉人を調査する  
第19回 ケーススタディ  
対象の理念や実績から知見や教訓をまとめ、社会貢献像を浮き彫りにする  
第20回 ケーススタディ  
今後の社会貢献の在り方を考え、自らのアイデアをまとめる  
第21回 社会貢献活動の提言  
再度、訪問先と意見交換をし、アイデアを提言する  
第22回 社会貢献活動の提言  
再度、訪問先と意見交換をし、アイデアを提言する  
第23回 社会貢献活動の実践  
訪問先の社会貢献活動を再体験し、より積極的に社会貢献活動に臨む  
第24回 社会貢献活動の実践  
訪問先の社会貢献活動を再体験し、より積極的に社会貢献活動に臨む  
第25回 社会貢献活動の実践  
訪問先の社会貢献活動を再体験し、より積極的に社会貢

献活動に臨む  
第26回 社会貢献活動の振り返り  
再訪問で体得した内容を各自が整理し、レポートを作成する  
第27回 社会貢献活動の振り返り  
各レポートを基に、グループ内でディスカッションを実施する  
第28回 社会貢献活動の振り返り  
最終報告（グループ発表）の資料を作成する  
第29回 社会貢献活動の解説  
効果的なプレゼン方法を検討し、質問と応答を想定する  
第30回 最終報告会  
グループ単位による実践報告の上、互いに傾聴し、講評し合う

-----  
2022年度 前期  
2.0単位  
社会貢献実習  
中田 敬司  
-----

<授業の方法>  
基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp  
特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

<授業の目的>  
この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。「社会貢献」は聞きなれてきた言葉であるが、具体的にどういったことが社会貢献なのか改めて考える。個人や団体、企業などによってもそのスタイルは様々で「これ」という定型はない。各々自ら、あるいは所属する組織において、社会に対して責任を持ち、貢献する行為を行なう。

社会貢献の内容及び手段は、我々の身近な事柄から、既成概念を打ち破るような事柄まで多岐に渡る。普段から広い視野を持ち、調べること、聞くこと、伝えること、考えること、判断することにより、社会貢献として自らが何を対象として、誰に対して行なうのか、それがどうなるのかということまでを考える。本講座では、社会に存在する事象を知ることと、行動することを通じて「社会に貢献する」ことを学ぶ。

なおこの授業の担当者は10年以上企業・ボランティア団体研修に関わった実務経験のある教員である。また、

実践的教育から構成される科目であるよって実際の現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

<到達目標>

普段耳にする身近なテーマから耳馴染みのないテーマまで、ときに自らの力、ときにチームの力で取り組むことにより、いつか、どこかで、だれかのための何かをするため、より豊かな人間性を育むことを目的とする。社会のなかで生活する自己の役割や立場を理解することができる・実践を通じて、社会のさまざまな課題とその対処を把握し、社会貢献の意義を理解することができる。

<授業のキーワード>

CSR 社会貢献 ボランティア 企業理念 経営理念

<授業の進め方>

少人数のグループワークを取り入れ、受講生からの活発かつ自発的な発言を要求する。体験・調査したことをレポートにまとめるとともに発表を実施する。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習に各1時間程度。

<提出課題など>

授業テーマごとにレポート、および授業で学んだこと7まとめる総合レポートを課す。授業の中で、モデル事例等を示し、講評を行う。

<成績評価方法・基準>

課題レポート(60%)、発表(40%)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方および自己紹介、実習計画の立案ほか

第2回 社会貢献活動準備

企業や団体、個人の社会貢献活動事例検討およびその活動と社会貢献について検討する。

第3回 社会貢献活動準備

具体的訪問予定団体・施設ほかについてピックアップし、その概要について調査し、質問内容等をまとめる。

第4回 社会貢献活動(団体訪問)

対象団体に訪問し、団体の歴史や今までの活動、そして具体的に活動についてインタビューを実施する。また団体の活動を体験する。

第5回 社会貢献活動の整理

訪問団体から学んだこと等を整理しレポートにする。

第6回 企業経営と社会貢献

社会に広く貢献した歴史的経営者をピックアップし、その人物像を調査する。

第7回 企業における社会貢献の在り方

対象人物の考え方や実績から、学んだことや質問事項、また今後に生かしていきたいことなどをまとめる。

第8回 社会貢献活動(施設訪問)

歴史的経営者の関連施設訪問を実施し、関係者からの説

明を受けるとともに質疑応答を実施、今後の企業における社会貢献の在り方を考える。

第9回 社会貢献活動の整理

施設訪問から学んだこと等を整理しレポートを作成する。

第10回 民間団体の社会貢献

実際に広く社会貢献している団体について調査し、その団体の概要をまとめる。

第11回 民間団体の社会貢献の在り方

対象団体・施設の設立の考え方や実績から、学んだことや質問事項、また今後に生かしていきたいことなどをまとめる。

第12回 社会貢献活動(団体・施設訪問)

対象団体及び関連施設訪問を実施し、関係者からの説明を受けるとともに質疑応答を実施、今後の組織における社会貢献の在り方を考える。

第13回 社会貢献活動の整理

団体訪問から学んだこと等を整理しレポートを作成する。

第14回 整理と発表準備

これまで学んだことを総合的にレポートとして整理し、次講での発表の準備を行う。

第15回 発表 講評

これまで学んできたことを整理し、スライドにて発表を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会貢献人間関係論

前林 清和、関原 光司、渡會 英明  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。社会貢献と人間関係は不可分につながっている。社会そのものが人間によって形成されており、その社会に対して社会の一員である私が社会のために行う行為が社会貢献である以上、人間関係のあり方のひとつが社会貢献とも言える。また、具体的に活動を行う際も、活動対象はもちろんグループで行う場合は活動主体も複数の人間によって行われる。そこに生じる人間関係を自分との関係でどのように捉えるか、またどのように円滑に機能させていけるかが問われる。これらのことについて学生の考えを問いながら考えていく。

単に知識や考え方だけでなく学生が社会貢献活動を行う際に役立つように、今までの人間関係を内省しこれからの自己の人間関係のあり方を構築していける能力と態度を身につけることを目指す。

<到達目標>

- 1) 人間関係の理論を臨床心理学的に理解する
- 2) 自分自身の心や人間関係について、心理テストなどを通じて理解する
- 3) 実際に社会貢献活動を行うための組織内でのリーダーシップを学び、合意形成ができる話し合いの方法を身に付ける

< 授業のキーワード >

社会貢献 人間関係 リーダーシップ

< 授業の進め方 >

講義を受け身で聞くだけでなく、参加型の授業を展開する。そのために学生同士がワークショップや討論を行う機会をあたえ、その内容をお互いが共有し、その学問的意味を理解しつつ、実践に応用できるの応力を身につけることができるようなアクティブラーニングを展開する

< 授業時間外に必要な学修 >

復習、授業で学んだことを2時間程度他の書籍などで復習すること。事前および事後学習にそれぞれ1時間程度。

< 提出課題など >

レポート提出とともに レポート内容について授業の中でフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

レポート50%、確認テスト50%(授業内)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、評価の仕方、社会貢献と人間関係

第2回 人間について1

人間の持つ協力ということについて考える

第3回 人間について2

人間の持つ攻撃性の抑制と規律について考える

第4回 人間について3

平和について考える

第5回 私について1

こころについて、臨床心理学的視点から考える

第6回 私について2

私の心について深く知る

第7回 人間関係について1

現代人の人間関係、対人距離、対人関係、ストレスについて学ぶ

第8回 特別講義

外部講師による特別講義

第9回 社会貢献と人間関係1

社会貢献における人間関係のあり方について学ぶ(被災者への対応)

第10回 社会貢献と人間関係2

支援チーム内でのピアサポートについて、事例を検討しながら考える

ワークショップ(緊急援助隊の事例)

第11回 社会貢献と人間関係3

自主防災組織での活動内容を決定するプロセスを考える

第12回 社会貢献と人間関係4

組織内での人間関係とその改善方法について考える

第13回 社会貢献とリーダーシップ1

社会貢献をグループで行う際のリーダーシップについての理論的根拠を学ぶ

第14回 社会貢献とリーダーシップ2

自分自身のリーダーシップについて考え、それを如何に生かすかを学ぶ

第15回 全体の振り返りと確認

各自で授業全体を振り返り、どの程度理解したか確認する

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会貢献哲学

前林 清和

-----  
< 授業の方法 >

講義(対面授業)ただし、9月20日(月)~10月2日(土)までの授業は、リアルタイム(ZOOM)で実施します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

社会貢献をSDGsを題材に哲学的に学ぶ。

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。

私たちは、この目標を日本人として、あるいは国際人として生きていくうえで、自分事として自覚することが重要である。人間は、自己の利益と同時に他己の利益のためにも生きなければならない。つまり、社会貢献のマインドを全ての人が持ってこそ、温かみのあるWin-Winの社会の構築が実現できるのである。その具体的な目標がSDGsである。

本授業は、SDGsについて学ぶとともに、その前提となる世界や日本の負の状況を知り、私たちが如何に社会貢献活動をしてSDGs実現させていけばよいのかを考え、社会貢献の哲学的知識を身につけるとともに、自分自身の社会貢献哲学を確立するための態度と能力を身につけることを目指す。

< 到達目標 >

- 1、社会貢献の哲学的視点について理解することができる。(知識)
- 2、SDGsを通じて社会貢献を哲学的に深く考えることで、自分自身の存在価値や他者の存在について改めて捉えなおすことができる。(態度・習慣)

3、一つの課題について、みなで討論する能力が身に付く。(技能、態度・習慣)

<授業のキーワード>

社会貢献、SDGs

<授業の進め方>

テキストにそって、授業をすすめるが、テーマごとにワークショップを実施し、参加型授業を展開する。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学んだ内容に関連した分野を図書館やインターネットを活用して思考を深めること(2時間程度)

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

<提出課題など>

レポート提出とともに レポート内容について授業の中でフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加態度30%、レポート20%、確認テスト50%(授業内)

<テキスト>

前林清和『SDGs時代の社会貢献活動 - 一人ひとりができることとは -』昭和堂 2400円(税別)

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の内容と方法、評価、自己紹介、授業の進め方

第2回 SDGsと社会貢献

社会貢献の思想、ボランティアについて

第3回 SDGsと社会貢献

SDGsとは、歴史的背景

第4回 SDGsと社会貢献

日本におけるSDGs、17のゴールを目指すための哲学

第5回 SDGsの17のゴール

1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、3. 全ての人に健康と福祉を、4. 質の高い教育をみんなに、5. ジェンダー平等を実現しよう、6. 安全な水とトイレを世界中に

第6回 SDGsの17のゴール

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに、8. 働きがいも経済成長も、9. 産業と技術革新の基盤をつくろう、10. 人や国の不平等をなくそう、11. 住み続けられるまちづくりを、12. つくる責任つかう責任

第7回 SDGsの17のゴール

13. 気候変動に具体的な対策を、14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさを守ろう、16. 平和と公正をすべての人に、17. パートナリシップで目標を達成しよう

第8回 特別講義

外部講師によるSDGsに関する講演

第9回 SDGsを見据えた活動-災害に強いまちづくり・防災教育の普及

災害に強いまちづくり・防災教育の普及に関する講義とワークショップ

第10回 SDGsを見据えた活動-開発途上国の教育開発

開発途上国の教育開発に関する講義とワークショップ

第11回 SDGsを見据えた活動-これからの企業の姿・スポーツが世界をつなぐ

これからの企業の姿・スポーツが世界をつなぐに関する講義とワークショップ

第12回 SDGsを見据えた活動-自然と共に生きる

自然と共に生きるに関する講義とワークショップ

第13回 SDGsを見据えた活動-世界の難民を救う

世界の難民を救うに関する講義とワークショップ

第14回 SDGsを見据えた活動-命をつなぐ国際医療

命をつなぐ国際医療に関する講義とワークショップ

第15回 総括

全体のまとめと確認

第16回

-----

2022年度 後期

2.0単位

社会政策

中野 雅至

-----

<授業の方法>

講義

連絡先は [nakano@css.kobegakuin.ac.jp](mailto:nakano@css.kobegakuin.ac.jp)

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

<授業の目的>

この講義では社会政策を様々な角度から幅広く勉強する。社会政策とは年金・医療などの社会保障政策に加えて、労働政策や公的な住宅政策などを含む幅広いものである。また、これらの政策は国民生活に直結するものだけに大きな影響力を与える。このようなことを念頭に置きながら、日本だけでなく世界各国の事例にまで視野を広げて社会政策を紹介する。さらに、年金や医療、派遣労働など現代社会で身近な問題を取り上げることで、より実地的な観点からの紹介を行う。なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシー

の「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

<到達目標>

日本の社会政策についてより深い理解力を身につけることを目的とする。

<授業の進め方>

講義を中心に進める

<授業時間外に必要な学修>

予習1時間、復習1時間を行うこと

<提出課題など>

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

<成績評価方法・基準>

レポート(70%)授業への参加度(30%)

<授業計画>

第1回 授業のガイダンス

シラバスに基づいて授業の進め方などについて解説する

第2回 社会政策とは何か

社会政策とは具体的にどのような分野の政策をいうのかを解説する

第3回 日本の労働市場について(1)

日本の労働市場について解説する

第4回 日本の労働市場について(2)

日本の労働市場について解説する

第5回 雇用政策とは何か(1)

日本の雇用政策について解説する

第6回 雇用政策とは何か(2)

日本の雇用政策について解説する

第7回 年金制度について(1)

日本の年金制度について解説する

第8回 年金制度について(2)

日本の年金制度について解説する

第9回 医療制度について(1)

日本の医療制度について解説する

第10回 医療制度について(2)

日本の医療制度について解説する

第11回 介護制度について(1)

日本の介護保険制度について解説する

第12回 介護制度について(2)

日本の介護保険制度について解説する

第13回 社会保障と予算制度(1)

社会保障制度と予算制度の関連について解説する

第14回 社会保障と予算制度(2)

社会保障制度と予算制度の関連について解説する

第15回 授業の復習

これまでの授業の中身をもう一度振り返る

-----  
2022年度 前期

1.0単位

社会調査士実習 A

都村 聞人  
-----

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基幹科目(共通実習)に位置づけられ、2年次の現代社会基礎実習からさらに発展した社会調査実習を行うことを目的としている。また、社会調査士資格のG科目(社会調査を実際に経験し学習する科目)に該当する。

調査票調査の実習に取り組むことにより、社会調査のプロセスを体験的に学習し、社会学の研究スタイルを学ぶことを目的とする。神戸学院大学現代社会学部の学生を調査対象に設定し、「神戸学院大学現代社会学部生の意識と行動」というテーマで調査を行う。前半となる本科目では、調査の企画、調査項目の設定、先行研究・先行調査の渉猟、仮説構築を行う。次に、質問文・選択肢の作成と修正を行い、調査票を作成する。授業内でプレテストを行い、調査票を修正し、最終版の調査票を完成させる。各学生で分担し、現代社会学部の授業担当教員に調査のお願いを行い、承諾を得られた授業で調査票の配布・回収を行う。

<到達目標>

自らの興味関心にしたがって、調査テーマを決定することができる。

調査テーマに関する先行研究を調べることができる。

調査テーマについて仮説を立てることができる。

先行調査を参照しながら、質問文・選択肢を作成することができる。

調査倫理をふまえたうえで、実査を行うことができる。

<授業のキーワード>

社会調査、調査票調査、実習

<授業の進め方>

各自のテーマにしたがって作業を進め、授業内で発表を行う。場合によっては、グループワークを行う。

<履修するにあたって>

社会調査士取得希望者が履修すること。社会調査法 ~、社会統計学を履修し、単位修得していることが前提となる。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、調査テーマについて文献、各種統計、

各種調査、インターネット等を利用して、積極的に調べてください(目安として1時間程度)。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください(目安として1時間程度)。

<提出課題など>

レポート提出(問題意識、先行研究、仮説、質問文・選択肢の作成について)

(フィードバック:レポートに対してコメントを行います。)

授業内の発表(問題意識、先行研究、仮説、質問文・選択肢の作成について)

(フィードバック:発表に対してコメントを行います。)

<成績評価方法・基準>

授業内の発表:50%

レポート:50%

<テキスト>

担当教員が作成した資料を用いる。

<参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方、調査概要の説明、年間スケジュールの確認などを行う。

#### 第2回 社会調査のプロセスと倫理

調査票調査のプロセスについて復習する。また、調査倫理、調査研究の着想、文献の探し方などについて説明する。

#### 第3回 調査テーマ設定の方法

仮説とは何か、問題の図式化、先行調査の探し方について学び、調査テーマ設定の準備を行う。

#### 第4回 調査票の作成方法

調査票の作成方法について、基礎的事項を復習する。

#### 第5回 調査項目提案・問題意識・先行研究に関する発表(1)

調査項目提案・問題意識・先行研究に関して、個人発表を行う。

#### 第6回 調査項目提案・問題意識・先行研究に関する発表(2)

調査項目提案・問題意識・先行研究に関して、個人発表を行う。

#### 第7回 仮説構築に関する発表(1)

仮説構築に関して、個人発表を行う。

#### 第8回 仮説構築に関する発表(2)

仮説構築に関して、個人発表を行う。

#### 第9回 質問文・選択肢作成に関する発表(1)

質問文・選択肢の案について個人発表を行う。

#### 第10回 質問文・選択肢作成に関する発表(2)

質問文・選択肢の案について個人発表を行う。

#### 第11回 調査票の統合作業

受講生が作成した質問項目を統合し、調査票のレイアウトを整える。

#### 第12回 プレテストの実施と調査票の点検

仮の調査票を用いてプレテストを行い、調査票の問題点を挙げ、修正する。

#### 第13回 調査実査の分担を計画・調整

調査票の配布・回収の分担を調整し、決定する。

#### 第14回 調査実査

調査実査(調査票の配布と回収)および実査で生じた問題点の確認を行う。

#### 第15回 調査状況の確認、夏休み課題の説明

調査状況を確認する。また夏休み中の課題について説明する。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

社会調査実習 B

梅川 由紀  
-----

<授業の方法>

演習および実習形式で行います。

<授業の目的>

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー(現代社会学科)の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「大学生のごみ問題への関心を高めるために必要なこと」という共通のテーマのもと、受講生の関心(ごみ問題、環境問題、大学生のライフスタイルなど)に基づいて問いを設定してもらいます。受講生一人一人が質的調査(インタビュー調査)を行い、大学生の意識や行動について調査・分析・考察を行い、社会調査の一連のプロセスを体験する実習授業です。調査の準備、企画・設計、実施、分析、考察、成果報告書の作成、発表までを一年かけて行い、これら全ての作業を一人で実施できるようにすることを目的とします。前期は調査の準備?実施までの作業と、成果報告書の一部作成を行います。従って本科目は学外での実習を伴う、実践的教育から構成される授業科目です。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。より実践的なアドバイスを行うことが可能です。

<到達目標>

1. 質的調査(インタビュー調査)の準備、企画・設計ができるようになること。

2. 質的調査(インタビュー調査)を実施できるようになること。

#### < 授業のキーワード >

質的調査、インタビュー調査、社会調査士、ごみ、環境問題、大学生

#### < 授業の進め方 >

授業は演習および実習形式で行います。クラス全体で「大学生のごみ問題への関心を高めるために必要なこと」という共通のテーマを掲げますが、作業は個人作業とし、各自が調査を実施します。一部講義形式による質的調査法の復習の時間なども設けますが、基本的には各自が調べてきたことを発表したり、クラス全体・グループでのディスカッションを行いながらテーマや調査技法に関する理解を深め、各自の作業を進めます。一年かけて、各自の調査結果を成果報告書としてまとめます。

#### < 履修するにあたって >

社会調査士実習 Bと連続した授業です。必ず通年で受講してください。本授業は社会調査士G科目（社会調査を実際に経験し学習する科目）です。積極的に楽しみながら調査に取り組める人を歓迎します。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。各回の授業後、次回授業までに発表資料作成、課題の実施、成果報告書の作成、インタビューの実施などの作業が発生します。

#### < 提出課題など >

1. 授業時に以下のものを発表 / 提出してもらいます。
  - ・ 授業時間外に調べてきたことを発表する / 発表資料を提出する。
  - ・ 授業時・授業時間外に実施した課題を提出する。
  - ・ 授業時・授業時間外に実施した成果報告書を提出する。
2. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加）：30%、発表内容・提出課題：30%、成果報告書：40%で評価します。

#### < テキスト >

なし。

#### < 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方について説明します。また、共通テーマやその主旨について説明します。

##### 第2回 調査方法の復習

社会調査の面白さについて、ワークショップを通して復習します。

##### 第3回 調査方法の復習

調査方法について復習をします。

##### 第4回 テーマについての調査と問いの設定

テーマに関する現状把握を行います。そのうえで、各自の問いを設定します。

##### 第5回 先行研究の検討

先行研究の調べ方の説明を行います。その後、各自で先行研究の検討を行います。

##### 第6回 先行研究の検討

各自の発表をベースに、先行研究の検討を行います。

##### 第7回 仮説構成

仮説構成について説明します。その後、各自で先行研究を参考にしながら仮説構成を行います。

##### 第8回 仮説構成

ディスカッションの時間を設けながら、仮説の補強を行います。

##### 第9回 インタビュー対象者の選定（サンプリング）

ディスカッションの時間を設けながら、インタビュー対象者の選定を行います。

##### 第10回 インタビューの設計

インタビューガイドの作成を行います。

##### 第11回 インタビューの設計

ディスカッションの時間を設けながら、インタビューガイドをさらに充実させていきます。

##### 第12回 インタビューの練習

各自が作成したインタビューガイドをもとに、受講生同士でインタビューの練習を行います。練習を通じて、インタビューガイドの修正を行います。

##### 第13回 調査倫理

調査倫理について復習をします。

##### 第14回 調査倫理

ディスカッションの時間を設けながら、調査依頼書を作成します。その後、調査の依頼をします。

##### 第15回 調査実施

インタビューを実施し、トランスクリプトを作成します。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

社会調査士実習 A

都村 聞人  
-----

#### < 授業の方法 >

実習

#### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指してい

る。

本科目は、専門基幹科目（共通実習）に位置づけられ、2年次の現代社会基礎実習からさらに発展した社会調査実習を行うことを目的としている。また、社会調査士資格のG科目（社会調査を実際に経験し学習する科目）に該当する。

調査票調査の実習に取り組むことにより、社会調査のプロセスを体験的に学習し、社会学の研究スタイルを学ぶことを目的とする。「神戸学院大学現代社会学部生の意識と行動」というテーマで調査を行う。後半となる本科目では、まずコーディングについて学び、受講生自らカラムガイドを作成する。次にエディティングを実施した後、調査票のデータ入力を分担して行う。データクリーニングの方法について学び、分析データを完成させる。SPSSを用いた度数分布表、クロス集計表などの作成について復習したうえで、集計・分析作業を行う。分析の結果に基づき仮説検証と考察について発表し、報告書の作成を行う。

#### <到達目標>

コーディングの基本作業ができる。

エディティングの基本作業ができる。

分析可能な形式でデータ入力できる。

簡単なデータクリーニングができる。

度数分布表、クロス集計表を用いて、分析できる。

分析結果を報告書にまとめることができる。

#### <授業のキーワード>

社会調査、調査票調査、実習、統計分析

#### <授業の進め方>

各自のテーマにしたがって作業を進め、授業内で発表を行う。場合によっては、グループワークを行う。

#### <履修するにあたって>

社会調査士取得希望者が履修すること。社会調査法 ～、社会統計学、社会調査士実習 を履修し、単位修得していることが前提となる。

#### <授業時間外に必要な学修>

事前学習として、調査テーマについて文献、各種統計、各種調査、インターネット等を利用して、積極的に調べてください（目安として1時間程度）。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください（目安として1時間程度）。

#### <提出課題など>

報告書提出

（フィードバック：報告書論文については、随時コメントを行い、修正してもらいます。）

授業内の発表

（フィードバック：発表に対してコメントを行います。）

#### <成績評価方法・基準>

授業内の作業：20%

授業内の発表：20%

報告書：60%

#### <テキスト>

担当教員が作成した資料を用いる。

#### <参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

#### <授業計画>

第1回 エディティングとコーディングの説明、夏休み課題提出

エディティングとコーディングの概略を復習する。また夏休み課題についてコメントを行う。

第2回 カラムガイド作成に関する説明

カラムガイドの作成方法を説明し、受講生自ら作業を行う。

第3回 エディティング

回収した調査票のエディティングを行う。

第4回 調査票のデータ入力（1）

回収した調査票のデータ入力を分担して行う。

第5回 調査票のデータ入力（2）

回収した調査票のデータ入力を分担して行う。

第6回 SPSSの基本操作の復習、データクリーニング

SPSSの基本操作の復習を行ったうえで、簡単なデータクリーニングを受講生自ら行う。

第7回 Excelによる図表作成の説明、SPSSを利用した分析（1）

分析結果を図表化するためのExcelの操作方法を復習する。また、SPSSを利用したデータ分析を行う。

第8回 SPSSを利用した分析（2）

SPSSを利用したデータ分析を行う。

第9回 SPSSを利用した分析（3）

SPSSを利用したデータ分析を行う。

第10回 報告書論文第1稿の発表（1）と修正指導

報告書論文第1稿について個人発表を行う。そのうえで、修正指導を行う。

第11回 報告書論文第1稿の発表（2）と修正指導

報告書論文第1稿について個人発表を行う。そのうえで、修正指導を行う。

第12回 報告書論文第1稿の発表（3）と修正指導

報告書論文第1稿について個人発表を行う。そのうえで、修正指導を行う。

第13回 報告書論文第2稿の発表（1）と修正指導

報告書論文第2稿について個人発表を行う。そのうえで、修正指導を行う。

第14回 報告書論文第2稿の発表（2）と修正指導

報告書論文第2稿について個人発表を行う。そのうえで、修正指導を行う。

第15回 報告書論文第2稿の発表（3）と修正指導、完成原稿提出に関する説明

報告書論文第2稿について個人発表を行う。そのうえで、修正指導を行う。また、完成原稿提出について説明する。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

社会調査士実習 B

梅川 由紀  
-----

< 授業の方法 >

演習および実習形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」

「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「大学生のごみ問題への関心を高めるために必要なこと」という共通のテーマのもと、受講生の関心（ごみ問題、環境問題、大学生のライフスタイルなど）に基づいて問いを設定してもらいます。受講生一人一人が質的調査（インタビュー調査）を行い、大学生の意識や行動について調査・分析・考察を行い、社会調査の一連のプロセスを体験する実習授業です。調査の準備、企画・設計、実施、分析、考察、成果報告書の作成、発表までを一年かけて行い、これら全ての作業を一人で実施できるようになることを目的とします。後期はトランスクリプトの作成および調査の分析・発表までを行います。従って本科目は学外での実習を伴う、実践的教育から構成される授業科目です。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。より実践的なアドバイスを行うことが可能です。

< 到達目標 >

1. 質的調査（インタビュー調査）結果の分析ができるようになること。
2. 質的調査（インタビュー調査）結果の考察ができるようになること。
3. 質的調査（インタビュー調査）結果について、成果報告書を作成できるようになること。
4. 質的調査（インタビュー調査）結果について、発表できるようになること。

< 授業のキーワード >

質的調査、インタビュー調査、社会調査士、ごみ、環境問題、大学生

< 授業の進め方 >

授業は演習および実習形式で行います。前期に引き続き、クラス全体で「大学生のごみ問題への関心を高めるために必要なこと」という共通のテーマを掲げますが、作業

は個人作業とし、各自が調査を実施します。一部講義形式による質的調査法の復習の時間なども設けますが、基本的には各自が調べてきたことを発表したり、クラス全体・グループでのディスカッションを行いながらテーマや調査技法に関する理解を深め、各自の作業を進めます。一年かけて、各自の調査結果を成果報告書としてまとめます。

< 履修するにあたって >

社会調査士実習 Bと連続した授業です。必ず通年で受講してください。本授業は社会調査士G科目（社会調査を実際に経験し学習する科目）です。積極的に楽しみながら調査に取り組める人を歓迎します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。各回の授業後、次回授業までに発表資料作成、課題の実施、成果報告書の作成などの作業が発生します。

< 提出課題など >

1. 授業時に以下のものを発表 / 提出してもらいます。
  - ・ 授業時間外に調べてきたことを発表する / 発表資料を提出する。
  - ・ 授業時・授業時間外に実施した課題を提出する。
  - ・ 授業時・授業時間外に実施した成果報告書を提出する。
2. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加）：30%、発表内容・提出課題：30%、成果報告書：40%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

- 第1回 トランスクリプトの作成  
夏休みに実施したインタビューのトランスクリプトを作成します。
- 第2回 トランスクリプトの作成  
トランスクリプトの作成の続きを行います。
- 第3回 分析方法の復習  
分析方法について復習をします。
- 第4回 分析  
各自で分析を行います。
- 第5回 分析  
分析を深めていきます。

## 第6回 ディスカッション（分析結果）

ディスカッションの時間を設けながら、分析をさらに深めます。

## 第7回 考察方法の復習

考察方法について復習をします。

## 第8回 考察

各自で考察を行います。

## 第9回 中間発表

各自で行った考察について、中間発表をしてもらいます。

## 第10回 中間発表

前回発表していない受講生に、各自で行った考察について、中間発表をしてもらいます。

## 第11回 考察

中間発表時に教員や受講生から受けた講評をもとに、考察を深めていきます。

## 第12回 考察のまとめ / 成果報告書の作成方法とプレゼンテーションの仕方

考察を仕上げます。その後、成果報告書作成の説明と、プレゼンテーションの仕方について説明を行います。

## 第13回 成果報告書作成

成果報告書を作成します。ディスカッションの時間なども設けながら、内容を充実させていきます。

## 第14回 成果報告書作成 / 最終発表準備

成果報告書を仕上げるとともに、次週最終発表に向けた準備を行います。

## 第15回 最終発表

各自の調査結果について発表をしてもらいます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会調査法 A

都村 聞人  
-----

### < 授業の方法 >

講義

### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「（現代社会における）諸問題を学際的かつ科学的に発見し把握する」ことを目指している。

本科目は、専門基幹科目（専門共通）のひとつであり、一連の社会調査法科目の導入に位置づけられる。また、社会調査士資格のC科目（基本的な資料とデータの分析に関する科目）に該当する。

量的データと質的データのそれぞれについて、データの特徴を捉え正確に読み取ること、データを分析し、まとめたとえで表現することを学ぶ。量的データに関しては、単純集計、度数分布、代表値、クロス集計表について、読み取り方（官庁統計等を利用）および計算・集計方法を学習する。また、相関関係について学んだう

で、因果関係と相関関係の違い、疑似相関などについて理解する。質的データに関しては、質的調査の特徴について学び、実際に論文を読むことにより質的調査の魅力を理解する。また、簡単なインタビューを行い、その結果をまとめる方法を学習する。

### < 到達目標 >

公的統計など既存の統計資料を収集できる。

公的統計、簡単な調査報告などの統計データを読み取ることができる。

主要な記述統計量（平均、分散、標準偏差など）を読み取ることができる。

主要な記述統計量（平均、分散、標準偏差など）を算出することができる。

クロス集計について説明し、自ら集計することができる。

因果関係と相関関係の違いについて説明できる。

### < 授業のキーワード >

社会統計、データ分析、社会調査士資格C科目（基本的な資料とデータの分析に関する科目）

### < 授業の進め方 >

統計に関する講義の他に、パソコンを用いた実習作業を行う。

### < 履修するにあたって >

社会統計入門、社会調査法、社会調査法等の科目で学んだことと関連づけて学習すること。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教科書の箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。事後学習として、講義時の配布資料を再確認し、教科書の練習問題を解いてみること（目安として1時間程度）。

### < 提出課題など >

実習作業の結果をレポートとして提出してもらいます。（フィードバック：レポートに対してコメントを行います。また、正解例を解説します。）

### < 成績評価方法・基準 >

レポート：100%

### < テキスト >

津島昌寛・山口洋・田邊浩編、『数学嫌いのための社会統計学（第2版）』、法律文化社、2014年

### < 参考図書 >

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

### < 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション

量的データと質的データとは何かについて理解する。（テキスト第1章）

#### 第2回 統計資料の収集方法

官庁統計の概要と探索方法、2次データとは？、2次データの利用方法について学ぶ。

#### 第3回 データを整理してみよう

単純集計、度数分布表、ヒストグラム、さまざまなグラ

フの特徴と描き方について学ぶ。(テキスト第3章)  
第4回 代表値からデータの特徴を読み取る  
平均値、中央値、最頻値について学ぶ。また、官庁統計を利用して、代表値・グラフの読み取りを行う。(テキスト第4章)  
第5回 代表値を計算してみよう  
Excel、SPSSを利用した実習(都道府県データ)を行う。  
(テキスト第4章)  
第6回 データの散らばりに着目してみよう  
範囲、分散、標準偏差、変動係数の意味・読み取り方を学ぶ。(テキスト第4章)  
第7回 分散・標準偏差を計算してみよう  
Excel、SPSSを利用した実習(都道府県データ)を行う。  
(テキスト第4章)  
第8回 データの散らばりに着目してみよう  
歪度と尖度、箱ひげ図について学ぶ。  
第9回 変数の関連について考えてみよう  
クロス集計とはなにか?について学び、クロス集計表で分かることを理解する。(テキスト第5章)  
第10回 2変数のクロス集計表を作成してみよう  
2次データを利用したSPSSの実習を行う。(テキスト第5章)  
第11回 変数の関連について考えてみよう  
散布図、相関関係とは何か?、さまざまな相関関係、相関係数について学ぶ。(テキスト第6章・第7章)  
第12回 変数の関連について考えてみよう  
因果関係と相関関係、3変数のクロス集計表、疑似相関の概念について学ぶ。(テキスト第6章・第7章)  
第13回 質的データを利用した分析事例をみてみよう  
質的データを利用した研究例を読んでみる。  
第14回 簡単なインタビューをしてみよう  
簡単なインタビューの練習を行う。  
第15回 質的データを文章化してみよう  
インタビューの結果を文章化し考察する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会調査法 B

梅川 由紀

-----  
<授業の方法>

講義形式で行います。

<授業の目的>

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー(現代社会学科)の、「知識・技能」「思考?・判断?・表現?等の能?」に関連する科目です。

本授業は、社会調査における調査の企画・設計・実施方法に関する解説を通して、「資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法」について

学ぶことを目的とします。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。過去の調査経験等をふまえ、実践的な解説を行うことが可能です。

<到達目標>

1. 社会調査の企画・設計ができるようになること。
2. 社会調査に必要な資料やデータを収集できるようになること。
3. 社会調査に必要な資料やデータを、分析しうる形にまで整理できるようになること。
4. 社会調査の実施方法について説明できるようになること。

<授業のキーワード>

社会調査(企画・設計・実施方法)、質的調査、量的調査

<授業の進め方>

授業はパワーポイントを使用した講義形式です。毎回授業の最後にコメントシートを記してもらいます。コメントシートには、授業を受けて考えたことなどを書いてもらいます。

<履修するにあたって>

本授業は社会調査士B科目(調査設計と実施方法に関する科目)です。これまで社会調査関連の科目を履修してこなかった方も、歓迎します。

<授業時間外に必要な学修>

各回授業の事前・事後に2時間程度とします。特に授業後は、授業内容を振り返るとともに、関?を持った内容に関しては積極的に本・論?・ニュースなどに?を通して、理解を深めるようにしてください。

<提出課題など>

1. 毎回授業の最後にコメントシートを記?してもらいます。フィードバックは、次回授業開始時にクラス全体に向けて?います。
2. 学期末には期末レポートを課します。フィードバックは、クラス全体に向けて?います。

<成績評価方法・基準>

コメントシート?30%、期末レポート?70%で評価します。

<テキスト>

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

授業の進め方と社会調査の概要について解説します。

第2回 調査目的

社会調査とは何か、社会調査の目的、問いの設定、先行研究の検討について解説します。

第3回 仮説構成

仮説の立て方、変数について解説します。

第4回 調査の方法（質的調査）

インタビューの概要と実査の方法について解説します。

第5回 調査の方法（質的調査）

フィールドワーク、参与観察、ドキュメント分析の概要と実査の方法について解説します。

第6回 調査の方法（量的調査）と調査方法の決め方

調査票調査、既存統計資料の分析の概要と実査の方法（調査票の配布・回収法）について解説します。

第7回 サンプリング

対象者の選定の諸方法について2回にわたり学びます。全数調査と標本調査、有意抽出法について解説します。

第8回 サンプリング

無作為抽出法、標本数と標本誤差について解説します。

第9回 質問文の作り方（質的調査）

インタビューガイドの作成方法と注意点について解説します。

第10回 質問文の作り方（量的調査）

調査票の構成、調査票の作成方法と注意点について解説します。

第11回 調査の実施方法（質的調査）

インタビュー、フィールドワーク、参与観察、ドキュメント分析の実査の方法と注意点について解説します。

第12回 調査の実施方法（量的調査）

調査票調査の実査の方法と注意点について解説します。

第13回 調査データの整理（質的調査）

トランスクリプトの作成、フィールドノートの作成について解説します。

第14回 調査データの整理（量的調査）

エディティング、コーディング、データクリーニングの方法について解説します。

第15回 社会調査の面白さと難しさ

これまでの内容について振り返り、社会調査の面白さと難しさについて検討します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会統計学 A

都村 聞人  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「（現代社会における）諸問題を学際的かつ科学的に発見し把握する」ことを目指している。

本科目は、専門基幹科目（専門共通）のひとつであり、一連の社会調査法科目の一部に位置づけられる。また、社会調査士資格のD科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）に該当する。

統計学に関する基礎的知識を体系的に学び、量的データを分析できるようにすることを目的とする。まず、質的変数間の関連について、代表的な連関係数から考える。次に、連続変数間の関連について、散布図と相関係数を学んだうえで、回帰分析の基礎を学習する。また、第3の変数について考え、疑似関係、媒介関係などをふまえて、質的変数間、量的変数間の「みえない関係」を捉える。講義の後半では、確率論の基礎、正規分布について学んだうえで、統計的推定および統計的検定の考え方を理解し、比率の推定、平均の差の検定、比率の差の検定、独立性の検定などについて実践的に学習する。

< 到達目標 >

基礎的な統計学的知識を用いて、分析例を読み取ることができる。

質的変数間の独立と関連について説明できる。

質的変数間の関連を測る指標を用いて測定できる。

相関係数について説明できる。

相関係数を算出することができる。

第3の変数、疑似関係、媒介関係について説明できる。

正規分布について説明できる。

統計的推定および統計的検定について説明できる。

簡単な推定・検定を行うことができる。

< 授業のキーワード >

社会統計、データ分析、社会調査士資格D科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）

< 授業の進め方 >

統計に関する講義の他に、パソコンを用いた実習作業を行う。

< 履修するにあたって >

社会統計入門、社会調査法 ~ 等の科目で学んだことと関連づけて学習すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教科書の箇所を読

み、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習として、講義時の配布資料を再確認し、教科書の練習問題を解いてみること（目安として1時間程度）。

<提出課題など>

実習作業の結果をレポートとして提出してもらいます。（フィードバック：レポートに対してコメントを行います。また、正解例を解説します。）

<成績評価方法・基準>

レポート：100%

<テキスト>

津島昌寛・山口洋・田邊浩編、『数学嫌いのための社会統計学（第2版）』、法律文化社、2014年

<参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

<授業計画>

#### 第1回 イン트로ダクション

社会統計学の意義、学ぶ目的について説明する。

#### 第2回 関連の強さを測ってみよう

独立と関連とは何か？、属性相関、ファイ係数、ユールのQ、クラメールのV（テキスト第6章）

#### 第3回 連続変数の関連を分析してみよう 相関係数

散布図、相関係数の意味、相関係数の算出、相関係数の目安（テキスト第7章）

#### 第4回 連続変数の関連を分析してみよう 回帰分析の基礎

散布図、回帰直線、回帰式、最小二乗法、決定係数（テキスト第8章）

#### 第5回 連続変数の関連について実践練習しよう

PCを用いた実践データ演習

#### 第6回 みえない関係を探ってみよう

第3の変数（コントロール変数）、エラボレーション、疑似関係、媒介関係、偏相関係数（テキスト第9章）

#### 第7回 確率論の基礎を知ろう

確率、確率変数、確率分布（テキスト第2章）

#### 第8回 全体の中の位置をつかもう

正規分布、標準化、偏差値（テキスト第10章）

#### 第9回 推測統計の意義を考えてみよう

母集団、標本、無作為抽出、中心極限定理（テキスト第11章）

#### 第10回 統計的推定の考え方を知ろう

区間推定、信頼度、信頼区間、比率の推定（テキスト第12章）

#### 第11回 統計的推定について実践練習しよう

PCを用いた実践データ演習

#### 第12回 統計的検定の考え方を知ろう

帰無仮説と対立仮説、検定統計量、臨界値、棄却域、採択域、有意水準、仮説検定の手順、仮説検定の誤り（テ

キスト第13章）

第13回 統計的検定により集団間の違いを捉えよう

平均の差の検定、比率の差の検定（テキスト第14章）

第14回 統計的検定により離散変数の関連を考えてみよう

独立性の検定（テキスト第15章）

第15回 統計的検定について実践練習しよう

PCを用いた実践データ演習

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会統計学 B

駒田 安紀

-----  
<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業は社会調査士科目Dに相当し、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を演習を通して身につける。

前半では基本統計量を理解し、記述統計を示すことができるようになることを目指す。さらに統計学の基礎的な概念を理解し、後半では分析手法を身につけ、レポートが書けるようになることを目指す。

なお、分析に際してはデータ（エクセル形式）を配布する。

この科? は現代社会学科のディプロマポリシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

<到達目標>

- ・記述統計を示すことができるようになる。
- ・データから全体の傾向を推測できるようになる。
- ・データを用いて自分が立てた仮説を検証し、レポートが書けるようになる。

<授業のキーワード>

統計、エクセル、分析

<授業の進め方>

授業の最初に、前回の課題のフィードバックを行う。授業の前半で講義を行い、後半ではその内容を演習を通して身につける。

<履修するにあたって>

エクセルでの基本的な操作および四則演算ができることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間内に完了しなかった課題については、宿題とする。（事後学習1時間程度）

<提出課題など>

演習課題を行う。課題を行うとともに理解できなかった部分を明確にしておく。

<成績評価方法・基準>

授業時間内に行う演習課題(100%)

毎週の授業の最初に、前回の課題についてフィードバックを行う。

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、統計学とは  
授業の? 的と進め? を確認する。統計を用いた社会調査の具体例を知り、統計学の意義を理解する。

第2回 変数の種類

変数の種類を学ぶ。

第3回 データの確認、データ使用上の倫理

分析に用いるデータを受け取り、その内容と特徴を把握する。データ使用上の倫理について考える。尺度と変数について学ぶ。

第4回 基本統計量

代表値・散布度・分布などについて学ぶ。

第5回 基本統計量についての演習と課題提出

適切な変数を選択し、それについての基本統計量を示し、課題を提出する。

第6回 確率論

確率論の基礎について学ぶ。

第7回 検定

検定について学ぶ。仮説の立て方について理解し、課題を行う。

第8回 独立性の検定

独立性の検定について講義を通して学び、手計算による演習を行う。手計算による課題を提出する。

第9回 独立性の検定のエクセルでの実施

独立性の検定の課題についてフィードバックを受け、復習して身につける。エクセルで分析を実施する。

第10回 2群の差の検定

2群の差の検定について講義を通して学び、手計算による演習を行う。手計算による課題を提出する。

第11回 2群の差の検定のエクセルでの実施

2群の差の検定の課題についてフィードバックを受け、復習して身につける。エクセルで分析を実施する。

第12回 相関分析

相関分析について講義を通して学び、手計算による演習を行う。手計算による課題を提出する。

第13回 相関分析のエクセルでの実施

相関分析の課題についてフィードバックを受け、復習して身につける。エクセルで分析を実施する。

第14回 最終課題に向けての準備

最終課題として、下調べおよび分析を行う。

第15回 最終課題の完成と提出

最終課題を完成し、提出する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会統計入門

真鍋 公希  
-----

<授業の方法>

講義

授業資料は、OneDriveにて共有する予定です。URLは初回の授業時に説明します。

連絡等はdotCampusを用いますので、確認を忘れないようにしてください。

新型コロナウイルスの感染状況次第では、遠隔授業の可能性がありますが、基本的には対面で実施します。

<授業の目的>

この授業は、社会調査（特に量的調査）の基礎的な知識を習得することを目的としています。具体的には、量的調査の設計から分析、報告書のまとめ方（読み方）について説明します。なお、この科目は現代社会学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連しています。

<到達目標>

社会統計・量的調査の基礎的な事柄について理解し、説明することができる

グラフや表からデータの意味を正確に読み取ることができる

エクセルを使って、簡単な集計をすることができる

<授業のキーワード>

社会調査、量的調査、統計

<授業の進め方>

基本的に講義形式で行います。また、授業内容に関する課題を出し、それに取り組んでもらいます。

<履修するにあたって>

この授業は、社会調査士の資格科目ではありませんが、この授業を履修しておくことで、今後履修する資格科目を理解していく手助けとなるでしょう。みなさんの積極的な参加を期待します。

<授業時間外に必要な学修>

各回の課題の内容によって所要時間は異なるが、30分～2時間程度。

<提出課題など>

授業中に提示する課題と期末レポートがあります。課題の詳細に関しては授業内で説明します。

<成績評価方法・基準>

授業内での課題：40%

期末レポート：60%

<テキスト>

なし

<参考図書>

佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方（上／下）』東京大学出版会。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方と社会調査とデータの関係性について解説する。

第2回 量的調査の手法

社会調査における量的調査の種類・手法について解説する。

第3回 サンプルング（1）

正確なデータを得るためのサンプルング法について解説する。

第4回 サンプルング（2）

サンプルが偏ることの問題点と、質的調査との関係について解説する。

第5回 質問文と選択肢の検討（1）

量的調査で用いる質問文の注意点と、妥当性・信頼性という基準について解説する。

第6回 質問文と選択肢の検討（2）

変数の操作化や尺度について説明する。

第7回 一変数の集計（1）

質的変数の集計方法について説明する。

第8回 一変数の集計（2）

量的変数の集計のうち、度数分布表と代表値について説明する。

第9回 一変数の集計（3）

量的変数の集計のうち、分散と標準偏差について説明する。

第10回 二変数の分析（1）

質的変数同士を組み合わせた二変数の分析について解説する。

第11回 二変数の分析（2）

質的変数同士を組み合わせた二変数の分析について解説する。

第12回 二変数の分析（3）

量的変数同士を組み合わせた二変数の分析について解説する。

第13回 レポートの書き方

期末レポートの論題および書き方の注意点について説明する。

第14回 相関と因果（1）

相関関係と因果関係の違いを学び、二変数の分析をどう解釈できるかを解説する。

第15回 相関と因果（2）

疑似相関と変数の統制、因果経路についての基礎を説明する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会防災の基礎

前林 清和  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。災害から人や社会を守るには、人々が命の大切さを知り、人や社会との絆を大切にして社会に貢献しようという態度が求められる。本講義では、災害を最小限にとどめるためのWin-Winの社会を構築するためにはどのような思想が求められるかということについて多面的に学び、理解することを目標とする。具体的には日本人の災害に対する精神性を検討したうえで、被災者や支援者について論じ、災害時の支援の現状とあり方について、国際的視野も含めて考える。

< 到達目標 >

- 1) わが国の災害に関する人文的、社会的視点から全体を把握することができる。
- 2) 災害時の被災者の生活と心理について心理的に考察することができる。
- 3) 災害時の支援者についての課題を考えることができる。
- 4) 国際的な視野から防災と社会貢献について習得することができる。

< 授業のキーワード >

災害時の支援のあり方、災害時の精神性、支援、国際的視野

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めるが、適時、学生の意見を聴きながら展開する。

授業の最後にコメントカードを記入し、自分の考えをまとめる。

映像や写真を駆使して、理解度を深める。

< 履修するにあたって >

社会防災を学ぶ最初の一步です。頑張って受講してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストの予習・復習、各2時間程度

< 提出課題など >

レポート提出とともに レポート内容について授業の中でフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

レポート50%（授業中30%）、確認テスト50%（授業内）

< テキスト >

前林清和 『社会防災の基礎を学ぶー自助・共助・公助ー』 昭栄堂 2,400円(税別)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス/災害と日本人 1

授業の概要、進め方、評価の方法など。 災害を概観し、命の大切さを学ぶ。

第2回 災害と日本人2

日本人の自然観、災害観について思想的背景を考えながら学ぶ。

第3回 災害と日本人 3

災害に強いWin-Winの社会のあり方について学ぶ。 特に、日本人の人生観や社会倫理観について考える

第4回 被災した人々 1

災害で被災した人々の生活の苦しさや心の状態、さらには被災した子どもたちの現状と心のダメージについて学ぶ。

第5回 被災した人々 2

災害で被災した人々の時間経過と心理状態の変化、被災地域の問題、受援者のあり方について学ぶ。

第6回 特別講義

災害におけるコミュニティの問題を考える。

第7回 助ける人々 1

自助・共助・公助について考えた上で、人間としてなぜ人を助けるのか、わが国の地域コミュニティのあり方はいかにあるべきか、について学ぶ。

第8回 助ける人々 2

市民意識と公共性、企業におけるCSRとしての社会貢献、災害支援活動について、また行政における災害支援に関して学ぶ。

第9回 災害ボランティア 1

ボランティアの思想と災害ボランティアの心得などについて学ぶ。

第10回 災害ボランティア 2

被災者支援における被災者への対応や支援者の心身のケア、被災地に行く意義、災害ボランティアにおけるリーダーシップについて学ぶ。

第11回 日本の災害対策と支援活動 1

日本の災害時の弱点およびわが国の防災対策および防災教育について学ぶ。

第12回 日本の災害対策と支援活動 2

阪神淡路大震災や東日本大震災における日本人の支援活動について学ぶ。

第13回 世界の災害と支援活動 1

世界のとらえ方、国際協力のあり方について学ぶ。さらに、世界の災害について述べ、開発同上国の現状や災害リスクと開発について学ぶ。

第14回 世界の災害と支援活動 2

世界の紛争やテロ、貧困について学び、その解決策を考える。さらに、国際防災協力について学ぶ、そのうえで

国際緊急援助隊について知識を深める。

第15回 全体の振り返りと確認

わが国の災害を歴史的、思想的、心理的、人文的、社会的立場から学生が主体的に考察し、その内容を確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会防災の基礎

佐伯 琢磨

-----  
< 授業の方法 >

講義形式で解説する。

【連絡先(メールアドレス、LMS)】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

「防災」を系統的に学習するための序章として、我々の周りにある「災害」について概観する。すなわち、「自然災害」「事故災害」および「社会的被害」に大別し、さらに、「自然災害」を「気象災害」と「地震・火山災害」に区分し、「なぜ防災という考え方」が必要であるかをわかりやすく解説する。

・自然災害(第2回~第8回)

・事故災害(第9回~第12回)

・社会的被害(第13~第14回)

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ講義を行う。

< 到達目標 >

各自が「防災意識」を持ち、防災の重要性について認識することができる。

< 授業のキーワード >

自然災害、事故災害、社会的災害、防災

< 授業の進め方 >

映像や配布資料を用いて、「防災とは何か」をやさしく説明する。

< 履修するにあたって >

・毎回出席カードを提出してもらいます。授業中の私語は禁じます。

・原則、遅刻は認めません。

< 授業時間外に必要な学修 >

世の中で発生している「災害」に対して、興味を持つこと。災害報道をよく理解すること。

< 提出課題など >

・防災に関する課題のレポートを求めます。

・定期試験を実施します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験（70％）、レポート（30％）で評価する。

<テキスト>

指定しない、適宜資料を配布する。

<参考図書>

自然災害と防災の事典 京都大学防災研究所 監修 丸善出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

「社会防災の基礎」の進め方について説明する。

第2回 自然災害：地震（1）

「地震・火山災害」のうち、「地震による災害」について解説する。

第3回 自然災害：地震（2）

「地震・火山災害」のうち、「地盤の変形・破壊による災害」について解説する。

第4回 自然災害：地震（3）

「地震・火山災害」のうち、「津波による災害」について解説する。

第5回 自然災害：火山（1）

「地震・火山災害」のうち、「火山噴火による災害」について解説する。

第6回 自然災害：気象災害（1）

「気象災害」のうち、「大雨、台風などによる災害」について解説する。

第7回 自然災害：気象災害（2）

「気象災害」のうち、「河川洪水、内水氾濫による災害」について解説する。

第8回 自然災害：気象災害（3）

「気象災害」のうち、「斜面崩壊、地すべりによる災害」について解説する。

第9回 事故災害：交通災害（1）

「事故災害」のうち、「自動車事故災害」について解説する。

第10回 事故災害：交通災害（2）

「事故災害」のうち、「鉄道災害」について解説する。

第11回 事故災害：交通災害（3）

「事故災害」のうち、「船舶・航空災害」について解説する。

第12回 事故災害：テロ（1）

「事故災害」のうち、「テロによる災害」について解説する。

第13回 社会的被害（1）

「社会的被害」のうち、「公害型被害（大気汚染、水質・土壌汚染や騒音）」について解説する。

第14回 社会的被害（2）

「社会的被害」のうち、「風評被害など」について解説する。

第15回 ふりかえり

「災害」について概観する。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

社会防災プロジェクト実習

田中 綾子、前林 清和  
-----

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この講義は専門基幹科目の共通実習分野の一つで、「アクティブラーニングの方法」等を経てより実践的な知見を体験的に学び、各専門分野科目の理解を深める科目である。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

社会防災プロジェクト演習で学んだ防災研修や開発教育のためのプロジェクト実施のための方法を駆使して、実際に学生たちがグループを作り、主体となって防災研修や開発教育をテーマとしたプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいく。

学生一人一人が、主体的にグループを作り、プロジェクトを立ち上げて企画を作成して、その内容を実現していくなかで、実行力、企画力、問題解決能力などを身につけるとともに、プレゼンテーション能力を身につける。

<到達目標>

- 1、問題設定能力、問題解決能力、企画能力、運営能力などを身に着ける。（技能、態度・習慣）
- 2、各グループで設定したテーマの深い知識が得られる。（知識）

<授業のキーワード>

アクティブラーニング

<授業の進め方>

プロジェクト学習、プレゼンテーション学習

<履修するにあたって>

集中授業

【第1回目】4月23日（土曜日） 2限? 4限

\*オリエンテーションにおいてスケジュールを提示します。

<予定> 5月上旬（土曜日） 4コマ

7月下旬日 4コマ

9月中旬日 4コマ

10月下旬日 4コマ

11月下旬日 4コマ

12月下旬日 4コマ

2月上旬 3コマ

<授業時間外に必要な学修>

グループで課題をクリアするために活動してもらいます。

<提出課題など>

ポートフォリオ

<成績評価方法・基準>

活動内容 60% プレゼン 40%

<テキスト>

使用しない。適宜授業資料・ワークシート等を配布または共有する。

<参考図書>

『ロジカル・プレゼンテーションー 自分の考えを効果的に伝える戦略コンサルタントの「提案の技術」』高田 貴久 (著) 英治出版

『ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ』

佐藤真久 (著) みくに出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、自己紹介など グルーピング

第2回 プロジェクトの進め方 1

ブレインストーミングの方法

第3回 プロジェクトの進め方 2

KJ法

第4回 第1課題

プロジェクトの方法 1

第5回 第1課題エクササイズ

第1課題グループワーク

第6回 発表 1

第1課題についての各グループの成果発表

第7回 第2課題

プロジェクトの方法 2

第8回 第2課題エクササイズ(1)

第2課題グループワーク 導入

第9回 第2課題エクササイズ(2)

第2課題グループワーク 展開

第10回 第2課題エクササイズ(3)

第2課題グループワーク 応用

第11回 発表 2

第2課題についての各グループの成果発表

第12回 プロジェクト企画書作成 1

研究テーマの決定と企画書の作成ワーク

第13回 プロジェクト企画書作成 2

企画書の完成と発表

第14回 プロジェクト活動の開始

企画書に基づいた活動の検討

第15回 プロジェクト活動の展開

企画書にもとづいた活動

第16回 第1回プロジェクト中巻発表

プロジェクトの進捗状況の報告

第17回 第1回プロジェクトの指導

各チームへの指導

第18回 プロジェクトの第2段階開始

プロジェクトの修正

第19回 プロジェクトの第2段階展開 1

第2段階のプロジェクト活動の実施 1

第20回 プロジェクトの第2段階展開 2

第2段階のプロジェクト活動の実施 2

第21回 第2回プロジェクト中巻発表

第2段階のプロジェクトの進捗状況の報告

第22回 第2回プロジェクトの指導

各チームへの指導

第23回 プロジェクトの第3段階開始

プロジェクトの修正

第24回 プロジェクトの第3段階展開 1

第3段階のプロジェクト活動の実施 1

第25回 プロジェクトの第3段階展開 2

第3段階のプロジェクト活動の実施 1

第26回 プロジェクトの最終発表準備 1

プロジェクト成果の発表のための報告書作成

第27回 プロジェクトの最終発表準備 2

発表会のパワーポイント作成 1

第28回 プロジェクトの最終発表準備 3

発表のためのパワーポイント作成 2

第29回 プロジェクト最終発表会

各プロジェクトの活動成果をプレゼンテーションする

第30回 振り返り

全体の振り返りと展望

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

社会防災プロジェクト実習

田中 綾子、前林 清和

-----  
<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この講義は専門基幹科目の共通実習分野の一つで、「アクティブラーニングの方法」等を経てより実践的な知見を体験的に学び、各専門分野科目の理解を深める科目である。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

社会防災プロジェクト実習で学んだ防災研修や開発教育のためのプロジェクト実施のための方法を駆使して、実際に学生たちがグループを作り、主体となって防災研修や開発教育をテーマとしたプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいく。

学生一人一人が、主体的にグループを作り、プロジェクトを立ち上げて企画を作成して、その内容を実現していくなかで、実行力、企画力、問題解決能力などを身につけるとともに、プレゼンテーション能力を身につける。

<到達目標>

1、問題設定能力、問題解決能力、企画能力、運営能力などを身に着ける。(技能、態度・習慣)

2、各グループで設定したテーマの深い知識が得られる。(知識)

< 授業のキーワード >

アクティブラーニング

< 授業の進め方 >

プロジェクト学習、プレゼンテーション学習

< 履修するにあたって >

集中授業

【第1回目】4月23日(土曜日) 2限? 4限

\* オリエンテーションにおいてスケジュールを提示します。

< 予定 > 5月上旬(土曜日) 4コマ

7月下旬日 4コマ

9月中旬日 4コマ

10月下旬日 4コマ

11月下旬日 4コマ

12月下旬日 4コマ

2月上旬 3コマ

< 授業時間外に必要な学修 >

グループで課題をクリアするために活動してもらいます。

< 提出課題など >

ポートフォリオ

< 成績評価方法・基準 >

活動内容 60% プレゼン 40%

< テキスト >

使用しない。適宜授業資料・ワークシート等を配布または共有する。

< 参考図書 >

『ロジカル・プレゼンテーション - 自分の考えを効果的に伝える戦略コンサルタントの「提案の技術」』高田 貴久 (著) 英治出版

『ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ』佐藤真久 (著) みくに出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、自己紹介など グルーピング

第2回 プロジェクトの進め方1

ブレインストーミングの方法

第3回 プロジェクトの進め方2

KJ法

第4回 第1課題

プロジェクトの方法1

第5回 第1課題エクササイズ

第1課題グループワーク

第6回 発表1

第1課題についての各グループの成果発表

第7回 第2課題

プロジェクトの方法2

第8回 第2課題エクササイズ(1)

第2課題グループワーク 導入

第9回 第2課題エクササイズ(2)

第2課題グループワーク 展開

第10回 第2課題エクササイズ(3)

第2課題グループワーク 応用

第11回 発表2

第2課題についての各グループの成果発表

第12回 プロジェクト企画書作成1

研究テーマの決定と企画書の作成ワーク

第13回 プロジェクト企画書作成2

企画書の完成と発表

第14回 プロジェクト活動の開始

企画書に基づいた活動の検討

第15回 プロジェクト活動の展開

企画書にもとづいた活動

第16回 第1回プロジェクト中巻発表

プロジェクトの進捗状況の報告

第17回 第1回プロジェクトの指導

各チームへの指導

第18回 プロジェクトの第2段階開始

プロジェクトの修正

第19回 プロジェクトの第2段階展開1

第2段階のプロジェクト活動の実施1

第20回 プロジェクトの第2段階展開2

第2段階のプロジェクト活動の実施2

第21回 第2回プロジェクト中巻発表

第2段階のプロジェクトの進捗状況の報告

第22回 第2回プロジェクトの指導

各チームへの指導

第23回 プロジェクトの第3段階開始

プロジェクトの修正

第24回 プロジェクトの第3段階展開1

第3段階のプロジェクト活動の実施1

第25回 プロジェクトの第3段階展開2

第3段階のプロジェクト活動の実施2

第26回 プロジェクトの最終発表準備1

プロジェクト成果の発表のための報告書作成

第27回 プロジェクトの最終発表準備2

発表会のパワーポイント作成1

第28回 プロジェクトの最終発表準備3

発表のためのパワーポイント作成2

第29回 プロジェクト最終発表会

各プロジェクトの活動成果をプレゼンテーションする

第30回 振り返り

全体の振り返りと展望

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会防災調査法

宮定 章

-----  
< 授業の方法 >

「講義」、「演習」、「実習」

### < 授業の目的 >

この科目は、社会防災学科ディプロマポリシー 1（知識・技能）、2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

本講義は、防災地域支援の実務経験のある教員が、地域に焦点を充てる実践的教育から構成される授業科目である。災害対策基本法も改正され、ハザードマップの位置づけも上がった。そこで、社会防災学科の特性を活かし、防災学を基に、地域を理解するための基本的な視点（地図やデータの扱われ方等）を、講義と実践を交えながら身につけることを目的とする。

### < 到達目標 >

災害や防災の調査に必要な調査視点・方法を地図とデータから学び、これからの調査・研究に向けて基礎力をつけることを到達目標とする。

### < 授業のキーワード >

社会調査、文献調査、地図、数値データ、ヒアリング、フィールドワーク、防災

### < 授業の進め方 >

講義形式で、学ぶ。それを、防災マップ作成等を実際に体験する機会をつくることにより理解を深める。

講義受講人数により、講義後半の防災マップ作成はプログラム調整（日程等）の可能性あり。

講義内容によって、数回の対面授業を行う場合がある。受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

第1回目の講義で説明致しますので、受講希望の方は、必ず出席してください。

### < 履修するにあたって >

受講者同士での発表や議論したり等を行うことがあります。

防災マップ作成等を実際に体験には、被災した方等に出会う可能性があります。被災経験を、真摯に受け止めることを基本とします。

### < 授業時間外に必要な学修 >

レポート作成（3回）において、（受講者の裁量によるが、）30分～1時間程度を要する。

### < 提出課題など >

レポート作成（3回）

### < 成績評価方法・基準 >

授業内容の区切り（2～3週ごと）に、3回の小レポートを執筆していただきます。

講義最終日にを行います。

小レポート3回の得点（200点満点×3回）と授業内試験（400点満点）の合計点（1000点）を1000点に圧縮して評価点とします。

小レポートは記述方式で、講義のテーマに沿って、自身の考えとの共通部分、相違点を、記述していただきますので、講義に出席することをお勧めします。

### < テキスト >

特に無し

### < 参考図書 >

まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門（西村幸夫著、朝倉書店、2010年10月）

### < 授業計画 >

第1回 ガイダンス

第2回 防災社会調査のために災害の記録（各災害の概要）を知る

阪神・淡路大震災、東日本大震災等

第3回 歴史を知る

資料の種類等

第4回 地形を知る

地形図、土地条件図、地名

第5回 空間を知る

建物、道路、土地利用

第6回 生活を知る（1）

住宅地図、経年変化

第7回 生活を知る（2）

統計調査

第8回 計画・事業の歴史を知る

整備事業、都市計画

第9回 地域防災計画を知る

地域防災計画（概要）

第10回 防災マップを読む

ハザードマップ（地震、水害、津波等）

第11回 「防災マップ作成」現地フィールドワーク（土or日曜日の1日連続で行い4講義分講義11～14を利用）

上記講義の途中で、「防災マップ作成」現地フィールドワーク（1回/日）を土or日曜日を使用して行う。日程等については、講義の前半で説明する。

講義受講人数により、防災マップ作成はプログラム調整（日程等）の可能性あり。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。第一回目の講義で説明致しますので、受講希望の方は、必ず出席してください。

第12回 「防災マップ作成」現地フィールドワーク（土or日曜日の1日連続で行い4講義分講義11～14を利用）

上記講義の途中で、「防災マップ作成」現地フィールドワーク（1回/日）を土or日曜日を使用して行う。日程等については、講義の前半で説明する。

講義受講人数により、防災マップ作成はプログラム調整（日程等）の可能性あり。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。

第一回目の講義で説明致しますので、受講希望の方は、必ず出席してください。

第13回 「防災マップ作成」現地フィールドワーク（土or日曜日の1日連続で行い4講義分講義11~14を利用）

上記講義の途中で、「防災マップ作成」現地フィールドワーク（1回/日）を土or日曜日を使用して行う。日程等については、講義の前半で説明する。

講義受講人数により、防災マップ作成はプログラム調整（日程等）の可能性あり。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。第一回目の講義で説明致しますので、受講希望の方は、必ず出席してください。

第14回 「防災マップ作成」現地フィールドワーク防災マップ作成振り返り・発表等（土or日曜日の1日連続で行い4講義分講義11~14を利用）

上記講義の途中で、「防災マップ作成」現地フィールドワーク（1回/日）を土or日曜日を使用して行う。日程等については、講義の前半で説明する。

講義受講人数により、防災マップ作成はプログラム調整（日程等）の可能性あり。

コロナ禍の状況により、代換え演習等になる可能性があります。

受講者の希望で、選べるようにする配慮は致します。第一回目の講義で説明致しますので、受講希望の方は、必ず出席してください。

第15回 授業内試験と答え合わせ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会防災調査法基礎

伊藤 亜都子  
-----

< 授業の方法 >

対面

< 授業の目的 >

この科目は、社会防災学科ディプロマポリシー1（知識・技能）、2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

基本的な社会調査の基礎的な知識を身につけるとともに、防災の視点から地域に目を向けられるようにする。また、社会調査の倫理や責任についても理解できるようにする。実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

調査法の基礎的な用語と方法を理解し、調査報告書を読むことができ、今後の研究で調査を行う場合の基礎力を身につける。

< 授業のキーワード >

社会調査、ヒアリング、アンケート調査、フィールドワーク、防災

< 授業の進め方 >

対面授業にて、講義やグループワークをとりまぜながら進める。調査法について学び、複数回の課題を提出する。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

複数回のグループワークと発表を行うが、発表準備が間に合わないときは授業時間外の取り組みが必要である。

各自、授業の予習復習（各1時間程度）を行う。

< 提出課題など >

講義終了後にミニレポートを実施する。

< 成績評価方法・基準 >

毎授業内の小レポートと授業態度（45%）、授業内のグループ報告（15%）、授業内の小テスト（25%）、学期末課題レポート（15%）。

< テキスト >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義全体の流れ、課題について。社会調査の意義と目的。第2回 社会調査の概要。

社会調査の種類。調査に取り組み姿勢について。

第3回 量的調査（1）

量的調査とは。サンプリングについて。アンケート調査の読み方。

第4回 量的調査（2）

防災意識に関するアンケートを読む。

第5回 質的調査（1）

質的調査とは何か。質的データの収集、分析。質的調査と量的調査の関係。

第6回 質的調査（2）

フィールドワーク、参与観察、ヒアリングについて。

第7回 質的調査（3）

ヒアリング調査を行い、内容をまとめる。

第8回 調査の企画設計（1）

何を明らかにするために、どのような調査方法を用いて何を調べるかについて検討する。

第9回 調査の企画設計（2）

調査での質問内容、アンケート表などを作成する。

第10回 調査の責任と倫理について

調査対象者へのマナー、責任、信頼関係について考える。調査依頼文を作成してみる。

第11回 調査票調査の実施

調査票を配布してアンケート調査を実施し、回収、集計する。

第12回 調査票調査をまとめる

調査票調査の結果をまとめ、調査報告を行う。

第13回 地域を調べる(1)

ポートアイランド内を歩き、防災マップを作成する。

第14回 地域を調べる(2)

作成した防災マップを発表し、防災マップづくりの効果、注意点などについてまとめる。

第15回 ふりかえり

これまでの講義内容について講義形式で全体的にまとめ、ふりかえりの課題を提出する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会防災特別講義

松原 浩二、赤澤 正人、担当者未定(現社)、築谷 尚嗣、都倉 敏明、中山 伸一、藤森 龍、森田 克彦、渡邊 理

-----  
< 授業の方法 >

対面授業】 講義及び実習

< 授業の目的 >

兵庫県は多くの大災害を経験している。兵庫県が直面してきた危機管理、それは高齢社会下における大都市直下型地震が甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災をはじめ、台風水害、高病原性鳥インフルエンザ、大規模列車事故など、多岐にわたりその規模や社会的影響も大きい。

こうした各種の災害・危機管理を経験してきた兵庫県は、これら一つ一つを教訓に、新たな独自の危機感理論を展開し、改革を行っている。

本講義では、このように全国でも有数の防災先進県と言われる兵庫県が行う防災・危機管理対策などに関する講義を通じて、都道府県レベルでの危機管理体制や、私たちが取り組むべき次なる災害への備えについて理解を深めることを目的としている。

この科目は、社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

本講義は、阪神・淡路大震災などの防災・危機管理に関する実務経験を有する教員が担当しており、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

防災・危機管理の理論を理解し、実践に応用できる能力を身につける。

< 授業のキーワード >

災害、危機管理、兵庫県

< 授業の進め方 >

講義形式

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度

< 提出課題など >

レポート、授業中に回答を紹介するなど、フィールドバックを実施

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み態度30%、試験60%、レポート10%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 総論

防災・危機管理の基本事項

第2回 自然災害等への対応 - 防災 -

兵庫県の防災行政

第3回 自然災害等への対応 - 消防 -

兵庫県の消防と救急救助

第4回 その他の危機管理対策 - 復興 -

兵庫県の災害復興

第5回 自然災害等への対応 - 風水害 -

兵庫県の風水害対策

第6回 自然災害等への対応 - ボランティア -

コロナ禍における兵庫県の災害ボランティア

第7回 自然災害等への対応 - 心理 -

兵庫県のこころのケア

第8回 自然災害等への対応 - 医療 -

兵庫県の災害医療

第9回 その他の危機管理対策 - 動物 -

兵庫県の動物の危機管理

第10回 その他の危機管理対策 - 食品 -

兵庫県の食品の危機管理

第11回 その他の危機管理対策 - 環境 -

兵庫県の環境と防災(災害廃棄物処理等)

第12回 施設見学

人と防災未来センター見学

第13回 理論的根拠1

危機感理論1

第14回 理論的根拠2

危機感理論2

第15回 理論的根拠3

危機感理論(総括・試験)

-----  
2022年度 後期

2.0単位

社会防災特別講義 (連携)

吉椿 雅道、斉藤 容子、立部 知保里、頼政 良太

-----  
< 授業の方法 >

スクリーンでPPTを使った講義形式で行います。また動画なども時々活用します。

\*新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンライン形式になる可能性もあります。

#### < 授業の目的 >

近年、世界では、気候変動の影響もあり、台風や豪雨は大規模かつ激化しています。また、環太平洋火山帯では頻繁に地震が発生しています。このような状態は今後、常態化すると考えられ、その対応が求められています。世界の災害への支援は、国連や政府の公的な支援だけでは不十分で、市民を代表する民間のNGOなどによる支援が不可欠なのは言うまでもありません。本科目では、阪神・淡路大震災を機に発足されたNGOであるCODE海外災害援助市民センターの復興支援活動の中で培われてきた経験や知恵をもとに被災者支援や市民社会におけるNGOの役割、災害支援を通じた社会変革など実践事例を通じて学びます。また、本科目は、災害多発の時代を生きていく若者自身が、社会の中で自らの役割を考え、ボランティアや社会貢献について考える機会にもなります。

この授業を通して、災害や防災の専門知識や技能を身につけ、国内外の災害を通して海外の文化や習慣、価値観を共有し、これからの社会貢献を学ぶことは本学のDPに適ったものです。

なお、本科目の講義内容は、1995年の阪神・淡路大震災以降、27年間、国内外の災害現場でボランティア活動や復興支援に従事し、豊富な実務経験を有した教員と被災地での実務経験の豊富な講師陣の実践を元に構成しています。

#### < 到達目標 >

学生は、以下の目標に到達することができます。

・学生は、阪神淡路大震災から25年の国内外の災害や復興の事例を通じて、災害復興の基礎的な知識を得る事ができます。

・学生は、海外の災害の事例を学ぶことで、世界と日本、世界と自分の関係性を知り、学生自身にできることの一歩を踏み出す事ができます。

・学生は、災害NGOというものを学ぶことで、社会貢献や将来の働き方について考え、自らの行動変容を起こすことができます。

#### < 授業のキーワード >

災害支援、国際協力、NGO、最後のひとりまで、SDGs

#### < 授業の進め方 >

講義形式を基本に授業を進めますが、随時質問を学生に投げかけていきます。また、またオムニバス形式で各回スピーカーを迎え、ワークショップでグループディスカッションなども行います。「対面授業および遠隔授業併用」

#### < 履修するにあたって >

- ・授業中の私語は禁ずる。
- ・原則、遅刻は認めない。

尚、この科目は開講大学以外の学生が履修する場合、オンデマンドでの開講となります。受講の方法などは各大学のガイダンスや講義の中で説明いたしますので、必ず詳細を確認し、履修登録を行ってください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

CODEのHPやFBを通じてその活動を積極的に学んでください。また災害ボランティアなどにも参加してください。その他、CODEに関連する書籍「KOBE発災害救援」（神戸新聞総合出版センター）や「ボランティアが社会を変える」（関西看護出版社）「災害から一人ひとりを守る」（神戸大学出版社）などを読むことを進めます。

#### < 提出課題など >

また各回のコメントカードなどを提出してもらいます。なお、コメントカードに対するフィードバックなどは次の回の冒頭で行います。また、不定期にレポートを書いてももらいます。

#### < 成績評価方法・基準 >

各回のコメントカード70%

レポート10%

授業中の質疑応答など20%

以上を総合的に評価します。

#### < テキスト >

「災害から一人ひとりを守る」吉椿雅道、他共著（2019 神戸大学出版）

「暮らしのアナーキズム」松村圭一郎（2021 ミシマ社）

「グローバル支援の人類学」信田敏宏、白川千尋（2017 昭和堂）

\* 学生が購入する必要はありません。読みたい方はお貸しします。

#### < 参考図書 >

CODE海外災害援助市民センターのHP: <https://code-jp.org/>

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

授業全体の講義内容の説明と講師紹介、そして学生の内容に関しての要望を聞き、講義に活かします。

##### 第2回 CODE海外災害援助市民センターについて

被災地KOBEのNGOであるCODEの基本的な理念や手法、活動について知ります。

##### 第3回 異文化理解と援助

被災地の文化、習慣、宗教について知り、それと支援活動の関係を理解します。

##### 第4回 日本の災害復興支援活動

日本における災害やその復興支援活動やネットワークなどについて学びます。

##### 第5回 寄り添いとつながり

多様である被災者の「つぶやき」を聴くことを足湯ボランティアや海外の事例を通じて「寄り添い」を考えます。

#### 第6回 海外の復興制度

海外の復興制度についてイタリアなどの事例をもとに学びます。

#### 第7回 災害フィールドワーク

災害後の復興支援におけるフィールドワークの意味や手法について学びます。

#### 第8回 災害とSDGs

SDGs（持続可能な開発目標）と災害の関係、災害におけるSDGsの意味について考えます。

#### 第9回 災害とジェンダー

災害時に起きるジェンダーの問題について考えます。

#### 第10回 平時の地域防災

今後の災害対策において重要になる地域防災について考えます。

#### 第11回 災害と貧困

途上国の貧困の問題と災害の関連について学び、その解決を考えます。

#### 第12回 援助の届き難い被災地支援の方策

CODEの理念である「最後のひとりまで」という考え方を事例を通して考えます。

#### 第13回 海外のコミュニティ防災

ネパールやバングラデシュの事例を通して海外のコミュニティの防災を学びます。

#### 第14回 若者と国際協力

若者が被災地に関わる意味や国際協力における若者の意義について考えます。

#### 第15回 まとめ

授業全体を振り返り、まとめを行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会防災特別講義

安富 信、大山 武人、川西 勝、木戸 崇之、住田 功一、添田 孝史、日比野 純一、福本 晋悟  
-----

< 授業の方法 >

関西の新聞、テレビ、ラジオの現場で働く、もしくは働いていた報道関係者らが2回か1回、自らの体験を基にした災害情報論を学生たちに伝えます。

わからないことがあれば、直接メール(yasutomi@css.kobegakuin.ac.jp)で聞いてください。

なお、特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の授業は実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー1（社会科学および人文科学を中止とした学際的な学修を通じて、現代社会で起こりうる災害に対する事前の備えや、事後の社会的混乱の最小化を実現するための専門知識を身につけ活用することができる）を身に付ける。

21世紀は情報社会とも言われ、現代社会で報道はさまざまな場面でその力を発揮している。災害に関する情報、たとえば、災害発生情報や被害情報、救援情報などどのように入手しているか考えてほしい。多くの人は、テレビ、新聞、ラジオ、という言葉が浮かんだのではない。私たちがまず、災害について知るの、テレビもしくは新聞、ラジオ、インターネットといった情報媒体である。災害に関する報道の影響力はさまざまな局面において非常に大きい。それは被災地においても同様である。1995年1月に発生した阪神・淡路大震災においても報道が大きな力となった。多くの人々が報道によってボランティアに駆けつけ、全国から善意の物資が届けられ、多くの被災者が元気づけられた。災害報道によって、国民が災害に対する知識と意識を共有することができたのである。一方、影響力が大きいということは、そのあり方を常に検証、検討していかなければならないということでもある。報道の内容や方法を間違えれば被災地や被災者に大きなリスクを与えることになる。

授業責任者の安富は元読売新聞大阪本社編集委員、住田は元NHKアナウンサー、添田は元朝日新聞科学部次長で現原発事故フリーライター、川西は元読売新聞大阪本社災害担当編集委員、木戸は朝日放送社員、大山はNHK大阪局アナウンサー、日比野はコミュニティFMの創始者、福本は毎日放送アナウンサー、と全ての報道機関を網羅している講師陣だ。

以上のように全員が実務経験のある教員で、阪神・淡路大震災を経験し、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

本授業では、実際に報道に携わっておられる編集局のデスク、記者、ディレクターら第一線の現場、「報道する側」にいる生の声を聞かせていただく。その結果、災害報道について、そのあり方や問題点を理解し、今後の展望を考える。

< 授業のキーワード >

新聞、テレビ、ラジオ、コミュニティFM、災害報道

< 授業の進め方 >

本授業では、実際に報道に携わっておられる編集局やデスク、記者、アナウンサーなど、第一線の現場、「報道する側」にいる生の声を聞かせていただきながら、災害報道について、そのあり方や問題点、今後の展望について考えていきたい。第一回目の講義で、大まかな全体予定をお知らせする。

<履修するにあたって>

それぞれのセクションの外部講師には、今の現場を主に話してもらいたいため、現段階では細かい授業内容は明らかにできない。授業の順序も変更があり得る。

<授業時間外に必要な学修>

新聞、テレビ、ラジオなどのニュースをしっかりと読み、見て、聴くなど、最低2時間は予習、復習をする。

<提出課題など>

レポート提出

<成績評価方法・基準>

レポート100%。レポートについては、ガイダンスで説明する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

この授業の進め方と評価の仕方を説明。

第2回 テレビの災害報道

災害時の放送の役割、阪神淡路大震災での教訓など

第3回 テレビの災害報道

災害時のテレビ放送の役割と今後の課題

第4回 災害報道

フリーライターによる福島原発事故追跡取材の現場

第5回 災害報道

フリーライターによる福島原発事故追跡取材の現場

第6回 テレビの災害報道

NHKの減災報道

第7回 テレビの災害報道

NHKの減災報道

第8回 テレビの災害報道

毎日放送の減災報道

第9回 テレビの災害報道

毎日放送の減災報道

第10回 命を守る災害情報とは

阪神・淡路大震災の現場で見た景色

第11回 新聞の災害報道、リテラシー 1

新聞における災害情報の大切さ

第12回 命を守る災害情報とは

災害を伝える写真から見る命の大切さ

第13回 新聞の災害報道、リテラシー 2

伝えることの難しさ

第14回 コミュニティラジオ

FMわいわいの誕生とその秘話

第15回 コミュニティラジオ

コミュニティラジオの発展とその課題

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会防災特別講義 (連携)

江田 英里香、乾 美紀、太田 和宏、大津山 光子、尾川 華子、坂西 卓郎、佐々木 蓮、柴田 真裕、竹久 佳恵、中村 浩也、吉岡 春菜  
-----

<授業の方法>

授業は、「対面」で実施する。

授業の最後にショートレポート (=出席確認) をオンライン (manaba) にて提出のこと。

【フィードバックについて】

授業内での質問等については、後日フィードバックを行う。

【特別警報または暴風警報発令の場合】

特別警報 (すべての特別警報) または防風警報発令の場合 (大雨、洪水警報等は対象外) の本科目の取り扱いについて。

▶授業を実施する。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動すること。

<授業の目的>

本講座は現代社会学部のDP1 (知識を習得する) に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。

紛争・戦争・災害・貧困・環境など人間の安全保障を脅かす状況が深刻化している。国際社会の協力活動にも拘らず、世界の多くの地域で、子どもたちを中心に多くの人々が飢えや病気に苦しんでいる。

このような現状に対して、毎回、国内外において国際協力の現場で活動を行うゲスト・スピーカーを招き、わが国のODA (政府開発援助)、国際協力、地域連携やNGOとの連携や新しい活動などを視野に入れつつ、世界で起きている課題に対して具体的な活動内容を紹介する。なお、講義内容及び順番についてはゲスト・スピーカーの都合等により、大幅に変更もありうる。

なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

- ・日本の政府開発援助の内容を理解把握したうえで、説明することができる
- ・開発途上国の現状と課題を説明ができる
- ・世界における日本の国際的立場を理解し、国際協力の

意義を説明できる

・世界に対して将来の自分の役割を広めることができる  
<授業のキーワード>

政府開発援助（ODA）、開発途上国の課題、国際協力、NGO

<授業の進め方>

外部からの講師を招聘し、我が国の国際協力の現場での活動や援助のあり方を理解する

<履修するにあたって>

・各回のショートレポートを提出をすること

<授業時間外に必要な学修>

世界のさまざまな課題を理解するために、各講義に対して、新聞やHPへアクセスし、事前（1時間）及び事後学習（2時間）の計3時間程度行うこと。

<提出課題など>

授業内ショートレポート及び中間レポートを課します。ショートレポートやレポートに記載された共有すべき疑問や質問に対しては、授業内にて総括的にフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

授業内ショートレポート（40%）

中間レポート（30%）

期末小論文（30%）

<テキスト>

なし。

<参考図書>

なし。

<授業計画>

## 1 ガイダンス

カリキュラム及講義概要の説明

## 2 JICAによる国際緊急援助

世界で大規模な自然災害が発生した際、JICA（国際協力機構）が実施している国際緊急援助の現場での活動や援助のあり方を理解する。

## 3 JICAによる国際緊急援助

世界で大規模な自然災害が発生した際、JICA（国際協力機構）が実施している国際緊急援助の現場での活動や援助のあり方を理解する。

## 4 NGOによる支援活動（医療・保健）

開発途上国での貧困による医師不足や医療へのアクセス不足に対して、医療が届かない場所で失われてゆく「いのち」をつなぎとめるための医療活動を行うNGOの支援の現状について理解を深める。

## 5 NGOによる支援活動（医療・保健）

開発途上国での貧困による医師不足や医療へのアクセス不足に対して、医療が届かない場所で失われてゆく「いのち」をつなぎとめるための医療活動を行うNGOの支援の現状について理解を深める。

## 6 NGOによる支援活動（医療・保健）

開発途上国での貧困による医師不足や医療へのアクセス

不足に対して、医療が届かない場所で失われてゆく「いのち」をつなぎとめるための医療活動を行うNGOの支援の現状について理解を深める。

## 7 大学生の途上国支援

大学生における開発途上国の支援について理解を深める。

## 8 スポーツや予防医学を通じた国際協力

開発途上国におけるスポーツを通じた支援の現状について理解を深める。

## 9 教育を通じた国際協力

開発途上国の教育支援の現状について理解を深める。

## 10 教育を通じた国際協力

開発途上国の教育支援の現状について理解を深める。

## 11 NGOによる支援活動（社会開発）

開発途上国での緊急支援の後に求められる社会開発について、NGOによる支援の現状と課題について理解を深める。

## 12 大学による支援活動

高等教育である大学が行う開発途上国への支援について理解を深める。

## 13 研修生受け入れによる技術支援

NGOが国内で実施している途上国の若者の人材育成支援の現状について理解を深める。

## 14 NGOによる防災教育

NGOが実施している災害リスクの軽減・環境問題に対する支援の現状について理解を深める。

## 15 講義内容の振り返り

講座を締めくくるにあたり、これまでの講義内容を振り返り、各人が国際協力への理解と参加について考える。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

消費と流通

日高 謙一  
-----

<授業の方法>

講義と研究発表

<授業の目的>

専門分野科目の「仕事と産業」の領域の科目で、「仕事と産業入門」（日高担当回）で企業史・産業史を学んだ後、さらに本講義科目で産業発展を消費と流通の両側面から学ぶことを目的とする。新技術は産業発展の動因として最も注目されるが、技術開発だけでは産業の発展は実現しない。その産業が生み出す製品を求める市場（顧客）の存在と、その市場を開拓していく流通経路の構築が組み合わさって、新技術が普及し産業が発展していくことを事例を通じて学ぶ。「マーケティング」の入門的な位置づけである。DP1の知識の獲得と、それにもとづく事例研究の発表でDP2の思考力や判断力を養うことを目的とする。

<到達目標>

企業と市場の相互作用からヒット商品や新しい生活様式が生まれてくることを、各自が調べた事例をもとに説明できる。

< 授業の進め方 >

身近な製品や企業等を事例に、その製品の普及過程を講義していく。講義後半には受講生（グループ）による約15分の発表とその補足講義を組み合わせて進める。したがって、受講生は後半の発表のために授業時間外の個別指導を受け、準備する必要がある。

< 履修するにあたって >

講義を聴くだけでなく、グループ毎に担当教員の指導を受けて調査・発表しなければならない。グループでの研究成果が個人の成績評価に大きく影響する。

< 授業時間外に必要な学修 >

企業や商品に関する情報を日頃から関心を持って収集し、発表・レポートの課題を見つける必要がある。事例研究の発表準備に少なくとも30時間の授業外学修が必要である。また、発表前には2時間の個別指導を受ける必要がある。

< 提出課題など >

事例研究発表時に解説・コメントする。

< 成績評価方法・基準 >

発表・質疑50%、発表・質疑にもとづいた個人レポート50%

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、発表とレポート課題の内容と必要な準備について説明し、時間外の学修についてアドバイス（参考文献の紹介や新聞記事の読み方など）する。

第2回 市場創造のためのマーケティングの役割

イノベーションのタイプとイノベーションにおけるマーケティングの役割を文房具市場における事例をもとに解説する。

第3回 「誰が顧客か」を問うことの意味

ホテル業界を事例にターゲットとする顧客を絞り込むことでマーケティングの焦点が明確になることを学ぶ。

第4回 顧客のニーズを掘り下げる

誰もが感じている不満は分かりやすいが、日頃のちょっとしたイライラや不自由さは他者からは分からない。しかし、これらを解消することが新商品や新ビジネスの芽になることを学ぶ。エスノグラフィーや行動観察という方法を紹介する。

第5回 買いたいと思わせる店舗とは

食品スーパーや専門量販店で来店顧客から購買行動を引き出すために、どのような取り組みを行っているのかを学び、顧客の買物行動への働きかけの重要性を学ぶ。

第6回 顧客との接点の重要性

販売店の店舗設計から接客方法までブランドによって異なることを自動車販売の事例から学び、店舗とは単に商品を売る場所ではなく、顧客との接点を持つための重要

な場であることを学ぶ。

第7回 流行と並走する商品展開とブランドをつくる商品展開

アパレル業界を事例に、顧客が欲しい・買いたいと思うものやその時期に対して、生産者がどのように対応して商品を提供しているかを学び、短いサイクルでマネジメントを行うことの重要性を学ぶ。

第8回 その広告は何を伝えたいのか？

広告コンセプトと広告表現、そしてメディア展開について事例を学び、ターゲット顧客に対してどのような組み合わせが望ましいか考える。

第9回 メディア・ミックス

ターゲットへのアプローチのために、様々なメディア（漫画、アニメ、雑貨など）をまたいで展開されるコミュニケーション戦略の事例を紹介する。

第10回 買わない消費者

近年広がりを見せるサブスクリプションの事例を学び、サブスクリプションで収益を上げるためのキーポイントを考察する。

第11回 現代中国の消費行動、消費事情

現代の中国人の消費行動や消費事情を、世代による違い、インターネットでの買物行動、シェアリングやキャッシュレスというポイントから紹介する。

第12回 学生による研究発表とその補足講義

これまでの講義及び個別指導にもとづきに行った事例研究をグループごとに発表してもらい、それに関する補足講義を行う。

第13回 学生による研究発表とその補足講義

これまでの講義及び個別指導にもとづきに行った事例研究をグループごとに発表してもらい、それに関する補足講義を行う。

第14回 学生による研究発表とその補足講義

これまでの講義及び個別指導にもとづきに行った事例研究をグループごとに発表してもらい、それに関する補足講義を行う。

第15回 学修内容の整理と振り返り

学生による研究発表を振り返り講評を行う。また、履修者は他の研究発表から学んだ新たな事例や分析視点を振り返り、個人レポートを作成する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

政治学の基礎

中野 雅至

-----  
< 授業の方法 >

講義

連絡先は nakano@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

< 授業の目的 >

政治学の基本を学んだ上で、民主主義の在り方などについて広く知ることを目的とする。

なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

< 到達目標 >

政治学の基礎を学んだ上で、民主主義や政党の果たす役割などについても基礎的な議論ができる程度の知識を得ることを到達目標とする

< 授業のキーワード >

民主主義・政党・地方分権

< 授業の進め方 >

体面を基本とするが、状況に応じてオンデマンド授業となる。その際には、動画をマナバで公開することとする。

< 履修するにあたって >

毎回の授業の振り返りをしっかりやってほしい

< 授業時間外に必要な学修 >

予習 1 時間、復習 1 時間を行うこと

< 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

< 成績評価方法・基準 >

テストで評価する ( 1 0 0 % )

< テキスト >

その都度指定する

< 参考図書 >

その都度指定する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の目的や進め方などについて解説する

第2回 政治とはどういうものか

政治とは具体的にどのような現象のことを言うのかについて、総括的にわかりやすく解説する

第3回 政治学の基礎概念

権力・権威・民主主義・政治参加など政治学を扱う際の基礎的な概念について解説する

第4回 民主主義とは何か

現代政治の基礎とも言うべき民主主義について解説する

第5回 議院内閣制と大統領制

議院内閣制と大統領制の違い・それぞれのメリット・デメリットなどについて解説する

第6回 日本の民主主義の現状

議院内閣制度や立法府の役割、日本国憲法を巡る状況など、日本の民主主義の現状を解説する

第7回 民主主義を支える思想について

思想や言論の自由、三権分立など民主主義を支える様々な思想について解説する

第8回 立法府と行政府の関係について

民主主義社会において立法府と行政府はそれぞれどのような役割を果たすべきなのか、両者の軋轢はどのようなものかなどについて解説する

第9回 行政国家化現象について

現代民主主義社会においては行政が社会保障などの側面から大きな役割を果たしているが、その実態がどのようなものであるのかなどについて解説する

第10回 マスメディアが果たす役割について

現代民主主義社会においてはマスメディアが大きな役割を果たす。その具体的な姿について詳述する

第11回 インターネットが政治に与える影響の可能性について

マスメディア以上に、インターネットは政治に大きな影響を与えるようになってきている。SNSの動向を含めて、その影響力を解説する

第12回 政治と世論

現代民主主義社会においては世論が政治に大きな影響を与えることを解説する

第13回 国際政治とは何か

国内政治との違いを中心に国際政治について解説する

第14回 国際政治の理論

国際政治を理解するための様々な理論について解説する

第15回 国際政治の歴史

ヨーロッパ史を中心にこれまでの国際政治の歴史について解説する

-----  
2022年度 前期

2.0単位

西洋の歴史【現社】

片岡 恵美  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示す、社会科学及び人文科学の学際的な学修を通じて、現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができることを目指す。また、本講義科目は、専門基礎科目に属し、古代地中海とその周辺地域の歴史から現代に至る西洋の歴史について基本的な知識を修得しつつ、西洋の歴史の流れを理解できることを目的とする。また、併せて歴史的な観点から現代の出来事や文化を多面的に見ることができるようになることを目的とする。

なお、この科目の担当者は、高等学校で20年以上世界史Bを教えてきた、実務経験のある教員である。高等学校と大学の知識をつなげて、より分かりやすい講義を行う。

<到達目標>

1. 西洋の歴史について、基本的な用語や概念を説明できる(知識)。

2. 各時代の特色や歴史の展開について興味を持つことができる(態度・習慣)。

<授業のキーワード>

西洋、ヨーロッパ、歴史

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めますが、講義中に受講生に適宜、発言を求めます。受講生からの意見や疑問点について、毎回、ミニ・レポートを記入してもらい、適宜、後の回で共有します。

<履修するにあたって>

授業に欠席しますと、毎回実施するミニ・レポートの提出ができなくなりますので、やむをえない場合をのぞいて、できる限りきちんと出席してください。授業回数の三分の二以上、出席すること。

高等学校の「世界史B」を復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

事前に講義の対象となる時代についてのキーワードを伝えますので、基本的な事項を確認しておくこと。(目安として1時間)

事後学習として、講義で配布されたプリントを見直し、基礎的な内容を再確認し、覚えておくこと。(目安として1時間)

<提出課題など>

講義時に授業についての意見や疑問点などを書いて提出してもらい、それをミニ・レポートとします。提出されたミニ・レポートについては、後の回に総評などを行います。

小テストを実施します。正解(模範解答)を提示し、解説・講評を行いません。

定期試験については、正解(模範解答)、解説、講評を提示します。

<成績評価方法・基準>

毎回、講義の際に提出してもらったミニ・レポートの他、授業中の態度や積極性、小テストや定期試験を合わせて評価します。評価の割合は、ミニ・レポートと授業中の態度・積極性(40%)、小テスト(30%)、定期試験(30%)です。

<参考図書>

特に指定しない。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業のガイダンスと、西洋の歴史の時代区分や対象範囲など基本事項について説明と確認を行う。

第2回 古代ギリシア史

古代地中海世界を形成する基礎となった古代ギリシアの歴史について、基本的な事項を整理し、理解する。

第3回 ローマ帝国史

ヨーロッパに大きな影響を与えたローマ帝国の歴史について、その政治や体制の変化に関する基本的な事項を理解する。

第4回 ローマ帝国と東方

ローマ帝国は東方の地域と貿易を行ったが、この貿易でもたらされたものはローマ帝国の人々の生活を豊かにした。ローマ帝国と東方との貿易の概略やそれによる変化について理解する。

第5回 フランク王国と西欧中世社会の形成

フランク王国の発展と西ヨーロッパ文化圏の形成、フランク王国分裂後の西ヨーロッパ各国の歴史について、基本的な事項を理解する。

第6回 ビザンツ帝国と東ヨーロッパ

ビザンツ(東ローマ)帝国の概略について基本的な事項を理解するとともに、ビザンツ帝国が東ヨーロッパに与えた影響について考察する。

第7回 キリスト教史

中世ヨーロッパ社会で多大な役割を果たした教会の成立と発展について理解し、東方との関係についても考察する。

第8回 近世ヨーロッパ

ルネサンスと大航海時代・宗教改革

ルネサンスや宗教改革の近代性について理解する。また、大航海時代の新航路の開拓がもたらした世界の一体化による変化や諸問題について考察する。

第9回 ヨーロッパ主権国家の発展

16?18世紀のヨーロッパにおける主権国家の形成と発展について、絶対主義の基本的概念と合わせて理解する。

第10回 産業革命

18世紀にイギリスで始まった産業革命は、経済に多大な変化をもたらした。産業革命による変化とそれによる諸問題について理解し、考察する。

第11回 アメリカ独立革命とフランス革命

本格的な近代社会の形成をもたらしたアメリカ独立革命やフランス革命について学び、近代ヨーロッパ社会の特質について理解する。

第12回 欧米列強の世界進出

19世紀の欧米列強は、世界各地への進出と植民地化を推進し、欧米中心の社会や経済が成立していった。この進出と植民地化の展開について理解し、欧米中心の在り方の抱える諸問題について考察する。

第13回 帝国主義の動き

19世紀後半の欧米列強は、植民地を拡大する帝国主義の動きを見せた。欧米列強による世界各地の植民地化の具

体的な動きについて理解する。

#### 第14回 第一次・第二次世界大戦と現代社会

第一次・第二次世界大戦の始まりから終結までと戦間期の欧米について、基本的な事項を理解する。また、第二次世界大戦後の世界の枠組みと現代社会に与える影響についても合わせて理解し、考察する。

#### 第15回 総括

1～14回までに出た質問に回答し、これまでの授業の内容を補完する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

岡崎 宏樹

#### ----- < 授業の方法 >

演習。たじま未来プロジェクトに取り組む。

メールでの問い合わせ先：okazaki@css.kobegakuin.ac.jp

#### < 授業の目的 >

この演習では、講読、フィールドワーク、表現活動、イベント企画など多様なアクティブ・ラーニングの実践を通じて、文化を社会的に理解する能力と文化を主体的に創造・発信する能力を培う。この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。現代社会学科のディプロマポリシーの1・2に深く関連する。

#### < 到達目標 >

文化を社会的に理解する能力および文化を主体的に創造・発信する能力を身につける。

#### < 授業のキーワード >

地域文化、音楽、情報社会、アクティブ・ラーニング

#### < 授業の進め方 >

講読では、地域社会や音楽文化に関連する文献を使用する。発表者はレジメを作成し、プレゼンテーションを行ない、全体で地域社会と現代文化がかかえる課題等について議論する。

表現活動としては、地域に関連した音楽・映像作品を作成し、インターネットで発信する創作プロジェクトに取り組む。このプロジェクトにはミュージシャンや地域の方にも協力していただき、地域・大学・表現者の連携を創出することをめざす。イベント企画や作品制作は、グループで共同して取り組む。最後にシンポジウムを開催し、プロジェクトの成果を外部に向けて発表する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

地域文化に関連する作品の創作、イベント企画の準備、プレゼンテーションのための準備などが必要です。これらの学習に関連するテキストも授業時間外に各自が読んで理解を深めることが重要です。事前・事後学習各2時間。

#### < 提出課題など >

文化発信のための作品制作、発表のレジメや期末レポートの提出が求められます。作品や発表レジメなどの課題については、授業内に講評し、フィードバックをおこないます。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業内の取り組み（調査、グループワーク、討論）50%、授業内エッセイ15%、作品15%、レポート20%

#### < 授業計画 >

第1回 イントロダクション：ガイダンス、全体の計画本演習の目的、意義について説明し、全体の予定を立てる。

#### 第2回 地域の魅力と課題

兵庫県の但馬地域に着目し、地域の魅力と課題について検討する。神河プロジェクト やぶらぶプロジェクト たじま未来プロジェクト の動画や、一連の取り組みをまとめた教育ビデオを教材に学ぶ。

{神河プロジェクト, <http://kamikawaproject.com/>}

{やぶらぶプロジェクト, <http://www.yabulove.net/>}

{たじま未来プロジェクト, <https://yabulove.net/tajima.html>}

#### 第3回 映像文化の研究

地域の魅力や課題をどのように映像で伝える方法について研究する。これまでのプロジェクトの動画や、ミュージックビデオ、地域をテーマにしたドキュメンタリーなどを教材に活用する。

#### 第4回 文献調査と映像作品の構想

兵庫県但馬地域について文献やインターネットによって情報を収集し、映像作品に関連したテーマについてグループでまとめる。さらに、これらの知識のもとに、どのような映像作品をつくるかを構想する。

#### 第5回 プレゼンテーションのトレーニング（1）

より良いプレゼンテーションを行うためにはどうすればよいかを学び、テーマを決めてグループ発表の準備を行う。

#### 第6回 プレゼンテーションのトレーニング（2）

3ゼミ合同でポスター発表をおこなうための準備に取り組む。グループで担当を決めて、プレゼンテーションの練習をする。

#### 第7回 インタビューと共同作業

地域に関連する音楽・映像作品を共同制作する音楽家を授業に呼んで、インタビューや討論を通じて、どのような作品をつくるかを検討する。

#### 第8回 地域の文化（1）

地域の文化を調査し、その特徴をまとめ、レポートを作成する。

#### 第9回 地域の文化（2）

地域の文化を表現する音楽・映像作品の事例を考察し、自らの文化発信の可能性を拓げる知見を学ぶ。

#### 第10回 文化の創造（1）

地域の文化を表現する音楽・映像作品の制作やイベントの企画に取り組み、文化発信の可能性を探る。

#### 第11回 文化の創造（2）

地域の文化を表現する音楽・映像作品の事例を考察し、自らの文化発信の可能性を拡げる知見を学ぶ。

#### 第12回 情報社会と文化の発信（1）

インターネットを通じた文化発信の可能性について考察し、課題や問題点について討論する。

#### 第13回 情報社会と文化の発信（2）

インターネットを通じた文化発信に実践的に取り組む：ホームページやYoutubeによる音楽・映像作品の発信など。著作権問題や広報効果など情報発信をめぐる諸課題について討論する。

#### 第14回 プレゼンテーションの準備

半期に学んできた成果を各グループで報告する準備を行う。グループで成果と課題について討議し、ポイントを絞った明確なプレゼンテーションをめざして、討議しつつ作業を進める。

#### 第15回 成果報告

半期に学んできた成果を各グループで報告する。パワーポイントやパネルを活用してプレゼンテーションを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

菊川 裕幸  
-----

#### < 授業の方法 >

講義、実習、演習

#### < 授業の目的 >

現代社会学部DPに準拠し、本ゼミナールでは課題解決型学習（PBL）を取り入れる。兵庫県内に留まらず、全国の中山間地では少子高齢化、農業や伝統産業等の衰退化、人口流出など様々な課題を抱えている。それらすべての課題を解決することはできないが、兵庫県内の一部の地域に着目し、地域と共に考え、行動することで、課題解決に必要な様々なスキルを習得する。担当教員は教育現場や教育行政の立場から10年間の地域活性化や地域資源の活用に携わってきた実務経験のある教員である。その経験を活かし、多様な課題に対して、柔軟な解決策や地域との協働について実践できる能力を習得する。

#### < 到達目標 >

本講義は、4限の「現代社会基礎実習A」と連続して行う。基本的なフィールドは兵庫県丹波篠山市とし、地域住民はもとより、行政職員、農家等といった多様な連携や協働を通して、社会性を醸成することを目標とする。その中で、地域のことを学び、知り、課題を発見する（知識）。自身の活動内容を明確にし、他者に伝えるなどの基本的な行動ができるようになる（技能）。これらの基礎技能はゼミナール？ につながり、段階的に学びの幅

を広げていく。

#### < 授業のキーワード >

中山間地、農業、少子高齢化、伝統産業、協働

#### < 授業の進め方 >

ゼミでは、地域を知り、地域に入り、地域で活動することが中心となる。その中で、積極的に地域の人と関わり、コミュニケーションをとることが求められる。場合によっては土日にフィールドワークを行うこともあるので、柔軟に活動に参加できる学生を求める。なお、フィールドワーク等の日程調整の都合で、内容が入れ替わる場合もある。

#### < 履修するにあたって >

みんなで考え、汗を流し、協働していくことが基本姿勢として求められる。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

地域のことを知るために、可能な限り現地を訪問し、フィールドワークを行っておくことが望ましい。それが無理な場合でも、自治体のHP等を参照し、まずは地域を知ることから始める。

#### < 提出課題など >

グループワークでまとめた資料（ショートレポート、パワーポイント等）の提出を求める。また、それに対するフィードバックは授業時間内にディスカッション形式で実施する。

#### < 成績評価方法・基準 >

グループワークや地域活動への興味関心や意欲、態度について50%、レポートやプレゼン力など、身につけた技能や表現方法について51%を基本とし、総合的に評価する。

#### < 参考図書 >

特にないが、google scholar等の論文検索ツールを活用できるように。

#### < 授業計画 >

第1回 オリエンテーションと丹波篠山市についての概要紹介

自己紹介と各自の興味のある分野、取り組んでみたい活動等について簡単に共有する。主フィールドとなる丹波篠山市について教員から概要を説明したのち、学生が主体となって同市について調査する。

#### 第2回 丹波篠山市の概況と地域資源

丹波篠山市の概況と地域資源等について、グループディスカッションを行い、発表資料としてまとめる。第3回？ 第4回を目途に現地訪問を予定しているため、調査したいエリアや興味のあるエリアについてもまとめる。

#### 第3回 丹波篠山市のフィールドワーク

丹波篠山市を訪問し、事前にチェックしたエリアを訪問する。必要に応じて関係者のインタビューや案内を頂く。

#### 第4回 丹波篠山市のフィールドワーク

丹波篠山市を訪問し、事前にチェックしたエリアを訪問する。必要に応じて関係者のインタビューや案内を頂く。

第5回 フィールドワークから見た地域課題の抽出  
第3回? 第4回での訪問についてまとめ、地域の魅力とともに地域課題の抽出を行う。グループディスカッションを行い、今後の活動の方針を決める。

第6回 地域おこし協力隊経験者およびコーディネーター等との意見交換

第5回でまとめた内容をもとに、地域おこし協力隊経験者およびコーディネーター等との意見交換を行い、自分たちの現状認識と、実際の乖離部分や概ね合致した部分について知り、活動内容を再考する。

第7回 丹波篠山市の産業に触れる

再度丹波篠山市を訪問し、主産業である農業について農業者のインタビューや農作業を体験する。地域特産品について知識を深め、地域資源の活用について考える。

第8回 丹波篠山市の産業に触れる

再度丹波篠山市を訪問し、主産業である農業について農業者のインタビューや農作業を体験する。地域特産品について知識を深め、地域資源の活用について考える。

第9回 フィールドワークから見た地域課題の抽出

第7回? 第8回での訪問についてまとめ、地域の魅力とともに地域課題の抽出を行う。グループディスカッションを行い、今後の活動の方針を決める。

第10回 丹波篠山市の教育に触れる

丹波篠山市の高等学校を訪問し、中山間地が抱える課題や生徒の活動について知る。また、産官学連携等ができないかを模索する。

第11回 丹波篠山市の教育に触れる

丹波篠山市の高等学校を訪問し、中山間地が抱える課題や生徒の活動について知る。また、産官学連携等ができないかを模索する。

第12回 フィールドワークから見た地域課題の抽出

第10回? 第11回での訪問についてまとめ、地域の魅力とともに地域課題の抽出を行う(特に教育について)。グループディスカッションを行い、今後の活動の方針を決める。

第13回 活動予備日/先行研究調査

フィールドワークやインタビュー等が不足している場合は現地訪問を行う。そうでない場合は、先行研究の調査方法やデータ分析についての講義を行う。

第14回 総合的な具体的方策の提案に向けて

第15回の発表に向けて、これまでの学修についてまとめる。必要に応じて、関係者にアポイントを行い、発表材料の補強を行う。

第15回 講義、実習、演習の振り返り

これまでの講義や実習等を通して、気づき、学び、今後の課題等をまとめ、共有する。各自パワーポイントで発表を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

都村 聞人  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基礎科目(ゼミナール)に位置づけられる。入門ゼミナール・では、大学における学び方について学習した。ゼミナールにおいては、3年次のゼミナール・で専門領域について学ぶために必要となる、社会学の基礎的な知識や調査手法、論理的思考を修得することを目的とする。

前半は、いくつかの題材をもとに、社会学の観点からファッションと文化の関連について考え、グループディスカッションを行う。次に、雑誌記事や映像資料を利用して、ファッションをめぐる問題について考える。後半は、「ファッションと文化」というテーマのもと、現代社会基礎実習Bにおいて行うフィールドワークに関する予備的調査研究、および調査結果の分析と議論を行い、社会学の研究スタイルの基礎を学習する。具体的には、フィールドワークに向けて、問題意識の共有、分析課題の検討、先行研究・調査の探索・分析を行う。また、その進捗状況をゼミナールのなかで共有し、議論する。後半では、調査結果の分析・社会的解釈をグループごとに行い、雑誌(ZINE)を作成し、成果をまとめる。

この科目は、学外での実習を行う、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

テーマに沿って、社会的な問題意識を持つことができる。

簡単な社会的な分析課題を設定できる。

分析課題に関する先行研究を探索し、分析できる。

グループワークにおいて、建設的な議論ができる。

分析課題に関して、自らの考えを持つことができる。

自らの考えを発表することができる。

課題に応じた資料を探索し、考察することができる。

映像資料をもとに、社会問題について考察できる。

< 授業のキーワード >

ファッションと文化、消費、ジェンダー、メディア、ディスカッション、グループワーク

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。また、現代社会基礎実習(現代社会

基礎実習B)と連携したフィールドワークを行う。  
<履修するにあたって>  
現代社会基礎実習 (現代社会基礎実習B)と連携して行うので、合わせて履修すること。  
<授業時間外に必要な学修>  
事前学習として、授業の対象となるテーマについて文献、各種統計、インターネット等を利用して、積極的に調べてください(目安として1時間程度)。  
事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください(目安として1時間程度)。  
<提出課題など>  
調査報告書 (= 期末レポート) の提出を義務づける。(フィードバック: レポートに対してコメントを行いません。)  
その他、各種課題の提出が必須となる。詳細は授業中に適宜指示する。  
(フィードバック: 課題に対してコメントを行います。)  
<成績評価方法・基準>  
雑誌 (ZINE) 発表: 60%  
レポート・課題: 40%  
<テキスト>  
担当者が作成した資料を用いる。  
<参考図書>  
必要に応じて、参考となる文献を紹介する。  
<授業計画>  
第1回 イントロダクション  
ゼミナール の進め方を説明する。  
第2回 ファッションと文化について社会的に考察する (1)  
「人々はなぜ服を着るのか」について、検討する。  
第3回 ファッションと文化について社会的に考察する (2)  
ファッションとアイデンティティの関連について、検討する。  
第4回 ファッションとメディア (1)  
雑誌記事などを利用し、ファッションと文化について考察する。  
第5回 ファッションとメディア (2)  
雑誌記事などを利用し、ファッションがメディアにおいていかに語られているかを考察する。  
第6回 映像で学ぶファッションと文化  
映像資料からファッションと文化について考察する。  
第7回 ゲストスピーカーによる講演  
ファッションと文化について、ゲストスピーカーから学ぶ。  
第8回 先行研究・先行調査の探索・分析  
フィールドワークに関する先行研究・調査等を探索・分析することにより、問題意識を深める。  
第9回 フィールドワーク (1)

神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。  
第10回 フィールドワーク (2)  
神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。  
第11回 中間考察  
ここまでの調査内容を振り返り、追加の調査計画を立てる。  
第12回 フィールドワーク (3)  
神戸三宮・元町周辺のフィールドワークを行う。  
第13回 雑誌 (ZINE) 作成 (1)  
ファッションと文化をテーマにした調査結果を雑誌 (ZINE) にまとめる。  
第14回 雑誌 (ZINE) 作成 (2)  
ファッションと文化をテーマにした調査結果を雑誌 (ZINE) にまとめる。  
第15回 調査結果の発表  
調査結果をまとめた雑誌 (ZINE) の発表会を行う。  
-----  
2022年度 前期  
2.0単位  
ゼミナール  
日高 謙一  
-----  
<授業の方法>  
演習  
<授業の目的>  
本ゼミナールは現代社会基礎実習 と連動して開講される。現代社会基礎実習 は学外におけるアクティブ・ラーニングを中心にプログラムが構成されている。その学外研修における調査課題を設定し、調査し、地域に意見を述べ、提案することができるようになることを目的とする、実践的教育から構成される授業科目である。学外実習が困難になった場合は資料動画の視聴やオンラインによるインタビューで代替することがある。現代社会基礎実習AにおけるPBL (project based learning) を取り組むために必要な知識、資料収集のスキルを獲得し (DP1)、思考・判断する能力 (DP2) を育てることを目的とする。  
<到達目標>  
フィールドワークに必要な取材の技能を修得する。  
キャッチコピー制作に必要な知識と技能を獲得する。  
論理と感情の両面から情報の伝え方を考えることができる。  
<授業の進め方>  
グループワークを中心に、アイデア創出法や論理的思考法を体験しながら学んだり、キャッチコピー制作についての講義と演習を行ったり、ディスカッションを通じて成果物の質を高めたりする。  
3人の教員 (清原桂子、岡崎宏樹、日高謙一) のゼミナールが合同で、現代社会基礎実習 と内容を連続させて行う回もある。

< 授業時間外に必要な学修 >

キャッチコピーとポスターの制作のために30時間以上の授業外学修が必要である。

< 提出課題など >

教員による各回のフィードバックの他、成果物については地域住民や兵庫県議会サテライトゼミでのフィードバックもとに振り返る。

< 成績評価方法・基準 >

発表50%、提出課題20%、授業中の質疑30%

< 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方、スケジュール、授業時間外の学修についてオリエンテーションを行い、自分が住んでいる地域あるいは出身地のことを紹介しながら、田舎とは、あるいは都会とは何か考える。

#### 第2回 但馬地域について学ぶ

本ゼミナールのフィールドとなる但馬地域（特に、豊岡・養父）について調べ情報を整理する。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第3回 資料収集と調査計画

資料検索の方法を学び、但馬地域（特に、豊岡・養父）の何を対象としてキャッチコピーを制作するかを議論し、計画を立てる。

#### 第4回 キャッチコピーとは何か

広告コンセプト、キャッチコピーとは何か学び、キャッチコピーを作成する練習を行う。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第5回 中間発表準備

中間発表のための事前学習の内容を整理し、発表資料を作成する。

#### 第6回 中間発表

3つのゼミナールが合同で事前学習の成果を発表するとともに、地域おこしアイデアについての意見交換を行う。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第7回 但馬現地実習計画の作成

前週の発表及びフィードバックをもとに、現地調査の計画を含めた今後の調査計画を立てる。事前調査で得た情報を整理・確認し、現地調査のための役割分担を決める。

#### 第8回 現地フィールドワーク

調査対象地域を訪問し、視察及び地域創生に取り組む人たちへのインタビューを行い、情報を整理し、広告コンセプト案を検討する。

#### 第9回 キャッチコピーを作る

広告コンセプトを再考し、キャッチコピー案を検討する。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第10回 キャッチコピー案の発表と批評

クラス全体でキャッチコピー案を共有し、互いに他のグループのコピー案を批評する。その批評にもとづき、各グループはコピー案を再考する。

#### 第11回 ポスターの完成

完成したキャッチコピーを伝えるポスターを制作する。

#### 第12回 キャッチコピーとポスターの批評

完成させたキャッチコピーとポスターについて各グループ発表したのち、批評をもとに修正し、完成させる。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第13回 成果発表の最終準備

最終成果発表に向けてキャッチコピー、ポスターを完成させる。

#### 第14回 成果の発表

3つのゼミが合同で実習先の関係者を招き、成果物の発表と、参加者とのディスカッションを行う。現代社会基礎実習の授業と連続して行う。

#### 第15回 個人発表

実習の振り返りを発表し、他の学生と共有する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

前田 拓也  
-----

< 授業の方法 >

演習授業 / 対面

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に従い、（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握及びその解決策を探究することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目（ゼミナール）に位置づけられる。「入門ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、大学における学び方の基礎について学習したが、この「ゼミナールⅠ」においては、3年次の「ゼミナールⅢ・Ⅳ」で専門領域について学ぶために必要となる、社会学の基礎的な知識や調査手法、論理的思考を修得することを目的とした、実践的教育から構成される授業科目である。

「わたし / 自己」というかけがえのない存在は、他者および社会との関係のなかでどのようにかたちづくられているのか。わたしたちがふだんあたりまえのようにおこなっている「装う」 服を着たり、化粧をしたり、髪型を整えたりする という行為を検討することをとおして理解する。

実習として、「都市+ファッション」をキーワードに、神戸？大阪でのフィールドワークを実施し、街の写真を撮影したり、雑誌や新聞の記事を収集したりすることを通して、「都市」という空間のなかで、自分たちが普段、なににまなざしを向け、どのようなまなざしを意識させられているかを捉えなおし、理解することを目指す。

#### <到達目標>

- ・「ファッション」および「自己」をめぐる社会(学)的な問題関心について、身近な具体的事例との関連から検討し、論じる能力を身につける。
- ・先行研究および資料の検索、収集、整理をおこなうことができる。
- ・フィールドワークの計画や、そこから得られたデータの解釈について、他者と議論しながら検討する能力を獲得する。

#### <授業のキーワード>

ファッション / 身体 / 自己 / 都市 / ディスカッション / グループワーク

#### <授業の進め方>

演習形式で行う。また、収集したデータをグループワークで分析する。内容は「現代社会基礎実習Ⅰ(現代社会基礎実習B)」と連携する。

#### <履修するにあたって>

ペアとなる実習科目：現代社会基礎実習B(都村ゼミ、李ゼミと合同)

#### <授業時間外に必要な学修>

- ・事前学習：演習の対象となるテーマについて、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくことで一定のイメージをつかんでおくこと(目安：1時間程度)。
- ・事後学習：ノートなどの資料を再確認し、講義内で紹介した各種統計資料や文献を積極的に読むこと(目安：1時間程度)。

#### <提出課題など>

- ・調査報告書(=期末レポート)の提出を義務付ける。
- ・その他、各種課題の提出が必須となる。詳細は授業中に適宜指示する。(それぞれの課題について、manabaおよび授業中にコメントし、フィードバックする。)

#### <成績評価方法・基準>

雑誌(ZINE)作成=期末レポート : 60%

平常レポート・課題 : 40%

#### <テキスト>

担当者が作成した資料を用いる。

#### <参考図書>

{藤田結子・成実弘至・辻泉編『ファッションで社会学する』有斐閣、2017年、<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641174313>}

{渡辺明日香『こころをよむ 時代をまとうファッション』NHK出版、2020年、<https://www.nhk-book.co.jp/detail/000069110272020.html>}

{アクロス編集室編『ストリートファッション 1980-2020: 定点観測40年の記録』PARCO出版、2021年、<https://p>

[ublishing.parco.jp/books/detail/?id=405](https://publishing.parco.jp/books/detail/?id=405))

ほか、必要に応じて適宜紹介する。

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

授業の進めかたについてあらためて説明すると同時に、受講者の自己紹介などをおこなう。

##### 第2回 都市とファッションの関係性

都市とファッションの関係性がこれまで社会学ではどのように検討されてきたかを考える。

##### 第3回 ゲストスピーカーによる講演

大阪の街場にゆかりあるゲストスピーカーを招き、街歩きの方法や、そのために必要とされる基礎的な知識についてレクチャーを受ける。

##### 第4回 現地学習での課題の検討

大阪「新世界」の街歩きに先立ち、調査課題をグループワークにて検討する。

##### 第5回 現地学習の実施

大阪「新世界」の街歩きを実施する。

##### 第6回 現地学習の振り返り

授業前半の内容を振り返り、現地学習の成果を確認する。

##### 第7回 各グループの分析課題の検討

フィールドワーク実施のための調査班を結成し、それぞれの分析課題を明確化、共有する。

##### 第8回 先行研究・先行調査の探索、分析

フィールドワークのテーマに関する先行研究、およびフィールドワークのために確認しておくべき情報を持ち寄り、分析、共有する。

##### 第9回 現地でのフィールドワーク 1

神戸(三宮・元町周辺)を中心にしたフィールドワークを実施する。

##### 第10回 現地でのフィールドワーク 2

神戸(三宮・元町周辺)を中心にしたフィールドワークを実施する。

##### 第11回 中間考察

ここまでの調査内容を振り返り、追跡調査が必要な事項を確認し、追加の調査計画を立てる。

##### 第12回 追加フィールドワーク

神戸(三宮・元町周辺)を中心にしたフィールドワークを実施する。

##### 第13回 実習報告書冊子作成 1

「都市」と「ファッション」をテーマとした調査結果をフォト・エスノグラフィーとしてまとめる。

##### 第14回 実習報告書冊子作成 2

「都市」と「ファッション」をテーマとしたフォト・エスノグラフィーを冊子としてまとめ、完成させる。

##### 第15回 授業全体のまとめ

これまでの授業内容の要点を振り返ると同時に、次年度からの学びとの関連を明確にする。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

李 洪章

-----

< 授業の方法 >

演習・実習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

入門ゼミナール および で大学における学び方について体験学習した後、ゼミナール ~ で専門領域について学ぶために必要となる、社会学の基礎的な知識や調査手法を習得する。さらには、現代社会に生きる人々の生活の特徴について考えるために、生活上の経験や行為を人びとが用いる言葉の意味に注目しながら読み解くような、論理的思考を修得することを目的とする。

具体的には、「韓流」を事例として、ファッションと政治の関係性について考える。近年生じている「第三次韓流ブーム」は、衣服やコスメなどのファッション分野に韓国の影響が及んでいることを最大の特徴としている。ファッションは個人と社会の境界に位置するものと言われるが、ファッションにおける韓流を取り入れる若者たちは、国家・政治レベルでの「韓国」をどのように受容しているのだろうか。街頭での調査に基づいて考えてみる。

なお、本授業は、現代社会学科の3つのどの分野を自分の専門分野にするか選択するために、ゼミナール とで担当教員を変えて違う分野を学ぶ機会でもある。

なお、本授業は、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

・政治や文化などの社会的な問題関心について、私たちの実生活にかかわる具体的な事例との関連から検討し、論じる能力を身につける。

・先行研究および資料の検索、収集、整理をおこなうことができる。

・フィールドワークの計画や、そこから得られたデータの解釈について、他者と議論しながら検討する能力を獲得する。

< 授業のキーワード >

ファッション / ナショナルリズム / 政治意識

< 授業の進め方 >

- ・ゲストスピーカーによる講演
- ・生野コリアンタウンでの現地実習
- ・三宮でのフィールドワーク

これらの課題を、数人（4~5人）程度の研究班をつくり、班ごとにお互いの調査計画や調査結果を授業中に報告し、議論しながら検討を行っていく。

プレゼンテーション、ディスカッションを通じたアクティブ・ラーニングを実施する。

< 履修するにあたって >

・ペアとなる実習科目：現代社会基礎実習B（前田ゼミ、都村ゼミと合同でおこないます）

・グループワークを行うので、欠席は厳禁とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミでの課題を自ら発見すること（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

- ・調査報告書 (= 期末レポート) の提出を義務付ける。(manaba上で講評することでフィードバックする)
- ・その他、各種課題の提出が必須となる。(ゼミ中にコメントすることでフィードバックする)

< 成績評価方法・基準 >

・授業中に作成した成果物の内容 60%、期末レポート 40%

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ゼミナールで学習する内容と方法を知る。

第2回 私たちの「韓国」イメージ

私たちが日常生活のなかで「韓国」に対してどのようなイメージを持っているのかを、意見を出し合いながら明らかにしていく。

第3回 ゲストスピーカーによる講演

ゲストスピーカーを招き、在日コリアンの生活の場であり、韓流ファンにとっての最も身近な「韓国」であるコリアタウンの歴史と現状について学ぶ。

第4回 現地学習 生野コリアタウンを知る

インストラクターの解説を受けながら生野コリアンタウンのフィールドワークを行う。

第5回 現地学習 コリアタウンを訪れる若者たち

インストラクターの解説を受けながら、韓流ファンの若者たちにとって、生野コリアンタウンがどのような「場」であるのかについて考える。

第6回 現地学習の振り返り

授業前半の内容を振り返り、現地学習の成果を確認する。

## 第7回 ファッションの社会学

ゲストスピーカーを招き、社会学領域において、ファッションがこれまでどのように論じられてきたのか、ファッションに関していかなる社会的な問いを立てることができるのかについて学ぶ。

## 第8回 各グループの分析課題の検討

調査班ごとに調査テーマを決定し、調査課題を具体的に検討する。

## 第9回 現地でのフィールドワーク

調査課題に沿って、三宮での現地調査を行う。

## 第10回 中間考察

現地フィールドワークでの不足点を補うためにさらなる先行研究と先行調査の探索・分析を行う。

## 第11回 追加フィールドワーク

前回の調査での反省点を踏まえ、追加フィールドワークを行う。

## 第12回 調査結果の整理・考察

撮影した写真などの調査成果を社会的な視点から読み解き、解説を加える。

## 第13回 Z I N E の作成

各テーマ別に調査結果をZ I N Eにまとめる

## 第14回 プレゼン資料作成

作成したZ I N Eの内容に関するプレゼンテーションの準備を行う。

## 第15回 成果発表

3ゼミ合同で成果発表会を実施し、参加者の質問に答えることで、調査結果への理解をさらに深める。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

番匠 健一  
-----

### < 授業の方法 >

対面によるゼミナール形式を基本とする

### < 授業の目的 >

この科目では、社会科学の基礎的な知識を習得しながら、社会調査・フィールドワークを行うことで、現代社会学科のDPにある「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成」の多面的・総合的理解と解決策の実践を目指す。

復興災害・観光・まちづくりをテーマ、神戸でのフィールドワークを予定している。

### < 到達目標 >

・先行研究や関連資料を大学図書館、公立図書館、資料館、インターネットデータベースなどでリストアップ・収集し、批判的に整理を行うことができる能力を身につける。

・フィールドワークの計画を立て、得た情報を検討し、プレゼンテーション・レポート作成ができる能力を身に

つける。

### < 授業のキーワード >

地域社会 / ディスカッション / グループワーク / フィールドワーク

### < 授業の進め方 >

研究グループごとに、資料の収集やフィールドワークを行い、授業中に報告する。

### < 履修するにあたって >

街歩きに行く機会が多いですので、神戸の街をあまり歩いたことがない、あるいは、歩くことが好きだという人はぜひ受講してください。

おおよそ本読みと街歩きを交互にやるようなイメージです。

本読みの方は、亡くなられたばかりの外岡秀俊さんの『地震と社会』を読みたいと思います。

### < 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習：テーマに関わるリーディング資料の予習（1時間）

・事後学習：授業で得た内容を独自にまとめ、発表・レポートにつなげる作業を行う（1時間）

### < 提出課題など >

・期末レポート（調査報告）の提出が必須

・フィールドワークの報告、資料のコメント、講義に対するコメントシートなど

### < 成績評価方法・基準 >

・期末レポート（調査報告）50%

・フィールドワークの報告、資料のコメント、講義に対するコメントシートなど50%

### < 参考図書 >

ジョン・アーリ『社会を越える社会学 移動・環境・シチズンシップ』法政大学出版2006年

ヴァレン・スミス編『ホスト・アンド・ゲスト：観光人類学とはなにか』ミネルヴァ書房2018年

山下晋司『観光文化学』新曜社2007年

塩崎賢明『復興 災害 阪神・淡路大震災と東日本大震災』岩波新書2014年

塩崎賢明編『大震災20年と復興災害』クリエイツかもがわ2015年

### < 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション

自己紹介と、授業の進め方について説明する。

#### 第2回 観光・まちづくりを考える

この領域に関するこれまでの議論を参照し、フィールドワークの準備のための視点や論点について議論する。

#### 第3回 観光・まちづくりを考える

この領域に関するこれまでの議論を参照し、フィールド

ワークの準備のための視点や論点について議論する。

#### 第4回 外部講師によるレクチャー

観光・まちづくりに関する外部講師を招き、フィールドワークの方法や必要とされる知識についてレクチャーを受ける。

#### 第5回 事前準備

フィールドワークの事前準備として、持ち寄った資料の検討、フィールドをワークの課題を設定する。

#### 第6回 フィールドワーク

神戸を中心にしたフィールドワークを行う。

#### 第7回 フィールドワーク

神戸を中心にしたフィールドワークを行う。

#### 第8回 調査の整理

調査でえた資料やデータを整理しプレゼンテーションの準備を行う

#### 第9回 グループ発表

フィールドワークに関する報告をパワーポイントで発表し、レポートの課題を設定する。

#### 第10回 外部講師によるレクチャー

観光・まちづくりに関する外部講師を招き、フィールドワークの方法や必要とされる知識についてレクチャーを受ける。

#### 第11回 事前準備

フィールドワークの事前準備として、持ち寄った資料の検討、フィールドをワークの課題を設定する。

#### 第12回 フィールドワーク

神戸を中心にしたフィールドワークを行う

#### 第13回 調査の整理

調査でえた資料やデータを整理しプレゼンテーションの準備を行う

#### 第14回 グループ発表

フィールドワークに関する報告をパワーポイントで発表し、レポートの課題を設定する。

#### 第15回 授業のふりかえり

授業全体の振り返りを行いレポート課題の設定を確認する

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

伊藤 亜都子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

本科目は現代社会学部DPIに示す、思考力・判断力・表現力

等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度を見につけることを目指す。

災害などのいざというとき、地域での助け合い（共助）はとても欠かせないものになっています。そして、災害時に助け合えるためには、普段の日常生活での地域づくりがとても大切です。

「地域」や「地域コミュニティ」に注目して、「災害に強いまちづくり」、「地域防災力の向上」、「復興まちづくり」、「地域活性化」、「地域社会での助け合い」などのテーマについて学びます。

< 到達目標 >

ゼミナール形式で、地域防災、まちづくり、そしてそのベースとなる地域コミュニティについて学んだり、自分たちで考えたり、調べたり、活動することを通して、それぞれが、地域に関心をもつこと、自主的な学習とグループ研究の進め方を身に着ける、地域の方々の話しをしっかりと聞いてまとめられるようになる。の3点について習得できるようにします。

< 授業のキーワード >

地域防災、復興まちづくり、コミュニティ、共助

< 授業の進め方 >

テキストを読んで学ぶ、調べたことをまとめる、フィールドワークなどします。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習・復習（地域調査に行く前の予習、調査に行ったあとのまとめ、発表準備など）を各1時間程度行う。

< 提出課題など >

調査報告書、プレゼンテーション、レポートなど。課題については、授業内で報告し、指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業取組態度（50%）、複数回の課題提出（50%）

< 授業計画 >

#### 第1回 授業ガイダンスと自己紹介

半年間の授業の基本的な予定や進め方について説明します。そして、同じクラスのメンバーを知るために自己紹介などを行います。

#### 第2回 ゼミ内ワークショップ

ワークショップ形式で、ゼミでの学習や活動としてやってみたいことについて意見を出し合います。

#### 第3回 阪神・淡路大震災に関する調べ学習(1)

阪神・淡路大震災に関する資料を調べ、発表の準備をします。

#### 第4回 阪神・淡路大震災に関する調べ学習(2)

阪神・淡路大震災に関する資料を調べて、まとめたことを発表します。

#### 第5回 学外での地域防災学習(1)

神戸のまちに出かけ、震災から20年以上が経過した今の様子を視察します。現在のまちの魅力や課題について考えます。

#### 第6回 学外での地域防災学習(2)

視察したまちについて、震災時の様子や復興過程においてどうであったのかについて地元の方の話をうかがい、まとめます。

#### 第7回 学外での地域防災学習(3)

まちを防災の視点から見直し、今後の災害に対する備え、危険なところなどについて、ハザードマップを参考にしながら確認する。

#### 第8回 地域防災学習のまとめ

地域防災学習のまとめ:調べたこと、感じたこと、聞いたことについてどのようにまとめるか話し合います。

#### 第9回 地域活動の実践(1)

地域イベントを実際にお手伝いしながら、地域について学習します。

#### 第10回 地域活動の実践(2)

地域イベントを実際にお手伝いしながら、地域について学習します。

#### 第11回 地域活動のまとめ

実際に地域活動に参加して学んだこと、わかったことについてまとめます。

#### 第12回 調査レポート作成とプレゼンテーションの準備(1)

分担を決めて、調査レポートとプレゼンテーションの準備を行います。

#### 第13回 調査レポート作成とプレゼンテーションの準備(2)

調査レポートの仕上げと、プレゼンテーションの練習を行います

#### 第14回 成果発表会

調査のまとめについてプレゼンテーションを行います。

#### 第15回 ふりかえり

授業全体で行ったことを復習して全体をまとめた上で、後期からどのような学習態度、学習内容が重要であるかについて考えます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

江田 英里香  
-----

#### < 授業の方法 >

レポートの提出等はmanabaで行います。

#### < 授業の目的 >

本講義を通して、学びの方法を学習します。

具体的には、

主題の見つけ方

レポートの書き方

プレゼンの方法

評価の方法

についてワークを通して理解を深めます。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連します。

なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

#### < 到達目標 >

学びの方法を学習をすることを通して、4年間で必要な基礎的な学びの姿勢を身に着けることができる。

#### < 授業のキーワード >

子ども、教育、国際協力、ボランティア、社会貢献

#### < 授業の進め方 >

グループワークやディスカッションを中心に進めます。積極的な姿勢で授業にのぞんでください。

#### < 履修するにあたって >

積極的な姿勢で取り組んでください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

テレビやインターネットのニュース、インターネットの記事や図書館などの文献を中心に事前・事後学習各1時間程度

#### < 成績評価方法・基準 >

授業内でのプレゼンや発言

小レポート

これらを総合的に判断して評価します。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

全15回の授業について説明します。

##### 第2回 社会貢献とは

社会貢献とは何かについて基本的な知識を学びます。

##### 第3回 主題の見つけ方

主題の見つけ方について学びます。

##### 第4回 ワーク

ワークを通して主題を見つけていきます。

##### 第5回 ワーク

ワークを通して主題を見つけていきます。

##### 第6回 ワーク

ワークを通して主題を見つけていきます。

##### 第7回 レポートの書き方

レポートの書き方について学びます。

##### 第8回 ワーク

ワークを通してレポートの書き方を学びます。

##### 第9回 ワーク

ワークを通してレポートの書き方を学びます。

##### 第10回 プレゼンの方法

プレゼンの方法を学びます。

##### 第11回 ワーク

ワークを通してプレゼンの方法を学びます。  
第12回 ワーク  
ワークを通してプレゼンの方法を学びます。  
第13回 ワーク  
ワークを通してプレゼンの方法を学びます。  
第14回 評価の方法  
評価の方法について学びます。  
第15回 ワーク  
ワークを通じて半期の自己評価を行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

佐伯 琢磨

-----  
< 授業の方法 >

ゼミナールを通して、防災に関する専門知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、  
あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・  
判断力・表現力等の能力)に関連する。

「防災とは何か」を考える際に、対象となる「災害」の  
内容をまず把握する。一般的に「災害」は、自然災害、  
事故災害、社会的被害などに区分される。

ゼミナールでは、各自が興味ある自然災害について調  
査し、発生から被害拡大までの時系列を把握することを  
目的とする。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング  
業界における実務経験のある教員である。業務経験にお  
ける実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

各自が人前で発表することを経験し、できるだけ平常心  
で発表できるようなレベルになることを目標とする。

< 授業のキーワード >

自然災害発生メカニズムの理解

< 授業の進め方 >

まず、ゼミナールでは、各自が興味を持つ自然災害に  
ついて調査し、以下の3段階に分けて他のゼミ生を前で  
発表する。

STEP 1：自然災害が社会に対して、どのような影響を及  
ぼしたか

STEP 2：何を学ぶべきか

STEP 3：影響度合いを無くす、または軽減するためには  
何をすべきか

また、発表された内容について、質疑応答を行う。

< 履修するにあたって >

将来、社会に出た際に役立つ内容と思われるので、積極  
的に参加すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自が興味を持つ自然災害について、調査する。

< 提出課題など >

発表時に使用したファイル。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミの参加を前提とし、各自が「災害」に関して注目す  
る事象を抽出し、それをゼミで発表することに対して60  
%、ゼミにおける討議など参加度合いを40%で評価する。

< テキスト >

適宜、配布する。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミナール の進め方について説明する。

第2回 自然災害とは(1)

主な地震災害の事例を紹介する。

第3回 自然災害とは(2)

主な風水害・土砂災害の事例を紹介する。

第4回 テーマの選択

各自の調査対象とする事象を決める。

第5回 テーマ発表(1-1)および討議

過去の自然災害(地震災害)の事例の調査結果を報告し、  
討議する。

第6回 テーマ発表(1-2)および討議

過去の自然災害(風水害)の事例の調査結果を報告し、  
討議する。

第7回 テーマ発表(1-3)および討議

過去の自然災害(土砂災害)の事例の調査結果を報告し、  
討議する。

第8回 中間のまとめ

第5回～第7回までの発表について、コメントする。

第9回 テーマ発表(2-1)および討議

過去の自然災害(地震災害)の事例から何を学ぶかを報  
告し、討議する。

第10回 テーマ発表(2-2)および討議

過去の自然災害(風水害)の事例から何を学ぶかを報告  
し、討議する。

第11回 テーマ発表(2-3)および討議

過去の自然災害(土砂災害)の事例から何を学ぶかを報  
告し、討議する。

第12回 テーマ発表(3-1)および討議

過去の自然災害(地震災害)の事例を無くす、または影  
響を軽減するにはどうすべきかを討議する。

第13回 テーマ発表(3-2)および討議

過去の自然災害(風水害)の事例を無くす、または影響  
を軽減するにはどうすべきかを討議する。

第14回 テーマ発表(3-3)および討議

過去の自然災害（土砂災害）の事例を無くす，または影響を軽減するにはどうすべきかを討議する。

第15回 全体のふりかえり

第9回～第14回までの発表について，コメントする。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中田 敬司

-----  
< 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。ゼミナールでは、入門ゼミナールで学んだ内容を基本に、具体的なコミュニケーション能力向上をめざし自らの体験や事例を発表する。そして互いの興味の中から新たな「学び」を実感していく。また自分の興味から発展させね文献を調べたり、調査をしたりして考えるという研究の姿勢をさらに向上させグループで活動したり、討論する能力を身につける。また、資料や文献調査の実施方法やレポートのまとめ方、発表スライドの構成等プレゼンテーション能力の向上も目指す。

< 到達目標 >

- 1 傾聴トレーニングによる高い傾聴力を習得する
- 2 テーマに基づく資料検索能力を獲得する
- 3 資料・文献等からの情報収集能力を獲得する
- 4 資料・文献等からの情報の分析力・洞察能力を獲得する
- 5 プレゼンテーション構成を作成できる
- 6 適切な声のトーン・パフォーマンスができる
- 7 総合的プレゼンテーション能力を獲得する

< 授業のキーワード >

プレゼンテーション 傾聴 エビデンス

< 授業の進め方 >

講義とともに各々個人でのテーマに基づく発表、およびグループでのディスカッションを実施する。

< 履修するにあたって >

新聞や文献など読み込む力をつけていくように

< 授業時間外に必要な学修 >

ディベートなどの議論に関する番組などがあれば観ることを推奨する。事前・事後学習に各1時間程度。

< 提出課題など >

レポートおよび資料収集。授業の中でモデル事例等を示し、講評・コメントを実施する。

< 成績評価方法・基準 >

課題レポート 40% プレゼンテーション 30% 資料・文献検索 30%

< テキスト >

授業の中で配布、紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本ゼミナールの目標、授業の進め方等

第2回 プレゼンテーションについて

プレゼンテーションに必要な準備事項の確認

第3回 プレゼンテーションスキル

プレゼンテーション構成、声のトーン、抑揚、スピードほかのスキル確認

第4回 プレゼンテーション事例検討

スーパープレゼンテーション等の事例を検討し、わかりやすく伝えていく手法を検討する。

第5回 プレゼンテーション事例検討

スーパープレゼンテーション等の事例を検討し、わかりやすく伝えていく手法を検討する。

第6回 プレゼンテーション実習

学生によるテーマに基づくプレゼンテーションと質疑応答および講評

第7回 プレゼンテーション実習

学生によるテーマに基づくプレゼンテーションと質疑応答および講評

第8回 プレゼンテーション実習

学生によるテーマに基づくプレゼンテーションと質疑応答および講評

第9回 調査と分析

様々な調査方法と分析方法について調べる。文献検索、データ、アンケート、実験等

第10回 調査テーマについて

現在、社会で議論されている内容や不明確な事柄について調査テーマを選定する。

第11回 調査実習

各々のテーマに基づいて文献検索および資料等収集した内容を整理する。

第12回 調査実習

各々の調査した内容を整理した結果から、どのようなことが主張できるか、また他の見方や考え方はできないか検討する。

第13回 調査結果発表

調査結果に基づき考察を行う。それを発表し質疑応答を実施する。

## 第14回 調査結果発表

調査結果に基づき考察を行う。それを発表し質疑応答を実施する。

## 第15回 学んだ内容の整理と確認

プレゼンテーションや調査等について学んだことを再確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

船木 伸江  
-----

### < 授業の方法 >

講義 演習

### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2（思考力・判断力を身につける）に関連する科目である。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、神戸の地に大きな被害が発生した。震災以降、各方面で防災について学ぶこと（防災教育）、備えることの必要性が重視されている。ゼミナールでは、「防災教育」をテーマに、どのようにしたら防災に関心を持つ人が増えるか（意識啓発）、どのようにしたら楽しく防災を学べるか（防災教育の手法）、どのようにしたら防災の重要性を分かってもらえるか（伝え方）などについて学びを深めていく。なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深め、学外での実習も含む実践的教育から構成される授業科目である。

### < 到達目標 >

< 目標 > 防災教育を3年間の学習で考えていくための基礎をゼミナールで培う。具体的には阪神・淡路大震災についての調べ学習、震災語り部の講話から防災への理解を深める。また、調べた内容を学校での防災教育という形で発表し、伝え方、教え方の基礎学習も行っていく。

1. 阪神・淡路大震災を中心とした過去の災害についてについての勉強から、防災の基礎的知識をつける（知識）
2. 阪神・淡路大震災についての調べ学習、震災語り部の講話からより実践的な防災学習への学びを深め、次なる災害への解決法を考える力を養う。（知識、態度・習慣）
3. 習得した知識を小学生などに伝えることにより、防災への理解を深め、プレゼンテーション能力を養う（態度・習慣、技能）

### < 授業の進め方 >

調べ学習などで授業を進めていく

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に授業のテーマとなる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

### < 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

100%レポート課題による

< 参考図書 >

夢みる防災教育（晃洋書房）

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンスと自己紹介

授業の進め方を説明し、共に学ぶメンバーと知り合う

第2回 阪神・淡路大震災について

1995年に発生した阪神・淡路大震災の被害概要について学ぶ

第3回 調べ学習1

阪神・淡路大震災の写真などを見て、当時どのような状況だったのか、現地で調査を行う

第4回 調べ学習2

阪神・淡路大震災の写真などを見て、当時の様子についてインタビュー調査を行う

第5回 調べ学習3

阪神・淡路大震災の写真などを見て、文献・資料による調査を行う

第6回 震災語り部の講話

阪神・淡路大震災で肉親を亡くした語り部のお話を聞く

第7回 授業案の作り方

調べた内容をもとに、学校で防災教育の内容として伝えるための授業案を作成する

第8回 プレゼンテーションの作り方

プレゼンテーションを使って授業をする方法を学ぶ。小学校で授業を行う場合には、黒板に資料をどのように使うか、中学校、高校で授業を行う場合には、パワーポイントをどのように授業資料として活かすかを学ぶ。

第9回 授業準備1

学校で授業を行うための授業計画を作成し、模擬授業を行う。

第10回 授業準備2

現場教員から授業指導を受ける。

第11回～第14回 授業

指導を受けた内容をもとに、授業案を改訂し、模擬授業を数回行い、実際に学校で授業を行う。

第15回 授業実践の振り返り

学校での授業実践の振り返り、反省を行うと共に、今後の授業を改善するにはどのようなことを行うべきか、課題発見を行う。

また、夏休み中にどのような学習を行うか各自で課題設定を行う

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

前林 清和  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは開発途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。特に、災害が多発する日本では、持続可能な安全で安心な社会を築いていくためにはSDGsの観点からの防災が求められています。

本ゼミナールでは、毎年のように起こる気象災害をはじめ、近い将来必ず来る南海トラフ巨大地震に向けて、発生時の自助、共助のあり方、そのための日常からの社会貢献を如何にすべきかを考えながら、災害ボランティア、防災教育などについて研究していきます。

また、将来の進路や就職に関する知識や学びを様々な専門家に来ていただきアドバイスをもらい卒業後に備えます。主な活動は、次のとおりです。

SDGの観点からの災害および防災の学習

南海トラフ巨大地震の現地調査（大阪府、徳島県、和歌山県など）

災害の備えを啓発する教材の開発

附属中学校などへの出前授業

また、災害があった際の災害ボランティアにも積極的に参加していきます。

< 到達目標 >

- 1、個人研究、グループ研究の基礎を身に着けることができる。（知識）
- 2、プレゼンテーション能力を習得できる。（知識、技能）
- 3、南海トラフ巨大地震に関して知るとともに、それらの情報を収集する方法を身に着けることができる。（知識、技能、態度・習慣）
- 4、物事の見方、考え方についての思考能力を身につけることができる。（知識、技能）
- 5、自学自習の基礎能力を身につけることができる。（技能、態度・習慣）

< 授業のキーワード >

SDGs 防災 南海トラフ巨大地震 Win-Win

< 授業の進め方 >

アクティブラーニングの手法を駆使して、学生主体、特に個人研究活動とプレゼンテーションを中心に展開していく。

< 履修するにあたって >

人のため、社会のために活動していきたい人、新しいことにチャレンジしていこうと思う人、一緒に考え、活動しましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

授業の中で、モデル事例等を示しフィードバックやコメントを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑、発表50%、 レポート・課題提出50%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

自己紹介 授業の概要、進め方、評価の方法 レポートの書き方

第2回 私の興味

学生が、自分自身の研究希望や興味についてプレゼンテーションをする

第3回 SDGsに関する検討

SDGsとは何か、について問題提起して討論する。

第4回 南海トラフ巨大地震に関する検討

南海トラフ巨大地震について討論し検討する

第5回 SDGsに関する検討

SDGsとは何か、について問題提起して討論する。

第6回 ゼミの研究・活動方針の検討

ゼミとしての研究および活動についての目標を立てる

第7回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する基礎研究1

グループによるテーマ設定の検討と決定

第8回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する基礎研究2

グループによる研究方法の検討と決定

第9回 文献調査1

グループによる文献研究、特に著書・雑誌などによる文献研究の実際

第10回 文献調査2

グループによる文献、特にインターネットなどからの情報収集による文献研究の実際

第11回 フィールド調査1

グループによるフィールド研究、特にアンケート調査によるフィールド研究の実際

第12回 フィールド調査2

グループによるフィールド研究、特に現地調査によるフィールド研究の実際

第13回 グループ研究・活動の展開1

グループ研究による考察の実際1

第14回 グループ研究・活動の展開 1

グループ研究の考察の実際 2

第15回 これからの研究・活動に向けて

これからの研究・活動の展望と計画

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

松山 雅洋

-----  
< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は現代社会学部のDPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度の習得に該当する。

阪神淡路大震災で災害の被害軽減には、自助・共助・公助のそれぞれの備えと連携の大切さを我々は学んだ。ゼミナールでは、地震・津波災害から命を守るをテーマに地域(自主防災組織)、企業、行政の防災への取り組みについて研究する。

この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防や危機管理部門での実務経験のある教員である。阪神淡路大震災や東日本大震災等の現場経験に言及しながら、より深い学びへとつなげていく。

< 到達目標 >

地域住民、企業、行政の防災への取り組みを理解する。  
ワークショップの進め方やプレゼンテーション能力を身につける。

読解力や社会常識を習得することができる。

< 授業のキーワード >

消防、危機管理、自主防災組織、災害から命を守る。

< 授業の進め方 >

自分たちで文献や資料を集め学習し、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンを行う。

< 履修するにあたって >

災害報道に関心を持ち、積極的に調べること。manabaの使用方法を確認しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習と事後のまとめ学習。

< 提出課題など >

期末に課題レポートを実施する。manabaのレポートで講評する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的・自主的な取り組み態度40%、発表30%、期末の課題レポート30%

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

授業の概要・進め方、評価の方法を説明する。自己紹介を行う。

第2回 我が国の防災体制

行政(主に市町村)の防災への取り組みについて討議する。

第3回 我が国の防災体制

地域(主に自主防災組織)の防災への取り組みについて討議する。

第4回 我が国の防災体制

企業の防災への取り組みについて討議する。

第5回 研究方法等の検討

ゼミナールでの研究方法について話し合う。

第6回 レポートの作成

レポートの作成要領を学習する。

第7回 文献調査の実施

グループ毎に文献調査により、行政、地域、企業の地震・津波対策をまとめる。

第8回 文献調査の発表

グループ毎に文献調査の結果を発表し、討議する。

第9回 現地調査の事前学習

関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるか」等をグループで準備する。

第10回 現地調査

災害への備えについて、現地視察及びヒアリング等の調査を行う。

第11回 現地調査

災害への備えについて、現地視察及びヒアリング等の調査を行う。

第12回 現地調査のまとめ

グループ毎に現地調査の結果をまとめる。

第13回 現地調査の発表

グループ毎に現地調査の結果を発表し討議する。

第14回 ゲストスピーカー

ゲストスピーカーの講話と意見交換を行う。

第15回 総括

授業全体の要点を確認し、学んだことへの理解を深める。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

水本 有香

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2(思考力・判断力を身につける)に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。国際社会および日本、そして特にアジアの国々を取り巻く状況を踏まえ、自分とつながる世界のありようをとらえる。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

<到達目標>

「持続可能な開発」、「多文化共生」、「多様性」、「市民参加」、「災害資料の保存」などのテーマを通じて各自およびグループ学習をおこない、理解を深めた上で実践する方法を考えます。

<授業のキーワード>

開発教育、国際協力、国際理解、自然災害

<授業の進め方>

少人数のグループワーク、調べ学習を取り入れます。

<履修するにあたって>

グループワーク等では積極的な発言を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

<提出課題など>

毎回、授業中に意見交換や発表、グループで作成した成果物及びレポートの提出などを求めます。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

授業態度・授業への積極的貢献（45%）、レポート等（25%）、及び発表（30%）により評価する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の全体、自己紹介、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 テーマの検討

各自・グループの設定したテーマに関する検討

第3回 テーマの議論

各自・グループの設定したテーマに関する議論

第4回 テーマに関する発表1

各自・グループの設定したテーマに関する発表

第5回 テーマに関する発表2

各自・グループの設定したテーマに関する発表

第6回 テーマに関する発表3

各自・グループの設定したテーマに関する発表

第7回 発表に基づく議論1

各自・グループの発表に基づく教材に関する議論

第8回 発表に基づく議論2

各自・グループの発表に基づく教材に関する議論

第9回 発表に基づく議論3

各自・グループの発表に基づく教材に関する議論

第10回 教材の開発1

各自・グループの設定したテーマに関する教材の開発

第11回 教材の開発2

各自・グループの設定したテーマに関する教材の開発

第12回 教材の開発3

各自・グループの設定したテーマに関する教材の開発

第13回 教材の発表1

各自・グループの設定したテーマに関する教材の発表

第14回 教材の発表2

各自・グループの設定したテーマに関する教材の発表

第15回 発表・講評

他者から発表による気付きを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

安富 信  
-----

<授業の方法>

原則対面授業。テレビやラジオのニュース聞いて、分析。意見を交わす。論文の書き方を2年生から始める。調査・研究のための基本を学ぶ

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

ディプロマ・ポリシー2-2（現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる）を身に付ける。本ゼミでは、災害情報の基礎を徹底的に学ぶ。そのためには、まず情報とは何かを理解する。とかく情報戦争に弱いとされる我が国に於いて、なぜ、情報が苦手なのか？ また、災害情報が命を守る情報だということをしっかり学んでほしい。そのためには、新聞を読み、テレビのニュースをチェックし、ラジオを聴くことを習慣づける。また、授業中はずっと文章を書いている状態にする。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに活かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

少なくとも毎日、新聞を10分は読む習慣を身に着ける。それをもとにニュース感覚を磨く。

<授業のキーワード>

情報

<授業の進め方>

学生の理解度をじっくり見ながら、授業を進めたい。何度も何度も振り返りながら、理解度を深めたい。

<履修するにあたって>

新聞をしっかり読める学生を育てる。時には災害現場を訪れて肌で感じた学習をする。

<授業時間外に必要な学修>

新聞をしっかり読み、テレビのニュースに関心を持ち、ラジオを聴くなど、最低2時間の予習、復習をする。

<提出課題など>

なし

<成績評価方法・基準>

100%レポート課題による

<授業計画>

第1回 ガイダンス

半年間の授業の進め方を説明する。

第2回 情報とは

情報の基礎について学ぶ

第3回 情報とは

情報の種類について学ぶ

第4回 災害情報とは

災害情報の基礎を学ぶ

第5回 災害情報とは

災害情報の基礎を学ぶ

第6回 災害情報とは

誰のために何のために伝えるのか？電車内のアナウンスから考える

第7回 災害情報とは、まとめと振り返り

その

第8回 災害情報発信のスキル

車内放送のスキルを上げる。どう伝えたら、乗客に正しく伝わるか

第9回 災害情報発信のスキルを上げるために

情報発信が苦手な公務員の世界から

第10回 災害情報発信のスキルを上げるために

記者会見の難しさ

第11回 情報と住民

誰のための情報か

第12回 情報と住民

誰のための情報か

第13回 情報と住民

誰のための情報か

第14回 情報と住民、まとめと振り返り

災害現場で学ぶ、情報の大切さ

第15回 振り返り

2年次前期の振り返りと後期に向けて

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

岩本 茂樹

-----  
<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本ゼミナールは、現代社会学科専門教育科目の専門基礎科目に位置づけられており、「現代社会基礎実習D」の実習に向けた基礎知識を養うことを目的とする一方、日常の風景のフィールドワークを生かし、現代社会学科ディプロマ・ポリシー2の「現代社会における人びとの暮らし、及び文化の形成に係る諸問題を社会学的に発見・把握する」とも関連させ、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができる社会人の育成を目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、よグループ学習指導の経験を生かした演習を行うものである。

<到達目標>

- ・現代社会を捉えるための基礎的な知識と手法を学ぶ
- ・理論やデータを読み取る知識を身につける
- ・仮説の導き方、そして実際の実習から得たデータ分析の解読と報告書の作成力を身につける

<授業のキーワード>

仮説、質的調査、考現学、デートスポット

<授業の進め方>

グループに分かれて議論しながら、プレゼンテーションに向けての学習、ならびに実際の実習を中心として授業を進める。

なお、対面の演習授業ですが、新型コロナウイルスの状況でオンラインの授業となった場合、Zoomミーティング参加は以下のものです。

<https://zoom.us/j/2671218210?pwd=Mkpnc2MzYnQyOHdCNGRZd3Y1TW5Qdz09>

ミーティングID: 267 121 8210

パスコード: 083349

<履修するにあたって>

現代社会基礎実習D(岩本担当)と連動するため、履修登録を間違えないようにすること

<授業時間外に必要な学修>

「現代社会基礎実習D」での積極的な調査と、その実習に向けた事前・事後の学習が必要である。(週4時間程度の学習研究が必要)

<提出課題など>

・各自のテーマ、グループでのテーマごとに調べたことを発表、ならびにレポートを提出する

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加（意見、グループ内での役割遂行など）40%、プレゼンテーション40%、レポート20%で評価を行う。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本ゼミナールの目的と内容、ならに連動する現代社会基礎実習Dとの関連と、スケジュールについて説明を受ける

第2回 モニュメントについて

個人的なモニュメントを、その背後にある社会、ならびに自分史とを絡ませて考える。

第3回 ノエビアスタジアム神戸の事前学習

本学とパートナーシップを結成しているヴィッセル神戸について学ぶ。

第4回 ノエビアスタジアム神戸のフィールドワーク

ヴィッセル神戸の試合をノエビアスタジアムに行き、フィールド調査を行う。

第5回 フィールドワークの発表

サッカー会場のフィールドワークの発表、及び議論から質的調査の初歩的手法を身につける。

第6回 観光都市神戸の事前学習(1)

観光都市神戸のガイドブックの収集とその内容についてグループごとに検討する。

第7回 観光都市神戸の事前実習(2)

グループごとに、神戸の観光スポットについて、ネット検索を行い、スポットごとの評価を分析する。

第8回 六甲を中心とする神戸フィールドワーク

ゼミ全体で六甲を中心とする神戸フィールドワークに出かけ、グループごとの視点で調査活動を実施する。

第9回 神戸フィールドワークの報告会

六甲を中心とする神戸フィールドワークから得たこと、また今後の調査に向けた反省の意見交換と報告会を行う。

第10回 魅力的な神戸の観光スポットとは

各自が持つ神戸の魅力スポットとガイドブックの評価、そして実際にフィールドワークしたことを比較検討する。

第11回 神戸市内のデートスポットについて

デートスポットになる条件を満たしている神戸市内の場所を探る。

第12回 神戸市内の理想のデートコースとは

グループに分かれて、理想のデートコースを練り、クラスで提案するための資料集めとプレゼンテーションの準備をする。

第13回 デートコースのプレゼンテーションに向けて

理想のデートコースのプレゼンテーションに向け、各グループごとにパワーポイントなどの作成作業等を完成させるとともに、発表での役割分担を決める。

第14回 理想の神戸市内デートスポットプレゼンテーション会

実習授業と連動させて、グループ発表を行うとともに、質疑応答を行う。

第15回 グループ発表の反省会

グループ発表会の優秀グループを選ぶとともに、その理由について意見交換をすることを通して、ゼミナールの授業全体について反省をし、今後の研究に向けた意識を高め合う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

中野 雅至

-----  
< 授業の方法 >

演習

一回目、二回目の授業については、別途、マナバに、そのやり方について提示しますので、随時、マナバをチェックしてください

連絡先は [nakano@css.kobegakuin.ac.jp](mailto:nakano@css.kobegakuin.ac.jp)

特別警報（すべての特別警報）または暴風発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

< 授業の目的 >

本ゼミナールは、現代社会学科の専門基礎科目に位置づけられるとともに、「現代社会実習C」の実習に向けた基礎知識を養うことを目的としたものである。

なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

< 到達目標 >

現代社会に関する基礎的な知識を習得する

仕事に関する現実を考える力を養う

< 授業のキーワード >

仕事、現実と理想

< 授業の進め方 >

教員と学生の議論・実習などを中心にする

< 授業時間外に必要な学修 >

予習1時間、復習1時間を行うこと

< 提出課題など >

授業の都度に指定する

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方などについて解説する

第2回 労働問題について(1)

現代日本にはどのような労働問題があるかを討議する

第3回 労働問題について(2)

各グループに分かれて労働問題を議論する

第4回 労働問題について(3)

各グループで発表する労働問題の資料を集めるなどの作業を行う

第5回 労働問題についてのとりまとめ

各グループでプレゼンのための資料作成を行う

第6回 グループ発表

各グループごとに発表を行う

第7回 グループ発表の振り返りと反省会

グループ発表の反省点などについてみんなで議論する

第8回 マスコミの果たす役割(1)

マスコミが果たす役割について議論する

第9回 マスコミの果たす役割(2)

マスコミの仕事内容について議論する

第10回 マスコミの果たす役割(3)

マスコミの果たす役割・仕事内容についてグループに分れ議論する

第11回 マスコミの果たす役割についてのとりまとめ(1)

グループ発表のための資料集めなどの作業を行う

第12回 マスコミの果たす役割についてのとりまとめ(2)

各グループ毎に発表を行う

第13回 ゼミ討論

労働問題やマスコミの役割などから一つトピックを選びゼミ全体で議論する

第14回 プレゼンや資料の集め方について

プレゼンや資料の集め方でどういう苦労をしたかななどを議論しあう

第15回 グループ発表の反省会

グループ発表の反省会を行う

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

菊川 裕幸  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部DP(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握およびその解決策の探求と実践に準拠し、応用的な社会調査やフィールドワークの方法について学び、具体的な地域との関わ

り方を習得することを目的とする。また、学びをもとに、実際のフィールドワークも行う予定である。担当教員は、これまで兵庫県内の教育職及び教育行政に約10年間携わってきた実務経験のある教員である。これらの経験を活かし、実践的な講義を行う。

< 到達目標 >

兵庫県内で実践されている様々な地域づくりに関連する先行研究や事例を調査し、その中から、社会調査の方法やフィールドワークの実施の手順や方法を考え、適切な方法を構築できる能力を身につける(知識・態度)。また、実際にその手順実行のために必要なプレゼンテーションや必要な協力体制等の構築の方法(コミュニケーション能力、渉外能力等)を身につけ、実践できるようになる(技能)。

< 授業のキーワード >

持続可能な地域づくり、地域活性化、社会調査、フィールドワーク

< 授業の進め方 >

受講生を複数の班に分け、グループワークを基本としながら、様々な情報収集を行い、まとめたものを適宜発表する。必要に応じてレポート等を作成したり、外部講師とのディスカッションを行う。

< 履修するにあたって >

必要に応じてフィールドワークの実践を行う場合がある。自主的に学び、自発的に行動できる姿勢を求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

この科目では、地域研究を主とするため、事前学習として先行研究や事例等の調査を約1時間、事後学習として、講義で得た知識や技術のまとめ、発表資料作成等に約1時間を要する。

< 提出課題など >

教員が指定したテーマでのショートレポートの作成(3回程度)、フィールドワークのレポート、発表資料の提出などを求める。

< 成績評価方法・基準 >

ショートレポートに対する評価30%、フィールドワークのレポート30%、発表資料等の提出物20%、プレゼンテーション能力、質疑応答などのコミュニケーション能力20%を基準とし、総合的に評価する。

< 参考図書 >

寛 裕介『持続可能な地域のつくり方』英治出版2021年

< 授業計画 >

第1回 講義ガイダンス

担当教員の自己紹介、授業の進め方に関する説明を行う。

第2回 文献調査の方法

兵庫県内の地域づくりの取り組み事例や先行研究について、文献調査を行う。文献調査の方法や、論文の内容の理解(社会調査やフィールドワークの方法)ができるように、読み取りを行う。(事後学習として、1時間程度いくつか事例の調査を実施する。)

### 第3回 文献調査の方法

第2回の講義を踏まえて、論文もしくは事例報告1本程度を、まとめて発表する。その際に、今後の自身の調査研究にどのような応用ができるのかなどの視点も盛り込み、教員や他の生徒とディスカッションを行う。(事後学習として、1時間程度でショートレポートを作成する。)

### 第4回 持続可能な地域のつくり方

持続可能な地域のつくり方について、参考図書を用いながら、教員のこれまでの取り組み事例と併せて紹介する。地方創成カレッジやSDGs、ローカルSDGsについて学ぶ。(事前、事後学習として地方創成カレッジについて1時間程度概要を理解しておく)

### 第5回 持続可能な地域のつくり方

第4回の講義を踏まえて、自身が地域づくりを実践したいと考える地域について調査し、地域の課題や解決すべき問題点、必要な調査方法等についてまとめる。(事後学習として、1時間程度まとめた内容のショートレポートを作成する。)

### 第6回 外部講師と情報交換

地域づくりに関する実務経験や実績のある外部講師を招聘し、フィールドワークや地域づくりの疑問点や課題点などを共有し、ディスカッションを行う。

### 第7回 フィールドワーク実践

丹波市、丹波篠山市、三田市等を中心に、フィールドワークを行う。これまでの講義の学びを活かし、地域の特色や課題を抽出できるように調査を行う。

### 第8回 フィールドワーク実践

丹波市、丹波篠山市、三田市等を中心に、フィールドワークを行う。これまでの講義の学びを活かし、地域の特色や課題を抽出できるように調査を行う。

### 第9回 フィールドワークの振り返り

フィールドワークで得た知見をもとに振り返りを行う。

第10回?12回のプレゼンテーション資料の作成につながるようにグループディスカッションを行う。

### 第10回 フィールドワークのまとめ

第9回でディスカッションを行った内容をもとに、フィールドワークのまとめを作成する。いくつかのテーマを設定し、地域の特色、課題、解決策等を中心にまとめる。

### 第11回 フィールドワークのまとめ

第10回でディスカッションを行った内容をもとに、フィールドワークのまとめを作成する。いくつかのテーマを設定し、地域の特色、課題、解決策等を中心にまとめる。

第12回 フィールドワークのまとめ発表、外部講師との意見交換

第10回?11回でまとめた内容を発表する。その際、外部講師を招聘し、実践家の立場から、発表内容について助言や評価を得る。各グループ、教員間においても積極的なディスカッションを展開する。

### 第13回 応用的な研究の方法

再度、文献を調査し、論文や事例研究としての調査方法

やまとめ方、論文の作成方法などについて学ぶ。質的研究や量的研究の違いを知る。

### 第14回 応用的な研究の方法

再度、文献を調査し、論文や事例研究としての調査方法やまとめ方、論文の作成方法などについて学ぶ。統計処理の方法やアンケートの作成方法について学ぶ。

### 第15回 授業の振り返り

これまでの授業を振り返り、ゼミナールにつなげる。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

松田 ヒロ子

-----  
<授業の方法>

演習

遠隔授業の際のZOOM?とパスワードはマナバのコースニュースに掲載しています。

<授業の目的>

この授業は、香川県小豆島を事例に近年の地方社会が直面する課題に対する理解を深めるとともに、地域活性化事業の現状について学びます。特にUターン、Iターン移住の現状を学び、移住者が地域社会で担う役割について考えます。

本科目は、現代社会学部のDPが示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、現代社会における諸課題の発見、把握及びその解決策の探求と実践能力を養うことを目指します。

<到達目標>

・小豆島を事例に、日本の地方社会が直面する様々な社会問題の現状について説明できる。

・小豆島を事例に、日本の地方社会が直面する様々な社会問題の原因を分析できる。

・小豆島の歴史や伝統、文化に関心をもち、自らそれについて調べ、結果を発表することができる。

・ライフヒストリー調査の理論と方法を理解し、みずからそれを実践できる。

<授業の進め方>

ワークショップ形式で進めます。

<授業時間外に必要な学修>

予習と復習合わせて2時間程度。

<提出課題など>

課題へのフィードバックは授業中に行います。

<成績評価方法・基準>

授業への参加(50%)、ライフヒストリー調査のまとめなどの課題(30%)、プレゼンテーション(20%)

<授業計画>

第1回 導入

授業の進め方について説明します。

## 第2回 小豆島の歴史と文化

小豆島の歴史や伝統文化について学びます。

## 第3回 小豆島の社会と経済

小豆島の産業や社会構造について学びます。

## 第4回 小豆島の現状と課題（1）

過疎化や高齢化といった小豆島の住民が直面している課題について学びます。

## 第5回 小豆島の現状と課題（2）

過疎化や高齢化といった小豆島の住民が直面している課題について学びます。

## 第6回 小豆島の地域活性化事業（1）

小豆島で行われている地域活性化事業の現状について学びます。

## 第7回 小豆島の地域活性化事業（2）

小豆島で行われている地域活性化事業の現状について学びます。

## 第8回 ライフ・ヒストリー調査法

ライフ・ヒストリー調査法について学びます。

## 第9回 ライフヒストリー調査の実践

ライフヒストリー調査を実施するための準備をします。

## 第10回 ライフヒストリー調査

小豆島で地域活性化事業を実践している住民にライフヒストリー調査を行います。

## 第11回 ライフヒストリー調査のまとめ

調査で得られたデータをまとめます。

## 第12回 調査報告会

ライフヒストリー調査で得られたデータと分析結果を発表します。

## 第13回 小豆島の地域活性化に向けて（1）

小豆島の地域活性化事業の今後のあり方について議論します。

## 第14回 小豆島の地域活性化に向けて（2）

小豆島の地域活性化の今後について、小豆島の土庄町役場の職員の方々と意見交換します。

## 第15回 ふりかえり

これまでの授業で学んだことについてそれぞれ発表し、意見交換をします。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

梅川 由紀

### < 授業の方法 >

演習および実習形式で行います。

### < 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」「思考力・判断

力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業のテーマは「ごみから大学生活をよむ」とします。具体的には「ごみ、環境問題、地域社会、SDGs、大学生とライフスタイル、若者と現代社会」などの問題を扱います。テーマに関してグループで下調べをしたり、テーマに関連する人々へのインタビューや、学内・学外・関連施設等でフィールドワークを行い、現状や課題を把握します。そのうえで自分の意見を整理し、人に伝えられるようになることを目指します。従って本科目は学内・外での実習を伴う、実践的教育から構成される授業科目です。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。より実践的なアドバイスをを行うことが可能です。

### < 到達目標 >

1. テーマに沿った、適切なインタビューやフィールドワークができるようになること。
2. テーマに沿って、グループで建設的なディスカッションを行うことができるようになること。
3. 自分の意見を整理し、人に伝えられるようになること。
4. 分かったことや意見を、分かりやすくまとめることができるようになること。

### < 授業のキーワード >

ごみ、環境問題、地域社会、SDGs、大学生とライフスタイル、若者と現代社会、インタビュー、フィールドワーク

### < 授業の進め方 >

授業は演習および実習形式で行います。具体的な作業は数名のグループ単位で行います。グループごとに先行研究の検討やインタビュー項目の検討、フィールドワークの準備を行い、クラス全体でコメントしあいます。インタビュー、フィールドワークの機会は担当教員が設定し、クラス全体で一斉に行います。これらを踏まえグループごとに分析結果をまとめ、最終発表してもらいます。

### < 履修するにあたって >

現代社会基礎実習（梅川）と連続した授業です。ゼミナール（梅川）と現代社会基礎実習（梅川）の両方を受講してください。グループワークがメインとなりますので、授業への出席は必須です。なおインタビューやフィールドワークの日程は、先方の都合により前後する可能性があります。詳細は授業時に伝えます。

### < 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。授業後、次回

授業までに発表資料作成、課題の実施などの作業が発生します。

< 提出課題など >

1. 各回の授業時に以下のものを発表 / 提出してもらいます。
  - ・ 授業時・授業時間外に調べてきたことを発表する / 発表資料を提出する。
  - ・ 授業時・授業時間外に実施した課題を提出する。
2. 15回目の授業で「最終発表」をしてもらいます。
3. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加）：30%、各回の授業での発表内容・提出課題：30%、最終発表：40%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方、テーマ、その主旨について説明します。またゼミ生同士で自己紹介を行います。

第2回 社会調査に関するワークショップ

ワークショップを通して、社会調査を行うことの面白さについて再確認します。

第3回 学内フィールドワーク

キャンパス内の「ごみマップ」を作成します。

第4回 通学路・街中フィールドワーク

通学路・街中の「ごみマップ」を作成します。

第5回 学内・通学路・街中フィールドワークのまとめ

「ごみマップ」から見えるものを考察します。また現代社会のごみをめぐる状況について調査します。

第6回 学内インタビュー

大学内でごみに関連する仕事を担当する人々にインタビューを行います。

第7回 学内インタビュー

前回とは異なる大学内でごみに関連する仕事を担当する人々にインタビューを行います。

第8回 学外インタビュー

大学外でごみに関連する仕事を担当する人々にインタビューを行います。

第9回 ごみ関連施設等へのフィールドワーク

ごみ関連施設等へのフィールドワークを通して、社会的な仕組みや現状を理解します。

第10回 先行研究の検討

これまでのインタビューやフィールドワークを通して分かったことを整理します。そのうえで先行研究について調べ、理解を深めます。

第11回 提言の検討

これまで得た情報や知識をもとに、ごみに関する提言を検討します。

第12回 提言の検討

前回に引き続き、提言の検討を行います。

第13回 最終発表準備

最終発表に向けて、提言をパワーポイントにまとめます。

第14回 最終発表準備

前回に引き続き、パワーポイントの作成を行います。

第15回 最終発表

グループごとに提言を発表してもらいます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

山本 努  
-----

< 授業の方法 >

テキストを使って演習をおこないます。受講生の皆さんは指定されたテキストの精読、質疑応答などを求められます。

・ manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・ manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

< 授業の目的 >

DP (ディプロマ・ポリシー) の「(1) 現代社会の多面的、総合的な理解、(2) 諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会調査の初歩を学ぶことを通して、社会学の基礎的概念や考え方を身につけます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域 (都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

< 到達目標 >

1. 社会学や社会調査の基本的考え方を理解できるようになる。2. 現代社会基礎実習に必要なフィールドワークの知識を習得する。

< 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

< 授業の進め方 >

・ 演習の予定です。

・ 授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。ゼミですから、学生の主体的参加が求められます。ゼミでの議論を楽しめるようになって下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ 事前事後学習各 2 時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも 1 冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

・ 参考図書は課題の提出に必要になります。詳細はmanabaに示します。

< 提出課題など >

・ manabaにて詳細を示します。

・ レポートなどの提出を求めますが、manabaで提出して下さい。

・ また、受講生からの質問や私から連絡もmanabaを使います。ただし、必要に応じて、メールでも可です。

山本メール <yamamoto@css.kobegakuin.ac.jp>

・ 必要に応じて、授業やmanabaでコメントします。

< 成績評価方法・基準 >

- ・ 課題の提出 ( 5 0 % )。
- ・ 授業中での質疑・報告 ( 5 0 % )。
- ・ 欠席が多い場合は単位は認定しません。

< テキスト >

後日指定

< 参考図書 >

加藤秀俊『社会学』中公新書

< 授業計画 >

第1回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 初歩の初歩 )。

ガイダンス

連絡はmanabaに出します。

以後の授業も含めて。

第2回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 初歩の初歩 )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第3回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 問を立てる )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第4回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 問を立てる )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第5回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 方法を選ぶ )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第6回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 方法を選ぶ )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第7回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 方法を選ぶ )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第8回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 調査の準備をする )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第9回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 調査の準備をする )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第10回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う ( 調査を実施する )。

1 , フィールド調査の方法を学び、 2 , 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第11回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う（調査を実施する）。

1, フィールド調査の方法を学び、2, 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第12回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う（得られた調査データを分析する）。

1, フィールド調査の方法を学び、2, 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第13回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う（得られた調査データを分析する）。

1, フィールド調査の方法を学び、2, 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第14回 フィールドリサーチの方法を学び、現代社会基礎実習の準備を行う（得られた調査データを分析する）。

1, フィールド調査の方法を学び、2, 対象地域の地域課題や地域情報を知る。

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

伊藤 亜都子  
-----

< 授業の方法 >

演習、フィールドワーク

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示す思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、を見につけることを目指す。

災害などのいざというとき、地域での助け合い（共助）はとても欠かせないものになっています。そして、災害時に助け合えるためには、普段の日常生活での地域づくりがとても大切です。

「地域」や「地域コミュニティ」に注目して、「災害に強いまちづくり」、「地域防災力の向上」、「復興まちづくり」、「地域活性化」、「地域社会での助け合い」などのテーマについて学びます。

< 到達目標 >

地域社会について理解を深めること、自分なりの研究テーマを持つこと、を目指します。

< 授業のキーワード >

地域防災、復興まちづくり、コミュニティ、共助

< 授業の進め方 >

自分たちでテキストを読んで勉強したり、資料を調べたり、まちを歩いたり、ヒアリングをしながら、災害時および日常時の地域社会について学びます。

学外に出かけることもあります。

対面授業および遠隔授業の併用。

< 授業時間外に必要な学修 >

地域調査に行く前の予習、調査に行ったあとのまとめ、など。

< 提出課題など >

調査報告書、プレゼンテーション、レポートなど。課題については、授業内で発表、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的・自主的な取り組み態度50%、調査報告書とプレゼンテーション30%、レポート20%。

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンスと自己紹介

半年間の授業の基本的な予定や進め方について説明します。そして、同じクラスのメンバーを知るために自己紹介などを行います。

第2回 ゼミ内ワークショップ

ワークショップ形式で、ゼミでの学習や活動としてやってみたいことについて意見を出し合います。

第3回 災害時の地域社会に関する調べ学習(1)

阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災および南海トラフ大地震などに関する資料を特定のテーマを持って調べ、発表の準備をします。

第4回 災害時の地域社会に関する調べ学習(2)

阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災および南海トラフ大地震などに関する資料を特定のテーマを持って調べ、中間報告とディスカッションを行います。

第5回 災害時の地域社会に関する調べ学習(3)

阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災および南海トラフ大地震などに関する資料を特定のテーマを持って調べ、プレゼンテーションとディスカッションを行います。

第6回 学外での地域防災学習(1)

阪神・淡路大震災から神戸の復興、まちの復興にかかわってきた方に対して、ヒアリングを行います。

第7回 学外での地域防災学習(2)

阪神・淡路大震災から神戸の復興、まちの復興にかかわってきた方に対して、引き続きヒアリングを行います。

第8回 地域防災学習のまとめ

地域防災学習のまとめ:調べたこと、感じたこと、聞いたことについてどのようにまとめるか話し合います。

第9回 地域活動の実践(1)

地域イベントを実際にお手伝いしながら、地域について学習します。

#### 第10回 地域活動の実践(2)

地域イベントを実際にお手伝いしながら、地域について学習します。

#### 第11回 地域活動のまとめ

実際に地域活動に参加して学んだこと、わかったことについてまとめます。

#### 第12回 調査レポート作成とプレゼンテーションの準備(1)

分担を決めて、調査レポートとプレゼンテーションの準備を行います。

#### 第13回 調査レポート作成とプレゼンテーションの準備(2)

調査レポートの仕上げと、プレゼンテーションの練習を行います

#### 第14回 成果発表会

調査のまとめについてプレゼンテーションを行います。

#### 第15回 ふりかえり

授業全体で行ったことを復習して全体をまとめた上で、後期からどのような学習態度、学習内容が重要であるかについて考えます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

江田 英里香  
-----

#### <授業の方法>

グループワーク、ディスカッション、調べ学習等演習形式の授業を行います。

#### <授業の目的>

国内外の様々な問題を取り上げて検討していきます。

持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標について取り上げ、それぞれの目標の背景にある社会問題について調べ、議論をしていきます。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連します。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

#### <到達目標>

国内外の社会の状況についての基礎的な情報を探る能力を身に付けることができる。

自分の言葉で、説明する能力を身に付けることができる。それに対する解決方法を考える能力を身に付けることができる。

他人とディスカッションをするなどコミュニケーション能力を身に付けることができる。

#### <授業のキーワード>

貧困、子ども、教育、国際協力、ボランティア、社会貢献

#### <授業の進め方>

講義以外に、ディスカッションやグループ学習を取り入れます。

#### <履修するにあたって>

授業時間以外の授業の振替があります。

#### <授業時間外に必要な学修>

インターネットのニュース、新聞、文献、インターネットの記事などで、事前・事後学習各1時間程度

#### <成績評価方法・基準>

授業への参加度(発言等) 30%

企画立案内容 30%

プレゼンテーションおよび実践 40%

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

全15回の授業について説明します。

##### 第2回 「SDGs」とは何か?

SDGsについて概要を説明します。

##### 第3回 目標1 貧困

目標1の貧困について発表・議論をします。

##### 第4回 目標2 飢餓

目標2の飢餓について発表・議論をします。

##### 第5回 目標3 健康と福祉

目標3の健康と福祉について発表・議論をします。

##### 第6回 目標4 教育

目標4の教育について発表・議論をします。

##### 第7回 目標5 ジェンダー平等

目標5のジェンダー平等について発表・議論をします。

##### 第8回 目標6 安全な水とトイレ

目標6の安全な水とトイレについて発表・議論をします。

##### 第9回 目標7 エネルギー

目標8 生きがいも経済成長も

目標7・8について発表・議論をします。

##### 第10回 目標9 産業と技術革新

目標10 不平等

目標9・10について発表・議論をします。

##### 第11回 目標11 まちづくり

目標12 作る責任使う責任

目標11・12について発表・議論をします。

##### 第12回 目標13 気候変動

目標13の気候変動について発表・議論をします。

##### 第13回 目標14 海の豊かさ

目標15 森の豊かさ

目標14・15について発表・議論をします。

##### 第14回 目標16 平和と公正

目標17 パートナリシップ

目標16・17について発表・議論をします。

## 第15回 企画立案

自分たちができることを企画立案します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

佐伯 琢磨

-----  
< 授業の方法 >

ゼミナールを通して、防災に関する専門知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、  
あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・  
判断力・表現力等の能力)に関連する。

「防災とは何か」を考える際に、対象となる「災害」の  
内容をまず把握する。一般的に「災害」は、自然災害、  
事故災害、社会的被害などに区分される。

ゼミナールではゼミナールで選択し調査した自然災  
害とは異なる自然災害について選択・調査し、発生から  
被害拡大までの時系列を把握することを目的とする。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング  
業界における実務経験のある教員である。業務経験にお  
ける実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

各自が人前で発表することを経験し、できるだけ平常心  
で発表できるようなレベルになることを目標とする。

< 授業のキーワード >

自然災害発生メカニズムの理解

< 授業の進め方 >

ゼミナールではゼミナールで選択し調査した自然災  
害とは異なる自然災害について選択・調査し、以下の3  
段階に分けて他のゼミ生を前で発表する。

STEP 1：自然災害が社会に対して、どのような影響を及  
ぼしたか

STEP 2：何を学ぶべきか

STEP 3：影響度合いを無くす、または軽減するためには  
何をすべきか

また、発表された内容について、質疑応答を行う。

なお、事前・事後学習各1時間程度の授業時間外の自習  
を課し、授業の中で、回答例等を示し解説・講評並びに  
フィードバックやコメントを行う。

< 履修するにあたって >

将来、社会に出た際に役立つ内容と思われるので、積極  
的に参加すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自が興味を持つ自然災害について、調査する。

< 提出課題など >

発表時に使用したファイルなど。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミの参加を前提とし、各自が「災害」に関して注目す  
る事象を抽出し、それをゼミで発表することに対して  
60%、ゼミにおける討議など参加度合いを40%で評価す  
る。

< テキスト >

適宜、配布する。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミナール の進め方について説明する。

第2回 自然災害とは(1)

ゼミナール で紹介した地震災害の事例に加え、さらな  
る事例を紹介する。

第3回 自然災害とは(2)

ゼミナール で紹介した風水害・土砂災害の事例に加え、  
さらなる事例を紹介する。

第4回 テーマの選択

各自の調査対象とする事象を決める。

第5回 テーマ発表(1-1)および討議

過去の自然災害(地震災害)の事例の調査結果を報告し、  
討議する。

第6回 テーマ発表(1-2)および討議

過去の自然災害(風水害)の事例の調査結果を報告し、  
討議する。

第7回 テーマ発表(1-3)および討議

過去の自然災害(土砂災害)の事例の調査結果を報告し、  
討議する。

第8回 中間のまとめ

第5回～第7回までの発表について、コメントする。

第9回 テーマ発表(2-1)および討議

過去の自然災害(地震災害)の事例から何を学ぶかを報  
告し、討議する。

第10回 テーマ発表(2-2)および討議

過去の自然災害(風水害)の事例から何を学ぶかを報  
告し、討議する。

第11回 テーマ発表(2-3)および討議

過去の自然災害(土砂災害)の事例から何を学ぶかを報  
告し、討議する。

第12回 テーマ発表(3-1)および討議

過去の自然災害(地震災害)の事例を無くす、または影  
響を軽減するにはどうすべきかを討議する。

第13回 テーマ発表(3-2)および討議

過去の自然災害(風水害)の事例を無くす、または影  
響を軽減するにはどうすべきかを討議する。

第14回 テーマ発表(3-3)および討議

過去の自然災害(土砂災害)の事例を無くす、または影

響を軽減するにはどうすべきかを討議する。

第15回 全体のふりかえり

第9回～第14回までの発表について、コメントする。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

中田 敬司

-----  
< 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。本ゼミナールでは、ゼミナールで学んだ内容を基本に、具体的なコミュニケーション能力向上をめざしディベート手法を取り入れ実践する。基礎的なディベート知識を得たうえで、論題を設定し、試合ができるように準備していく。主張には、論拠や証拠が必要であることを認識し、調査によりエビデンスの収集やその解釈を考察する。立論を作成し、全体の構成を検討しプレゼンテーション能力を向上させる。また、試合中の尋問により質問スキルやロジックな考え方を身につける。

なおこの授業の担当者は10年以上ディベート選手として、また企業・団体のコミュニケーション・ディベート研修に関わった実務経験のある教員である。また、実践的教育から構成される科目である。よって実際の現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

< 到達目標 >

- 1 トレーニングによる傾聴力向上
- 2 テーマに基づく資料検索力の向上
- 3 資料・文献等からの情報の分析力・洞察力の向上
- 4 ディベートの基本的スタイルについて理解できる
- 5 立論構成を理解し、作成できる。
- 6 反駁・争点総括について意味を理解し実施できる
- 7 ディベートの試合に参加し、主張や傾聴の能力を向上させる

< 授業のキーワード >

ディベート プレゼンテーション 傾聴 エビデンス  
ロジック

< 授業の進め方 >

講義とともに論題設定後はグループでのディスカッションおよびチーム作業を実施する。またディベートの試合を実施する。

< 履修するにあたって >

新聞や文献など読み込む力をつけていくように

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習に各1時間程度。

< 提出課題など >

レポート、資料収集について課題。レポートの内容等については、授業の中でモデル事例等を示し講評を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

課題レポート 70% 資料・文献検索 30%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本ゼミナールの目標、授業の進め方等

第2回 プレゼンテーションについて

プレゼンテーションスキルについて、構成・声のトーンや抑揚・繰り返し・強弱・パフォーマンス他

第3回 調査と分析

様々な調査方法と分析方法について調べる。文献検索、データ、アンケート、実験等

第4回 ディベートの基礎知識

ディベートとは何か、トールミングモデル(主張・論拠・証拠)について理解する。

第5回 ディベートの基礎知識

ディベート全体の流れを理解する。立論・反対尋問・反駁について理解する。

第6回 肯定側立論について

肯定側立論構成を理解する。基本哲学、言葉の定義、論点、エビデンスなどどのように立論に何が必要かを考えていく。

第7回 反対尋問と反駁

反対尋問の実施の仕方、反駁の方法と議論接合のポイントについて理解する。

第8回 エビデンス(証拠)と論拠

エビデンス(証拠)と論拠について検討する。エビデンスの収集の方法とその解釈について検討するとともにエビデンスカードの作成方法について理解する。

第9回 論題選定

ディベート大会開催に向けて論題を検討し、論題を決定する。論題選定の留意事項について理解する。

第10回 試合準備

肯定側立論を作成する。基本哲学、エビデンス、論点を検討する。また継続したエビデンス収集を実施する。

第11回 試合準備

肯定側立論を作成する。対戦に向けての論点防御想定、尋問想定を検討を実施し立論の精度を上げる。

第12回 模擬試合

ディベート本大会に実施される試合形式の前半部分を実

施する。スパーリングを実施し作成した立論の弱点や補強対策を実施する。また尋問のトレーニングを行う。

第13回 試合

ミニディベート、巴戦を実施しディベートを体験する。

第14回 試合

本試合形式で、巴戦を実施し、講評する。

第15回 学んだ内容の整理と確認

ディベートについて学んだことを整理、再確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

船木 伸江

-----  
< 授業の方法 >

演習 実技

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2（思考力・判断力を身につける）に関連する科目である。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、神戸の地に大きな被害が発生した。震災以降、各方面で防災について学ぶこと（防災教育）、備えることの必要性が重視されている。ゼミナールでは、「防災教育」をテーマに、どのようにしたら防災に関心を持つ人が増えるか（意識啓発）、どのようにしたら楽しく防災を学べるか（防災教育の手法）、どのようにしたら防災の重要性を分かってもらえるか（伝え方）などについて学びを深めていく。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深め、学外での実習も含む実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

ゼミナールでは、実際に、防災教育の授業を小学校で行うための授業計画立案、授業・教材準備を行い、学校との打ち合わせを経て、防災教育授業を行う。その際に、資料収集、調査、語り部へのインタビューなども行っていく。また、学外での防災教育イベントへのボランティア参加を通じて、伝える力や防災教育についても学んでいく。

1. 阪神・淡路大震災を中心とした過去の災害についてについての勉強から、防災の基礎的知識をつける（知識）
2. 阪神・淡路大震災についての調べ学習、震災語り部の講話からより実践的な防災学習への学びを深め、次なる災害への解決法を考える力を養う。（知識、態度・習慣）
3. 習得した知識を小学生などに伝えることや、防災イベントへのボランティア参加により、防災への理解を深め、

プレゼンテーション能力を養う（態度・習慣、技能）

< 授業の進め方 >

学生が主体となり調査、プレゼンテーション形式で授業を構成する。学外での活動も行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に授業のテーマとなる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑、グループワーク、発表50%、レポート・課題提出50%

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

授業の流れを説明する。後期の授業を通じてどのような力をつけるか各自で課題設定をする。

第2回 防災教育について考える1

ゼミのテーマである防災教育についての理解を深める（全国の事例を知る）

第3回 防災教育について考える2

ゼミのテーマである防災教育についての理解を深める（被災地における防災教育について学ぶ）

第4回 防災教育について考える3

ゼミのテーマである防災教育についての理解を深める（防災教育のツールについて学ぶ）

第5回 語り部グループとの交流

震災の語り部と、災害の経験を伝えることについての意見交換を行う

第6回 防災教育出前授業準備1

防災教育の効果的な伝え方について学ぶ

第7回 防災教育出前授業準備2

防災教育授業で使う教材を準備する

第8回 防災教育出前授業準備3

防災教育授業の配布資料や全体構成について考える

第9回 語り部グループとの交流

経験のない世代にどのように震災の恐ろしさを伝えるか意見交換を行う

第10回 模擬授業1

授業を実際に行い、意見交換を経て授業の仕方を改善する

第11回 模擬授業2

授業を実際に行い、意見交換を経て授業の仕方を改善する

第12回 学外での防災教育イベント補助1

防災教育のイベントや授業をサポートしながら、より良い教育法を学ぶ

第13回 学外での防災教育イベント補助2

防災教育のイベントや授業をサポートしながら、より良い教育法を学ぶ

第14回 小学校での防災教育

防災教育を実際に行い、震災を語り継ぐ活動の一端を担う

第15回 防災教育出前授業の振り返り

出前授業活動を振り返り、今後の改善策を考える

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

前林 清和

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。SDGs・南海トラフ巨大地震に向けての研究を進めていく。ゼミナールで学びをもとに、SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査研究について、グループで考えて、実施していく。グループごとのテーマを決めることと、それを実践していく能力を身につけていく。学会発表を最終目的とする。

< 到達目標 >

1、SDGs・南海トラフ巨大地震に関する知識を得るとともに基礎研究能力および調査能力を身につけることができる。(知識・技能)

2、グループで活動する力が身に付く。(態度・習慣)

< 授業の進め方 >

レクチャーと討論およびグループ学習

< 授業時間外に必要な学修 >

グループでの課題は、時間外に作業をすること。事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

レポート提出とともに レポート内容について授業の中でフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度30%、レポート30%、作品およびプレゼンテーション40%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要、進め方、評価の方法

第2回 防災に関する調査研究について

調査の基礎

第3回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査の検討1

目的設定と項目の洗い出し

第4回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査の検討2

項目の選択と決定

第5回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査の検討3  
全体の構成

第6回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査の実施  
1

予備調査の実施

第7回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査の実施  
2

-----  
本調査の実施

第8回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する調査の実施  
3

本調査による結果の整理と分類

第9回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する論文作成 1

論文の構成の検討

第10回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する論文作成 2  
調査の分析の検討

第11回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する論文の作成  
3

結果の考察の検討

第12回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する論文発表  
1

発表原稿・資料の作成

第13回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する論文発表 2  
学会発表のリハーサル

第14回 SDGs・南海トラフ巨大地震に関する論文発表 3  
学会発表

第15回 研究の課題と展望

2年の活動の振り返りと3年次の研究の方針を話し合う

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

松山 雅洋

-----  
< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は現代社会学部のDPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度の習得に該当する。

阪神淡路大震災で災害の被害軽減には、自助・共助・公助のそれぞれの備えと連携の大切さを我々は学んだ。ゼ

ミナール では、地震・津波災害から命を守るをテーマに地域(自主防災組織)、企業、行政の防災への取り組みについて研究する。

この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防や危機管理部門での実務経験のある教員である。阪神淡路大震災や東日本大震災等の現場経験に言及しながら、より深い学びへとつなげていく。

<到達目標>

地域住民、企業、行政の減災への取り組みを理解する。ワークショップの進め方やプレゼンテーション能力を身につける。

読解力や社会常識を習得することができる。

<授業のキーワード>

消防、危機管理、自主防災組織、災害から命を守る。

<授業の進め方>

自分たちで文献や資料を集め学習し、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンを行う。

<履修するにあたって>

災害報道に関心を持ち、積極的に調べること。manabaの使用方法を確認しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習と事後のまとめ学習。

<提出課題など>

期末に課題レポートを実施する。manabaのレポートで講評する。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的・自主的な取り組み態度40%、発表30%、期末の課題レポート30%

<授業計画>

第1回 授業ガイダンス

授業の概要・進め方、評価の方法を説明する。自己紹介を行う。

第2回 研究方法等の検討

ゼミナールでの研究方法について話し合う。

第3回 文献調査の実施

グループ毎に文献調査により、行政、地域、企業の地震・津波対策をまとめる。

第4回 文献調査の発表

グループ毎に文献調査結果を発表し討議する。

第5回 現地調査 の事前学習

関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるか」等をグループで準備する。

第6回 現地調査

災害への備えについて、現地視察及びヒアリング等の調査を行う。

第7回 現地調査

災害への備えについて、現地視察及びヒアリング等の調査を行う。

第8回 現地調査 のまとめ

グループ毎に現地調査の結果をまとめる。

第9回 現地調査 の発表

グループ毎に現地調査の結果を発表し討議する。

第10回 現地調査 の事前学習

関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるか」等をグループで準備する。

第11回 現地調査

災害への備えについて、現地視察及びヒアリング等の調査を行う。

第12回 現地調査

災害への備えについて、現地視察及びヒアリング等の調査を行う。

第13回 現地調査 のまとめ

グループ毎に現地調査の結果をまとめる。

第14回 現地調査 の発表

グループ毎に現地調査の結果を発表し討議する。

第15回 総括

授業全体の要点を確認し、学んだことへの理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

水本 有香  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のDP2-2(思考力・判断力を身につける)に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。世界、開発途上国と呼ばれる国々、また自分たちに身近な日本、日本の地方、東日本大震災の被災地などそれぞれにおかれた状況を踏まえ、ゼミナールで得た世界と自分とのつながり、市民の社会貢献、国際貢献につながる実践的なワークショップを実施することで、さらに新たな知見を得ていく。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

<到達目標>

「持続可能な開発」、「多文化共生」、「多様性」、「市民参加」、「災害資料の保存」などのテーマを通じて各自およびグループ学習をおこない、理解を深めた上で実践する方法を考える。

<授業のキーワード>

開発教育、国際協力、国際理解、自然災害

<授業の進め方>

少人数のグループワーク、調べ学習を取り入れます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

毎回、授業中に意見交換や発表、グループで作成した成果物及びレポートの提出などを求めます。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献（45%）、レポート等（25%）、及び発表（30%）により評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の全体、自己紹介、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 テーマの検討

日本、世界を取り巻く状況を学ぶ。

第3回 フェアトレード

フェアトレードについて学ぶ。

第4回 フードマイレージ

フードマイレージについて学ぶ。

第5回 児童労働

児童労働について学ぶ。

第6回 フェアトレードへの批判

フェアトレードへの批判について学ぶ。

第7回 フェアトレード製品

フェアトレード製品について学ぶ。

第8回 講演会

フェアトレードの実践を行う方から体験談を聞く。

第9回 フェアトレードタウン

フェアトレードタウンについて学ぶ。

第10回 調査1

市場のフェアトレード製品について調査する。

第11回 調査2

市民に対してフェアトレード製品への意識調査を実施する。

第12回 分析

フェアトレードに関する調査結果を分析する。

第13回 検討

新たなフェアトレード製品について検討する。

第14回 提案

新たなフェアトレード製品について提案する。

第15回 発表および講評

レポートや他者から発表による気付きを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

安富 信  
-----

< 授業の方法 >

原則対面授業とする、研究室で新聞を読んで、意見を交わす。3年から始まる現地調査・研究について事前に勉強する。

< 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2（現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる）を身に付ける。2年の前期で学んだ「情報」をさらに発展させ、災害情報をはじめとする危機管理情報について学習を深める。それは、クライシスコミュニケーションやアウトリーチといった表現でもあるが、自然災害だけでなく新型インフルエンザやエボラ熱といった感染症、テロ、飛行機や列車事故、果ては戦争に至るまでの極めて危機的な状況下での、政府や地方自治体の情報発信について学ぶ。よって、対象は自然災害に限らず、近年に起きた様々な危機管理事象に於いて、政府、企業、地方自治体、教育機関などの事例を研究する。読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

自らが地方自治体職員になったつもり、または企業の広報担当者になったつもりで、情報発信をする難しさや課題を理解する

< 授業のキーワード >

危機管理、情報発信、教訓

< 授業の進め方 >

2年次の前期と同じように、ゼミ生の理解度を確かめながら進める。人と防災未来センターで行われる、災害メモリアルアクションKOBÉの企画に積極的に参画したり、夏休み中の防災キャンプなどにも参加したりする。

< 履修するにあたって >

ニュース感覚を身に付け、プレゼン能力を磨いてほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

常にニュースに敏感たれ。最低2時間以上予習復習する。

< 提出課題など >

レポートを提出してもらい、評価付けして返却する。

< 成績評価方法・基準 >

プレゼン50%、レポート50%

< 授業計画 >

## 第1回 ガイダンス

本ゼミの授業の進め方と考え方を紹介する。

## 第2回 危機管理事象とは

一口に危機管理事象と言っても様々あるが、情報発信を必須とする危機管理事象を学ぶ。

## 第3回 危機管理事象とは

第2回に続いて、危機管理事象の説明

## 第4回 感染症 コロナ

新型コロナウイルス

## 第5回 感染症 コロナ

新型コロナウイルス

## 第6回 感染症 コロナ

新型コロナウイルス

## 第7回 感染症 エボラ熱

エボラ熱での対応、課題

## 第8回 感染症 サーズなど

サーズ騒動の対応と課題

## 第9回 記者会見

近年起きた事象での面白記者会見

## 第10回 記者会見

近年起きた事象での面白記者会見

## 第11回 記者会見

近年起きた事象での面白記者会見

## 第12回 記者発表

記者発表文を作ってみよう

## 第13回 記者発表

記者発表文を作ってみよう

## 第14回 記者発表

記者会見をやってみよう

## 第15回 振り返りと展望

2年次後期の振り返りと3年次への展望

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

菊川 裕幸  
-----

### < 授業の方法 >

講義、演習

### < 授業の目的 >

現代社会学科DP「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」に準拠し、本ゼミ活動として、農村的地域にある地域を訪問し、地域の特色（産業や地理的要件など）を調査し、地域と共に課題解決を図りたい。担当教員の主なフィールドは、兵庫県丹波篠山市、丹波市などの丹波地域であるが、その他、興味のある地域で活動を行いたい場合は、開拓することも可能である。いずれにしても、地域に入り、地域を知り、地域のために活動できるような素養を習得する。担当教員は丹波地域で5年以上の教育や教育行政に関わってきた実務家教員である。

### < 到達目標 >

必要に応じて、地域おこし協力隊や各地域で活躍する人材等を招聘してのディスカッションや、補助金獲得による新規プロジェクトの開始を目指す。そうした活動の中で、大学卒業後、地域の事を考え、地域のために活動できる人材となることを目指す。具体的には、行政職員との対話による施策提言や地域活性化プロジェクトの1つ以上の立案、実施を目標にする。

### < 授業のキーワード >

地域活性化、農村、中山間地、伝統的建造物群保存地区、農業教育

### < 授業の進め方 >

講義の場合は、卒業論文に必要な文献の調査方法やデータ解析について学び、先行文献の調査や輪読などを行う。演習の場合はフィールドに出向き、それぞれの設定したテーマや課題に沿って活動を実施する。

### < 履修するにあたって >

ゼミでは、地域を知り、地域に入り、地域で活動することが主軸である。その中で、積極的に地域の人と関わり、コミュニケーションをとることが求められる。場合によっては土日にフィールドワークを行うこともあるので、柔軟に活動に参加できる学生を求める。

### < 授業時間外に必要な学修 >

文献調査や先行事例等の十分な調査を事前、事後で1時間程度行う必要がある。

### < 提出課題など >

レポート、施策提言のためのレポート、各種コンテスト等へのエントリーシートなどを求める。

### < 成績評価方法・基準 >

提出課題やレポートの内容（30%）、フィールドワークやディスカッション等の積極性や発言内容（50%）、テーマ設定および課題解決に向けた取り組みの手法などの課題解決への意欲など（20%）を総合的に判断して評価を行う。

### < テキスト >

特に指定はしないが、農村的環境におけるフィールドワーク事例や調査方法等の先行研究を確認しておくことが望ましい。

### < 授業計画 >

第1回 イントロダクション、テーマ設定の方法について

各自の自己紹介やゼミの選択理由、行ってみたい活動などを発表し、共有する。また、教員のこれまでの研究や自己紹介も行う。

### 第2回 文献調査の方法

文献調査には多くの方法がある。ゼミナールで習得した知識や技術を応用し、自身の研究に必要な文献の探し方について学ぶ。

### 第3回 文献の解読と理解

第2回で検索した文献や興味のある文献について、ゼミ

内でいくつか取り上げ、その要約を行うことで、文献の解読と理解につなげる。

#### 第4回 調査対象地の理解

調査対象地の選定を行い、事前にできる限りで調査地の情報を収集する。人口や産業など、様々な統計からデータを読み解く。

#### 第5回 調査対象地の理解

実際にフィールドワークを行い、自身の目で見て、感じたことをまとめる。

#### 第6回 調査対象地の実際

第4回? 5回で得られた知見をもとに、データとの類似点や相違点を洗い出し、フィールドワークの必要性や地域住民へのヒアリングの重要性について学ぶ。

#### 第7回 研究方法の立案

卒業研究に向けて、研究方法や調査方法をまとめる。その際にグループディスカッションや教員との積極的なコミュニケーションを行い、研究活動が自走できるように準備を行う。

#### 第8回 研究方法の立案

第7回よりも、さらに具体的な調査研究の手法を計画し、その妥当性についてグループや教員とディスカッションを行う。

#### 第9回 外部講師との意見交換

丹波篠山市で地域づくりの実務を行っている外部講師を招聘し、意見交換を行う。意見交換を通じて、地域の実態やニーズについて深く知る。

#### 第10回 外部講師との意見交換

丹波篠山市で地域づくりの実務を行っている外部講師を招聘し、意見交換を行う。自身が考えている研究テーマや地域の課題等について意見を伺い、研究の必要性や妥当性について考える。

#### 第11回 調査研究の手法

様々な地域研究の手法について、先行研究をもとにパターン化し、その方法を紹介する。

#### 第12回 調査研究の手法

第11回の講義を踏まえて、いくつかの課題解決策について、グループごとにロールプレイングを実施する。(例; 地域産業の活性化のためのアイデア出し等)

#### 第13回 研究テーマの設定に向けて

これまでの講義を基に、研究テーマを設定する。なぜそのテーマなのか、どのような目標を設定するのか等を明確にする。

#### 第14回 研究テーマの設定に向けて

第13回で設定したテーマについて、グループや教員とディスカッションを行い、その妥当性や方法に問題がないかを検討し、ブラッシュアップを行う。

#### 第15回 ゼミナールの振り返りとゼミナールに向けて

これまでのゼミ活動を振り返るとともに、ゼミナールにつなげるために、個々の課題の抽出や、知見の共有を

行う。

2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

岡崎 宏樹

< 授業の方法 >

演習。各自の研究をゼミで発表し、グループで課題に取り組む。

「6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合: 対面授業(演習)」

メールでの問い合わせ先: okazaki@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

文化を社会的に考察し主体的に分析する高度な能力を培う。テキストとしては、現代の日本文化に関する文献を使用する。発表者はレジユメを作成し、プレゼンテーションを行ない、特に、文化と消費社会の関係や日本文化の海外発信の課題に着目して議論する。これらの学習と並行し、各自が卒業論文のテーマ設定を行ない、先行研究を調査し文献研究を進める。

この授業の目的は、実践的教育から構成される授業科目である。現代社会学科のディプロマポリシーの1・2に深く関連する。

< 到達目標 >

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。プレゼンテーションや討論をおこなう基礎的能力を修得する。

< 授業のキーワード >

文化社会学、社会学理論

< 授業の進め方 >

個人研究およびグループワークで演習を進める。課題によっては個人による学習、資料作成、考察、報告を求める。資料の配布やレポートの提出などにmanabaを活用する。

< 履修するにあたって >

演習は休まず出席・参加するのが原則です。積極的に主体的な取り組みを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

プレゼンテーションのためのペーパーやパワーポイントの資料作成、聞き取り調査の準備やまとめ、レポート制作などに取り組む必要があります。事前・事後学習各2時間程度。

< 提出課題など >

発表のレジユメや期末レポートの提出が求められます。発表については授業内に講評し、レポートについては個人指導の時間にフィードバックをおこないます。

< 成績評価方法・基準 >

授業内の取り組み(資料作成・発表・討論)80%、期末

レポート20%

<テキスト>

使用しません。

<参考図書>

奥村隆編『はじまりの社会学 問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房

<授業計画>

#### 第1回 イントロダクション/ガイダンス

この演習の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しく説明し、相互の情報交換のためのグループワークを実施する。

#### 第2回 新聞を使ったワークショップ

新聞を活用したグループワークを実施する。新聞の記事内容を要約したり、複数の新聞記事を比較検討し、情報リテラシーを高める。

#### 第3回 文献講読実習(1)

文化と消費社会に関連した文献を精読し、課題について議論する。

#### 第4回 文献講読実習(2)

日本文化の海外発信に関する文献を精読し、課題について議論する。

#### 第5回 課題設定と情報検索

(1)グループで調査課題を設定する。(2)課題に関連した文献資料を収集する方法について学び、文献一覧表を作成する。

#### 第6回 グループワーク(1)

(1)テーマに関する文献資料の収集する。(2)収集した文献の内容をまとめる。

#### 第7回 グループワーク(2)

パワーポイント資料とレジюмеを作成する。

#### 第8回 プレゼンテーションの準備

(1)プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。(2)演習参加者に明確に伝えるための話し方のトレーニングをおこなう。

#### 第9回 プレゼンテーション

(1)プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。(2)演習参加者に明確に伝えるための話し方のトレーニングをおこなう。

#### 第10回 統計データ実習(1)

インターネット上に存在する社会統計をどのように活用するかを実習を通じて学ぶ。

#### 第11回 統計データ実習(2)

統計データの検索、ダウンロード、パワーポイント資料への活用方法を習得する。

#### 第12回 聞き取り調査(1)

グループでテーマを設定し、調査のための質問項目を作成する。

#### 第13回 聞き取り調査(2)

社会調査を実施し、結果をまとめて分析をおこなう。

#### 第14回 プレゼンテーション

調査の結果を発表し、課題について話し合う。

#### 第15回 振り返りと研究指導

半年間のゼミを振り返りのレポートを作成する。また各自の興味・関心にそくした研究を進めるには何が課題かを指導する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

都村 聞人  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)（現代社会における）諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基礎科目（ゼミナール）の後半の始まりに位置づけられ、卒業論文のための基礎を身につける段階にある。

ゼミナールでは、「カフェ」について社会学的に検討し、グループごとにフィールドワークを行う。問題設定、調査計画、調査、分析と考察、調査結果の報告を通じて、社会学的探究の基礎を実践的に理解する。また、卒業研究に関しては、各自の興味・関心のあるテーマを探り、受講生・教員と共有する。

<到達目標>

テーマに沿って、社会学的な問題意識を持つことができる。

社会学的な分析課題を設定できる。

フィールドで観察・調査することができる。

フィールドワークの結果を発表資料にまとめることができる。

フィールドワークの結果を発表できる。

フィールドワークの結果からさらに課題を見出すことができる。

興味・関心のあるテーマについて考察し、その考えを展開することができる。

興味・関心のあるテーマについて、報告することができる。

<授業のキーワード>

カフェ、サードプレイス、社会的孤立、居場所、フィールドワーク、卒業研究

<授業の進め方>

受講生各自の作業、発表、議論を中心に進める。

<履修するにあたって>

ゼミナールなので、積極的・主体的に取り組んで欲しい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、カフェに関するフィールドワークの情報を集め、文献を積極的に読みましょう（目安として1時間程度）。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

授業中の作業結果を提出してもらいます。  
（フィードバック：各自の作業結果に対してコメントを行い返却します。）

レポートを提出してもらいます。  
（フィードバック：各自のレポートに対してコメントを行い返却します。）

< 成績評価方法・基準 >

ゼミにおける報告（40%）

レポート・作業課題（50%）

ゼミにおける質疑応答（10%）

< テキスト >

配布資料により授業を行う。

< 参考図書 >

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨN

自己紹介、ゼミの進め方の説明など。

第2回 サードプレイスとは何か

サードプレイス論について説明し、事例を用いて考える。

第3回 社会的孤立と居場所

社会的孤立の議論を説明し、居場所について考える。

第4回 カフェフィールドワーク：個人発表の準備

カフェに関するフィールドワークの構想を個人で考え、企画書を書く。

第5回 カフェフィールドワーク：構想の個人発表

カフェに関するフィールドワークの構想を発表し、受講者・教員と関心を共有する。

第6回 カフェフィールドワーク：グループ分けとフィールドワークの構想

関心の近い者でグループを構成し、フィールドワークの構想を考える。

第7回 カフェフィールドワーク：フィールドワークの事前調査

フィールドワークの事前調査を行い、調査計画を立てる。

第8回 卒業研究：興味・関心のあるテーマを探してみよう

配布資料を利用して、受講生各自の興味・関心のあるテーマを探してみる。

第9回 卒業研究：興味・関心のあるテーマを探してみよう

受講生各自の興味・関心のあるテーマについてブレインストーミングを行う。

第10回 カフェフィールドワーク：フィールドワーク中間報告

フィールドワークの途中経過について報告しよう。

第11回 カフェフィールドワーク：グループ発表の準備  
グループ発表に向けて調査結果を整理しよう。

第12回 カフェフィールドワーク：グループ発表資料の作成

グループ発表資料を作成しよう。

第13回 カフェフィールドワーク：グループ発表（1）  
カフェに関するフィールドワークの結果報告をしよう（第1グループ）。

第14回 カフェフィールドワーク：グループ発表（2）  
カフェに関するフィールドワークの結果報告をしよう（第2グループ）。

第15回 カフェフィールドワーク：グループ発表（3）  
カフェに関するフィールドワークの結果報告をしよう（第3グループ）。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中野 雅至

-----  
< 授業の方法 >

演習

連作先はnakano@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目取扱いについて  
通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

< 授業の目的 >

この授業では日本の労働市場の現在とあるべき姿について考えるとともに、公務員制度が日本の労働市場の中でどのように位置づけられているかを考える  
なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。  
また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

< 到達目標 >

日本の労働市場に関する知識を得るとともに、それについて説明できる能力を培うことを目標にする

< 授業の進め方 >

個人発表とグループ発表を中心に議論しながら授業を進めていく

< 授業時間外に必要な学修 >

予習 1 時間、復習 1 時間を行うこと

< 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度 ( 50% )

各自のプレゼンテーション ( 50% )

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の進め方について解説する

第2回 輪読 ( 1 )

日本の労働市場に関する文献を読み議論を行う

第3回 輪読 ( 2 )

日本の労働市場に関する文献を読み議論を行う

第4回 輪読 ( 3 )

日本の労働市場に関する文献を読み議論を行う

第5回 輪読と議論

日本の労働市場に関して総括的な議論を行う

第6回 中間発表

ゼミ生各自が日本の労働市場について考えをプレゼンする

第7回 公務員制度について ( 1 )

日本の公務員制度と公務労働の在り方について文献を読み議論を行う

第8回 公務員制度について ( 2 )

日本の公務員制度と公務労働の在り方について文献を読み議論を行う

第9回 公務員制度について ( 3 )

日本の公務員制度と公務労働の在り方について文献を読み議論を行う

第10回 中間発表

ゼミ生各自が日本の公務労働について考えをプレゼンする

第11回 マスコミを巡る様々な問題について ( 1 )

日本のマスコミの特徴及びマスコミでの働き方に関する文献を読み議論を行う

第12回 マスコミを巡る様々な問題について ( 2 )

日本のマスコミの特徴及びマスコミでの働き方に関する文献を読み議論を行う

第13回 マスコミを巡る様々な問題について ( 3 )

日本のマスコミの特徴及びマスコミでの働き方に関する文献を読み議論を行う

第14回 中間発表

ゼミ生各自が日本のマスコミの在り方についてプレゼンを行う

第15回 授業のとりまとめ

授業で学んだことの復習を行う

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中村 恵

-----  
< 授業の方法 >

演習 ( 対面授業 )

< 授業の目的 >

企業経営とはなにか。そこにおける仕事、求められる技能、そして将来のキャリアはどのようなものか、どのようなものであるべきか。

本ゼミにおいては、こうした企業や組織の経営実態、仕事の内容と求められる技能やキャリア、そして労働条件と福利厚生との在り方などについて、

( 1 ) 各自のアルバイト経験の報告を通じた仕事分析

( 2 ) 複数の企業訪問及び社会人へのインタビュー調査を適宜行いながら、主にグループワークやディスカッションを通じて学びを深める。

また、

( 3 ) 企業内の実態について記した文献、報告書

( 4 ) 統計データ資料

( 5 ) ビデオ映像

( 6 ) 教員作成資料

などを適宜参考にするほか、企業経営分析の方法については、教員が独自作成・編集した簿記関係教材を使用しながらゼミ合宿等の中で集中的に学ぶ。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成する。

< 到達目標 >

・企業の組織と従業員構成について法的な観点から解説をすることができる。

・日本の企業内の仕事とキャリアの実態について説明することができる

・日本の労働市場の実態について、統計を示して説明することができる

・企業経営を会計の観点から観察および分析することができる

< 授業の進め方 >

主に教員作成の資料及び学生間のヒアリング調査に基づきながら、グループワークやディスカッションを通じて学びを深める。

企業経営分析の方法については、教員が独自作成・編集した簿記関係教材を使用しながらゼミ合宿等の中で集中的に学ぶ。

< 授業時間外に必要な学修 >

文献の探索・講読、予習・復習及びレジュメ作成などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

学生が作成したエッセイ等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上あるいは口頭にてコメント等のフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

ゼミでの報告内容(30%)・提出レポート(30%)、ディスカッションへの貢献度(40%)により評価する。

<授業計画>

第1回～第2回 仕事と労働実態把握 - 導入(1)

ゼミ生のアルバイト経験を相互に探索することが、仕事とキャリアを考える上において持つ意味を理解する。その導入として、組織がどのような仕事から成り立っているかを、でディスカッションしながら考える。

第3回～第4回 仕事と労働実態把握 - 導入(2)

アルバイト経験に関するヒアリング項目を、教員の指示に従いながらゼミ全体で考える。

第5回～第6回 アルバイト経験のヒアリング調査

前回までに考えたヒアリング項目に従って、4～5名のグループにおいてそれぞれお互いにアルバイト先の概要、仕事の内容、正社員の仕事と非正社員の仕事の分担、仕事において最も重要な技能などについてヒアリングしよう。

第7回～第8回 ヒアリング結果の中間発表

前回までに行ったヒアリング結果に基づき、各グループの中間発表を行う。その中で不足しているヒアリング項目を抽出し、ゼミ全体で確認する。

第9回～第10回 アルバイト経験の再ヒアリング調査

前回までに発見された不足したヒアリング項目につき、各グループで再ヒアリングを行う。

第11回～第13回 ヒアリング結果の発表

今までのヒアリング結果を各自が報告し、教員がコメントを行う。

第14回～第15回 仕事と労働の実態把握

発表の中で得られた知見をゼミ全体でレビュー及び共有しながら、仕事で必要となる技能、正社員と非正社員の仕事の差異、共通点、つながりなどを検討する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

日高 謙一  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

これまで講義や実習等の授業で学んできた社会調査の方法や社会の様々なニーズに関する知識を基礎に、ものづくりを実践する。社会のニーズを探り、それを充足させる提供物を企画し、実際に試作してみる。実践的教育から構成される授業科目である。すべてのDPに関係するが、特にDP1に掲げる技能の獲得、DP2に掲げる表現力、DP3に掲げる社会に貢献しようとする態度を養うことを目的とする。

<到達目標>

ユーザーリサーチのスキルを獲得する。

また、それにもとづき人々の未充足のニーズを見つけ、それを満たすものをデザインすることができる。

<授業の進め方>

個人あるいは2?3人の小グループでプレゼン、議論、修正のサイクルを繰り返す。

個人あるいはグループの企画に固有の知識やスキルは、授業時間外に各自、各グループで獲得するよう計画を立てて進める必要がある。

<履修するにあたって>

「マーケティング」および「ものづくり論」を履修することが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

ユーザーリサーチやものづくり案の検討に授業時間外に少なくとも30時間の学修、あるいは活動が必要である。

<提出課題など>

リサーチ手法の練習成果や、ユーザーリサーチ結果の発表とそのレポート、ものづくり企画案の発表とそのレポートを課す。それぞれの課題に対して、調査件数、調査の質、考察の深さを評価する。授業内で講評あるいはmanabaを通じてコメントする。

<成績評価方法・基準>

発表やレポートへの評価(50%)とものづくりのプロセスへの関与の度合い(調査や試作品の製作に費やした時間、50%)も考慮し総合的に判断する。

<参考図書>

参考文献リストを初回オリエンテーションの際に配布する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の目的と到達目標(ゼミナールを通じての)説明、スケジュール協議・確定、参考文献の紹介を行う。

第2回 アイデア発想法

問いのブレーンストーミング、親和図法、マインドマップなど参考文献にもとづき、アイデア発想法を学び、練習する。

第3回 ビジュアルシンキング

アイデアのラフスケッチや手近にある材料でアイデアを形にしてみる練習を行う。

第4回 行動観察

ユーザーリサーチの手法として行動観察を文献について学び、フィールド調査に出るための調査計画を立てる。

第5回 アイデアを発表する

各自のものづくりアイデアのプレゼンを行う。他の履修者は投資家になったつもりでプレゼンを評価する。

第6回 アイデアを結合させる

前回のプレゼンをもとに自分のアイデアを他のメンバーのアイデアと結合させて新たなアイデアを生み出す。アイデアを結合させてチームを形成してもよい。

第7回 アイデアの探求

プレゼンとその評価、アイデアの結合を通じて生まれた新たなアイデアをより詳細に検討し、それが消費・使用される場面をスケッチし、製品イメージを作る。以後、イメージの修正を繰り返す。

#### 第8回 グラフィックスを学ぶ

ドロー系グラフィックソフトを用い、製品イメージをコンピュータを用いて制作する方法を学ぶ。以後、各自で習熟する。

#### 第9回 ユーザーインタビューの練習

ユーザー体験を聞き出すための調査手法に関する文献を読み、ロールプレイングによるインタビュー練習を行う。

#### 第10回 ペルソナとカスタマージャーニー

ユーザー体験を理解するためのペルソナ設定、カスタマージャーニーの作成について、文献学習ののち、実践練習を行う。

#### 第11回 デザインを作成する

グラフィックソフトを用いてデザインを作成し、ゼミナールとしてのオリジナルグッズを製作する。

#### 第12回 ユーザーリサーチ結果の発表

ターゲットとするユーザーを定め、これまで学んできたリサーチ手法を用いながら各自が行ってきたユーザーリサーチ結果を発表する。

#### 第13回 デザインコンペ

第11回目で取り組み、その後各自でブラッシュアップしたデザイン案を持ち寄りコンペ形式でオリジナルグッズのデザインを決定する。

#### 第14回 発表準備

これまで学習してきたアイデア発想法、ユーザーリサーチ手法を振り返り、次週のものづくり案の発表の準備をする。

#### 第15回 ものづくり企画案の発表

今semesterで取り組んできた各自のものづくり企画のプロセスを整理し発表する。各自の進捗をチェックしゼミナール 開始までの期間に準備しなければならないことを確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

前田 拓也

-----  
< 授業の方法 >

演習形式 (対面)

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー (卒業認定に関する基本方針) に従い、(1) 現代社会の多面的、総合的な理解、(2) 諸課題の発見・把握及びその解決策を探求することを目指す。

このゼミは、自分の身の回りの日常に潜む「社会問題

」を自分で発見し、それを解き明かすための社会調査を実施し、得られたデータや知見をもとにした社会学的議論をおこなうことを最終的な目的とする、実践的教育から構成される授業科目である。

今期のゼミ、つまり、3年生の夏休み前の段階では、自身の発見した問題のおもしろさや意義を“他者と共有する”方法、および他者に伝えるための技術の習得を目指す。

具体的には、小さな「雑誌」(= “ZINE”、フリーペーパー etc.)を作成する。自分の好きなこと・興味のあることについて、ページの企画をし、アホ取りと取材をし、写真など記事の素材となるものを準備し、記事を書き、編集し、印刷・製本し、「雑誌」という1つの形にして、少しでも多くの人たちの手に届くよう流通させる。

< 到達目標 >

・ZINEの作成を通して、「社会調査」の技法を習得する。

・情報収集とその整理、編集、また、それらをもとにしたプレゼンテーションをおこなう技能を習得する。

< 授業のキーワード >

社会調査 / ZINE / 編集

< 授業の進め方 >

・数人(3?4人)程度の雑誌編集のためのグループをつくり、グループごとにお互いの調査計画や調査結果を授業中に報告し、議論しながら検討をおこなう。

< 履修するにあたって >

ゼミは授業を一方的に「聴く」ためにあるのではなく、受講生全員で「議論をおこなう」ためにあります。積極的な発言を期待します。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習: 雑誌のテーマに関して、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくことで一定のイメージをつかんでおくこと (目安: 1時間程度)。

・事後学習: 収集した資料 (調査によって得られたデータ、各種統計資料、文献など) を再確認し、精査すること (目安: 1時間程度)。

・広義の「雑誌」をふだんから自主的かつ積極的に手に取り、自分なりに「研究」する習慣を身に着けることが望ましい。

< 提出課題など >

・完成版のZINEを提出する。

・ZINE作成過程をふりかえった編集ノートを提出する。それぞれについて、授業中およびmanabaにてコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出 60%、教員からのフィードバックへのリアクション 40%

<テキスト>

担当者が作成した資料を用いる。

<授業計画>

第1回 研究テーマ計画

各自が「現時点で」設定可能な研究テーマと研究計画について発表する。

第2回 編集会議1

複数のグループに分かれ、今後のZINEの編集方針について議論する。

第3回 編集会議2

ZINEの実物を手に取りながら、自分たちが今後完成させていくZINEのイメージを明確化する。

第4回 編集会議3

ZINEの実物を手に取りながら、自分たちが今後完成させていくZINEのコンセプトとデザインを明確化する。

第5回 編集会議4

取材対象の候補を決定する。取材のためのアポイントが必要であれば、そのための方法を検討する。

第6回 編集会議5-a

記事を構成する「素材」（おもに写真やイラストなどのビジュアル面）の収集を開始する。

第7回 編集会議5-b

記事を構成する「素材」（おもに写真やイラストなどのビジュアル面）のレイアウトを検討する。

第8回 編集会議6-a

記事を構成する「素材」（おもにインタビューのデータや文献資料）の収集を開始する。

第9回 編集会議6-b

記事を構成する「素材」（おもにインタビューのデータや文献資料）の収集をおこなう。

第10回 編集会議6-c

記事を構成する「素材」（おもにインタビューのデータや文献資料）の収集をおこなう。

第11回 編集会議7-a

完成版ZINEの「ダミー」となるものの作成を開始する。

第12回 編集会議7-b

完成版ZINEの「ダミー」を作成し、問題点を精査する。

第13回 編集会議7-c

完成版ZINEの「ダミー」を作成し、問題点を精査する。

第14回 編集会議8

ZINEの元となるデータを完成させ、製本をおこなう。

第15回 授業全体のまとめ

これまでの授業内容を振り返り、今後のゼミの運営について確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

松田 ヒロ子  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業は、香川県小豆島の地域活性化事業に参加することを通じて、小豆島の歴史と文化に対する理解を深めます。また地域社会の過疎化や高齢化をはじめとする課題を分析し、課題を解決するための方策について議論します。

夏休みに地域住民に対するインタビューやアンケート調査を実施するため、地域調査の理論や方法を実践的に学びます。

この科目は現代社会学部のDPに示される、現代社会を多面的、総合的に理解する力を養い、グローバルな視野と豊かな教養を身につけることをねらいます。

<到達目標>

(1) 小豆島の歴史や伝統、文化について関心をもち、それらについて自分なりの問題意識を深めて、自らの見解を示すことができるようになる。

(2) 小豆島をはじめとする日本の地域社会の現状について学び、課題を分析し、他者と議論することができる。

(3) インタビュー調査やアンケート調査などの技法を学び、ゼミのメンバーと協力しながら地域調査を実践することができる。

<授業の進め方>

小豆島土庄町役場、特に地域おこし協力隊員と連携しながら授業を進めます。

5月と8月（夏季休業中）に土庄町でフィールドワークを行います。教室ではその事前学習と事後学習が中心です。

<授業時間外に必要な学修>

指定された本や雑誌記事を読んで授業中の議論に備えてください（目安として2時間）。

<提出課題など>

提出課題に対するフィードバックは授業中に行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の議論などへの参加（60%）、提出課題（40%）

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方や成績評価の方法について話し合います。

第2回 小豆島の地理・風土

小豆島の地理や気候、風土について学びます。

第3回 小豆島の社会・文化

小豆島の文化や習慣について学びます。

第4回 小豆島の歴史

小豆島の歴史について学びます。

#### 第5回 小豆島の現状

過疎化や高齢化など小豆島の住民が直面している課題について学びます。

#### 第6回 小豆島の地域活性化事業

小豆島で実践されている地域活性化事業の現状について学びます。

#### 第7回 フィールドワークの準備

フィールドワークの計画を立て、準備します。

#### 第8回 フィールドワーク

小豆島でフィールドワークを行い、その地理や風土、歴史や文化について現地で学び、さらに今日的な課題について理解を深めます。

#### 第9回 フィールドワークのまとめ

フィールドワークで学んだことをまとめ、整理します。

#### 第10回 フィールドワークの成果発表

フィールドワークで学んだことをプレゼンテーションします。

#### 第11回 インタビュー調査の技法

夏休みのフィールド調査に向けてインタビュー調査の理論と方法を学びます。

#### 第12回 アンケート調査の技法

夏休みのフィールド調査に向けてアンケート調査の理論と方法を学びます。

#### 第13回 調査計画を立てる

夏休みの地域調査の計画を立てます。

#### 第14回 アンケート調査の準備

アンケートを実際に作成します。

#### 第15回 インタビュー調査の準備

インタビュー調査の準備を行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

演習・実習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

本ゼミナールでは、来年度の卒業論文執筆に向けて、社会学の基本的な考え方と社会調査を経験する。その際、テーマとして掲げるのは「経験」である。自分とは異なる立場にある他者が、「現実」をどのように経験をしているのかを、調査を通じて明らかにしていくことを共通の課題とします。人と人とのつながりを客観的にみつめ

る視点を身につけ、さらには、「現実」のズレから生じてくる対立や偏見、差別を乗り越えていくような論点を提示することが、本ゼミナールの目的である。

本授業では、神戸市長田区におけるコリアタウン構想に関する調査・研究を行う。神戸市長田区は、外国人集住・インナーシティ現象・震災復興・少子高齢化などをめぐって、さまざまな「問題」を抱えている。「コリアタウン構想」は、こうした問題を乗り越え、地域を活性化させるための方策として、行政や民族組織によって提言されたものであるが、その是非について、ローカルな文脈から捉え直すことで、「地域活性化」という概念そのものを再考する機会としたい。

なお、本授業は、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

- ・他者の経験を記述するための様々な方法を説明できる。
- ・卒業論文執筆に必要な調査スキルを習得する。

< 授業のキーワード >

フィールドワーク、エスノグラフィ

< 授業の進め方 >

優れたエスノグラフィを講読しつつ、神戸市長田区での簡単な調査を実施することで、エスノグラフィの方法について体験的に学ぶ。

プレゼンテーション、ディスカッションを通じたアクティブ・ラーニングを実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミでの課題を自ら発見すること（目安として1時間程度）。

研究発表担当回のレジюме作成、プレゼンテーションの準備

< 提出課題など >

発表資料

（ゼミ中のコメントでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

授業中の発表内容：60% レポート：40%

< 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション

ゼミナールで学習する内容と方法を知る。講読文献の概要を把握し、発表のスケジュールを組む。

#### 第2回 聞き取り調査の方法論

聞き取り調査の方法論について学ぶ。

#### 第3回 聞き取り調査の準備

第4回のゲストスピーカーへの聞き取り調査の準備を行

う。

#### 第4回 事前フィールドワーク

神戸市長田区での調査に向け、事前フィールドワークを行う。

#### 第5回 調査データの分析

聞き取り調査の結果を分析し、現地調査の計画を立案する。

第6回 文献講読 エスニック・コミュニティとは  
エスニック・コミュニティに関する文献を講読し、生活者の視点から「コリアタウン」を捉え直す。

第7回 文献講読 エスニック・ビジネスとは  
エスニック・ビジネスに関する文献を講読し、民族的マイノリティの生活について概観する。

#### 第8回 フィールドワーク

神戸市長田区でのフィールドワークを実施し、この街の歴史の変遷や震災の影響、外国人の置かれた現状などを知る。

#### 第9回 文献講読 質的調査とは

調査方法論に関する論考を読み、質的調査とは何かについて学ぶ。

#### 第10回 文献講読 フィールドワークとは

調査方法論に関する論考を読み、フィールドワークとは何かについて学ぶ。

#### 第11回 現地調査

神戸市長田区に赴き、「下からの地方活性化」の取り組みについて調査を行う。

第12回 データの分析 : フィールドノートの共有  
各自が作成したフィールドノートの情報を共有し、論点を整理する。

#### 第13回 データの分析 : 概念の理解

インタビュー内容の分析を行う。語り手によって用いられている概念の用法などに着目しながら語りの理解を進める。

#### 第14回 成果物の作成

調査によって得られた知見を、受講者間での議論を通して選んだ方法でまとめる。

#### 第15回 成果発表

調査協力者を招き、調査の成果について発表、議論する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

山本 努

#### < 授業の方法 >

・テキストを使って演習をおこないます。受講生の皆さんには指定されたテキストの精読、課題対応などが求められます。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認

して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

#### < 授業の目的 >

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法による、現代社会の解読を学びながら、社会学の基礎的概念や考え方を身につけます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

#### < 到達目標 >

1.社会学の基本的考え方を理解できるようになる。2.現代社会、あるいは、社会というものが、興味深い探求の課題(つまり、「問題」)であることを理解する。

#### < 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

#### < 授業の進め方 >

テキストを使って授業をおこないます。テキストを必ず持参して授業に出席して下さい。

#### < 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。ゼミですから、学生の主体的参加が求められます。ゼミでの議論を楽しめるようになって下さい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

#### < 提出課題など >

授業で指示します。必要に応じて、授業やmanabaでコメントを致します。

#### < 成績評価方法・基準 >

- ・課題の提出(50%)。
- ・授業中での質疑・報告(50%)。
- ・欠席が多い場合は単位は認定しません。

#### < テキスト >

山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房

#### < 参考図書 >

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査:プロセス編』ミネルヴァ書房

\*上記の他は、授業で指示します。

#### < 授業計画 >

第1回 社会学による社会の見方、考え方入門(研究入門)

ガイダンス

第2回 社会学による社会の見方、考え方入門（研究入門）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第3回 社会学による社会の見方、考え方入門（研究入門）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第4回 社会学による社会の見方、考え方入門（論文を精緻に読む、批判的に読む）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第5回 社会学による社会の見方、考え方入門（論文を精緻に読む、批判的に読む）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第6回 社会学による社会の見方、考え方入門（論文を精緻に読む、批判的に読む）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第7回 社会学による社会の見方、考え方入門（問を立てる）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第8回 社会学による社会の見方、考え方入門（問を立てる）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第9回 社会学による社会の見方、考え方入門（問を立てる）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第10回 社会学による社会の見方、考え方入門（方法を学ぶ）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第11回 社会学による社会の見方、考え方入門（方法を学ぶ）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第12回 社会学による社会の見方、考え方入門（方法を学ぶ）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第13回 社会学による社会の見方、考え方入門（研究に向かう）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第14回 社会学による社会の見方、考え方入門（研究に向かう）

現代社会を考える文献や素材をもちより討議する

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

伊藤 亜都子

-----  
< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

本科目は現代社会学部DPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度を見につけることを目指す。

「地域」や「地域コミュニティ」に注目して、「災害に強いまちづくり」、「地域防災力の向上」、「復興まちづくり」、「地域活性化」、「地域社会での助け合い」などのテーマについて学びます。

特に、卒業論文を意識したそれぞれのテーマを深めて学習を進めます。

< 到達目標 >

地域社会について理解を深めること、自分なりの研究テーマを持つこと、調査の技法を実につけること、を目指します。

< 授業のキーワード >

地域防災、復興まちづくり、コミュニティ、共助

< 授業の進め方 >

自分たちでテキストを読んで勉強したり、資料を調べたりして、発表、意見交換をします。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習・復習（地域調査に行く前の予習、調査に行ったあとのまとめ、発表準備、授業内容をさらに深く調べるなど）を各1時間程度行う。

< 提出課題など >

調査報告書、プレゼンテーション、レポートなど。課題については、授業内で発表し、指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取組態度（50%）、複数回の課題提出（50%）

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンスと学習計画

半年間の授業の基本的な予定や進め方について説明します。また、意見を出し合って、学習や調査について計画をつくりま

第2回 ゼミ内ワークショップ

ワークショップ形式で、ゼミでの学習や活動としてやってみたいことについて意見を出し合います。

第3回 災害時の地域社会に関する調べ学習(1)

春休みでの課題研究について、それぞれが持ち寄って発表し、意見交換をします。

第4回 災害時の地域社会に関する調べ学習(2)

前回の意見交換、ディスカッションをもとに、さらに調べるべきことについて学習し、課題研究を深めます。

第5回 キャリアデザイン学習(1)

現在の就職状況についてお話をうかがい、将来の目標や今後の大学生活においてすべきことについて見つめます。

第6回 学外での地域防災学習(1)

阪神・淡路大震災から神戸の復興、まちの復興にかかわってきた方に対して、ヒアリングを行います。

#### 第7回 学外での地域防災学習(2)

阪神・淡路大震災から神戸の復興、まちの復興にかかわってきた方に対して、引き続きヒアリングを行います。

#### 第8回 地域防災学習のまとめ

地域防災学習のまとめ:調べたこと、感じたこと、聞いたことについてどのようにまとめるか話し合います。

#### 第9回 地域活動の実践(1)

地域イベントを実際にお手伝いしながら、地域について学習します。

#### 第10回 地域活動の実践(2)

地域イベントを実際にお手伝いしながら、地域について学習します。

#### 第11回 地域活動のまとめ

実際に地域活動に参加して学んだこと、わかったことについてまとめます。

第12回 調査レポート作成とプレゼンテーションの準備  
分担を決めて、調査レポートとプレゼンテーションの準備を行います。

#### 第13回 成果発表会

調査のまとめについてプレゼンテーションを行います。

#### 第14回 キャリアデザイン学習(2)

社会人の方からお話をうかがい、「働くこと」について自分と結びつけて考えます。

#### 第15回 ふりかえり

授業全体で行ったことを復習して全体をまとめた上で、後期からどのような学習態度、学習内容が重要であるかについて考えます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

江田 英里香  
-----

#### <授業の方法>

グループワーク、ディスカッション、発表など演習形式での授業を中心とします。

#### <授業の目的>

SDGs、国内および開発途上国の子どもや教育における社会貢献について理解を深めます。

本講義を通して、SDGsの課題解決を目指したプロジェクトの企画立案とその実施を行います。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連します。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

#### <到達目標>

SDGsと子どもの問題について学び、ボランティア活動実践に役立つ知識を取得することができる。

#### <授業のキーワード>

子ども、教育、国際協力、ボランティア、社会貢献

#### <授業の進め方>

グループワークやディスカッションを中心に進めます。積極的な姿勢で授業にのぞんでください。

#### <履修するにあたって>

ネット環境の確保(スマホ、PC、タブレット、wifiなど)を整えてください。

#### <授業時間外に必要な学修>

テレビやインターネットのニュースの記事、図書館などでの文献、インターネットの記事などを中心に事前・事後学習各1時間程度

#### <成績評価方法・基準>

授業内でのプレゼンや発言

小レポート

これらを総合的に判断して評価します。

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

全15回の授業について説明します。

##### 第2回 社会貢献とは

SDGsとは

社会貢献とは何かについて基本的な知識を学びます。また、SDGsとは何かについても歴史の変遷などの基礎的な知識を学びます。

##### 第3回 貧困

国内の子どもの貧困について検討します。

##### 第4回 教育

国内外の子どもの教育問題について検討します。

##### 第5回 プロジェクト立案1

国内外の子どもたちの 貧困と 教育にフォーカスして、それらの課題解決につながるプロジェクトを調べます。

##### 第6回 プロジェクト立案2

国内外の子どもたちの 貧困と 教育にフォーカスして、それらの課題解決につながるプロジェクトを企画します。

##### 第7回 プロジェクト実施

国内外の子どもたちの 貧困と 教育にフォーカスして、それらの課題解決につながるプロジェクトを実施します。

##### 第8回 プロジェクト実施

国内外の子どもたちの 貧困と 教育にフォーカスして、それらの課題解決につながるプロジェクトを実施します。

##### 第9回 プロジェクト振り返り

プロジェクトの振り返りを行います。

##### 第10回 まちづくり

陸の豊かさ

日本国内の まちづくり、 陸の豊かさにフォーカスし

て、具体的な事例を学びます。

#### 第11回 プロジェクト立案

日本国内の まちづくり、 陸の豊かさにフォーカウッして、それらの課題解決につながるプロジェクトを調べます。

#### 第12回 プロジェクト立案

日本国内の まちづくり、 陸の豊かさにフォーカウッして、それらの課題解決につながるプロジェクトを企画します。

#### 第13回 プロジェクト実施

日本国内の まちづくり、 陸の豊かさにフォーカウッして、それらの課題解決につながるプロジェクトを実施します。

#### 第14回 プロジェクト実施

日本国内の まちづくり、 陸の豊かさにフォーカウッして、それらの課題解決につながるプロジェクトを実施します。

#### 第15回 振り返り

プロジェクトの振り返りを行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

佐伯 琢磨

-----  
< 授業の方法 >

ゼミナールを通して、防災に関する専門知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、

あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

ゼミナール では、学会発表を目標に、3~4人のチームで、研究テーマを設定し研究を自主的に進める。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

学会で発表できるレベルに到達することを目標とする。

< 授業のキーワード >

災害発生の原因，および時系列的な被害拡大原因を理解すること。

< 授業の進め方 >

途中段階で、研究の進捗状況などを確認することを目的に、プレゼンテーションを行ってもらう。

< 授業時間外に必要な学修 >

研究テーマに関する文献収集など、自主的に取り組む姿勢が求められる。

< 成績評価方法・基準 >

途中段階でのプレゼンテーションなどを評価対象とする。

< 授業計画 >

#### 第1回 ガイダンス

ゼミナール の進め方について、説明する。

#### 第2回 研究テーマの設定

ゼミ内をA,B,C,Dの4チームに分け、各チーム（1チーム3~4人）ごとにメンバーの興味に基づき、研究テーマを設定する。

#### 第3回 テーマ発表（A - 1）および討議

Aチームの研究テーマについて、研究の構成段階の発表を行い、討議する。

#### 第4回 テーマ発表（B - 1）および討議

Bチームの研究テーマについて、研究の構成段階の発表を行い、討議する。

#### 第5回 テーマ発表（C - 1）および討議

Cチームの研究テーマについて、研究の構成段階の発表を行い、討議する。

#### 第6回 テーマ発表（D - 1）および討議

Dチームの研究テーマについて、研究の構成段階の発表を行い、討議する。

#### 第7回 テーマ発表（A - 2）および討議

Aチームの研究テーマについて、調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第8回 テーマ発表（B - 2）および討議

Bチームの研究テーマについて、調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第9回 テーマ発表（C - 2）および討議

Cチームの研究テーマについて、調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第10回 テーマ発表（D - 2）および討議

Dチームの研究テーマについて、調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第11回 テーマ発表（A - 3）および討議

Aチームの研究テーマについて、さらに調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第12回 テーマ発表（B - 3）および討議

Bチームの研究テーマについて、さらに調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第13回 テーマ発表（C - 3）および討議

Cチームの研究テーマについて、さらに調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第14回 テーマ発表（D - 2）および討議

Dチームの研究テーマについて、さらに調査を進め、その成果について発表を行い、討議する。

#### 第15回 振り返り、まとめ

ゼミナール で得られた、研究成果について、振り返りおよびまとめを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中田 敬司  
-----

< 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。社会貢献活動、特に災害時の医療緊急援助について学んでいく。大規模災害における医療緊急援助を行うには、高度な専門知識とトレーニングが求められる。そのために平常時においてもさまざま訓練をおこなっていかなければならない。本ゼミナールでは、国際緊急援助隊医療チーム研修・訓練や日本DMAT研修・訓練等の際に実施されるシミュレーションを教材にしながら、医療緊急援助の際の活動内容を参加型のワークショップなどで以下のことを目標に学んでいく。

なおこの授業の担当者は15年以上災害医療分野に関わった実務経験のある教員である。また、実践的教育から構成される科目である。よって実際の現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

< 到達目標 >

- 1 災害とは何かを理解できる。
- 2 災害の種類やタイプはどのようなものがあるか理解できる。
- 3 災害時の外傷・トリアージについて理解できる。
- 4 災害時の生活・保健衛生状態の課題について理解できる。
- 5 必要な医療支援について考察することができる。

< 授業のキーワード >

災害 災害医療 トリアージ 保健衛生 PTSD

< 授業の進め方 >

講義とともに小グループでのワークや学外での調査・研修会参加を行う。

< 履修するにあたって >

グループワークではリーダーシップ、メンバーシップを發揮して欲しい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外の時間を活用して調査等の活動を実施する場合もある。事前・事後学習に各1時間程度。

< 提出課題など >

レポート提出。授業の中でモデル事例や回答例を示し、解説や講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

適宜レポート・課題提出 70% 発表 30%

< 参考図書 >

災害医学 改訂2版 南山堂

DMAT完全マニュアル メディカ出版

災害看護学 メジカルフレンド社 他

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義目的と講義進行方法・評価基準

第2回 チームビルディング

各チーム作りと研究テーマ策定への計画づくり

第3回 災害とは

災害の定義・災害の種類とタイプ・災害医療総論 講義とディスカッション

第4回 災害サイクルの概念

災害サイクルの急性期・亜急性期・慢性期の特徴と医療対応

第5回 外傷とトリアージの基礎知識

外傷とトリアージの基礎知識とトリアージ実習

第6回 トリアージの実際

トリアージの現場活動とトリアージ実習

第7回 トリアージの課題

過去の災害医療活動からトリアージの課題について考察

第8回 災害時の生活環境

災害発生時の生活環境・避難所の問題と対応・医療ニーズの変化

第9回 災害時の保健衛生

疫学・感染症について及びフィールド調査手法

第10回 災害時の精神保健

災害時特有の精神症状及び精神疾患

第11回 調査活動・調査計画

課題の確認と調査活動の計画策定

第12回 調査活動

訪問・インタビュー・文献検索など

第13回 調査活動・プレゼン準備

調査及び調査内容の整理とプレゼンテーションの準備

第14回 プレゼンテーション

災害医療分野が抱える現在の課題の整理

第15回 総合フリーディスカッション(災害医療)

前期の振り返りと整理及び後期に向けて方針策定

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

船木 伸江  
-----

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2（思考力・判断力を身につける）に関連する科目である。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、神戸の地に大きな被害が発生した。震災以降、各方面で防災について学ぶこと（防災教育）、備えることの必要性が重視されている。ゼミナールでは、「防災教育」をテーマに、どのようにしたら防災に関心を持つ人が増えるか（意識啓発）、どのようにしたら楽しく防災を学べるか（防災教育の手法）、どのようにしたら防災の重要性を分かってもらえるか（伝え方）などについて学びを深めていく。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深め、学外での実習も含む実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

ゼミナールでは、これまでに各自が重ねてきた学習を基に、防災に関する知識を深め、阪神・淡路大震災を後世に伝える方法について模索し、広く普及できるような防災教育教材を作成する。また、継続して、震災語り部との交流、学外での防災教育ボランティア参加を通じて、伝える力や防災教育についても学んでいく。

1. 阪神・淡路大震災を中心とした過去の災害についてについての勉強から、防災の基礎的知識をつける（知識）
2. 阪神・淡路大震災についての調べ学習、震災語り部の講話からより実践的な防災学習への学びを深め、次なる災害への解決法を考える力を養う。（知識、態度・習慣）
3. 習得した知識を小学生などに伝えることや、防災イベントへのボランティア参加により、防災への理解を深め、プレゼンテーション能力を養う（態度・習慣、技能）

< 授業の進め方 >

授業・課題に対してのレポート課題等

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に授業のテーマとなる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分である

と感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

発表50%、 レポート・課題提出50%

< 参考図書 >

夢みる防災教育（晃洋書房）

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

授業の流れを説明する。3年生前期にどのような力をつけるか各自で課題設定をする。

第2回 全国の防災教育事例を学ぶ

ゼミのテーマである防災教育についての理解を深める（全国の事例を知る）

第3回 神戸市内の防災教育の事例を学ぶ

過去の被災地における防災教育、特に神戸市内の防災教育の事例を学ぶ

第4回 防災教育について考える

防災教育の教材、ツールについて学ぶ

第5回 語り部グループとの交流

震災の語り部と、災害の経験を伝えることについての意見交換を行う

第6回 防災教育出前授業準備

防災教育の効果的な伝え方について学ぶ

第7回 防災教育教材作成1

防災教育授業で使う教材を準備する

第8回 防災教育教材作成2

防災教育授業の配布資料や全体構成について考える

第9回 語り部グループとの交流

経験のない世代にどのように震災の恐ろしさを伝えるか意見交換を行う

第10回 模擬授業1

授業を実際に行い、意見交換を経て授業の仕方を改善する

第11回 模擬授業2

授業を実際に行い、意見交換を経て授業の仕方を改善する

第12回 学外での防災教育イベント補助1

防災教育のイベントや授業をサポートしながら、より良い教育法を学ぶ

第13回 学外での防災教育イベント補助2

防災教育のイベントや授業をサポートしながら、より良い教育法を学ぶ

第14回 小学校での防災教育

防災教育を実際に行い、震災を語り継ぐ活動の一端を担う

第15回 出前授業の振り返りと反省

実際に防災教育を行ってみた感想、改善点を話し合い、次への課題を設定する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

前林 清和

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。南海トラフ巨大地震に関する調査、研究を引き続き行うとともに、グループで、南海トラフ巨大地震を主な対象として防災教材の開発を行う。また、防災や社会貢献に関連する講演会や展示会などのマネジメントを実践を通じて学んでいく。

< 到達目標 >

1、防災教育教材のための調査や研究を行う能力が身に付く。(技能)

2、各種教育イベントを企画し、運営する力がつく。(知識・態度・習慣、技能)

< 授業の進め方 >

グループ学習を中心にアクティブラーニングの種々の技法を駆使して進めていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

レポート。授業の中で、モデル事例等を示しフィードバックやコメントを行う。

< 成績評価方法・基準 >

レポート50%、プレゼンテーション50%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要、進め方、評価の方法

第2回 社会貢献に意義について

討論

第3回 防災のための調査基礎

学外授業

第4回 防災教育のための調査応用

学外授業

第5回 防災教育のための調査展開

学外授業

第6回 教材開発の導入

フレームづくり

第7回 教材開発のスタート

内容検討

第8回 教材開発の展開

内容作成

第9回 教材開発の手法1

撮影

第10回 教材開発の手法2

編集

第11回 教材開発の活用に向けて

マニュアル作成

第12回 教材開発の最終確認作業

マニュアル点検

第13回 プレゼンテーション1

試作品のテスト

第14回 プレゼンテーション2

完成品のプレゼンテーション

第15回 教材開発のこれからの展開について

教員と学生による全体のふりかえりと次の課題の模索

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

水本 有香

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2(思考力・判断力を身につける)に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。開発途上国や地域について考察する上で、「途上国=貧困」などという固定されたイメージではなく、途上国と日本、日本の中の地域といった事例の検証およびゼミにおける実践的な経験を通して、新たな途上国の視点、新たな日本の視点を見出し、地域社会の多面的な把握とグローバリゼーションの内実の深い洞察に基づいた自らのテーマを設定する。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

「持続可能な開発」、「多文化共生」、「多様性」、「市民参加」、「災害資料の保存」などのテーマを通じて各自およびグループ学習をおこない、理解を深めた上で実践する方法を考える。

< 授業のキーワード >

開発教育、国際協力、国際理解、自然災害

< 授業の進め方 >

少人数のグループワーク、調べ学習を取り入れます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教

員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

毎回、授業中に意見交換や発表、グループで作成した成果物及びレポートの提出などを求めます。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献（45%）、レポート等（25%）、及び発表（30%）により評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の全体、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 テーマの検討

日本、世界を取り巻く課題について検討する。

第3回 途上国における労働事情

途上国における日本を含む労働事情を検討する。

第4回 発表

各自あるはグループワークによる発表

第5回 発表

各自あるはグループワークによる発表

第6回 フェアトレード製品

新たなフェアトレード製品について提案する。

第7回 フェアトレード製品

提案したフェアトレード製品を比較・検討する。

第8回 途上国における自然災害の脅威

途上国における自然災害の脅威について検討する。

第9回 日本の自然災害救援に関するODA

日本が実施している自然災害の救援に関する政府開発援助（ODA）を検討する。

第10回 調べ学習の発表

自らが選択した途上国の現状・課題を発表、討論する。

第11回 調べ学習の発表

自らが選択した途上国の現状・課題を発表、討論する。

第12回 調べ学習の発表

自らが選択した途上国の現状・課題を発表、討論する。

第13回 途上国の教育事情

途上国の教育事情について検討する。

第14回 模擬国連について

実際の国連における会議と同じように議論、交渉し、決議を採択することを目的とし、国際問題への理解や交渉術の深化を図る、世界中の学生によって行われている活動について知る。

第15回 発表・講評

レポートや他者から発表による気付きを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

安富 信  
-----

< 授業の方法 >

原則対面授業。テレビやラジオのニュースを聴いたりして分析する。調査・研究のための基本的な事項を勉強する。例えば、インタビューの仕方などを実学する。現場に出かけ、論文を書き、然るべき場所で発表する。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）。

避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2（現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる）を身に付ける。災害情報への理解を深める。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

災害情報にとって最も大切な、「住民に伝わる」ことを深く学び、住民に伝わる情報発信とは？を追求する。

< 授業のキーワード >

情報発信、教訓

< 授業の進め方 >

出来るだけ、現場に足を運び、インタビューなどを重ねたい。人と防災未来センターで行われている災害メモリアルアクションKOBEに積極的に参画する。

< 授業時間外に必要な学修 >

最低2時間以上、予習復習する

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

100%レポート課題による

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの進め方を説明する

第2回 情報発信

情報を発信することの意味を探る

第3回 情報発信

情報発信の方法

第4回 情報発信の担い手

情報発信の担い手 一般的に

第5回 情報発信の担い手  
情報発信の担い手 公務員  
第6回 情報発信の担い手  
情報発信の担い手 公務員  
第7回 情報発信の担い手、まとめと振り返り  
情報発信の担い手 企業、NPO  
第8回 情報の受け手  
インタビュー 新聞  
第9回 情報の受け手  
インタビュー 新聞  
第10回 情報の受け手 テレビ  
インタビュー テレビの場合  
第11回 情報の受け手 テレビ  
インタビュー テレビの場合  
第12回 情報の受け手 テレビ  
インタビュー テレビの場合  
第13回 情報の受け手 ラジオ  
インタビュー ラジオの場合  
第14回 情報の受け手 FMラジオ  
インタビュー コミュニティFMとは  
第15回 総括と発表  
様々なインタビューを総括して発表する

-----  
2022年度 前期

2.0単位  
ゼミナール  
松山 雅洋

-----  
<授業の方法>  
演習(対面授業)

<授業の目的>  
この科目は現代社会学部のDPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度の習得に該当する。

阪神淡路大震災で災害の被害軽減には、自助・共助・公助のそれぞれの備えと連携の大切さを我々は学んだ。ゼミナールでは、災害から命を守るをテーマに地域(自主防災組織)、企業、行政の防災への取り組みについて研究する。

この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防や危機管理部門での実務経験のある教員である。阪神淡路大震災や東日本大震災等の現場経験に言及しながら、より深い学びへとつなげていく。

<到達目標>  
地域住民、企業、行政の減災への取り組みを理解する。  
ワークショップの進め方やプレゼンテーション能力を身に着ける。  
読解力や社会常識を習得することができる。  
<授業のキーワード>

消防、危機管理、自主防災組織、災害から命を守る。  
<授業の進め方>  
自分たちで文献や資料を集め学習し、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンを行う。  
<履修するにあたって>  
災害報道に関心を持ち、積極的に調べること。manabaの使用方法を確認しておくこと。  
<授業時間外に必要な学修>  
事前学習と事後のまとめ学習。  
<提出課題など>  
期末に課題レポートを実施する。manabaのレポートで講評する。  
<成績評価方法・基準>  
授業への積極的・自主的な取り組み態度40%、発表30%、期末の課題レポート30%  
<授業計画>  
第1回 授業ガイダンス  
授業の概要・進め方、研究したいことについて話し合う。  
第2回 レポートの作成要領  
レポートの作成要領について学習する。  
第3回 キャリアデザイン  
希望職種を確認し、就職状況の現状と今後の就職に向けて準備すること等について調べる。  
第4回 現地調査 の事前学習  
関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるのか」等をグループで準備する。  
第5回 現地調査  
災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。  
第6回 現地調査  
災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。  
第7回 現地調査 のまとめ  
グループ毎に現地調査の結果をまとめる。  
第8回 現地調査 の発表  
グループ毎に現地調査の結果を発表し討議を行う。  
第9回 現地調査 の事前学習  
関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるのか」等をグループで準備する。  
第10回 現地調査  
災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。  
第11回 現地調査  
災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。  
第12回 現地調査 のまとめ  
グループ毎に現地調査の結果をまとめる。  
第13回 現地調査 の発表

グループ毎に現地調査の結果を発表し討議を行う。

#### 第14回 ゲストスピーカー

ゲストスピーカーの講話と意見交換

#### 第15回 総括

授業全体の要点を確認し、学んだことの理解を深め、後期を展望する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

菊川 裕幸  
-----

#### < 授業の方法 >

講義、演習

#### < 授業の目的 >

ゼミナールでは、これまでのゼミナールでの学びを通じて、現代社会学会DP(2)に準拠し、現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成についてその課題と解決策を考え、実践的な活動につなげることを目的とする。最終的にはゼミナール、卒業研究および卒業論文の作成がスムーズに実施できるだけの能力を身につけることを目標とする。

#### < 到達目標 >

自身の調査対象地域についてより深く知り、これまでに取り組まれたこと（先行事例の整理）、取り組みの成果、今後の課題等について考察し、現状とのすり合わせを行う。これによって具体的な研究活動や実践活動につなげることができるようになる（知識・技能）。また、行政や地域の代表者等とのディスカッションを行い、施策や持続可能な地域づくりについて提案を行うことができるようになる。

#### < 授業のキーワード >

施策提案、持続可能な地域づくり、まちづくり協議会

#### < 授業の進め方 >

これまでのゼミナールでの学びを活かしつつ、卒業研究・論文につなげる。そのため、グループワークも実施するが、個人での取り組みが重要となる。

#### < 履修するにあたって >

積極的に議論を交わし、それぞれのテーマに取り組む姿勢が重要である。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

各回のテーマに沿って必要となる課題作成や、文献調査、資料収集が必要。

#### < 提出課題など >

ショートレポートの作成、報告書の作成、発表用資料の提出を求めます。

#### < 成績評価方法・基準 >

演習への参加態度、議論等の積極性、意欲など50%、ショートレポート20%、報告書および発表用資料等30%の割合で総合的に評価する。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

ゼミナールの進め方、各自の目標やスケジュールについて共有する。

##### 第2回 地域研究とは

地域研究の方法や結果からの考察の導き方等、論文の構成について、既往論文を参考に解説する。

##### 第3回 地域研究とは

第2回の講義内容を踏まえ、自身が選定した論文1本の要約を行い、発表する。その際に、論文の独創性、新規性などについても言及する。

##### 第4回 研究テーマの設定

これまでのゼミナールで設定したテーマについて、再度検討を行う。その内容を要旨を作成し、個人で発表する。

##### 第5回 研究テーマの妥当性・ブラッシュアップ

第4回の発表を踏まえ、グループ、教員とディスカッションを行い、研究テーマの妥当性、計画、再現性など多様な視点で捉え、内容をブラッシュアップする。

##### 第6回 研究テーマの妥当性・ブラッシュアップ

第5回の発表を踏まえ、グループ、教員とディスカッションを行い、研究テーマの妥当性、計画、再現性など多様な視点で捉え、内容をブラッシュアップする。

##### 第7回 先行研究の調査

第2回? 3回の内容を踏まえ、さらに自身の研究テーマに近い内容の先行研究を調査する。そしてそれらの研究手法や結果等について深く考察する（論文内の考察とは違う視点で考察を行うこと）。

##### 第8回 先行研究の報告

第7回で取り扱った論文について、第3者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを作成し、発表する。発表後はゼミナール全体で討議する。

##### 第9回 先行研究の報告

第7回で取り扱った論文について、第3者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを作成し、発表する。発表後はゼミナール全体で討議する。

##### 第10回 論文の作成について

論文の執筆において守らなければならないルールや、投稿基準等について解説を行う。いくつかの関連する学会を取り上げ、紹介する。

##### 第11回 短報の作成

自身の研究テーマの「対象地」について、短報形式でその基本的な情報、特色、文化などを紹介する。第10回で学んだ論文執筆のルールを厳守すること。

##### 第12回 短報の作成

自身の研究テーマの「対象地」について、短報形式でその基本的な情報、特色、文化などを紹介する。最終的には提出し、教員からの添削を受ける。

##### 第13回 研究計画の作成

ゼミナールにつなげるために、研究計画の作成を行う。次年度に向けて必要な準備や文献調査など、現状で「で

きていること」と「今後取り組むこと」を明確にする。

#### 第14回 研究計画の発表

第13回で作成した研究計画を発表する。発表内容については、ゼミナール全体で討議し、教員の指導助言を踏まえて修正し、第15回に報告書として提出する。

#### 第15回 振り返りと今後に向けて

設定した研究テーマについて振り返り、卒業研究や論文作成等今後の研究の進め方についてゼミ生および教員間で共有する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

岡崎 宏樹  
-----

#### < 授業の方法 >

##### 演習

#### < 授業の目的 >

この演習では、「社会と文化」を中心テーマとし、卒業論文の作成の準備に対する指導を行うとともに、レジメの作成やプレゼンテーションの能力、グループで討論する能力を向上させることをめざす。卒業論文に関しては、テーマ設定をより明確にし、先行研究の文献調査を進め、その内容をレポートにまとめる。これと同時に、自らフィールドワーク調査を計画・実施し、結果を分析する。その成果をまとめてゼミで発表し、互いに切磋琢磨して研究を前に進める。この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。現代社会学科のディプロマ・ポリシー1・2に深く関連する。

#### < 到達目標 >

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。プレゼンテーションや討論をおこなう高度な能力を修得する。

#### < 授業のキーワード >

文化社会学

#### < 授業の進め方 >

グループワークと個人による調査・研究の双方に取り組む。グループワークは「社会と文化」に関連するテーマをグループで探求する。個人の調査・研究は各自の関心にあわせた指導をおこなう。

#### < 履修するにあたって >

演習は休まず出席・参加するのが原則です。積極的で主体的な取り組みを求めます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前事後各2時間。研究発表の準備、文献の精読、レポートの制作など。

#### < 提出課題など >

発表のレジメや期末レポートの提出が求められます。レジメについては授業内、レポートについては個別指導の時間にフィードバックをおこないます。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業内の取り組み（資料作成・発表・討論）80%、期末レポート20%

#### < テキスト >

使用しません。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 インTRODクシヨン/ガイダンス

この演習の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しく説明し、相互の情報交換のためのグループワークを実施する。

##### 第2回 卒業研究の計画

卒業研究の制作に向けて、基本的な事項について解説する。各自の関心を研究へと展開していく方法について検討する。

##### 第3回 課題設定と情報検索

(1)グループで調査課題を設定する。(2)課題に関連した文献資料を収集する方法について学び、文献一覧表を作成する。

##### 第4回 先行研究の検討

収集した文献資料を活用し、グループで先行研究の検討を進める。

##### 第5回 グループワーク(1)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

##### 第6回 グループワーク(2)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

##### 第7回 グループワーク(3)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。(3)グループワークの成果をレポートにまとめる。

##### 第8回 プレゼンテーションの準備(1)

プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。明確かつ論理的に伝えることのできる資料作成の方法を学び、より良い話し方のトレーニングをおこなう。

##### 第9回 プレゼンテーションの準備(2)

プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。明確かつ論理的に伝えることのできる資料作成の方法を学び、より良い話し方のトレーニングをおこなう。

##### 第10回 プレゼンテーション(1)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

##### 第11回 プレゼンテーション(2)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

## 第12回 個人の研究発表(1)

卒業研究に向けた各自の研究成果を発表し、全体で意見交換や討論をおこなう。

## 第13回 個人の研究発表(2)

卒業研究に向けた各自の研究成果を発表し、全体で意見交換や討論をおこなう。

## 第14回 レポート作成

卒業研究に向けた各自の研究成果をレポートにまとめる。

## 第15回 全体の振り返りと研究指導

卒業研究をさらに深めるために何が課題であり、どのような取り組みが必要かについて指導する。半年間の取り組みを振り返り、春休みの課題やゼミの計画について話し合う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

都村 聞人  
-----

### < 授業の方法 >

演習

### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基礎科目（ゼミナール）に位置づけられ、卒業論文のための基礎を身につける段階にある。

ゼミナールでは受講生各自の興味・関心テーマを深めていく。まず、各自のテーマに関連する文献を探索し、問題関心を深めてもらう。あわせて、「論文」とはどのようなものかについて学ぶ。次に、さまざまな研究・分析方法について学習し、自らのテーマに応じた研究方法を模索する。また、先行研究の論文を探索・調査しながら、各自のリサーチクエスチョンを立てる。そのうえで、パイロット調査を計画・実行し、研究課題の再検討を行っていく。同時に公的統計を調査・分析することにより、各自の研究課題の社会的背景を学ぶ。以上のプロセスを経て、卒業論文執筆の計画を立てる。

### < 到達目標 >

研究に必要な文献を探索できる。

文献の概要、課題などについて、報告することができる。

論文とはどのようなものかを理解し、説明することができる。

さまざまな研究方法があることを学び、研究テーマに沿った適切なアプローチを選択できる。

興味・関心に基づき、適切なリサーチクエスチョンを立てることができる。

自らの研究テーマに関する先行研究の論文を探索できる。

先行研究の到達点を整理し、自らの研究課題を立てることができる。

パイロット調査を計画・実行し、本調査に役立てることができる。

自らの研究テーマに関する公的統計を調査・分析し、研究課題の背景をまとめることができる。

卒業論文執筆の大まかな計画を立てることができる。

### < 授業のキーワード >

卒業研究、卒業論文、文献調査、研究方法、調査

### < 授業の進め方 >

受講生各自の作業、発表、議論を中心に進める。

### < 履修するにあたって >

ゼミナールなので、積極的・主体的に取り組んで欲しい。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、卒業論文のテーマに対する関心を深め、情報を集め、文献を積極的に読みましょう（目安として1時間程度）。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください（目安として1時間程度）。

### < 提出課題など >

授業中の作業結果を提出してもらいます。

（フィードバック：各自の作業結果に対してコメントを行い返却します。）

レポートを提出してもらいます。

（フィードバック：各自のレポートに対してコメントを行い返却します。）

### < 成績評価方法・基準 >

ゼミにおける報告（40%）

レポート（50%）

ゼミにおける質疑応答（10%）

### < テキスト >

配布資料により授業を行う。

### < 参考図書 >

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

### < 授業計画 >

第1回 文献の必要性と探し方

卒業研究における文献の必要性を理解し、文献探索方法を知る。

第2回 「論文」とはどのようなものか？

卒業論文の概要を理解する。

第3回 「論文」とはどのようなものか？

論文の輪読（問題の背景、先行研究の整理、問題設定について読解しよう）。

第4回 「論文」とはどのようなものか？

論文の輪読（分析結果、結論と今後の課題について読解しよう。また、参考文献、注の書き方を学ぼう）。

第5回 文献講読レポート発表

各自のテーマに沿って探索した文献の概要、考察結果に

ついて報告する（第1グループ）。

第6回 文献講読レポート発表  
各自のテーマに沿って探索した文献の概要、考察結果について報告する（第2グループ）。

第7回 文献講読レポート発表  
各自のテーマに沿って探索した文献の概要、考察結果について報告する（第3グループ）。

第8回 さまざまな研究方法を知ろう  
配布資料により、さまざまな研究方法の概要を学習する。

第9回 さまざまな研究方法を知ろう  
興味がある研究方法、自らのテーマに適合した方法を考える。

第10回 リサーチクエスチョンを立てよう  
リサーチクエスチョンとは何かを学習し、各自のリサーチクエスチョンを考える。

第11回 研究倫理について考えよう  
調査研究を行う際の研究倫理について学ぼう。

第12回 公的統計から関心テーマを深める  
公的統計を探索し、各自の研究テーマの社会的背景を学習しよう。

第13回 公的統計から関心テーマを深める  
公的統計を探索し、各自の研究テーマの社会的背景を学習しよう。

第14回 研究テーマ、分析課題、調査方法などについて再検討  
研究テーマ、分析課題、調査方法などについて再検討を行う。さらに春休みに進める作業について計画する。

第15回 研究テーマ、分析課題、調査方法などについて再検討  
研究テーマ、分析課題、調査方法、先行研究などについて再検討を行う。さらに春休みに進める作業について計画する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

中野 雅至  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は四回生時の卒業論文の作成に当たって有用な様々な調査・分析手法を教授する

なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

< 到達目標 >

卒業論文作成に必要な調査能力などを身につけることができるようにする

< 授業の進め方 >

各自が議論など積極的な授業参加を通じて授業を進めていく

< 授業時間外に必要な学修 >

予習 1 時間、復習 1 時間を行うこと

< 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

< 成績評価方法・基準 >

各自が行うプレゼンテーション（70%）

授業参加（30%）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方などについて解説する

第2回 テーマ探し（1）

各自がテーマをどのように選ぶのかについて授業を行う

第3回 テーマ探し（2）

各自がテーマをどのように選ぶのかについて授業を行う

第4回 テーマ探し（3）

各自がテーマをどのように選ぶのかについて授業を行う

第5回 必要な文献の購読（1）

必要な文献を読み込み議論を行う

第6回 必要な文献の購読（2）

必要な文献を読み込み議論を行う

第7回 必要な文献の購読（3）

必要な文献を読み込み議論を行う

第8回 中間報告

これまでの学びについて中間報告を行う

第9回 必要なデータ・統計の把握方法について（1）

必要なデータや統計をどのように取るのかについて解説・議論を行う

第10回 必要なデータ・統計の把握方法について（2）

必要なデータや統計をどのように取るのかについて解説・議論を行う

第11回 必要なデータ・統計の把握方法について（3）

必要なデータや統計をどのように取るのかについて解説・議論を行う

第12回 各自のプレゼン（1）

各自が卒業論文のテーマなどについてプレゼンを行う

第13回 各自のプレゼン（2）

各自が卒業論文のテーマなどについてプレゼンを行う

第14回 各自のプレゼン（3）

各自が卒業論文のテーマなどについてプレゼンを行う

第15回 授業の振り返り

これまでの授業の中身を振り返る

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

中村 恵

-----  
< 授業の方法 >

演習 ( 対面授業 )

< 授業の目的 >

企業経営とはなにか。そこにおける仕事、求められる技能、そして将来のキャリアはどのようなものか、どのようなものであるべきか。

本ゼミにおいては、前期の学習を受けて、企業や組織における課題解決とその具体的な方法などについて、事例となる文献の吟味を行いながら、具体的な課題についてグループワークやディスカッションを通じて学びを深め、真に必要な技能そしてそのために求められるキャリアは、問題解決能力であることを理解することを目的とする。

なお、

( 1 ) 企業内の実態について記した文献、報告書

( 2 ) 統計データ資料

( 3 ) ビデオ映像

( 4 ) 教員作成資料

などを適宜参考にするとともに、訪問した企業の会社紹介ドキュメントを作成する。

本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成する。

連絡先 : nakamura@css.kobegakuin.ac.jp

< 到達目標 >

・日本の企業内の仕事とキャリアの実態について説明することができる

・職場における課題解決についてその例を挙げることができる

・職場における課題解決のための適切な方法を考え、具体的な例に適用することができる。

< 授業の進め方 >

主に教員作成の資料及び学生間のグループワークやディスカッションを通じて学びを深める。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習、文献講読、レジュメ・レポート作成などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

学生が作成したエッセイ、原稿等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上あるいは口

頭にてコメント等のフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

報告内容 ( 30% )、提出レポート ( 30% )、ディスカッションへの貢献度 ( 40% ) により評価する。

< 授業計画 >

第1回～第2回 職場の課題解決に関する文献レビュー ( 1 )

職場の課題解決に関する基本的な文献の案内と紹介を行うとともに、生産現場における課題解決に関する文献をレビューし、その方法論についてディスカッションを行う。

第3回～第4回 職場の課題解決に関する文献レビュー ( 2 )

事務・営業現場における課題解決に関する文献をレビューし、その方法論についてディスカッションを行う。

第5回～第6回 企業における仕事と課題解決の事例調査 ( 1 )

いくつかの特定の企業 ( 職場 ) を例にとり、ディスカッションを通してそこにおける具体的な課題の抽出を行う。

第7回～第8回 企業における仕事と課題解決の事例調査 ( 2 )

抽出された課題の解決のためには、どのような方法が適切かを検討し、具体的な解決策をグループごとに考える。

第9回～第10回 中間発表

それぞれのグループごとに課題解決策の中間発表を行うとともに、ディスカッションを通して修正点がないかを検討する。

第11回～第12回 企業における仕事と課題解決の事例調査 ( 3 )

中間発表時における議論での指摘、修正点を踏まえ、それぞれの課題解決策をさらにグループ内で検討し、その発表に向けた準備を行う。

第13回～第14回 最終発表

グループで考えた課題解決策の最終報告とその検討を行う。

第15回 最終コメントとふりかえり

発表された課題解決策がどれほど有効かについてゼミ全体で検討し、教員がコメントを行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

日高 謙一

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

ゼミナール で試作した制作物に対する人々の評価を調査し、修正を加え、制作物を完成させる。また、その制作物の効果的なマーケティング計画を策定し、テスト販

売する。実践的教育から構成される授業科目である。すべてのDPに関係するが、特にDP1に掲げる技能の獲得、DP2に掲げる表現力、DP3に掲げる社会に貢献しようとする態度の養うことを目的とする。

<到達目標>

マーケティング調査や社会調査の手法を用いて人々の未充足のニーズを見つけることができる。

人々のニーズを満たすものをデザインすることができる。製作物のマーケティング計画を作成することができる。

<授業の進め方>

個人あるいは2?3人の小グループでプレゼン、議論、修正のサイクルを繰り返す。

個人あるいはグループの企画に固有の知識やスキルは、授業時間外に各自、各グループで獲得するよう計画を立てて進める必要がある。

<履修するにあたって>

「マーケティング」および「ものづくり論」を履修することが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

ユーザーリサーチやものづくり案の検討に授業時間外に少なくとも30時間の学修、あるいは活動が必要である。

<提出課題など>

リサーチ手法の練習成果や、ユーザーリサーチ結果の発表とそのレポート、ものづくり企画案の発表とそのレポートを課す。それぞれの課題に対して、調査件数、調査の質、考察の深さを評価する。授業内で講評あるいはmanabaを通じてコメントする。

<成績評価方法・基準>

発表やレポートへの評価(50%)とものづくりのプロセスへの関与の度合い(調査や試作品の製作に費やした時間、50%)も考慮し総合的に判断する。

<授業計画>

第1回 ものづくり企画案の相互評価

夏季休暇中に各自が調査した結果や、製作した試作品を発表し、履修者相互で評価し合う。

第2回 ユーザーリサーチ手法の振り返り

ゼミナール で学んだユーザーリサーチ手法を振り返り、実践する上での課題を見つけ、それをどう克服するか議論する。

第3回 ユーザーインタビューの練習

ゼミナール でも行なったユーザーインタビュー練習であるが、さらにインタビュースキルを磨くために、各自のインタビュー結果をもとに改善点を見つけ出し、インタビューの質を向上させるための訓練を行う。

第4回 ユーザーインタビューの練習

前回に引き続きユーザーインタビューの訓練を行う。2回のインタビュー練習のレポートを作成して提出する。

第5回 ラピッド・プロトタイピング

ラフスケッチを描いたり、手近にある材料を使ってアイデアを形にしたり、ビジュアル表現する練習を行う。

第6回 プロトタイプの製作

各自のものづくり企画案のプロトタイプを製作する。

第7回 プロトタイプの発表と修正

プロトタイプを披露し他の受講生からの意見を参考に修正する。

第8回 ものづくり企画案の発表

再度各自のユーザー調査結果と企画案を発表し、各自のものづくり企画案の改善点やユーザーリサーチの方法について議論する。

第9回 理論背景、既存製品の検討

各自のものづくり企画案の理論的根拠となる理論、その理論を学ぶための文献を調査したり、各自のものづくり企画案と競合すると考えられる既存製品を見極めたりする。

第10回 ものづくり企画書の作成

価値ポジショニングマップ、ビジネスプランマップを用いて各自のものづくり企画書の書き方を学ぶ。

第11回 ものづくり企画書の作成

前回で学んだことにもとづき各自企画書を作成する。

第12回 最終発表の準備

個別指導により企画書の添削や改善点お指導を受け、企画書を練り上げていく。

第13回 最終発表の準備

個別指導により企画書の添削や改善点お指導を受け、企画書を練り上げていく。

第14回 ゼミナールのテーマの振り返り

このゼミナールが何を目指してきたのか、自分はどこまで到達できているのかを振り返り、就職活動の際のエントリーシートでゼミの活動内容をどのように記述すればよいかアドバイスする

第15回 ものづくり企画案の発表

ゼミナール を通じて1年間のプロセスと到達点を個人ごとにまとめ発表する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

前田 拓也  
-----

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に従い、(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策を探究することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目(ゼミナール)に位置づけられ、卒業論文のための基礎を身につける段階にある。ゼミナールIIIでの学習を踏まえ、卒論のテーマを

確定させることを目指す。

さまざまな「社会問題」について「自分の興味関心」に基づいてテーマを設定し、文献・資料・データの収集と分析をおこない、最終的に自分自身の社会問題に一定の答えを見出すという目標はそのままに、そこへ至る具体的な積み上げ作業に少しずつ入っていくことになる。

仮の卒論テーマを設定するとともに、テーマをより深く理解するための先行研究となる文献を各自で調査し、実際に読んでいく。そうした作業をとおして、設定したテーマの妥当性と是非、現時点でわかっていることとわかっていないこと、現実的な調査プランなどを探し出し、その実現可能性を含めてゼミ全体でディスカッションをおこなっていく。

#### <到達目標>

- ・自身の関心に従って、研究テーマを確定することができる。
- ・テーマに沿った研究計画を策定し、先行研究を探索できる。
- ・さまざまな社会調査の方法があることを学び、卒論のための社会調査を計画することができる。

#### <授業のキーワード>

社会調査 / 質的調査 / フィールドワーク / エスノグラフィ

#### <授業の進め方>

文献を精読する。前半は、おもに指定したテキストを、後半は、受講者それぞれの関心、テーマに沿った文献を講読する。

#### <履修するにあたって>

- ・ゼミは授業を一方向的に「聴く」ためにあるのではなく、受講生全員で議論をおこなうためにあります。積極的な発言を期待します。
- ・前期科目「質的調査法」を併せて履修することが望ましい。

#### <授業時間外に必要な学修>

- ・事前学習：自身の卒論テーマに関して、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくことで一定のイメージをつかんでおくこと（目安：1時間程度）。
- ・事後学習：収集した資料（調査によって得られたデータ、各種統計資料、文献など）を再確認し、精査すること（目安：1時間程度）。

#### <提出課題など>

- ・授業でおこなったプレゼン資料の提出（授業中にコメントする）
- ・レポート（後期以降の研究計画書）の提出（各自のレポートにコメントする）

#### <成績評価方法・基準>

ゼミにおける発表 50%、レポート 40%、ゼミにおける質疑応答 10%

#### <テキスト>

前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編『最強の社会調査入門 これから質的調査をはじめるときのために』（ナカニシヤ出版、2016年）

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

授業の進めかたについてあらためて説明すると同時に、受講者の自己紹介などをおこなう。

##### 第2回 研究計画立案の方法と手順

卒論の研究計画の立案と方法について、注意すべきことなど、ポイントを具体的に解説する。

##### 第3回 研究計画・準備

具体的な卒論計画書を発表し、大学生活最後の1年間のなかでどのように卒論を仕上げていくか、そのウイションを共有する。

##### 第4回 研究計画プレゼン 1

4?5名ずつ、卒論の研究計画（現時点でのテーマ設定と調査計画の立案）についてプレゼンをおこなう。

##### 第5回 研究計画プレゼン 2

4?5名ずつ、卒論の研究計画（現時点でのテーマ設定と調査計画の立案）についてプレゼンをおこなう。

##### 第6回 指定文献の講読と発表 1

指定テキストの各章のレジюмеを、作成し、内容の要約とコメントを発表する。

##### 第7回 指定文献の講読と発表 2

指定テキストの各章のレジюмеを、作成し、内容の要約とコメントを発表する。

##### 第8回 文献の講読と発表 1

卒論のテーマにかかわる文献を要約したレジюмеを作成し、内容とコメントを発表する。

##### 第9回 文献の講読と発表 2

卒論のテーマにかかわる文献を要約したレジюмеを作成し、内容とコメントを発表する。

##### 第10回 研究倫理の理解と確認

調査研究を行う際の研究倫理について学ぶとともに、今後の注意点を確認する。

##### 第11回 リサーチクエスチョンを立てる 1

リサーチクエスチョンとはなにかを学ぶとともに、各自で卒論のためのリサーチクエスチョンを立てる。

##### 第12回 リサーチクエスチョンを立てる 2

リサーチクエスチョンとはなにかを学ぶとともに、各自で卒論のためのリサーチクエスチョンを立てる。

##### 第13回 予備調査の結果報告 1

パイロット調査の結果について報告し、今後の分析課題や調査方法について再検討をおこなう。

##### 第14回 予備調査の結果報告 2

パイロット調査の結果について報告し、今後の分析課題

や調査方法について再検討をおこなう。

#### 第15回 授業全体のまとめ

これまでの授業内容の要点を振り返ると同時に、後期からの学びとの関連を明確にする。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

松田 ヒロ子

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業の目的は、香川県小豆島の地域活性化事業に参加することを通じて、日本の地域社会が直面する課題に対する理解を深め、課題解決能力を高めることです。夏休みに実施する地域住民に対するインタビューやアンケート調査をもとに、現状を分析し、今後の地域活性化の方策のあり方について住民とともに考えます。この科目は現代社会学部のDPに示される、現代社会を多面的、総合的に理解する力を養い、グローバルな視野と豊かな教養を身につけることをねらいます。

< 到達目標 >

- (1) 小豆島をはじめとする日本の地域社会の現状について学び、課題を分析し、他者と議論することができる。
- (2) フィールドワークで得たデータを分析し、その結果をもとに課題解決の方策を考えることができる。
- (3) 地域住民とともに地域の課題について考え、議論し、自らの考えを表明することができる。

< 授業の進め方 >

前半は、夏休みに実施した地域調査の結果について検討し、ゼミで議論します。その結果を小豆島の住民をはじめとして広く社会に発信します。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中に実施する課題の準備など約2時間。

< 提出課題など >

提出課題に対するフィードバックは授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の議論への参加、貢献(60%)、調査結果のまとめや分析などの課題(30%)、調査報告会でのプレゼンテーション(10%)

< 授業計画 >

#### 第1回 ガイダンス

授業の進め方や成績評価について説明します。

#### 第2回 アンケート調査結果の検討(1)

夏休みに実施したアンケート調査の結果を検討します。

#### 第3回 アンケート調査の結果の検討(2)

夏休みに実施したアンケート調査の結果を分析します。

#### 第4回 インタビュー調査の結果の検討(1)

夏休みに実施したインタビュー調査の結果を分析します。

#### 第5回 インタビュー調査の結果の検討(2)

夏休みに実施したインタビュー調査の結果を分析します。

#### 第6回 地域調査結果の分析

夏休みに実施したインタビュー調査とアンケート調査を総合して分析、検討します。

#### 第7回 課題解決策の検討(1)

地域調査の結果をもとに、小豆島の地域社会が直面している課題の課題解決策について議論します。

#### 第8回 課題解決策の検討(2)

地域調査の結果をもとに、小豆島の地域社会が直面している課題の課題解決策について議論します。

#### 第9回 行政との意見交換

小豆島土庄町役場職員の方々や地域おこし協力隊員と、調査結果と課題解決策について、オンラインで意見交換します。

#### 第10回 調査報告会の準備(1)

小豆島の住民の前でこれまでの調査の結果を報告するためのプレゼンテーションの準備を行います。

#### 第11回 調査報告会の準備(2)

小豆島の住民の前でこれまでの調査の結果を報告するためのプレゼンテーションの準備を行います。

#### 第12回 調査報告会

これまでの調査の結果を小豆島の住民等の前で発表し、議論します。

#### 第13回 報告会のふりかえり

調査報告会を振り返り、到達できたことや今後の課題について話しあいます。

#### 第14回 卒業研究への応用(1)

これまで学んだことを卒業研究にどのように応用するか考えます。

#### 第15回 卒業研究への応用(2)

これまで学んだことを卒業研究にどのように応用するか考えます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

本ゼミナールでは、来年度に卒業論文を執筆するにあたり必要となる調査や研究の方法について学習する。また、各自の研究テーマを決定し、先行研究や資料を収集した

うえで、研究の土台となるレポートを作成する。  
学習のための事例としては、在日朝鮮人研究領域からいくつか代表的なものを取り上げ、かれ／かのじよのうち、家父長主義や純血主義のもとで周縁化されがちな人々が、「民族」概念を生活レベルにおいて主体的に再定義しようとする言説実践を紹介する。それを通して、調査対象者を紋切り型の視点から捉えるのではなく、その語りや行為に根差して実践のあり方を詳細に記述していくことこそが、対象の理解につながるということを学ぶ。  
<到達目標>

卒業論文のテーマについて説明できる。

卒業論文作成のために、必要な文献資料を収集する能力を身につける。

自身のテーマに合った調査・研究方法を選択するために、様々な方法論に興味を持つ。

<授業の進め方>

論文の講読と、各自の研究計画発表を同時に進めていく。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミでの課題を自ら発見すること（目安として1時間程度）。

研究発表担当回のレジュメ作成、プレゼンテーションの準備

<提出課題など>

・先行研究のレビュー

・レポートの進捗状況に関する報告書

（ゼミ中にコメントすることでフィードバックする）

・期末レポートなど

（manaba上でコメントすることでフィードバックする）

<成績評価方法・基準>

ゼミ発表（2回） 60%、レポート 40%

<テキスト>

授業中に適宜指示する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本ゼミナールのテーマや内容を紹介し、ゼミの進め方について打ち合わせを行う。

第2回 卒論テーマ発表

夏期休暇中に構想した簡単な研究テーマと研究計画を発表する。

第3回 卒論テーマ発表

夏期休暇中に構想した簡単な研究テーマと研究計画を発表する。

第4回 参考文献の収集

参考文献の検索・調査方法を学習し、実際に図書館やインターネットを利用して情報を収集し、文献リストを作成する。

第5回 論文の構造

学術論文における議論の組み立て方について、優れた論文を参照しながら学ぶ。

第6回 論文の構造

学術論文における議論の組み立て方について、優れた論文を参照しながら学ぶ。

第7回 研究テーマの本決定

教員とのディスカッションを通して研究テーマを決定し、さらには研究対象を設定する。

第8回 先行研究の批判的検討

自身の研究関心に関連した先行研究の内容を整理したうえで批判的に検討し、その内容について報告する。

第9回 先行研究の批判的検討

自身の研究関心に関連した先行研究の内容を整理したうえで批判的に検討し、その内容について報告する。

第10回 目的・問題意識の明確化

先行研究の検討を通じて浮かび上がってきた課題に基づき、教員とのディスカッションを通じて研究の目的と問題意識を明確化させる。

第11回 目的・問題意識の明確化

先行研究の検討を通じて浮かび上がってきた課題に基づき、教員とのディスカッションを通じて研究の目的と問題意識を明確化させる。

第12回 レポート作成

卒業論文の序論に該当する、研究の目的と背景、問題意識、先行研究の整理と研究の位置づけに関するレポートの作成を開始する。

第13回 レポートの進捗状況の確認

レポート作成の進捗状況を確認し、教員とのディスカッションを通じて研究計画の方向性について再検討する。

第14回 プレゼンテーション

各自作成したレポートの概要を報告し、ディスカッションを行う。

第15回 レポートの完成

プレゼンテーションでの議論を反映させ、レポートを完成させる。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

山本 努  
-----

<授業の方法>

テキストを使って演習をおこないます。受講生の皆さんは指定されたテキストの精読、質疑応答などを求められます。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jp

p にて連絡受け付けます。

#### < 授業の目的 >

DP (ディプロマ・ポリシー) の「(1) 現代社会の多面的、総合的な理解、(2) 諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法論や社会調査の基礎を学びます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

#### < 到達目標 >

1. 社会学や社会調査の基本的考え方を理解できるようになる。2. 社会分析の方法と精神を身につけて、自分で社会調査を設計できるようになる。

#### < 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

#### < 授業の進め方 >

・ 演習です(対面授業の予定です)。

・ 授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

・ 受講者の議論が授業の中心となります。積極的に発言して下さい。

#### < 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。ゼミですから、学生の主体的参加が求められます。ゼミでの議論を楽しめるようになって下さい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

・ 事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

・ 参考図書は課題の提出に必要になります。詳細はmanabaに示します。

#### < 提出課題など >

授業で指示します。必要に応じて、授業やmanabaでコメントします。

#### < 成績評価方法・基準 >

- ・ 課題の提出(50%)。
- ・ 授業中での質疑・報告(50%)。
- ・ 欠席が多い場合は単位は認定しません。

#### < テキスト >

授業で指示します。(ゼミナールの進行状況でテキストを決めることになります)

#### < 参考図書 >

バビー.E『社会調査法』培風館、谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査：プロセス編』ミネルヴァ書房

#### < 授業計画 >

第1回 社会学方法論 / 社会調査法入門(初歩の確認)

#### ガイダンス

連絡はmanabaに出します。

以後の授業も含めて。

第2回 社会学方法論 / 社会調査法入門(初歩の確認)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第3回 社会学方法論 / 社会調査法入門(初歩の確認)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第4回 社会学方法論 / 社会調査法入門(現地調査の成果を学ぶ)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第5回 社会学方法論 / 社会調査法入門(現地調査の成果を学ぶ)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第6回 社会学方法論 / 社会調査法入門(現地調査の成果を学ぶ)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第7回 社会学方法論 / 社会調査法入門(文献調査の成果を学ぶ)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第8回 社会学方法論 / 社会調査法入門(文献調査の成果を学ぶ)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第9回 社会学方法論 / 社会調査法入門(文献調査の成

果を学ぶ)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第10回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (自分がやる調査の企画を考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第11回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (自分がやる調査の企画を考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第12回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (自分がやる調査の企画を考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第13回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (社会調査入門できただろうか? 考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第14回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (社会調査入門できただろうか? 考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

伊藤 亜都子  
-----

< 授業の方法 >

演習、フィールドワーク

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示す思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、を見につけることを目指す。「地域」や「地域コミュニティ」に注目して、「災害に強いまちづくり」、「地域防災力の向上」、「復興まちづくり」、「地域活性化」、「地域社会での助け合い」などのテーマについて学びます。

卒業論文のテーマを決めて、研究を深めます。

< 到達目標 >

卒業論文のテーマを絞ること、卒業論文のテーマについて研究を進めること、地域社会でより主体的な活動ができるようになること、を目指します。

< 授業のキーワード >

地域防災、復興まちづくり、コミュニティ、共助

< 授業の進め方 >

自分たちでテキストを読んで勉強したり、資料を調べたり、まちを歩いたり、ヒアリングをしながら、災害時および日常時の地域社会について学びます。

学外に出かけることもあります。

対面授業。

< 授業時間外に必要な学修 >

地域調査に行く前の予習、調査に行ったあとのまとめ、など。

< 提出課題など >

調査報告書、プレゼンテーション、レポートなど。レポートなどの課題は、添削の上、授業内で紹介、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的・自主的な取り組み態度50%、調査報告書とプレゼンテーション30%、レポート20%。

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンスと学習計画

半年間の授業の基本的な予定や進め方について説明します。また、意見を出し合って、学習や調査について計画をつくりま

す。

第2回 ゼミ内ワークショップ  
ワークショップ形式で、ゼミでの学習や活動としてやってみたいことについて意見を出し合います。

第3回 災害時の地域社会に関する調べ学習(1)

夏休みの課題研究について、それぞれが持ち寄って発表し、ディスカッションします。

第4回 災害時の地域社会に関する調べ学習(2)

前回の意見交換、ディスカッションをもとに、さらに調べるべきことについて学習し、課題研究を深めます。

第5回 キャリアデザイン学習(1)

現在の就職状況についてお話をうかがい、将来の目標や今後の大学生活においてすべきことについて見つめます。

第6回 学外での地域防災学習(1)

阪神・淡路大震災から神戸の復興、まちの復興にかかわってきた方に対して、ヒアリングを行います。

第7回 学外での地域防災学習(2)

阪神・淡路大震災から神戸の復興、まちの復興にかかわってきた方に対して、引き続きヒアリングを行います。

第8回 地域防災学習のまとめ

地域防災学習のまとめ:調べたこと、感じたこと、聞いたことについてどのようにまとめるか話し合います。

第9回 卒業論文の準備(1)

自分の卒業論文のテーマを絞り、そのテーマについて調べたことを各自発表、ディスカッションします。

#### 第10回 卒業論文の準備(2)

前回のディスカッションをもとに、さらに研究テーマについて深く調べて発表します。

#### 第11回 卒業論文の準備(3)

卒業論文の構成(案)を作成し、今後の研究計画や調査対象候補などについて考え、発表します。

#### 第12回 地域学習(1)

阪神・淡路大震災の復興まちづくりがすすめられた地域をあるき、当時の様子や語り次いでいくことについて考えます。

#### 第13回 地域学習(2)

前回の調査内容についてまとめ、人に伝わりやすいレポートを作成します。

#### 第14回 キャリアデザイン学習(2)

就職活動の状況について学び、グループワークに取り組みます。

#### 第15回 ふりかえりと整理

授業全体で行ったことを復習して全体をまとめた上で、残りの大学生活でどのような取り組み、学習内容が重要であるかについて考えます。春休みの活動計画をつくります。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

江田 英里香  
-----

#### < 授業の方法 >

グループワーク、ディスカッション、発表など演習形式での授業を中心とします。

#### < 授業の目的 >

SDGs、国内および開発途上国の子どもや教育における社会貢献について理解を深めます。

本講義を通して、SDGsの課題解決を目指したプロジェクトの企画立案とその実施を行います。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連します。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

#### < 到達目標 >

子どもをとりまく環境について学び、ボランティア活動実践に役立つ知識を取得することができる。

#### < 授業のキーワード >

子ども、教育、国際協力、ボランティア、社会貢献

#### < 授業の進め方 >

グループワークやディスカッションを中心に進めます。

積極的な姿勢で授業にのぞんでください。

#### < 履修するにあたって >

子どもの問題について知るためにフィールドに出ることもあります。そのため、授業以外の時間に振替を行うこともあります。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

インターネットのニュースや記事、新聞、文献などを用いて事前・事後学習各1時間程度

#### < 成績評価方法・基準 >

授業内での発言や小レポート 50%

ボランティア実践の参加 50%

これらを総合的に判断して評価します。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

全15回の授業の進め方について、ガイダンスを実施します。

##### 第2回 SDGsについてのワーク1

ゼミナール で学んだことを元にSDGsについて整理します。

##### 第3回 SDGsについてのワーク2

ゼミナール で学んだことを元にSDGsについて整理します。

##### 第4回 プロジェクト立案1

グループに分かれてプロジェクトを立案します。

##### 第5回 プロジェクト立案2

グループに分かれてプロジェクトを立案します。

##### 第6回 プロジェクト立案3

グループに分かれてプロジェクトを立案します。

##### 第7回 フィールドワーク1

プロジェクトを実施します。

##### 第8回 フィールドワーク2

プロジェクトを実施します。

##### 第9回 フィールドワーク3

プロジェクトを実施します。

##### 第10回 フィールドワーク振り返り1

プロジェクトに対する振り返りを行います。

##### 第11回 フィールドワーク振り返り2

プロジェクトに対する振り返りを行います。

##### 第12回 プロジェクトフィードバック1

プロジェクトに対する振り返りをもとに、事後のフィードバックを行います。

##### 第13回 プロジェクトフィードバック2

プロジェクトに対する振り返りをもとに、事後のフィードバックを行います

##### 第14回 プロジェクト報告

プロジェクトの報告会を行います。

##### 第15回 これからの社会とSDGs

ボランティアでできる子どものケアについて検討します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

佐伯 琢磨

-----

< 授業の方法 >

ゼミナールを通して、防災に関する専門知識を習得する。

【連絡先(メールアドレス、LMS)】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、

あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

ゼミナールでは、ゼミ内をA,B,C,Dの4チームに分け、各チーム(1チーム3~4人)ごとに、研究テーマを設定した。

ゼミナールでは、ゼミナールで進めた研究成果を基に、学会発表を目標に、研究テーマを設定し研究を自主的に進める。さらに、発表梗概やポスターの作成も行う。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

実際に、学会で発表できるレベルに到達することを目標とする。

< 授業のキーワード >

災害発生の原因、および時系列的な被害拡大原因を理解すること。

< 授業の進め方 >

途中段階で、研究の進捗状況などを確認することを目的に、プレゼンテーションを行ってもらおう。

< 授業時間外に必要な学修 >

研究テーマに関する文献収集など、自主的に取り組む姿勢が求められる。

< 成績評価方法・基準 >

途中段階でのプレゼンテーションなどを評価対象とする。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミナールの進め方について、説明する。

第2回 テーマ発表(A-1)および討議

Aチームの研究テーマについて、発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第3回 テーマ発表(B-1)および討議

Bチームの研究テーマについて、発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第4回 テーマ発表(C-1)および討議

Cチームの研究テーマについて、発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第5回 テーマ発表(D-1)および討議

Dチームの研究テーマについて、発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第6回 テーマ発表(A-2)および討議

Aチームの研究テーマについて、発表梗概に加えポスターを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第7回 テーマ発表(B-2)および討議

Bチームの研究テーマについて、発表梗概に加えポスターを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第8回 テーマ発表(C-2)および討議

Cチームの研究テーマについて、発表梗概に加えポスターを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第9回 テーマ発表(D-2)および討議

Dチームの研究テーマについて、発表梗概に加えポスターを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第10回 学会発表に向けた最終調整(1)

学会発表本番に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第11回 学会発表に向けた最終調整(2)

学会発表本番に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第12回 学会発表に向けた最終調整(3)

学会発表本番に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第13回 振り返り、まとめ(1)

学会発表本番を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

第14回 振り返り、まとめ(2)

学会発表本番を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

第15回 振り返り、まとめ(3)

学会発表本番を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

中田 敬司

-----

< 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。前期に学んだことをさらに進展させていく。災害時の医療緊急援助の課題を整理し、具体的活動について検討する。大規模災害における医療緊急援助を行うには、高度な専門知識とトレーニングが求められる。そのために平常時においてもさまざまな訓練をおこなっていかなければならない。本ゼミナールでは、国際緊急援助隊医療チーム研修・訓練や日本DMAT研修・訓練等の際に実施されるシミュレーションを教材にしながら、医療緊急援助の際の活動内容を参加型のワークショップなどで以下のことを目標に学んでいく。

なおこの授業の担当者は15年以上災害医療分野に関わった実務経験のある教員である。また、実践的教育から構成される科目である。よって実際の現場事例の提示が可能でよりわかりやすい授業としたい。

< 到達目標 >

- 1 前期に学んだ災害時医療活動の課題について理解する。2CSSATTTと言われる災害時の組織的医療活動について理解する。
- 3 組織論について理解しこれらの応用ができる。
- 4 ロジスティクスの重要性について理解できる。
- 5 国内の急性期医療活動について理解でき、対応を考えることができる。
- 6 国際災害支援等の特殊性について理解でき、対応を考えることができる。
- 7 NGOや政府医療チームメンバーとして災害現場に赴いて頑張りたいと意識できる。

< 授業のキーワード >

災害 災害医療 トリアージ 保健衛生 PTSD

< 授業の進め方 >

講義とともに小グループでのワークや学外での調査・研修会参加を行う。

< 履修するにあたって >

グループワークではリーダーシップ、メンバーシップを發揮して欲しい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外の時間を活用して調査等の活動を実施する。

事前・事後学習にそれぞれ1時間程度。

< 提出課題など >

レポート提出>レポートの内容について、従業の中でモデル事例等を示し講評や解説を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

適宜レポート・課題提出 80% 発表 20%

< 参考図書 >

災害医学 改訂2版 南山堂

DMAT完全マニュアル メディカ出版

災害看護学 メジカルフレンド社 他

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義目的と講義進行方法・評価基準

第2回 災害医療の課題整理

災害医療の課題の整理(前期の復習)と後期の研究計画策定

第3回 CSCATTT

災害時の組織的医療活動と実際

第4回 組織論・リーダーシップ論

一般的組織・リーダーシップの考え方と組織的医療活動の考察

第5回 災害対応機関

国際災害を含む様々な災害対応機関について確認する。

第6回 災害活動・DMAT

災害医療活動としてDMATの活動を学ぶ。

第7回 DMAT調査の整理

災害医療活動におけるDMAT活動の調査内容整理

第8回 災害活動・日赤医療救護班

災害医療活動として日赤医療救護班の活動を学ぶ。

第9回 日赤医療救護班調査整理

災害医療活動における日赤医療救護班活動の調査内容整理

第10回 災害活動・日本医師会等

災害医療活動として日本医師会等の活動を学ぶ。

第11回 日本医師会等調査整理

災害医療活動における日本医師会等活動の調査内容整理

第12回 災害活動・消防機関

災害医療活動として消防機関・救急隊の活動を学ぶ。

第13回 消防機関調査の整理

災害医療活動における消防機関・救急隊活動の調査内容整理

第14回 調査活動・プレゼン準備

調査及び調査内容の整理とプレゼンテーションの準備

第15回 プレゼンテーションとディスカッション 整理と確認

前期・後期全体の振り返りと整理

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

船木 伸江

-----

< 授業の方法 >

講義 演習 実技

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2(思考力・判断力を身につける)に関連する科目である。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、神戸の地に大きな被害が発生した。震災以降、各方面で防災について学ぶこと(防災教育)、備えることの必要性が重視され

ている。ゼミナールでは、「防災教育」をテーマに、どのようにしたら防災に関心を持つ人が増えるか（意識啓発）、どのようにしたら楽しく防災を学べるか（防災教育の手法）、どのようにしたら防災の重要性を分かってもらえるか（伝え方）などについて学びを深めていく。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深め、学外での実習も含む実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

ゼミナールでは、前期に作成した教材を実際に小学校・地域などで実践して防災教育の普及に貢献する。また、継続して、震災語り部との交流、学外での防災教育イベントへのボランティア参加を通じて、伝える力や防災教育についても学んでいく。これらの活動を通じて、各自が興味を持つテーマを決定し、調査をスタートし、卒業研究への準備を始める。卒論に関して興味を持つテーマを見つける。

1. 阪神・淡路大震災を中心とした過去の災害についての勉強から、防災の基礎的知識をつける（知識）
2. 阪神・淡路大震災についての調べ学習、震災語り部の講話からより実践的な防災学習への学びを深め、次なる災害への解決法を考える力を養う。（知識、態度・習慣）
3. 習得した知識を小学生などに伝えることや、防災イベントへのボランティア参加により、防災への理解を深め、プレゼンテーション能力を養う（態度・習慣、技能）

<授業の進め方>

ワークショップなどを取り混ぜ、学外での授業も行います。

<授業時間外に必要な学修>

事前に授業のテーマとなる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

<提出課題など>

レポート

<成績評価方法・基準>

授業中の質疑、グループワーク、発表50%、レポート・課題提出50%

<授業計画>

第1回 授業ガイダンス

3年生後期で学ぶべき課題、つけたい力を各自で認識し、後期どのように過ごすか意思表示をする。

第2回 作成した教材を使った授業案を構成する

これまでのゼミで制作してきた防災教育教材をどのよう

に活用して防災教育出前授業を構成できるか検討する。その際に、これまでに行ったことのない学年への防災教育へチャレンジする。

第3回 学校との打ち合わせ

防災教育出前授業の授業案を作成し、授業の流れ、構成などの打ち合わせを行う。

第4回 授業準備

防災教育出前授業のための教材を準備し、授業案を練り直す。

第5回 模擬授業1

授業案に基づいた授業を各チームで行い、意見交換をする中で授業を改善していく。

第6回 模擬授業2

授業案に基づいた授業を各チームで行い、意見交換をする中で授業を改善していく。

第7回 防災教育出前授業

幼稚園、小学校、中学校などで各自が作成した教材と授業案に基づき、防災教育授業を行わせてもらう。

第8回 ふりかえり

授業での教材の提示方法、子どもへの声掛け、板書方法、授業の流れなどを振り返り各自の反省点を見つける。

第9回 語り部さんとの交流

阪神・淡路大震災の語り部と交流し、震災から21年が経過した今の心境を学ぶ。

第10回 防災分野の現状と課題について考える

これまでに学んできたことをベースに防災分野の課題を明確にし、その課題について調べていく（特に、各自が卒業論文として取り組みたいテーマに近い内容を選ぶ）。

第11回 各自が決定したテーマ（卒業研究）におけるプレゼン発表

防災分野の課題について、各自が卒業論文としてテーマに考えたい内容の本・論文・新聞記事などをベースに発表を行う。

第12回 各自が決定したテーマ（卒業研究）におけるプレゼン発表

防災分野の課題について、各自が卒業論文としてテーマに考えたい内容の本・論文・新聞記事などをベースに発表を行う。

第13回 各自が決定したテーマ（卒業研究）におけるプレゼン発表

防災分野の課題について、各自が卒業論文としてテーマに考えたい内容の本・論文・新聞記事などをベースに発表を行う。

第14回 各自が決定したテーマ（卒業研究）におけるプレゼン発表

防災分野の課題について、各自が卒業論文としてテーマに考えたい内容の本・論文・新聞記事などをベースに発表を行う。

第15回 各自が決定したテーマ（卒業研究）におけるプレゼン発表

防災分野の課題について、各自が卒業論文としてテーマに考えたい内容の本・論文・新聞記事などをベースに発表を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

前林 清和

-----  
< 授業の方法 >

演習（対面授業）ただし、9月20日（月）～10月2日（土）までの授業は、リアルタイム（ZOOM）で実施します。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する前期のゼミナールで行ってきた教材開発を引き続き行っていく。製品化された教材で、実際に附属中学校などで中学生に実施すべく、その指導法などを学び、実践する。後半は、4年生の卒業研究にむけて、個人の研究課題の決定、予備調査などを行い発表して、全体で討議する。また、社会貢献に関連する講演会や展示会などのマネジメントを実践を通じて学んでいく。

< 到達目標 >

1、ファシリテーターの能力が身に付く。（態度・習慣、技能）

2、学習プログラムの作成ができる。（知識、技能）

3、研究の進め方が身に付く。（知識、態度・習慣）

< 授業の進め方 >

グループ学習と個人研究

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

レポート提出とともに レポート内容について授業の中でフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度30%、レポート30%、プレゼンテーション40%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要、進め方、評価の方法

第2回 指導法事始め

指導とは

第3回 指導法1

レクチャーの方法

第4回 指導法2

ファシリテーションの方法

第5回 学習プログラムの作成を始める前に

学習プログラムの全体構想

第6回 学習プログラムの作成の開始

学習プログラムの内容の吟味

第7回 学習プログラムの作成と手法

学習プログラムのアクティビティの検討

第8回 学習プログラムの作成と教材

学習プログラムの教材の検討

第9回 学習プログラムの作成と発表

パワーポイントの内容の吟味と有効な使い方

第10回 学習プログラムの作成と成果

学習プログラムの実践練習

第11回 個人研究の事始め

個人研究の方法

第12回 個人研究のテーマ

個人研究のテーマの発表と討論

第13回 個人研究発表1

個人研究発表と討論

第14回 個人研究発表2

個人研究発表と討論

第15回 卒業研究にむけて

卒業研究にむけてのこれからの研究の方向性について教師と学生がディスカッションを行う

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

水本 有香

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2（思考力・判断力を身につける）に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。ゼミナールにおいて培った知見、ゼミナールにおいて自らが設定した課題を各自で持ち寄り、意見交換を行った上で、実社会の中で調査やワークショップなどを行う。そこから得られた経験を活かし、ゼミナール内の討論を通じて設定した課題に対する新たなアプローチを検討する。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

「持続可能な開発」、「多文化共生」、「多様性」、「市民参加」、「災害資料の保存」などのテーマを通じて各自およびグループ学習をおこない、理解を深めた上で実践する方法を考える。

< 授業のキーワード >

開発教育、国際協力、国際理解、自然災害

< 授業の進め方 >

少人数のグループワーク、調べ学習を取り入れます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

毎回、授業中に意見交換や発表、グループで作成した成果物及びレポートの提出などを求めます。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献（45%）、レポート等（25%）、及び発表（30%）により評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の全体、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 テーマの検討

日本、世界を取り巻く状況を学ぶ。

第3回 テーマ設定

グループで調査するテーマを検討する。

第4回 模擬国連の概要

模擬国連について学ぶ。

第5回 調査

途上国の状況について調査する。

第6回 調査

途上国の状況について調査する。

第7回 発表

グループで調査、分析した内容を発表する。

第8回 発表

グループで調査、分析した内容を発表する。

第9回 多文化共生

多文化共生について学ぶ。

第10回 調査1

多文化共生の現状について調査する。

第11回 調査2

多文化共生への意識調査を実施する。

第12回 分析

多文化共生に関する調査結果を分析する。

第13回 検討

新たな多文化共生を学ぶワークショップについて検討する。

第14回 提案

新たな多文化共生を学ぶワークショップについて提案する。

第15回 発表および講評

レポートや他者から発表による気付きを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

安富 信  
-----

< 授業の方法 >

前期の授業中や現地調査した項目を精査検証し、後期の発表に向けて研鑽し、1月に人と防災未来センターで行われる災害メモリアルアクションKOBÉで発表する。

< 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2（現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる）を身に付ける。災害時の公務員をはじめとする情報発信者の現場を知り、理解する。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

災害時の公務員らの情報発信について理解し、模擬記者会見をする。

< 授業のキーワード >

災害時の情報発信、記者会見、災害対策本部

< 授業の進め方 >

出来る限り、ワークショップ形式で議論しながら進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習復習に最低2時間以上かける。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

ゼミ授業、実習、調査を踏まえたプレゼン100%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方を説明する

第2回 災害対策本部概論

災害時に地方自治体などに設けられる災害対策本部を学ぶ

第3回 災害対策本部概論

災害対策本部の役割と仕事

第4回 災害対策本部現場

災害対策本部の現場を学ぶ

第5回 災害対策本部現場

災害対策本部の現場を学ぶ

第6回 災害対策本部 首長

災害対策本部と首長の関係について学ぶ

第7回 災害対策本部会議

災害対策本部会議とは？

第8回 災害対策本部会議  
災害対策本部会議の現場  
第9回 災害対策本部会議  
災害対策本部会議の進め方と考え方  
第10回 記者会見概論  
記者会見の考え方  
第11回 記者会見概論  
記者会見の実際  
第12回 記者会見開催  
記者会見の準備  
第13回 記者会見開催  
記者会見の準備  
第14回 記者会見開催  
模擬記者会見をやってみよう  
第15回 振り返り  
総括とプレゼン

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ゼミナール

松山 雅洋

-----  
< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は現代社会学部のDPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度の習得に該当する。

阪神淡路大震災で災害の被害軽減には、自助・共助・公助のそれぞれの備えと連携の大切さを我々は学んだ。ゼミナールでは、災害から命を守るをテーマに地域（自主防災組織）、企業、行政の防災への取り組みについて研究する。

この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防や危機管理部門での実務経験のある教員である。阪神淡路大震災や東日本大震災等の現場経験に言及しながら、より深い学びへとつなげていく。

< 到達目標 >

地域住民、企業、行政の減災への取り組みを理解する。  
ワークショップの進め方やプレゼンテーション能力を身につける。

読解力や社会常識を習得することができる。

< 授業のキーワード >

消防、危機管理、自主防災組織、災害から命を守る。

< 授業の進め方 >

自分たちで文献や資料を集め学習し、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンを行う。

< 履修するにあたって >

災害報道に関心を持ち、積極的に調べること。manabaの

使用方法を確認しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習と事後のまとめ学習。

< 提出課題など >

期末に課題レポートを実施する。manabaのレポートで講評する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的・自主的な取り組み態度40%、発表30%、期末の課題レポート30%

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

授業の概要・進め方、研究したいことについて話し合う。

第2回 レポートの作成要領

レポートの作成要領について学習する。

第3回 キャリアデザイン

希望職種を確認し、就職状況の現状と今後の就職に向けて準備すること等について調べる。

第4回 現地調査 の事前学習

関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるのか」等をグループで準備する。

第5回 現地調査

災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。

第6回 現地調査

災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。

第7回 現地調査 のまとめ

グループ毎に現地調査の結果をまとめる。

第8回 現地調査 の発表

グループ毎に現地調査の結果を発表し討議を行う。

第9回 現地調査 の事前学習

関連資料を集めて、「何を見に行くか」「何を調べに行くか」「何を撮影してくるのか」等をグループで準備する。

第10回 現地調査

災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。

第11回 現地調査

災害への備えについて、現地調査及びヒアリング等の調査を行う。

第12回 現地調査 のまとめ

グループ毎に現地調査の結果をまとめる。

第13回 現地調査 の発表

グループ毎に現地調査の結果を発表し討議を行う。

第14回 ゲストスピーカー

ゲストスピーカーの講話と意見交換

第15回 総括

授業全体の要点を確認し、学んだことの理解を深め、後期を展望する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

岩本 茂樹

-----

< 授業の方法 >

対面での演習授業です。

< 授業の目的 >

本ゼミナールでは、これまで学んできた現代社会の多面的、総合的な理解をベースに、業論文に向けた自己の研究テーマの研究を行う。このことを通して、現代社会学科ディプロマ・ポリシー3に準じた、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができる社会人の育成を目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるためよグループ学習指導の経験を生かした演習を行うものである。

< 到達目標 >

研究テーマの先行研究を整理し検討することから、独自の課題設定のもと、現代社会の問題解明と解決策貢献に向けた卒業論文の完成を目指し研究する。

< 授業のキーワード >

先行研究、卒論構想、論文技法

< 授業の進め方 >

個人研究を深め、さらに洗練させていくため、各自の研究経過報告を中心とする。また、ゼミナール全体の力量を高めるために積極的な討論を行う。

< 履修するにあたって >

各自、自己の研究を深化させ、経過報告を行うために十分な準備をすること、並びに報告時におけるプレゼン能力を磨くことがもめられる。合わせて、クラスのメンバーがともに力量を高められるよう、ゼミ生全員には積極的な議論参加が求められる。

< 授業時間外に必要な学修 >

課せられたステップに従って、研究を深化させると共に文章化に取り組むこと。予習1時間、復習1時間程度を行うこと。

< 提出課題など >

報告のためのレジュメ、並びに卒業論文を作成すること。

< 成績評価方法・基準 >

卒論に向けたレポート100%

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨN

ゼミナールの授業の進め方と内容の説明。

第2回 研究テーマと研究のアウトラインの発表(1)

各自の研究テーマ、その狙い、並びに研究手法と構想を発表する。

第3回 研究テーマと研究のアウトラインの発表(2)

各自の研究テーマ、その狙い、並びに研究手法と構想を発表する。

第4回 研究テーマの設定とアウトラインについて議論

ゼミ生メンバーの研究テーマと研究のアウトラインについて、相互に質疑応答を行い、より良い研究に向けて高め合う。

第5回 研究構想の修正

研究テーマとアウトラインの報告を経て、各自が研究修正案を提示する。

第6回 研究テーマと構想の再検討

各自の研究テーマについて、ゼミ全体の議論を経てブラッシュアップを行う。

第7回 研究の経過報告(1)

自己の研究の経過報告を随時行う。

第8回 研究の経過報告(2)

自己の研究の経過報告を随時行う。

第9回 研究の進展発表(1)

研究の進展発表と、議論することから研究精度を高める。

第10回 研究の進展発表(2)

研究の進展発表と、議論することから研究精度を高める。

第11回 研究の点検(1)

研究経過から引き出された疑問点や行き詰った点を各自提示し、議論することで、研究に弾みをつける。

第12回 研究の点検(2)

研究経過から引き出された疑問点や行き詰った点を各自提示し、議論することで、研究に弾みをつける。

第13回 新たな発見

各自の研究から導き出された新たな発見と、そのことから論文に追加するかどうかの検討を行う。

第14回 現段階の研究成果発表

現段階での各自の研究経過の報告と、夏休みの課題を提示する。

第15回 要点の整理と今後の課題

自己の「研究」を振り返るとともに、さらに深みのある研究と、卒業論文完成に向けた問題点を整理する。

-----

2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

岡崎 宏樹

-----

< 授業の方法 >

演習。各自の研究をゼミで発表する。

「6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合：対面授業(演習)」

< 授業の目的 >

この演習では、「社会と文化」を中心テーマとし、卒業

論文の作成に向けた研究の指導を行う。卒業研究に関しては、テーマ設定をより明確にし、先行研究の文献調査を進め、その内容をレポートにまとめる。また自らフィールドワーク調査を計画・実施し、結果を分析する。その成果をまとめてゼミで発表し、互いに切磋琢磨して研究を前に進める。

この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。現代社会学部のディプロマ・ポリシー1・2に関連する。

<到達目標>

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。プレゼンテーションや討論をおこなう高度な能力を修得する。

<授業のキーワード>

文化社会学

<授業の進め方>

演習授業。「社会と文化」に関連するテーマについて、調査・研究を進め、研究発表をおこなう。テーマや研究方法については個別に指導する。資料配布やレポート提出等にはmanabaを活用する。

<履修するにあたって>

演習は休まず出席・参加するのが原則です。積極的に主体的な取り組みを求めます。

<授業時間外に必要な学修>

「社会と文化」に関連するテーマについて、文献やフィールドワークによる調査・研究を進めること。レジュメや資料を作成し、研究発表の準備をおこなうこと。事前・事後学習各2時間程度。

<提出課題など>

発表のレジュメや期末レポートの提出が求められます。レポートの評価については個人指導の時間にフィードバックをおこないます。

<成績評価方法・基準>

授業内の取り組み(資料作成・発表・討論)80%、期末レポート20%

<テキスト>

使用しません。

<授業計画>

#### 第1回 インTRODクシヨン/ガイダンス

この演習の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しく説明し、相互の情報交換のためのグループワークを実施する。

#### 第2回 卒業研究の計画

卒業研究の制作に向けて、重要事項について解説する。各自の関心を社会学的な研究へと展開していく方法について検討する。

#### 第3回 課題設定と情報検索(1)

(1)各自で調査課題を設定する。(2)課題に関連した資料を収集する方法を検討し、関連する文献をまとめる。

#### 第4回 課題設定と情報検索(2)

(1)各自で調査課題を設定する。(2)課題に関連した資料

を収集する方法を検討し、関連する文献をまとめる。

#### 第5回 先行研究の検討(1)

研究テーマに関連する先行研究の文献を読み込んで、レジュメを作成する。

#### 第6回 先行研究の検討(2)

研究テーマに関連する複数の先行研究の文献を読み込んで、レジュメを作成する。

#### 第7回 プレゼンテーションの準備(1)

(1)収集した先行研究の内容をまとめる。(2)パワーポイント資料とレジュメを作成する。

#### 第8回 プレゼンテーションの準備(2)

(1)収集した先行研究の内容をまとめる。(2)パワーポイント資料とレジュメを作成する。

#### 第9回 プレゼンテーションの準備(3)

プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。明確かつ論理的に伝えることのできる資料作成の方法を学び、より良い話し方のトレーニングをおこなう。

#### 第10回 プレゼンテーション(1)

(1)各自でパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

#### 第11回 プレゼンテーション(2)

(1)各自でパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

#### 第12回 研究発表(1)

卒業研究に向けた各自の研究成果を発表し、全体で意見交換や討論をおこなう。

#### 第13回 研究発表(2)

卒業研究に向けた各自の研究成果を発表し、全体で意見交換や討論をおこなう。

#### 第14回 レポート作成

半年間のゼミを振り返りのレポートを作成する。

#### 第15回 全体の振り返りと研究指導

卒業研究をさらに深めるために何が課題であり、どのような取り組みが必要かについて指導する。半年間の取り組みを振り返り、卒業論文の計画を練る。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

都村 聞人  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指してい

る。

本科目は、専門基礎科目（ゼミナール）に位置づけられ、卒業論文のために本格的にスタートする段階にある。

卒業論文執筆に向け、研究計画、研究の進捗状況の発表および議論を行う。受講生は、各自の問題関心にしながら、研究テーマを定める。研究テーマに沿って、先行研究を探索し、研究計画を立てる。その際、調査、資料分析、2次データの分析など、受講生が自ら工夫して卒業論文を執筆できるよう留意する。研究計画については、ゼミナールにおいて発表し、受講生の議論により、相互に批判検討する。ゼミナールの後半では、研究の進捗状況を発表し、研究計画の見直しを行う。

<到達目標>

就職活動を見すえながら、卒業研究の年間計画を立てることができる。

予備調査を踏まえ、本調査の計画を立てることができる。

予備調査の結果を踏まえ、リサーチクエスチョンを適宜修正できる。

自らの研究の意義について、説明できる。

先行研究の到達点を整理し、自らの研究課題を立てることができる。

自ら立てた計画に基づき、本調査を行うことができる。

<授業のキーワード>

卒業研究、卒業論文、文献調査、調査計画と見直し

<授業の進め方>

受講生各自の作業、発表、議論を中心に進める。

<履修するにあたって>

ゼミナールなので、積極的・主体的に取り組んで欲しい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、卒業論文のテーマに対する関心を深め、情報を集め、文献を積極的に読みましょう（目安として1時間程度）。

事後学習として、授業時に提示された課題を完成し、提出してください（目安として1時間程度）。

<提出課題など>

授業中の作業結果を提出してもらいます。

（フィードバック：各自の作業結果に対してコメントを行い返却します。）

レポートを提出してもらいます。

（フィードバック：各自のレポートに対してコメントを行い返却します。）

<成績評価方法・基準>

ゼミにおける報告（40%）

レポート・課題（50%）

ゼミにおける質疑応答（10%）

<テキスト>

配布資料により授業を行う。

<参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

<授業計画>

第1回 インTRODクション

ゼミナール の進め方の説明、発表の分担、就職活動の状況の確認など

第2回 予備調査の結果報告（1）

各自のテーマに沿って行った予備調査の結果を報告する（第1グループ）。

第3回 予備調査の結果報告（2）

各自のテーマに沿って行った予備調査の結果を報告する（第2グループ）。

第4回 予備調査の結果報告（3）

各自のテーマに沿って行った予備調査の結果を報告する（第3グループ）。

第5回 リサーチクエスチョン、仮説の再検討

予備調査の結果をふまえて、リサーチクエスチョン・仮説を再検討する。

第6回 研究の意義の検討

卒業研究の意義について、再検討する。

第7回 本調査の準備（1）

各自のテーマ・研究方法に従い、本調査の準備作業を行う（問題設定の再検討）。

第8回 本調査の準備（2）

各自のテーマ・研究方法に従い、本調査の準備作業を行う（調査方法の再検討）。

第9回 本調査の準備（3）

各自のテーマ・研究方法に従い、本調査の準備作業を行う（調査項目の再検討）。

第10回 進捗状況の報告（1）

文献調査、公的データの整理、先行研究の整理、本調査の準備などに関して、進捗状況を報告する（第1グループ）。

第11回 進捗状況の報告（2）

文献調査、公的データの整理、先行研究の整理、本調査の準備などに関して、進捗状況を報告する（第2グループ）。

第12回 進捗状況の報告（3）

文献調査、公的データの整理、先行研究の整理、本調査の準備などに関して、進捗状況を報告する（第3グループ）。

第13回 本調査の実施（1）

具体的に本調査を開始し、随時状況報告する（第1グループ・第2グループ）。

第14回 本調査の実施（2）

具体的に本調査を開始し、随時状況報告する（第2グループ・第3グループ）。

第15回 夏休みに行う作業の確認

夏休みに行う作業について、検討する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中野 雅至

-----  
< 授業の方法 >

演習

連絡先は nakano@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目取扱いについて  
通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

< 授業の目的 >

このゼミナールでは、これまで学んできたことをベースにして卒業論文に向けた自己の研究テーマをより深めることを通じて、より深い知識と教養を身につけることを目的とする。なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

< 到達目標 >

研究テーマの先行研究を整理検討することから、独自の課題設定のもとに、卒業論文の完成に必要な研究能力を身につけることを目標にする。

< 授業の進め方 >

ゼミ生各自の研究経過報告を中心とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習 1 時間、復習 1 時間を行う

< 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

< 成績評価方法・基準 >

授業参加度（40%）、レジュメ・報告内容（40%）、プレゼンテーション能力（20%）

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

授業の進め方と内容を説明する

第2回 研究テーマの発表（1）

各自の研究テーマ、その狙いなどを発表する。

第3回 研究テーマの発表（2）

各自の研究テーマ、その狙いなどを発表する。

第4回 研究テーマについての議論（1）

各自の研究テーマについてゼミ全体で議論を行う。

第5回 研究テーマについての議論（2）

各自の研究テーマについてゼミ全体で議論を行う。

第6回 研究テーマの再検討（1）

ゼミ全体の議論を踏まえて各自の研究テーマをブラッシュアップする。

第7回 研究テーマの再検討（2）

ゼミ全体の議論を踏まえて各自の研究テーマをブラッシュアップする。

第8回 研究の経過報告（1）

各自が研究の経過報告を行う。

第9回 研究の経過報告（2）

各自が研究の経過報告を行う。

第10回 研究の進展発表（1）

研究の進展状況を発表する。

第11回 研究の進展発表（2）

研究の進展状況を発表する。

第12回 研究の点検（1）

研究の疑問点や行き詰まりなどを各自が提示して議論を行う。

第13回 研究の点検（2）

研究の疑問点や行き詰まりなどを各自が提示して議論を行う。

第14回 研究成果の発表（1）

現段階での研究成果の発表を行う。

第15回 研究成果の発表（2）

現段階での研究成果の発表を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中村 恵

-----  
< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この演習では、「仕事と産業」をテーマとした卒業論文のテーマ設定およびその作成に向けた指導を行う。ゼミ、ゼミで行ってきた統計分析やフィールド調査で得た結果をさらに発展させることを基本とし、それぞれの分析の不十分な点を論理的に詰める作業を行わせる。こうした学生の作業に関して常に学生相互で批判的に討論する場を設けることを通じて、ディスカッション能力及びコミュニケーション能力の陶冶にも力点を置く。なお、参考となる文献については適宜教員が支持をし、場合によっては読会を行う。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成する。

< 到達目標 >

・日本の企業組織と企業経営について説明することができる

・企業内の仕事とキャリアの実態について説明することができる

・卒論テーマに即した統計データを探索し、解析することができる

・卒論テーマに即した事例研究の方法を構築し、実行することができる。

< 授業の進め方 >

主に教員作成の資料、学生間のグループワークやディスカッション、及び学生個人のプレゼンテーションを通じて学びを深める。

< 授業時間外に必要な学修 >

文献の探索・講読、データ探索・分析などにおいて、予習・復習及びレジュメ作成などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

学生が作成した卒論草稿等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上あるいは口頭にてコメント等のフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

オンラインでなされた報告内容(30%)・提出レポート(30%)、オンラインでのディスカッションへの貢献度(40%)により評価する。

< 授業計画 >

第1回～第3回 ゼミナール ・ の成果の再検討  
ゼミナール ・ で得られた企業組織・企業経営に関する知識、アルバイト実態を踏まえた正社員と非正規社員に関する仕事とキャリアに関する成果の再検討を、グループワーク形式で行う。

第4回～第6回 文献レビュー

ゼミナール ・ の成果再検討結果を踏まえ、各自が設定した卒論テーマに即した参考文献を講読する。

第7回～第9回 統計データの探索

各自設定した卒論テーマに即した統計データを探索し、収集する。なお、事例研究を行う場合は、質問項目について検討する。

第10回～第12回 統計データの探索及び解析

引き続き、各自の卒論テーマに即した統計データの探索を続けるとともに、収集された統計の整理・解析を行う。なお、事例研究を行う場合は、質問項目の設定を続けるとともに、実際の事例調査の指導を行う。

第13回～第15回 中間発表

各自の卒論テーマ、構成の概略、使用データについての発表を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

日高 謙一  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

ゼミナール ・ で検討してきたものづくり企画案をさらに進めるため、ユーザ調査や試作品づくりを行う。そのプロセスを卒業論文としてまとめるために、論文作成の方法を学ぶ。これまで学んできた知識やスキルを活用し、DP2の思考力・判断力を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

学部で定める卒業論文様式にしたがい、5,000字以上の中間報告書を作成する。

< 授業の進め方 >

テキストにもとづく講義、演習、そして自らの卒業論文、ものづくり計画の見直しというサイクルで、ものづくりと卒業論文を完成させていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキスト予習に1時間、授業後自らのものづくりに関わったり、資料を検索したり、文献を読んだりしてアウトラインを育てるのに少なくとも1時間の復習が必要である。

< 提出課題など >

Semester終了後に個別に中間報告書の添削と指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

ものづくりの進捗度合(50%)と中間報告書(50%)によって評価します。

< テキスト >

戸田山和久、『論文の教室』、NHK出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

卒業論文の要件・様式等を学び、卒業論文のアウトラインを作成してみる。また、ものづくりと論文作成のタイムスケジュール作成する。

第2回 ものづくりプロセスの検討

ものづくりのクオリティを高める方法を検討し、今後の課題を整理する。

第3回? 第4回 論文とは何か学ぶ

テキストにもとづき論文とはどのようなものか学び、各自の論文課題を検討する。

第5回 デザイン思考再考

デザイン思考のものづくりとは何か講義と議論を通じて再考する。

第6回? 第7回 ものづくり課題の再考

追加的なユーザーリサーチを行ったり、試作物の製作したりしながら、これまで検討してきたものづくり課題をさらに絞り込む。

#### 第8回 アウトラインの再考

これまでの授業内容を踏まえ、第1回で作ったアウトラインを修正する。

#### 第9回? 第10回 アウトラインを育てる

テキストにもとづきアウトラインライティングの方法を学び、各自のアウトラインを成長させる。

#### 第11回 ものづくりのプロセスの発表

これまでのプロセスで勤めてきた調査結果を各自発表する。

#### 第12回? 第13回 正しい引用等の方法を学ぶ

テキストにもとづき、引用、参考文献、脚注のつけ方について講義し、追加的な資料検索を行う。

#### 第14回 中間報告書作成

各自の中間報告書を作成する。

#### 第15回 卒論中間報告

ゼミナールの成果として論文アウトラインに基づいた卒業論文の中間報告を行い、5,000字以上の中間報告書を提出する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

前田 拓也  
-----

#### < 授業の方法 >

演習形式 (対面)

#### < 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー (卒業認定に関する基本方針) に従い、(1) 現代社会の多面的、総合的な理解、(2) 諸課題の発見・把握及びその解決策を探求することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目 (ゼミナール) に位置づけられ、卒業論文のための社会調査および執筆を本格的にスタートさせる段階にある。

まず、4月中に卒業論文のテーマ (題目) を確定させる。その後、各人のテーマにもとづいて個別に発表をおこなうことを通して、必要な文献、資料、データ、およびこれまでの調査に加えてさらに実施すべき調査の計画などを明確化する。その際には、各自の分析および計画に関して学生相互に批判的に議論しあう場としたい。

最終目標を見つめつつ、学期末直前には論文のリサーチ・クエスチョンについて最終的な検討をおこなうと同時に中間報告書の作成をめざす。また、夏季休暇中に実施可能な調査計画も検討対象とする。

#### < 到達目標 >

- ・卒論執筆のための年間計画を立てることができる。
- ・先行研究の到達点を整理することができる。
- ・卒論のためのリサーチクエスチョンを立て、また、修正することができる。

・夏季休暇中の調査計画を立案できる。

#### < 授業のキーワード >

社会問題の社会学 / 社会調査 / 質的調査 / フィールドワーク / エスノグラフィ

#### < 授業の進め方 >

学生各自の研究進捗状況の報告を中心に進める。

#### < 履修するにあたって >

ゼミは、教員の授業や他の学生の発表を一方的に「聴く」ためにあるのではなく、その場にいる者が「議論をおこなう」ためにある。活発な議論を期待したい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

- ・事前学習: 卒論のテーマに関して、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくこと (目安: 1時間程度)。
- ・事後学習: 収集した資料 (調査によって得られたデータ、各種統計資料、文献など) を再確認し、精査すること (目安: 1時間程度)。

#### < 提出課題など >

- ・授業でおこなったプレゼン資料の提出 (授業中にコメントする)
- ・レポート (研究計画書) の提出 (各自のレポートにコメントする)

#### < 成績評価方法・基準 >

ゼミにおける発表 50%、レポート 40%、ゼミにおける質疑応答 10%

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

授業の進めかたについてあらためて説明すると同時に、発表の順番などを決定する。

##### 第2回 研究テーマの確定 1

卒業論文のテーマを確定させ、論文タイトルの妥当性について検討する。

##### 第3回 研究テーマの確定 2

卒業論文のテーマを確定させ、論文タイトルの妥当性について検討する。

##### 第4回 研究テーマの確定 3

卒業論文のテーマを確定させ、論文タイトルの妥当性について検討する。

##### 第5回 先行研究の到達点 1

テーマにかかわる先行研究を検討することをとおして、これまでなにが明らかにされ、なにがいまだ明らかになっていないのか明確化する。

##### 第6回 先行研究の到達点 2

テーマにかかわる先行研究を検討することをとおして、これまでなにが明らかにされ、なにがいまだ明らかにな

っていないのか明確化する。

#### 第7回 先行研究の到達点 3

テーマにかかわる先行研究を検討することをとおして、これまでになが明らかにされ、ながいまだ明らかになっていないのか明確化する。

#### 第8回 リサーチ・クエスチョンの確認 1

卒業論文で明らかにすべきリサーチ・クエスチョンの最終確認をおこなう。

#### 第9回 リサーチ・クエスチョンの確認 2

卒業論文で明らかにすべきリサーチ・クエスチョンの最終確認をおこなう。

#### 第10回 卒論執筆開始と中間報告 1

卒論のテーマにかかわる先行研究を読むにあたってのポイント、および、発表の方法について、具体的に解説する。

#### 第11回 卒論執筆開始と中間報告 2

卒論テーマに関連した代表的な先行研究・文献の内容についてレビューする。

#### 第12回 卒論執筆開始と中間報告 3

卒論テーマに関連した代表的な先行研究・文献の内容についてレビューする。

#### 第13回 卒論執筆開始と中間報告 4

卒論テーマに関連した代表的な先行研究・文献の内容についてレビューする。

#### 第14回 卒論執筆開始と中間報告 5

卒論テーマに関連した代表的な先行研究・文献の内容についてレビューする。

#### 第15回 授業全体のまとめ

これまでの授業内容の要点を振り返ると同時に、次年度からの学びとの関連を明確にする。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

松田 ヒロ子

#### ----- < 授業の方法 >

演習

#### < 授業の目的 >

この授業の目的は、卒業論文の作成に向けて各自の問題意識を明確化し、先行研究から学び、これまでに学んだことを応用して各履修者が社会調査を実施することです。研究計画の書き方や調査準備の段取りを学び、インタビュー調査の準備をしたりアンケート調査の項目を考えます。現代社会学部のDPが示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、現代社会における諸課題の発見、把握及びその解決策の探求と実践能力を養うことを目指します。

#### < 到達目標 >

(1) 自らの学術的な問題意識を深め、研究計画書を書くことができる。

(2) 自分の問題意識に沿って調査計画を立て、計画に従ってアンケート調査やインタビュー調査を行うことができる。

(3) 自分の研究テーマについて他者と議論したり、他者の研究について適切な質問やコメントをすることができる。

#### < 授業の進め方 >

履修者の発表と学生、教員との議論によって進めます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

学期中に3 - 4回発表の順番がまわってきます。発表準備のために2時間程度の準備が必要です。

#### < 提出課題など >

研究計画書を提出していただきます。授業中にフィードバックします。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業中のプレゼンテーションや研究計画書などを総合的に評価します。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

授業の進め方を説明し、発表者の順番などを決めます。

##### 第2回 問いを立てる(1)

各履修者が卒業研究の問題意識と仮説を発表し、他の履修者や教員と意見交換します。

##### 第3回 問いを立てる(2)

前週の議論を元に考え直した問いを発表し、さらに問題意識を深化させます。

##### 第4回 問いを立てる(3)

卒業論文の問いと仮説を確定させます。

##### 第5回 技法を選ぶ(1)

それぞれの問題意識に沿った調査の技法は何か検討し、調査の実施計画を立てます。

##### 第6回 技法を選ぶ(2)

調査の実施計画について教員や他の履修者と意見交換します。

##### 第7回 技法を選ぶ(3)

調査計画を確定させます。

##### 第8回 先行研究に学ぶ(1)

各履修者が先行研究との関連において自分の研究を位置づけます。

##### 第9回 先行研究に学ぶ(2)

各履修者が先行研究を発表し、教員や他の履修者と意見交換します。

##### 第10回 先行研究に学ぶ(3)

各履修者が先行研究との関連において自分の問題意識を明確にします。

##### 第11回 研究計画書を書く

研究計画書の書き方を学び、各履修者が実際に研究計画書を書きます。

##### 第12回 調査の準備(1)

各履修者がインタビューの項目を考えたり、アンケート

の調査票を作成します。

#### 第13回 調査の準備(2)

各履修者がインタビューの項目を考えたり、アンケートの調査票を作成するなど、実際の調査準備を行い、他の履修者や教員と意見交換します。

#### 第14回 調査の準備(3)

各履修者がインタビューの項目やアンケートの調査票を完成させます。

#### 第15回 ふりかえり

これまでの授業で学んだことをふりかえり、各自が夏季休暇中に実際に調査を行う際の注意点を確認します。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

李 洪章  
-----

#### < 授業の方法 >

演習

#### < 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

卒業研究に向け、自身が興味のあるテーマを設定し、それと関連する文献を精読する。受講者は文献の内容を整理したうえで内容の問題点を指摘するかたちで報告を行い、受講者間とのディスカッションを通して理解を深める。また、調査対象を選定し、予備調査を行い、卒業論文の骨子を作成する。その際、決して自分自身のテーマのみに関心を払うのではなく、他の受講者とのコミュニケーションを積極的に図ることで、より多角的な視点を獲得することを目指す。

#### < 到達目標 >

教員の指導のもと、テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方などを修得する。

#### < 授業の進め方 >

学生による卒論進捗状況報告をベースに進める。

#### < 履修するにあたって >

自らの研究報告のみならず、他の学生の報告にコメントすることも自身の学びにつながる。積極的な参加を求める。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと(目安として1時間程度)。

事後学習：配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミでの課題を自ら発見すること(目安として1時間程度)。

#### < 提出課題など >

計3回の発表資料

(ゼミ中にコメントすることでフィードバックする)

< 成績評価方法・基準 >

ゼミ中の発表と報告資料の内容 100%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 研究テーマの発表

春季休暇中に確定させた研究テーマを各自報告する。

第2回 文献検索

研究課題を絞り込むために文献検索を行う。また、各自その内容について報告する。

第3回 文献検索

研究課題を絞り込むために文献検索を行う。また、各自その内容について報告する。

第4回 文献抄読

研究課題を絞り込むために文献を抄読する。また、各自その内容について報告する。

第5回 文献抄読

研究課題を絞り込むために文献を抄読する。また、各自その内容について報告する。

第6回 研究目的の提示

研究の目的を明らかにするために、卒業論文のイントロダクションを執筆してみる。また、ディスカッションを通じて内容の問題点を明らかにする。

第7回 研究目的の提示

研究の目的を明らかにするために、卒業論文のイントロダクションを執筆してみる。また、ディスカッションを通じて内容の問題点を明らかにする。

第8回 研究の問題意識の提示

研究の問題意識を明らかにするために、先行研究を踏まえながら卒業論文のイントロダクションを執筆してみる。また、ディスカッションを通じて内容の問題点を明らかにする。

第9回 研究の問題意識の提示

研究の問題意識を明らかにするために、先行研究を踏まえながら卒業論文のイントロダクションを執筆してみる。また、ディスカッションを通じて内容の問題点を明らかにする。

第10回 調査計画の立案

各自、夏季休暇以降の調査計画を発表する。実現可能性や研究目的との整合性について検討する。

第11回 調査計画の立案

各自、夏季休暇以降の調査計画を発表する。実現可能性や研究目的との整合性について検討する。

第12回 調査計画の立案

当初に設定した研究目的に沿った計画が立案できているのかを確認するために、受講生間でのディスカッション

を実施する。

第13回 インタビュー・チェックリストの作成  
研究目的と調査計画をふまえ、インタビューのチェックリストを作成する。

第14回 インタビュー・チェックリストの作成  
研究目的と調査計画をふまえ、インタビューのチェックリストを作成する。

第15回 研究遂行上の注意点  
調査を進める上での倫理的な配慮について学ぶ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

山本 努  
-----

< 授業の方法 >

テキストを使って演習をおこないます。受講生の皆さんは指定されたテキストの精読、質疑応答などを求められます。

< 授業の目的 >

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法論や社会調査の基礎を学びます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

< 到達目標 >

1.社会学や社会調査の基本的考え方を理解できるようになる。2.社会分析の方法と精神を身につけて、自分で社会調査を設計できるようになる。

< 授業のキーワード >

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

< 授業の進め方 >

・卒業論文作成にむけての演習が中心です。

・授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

・受講者の議論が授業の中心となります。積極的に発言して下さい。

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。ゼミですから、学生の主体的参加が求め

られます。ゼミでの議論を楽しめるようになって下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

・参考図書は課題の提出に必要になります。詳細はmana baに示します。

< 提出課題など >

授業で指示します。

< 成績評価方法・基準 >

・課題の提出(50%)。

・授業中での質疑・報告(50%)。

・欠席が多い場合は単位は認定しません。

< テキスト >

授業で指示します。

谷・山本編『よくわかる質的社会調査：プロセス編』ミネルヴァ書房

\*この書物は問題意識の設定から、論文の完成までの手順を示しているので、手元にもっておいください。

< 参考図書 >

バビー.E『社会調査法』培風館

< 授業計画 >

第1回 社会学方法論 / 社会調査法入門(初歩の初歩)

ガイダンス

第2回 社会学方法論 / 社会調査法入門(初歩の初歩)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第3回 社会学方法論 / 社会調査法入門(初歩の初歩)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第4回 社会学方法論 / 社会調査法入門(量的調査の作品に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第5回 社会学方法論 / 社会調査法入門(量的調査の作品に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第6回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (量的調査の作品に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第7回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (質的調査の作品に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第8回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (質的調査の作品に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第9回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (質的調査の作品に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第10回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (文献調査の成果に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第11回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (文献調査の成果に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第12回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (文献調査の成果に触れる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第13回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (方法論・調査法に入門できたかどうか? 考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第14回 社会学方法論 / 社会調査法入門 (方法論・調査法に入門できたかどうか? 考えてみる)

社会分析の方法を考える文献や素材をもちより討議する

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

伊藤 亜都子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

本科目は現代社会学部DPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度を見につけることを目指す。

< 主題 > ゼミナールやこれまでに受講した授業、課外活動等で学んだ内容から選択したテーマについて、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていき卒業研究を進める。 < 目標 > 卒業論文の文章作成指導、相互発表を行い、論文の構成を進める

< 到達目標 >

卒業論文のテーマが確定し、研究を進め、中間発表を行うことができる

< 授業のキーワード >

卒業研究の準備

< 授業の進め方 >

各自が選択したテーマについて、個別に研究指導を行う。また、オンライン上で学生同士、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。発表会も行う。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

発表準備、卒業論文の調査、執筆など毎日2時間以上

< 提出課題など >

レポート。レポートについては授業内で解説する。

< 成績評価方法・基準 >

レポート・課題提出100%

< 授業計画 >

授業ガイダンス

4年生前期で行うべきことを確認し、卒業研究のテーマ設定を行うための資料準備を行う。

卒業論文に関するテーマ決定

研究テーマに関連する本、論文、新聞記事などを複数調べ、どのような視点で研究を行うかを決める。

文献の調べ方

論文を書くにあたり、図書の調べ方、文献の引用方法を学ぶ

調査の方法

質問紙、インタビュー、文献調査など、各自が設定したテーマに基づいた調査方法を選択し、調査の計画を立てる。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進め

る。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

#### 卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

#### 卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

#### 卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

#### 卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

#### 卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

#### 中間報告への準備

現時点での調査が終わっていること、今後の展開を整理し、中間発表で報告する内容をまとめる。

#### 中間報告への準備

中間報告会で発表する資料を作成する（パワーポイント）

#### 中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

#### 中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

#### 中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

江田 英里香

#### < 授業の方法 >

卒業論文執筆に向けて、研究のテーマ設定の方法、研究の進め方、論文の書き方などを演習形式で学びます。

レポートの提出等はmanabaで行います。

#### < 授業の目的 >

ゼミナールやこれまでに受講した授業、課外活動等で学んだ内容から選択したテーマから、卒業研究を選び、研

究を進める。本授業では、テーマの発表や意見交換を行い、具体的な研究テーマに絞り、卒業研究を目指す。

#### < 到達目標 >

卒業研究とする自分のテーマを深く掘り下げることができる。

研究テーマについて、参考文献や論文を調べ、まとめることができる。

卒業論文を構成することができる。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連します。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

#### < 授業の進め方 >

論文の書き方や資料の検索の仕方、引用の方法などを確認したうえで、それぞれのテーマ設定を行う。各自の研究については個別の指導を行うが、授業内での発表・質疑応答を通して、授業内での学びも深める。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文のテーマに沿った文献、インターネットの記事、ニュースなどを利用して事前・事後学習各1時間程度が必要です。

#### < 提出課題など >

研究計画書や研究レポートを課します。

それぞれに対するフィードバックは、授業内で随時行います。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業内での質疑、グループワークなど 50%

レポート、提出課題 50%

上記を総合的に評価をします。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

1年間を通して、取り組むべき内容を確認し、卒業研究の計画を立てます。

##### 第2回 資料収集の方法

論文執筆にあたり必要となる文献・論文の調べ方について学びます。また、それらの引用方法についても学びます。

##### 第3回 研究方法

研究方法について学び、自分の研究の方法を決めます。

##### 第4回 論文の書き方

論文の構成をはじめ、書き方について学びます。

##### 第5回 論文の構成と計画

自分の研究についての構成をまとめ、計画をたてます。

##### 第6回 論文の構成と計画

自分の研究についての構成をまとめ、計画をたてます。

##### 第7回 卒業論文のテーマ

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて研究を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

## 第8回 卒業論文のテーマ

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて研究を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

## 第9回 卒業論文のテーマ

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて研究を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

## 第10回 卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

## 第11回 卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

## 第12回 卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

## 第13回 中間報告会

各自のテーマに基づいて、これまでの研究をまとめたものを発表します。

## 第14回 中間報告会

各自のテーマに基づいて、これまでの研究をまとめたものを発表します。

## 第15回 今後の方針

今後の卒業論文の進め方について、計画と照らし合わせて、課題を明確にします。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

中田 敬司

### < 授業の方法 >

基本的には講義・演習(対面)を実施します。状況によってオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)の場合もあります。

連絡先 keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目取扱いについて通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。いつでも避難ができるよう準備してください。状況によっては休講にせずオンラインで授業する場合があります。zoomID他、manabaでも案内します。

### < 授業の目的 >

< 主題 > ゼミナールやこれまでに受講した授業、課外活動等で学んだ内容から選択したテーマについて、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていき卒業研究

を進める。< 目標 > 卒業論文の文章作成指導、相互発表を行い、論文の構成を進める

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

### < 到達目標 >

卒業論文のテーマが確定し、研究を進める

### < 授業の進め方 >

各自が選択したテーマについて、個別に研究指導を行う。また、学生同士、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。発表会も行う。

### < 授業時間外に必要な学修 >

授業に必要な資料をよく読むなど最低2時間以上予習復習する。

### < 提出課題など >

レポート

### < 成績評価方法・基準 >

オンライン発表40%、 レポート・課題提出60%

### < 授業計画 >

授業ガイダンス

4年生前期で行うべきことを確認し、卒業研究のテーマ設定を行うための資料準備を行う。

卒業論文に関するテーマ決定

研究テーマに関連する本、論文、新聞記事などを複数調べ、どのような視点で研究を行うかを決める。

文献の調べ方

論文を書くにあたり、図書の調べ方、文献の引用方法を学ぶ

調査の方法

質問紙、インタビュー、文献調査など、各自が設定したテーマに基づいた調査方法を選択し、調査の計画を立てる。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。  
卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

中間報告への準備  
現時点での調査が終わっていること、今後の展開を整理し、中間発表で報告する内容をまとめる。

中間報告への準備

中間報告会で発表する資料を作成する（パワーポイント）

中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

船木 伸江

-----  
< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

< 主題 > ゼミナールやこれまでに受講した授業、課外活動等で学んだ内容から選択したテーマについて、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていき卒業研究を進める。 < 目標 > 卒業論文の文章作成指導、相互発表を行い、論文の構成を進める

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

< 到達目標 >

卒業論文のテーマが確定し、研究を進める

< 授業の進め方 >

各自が選択したテーマについて、個別に研究指導を行う。また、学生同士、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。発表会も行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業に必要な資料をよく読むなど最低2時間以上予習復

習する。

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

発表40%、 レポート・課題提出60%

< 授業計画 >

授業ガイダンス

4年生前期で行うべきことを確認し、卒業研究のテーマ設定を行うための資料準備を行う。

卒業論文に関するテーマ決定

研究テーマに関連する本、論文、新聞記事などを複数調べ、どのような視点で研究を行うかを定める。

文献の調べ方

論文を書くにあたり、図書の調べ方、文献の引用方法を学ぶ

調査の方法

質問紙、インタビュー、文献調査など、各自が設定したテーマに基づいた調査方法を選択し、調査の計画を立てる。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

卒業論文の調査

各自が設定したテーマ、研究方法に基づいて調査を進める。各個人でテーマが異なるため、学生個別に課題を設定し、指導を行う。

卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

卒業論文に関するテーマの意見交換および調査

調査が進んでいるところまでをゼミ内で報告しあい、どのように研究を深めていくかを意見交換する。

中間報告への準備

現時点での調査が終わっていること、今後の展開を整理し、中間発表で報告する内容をまとめる。

中間報告への準備

中間報告会で発表する資料を作成する（パワーポイント）

中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

## 中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

## 中間報告会

各自が決めたテーマに基づいて前期の間の調査できたところまでの報告を行う（学年の学生全体の前で発表をする）

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

前林 清和

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。ゼミナールでは、3回生で行ってきた研究や実践活動をもとに、卒業研究論文作成にむけて、よりテーマを絞った個人研究にしばっていく。具体的には、各人が卒業論文の研究テーマを設定し、そのことについて研究発表する。今まで演習で得てきた理論や実践活動をもとに各人の関心や問題意識に応じたテーマを設定し、研究方法を確定しつつ、資料収集や文献調査、フィールドワークなどの研究を行う。

< 到達目標 >

1、研究論文の計画、作成方法が身に付く。（知識、態度・習慣、技能）

2、文献の収集、調査、フィールドワークの基礎を体得することができる。（知識、技能）

< 授業の進め方 >

学生の個人研究活動を中心に、アクティブラーニングの技法を駆使して展開していく。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

レポート。授業の中で、モデル事例等を示しフィードバックやコメントを行う。

< 成績評価方法・基準 >

討論時の意見内容、プレゼンの内容30%、活動内容40%、レポート30%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方と評価の方法

第2回 テーマ設定1

テーマ設定の基礎的知識

第3回 テーマ設定2

テーマ設定の方向性と実現可能性について

第4回 テーマ発表1

学生によるテーマ発表と討論

第5回 テーマ発表2

学生によるテーマ発表と討論

第6回 テーマ決定

学生一人一人のテーマの精査と決定

第7回 研究論文の形式

研究論文作成の基本的な形式について、文章の書き方、引用文献の扱いなどについて学ぶ

第8回 研究論文と先行研究

先行研究の意義とその検索方法、扱い方について学ぶ

第9回 研究論文の構成

論文の章立てについて学ぶ

第10回 個人研究発表1

学生一人一人が発表し討論する

第11回 個人研究発表2

学生一人一人が発表し討論する

第12回 全体研究指導

研究の進展の確認とこれからの方向性について

第13回 個人研究指導1

学生の個人個人の論文の問題点を指摘し指導する

第14回 個人研究指導2

学生の個人個人の論文の問題点を指摘し指導する

第15回 卒業研究作成のさらなる展開にむけて

学生が各自、自分の研究の現状を正確に把握し、後期までに何をすべきか全員で討論する

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

松山 雅洋

-----  
< 授業の方法 >

演習 講義

< 授業の目的 >

本科目は現代社会学部DPの思考力・判断力・表現力等の能力の習得、及び主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度に該当する。これまで、社会防災学科で学んだ理論や社会実績、実習での実践経験及びこれまでのゼミでの活動を基礎として、卒業研究のテーマを定め、研究の方法やスケジュールを確定する。研究の対象となるデータや資料の収集のための実態調査や調査先のとりまとめに努めます。さらに、ゼミ生間での定期的な意見交流を通じた卒業研究の課題や手法を深めていく。卒業後のキャリアデザインに、学んだことや体験したことを活かせるように、ディスカッションを通じて蓄積を進めていく。

なお、この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神

戸市の消防防災行政で実務経験のある教員である。実務経験を踏まえて、分かりやすく解説する。

<到達目標>

1. 卒業研究の具体的なテーマの設定とそのための目的の構築ができる
2. テーマに沿った研究の具体的な進め方や方法の構築ができる
3. 大学で学んだことや体験してきたことをキャリアデザインの具体化に活用できる

<授業のキーワード>

卒業研究のオリジナリティ、研究成果の社会的価値

<授業の進め方>

ゼミ全体でのディスカッションを通じて、他の人の研究の方法を学び、自己の進め方に活かす。

個別のヒアリングを通じて、細部の考え方や進め方の調整を行う。

<授業時間外に必要な学修>

研究テーマに沿った準備、調査を行う。

<提出課題など>

個別研究課題に関して逐次研究レポートを提出する。

<成績評価方法・基準>

研究テーマの意義、客観的説明構成、成果の妥当性の追求度で評価する。

<授業計画>

第1回 授業ガイダンス

卒業研究のテーマ設定のための意見交換を行う。

第2回～第4回 研究課題の題目と研究テーマの設定

研究課題の選定と絞り込みによるテーマの確定と研究目的の明確化を図る

第5回～第7回 研究内容の具体化のための方法の検討

研究のテーマと目的に沿う研究方法の具体化の方策を検討する

第8回～第10回 研究方法の具体化のための対象地区の選定

主題や副題に沿った具体的な対象地区の候補地を選び、

調査可能かを検討する

第11回～第13回 研究内容の中間発表

中間発表に備えての資料作成と発表の準備し、発表を行う

発表内容への質疑や要望の整理を行う

同期生の発表を聞いて、研究の方向性の確定や修正を行う

第14回～第15回 中間報告に向けた内容のとりまとめ

中間報告書の作成と提出をする

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

水本 有香  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のDP2-2(思考力・判断力を身につける)に関連する科目であり、グローバルな視野と豊かな教養による社会への貢献を行うことができることを目指す。これまでのゼミナールなどにおいて各自やグループで学習や調査、研究を深めてきたテーマなどを再検討する。また、各自の関心の強いテーマを設定した上で、その後、卒業研究を行い、卒業論文の執筆に必要な情報収集、情報の分析、論文の執筆までの段階を踏まえた学習を行う。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

<到達目標>

卒業研究を完成させることを通じて、一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。

<授業のキーワード>

開発途上国、貧困、国際協力、自然災害

<授業の進め方>

少人数のグループワーク、各自の調べ学習を取り入れます。

<授業時間外に必要な学修>

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、出席カードに記載するか、あるいは教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

<提出課題など>

毎回、授業中に意見交換や発表、作成した成果物及びレポートの提出などを求めます。学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

授業態度・授業への積極的貢献(45%)、レポート等(25%)、及び発表(30%)により評価する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の全体、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 テーマの検討

日本、世界を取り巻く状況を学ぶ。

### 第3回 テーマ設定

グループで調査するテーマを検討する。

### 第4回 研究計画の立案

各自が設定した計画に基づいて、観察、調査を進める。

### 第5回 研究計画の立案

各自が設定した計画に基づいて、観察、調査を進める。

### 第6回 研究計画の立案

各自が設定した計画に基づいて、観察、調査を進める。

### 第7回 データ分析・整理

各自が設定した計画に基づいて、観察、調査したデータを分析する。

### 第8回 データ分析整理

各自が設定した計画に基づいて、観察、調査したデータを分析する。

### 第9回 データ分析整理

各自が設定した計画に基づいて、観察、調査したデータを分析する。

### 第10回 経過報告

各自が設定したテーマに関して調査、分析した内容を発表する。

### 第11回 経過報告

各自が設定したテーマに関して調査、分析した内容を発表する。

### 第12回 経過報告

各自が設定したテーマに関して調査、分析した内容を発表する。

### 第13回 研究計画の見直し

自らが設定して研究内容の見直しを実施する。

### 第14回 提案

他者の設定した研究内容について提言する。

### 第15回 発表および講評

他者から発表による気づきを得て、自らの学習成果を発表する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

安富 信  
-----

#### < 授業の方法 >

卒業研究論文のための準備を進める。原則対面授業。  
特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）。  
避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。。

#### < 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2（現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解

決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる）を身に付ける。近年で最も難しかったといわれる危機管理下での情報発信である、東京電力福島第一原子力発電所での事故を徹底的に検証する。そのうえで、このゼミナールで行ってきた研究や実践活動をもとに、卒業研究論文作成にむけて、よりテーマを絞った個人研究にも絞っていく。具体的には、各人が卒業論文の研究テーマを設定し、研究方法を確定しつつ、資料収集や文献調査、フィールドワークをなどの研究を実施し、発表する。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

1. 情報発信の大切さを再確認する
2. 研究論文の計画、作成方法が身に付く。
3. 文献の収集、調査、フィールドワークの基礎を体得することができる。

#### < 授業の進め方 >

学生の個人研究活動を中心に、アクティブラーニングの技法を駆使して展開する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

最低2時間、予習、復習する

#### < 提出課題など >

なし

#### < 成績評価方法・基準 >

オンライン授業での発言など100%

#### < 授業計画 >

#### 第1回 ガイダンス

授業の進め方と卒業論文の考え方を説明する。

#### 第2回 原発事故などの情報発信 1

原発事故など究極の危機管理事象での情報発信の現状を再認識する。

#### 第3回 原発事故などの情報発信 2

究極の危機管理事象下での情報発信の重要性を学ぶ。

#### 第4回 テーマ設定 1

テーマ設定の基礎的知識を学ぶ。

#### 第5回 テーマ設定 2

テーマ設定の方向性と実現可能性を探る。

#### 第6回 テーマ発表

学生によるテーマ発表と討論

#### 第7回 テーマ決定

学生一人一人のテーマの精査と決定。

#### 第8回 研究論文の形式

研究論文作成の基本的な形式について、文章の書き方、引用文献の扱いなどについて学ぶ。

#### 第9回 研究論文と先行研究

先行研究の意義とその検索方法、扱い方について学ぶ。

第10回 研究論文の構成

論文の章立てについて学ぶ。

第11回 個人研究発表

各学生が発表し、討論する。

第12回 全体研究指導

研究の進展の確認とこれからの方向性について

第13回 個人研究指導 1

学生個人個人の論文の問題点を指摘し指導する。

第14回 個人研究指導 2

学生個人個人の論文の問題点を指摘し指導する。

第15回 卒論作成にむけて

学生が各自、自分の研究の現状を正確に把握し、後期までに何をすべきかを討論する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ゼミナール

佐伯 琢磨

-----  
< 授業の方法 >

ゼミナールを通して、防災に関する専門知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、

あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

「防災とは何か」を考える際に、対象となる「災害」の内容をまず把握する。一般的に「災害」は、自然災害、事故災害、社会的被害などに区分される。

まず、ゼミナールでは、ゼミナールで選定した災害と同種の災害分類に相当する他の災害を選定・調査し、「人間社会にどのような影響を及ぼしたか」を整理し、その中から「何を学ぶべきか」について討論する。さらに、議論を通して、「その影響度合いを無くす、または軽減するにはどのようなことをせねばならないか」について、各自が「卒業研究」作成に向けて、まとめる。なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

各自が「防災の重要性」を認識できること、およびディベート力向上を目標とする。

< 授業のキーワード >

災害発生の原因、および時系列的な被害拡大原因を理解すること。

< 授業の進め方 >

発表者の内容についてみんなで議論し、発表内容をより高次なものにしてゆく。

< 履修するにあたって >

将来、社会に出た際に役立つ内容と思われるので、積極的に参加すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

研究テーマに関する文献収集など、自主的に取り組む姿勢が求められる。

< 成績評価方法・基準 >

途中段階でのプレゼンテーションなどを評価対象とする。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミナールの進め方について、説明する。

第2回 災害事例とテーマの選定（1）

既往の主な災害を紹介し、テーマ選定をする。

第3回 災害事例とテーマの選定（2）

既往の主な災害を紹介し、テーマ選定をする。

第4回 テーマ発表および討議 1 -

グループの学生の研究テーマについて、パワーポイントを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第5回 テーマ発表および討議 1 -

グループの学生の研究テーマについて、パワーポイントを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第6回 テーマ発表および討議 1 -

グループの学生の研究テーマについて、パワーポイントを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第7回 テーマ発表および討議 2 -

グループの学生の研究テーマについて、パワーポイントに加え発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第8回 テーマ発表および討議 2 -

グループの学生の研究テーマについて、パワーポイントに加え発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第9回 テーマ発表および討議 2 -

グループの学生の研究テーマについて、パワーポイントに加え発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第10回 中間発表に向けた最終調整（1）

中間発表に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第11回 中間発表に向けた最終調整（2）

中間発表に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第12回 中間発表に向けた最終調整（3）

中間発表に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第13回 振り返り、まとめ（1）

中間発表を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

第14回 振り返り、まとめ（2）

中間発表を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

第15回 振り返り、まとめ（3）

中間発表を終えて、各グループそれぞれ振り返り、および

びまとめを行う。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 A

竹崎 淳子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業（基本的には教室での対面授業です。）

< 授業の目的 >

英語習得に必須な能力（読む、書く、聞く、話す）を組み合わせ、総合的な英語力の基礎を養成することである。同時に、英語圏ひいては世界の国々の社会、歴史、文化などについて学び、英語学習の動機づけ、目的を明確にし、これまでの中学・高校での基礎的な英語力を再学習し、英語に親しむ能力を養うことを目指す。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

実務（航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳）や留学経験のある教員による指導。

< 到達目標 >

基本的な会話表現やファンクション（描写、比較表現、過去）を文法や発音も確認しながら、特にアウトプット（スピーキング）に転換できるように、リピーティングやシャドーイングを織り交ぜ自律学習につなげられるように進める。

< 授業のキーワード >

Output, describing, inviting, comparing, talking about past experiences, asking questions

< 授業の進め方 >

基本的な英会話をベースとしたコミュニケーション演習の中で、リピーティング、シャドーイング、リスニングを多用して進める。声に出してのレッスンは語学学習では大事なので、積極的に発話することが必須です。

< 履修するにあたって >

毎回必ず辞書を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度

< 成績評価方法・基準 >

授業態度(参加度、コメント、質疑応答等) 30%、小テスト(全10回) 50%、スピーチ 10%、スピーキングテスト10%

< テキスト >

Communication Builder Revised Edition（南雲堂）

Noboru S. Yoshitomi

定価 本体2,310円（2021年時価格）

ISBN: 978-4-523-17632-9 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Icebreaking

第2回 Unit 2

Describing People (Character)

第3回 Unit 3

Describing People (Apperance)

第4回 Unit 4

Inviting People

第5回 Review 1

Review 1

第6回 Unit 5

Giving Directions

第7回 Unit 6

Complaining & Apologizing

第8回 Unit 7

Giving Advice

第9回 Unit 8

Getting Information

第10回 Review 2

Reivew 2

第11回 Unit 9

Comparing & Contrasting

第12回 Unit 10

Talking about Experiences

第13回 Unit 11

Interviewing

第14回 Review 3

Review 3

第15回 Summary

Summary  
-----

2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 E

伊波 直子  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語習得に必須な能力(読む、書く、聞く、話す)を組み合わせ、総合的な英語力の基礎を養成することである。同時に、英語圏ひいては世界の国々の社会、歴史、文化などについて学び、英語学習の動機づけ、目的を明確にし、これまでの中学・高校での基礎的な英語力を再学習し、英語に親しむ能力を養うことを目指す。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

< 到達目標 >

・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。（知識）

- ・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べるができる。(知識)
- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)
- ・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

日常英会話・場面別表現・実践力

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30% (プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40% (小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題)30%

< テキスト >

We Love LA 出版社：金星堂 2750円(税込) ISBN:9784764740495

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について説明します。自己紹介等、クラスメートとの会話を行います。

第2回 Unit1

Welcome to L.A. be動詞

第3回 Unit1

Welcome to L.A. be動詞

第4回 Unit2

I Love Fruit! 可算名詞 / 不可算名詞

第5回 Unit2

I Love Fruit! 可算名詞 / 不可算名詞

第6回 Unit3

Campus Life 一般動詞 (現在時制)

第7回 Unit3

Campus Life 一般動詞 (現在時制)

第8回 Unit4

Lunchtime 代名詞

第9回 Unit4

Lunchtime 代名詞

第10回 Unit5

First Date 一般動詞 (過去時制)

第11回 Unit5

First Date 一般動詞 (過去時制)

第12回 Unit6

Where 's Linda? 進行形

第13回 Unit6

Where 's Linda? 進行形

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験(プレゼンテーション)の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験(プレゼンテーション)を行います。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 C

スティーブン・リッチモンド  
-----

< 授業の方法 >

授業の方法：実習

< 授業の目的 >

円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネイティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモチベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。この科目はDP 3/4(思考力・判断力・表現力等の能力)と関連する。

< 到達目標 >

これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)

聞いたり読んだりした内容について積極的に意見を述べるができる。(知識)

英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)

クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)

必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)

初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

<授業の進め方>

ペアワーク、授業内テストなどを使用し、学生を中心に進めます。各授業の評価を積み上げていくため、毎回の出席や積極的な参加が必要不可欠です。

<履修するにあたって>

1. 語学学習の上達は、授業外の予習・復習に左右されることを忘れずに。

2. 授業で出された課題を完成すること。不明なところがあれば指導者に聞くように。

3. 遅刻や欠席が評価に影響する。毎回遅れずに出席してください。

<授業時間外に必要な学修>

毎週会話テストが行われるため、予習・復習(一週間60分ほど)が理想的だ。

<成績評価方法・基準>

1. 授業参加度 20%

2. 授業内テスト・課題 80%

<テキスト>

授業中に配布します。

<参考図書>

英和・和英辞典を持参することを勧めます。

<授業計画>

第1回 Course Introduction

Getting started: コース説明など

第2回 Unit 1 Part 1

Travel and Experience Part 1

第3回 Unit 1 Part 2

Travel and Experience Part 2

第4回 Unit 2 Part 1

Pop Culture Part 1

第5回 Unit 2 Part 2

Pop Culture Part 2

第6回 Unit 3 Part 1

Food and Eating Out Part 1

第7回 Unit 3 Part 2

Food and Eating Out Part 2

第8回 Mid-term Review

Mid-term Review / Speaking Test / Presentations

第9回 Unit 4 Part 1

Skills 1

第10回 Unit 4 Part 2

Skills 2

第11回 Unit 5 Part 1

Childhood 1

第12回 Unit 5 Part 2

Childhood 2

第13回 Unit 6 Part 1

The Future 1

第14回 Unit 6 Part 2

The Future 2

第15回 Final Tests/Discussions

Final Review / Speaking Test / Presentations

-----

2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 D

竹崎 淳子

-----

<授業の方法>

対面授業(基本的には教室での対面授業です。)

<授業の目的>

英語習得に必要な能力(読む、書く、聞く、話す)を組み合わせ、総合的な英語力の基礎を養成することである。同時に、英語圏ひいては世界の国々の社会、歴史、文化などについて学び、英語学習の動機づけ、目的を明確にし、これまでの中学・高校での基礎的な英語力を再学習し、英語に親しむ能力を養うことを目指す。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

実務(航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳)や留学経験のある教員による指導。

<到達目標>

基本的な会話表現やファンクション(描写、比較表現、過去)を文法や発音も確認しながら、特にアウトプット(スピーキング)に転換できるように、リピーティングやシャドーイングを織り交ぜ自律学習につなげられるように進める。

<授業のキーワード>

Output, describing, inviting, comparing, talking about past experiences, asking questions

<授業の進め方>

基本的な英会話をベースとしたコミュニケーション演習の中で、リピーティング、シャドーイング、リスニングを多用して進める。声に出してのレッスンは語学学習では大事なので、積極的に発話することが必須です。

<履修するにあたって>

毎回必ず辞書を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習各1時間程度

<成績評価方法・基準>

授業態度(参加度、コメント、質疑応答等)30%、小テスト(全10回)50%、スピーチ10%、スピーキングテスト10%

<テキスト>

Communication Builder Revised Edition (南雲堂)

Noboru S. Yoshitomi

定価 本体2,310円 (2021年時価格)

ISBN: 978-4-523-17632-9 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Icebreaking

第2回 Unit 2

Describing People (Character)

第3回 Unit 3

Describing People (Apperance)

第4回 Unit 4

Inviting People

第5回 Review 1

Review 1

第6回 Unit 5

Giving Directions

第7回 Unit 6

Complaining & Apologizing

第8回 Unit 7

Giving Advice

第9回 Unit 8

Getting Information

第10回 Review 2

Reivew 2

第11回 Unit 9

Comparing & Contrasting

第12回 Unit 10

Talking about Experiences

第13回 Unit 11

Interviewing

第14回 Review 3

Review 3

第15回 Summary

Summary

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 B

伊波 直子

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語習得に必要な能力(読む、書く、聞く、話す)を組み合わせ、総合的な英語力の基礎を養成することである。同時に、英語圏ひいては世界の国々の社会、歴史、文化などについて学び、英語学習の動機づけ、目的を明確にし、これまでの中学・高校での基礎的な英語力を再学習し、英語に親しむ能力を養うことを目指す。この科目

は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

< 到達目標 >

・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。(知識)

・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べることができる。(知識)

・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)

・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

日常英会話・場面別表現・実践力

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30%(プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40%(小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題)30%

< テキスト >

We Love LA 出版社:金星堂 2750円(税込) ISBN:9784764740495

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について説明します。自己紹介等、クラスメートとの会話を行います。

第2回 Unit1

Welcome to L.A. be動詞

第3回 Unit1

Welcome to L.A. be動詞

第4回 Unit2

I Love Fruit! 可算名詞 / 不可算名詞

第5回 Unit2

I Love Fruit! 可算名詞 / 不可算名詞

第6回 Unit3

Campus Life 一般動詞 (現在時制)

第7回 Unit3

Campus Life 一般動詞 (現在時制)

第8回 Unit4

Lunchtime 代名詞

第9回 Unit4

Lunchtime 代名詞

第10回 Unit5

First Date 一般動詞 (過去時制)

第11回 Unit5

First Date 一般動詞 (過去時制)

第12回 Unit6

Where's Linda? 進行形

第13回 Unit6

Where's Linda? 進行形

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験 (プレゼンテーション) の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験 (プレゼンテーション) を行います。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 F

スティーブン・リッチモンド  
-----

< 授業の方法 >

授業の方法 : 実習

< 授業の目的 >

円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネイティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモチベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。この科目はDP 3/4 (思考力・判断力・表現力等の能力) と関連する。

< 到達目標 >

これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)

聞いたり読んだりした内容について積極的に意見を述べることができる。(知識)

英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)

クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)

必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)

初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業の進め方 >

ペアワーク、授業内テストなどを使用し、学生を中心に進めます。各授業の評価を積み上げていくため、毎回の出席や積極的な参加が必要不可欠です。

< 履修するにあたって >

1. 語学学習の上達は、授業外の予習・復習に左右されることを忘れずに。
2. 授業で出された課題を完成すること。不明なところがあれば指導者に聞くように。
3. 遅刻や欠席が評価に影響する。毎回遅れずに出席してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週会話テストが行われるため、予習・復習 (一週間60分ほど) が理想的だ。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業参加度 20%
2. 授業内テスト・課題 80%

< テキスト >

授業中に配布します。

< 参考図書 >

英和・和英辞典を持参することを勧めます。

< 授業計画 >

第1回 Course Introduction

Getting started : コース説明など

第2回 Unit 1 Part 1

Travel and Experience Part 1

第3回 Unit 1 Part 2

Travel and Experience Part 2

第4回 Unit 2 Part 1

Pop Culture Part 1

第5回 Unit 2 Part 2

Pop Culture Part 2

第6回 Unit 3 Part 1

Food and Eating Out Part 1

第7回 Unit 3 Part 2

Food and Eating Out Part 2

第8回 Mid-term Review

Mid-term Review / Speaking Test / Presentations

第9回 Unit 4 Part 1

Skills 1

第10回 Unit 4 Part 2  
Skills 2  
第11回 Unit 5 Part 1  
Childhood 1  
第12回 Unit 5 Part 2  
Childhood 2  
第13回 Unit 6 Part 1  
The Future 1  
第14回 Unit 6 Part 2  
The Future 2  
第15回 Final Tests/Discussions  
Final Review / Speaking Test / Presentations

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 G

竹崎 淳子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業（基本的には教室での対面授業です。）

< 授業の目的 >

英語習得に必須な能力（読む、書く、聞く、話す）を組み合わせ、総合的な英語力の基礎を養成することである。同時に、英語圏ひいては世界の国々の社会、歴史、文化などについて学び、英語学習の動機づけ、目的を明確にし、これまでの中学・高校での基礎的な英語力を再学習し、英語に親しむ能力を養うことを目指す。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

実務（航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳）や留学経験のある教員による指導。

< 到達目標 >

基本的な会話表現やファンクション（描写、比較表現、過去）を文法や発音も確認しながら、特にアウトプット（スピーキング）に転換できるように、リピーティングやシャドーイングを織り交ぜ自律学習につなげられるように進める。

< 授業のキーワード >

Output, describing, inviting, comparing, talking about past experiences, asking questions

< 授業の進め方 >

基本的な英会話をベースとしたコミュニケーション演習の中で、リピーティング、シャドーイング、リスニングを多用して進める。声に出してのレッスンは語学学習では大事なので、積極的に発話することが必須です。

< 履修するにあたって >

毎回必ず辞書を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度

< 成績評価方法・基準 >

授業態度(参加度、コメント、質疑応答等) 30%、小テスト(全10回) 50%、スピーチ 10%、スピーキングテスト10%

< テキスト >

Communication Builder Revised Edition (南雲堂)

Noboru S. Yoshitomi

定価 本体2,310円 (2021年時価格)

ISBN: 978-4-523-17632-9 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Icebreaking

第2回 Unit 2

Describing People (Character)

第3回 Unit 3

Describing People (Appearance)

第4回 Unit 4

Inviting People

第5回 Review 1

Review 1

第6回 Unit 5

Giving Directions

第7回 Unit 6

Complaining & Apologizing

第8回 Unit 7

Giving Advice

第9回 Unit 8

Getting Information

第10回 Review 2

Review 2

第11回 Unit 9

Comparing & Contrasting

第12回 Unit 10

Talking about Experiences

第13回 Unit 11

Interviewing

第14回 Review 3

Review 3

第15回 Summary

Summary  
-----

2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 【再履修クラス】

保澤 美佳  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。時事をテーマに会話(発音、文法に留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

< 到達目標 >

- ・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。(知識)
- ・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べることができる。(知識)
- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)
- ・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30%(プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40%(小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題)30%

< テキスト >

English First Basic 出版社:金星堂 2090円(税込)  
ISBN:9784764739703

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について説明します。自己紹介等、クラスメートとの会話を行います。

第2回 Unit1

Welcome to Japan

第3回 Unit1

Welcome to Japan

第4回 Unit2

That Sounds Like Fun

第5回 Unit2

That Sounds Like Fun

第6回 Unit3

We Leave on Friday Morning

第7回 Unit3

We Leave on Friday Morning

第8回 Unit4

You Know a Lot About Trains

第9回 Unit4

You Know a Lot About Trains

第10回 Unit5

I Didn't Want to Leave

第11回 Unit5

I Didn't Want to Leave

第12回 Unit6

You're Working Late

第13回 Unit6

You're Working Late

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験(プレゼンテーション)の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験(プレゼンテーション)を行います。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 A

竹崎 淳子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

英語能力の開発として、現在、社会で起こっている政治、経済、社会的問題を英語で理解する読解力、必要な表現力などを学習する。特に文法を中心に「誤解を与えない、誤解しない」語学力を高めることで、相手に対して、正確に自分の意見を述べることを目標とするため、学生による英語によるプレゼンテーション、会話力を中心に学習する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

実務（航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳）や留学経験のある教員による指導。

<到達目標>

専門英会話で学習したことをさらに発展、応用に結びつける。短期留学・語学研修で必要になる基本的な英語力を身に着ける。習得した語彙、フレーズ、構文を実際にアウトプットする練習もして、実践的な力をつける。発音のポイントを押さえ発話し、リスニング力を向上させる。

<授業のキーワード>

Output, expressions for traveling abroad, advanced functions (asking questions, giving opinions)

<授業の進め方>

海外で旅行/生活する上で実際に体験するような場面想定したコミュニケーション演習の中で、リピート、ペアワーク、グループワークを多用して進める。会話に関しては、積極的に発話することが必須です。

<履修するにあたって>

毎回必ず辞書を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習1時間程度。各Unitのリスニングに関しては、事前に自習した上で授業に臨んでください。

<成績評価方法・基準>

授業態度（参加度、コメント、質疑応答）30%、発表20%、小テスト（全10回）50%

<テキスト>

READY FOR TAKEOFF! - English FOR STUDY ABROAD (金星堂)

Alan Jackson, Hiroko Uchida

定価 本体2,090円 (2021年度現在)

ISBN: 978-4-7647-4105-8

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Introducing Yourself

第2回 Unit 2

A Geography Lesson

第3回 Unit 3

Arriving

第4回 Unit 4

People

第5回 Unit 5

House Rules

第6回 Unit 6

Orientation

第7回 Unit 7

First Lesson Day

第8回 Unit 8

Activities and Trips

第9回 Unit 9

Housework

第10回 Unit 10

Food and Drink

第11回 Unit 11

Money and Shopping

第12回 Unit 12

Safety on Campus

第13回 Unit 13

Talking about Your Hometown

第14回 Unit 14

Information

第15回 Unit 15

Farewell

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 E

伊波 直子  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

英語能力の開発として、現在、社会で起こっている政治、経済、社会的問題を英語で理解する読解力、必要な表現力などを学習する。特に、文法を中心に「誤解を与えない、誤解しない」語学力を高めることで、相手に対して、正確に自分の意見を述べることを目標とするため、学生による英語によるプレゼンテーション、会話力を中心に学習する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

<到達目標>

- ・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。（知識）
- ・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べるができる。（知識）
- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。（態度・習慣）
- ・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。（態度・習慣）
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。（技能）

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワ

ークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。  
< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)  
| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30% (プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40% (小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題) 30%

< テキスト >

We Love LA 出版社: 金星堂 2750円(税込) ISBN:9784764740495

< 授業計画 >

第1回 Unit7

Andy's News will / be going to

第2回 Unit7

Andy's News will / be going to

第3回 Unit8

Shopping in Santa Monica 助動詞

第4回 Unit8

Shopping in Santa Monica 助動詞

第5回 Unit9

Moving Day 前置詞

第6回 Unit9

Moving Day 前置詞

第7回 Unit10

A Beautiful View 現在完了

第8回 Unit10

A Beautiful View 現在完了

第9回 Unit11

Sunday Fun 比較

第10回 Unit11

Sunday Fun 比較

第11回 Unit12

Seeing Stars WH疑問文

第12回 Unit12

Seeing Stars WH疑問文

第13回 復習

復習

第14回 プレゼンテーション準備

次の試験(プレゼンテーション)の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験(プレゼンテーション)を行います。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 C

スティーブン・リッチモンド  
-----

< 授業の方法 >

授業の方法: 実習

< 授業の目的 >

円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネイティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモチベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。この科目はDP 3/4(思考力・判断力・表現力等の能力)と関連する。

< 到達目標 >

これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)

聞いたり読んだりした内容について積極的に意見を述べる事ができる。(知識)

英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)

クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)

必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)

初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業の進め方 >

ペアワーク、授業内テストなどを使用し、学生を中心に進めます。各授業の評価を積み上げていくため、毎回の出席や積極的な参加が必要不可欠です。

< 履修するにあたって >

1. 語学学習の上達は、授業外の予習・復習に左右されることを忘れずに。

2. 授業で出された課題を完成すること。不明なところがあれば指導者に聞くように。

3. 遅刻や欠席が評価に影響する。毎回遅れずに出席してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週会話テストが行われるため、予習・復習(一週間60分ほど)が理想的だ。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業参加度 20%

2. 授業内テスト・課題 80%

<テキスト>

授業中に配布します。

<参考図書>

英和・和英辞典を持参することを勧めます。

<授業計画>

第1回 Course Introduction

Getting started: コース説明など

第2回 Unit 1 Part 1

Origins 1

第3回 Unit 1 Part 2

Origins 2

第4回 Unit 2 Part 1

Daily Life 1

第5回 Unit 2 Part 2

Daily Life 2

第6回 Unit 3 Part 1

School Life 1

第7回 Unit 3 Part 2

School Life 2

第8回 Mid-term Review

Mid-term Review / Speaking Test / Presentations

第9回 Unit 4 Part 1

Free time & Hobbies 1

第10回 Unit 4 Part 2

Free Time & Hobbies 2

第11回 Unit 5 Part 1

Money & Shopping 1

第12回 Unit 5 Part 2

Money & Shopping 2

第13回 Unit 6 Part 1

Hometown 1

第14回 Unit 6 Part 2

Hometown 2

第15回 Final Tests/Discussions

Final Review / Speaking Test / Presentations

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 D

竹崎 淳子  
-----

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

英語能力の開発として、現在、社会で起こっている政治、経済、社会的問題を英語で理解する読解力、必要な表現力などを学習する。特に文法を中心に「誤解を与えない、誤解しない」語学力を高めることで、相手に対して、正

確に自分の意見を述べることを目標とするため、学生による英語によるプレゼンテーション、会話力を中心に学習する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

実務(航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳)や留学経験のある教員による指導。

<到達目標>

専門英会話で学習したことをさらに発展、応用に結びつける。短期留学・語学研修で必要になる基本的な英語力を身に着ける。習得した語彙、フレーズ、構文を実際にアウトプットする練習もして、実践的な力をつける。発音のポイントを押さえ発話し、リスニング力を向上させる。

<授業のキーワード>

Output, expressions for traveling abroad, advanced functions (asking questions, giving opinions)

<授業の進め方>

海外で旅行/生活する上で実際に体験するような場面を想定したコミュニケーション演習の中で、リピート、ペアワーク、グループワークを多用して進める。会話に関しては、積極的に発話することが必須です。

<履修するにあたって>

毎回必ず辞書を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習1時間程度。各Unitのリスニングに関しては、事前に自習した上で授業に臨んでください。

<成績評価方法・基準>

授業態度(参加度、コメント、質疑応答)30%、発表20%、小テスト(全10回)50%

<テキスト>

READY FOR TAKEOFF! - English FOR STUDY ABROAD (金星堂)

Alan Jackson, Hiroko Uchida

定価 本体2,090円(2021年度現在)

ISBN: 978-4-7647-4105-8

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Introducing Yourself

第2回 Unit 2

A Geography Lesson

第3回 Unit 3

Arriving

第4回 Unit 4

People

第5回 Unit 5

House Rules

第6回 Unit 6

Orientation  
第7回 Unit 7  
First Lesson Day  
第8回 Unit 8  
Activities and Trips  
第9回 Unit 9  
Housework  
第10回 Unit 10  
Food and Drink  
第11回 Unit 11  
Money and Shopping  
第12回 Unit 12  
Safety on Campus  
第13回 Unit 13  
Talking about Your Hometown  
第14回 Unit 14  
Information  
第15回 Unit 15  
Farewell

-----  
2022年度 後期

1.0単位  
専門英会話 B  
伊波 直子

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語能力の開発として、現在、社会で起こっている政治、経済、社会的問題を英語で理解する読解力、必要な表現力などを学習する。特に、文法を中心に「誤解を与えない、誤解しない」語学力を高めることで、相手に対して、正確に自分の意見を述べることを目標とするため、学生による英語によるプレゼンテーション、会話力を中心に学習する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

< 到達目標 >

- ・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。（知識）
- ・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べるができる。（知識）
- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。（態度・習慣）
- ・クラスメイトと積極的にコミュニケーションを図ることができる。（態度・習慣）
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。（技能）

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施

します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。（週30分程度）| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。（週1時間程度）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30%（プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%）、授業内評価40%（小テスト20%、授業参加度20%）、授業外評価（課題）30%

< テキスト >

We Love LA 出版社：金星堂 2750円(税込) ISBN:9784764740495

< 授業計画 >

第1回 Unit7

Andy's News will / be going to

第2回 Unit7

Andy's News will / be going to

第3回 Unit8

Shopping in Santa Monica 助動詞

第4回 Unit8

Shopping in Santa Monica 助動詞

第5回 Unit9

Moving Day 前置詞

第6回 Unit9

Moving Day 前置詞

第7回 Unit10

A Beautiful View 現在完了

第8回 Unit10

A Beautiful View 現在完了

第9回 Unit11

Sunday Fun 比較

第10回 Unit11

Sunday Fun 比較

第11回 Unit12

Seeing Stars WH疑問文

第12回 Unit12

Seeing Stars WH疑問文

第13回 復習

復習

第14回 プレゼンテーション準備

次の試験（プレゼンテーション）の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験（プレゼンテーション）を行います。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 F

スティーブン・リッチモンド  
-----

< 授業の方法 >

授業の方法：実習

< 授業の目的 >

円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネイティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモチベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。この科目はDP 3/4（思考力・判断力・表現力等の能力）と関連する。

< 到達目標 >

これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。（知識）

聞いたり読んだりした内容について積極的に意見を述べることができる。（知識）

英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。（態度・習慣）

クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）

必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）

初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。（技能）

< 授業の進め方 >

ペアワーク、授業内テストなどを使用し、学生を中心に進めます。各授業の評価を積み上げていくため、毎回の出席や積極的な参加が必要不可欠です。

< 履修するにあたって >

1. 語学学習の上達は、授業外の予習・復習に左右されることを忘れずに。

2. 授業で出された課題を完成すること。不明なところがあれば指導者に聞くように。

3. 遅刻や欠席が評価に影響する。毎回遅れずに出席してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週会話テストが行われるため、予習・復習（一週間60分ほど）が理想的だ。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業参加度 20%

2. 授業内テスト・課題 80%

< テキスト >

授業中に配布します。

< 参考図書 >

英和・和英辞典を持参することを勧めます。

< 授業計画 >

第1回 Course Introduction

Getting started: コース説明など

第2回 Unit 1 Part 1

Origins 1

第3回 Unit 1 Part 2

Origins 2

第4回 Unit 2 Part 1

Daily Life 1

第5回 Unit 2 Part 2

Daily Life 2

第6回 Unit 3 Part 1

School Life 1

第7回 Unit 3 Part 2

School Life 2

第8回 Mid-term Review

Mid-term Review / Speaking Test / Presentations

第9回 Unit 4 Part 1

Free time & Hobbies 1

第10回 Unit 4 Part 2

Free Time & Hobbies 2

第11回 Unit 5 Part 1

Money & Shopping 1

第12回 Unit 5 Part 2

Money & Shopping 2

第13回 Unit 6 Part 1

Hometown 1

第14回 Unit 6 Part 2

Hometown 2

第15回 Final Tests/Discussions

Final Review / Speaking Test / Presentations  
-----

2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 G

竹崎 淳子  
-----

< 授業の方法 >

## 対面授業

### < 授業の目的 >

英語能力の開発として、現在、社会で起こっている政治、経済、社会的問題を英語で理解する読解力、必要な表現力などを学習する。特に文法を中心に「誤解を与えない、誤解しない」語学力を高めることで、相手に対して、正確に自分の意見を述べることを目標とするため、学生による英語によるプレゼンテーション、会話力を中心に学習する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

実務（航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳）や留学経験のある教員による指導。

### < 到達目標 >

専門英会話 で学習したことをさらに発展、応用に結びつける。短期留学・語学研修で必要になる基本的な英語力を身に着ける。習得した語彙、フレーズ、構文を実際にアウトプットする練習もして、実践的な力をつける。発音のポイントを押さえ発話し、リスニング力を向上させる。

### < 授業のキーワード >

Output, expressions for traveling abroad, advanced functions (asking questions, giving opinions)

### < 授業の進め方 >

海外で旅行/生活する上で実際に体験するような場面を想定したコミュニケーション演習の中で、リピーティング、ペアワーク、グループワークを多用して進める。会話に関しては、積極的に発話することが必須です。

### < 履修するにあたって >

毎回必ず辞書を持参してください。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習1時間程度。各Unitのリスニングに関しては、事前に自習した上で授業に臨んでください。

### < 成績評価方法・基準 >

授業態度（参加度、コメント、質疑応答）30%、発表20%、小テスト（全10回）50%

### < テキスト >

READY FOR TAKEOFF! - English FOR STUDY ABROAD（金星堂）

Alan Jackson, Hiroko Uchida

定価 本体2,090円（2021年度現在）

ISBN: 978-4-7647-4105-8

### < 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Introducing Yourself

第2回 Unit 2

A Geography Lesson

第3回 Unit 3

Arriving

第4回 Unit 4

People

第5回 Unit 5

House Rules

第6回 Unit 6

Orientation

第7回 Unit 7

First Lesson Day

第8回 Unit 8

Activities and Trips

第9回 Unit 9

Housework

第10回 Unit 10

Food and Drink

第11回 Unit 11

Money and Shopping

第12回 Unit 12

Safety on Campus

第13回 Unit 13

Talking about Your Hometown

第14回 Unit 14

Information

第15回 Unit 15

Farewell

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 【再履修クラス】

保澤 美佳  
-----

### < 授業の方法 >

演習

### < 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。時事をテーマに会話（発音、文法に留意し）、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

### < 到達目標 >

- ・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。（知識）
- ・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べるができる。（知識）
- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。（態度・習慣）

・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

学期末試験30%(プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40%(小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題)30%

<テキスト>

English First Basic 出版社:金星堂 2090円(税込)  
ISBN:9784764739703

<授業計画>

第1回 Unit7

I'm Sure He'll Understand

第2回 Unit7

I'm Sure He'll Understand

第3回 Unit8

I'll Remember That

第4回 Unit8

I'll Remember That

第5回 Unit9

Hiro Forgot

第6回 Unit9

Hiro Forgot

第7回 Unit10

How Have You Been?

第8回 Unit10

How Have You Been?

第9回 Unit11

While They're Here

第10回 Unit11

While They're Here

第11回 Unit12

How Was Tennis?

第12回 Unit12

How Was Tennis?

第13回 復習

復習

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験(プレゼンテーション)の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験(プレゼンテーション)を行います。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 A

竹崎 淳子  
-----

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。時事をテーマに会話(発音、文法に留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

<到達目標>

訪日外国人客に英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を学ぶ。必要な会話表現を身につけ、会話力を高める。情報収集に必要なリスニング力を向上させる。重要語彙やフレーズを習得し語彙力を向上させる。使えるフレーズや便利な表現を学び身につけた表現を使用して自分の言いたいことを発信する力を向上させる。発表を通してリサーチ力および表現力を身につける。速読力を身に着ける。

<授業のキーワード>

Dictation, presentation, explaining Japanese culture, giving opinions

<授業の進め方>

積極的に発話することが求められます。またディクテーション、リピーティング、シャドーイングを多用しインターラクティブに学んでいきます。

<履修するにあたって>

毎回必ず辞書は持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習各1時間程度。各ユニットのリスニングに関しては、事前に自習して授業に臨んでください。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度（参加度、コメント、質疑応答等）30%、発表20%、小テスト（全10回）50%

< テキスト >

HOSPITALITY ON THE SCENE（金星堂）

Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Mtsushima, Takehiko Kozue, Jacob Scherei

定価 本体2200円（税別）

ISBN: 978-4-7647-4067-9

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Transportation 交通案内

第2回 Unit 2

At a Check-in Counter (hotel)

第3回 Unit 3

Facilities and Services (hotel)

第4回 Unit 4

Giving Directions

第5回 Unit 5

Recommending a Trip

第6回 Unit 6

Dining in Japan

第7回 Unit 7

Dining in Japan

第8回 Unit 8

Arranging a Tour

第9回 Unit 9

Staying at a Ryokan

第10回 Unit 10

Culture Experience in Japan

第11回 Unit 11

Culture Experience in Japan

第12回 Unit 12

Japanese Souvenirs

第13回 Unit 13

Dealing with Health Problems and Emergencies

第14回 Unit 14

Dealing with Complaints and Accidents

第15回 Unit 15

Upon Departure

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 B

川部 和世  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習の授業です。ソーシャルメディア、ビジネス、ストーリーの3つのジャンルのテーマを扱い、インプ

ト、実際の会話練習、プレゼンの3つの段階を踏み、スピーキング力をつけます。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは、manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合（基準を適用しない場合）の文例特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。実務的なテーマを元に会話(発音、発信スキルに留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

大学生が、社会生活に関連する現代社会の様々なテーマと各場面に合わせたフレーズをinputし、状況に応じてとっさに英語で発話をすることを目指して学習します。Output(speaking)が出来るように、exerciseを繰り返し、自分の気持ちや意見を相手に伝えるpracticeをします。英語が母国語ではない学習者にとって自然な英会話の流れを意識したトレーニングは必須となります。身近な場面を思い浮かべながらフレーズを使ってロールプレイをします。重要なフレーズをまず覚えて、自動化するようにしましょう。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して英語会話に興味を持ち、楽しみながら、英語のスキル、知識を習得していきましょう。

< 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。コミュニケーション力。

< 授業の進め方 >

まず、インプットでリスニング活動とリーディングを通して目的とするスピーキング活動のモデルとなる英語に触れます。次にプラクティスでは、音読活動やリテリング活動を通して、インプットで学んだ英語の定着を目指します。そして、アウトプットでは、いよいよゴールとなるスピーキング活動に挑戦します。一つ一つの活動を

積み重ねていくことで、学生の皆さんが自信を持ってスピーキング力を身につけることが出来ることを目指します。教科書は早めに入手して下さい。教科書に書かれた音声ファイル無料ダウンロードサイトからURL、またはQRコードから無料で音声をダウンロードしておいて下さい。その音声を利用して、重要なフレーズを覚えて下さい。関連フレーズ、語彙、話題などによって知識を深め、ペアワーク、グループワークを通して、参加型、学習者中心のactiveに得た知識を実際に使うことで授業を進めます。Role play原稿作成、実演を通してスピーキング力、語彙力も習得できます。

<履修するにあたって>

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ（B5サイズ）、出された課題を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。Role playの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

<提出課題など>

隔週のRole playのグループの原稿、  
ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

<成績評価方法・基準>

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、プレゼンテーション原稿 提出 30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

<テキスト>

Speaking Steps スピーキングステップ? 英語を話すための3ステップ? (金星堂)

ISBN 978-4-7647-4151-5C1082 ¥1900

<参考図書>

辞書(英和)を毎回持参すること(電子辞書可)

<授業計画>

第1回 4/11 Unit 1 What is important to you?

自分の大切なものを英語で紹介する。

第2回 4/18 Unit 1 What is important to you? プレゼンテーション

自分の大切なものを英語で発表する。

第3回 4/25 Unit 2 My morning routine

自分のモーニングルーティンを紹介する

第4回 5/2 Unit 2 My morning routine プレゼンテーション

自分のモーニングルーティンを英語で発表する。

第5回 5/9 Unit 3 Your recommended restaurant

自分のおすすめのレストランを紹介する

第6回 5/16 Unit 3 Your recommended restaurant プ

レゼンテーション

自分のおすすめのレストランを英語で発表する

第7回 5/23 Unit 4 The best film ever

自分のお気に入りの映画を紹介する

第8回 5/30 Unit 4 The best film ever プレゼンテーション

自分のお気に入りの映画を英語で発表する

第9回 6/6 Unit 5 What is a true friend?

Q&Aサイトで悩み相談に答える

第10回 6/13 Unit 5 What is a true friend? プレゼンテーション

Q&AサイトでNancyの悩み相談に答えて回答を英語で発表する

第11回 6/20 Unit 7 An ideal private tour plan

あなたがニーズに合わせたツアープランを企画する

第12回 6/27 Unit 7 An ideal private tour plan プレゼンテーション

あなたがニーズに合わせたツアープランを英語で発表する

第13回 7/4 Unit 12 The babysitter #1

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を予測して英語で説明する

第14回 7/11 Unit 12 The babysitter #1 プレゼンテーション

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を英語で発表する

第15回 7/18 Unit 14 Unsent letter #1 The final presentation

The final presentation Zackの視点からAkiとの出会いを英語で発表する(暗記して発表)

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 C

竹崎 淳子  
-----

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。時事をテーマに会話(発音、文法に留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

<到達目標>

訪日外国人客に英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を学ぶ。必要な会話表現を身につけ、会話力を高

める。情報収集に必要なリスニング力を向上させる。重要語彙やフレーズを習得し語彙力を向上させる。使えるフレーズや便利な表現を学び身につけた表現を使用して自分の言いたいことを発信する力を向上させる。発表を通してリサーチ力および表現力を身につける。速読力を身に着ける。

< 授業のキーワード >

Dictation, presentation, explaining Japanese culture, giving opinions

< 授業の進め方 >

積極的に発話することが求められます。またディクテーション、リピーティング、シャドーイングを多用しインターラクティブに学んでいきます。

< 履修するにあたって >

毎回必ず辞書は持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度。各ユニットのリスニングに関しては、事前に自習して授業に臨んでください。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度（参加度、コメント、質疑応答等）30%、発表20%、小テスト（全10回）50%

< テキスト >

HOSPITALITY ON THE SCENE（金星堂）

Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Mtsushima, Takehiko Kozue, Jacob Scherei

定価 本体2200円（税別）

ISBN: 978-4-7647-4067-9

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Transportation 交通案内

第2回 Unit 2

At a Check-in Counter (hotel)

第3回 Unit 3

Facilities and Services (hotel)

第4回 Unit 4

Giving Directions

第5回 Unit 5

Recommending a Trip

第6回 Unit 6

Dining in Japan

第7回 Unit 7

Dining in Japan

第8回 Unit 8

Arranging a Tour

第9回 Unit 9

Staying at a Ryokan

第10回 Unit 10

Culture Experience in Japan

第11回 Unit 11

Culture Experience in Japan

第12回 Unit 12

Japanese Souvenirs

第13回 Unit 13

Dealing with Health Problems and Emergencies

第14回 Unit 14

Dealing with Complaints and Accidents

第15回 Unit 15

Upon Departure

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 D

竹崎 淳子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。時事をテーマに会話（発音、文法に留意し）、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

< 到達目標 >

訪日外国人客に英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を学ぶ。必要な会話表現を身につけ、会話力を高める。情報収集に必要なリスニング力を向上させる。重要語彙やフレーズを習得し語彙力を向上させる。使えるフレーズや便利な表現を学び身につけた表現を使用して自分の言いたいことを発信する力を向上させる。発表を通してリサーチ力および表現力を身につける。速読力を身に着ける。

< 授業のキーワード >

Dictation, presentation, explaining Japanese culture, giving opinions

< 授業の進め方 >

積極的に発話することが求められます。またディクテーション、リピーティング、シャドーイングを多用しインターラクティブに学んでいきます。

< 履修するにあたって >

毎回必ず辞書は持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度。各ユニットのリスニングに関しては、事前に自習して授業に臨んでください。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度（参加度、コメント、質疑応答等）30%、発表20%、小テスト（全10回）50%

<テキスト>

HOSPITALITY ON THE SCENE (金星堂)

Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Mtsushima, Takehiko Kozue, Jacob Scherei

定価 本体2200円(税別)

ISBN: 978-4-7647-4067-9

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Transportation 交通案内

第2回 Unit 2

At a Check-in Counter (hotel)

第3回 Unit 3

Facilities and Services (hotel)

第4回 Unit 4

Giving Directions

第5回 Unit 5

Recommending a Trip

第6回 Unit 6

Dining in Japan

第7回 Unit 7

Dining in Japan

第8回 Unit 8

Arranging a Tour

第9回 Unit 9

Staying at a Ryokan

第10回 Unit 10

Culture Experience in Japan

第11回 Unit 11

Culture Experience in Japan

第12回 Unit 12

Japanese Souvenirs

第13回 Unit 13

Dealing with Health Problems and Emergencies

第14回 Unit 14

Dealing with Complaints and Accidents

第15回 Unit 15

Upon Departure

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 E

川部 和世  
-----

<授業の方法>

講義と演習の授業です。ソーシャルメディア、ビジネス、ストーリーの3つのジャンルのテーマを扱い、インプット、実際の会話練習、プレゼンの3つの段階を踏み、スピーキング力をつけます。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目で

ある。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは、manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合(基準を適用しない場合)の文例特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。実務的なテーマを元に会話(発音、発信スキルに留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

大学生が、社会生活に関連する現代社会の様々なテーマと各場面に合わせたフレーズをinputし、状況に応じてとっさに英語で発話をすることを目指して学習します。Output(speaking)が出来るように、exerciseを繰り返し、自分の気持ちや意見を相手に伝えるpracticeをします。英語が母国語ではない学習者にとって自然な英会話の流れを意識したトレーニングは必須となります。身近な場面を思い浮かべながらフレーズを使ってロールプレイをします。重要なフレーズをまず覚えて、自動化するようにしましょう。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して英語会話に興味を持ち、楽しみながら、英語のスキル、知識を習得していきましょう。

<授業のキーワード>

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。コミュニケーション力。

<授業の進め方>

まず、インプットでリスニング活動とリーディングを通して目的とするスピーキング活動のモデルとなる英語に触れます。次にプラクティスでは、音読活動やリテリング活動を通して、インプットで学んだ英語の定着を目指します。そして、アウトプットでは、いよいよゴールとなるスピーキング活動に挑戦します。一つ一つの活動を積み重ねていくことで、学生の皆さんが自信を持ってスピーキング力を身につけることが出来ることを目指します。教科書は早めに入手して下さい。教科書に書かれた

音声ファイル無料ダウンロードサイトからURL、またはQRコードから無料で音声をダウンロードしておいて下さい。その音声を利用して、重要なフレーズを覚えて下さい。関連フレーズ、語彙、話題などによって知識を深め、ペアワーク、グループワークを通して、参加型、学習者中心のactiveに得た知識を実際に使うことで授業を進めます。Role play原稿作成、実演を通してスピーキング力、語彙力も習得できます。

<履修するにあたって>

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ（B5サイズ）、出された課題を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。Role playの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

<提出課題など>

隔週のRole playのグループの原稿、  
ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

<成績評価方法・基準>

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、プレゼンテーション原稿 提出 30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

<テキスト>

Speaking Steps スピーキングステップ? 英語を話すための3ステップ? (金星堂)

ISBN 978-4-7647-4151-5C1082 ¥1900

<参考図書>

辞書(英和)を毎回持参すること(電子辞書可)

<授業計画>

第1回 4/11 Unit 1 What is important to you?

自分の大切なものを英語で紹介する。

第2回 4/18 Unit 1 What is important to you? プレゼンテーション

自分の大切なものを英語で発表する。

第3回 4/25 Unit 2 My morning routine

自分のモーニングルーティンを紹介する

第4回 5/2 Unit 2 My morning routine プレゼンテーション

自分のモーニングルーティンを英語で発表する。

第5回 5/9 Unit 3 Your recommended restaurant

自分のおすすめのレストランを紹介する

第6回 5/16 Unit 3 Your recommended restaurant プレゼンテーション

自分のおすすめのレストランを英語で発表する

第7回 5/23 Unit 4 The best film ever

自分のお気に入りの映画を紹介する

第8回 5/30 Unit 4 The best film ever プレゼンテーション

自分のお気に入りの映画を英語で発表する

第9回 6/6 Unit 5 What is a true friend?

Q&Aサイトで悩み相談に答える

第10回 6/13 Unit 5 What is a true friend? プレゼンテーション

Q&AサイトでNancyの悩み相談に答えて回答を英語で発表する

第11回 6/20 Unit 7 An ideal private tour plan

あなたがニーズに合わせたツアープランを企画する

第12回 6/27 Unit 7 An ideal private tour plan プレゼンテーション

あなたがニーズに合わせたツアープランを英語で発表する

第13回 7/4 Unit 12 The babysitter #1

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を予測して英語で説明する

第14回 7/11 Unit 12 The babysitter #1 プレゼンテーション

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を英語で発表する

第15回 7/18 Unit 14 Unsent letter #1 The final presentation

The final presentation Zackの視点からAkiとの出会いを英語で発表する(暗記して発表)

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話 F

保澤 美佳  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。時事をテーマに会話(発音、文法に留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

<到達目標>

・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。(知識)

・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べることができる。(知識)

- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)
- ・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメートと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

学期末試験30% (プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%)、授業内評価40% (小テスト20%、授業参加度20%)、授業外評価(課題)30%

< テキスト >

English First Starter 出版元：金星堂、2,090円(税込) ISBN：9784764739697

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について説明します。自己紹介等、クラスメートとの会話を行います。

第2回 Unit1

It's Nice to Meet You [be動詞]

第3回 Unit1

It's Nice to Meet You [be動詞]

第4回 Unit2

Take a Hike [一般動詞]

第5回 Unit2

Take a Hike [一般動詞]

第6回 Unit3

Don't Wear Your High Heels [代名詞]

第7回 Unit3

Don't Wear Your High Heels [代名詞]

第8回 Unit4

There's Nothing in My Backpack [場所を表す前置詞]

]

第9回 Unit4

There's Nothing in My Backpack [場所を表す前置詞]

]

第10回 Unit5

What a Small World! [Yes・Noで答える疑問文]

第11回 Unit5

What a Small World! [Yes・Noで答える疑問文]

第12回 Unit6

Let's Eat [現在進行形・過去進行形]

第13回 Unit6

Let's Eat [現在進行形・過去進行形]

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験(プレゼンテーション)の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験(プレゼンテーション)を行います。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 A

竹崎 淳子

-----  
< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

日本語及び日本の価値観への自覚、異なった言語や文化が存在することを理解し、しっかりとした英語力を身につけ、ものごとに対するバランスある総合的な思考力を養うことを目的としている。音声教材や映像教材を豊富に含む総合教材を適宜活用しながら、基礎的な語彙の正確な発音と意味内容の確認と基本的な文法を再確認する。質疑応答やディスカッションを通じて、日常堅実な会話力基礎力からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできることを目標とする。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

実務(航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳)や留学経験のある教員による指導。

< 到達目標 >

学生にとって身近な時事・社会現象をテーマとした読み物・会話を通して、そこで使用されている語彙・フレーズを習得し、自らの発話・表現にも反映することができるようになる。専門英会話・・・をベースに引き続き英語で読み、聞き、発信する力を養う。

< 授業のキーワード >

Pros & cons, dictation, reasoning, asking and givi

ng opinions, debate, discussion

< 授業の進め方 >

積極的に発話することが求められます。ペアワーク、グループワークを多用しアクティブに学んでいきます。

< 履修するにあたって >

毎回必ず辞書は持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度。宿題が出た場合は、宿題をした上で授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度（参加度、コメント、質疑応答等）30%、発表20%、小テスト（全7回）50%、

< テキスト >

Coffee Shop Discussions（南雲堂）

Alan Bossaer 著

定価 本体2200円（税別-2021年現在）

ISBN: 978-4-523-17891-0 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Welcome to Coffee Shop Discussions!

第2回 Unit 2

Western-style Hotel vs Japanese Inn - Part 1

第3回 Unit 3

Western-style Hotel vs Japanese Inn - Part 2

第4回 Unit 4

e-Learning - Part 1

第5回 Unit 5

e-Learning - Part 2

第6回 Unit 6

Clubs and Circles - Part 1

第7回 Unit 7

Clubs and Circles - Part 2

第8回 Unit 8

Social Networking - Part 1

第9回 Unit 9

Social Networking - Part 2

第10回 Unit 10

Big City vs Small Town - Part 1

第11回 Unit 11

Big City vs Small Town - Part 2

第12回 Unit 12

Online Shopping - Part 1

第13回 Unit 13

Online Shopping - Part 2

第14回 Unit 14

Students Working Part-Time - Part 1

第15回 Unit 15

Students Working Part-Time - Part 2

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 B

川部 和世  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習の授業です。ソーシャルメディア、ビジネス、ストーリーの3つのジャンルのテーマを扱い、インプット、実際の会話練習、プレゼンの3つの段階を踏み、スピーキング力をつけます。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは、manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合（基準を適用しない場合）の文例特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。実務的なテーマを元に会話（発音、発信スキルに留意し）、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

大学生が、社会生活に関連する現代社会の様々なテーマと各場面に合わせたフレーズをinput し、状況に応じてとっさに英語で発話することを目指して学習します。Output（speaking）が出来るように、exerciseを繰り返し、自分の気持ちや意見を相手に伝えるpracticeをします。英語が母国語ではない学習者にとって自然な英会話の流れを意識したトレーニングは必須となります。身近な場面を思い浮かべながらフレーズを使ってロールプレイをします。重要なフレーズをまず覚えて、自動化するようにしましょう。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して英語会話に興味を持ち、楽しみながら、英語のスキル、知識を習得していきましょう。  
< 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。  
コミュニケーション力。

< 授業の進め方 >

まず、インプットでリスニング活動とリーディングを通して目的とするスピーキング活動のモデルとなる英語に触れます。次にプラクティスでは、音読活動やリテリング活動を通して、インプットで学んだ英語の定着を目指します。そして、アウトプットでは、いよいよゴールとなるスピーキング活動に挑戦します。一つ一つの活動を積み重ねていくことで、学生の皆さんが自信を持ってスピーキング力を身につけることが出来ることを目指します。教科書は早めに入手して下さい。教科書に書かれた音声ファイル無料ダウンロードサイトからURL、またはQRコードから無料で音声をダウンロードしておいて下さい。その音声を利用して、重要なフレーズを覚えて下さい。関連フレーズ、語彙、話題などによって知識を深め、ペアワーク、グループワークを通して、参加型、学習者中心のactiveに得た知識を実際に使うことで授業を進めます。Role play原稿作成、実演を通してスピーキング力、語彙力も習得できます。

< 履修するにあたって >

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ（B5サイズ）、出された課題を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。Role playの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

< 提出課題など >

隔週のRole playのグループの原稿、  
ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、プレゼンテーション原稿 提出 30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

< テキスト >

Speaking Steps スピーキングステップ? 英語を話すための3ステップ? (金星堂)

ISBN 978-4-7647-4151-5C1082 ¥1900

< 参考図書 >

辞書(英和)を毎回持参すること(電子辞書可)

< 授業計画 >

第1回 9/19 Unit 1 What is important to you?

自分の大切なものを英語で紹介する。

第2回 9/26 Unit 1 What is important to you? プレゼンテーション

自分の大切なものを英語で発表する。

第3回 10/3 Unit 2 My morning routine

自分のモーニングルーティンを紹介する

第4回 10/10 Unit 2 My morning routine プレゼンテーション

自分のモーニングルーティンを英語で発表する。

第5回 10/17 Unit 3 Your recommended restaurant

自分のおすすめのレストランを紹介する

第6回 10/24 Unit 3 Your recommended restaurant プレゼンテーション

自分のおすすめのレストランを英語で発表する

第7回 10/31 Unit 4 The best film ever

自分のお気に入りの映画を紹介する

第8回 11/7 Unit 4 The best film ever プレゼンテーション

自分のお気に入りの映画を英語で発表する

第9回 11/14 Unit 5 What is a true friend?

Q&Aサイトで悩み相談に答える

第10回 11/21 Unit 5 What is a true friend? プレゼンテーション

Q&AサイトでNancyの悩み相談に答えて回答を英語で発表する

第11回 11/28 Unit 7 An ideal private tour plan

あなたがニーズに合わせたツアープランを企画する

第12回 12/5 Unit 7 An ideal private tour plan プレゼンテーション

あなたがニーズに合わせたツアープランを英語で発表する

第13回 12/12 Unit 12 The babysitter #1

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を予測して英語で説明する

第14回 12/19 Unit 12 The babysitter #1 プレゼンテーション

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を英語で発表する

第15回 1/16 Unit 14 Unsent letter #1 The final presentation

The final presentation Zackの視点からAkiとの出会いを英語で発表する(暗記して発表)

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 C

竹崎 淳子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

日本語及び日本の価値観への自覚、異なった言語や文化

が存在することを理解し、しっかりとした英語力を身につけ、ものごとに対するバランスある総合的な思考力を養うことを目的としている。音声教材や映像教材を豊富に含む総合教材を適宜活用しながら、基礎的な語彙の正確な発音と意味内容の確認と基本的な文法を再確認する。質疑応答やディスカッションを通じて、日常堅実な会話力基礎力からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできることを目標とする。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

実務（航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳）や留学経験のある教員による指導。

<到達目標>

学生にとって身近な時事・社会現象をテーマとした読み物・会話を通して、そこで使用されている語彙・フレーズを習得し、自らの発話・表現にも反映することができるようになる。専門英会話・・・をベースに引き続き英語で読み、聞き、発信する力を養う。

<授業のキーワード>

Pros & cons, dictation, reasoning, asking and giving opinions, debate, discussion

<授業の進め方>

積極的に発話することが求められます。ペアワーク、グループワークを多用しアクティブに学んでいきます。

<履修するにあたって>

毎回必ず辞書は持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習各1時間程度。宿題が出た場合は、宿題をした上で授業に臨むこと。

<成績評価方法・基準>

授業態度（参加度、コメント、質疑応答等）30%、発表20%、小テスト（全7回）50%、

<テキスト>

Coffee Shop Discussions（南雲堂）

Alan Bossaer著

定価 本体2200円（税別-2021年現在）

ISBN: 978-4-523-17891-0 C0082

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Welcome to Coffee Shop Discussions!

第2回 Unit 2

Western-style Hotel vs Japanese Inn - Part 1

第3回 Unit 3

Western-style Hotel vs Japanese Inn - Part 2

第4回 Unit 4

e-Learning - Part 1

第5回 Unit 5

e-Learning - Part 2

第6回 Unit 6

Clubs and Circles - Part 1

第7回 Unit 7

Clubs and Circles - Part 2

第8回 Unit 8

Social Networking - Part 1

第9回 Unit 9

Social Networking - Part 2

第10回 Unit 10

Big City vs Small Town - Part 1

第11回 Unit 11

Big City vs Small Town - Part 2

第12回 Unit 12

Online Shopping - Part 1

第13回 Unit 13

Online Shopping - Part 2

第14回 Unit 14

Students Working Part-Time - Part 1

第15回 Unit 15

Students Working Part-Time - Part 2

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 D

竹崎 淳子

-----  
<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

日本語及び日本の価値観への自覚、異なった言語や文化が存在することを理解し、しっかりとした英語力を身につけ、ものごとに対するバランスある総合的な思考力を養うことを目的としている。音声教材や映像教材を豊富に含む総合教材を適宜活用しながら、基礎的な語彙の正確な発音と意味内容の確認と基本的な文法を再確認する。質疑応答やディスカッションを通じて、日常堅実な会話力基礎力からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできることを目標とする。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

実務（航空会社勤務、海外駐在、国際機関、メーカーやテーマパークでの通訳・翻訳）や留学経験のある教員による指導。

<到達目標>

学生にとって身近な時事・社会現象をテーマとした読み物・会話を通して、そこで使用されている語彙・フレーズを習得し、自らの発話・表現にも反映することができるようになる。専門英会話・・・をベースに引き続き

き英語で読み、聞き、発信する力を養う。

< 授業のキーワード >

Pros & cons, dictation, reasoning, asking and giving opinions, debate, discussion

< 授業の進め方 >

積極的に発話することが求められます。ペアワーク、グループワークを多用しアクティブに学んでいきます。

< 履修するにあたって >

毎回必ず辞書は持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各1時間程度。宿題が出た場合は、宿題をした上で授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度（参加度、コメント、質疑応答等）30%、発表20%、小テスト（全7回）50%、

< テキスト >

Coffee Shop Discussions（南雲堂）

Alan Bossaer 著

定価 本体2200円（税別-2021年現在）

ISBN: 978-4-523-17891-0 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、Unit 1

Welcome to Coffee Shop Discussions!

第2回 Unit 2

Western-style Hotel vs Japanese Inn - Part 1

第3回 Unit 3

Western-style Hotel vs Japanese Inn - Part 2

第4回 Unit 4

e-Learning - Part 1

第5回 Unit 5

e-Learning - Part 2

第6回 Unit 6

Clubs and Circles - Part 1

第7回 Unit 7

Clubs and Circles - Part 2

第8回 Unit 8

Social Networking - Part 1

第9回 Unit 9

Social Networking - Part 2

第10回 Unit 10

Big City vs Small Town - Part 1

第11回 Unit 11

Big City vs Small Town - Part 2

第12回 Unit 12

Online Shopping - Part 1

第13回 Unit 13

Online Shopping - Part 2

第14回 Unit 14

Students Working Part-Time - Part 1

第15回 Unit 15

Students Working Part-Time - Part 2

2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 E

川部 和世

< 授業の方法 >

講義と演習の授業です。ソーシャルメディア、ビジネス、ストーリーの3つのジャンルのテーマを扱い、インプット、実際の会話練習、プレゼンの3つの段階を踏み、スピーキング力をつけます。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは、manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合（基準を適用しない場合）の文例特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。実務的なテーマを元に会話(発音、発信スキルに留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

大学生が、社会生活に関連する現代社会の様々なテーマと各場面に合わせたフレーズをinputし、状況に応じてとっさに英語で発話することを目指して学習します。Output(speaking)が出来るように、exerciseを繰り返し、自分の気持ちや意見を相手に伝えるpracticeをします。英語が母国語ではない学習者にとって自然な英会話の流れを意識したトレーニングは必須となります。身近な場面を思い浮かべながらフレーズを使ってロールプレイをします。重要なフレーズをまず覚えて、自動化するようにしましょう。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して英語会話に興味を持ち、楽しみながら、英語のスキル、知識を習得していきましょう。

< 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。  
コミュニケーション力。

< 授業の進め方 >

まず、インプットでリスニング活動とリーディングを通して目的とするスピーキング活動のモデルとなる英語に触れます。次にプラクティスでは、音読活動やリテリング活動を通して、インプットで学んだ英語の定着を目指します。そして、アウトプットでは、いよいよゴールとなるスピーキング活動に挑戦します。一つ一つの活動を積み重ねていくことで、学生の皆さんが自信を持ってスピーキング力を身につけることが出来ることを目指します。教科書は早めに入手して下さい。教科書に書かれた音声ファイル無料ダウンロードサイトからURL、またはQRコードから無料で音声をダウンロードしておいて下さい。その音声を利用して、重要なフレーズを覚えて下さい。関連フレーズ、語彙、話題などによって知識を深め、ペアワーク、グループワークを通して、参加型、学習者中心のactiveに得た知識を実際に使うことで授業を進めます。Role play原稿作成、実演を通してスピーキング力、語彙力も習得できます。

< 履修するにあたって >

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ（B5サイズ）、出された課題を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。Role playの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

< 提出課題など >

隔週のRole playのグループの原稿、  
ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、プレゼンテーション原稿 提出 30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

< テキスト >

Speaking Steps スピーキングステップ? 英語を話すための3ステップ? (金星堂)

ISBN 978-4-7647-4151-5C1082 ¥1900

< 参考図書 >

辞書(英和)を毎回持参すること(電子辞書可)

< 授業計画 >

第1回 9/19 Unit 1 What is important to you?

自分の大切なものを英語で紹介する。

第2回 9/26 Unit 1 What is important to you? プレ

ゼンテーション

自分の大切なものを英語で発表する。

第3回 10/3 Unit 2 My morning routine

自分のモーニングルーティンを紹介する

第4回 10/10 Unit 2 My morning routine プレゼンテーション

自分のモーニングルーティンを英語で発表する。

第5回 10/17 Unit 3 Your recommended restaurant

自分のおすすめのレストランを紹介する

第6回 10/24 Unit 3 Your recommended restaurant プレゼンテーション

自分のおすすめのレストランを英語で発表する

第7回 10/31 Unit 4 The best film ever

自分のお気に入りの映画を紹介する

第8回 11/7 Unit 4 The best film ever プレゼンテーション

自分のお気に入りの映画を英語で発表する

第9回 11/14 Unit 5 What is a true friend?

Q&Aサイトで悩み相談に答える

第10回 11/21 Unit 5 What is a true friend? プレゼンテーション

Q&AサイトでNancyの悩み相談に答えて回答を英語で発表する

第11回 11/28 Unit 7 An ideal private tour plan

あなたがニーズに合わせたツアープランを企画する

第12回 12/5 Unit 7 An ideal private tour plan プレゼンテーション

あなたがニーズに合わせたツアープランを英語で発表する

第13回 12/12 Unit 12 The babysitter #1

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を予測して英語で説明する

第14回 12/19 Unit 12 The babysitter #1 プレゼンテーション

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を英語で発表する

第15回 1/16 Unit 14 Unsent letter #1 The final presentation

The final presentation Zackの視点からAkiとの出会いを英語で発表する(暗記して発表)

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話 F

保澤 美佳  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

日本語及び日本の価値観への自覚、異なった言語や文化

が存在することを理解し、しっかりとした英語力を身につけ、ものごとに対するバランスある総合的な思考力を養うことを目的としている。音声教材や映像教材を豊富に含む総合教材を適宜活用しながら、基礎的な語彙の正確な発音と意味内容の確認と基本的な文法を再確認する。質疑応答やディスカッションを通じて、日常堅実な会話力基礎力からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできることを目標とする。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

<到達目標>

- ・これまで培ってきた基本的な知識を授業内容に応用できる。（知識）
- ・聞いたり読んだりした内容について具体的に意見を述べるができる。（知識）
- ・国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。（態度・習慣）
- ・クラスメートと積極的にコミュニケーションを図ることができる。（態度・習慣）
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。（技能）

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかり行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。（週30分程度）| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。（週1時間程度）

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

学期末試験30%（プレゼンテーション20%、プレゼンテーション資料提出10%）、授業内評価40%（小テスト20%、授業参加度20%）、授業外評価（課題）30%

<テキスト>

English First Starter 出版元：金星堂、2,090円（税込）ISBN：9784764739697

<授業計画>

第1回 Unit7

It's a Date [一般動詞の過去形]

第2回 Unit7

It's a Date [一般動詞の過去形]

第3回 Unit8

I Have to Study [助動詞]

第4回 Unit8

I Have to Study [助動詞]

第5回 Unit9

What Do You Think of My Sketch? [疑問詞]

第6回 Unit9

What Do You Think of My Sketch? [疑問詞]

第7回 Unit10

Kanji Is So Difficult [不定詞・動名詞]

第8回 Unit10

Kanji Is So Difficult [不定詞・動名詞]

第9回 Unit11

I'll Make a Birthday Cake [未来形]

第10回 Unit11

I'll Make a Birthday Cake [未来形]

第11回 Unit12

Saturday or Sunday? [接続詞]

第12回 Unit12

Saturday or Sunday? [接続詞]

第13回 復習

復習

第14回 プレゼンテーション準備

次回の試験（プレゼンテーション）の準備を行います。

第15回 まとめと試験

前の回に準備した内容に基づいて、試験（プレゼンテーション）を行います。

-----  
2022年度 前期

1.0単位

専門英会話

川部 和世  
-----

<授業の方法>

講義と演習の授業です。ソーシャルメディア、ビジネス、ストーリーの3つのジャンルのテーマを扱い、インプット、実際の会話練習、プレゼンの3つの段階を踏み、スピーキング力をつけます。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたはmanaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合（基準を適用しない場合）の文例特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目

の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。実務的なテーマを元に会話(発音、発信スキルに留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

#### < 到達目標 >

大学生が、社会生活に関連する現代社会の様々なテーマと各場面に合わせたフレーズをinputし、状況に応じてとっさに英語で発話をするを旨として学習します。Output(speaking)が出来るように、exerciseを繰り返し、自分の気持ちや意見を相手に伝えるpracticeをします。英語が母国語ではない学習者にとって自然な英会話の流れを意識したトレーニングは必須となります。身近な場面を思い浮かべながらフレーズを使ってロールプレイをします。重要なフレーズをまず覚えて、自動化するようにしましょう。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して英語会話に興味を持ち、楽しみながら、英語のスキル、知識を習得していきましょう。

#### < 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。コミュニケーション力。

#### < 授業の進め方 >

まず、インプットでリスニング活動とリーディングを通して目的とするスピーキング活動のモデルとなる英語に触れます。次にプラクティスでは、音読活動やリテリング活動を通して、インプットで学んだ英語の定着を目指します。そして、アウトプットでは、いよいよゴールとなるスピーキング活動に挑戦します。一つ一つの活動を積み重ねていくことで、学生の皆さんが自信を持ってスピーキング力を身につけることが出来ることを目指します。教科書は早めに入手して下さい。教科書に書かれた音声ファイル無料ダウンロードサイトからURL、またはQRコードから無料で音声をダウンロードしておいて下さい。その音声を利用して、重要なフレーズを覚えて下さい。関連フレーズ、語彙、話題などによって知識を深め、ペアワーク、グループワークを通して、参加型、学習者中心のactiveに得た知識を実際に使うことで授業を進めます。Role play原稿作成、実演を通してスピーキング力、語彙力も習得できます。

#### < 履修するにあたって >

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ(B5サイズ)、出された課題を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。Role playの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

#### < 提出課題など >

隔週のRole playのグループの原稿、ファイナルプレゼンテーション原稿提出。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業態度10% 授業参加度10%

隔週のノート、プレゼンテーション原稿 提出 30%

最終プレゼンテーション原稿 20%

最終プレゼンテーション30%

#### < テキスト >

Speaking Steps スピーキング.ステップ? 英語を話すための3ステップ? (金星堂)

ISBN 978-4-7647-4151-5C1082 ¥1900

#### < 参考図書 >

辞書(英和)を毎回持参すること(電子辞書可)

#### < 授業計画 >

第1回 4/13 Unit 1 What is important to you?

自分の大切なものを英語で紹介する。

第2回 4/20 Unit 1 What is important to you? プレゼンテーション

自分の大切なものを英語で発表する。

第3回 4/27 Unit 2 My morning routine

自分のモーニングルーティンを紹介する

第4回 5/11 Unit 2 My morning routine プレゼンテーション

自分のモーニングルーティンを英語で発表する。

第5回 5/18 Unit 3 Your recommended restaurant

自分のおすすめのレストランを紹介する

第6回 5/25 Unit 3 Your recommended restaurant プレゼンテーション

自分のおすすめのレストランを英語で発表する

第7回 6/1 Unit 4 The best film ever

自分のお気に入りの映画を紹介する

第8回 6/8 Unit 4 The best film ever プレゼンテーション

自分のお気に入りの映画を英語で発表する

第9回 6/15 Unit 5 What is a true friend?

Q&Aサイトで悩み相談に答える

第10回 6/22 Unit 5 What is a true friend? プレゼンテーション

Q&AサイトでNancyの悩み相談に答えて回答を英語で発表

する

第11回 6/29 Unit 7 An ideal private tour plan

あなたがニーズに合わせたツアープランを企画する

第12回 7/6 Unit 7 An ideal private tour plan プレゼンテーション

あなたがニーズに合わせたツアープランを英語で発表する

第13回 7/13 Unit 12 The babysitter #1

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を予測して英語で説明する

第14回 7/20 Unit 12 The babysitter #1 プレゼンテーション

シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を英語で発表する

第15回 7/23 (土) Unit 14 Unsent letter #1 The final presentation

The final presentation Zackの視点からAkiとの出会いを英語で発表する(暗記して発表)

-----  
2022年度 後期

1.0単位

専門英会話

川部 和世  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習の授業です。ソーシャルメディア、ビジネス、ストーリーの3つのジャンルのテーマを扱い、インプット、実際の会話練習、プレゼンの3つの段階を踏み、スピーキング力をつけます。海外で英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。質問は授業後に受け付けます。緊急の時のみ、メール連絡は(dolphin1213@css.kobegakuin.ac.jpまたは、manaflower1213@yahoo.co.jp)まで。大学名、名前、クラス名を明記して下さい。

警報発令時も授業を実施する場合(基準を適用しない場合)の文例特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

基礎的英語力の習得を前提とし、更に「読む、書く、聞く、話す」の能力を向上させる。実務的なテーマを元に会話(発音、発信スキルに留意し)、最終的な基礎固めをすると同時に、実践的な会話や情報収集、発表力などを主とした技能を学ぶことで自分の考えや思いをスムーズに発言でき、かつ相手の話していることも理解できる能力を養う。この科目は現代社会学科と社会防災学科の

ディプロマシー(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。英語実務経験のある教員によって英語の実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

大学生が、社会生活に関連する現代社会の様々なテーマと各場面に合わせたフレーズをinputし、状況に応じてとっさに英語で発話することを目指して学習します。Output(speaking)が出来るように、exerciseを繰り返し、自分の気持ちや意見を相手に伝えるpracticeをします。英語が母国語ではない学習者にとって自然な英会話の流れを意識したトレーニングは必須となります。身近な場面を思い浮かべながらフレーズを使ってロールプレイをします。重要なフレーズをまず覚えて、自動化するようにしましょう。自主的に英語を話すこと、自分の考えを表現することにチャレンジをしてみましょう。グループ、ペアワークを通して英語会話に興味を持ち、楽しみながら、英語のスキル、知識を習得していきましょう。

< 授業のキーワード >

予習前提。自律的学習、ペアワーク、グループワーク。コミュニケーション力。

< 授業の進め方 >

まず、インプットでリスニング活動とリーディングを通して目的とするスピーキング活動のモデルとなる英語に触れます。次にプラクティスでは、音読活動やリテリング活動を通して、インプットで学んだ英語の定着を目指します。そして、アウトプットでは、いよいよゴールとなるスピーキング活動に挑戦します。一つ一つの活動を積み重ねていくことで、学生の皆さんが自信を持ってスピーキング力を身につけることが出来ることを目指します。教科書は早めに入手して下さい。教科書に書かれた音声ファイル無料ダウンロードサイトからURL、またはQRコードから無料で音声をダウンロードしておいて下さい。その音声を利用して、重要なフレーズを覚えて下さい。関連フレーズ、語彙、話題などによって知識を深め、ペアワーク、グループワークを通して、参加型、学習者中心のactiveに得た知識を実際に使うことで授業を進めます。Role play原稿作成、実演を通してスピーキング力、語彙力も習得できます。

< 履修するにあたって >

授業には、毎回必ず教科書、辞書、ルーズリーフ(B5サイズ)、出された課題を持参すること。この内のいずれかを忘れると、授業態度から減点となるので注意する。参加型の授業なので、積極的に授業に参加すること。授業中に他の授業の課題をすること、携帯電話、スマートフォンの使用を禁止する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストの予習、単語学習などのノートを作成して提出。Role playの週には、各週のトピックに添った英会話スクリプトを作り、提出する。

< 提出課題など >

隔週のRole playのグループの原稿、  
ファイナルプレゼンテーション原稿提出。  
<成績評価方法・基準>  
授業態度10% 授業参加度10%  
隔週のノート、プレゼンテーション原稿 提出 30%  
最終プレゼンテーション原稿 20%  
最終プレゼンテーション30%  
<テキスト>  
Speaking Steps スピーキングステップ? 英語を話すための3ステップ? (金星堂)  
ISBN 978-4-7647-4151-5C1082 ¥1900  
<参考図書>  
辞書(英和)を毎回持参すること(電子辞書可)  
<授業計画>  
第1回 9/21 Unit 1 What is important to you?  
自分の大切なものを英語で紹介する。  
第2回 9/28 Unit 1 What is important to you? プレゼンテーション  
自分の大切なものを英語で発表する。  
第3回 10/5 Unit 2 My morning routine  
自分のモーニングルーティンを紹介する  
第4回 10/12 Unit 2 My morning routine プレゼンテーション  
自分のモーニングルーティンを英語で発表する。  
第5回 10/19 Unit 3 Your recommended restaurant  
自分のおすすめのレストランを紹介する  
第6回 10/26 Unit 3 Your recommended restaurant プレゼンテーション  
自分のおすすめのレストランを英語で発表する  
第7回 11/2 Unit 4 The best film ever  
自分のお気に入りの映画を紹介する  
第8回 11/9 Unit 4 The best film ever プレゼンテーション  
自分のお気に入りの映画を英語で発表する  
第9回 11/16 Unit 5 What is a true friend?  
Q&Aサイトで悩み相談に答える  
第10回 11/30 Unit 5 What is a true friend? プレゼンテーション  
Q&AサイトでNancyの悩み相談に答えて回答を英語で発表する  
第11回 12/7 Unit 7 An ideal private tour plan  
あなたがニーズに合わせたツアープランを企画する  
第12回 12/14 Unit 7 An ideal private tour plan プレゼンテーション  
あなたがニーズに合わせたツアープランを英語で発表する  
第13回 12/21 Unit 12 The babysitter #1  
シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を予測して英語で説明する  
第14回 1/11 Unit 12 The babysitter #1 プレゼンテ

ーション  
シャーロットが2回目の電話を切った後の続きの展開を英語で発表する  
第15回 1/18 Unit 14 Unsent letter #1 The final presentation  
The final presentation Zackの視点からAkiとの出会いを英語で発表する(暗記して発表)

-----  
2022年度 前期  
2.0単位  
専門外書講読  
諏訪 清二  
-----

<授業の方法>  
講義を中心とする。質疑応答、発表などを多く用いる。英語のDVDも用いて、防災を英語音声、映像でも学ぶ。Webを使った授業となるが、双方向のやり取り、質疑なども多用する。

避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

連絡方法  
seijisuwa@css.kobegakuin.ac.jp  
seijisuwa@yahoo.co.jp

<授業の目的>  
近年、世界各国で様々なタイプの災害が発生している。特に、開発途上国でひとたび災害が起こるとその人的被害は大きく、日本からも様々な支援を行うこととなる。これから国際社会で防災やボランティアの活躍をしていく中では英語能力は欠かせず、また、世界の災害から日本が学ぶべきことは多い。専門外書講読では、これまでの高校英語などで学んできた語彙や会話表現を、辞書などを使いながらいかし、防災やボランティアに関する平易な英文を通して英語はもちろん、防災やボランティアの専門知識の学びを深める。また、多様な文書を読みながら、復習・確認し、英語力の更なる向上を目ざしていく。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。担当者は高等学校での英語教員の経験が長く、また兵庫県立舞子高等学校環境防災科で防災教育の実践にも長くかかわってきた。その実務経験を活かし、実践的な英語活用能力の育成と防災の知識の涵養を目指す。

<到達目標>  
和訳した日本語でなく、英語のまま文献を理解できるようになることを目指す。また、防災やボランティアなど専門用語の語彙力を増やす。簡単な速読訓練、ヒアリング訓練、発音訓練なども行う。

<授業のキーワード>  
世界の災害 被災地支援 速読 直読直解 音読  
<授業の進め方>

文章読解が中心となるが、その際ポイントとなる専門的な英単語を重点的に学習する。また、英語そのものに苦手意識を持たないよう、学生たちに身近な話題の英語で書かれた文章を読むなど、講義にメリハリを付けて進めていく。担当教員がこれまで関わってきたスリランカ、ネパールでの防災教育事例を英語を通して理解することで、防災と基礎的な英語の融合を目指す。

ネットを使った授業を取り入れ、NHK国際ニュース、BBC、CNNなどからタイムリに最新のニュースを取り上げ、視聴、解説する。

<履修するにあたって>

講義の教材は、基本的には全て英語である。出席の際には必ず辞書を持ってくること。

<授業時間外に必要な学修>

まず自分自身で英文を読み、不明な単語があれば調べておくこと。授業後には、英文を日本語訳なしで繰り返し読んでおくこと。(事前・事後学習各1時間程度)

<提出課題など>

毎時、小レポート(400字程度)を課す。

講義全体に関するレポート(3000字程度)を課す。

授業の中で回答例を示し解説する。

<成績評価方法・基準>

出席点、小レポート 3割

小テスト 3割

最終レポート 4割

<テキスト>

講義で配布する。ポートフォリオとして蓄積していくこと。

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 インTRODクシヨN

本講座の概要と進め方、防災やボランティアの専門単語について

第2回 ネパールでの地震防災活動

ネパールで地震防災活動を進めるNSET-Nepalの実践を学ぶ。

第3回 ネパールでの地震防災活動

ネパールで地震防災活動を進めるNSET-Nepalの実践を学ぶ。

第4回 ネパール地震支援活動

「チームひょうご」が行っているネパール地震支援活動を学ぶ。

第5回 ネパール地震支援活動

「チームひょうご」が行っているネパール地震支援活動を学ぶ。

第6回 まとめと小テスト

ネパールの関する防災活動、防災教育活動をまとめて、海外での支援の在り方を考える。

小テスト(30点)を行う。

第7回 Cause of Natural Disasters

アジア防災センターのデータブックを用いて、世界を襲う災害の原因を学ぶ。合わせて、基本的な英語表現、災害に関する図表の見方などを習得する。

第8回 Cause of Natural Disasters

アジア防災センターのデータブックを用いて、世界を襲う災害の原因を学ぶ。合わせて、基本的な英語表現、災害に関する図表の見方などを習得する。

第9回 Impact of Natural Disasters

アジア防災センターのデータブックを用いて、世界を襲う災害の影響を学ぶ。合わせて、基本的な英語表現、災害に関する図表の見方などを習得する。

第10回 Impact of Natural Disasters

アジア防災センターのデータブックを用いて、世界を襲う災害の影響を学ぶ。合わせて、基本的な英語表現、災害に関する図表の見方などを習得する。

第11回 Impact of Natural Disasters

アジア防災センターのデータブックを用いて、世界を襲う災害の影響を学ぶ。合わせて、基本的な英語表現、災害に関する図表の見方などを習得する。

第12回 まとめと小テスト

世界の災害の中でアジアが占める割合が大きいことを知り、その原因と対策を考える。

小テストを行う(30点)。

第13回 英語で発信①

防災の在り方について海外に英語で発信するための文章を考える。

第14回 英語で発信②

防災の在り方について海外に英語で発信するための文章を考える。

第15回 まとめ

15回の講義のまとめを行い、専門の視点から知っておきたい英語表現を再確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

専門外書講読

船木 伸江

-----  
<授業の方法>

「講義」、「演習」

<授業の目的>

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

近年、世界各国で様々なタイプの災害が発生している。特に、開発途上国でひとたび災害が起こるとその人的被害は大きく、日本からも様々な支援を行うこととなる。これから国際社会で防災やボランティアの活躍をしてい

く中では英語能力は欠かせず、また、世界の災害から日本が学ぶべきことは多い。専門外書購読 では、今までの高校英語などで学んできた語彙や会話表現を、辞書などを使いながらいかし、防災やボランティアに関係する平易な英文を通して英語はもちろん、防災やボランティアの専門知識の学びを深める。また、多様な文書を読みながら、復習・確認し、英語力の更なる向上を旨としていく。なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から理解を深めていく。

#### <到達目標>

和訳した日本語でなく、英語のまま文献を理解できるようになることを目指す。また、防災やボランティアなど専門用語の語彙力を増やす。

1. 防災に関するボキャブラリーを増やす。(知識)
2. 災害に関する用語を理解し、海外の防災・災害に関する文献を辞書を使って読解できるようになる。(知識)
3. 日本における災害やボランティアの現状について英語で簡単に説明できるようになる(技能)

#### <授業の進め方>

文章読解が中心となるが、その際ポイントとなる専門的な英単語を重点的に学習する。また、英語そのものに苦手意識を持たないよう、学生たちに身近な話題の英語で書かれた文章をj読み、プレゼンテーションを含みながら、講義にメリハリを付けて進めていく。

#### <履修するにあたって>

出席の際には必ず辞書を持ってくること。

#### <授業時間外に必要な学修>

まず自分自身で英文を読み、不明な単語があれば調べておくこと。授業後には、英文を日本語訳なしで繰り返し読んでおくこと。

#### <提出課題など>

レポートを必要に応じて課す

#### <成績評価方法・基準>

予習(単語調べの有無・文章の読みなど)、授業中の質疑、グループワーク、発表40%、小テスト・レポート・最終テスト60%

#### <テキスト>

最初の講義時に配布する。必ず出席して、もらい忘れないように。

#### <授業計画>

##### 第1回 イン트로ダクション

本講座の概要と進め方、防災やボランティアの専門単語について

##### 第2回 地震への備え

防災の単語力を増やすために、英語で書かれた地震が起きた際の災害対応の方法について学ぶ。また、各国で対応方法が異なることから、複数国の文書を比較しながら

読む。

##### 第3回 風水害への備え

防災の単語力を増やすために、英語で書かれた風水害が起きた際の災害対応の方法について学ぶ。特に、水害常襲地域(フィリピンなど)の複数国の文書を比較しながら読む。

##### 第4回 津波対策

防災の単語力を増やすために、英語で書かれた津波が起きた際の災害対応の方法について学ぶ。特に津波研究が進んでいるアメリカ、近年津波を経験した国(タイなど)の文書を比較して読む。

##### 第5回 非常持ち出し袋への備え

非常持ち出し品として推奨される備えの物品は国や文化背景によって大きく異なる。複数国比較しながら異文化理解を含めて、災害への備えの理解を深める。

##### 第6回 災害時のボランティア活動

ボランティアの心得と注意点

##### 第7回 A Living God 日本の神道精神

津波で有名な物語「稲むらの火」の原作である、A Living God(小泉八雲著)の中で、日本の神道精神がどのように表現されているか学び、外国から見た日本像への理解を深める。

##### 第8回 A Living God 日本の神道精神

津波で有名な物語「稲むらの火」の原作である、A Living God(小泉八雲著)の中で、日本の神道精神がどのように表現されているか学び、外国から見た日本像への理解を深める。

##### 第9回 A Living God 浜口悟陵の津波直後の対応

津波で有名な物語「稲むらの火」の原作である、A Living God(小泉八雲著)の中で描かれている浜口悟陵が和歌山県で津波が来た直後の対応行動を学ぶ。

##### 第10回 A Living God 浜口悟陵の津波直後の対応

津波で有名な物語「稲むらの火」の原作である、A Living God(小泉八雲著)の中で描かれている浜口悟陵が和歌山県で津波が来た直後の対応行動を学ぶ。

##### 第11回 A Living God 津波からの復旧・復興

津波で有名な物語「稲むらの火」の原作である、A Living God(小泉八雲著)の中で描かれている浜口悟陵が津波に襲われた村でどのような復旧・復興活動を行ったのかを学ぶ。

##### 第12回 A Living God 津波からの復旧・復興

津波で有名な物語「稲むらの火」の原作である、A Living God(小泉八雲著)の中で描かれている浜口悟陵が津波に襲われた村でどのような復旧・復興活動を行ったのかを学ぶ。

##### 第13回 ICSの仕組み

Incident Command System(インシデント・コマンド・システム)と呼ばれるアメリカの現場指揮システムは、災害や事件などの現場において、標準化されたマネジメント・システムを指す。ICSの仕組みを英語で学ぶ。

## 第14回 ICSの仕組み

アメリカでは政府や自治体、消防、警察、軍、その他、民間企業や自主防災組織の多くがICSを取り入れているため、異なる組織間でも、常に連携がとりやすい仕組みになっている。それぞれの団体がどう応用しながらICSの仕組みを活用しているか学ぶ。

## 第15回 ICSの特徴と機能

ICSの仕組みの理解を深めるとともに、特徴や機能について学ぶ。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ソーシャルキャピタル研究

江田 英里香、渡會 英明  
-----

### < 授業の方法 >

ソーシャルキャピタル研究では、授業の形態を3つに分けています。

#### 【第1回～第6回】

ソーシャルキャピタルについての理解を深めるために講義形式の授業をします。ワークシートを使った作業やディスカッションも行います。

#### 【第7回～第11回】

ソーシャルキャピタルの取り組み事例を調べたものをまとめ、プレゼンを行います。

#### 【第12回～第14回】

ソーシャルキャピタルを活かす/醸造するプロジェクト立案を行い、プレゼンをします。

### < 授業の目的 >

ソーシャルキャピタル(社会関係資本)とは、社会における人と人とのつながりを差し、目には見えない信頼、規範、ネットワークを地域資源として捉える概念です。孤立化、虐待、無縁社会など、人間関係の希薄化を一要因とする事象が増えつつある今、注目を集めています。本講義では、ソーシャルキャピタルの概念を理解したうえで、新たな「つながり」が必要とされる地域社会の実態を検証し、ソーシャルキャピタルを創出する事例を学びます。また、自らがソーシャルキャピタルを創出する担い手となって実施可能な企画作りを行います。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連します。

なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

### < 到達目標 >

ソーシャルキャピタルの基本的な概念が理解できる。  
ソーシャルキャピタルが注目される社会的背景が理解で

きる。

ソーシャルキャピタルの創出について自らの言葉で説明できる。

企画立案に関する基礎的能力を獲得する。

聞く力・話す力等のコミュニケーション能力を向上させる。

### < 授業のキーワード >

ソーシャルキャピタル、社会関係資本、つながり、ネットワーク、信頼、地域社会

### < 授業の進め方 >

講義・ディスカッション・グループワークなどを織り交ぜた授業を行います。したがって、授業に積極的に参加する心構えで受講をしてください。

ゲストスピーカーに話をしてもらおう機会を設ける予定ですので、その調整によっては講義内容が変更になる場合もあります。

### < 授業時間外に必要な学修 >

インターネットのニュース、新聞、文献、インターネットの記事などを中心に事前・事後学習各1時間程度

### < 提出課題など >

中間レポート(個人プレゼンテーションの内容)

最終レポート(グループプレゼンテーションの内容)

小論文課題

これらに対するコメントや説明については、授業内にてフィードバックします。

### < 成績評価方法・基準 >

小レポート(毎回) 45%

個人プレゼンテーション+レポート 30%

個人ワーク+レポート 25%

なお、レポートの提出、プレゼンのスライドの提出等はすべてmanabaで行います。

以上を総合的に評価します。

### < テキスト >

特にありません

### < 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

全15回の講義の流れとソーシャルキャピタルの定義について説明します。

第2回 ソーシャルキャピタルが注目される社会的背景

社会の変化に伴う、ソーシャルキャピタルのニーズの高まりについて検討します。

第3回 ソーシャルキャピタルが注目される社会的背景

家族の在り方の変化に伴う、ソーシャルキャピタルのニーズの高まりについて検討します。

第4回 ソーシャルキャピタルと災害

ソーシャルキャピタルと災害との関連について考えます。

第5回 ソーシャルキャピタルと地域社会  
ソーシャルキャピタルと地域社会との関連について考え  
ます。

第6回 ビジネスにおけるソーシャルキャピタル  
ビジネスにおけるソーシャルキャピタルの活用とその醸  
造について検討します。\*ゲストスピーカーを予定

第7回 ソーシャルキャピタル活用の実践事例  
ソーシャルキャピタルの活用に関する活動の事例を发表  
します。

第8回 ソーシャルキャピタル活用の実践事例  
ソーシャルキャピタルの活用に関する活動の事例を发表  
します。

第9回 ソーシャルキャピタル創出の実践事例  
ソーシャルキャピタルの創出に関する活動の事例を发表  
します。

第10回 ソーシャルキャピタル創出の実践事例  
ソーシャルキャピタルの創出に関する活動の事例を发表  
します。

第11回 ソーシャルキャピタル創出実践事例  
ソーシャルキャピタルの創出に関する活動の事例を发表  
します。

第12回 ソーシャルキャピタル創出の企画作成ワークシ  
ョップ

グループに分かれて、または個人で、ソーシャルキャピ  
タルを創出するための活動を企画します。

第13回 ソーシャルキャピタル創出の企画作成ワークシ  
ョップ

グループに分かれて、または個人で、ソーシャルキャピ  
タルを創出するための活動を企画します。

第14回 企画プレゼンテーション  
グループによる企画の発表を行います。

第15回 今後の課題  
ソーシャルキャピタルについての今後の課題について検  
証し、全体のまとめと質疑応答を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

岩本 茂樹

-----  
< 授業の方法 >

演習

メールアドレス

iwamoto`css.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

主題：卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人  
がテーマを定め、3年関から始まるゼミナール、  
を通して学んできた知識とフィールドから得た調査分  
析を基に、グローバルな視野と豊かな教養を兼ね備えた

学士の学位を得るにふさわしい論文を目指す。また、現  
代社会学科ディプロマ・ポリシー1「文化の形成に係る  
諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用する  
こと」を狙いとする。

目標：各ゼミナールを担当する教員から専門性の高い助  
言を受け、そのことを理解し、さらなる論文のブラッ  
シュアップを行うことを通して、学術的な思考に加えて、  
問題可決能力を高めることを目指す。

< 到達目標 >

4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさ  
わしい論文の作成。

< 授業の進め方 >

「卒業研究」を履修する必要がある。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、  
別途定める。「『卒業論文』作成の手引き」「卒業論の  
提出要項」を配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間程度の学習研究、並びに執筆活動を必要とする。

< 提出課題など >

研究成果、並びに研究経過の報告・提出を行うこと。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。卒業論文の合否は卒  
業論文審査委員会によって審査される。審査に合格すれ  
ば、専門演習である「卒業研究」とは別に4単位与えら  
れる。

< 授業計画 >

第1回

「卒業論文」は授業を行わない。同時に履修する「卒業  
研究」において各ゼミナール担当教員より学術的な研究  
の指導を受けて作成した論文を提出し、審査を経て単位  
を与えられる。詳細については、「卒業研究」を参照す  
ること。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

岡崎 宏樹

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業では、「社会と文化」を中心テーマとした卒業  
論文を作成する。その目的は、現代社会学科のディプロ  
マ・ポリシー2に示された諸能力（思考力・判断力・表  
現力等の能力）を育成することにある。実践的教育から  
構成される授業科目である。

< 到達目標 >

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収  
集・分析する能力、課題解決の方法を探求する能力を修

得する。

< 授業のキーワード >

文化社会学、現代社会論

< 授業の進め方 >

卒業論文に関しては、テーマ設定をより明確にし、先行研究の文献調査を進める。同時に、フィールドワーク調査を計画・実施し、その結果を分析する。一連の結果をまとめて、論文を執筆する。論文草稿は、個人指導で添削を受ける。最後に、校正を経て、製本する。

< 履修するにあたって >

卒業論文の完成をめざして、積極的に主体的に取り組むことを要望します。

< 授業時間外に必要な学修 >

文献読解、文献のまとめ、調査結果の分析、論文作成、添削をふまえた書き直し、校正などに取り組むこと。事前・事後学習各2時間程度。

< 提出課題など >

論文の執筆、修正稿の作成、校正、製本。論文や研究の評価については、個別指導の時間にフィードバックをおこないます。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文100%

< テキスト >

使用しません。

< 参考図書 >

岡崎宏樹『バタイユからの社会学 至高性、交流、剥き出しの生』関西学院大学出版会、2020年発行

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン/ガイダンス

この授業の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しく説明する。

第2回 卒業研究の計画

卒業研究の制作に向けて、基本的な事項について解説する。各自の関心を研究へと展開していく方法について検討する。

第3回 課題設定と情報検索(1)

(1)各自で調査課題を設定する。(2)課題に関連した文献資料を収集し、文献一覧表を作成する。

第4回 課題設定と情報検索(2)

(1)各自で調査課題を設定する。(2)課題に関連した文献資料を収集し、文献一覧表を作成する。

第5回 先行研究の検討(1)

(1)テーマに関する文献資料を収集する。(2)収集した文献の内容をまとめる。

第6回 先行研究の検討(2)

(1)テーマに関する文献資料の収集する。(2)収集した文献の内容をまとめる。(3)資料の批判的読解に取り組む。

第7回 論文の構成の検討

論文の構成を検討する。全体が論理的で説得力のある構成になるように、章や節を設定する。

第8回 草稿の作成(1)

(1)明確かつ論理的な記述の方法や適切な資料分析の方法を学ぶ。(2)論文の草稿を作成する。

第9回 草稿の作成(2)

(1)明確かつ論理的な記述の方法や適切な資料分析の方法を学ぶ。(2)論文の草稿を作成する。

第10回 草稿の添削と再検討(1)

(1)草稿の添削を受ける。指摘された問題を検討する。(2)課題について再検討したうえで、書き直しをおこなう。

第11回 草稿の添削と再検討(2)

(1)草稿の添削を受ける。指摘された問題を検討する。(2)課題について再検討したうえで、書き直しをおこなう。

第12回 修正稿の作成

修正稿を作成し、添削を受ける。指摘された点をふまえて再修正することで、論文の水準を高める。

第13回 校正

原稿を構成する。表記の統一や誤字脱字のチェックを丁寧におこない、原稿を完成させる。

第14回 製本

全体のレイアウトを調整する。プリントアウトした原稿を各自で製本する。担当教員の最終チェックを受けたいうで、指定の期日に提出する。

第15回 全体の振り返りと講評

卒業論文(卒業研究)の取り組みを振り返り、この取り組みをつうじて成長したポイントや残された学問的な課題等について検討する。担当教員から講評をおこなう。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

都村 聞人  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基礎科目(ゼミナール)に位置づけられ、卒業論文を完成させる段階にある。

受講生各自が設定した研究テーマにしたがって、卒業論文の研究の進捗状況を発表し、受講生相互で議論を行う。前半においては、問題設定、先行研究のレビュー、分析方法、データ分析の結果について発表し、研究の方向性を再確認する。また、その際の議論により、研究を各自修正する。後半においては、各受講生が卒業論文の草稿を発表し、考察、研究から得られるインプリケーションについて議論を行う。そのうえで、受講生相互のア

ドバイスを参考にしながら、研究を完成させる。

<到達目標>

自ら立てた計画に基づき、本調査を行い、結果を報告できる。

論文のストーリー、問いに対する答え、分析方法の問題点などを適宜修正できる。

草稿の執筆計画を自ら立て、計画通りに作業を進めることができる。

研究内容について、アカデミックな文章を書くことができる。

卒業研究の規程にあわせて、締め切りまでに論文を執筆することができる。

スライドなどを用いて、研究成果を短時間で発表することができる。

<授業のキーワード>

卒業研究、卒業論文

<授業の進め方>

受講生各自の作業、発表、議論、草稿チェックを中心に進める。

<履修するにあたって>

ゼミナールなので、積極的・主体的に取り組んで欲しい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、卒業論文のテーマに対する関心を深め、情報を集め、文献を積極的に読みましょう(目安として1時間程度)。

事後学習として、講義時に提示された課題を完成し、提出してください(目安として1時間程度)。

<提出課題など>

授業中の作業結果を提出してもらいます。(フィードバック:各自の作業結果に対してコメントを行い返却します。)

レポートを提出してもらいます。

(フィードバック:各自のレポートに対してコメントを行い返却します。)

<成績評価方法・基準>

ゼミにおける報告(20%)

レポート・課題(10%)

卒業論文(60%)

ゼミにおける質疑応答(10%)

<テキスト>

配布資料により授業を行う。

<参考図書>

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

「卒業研究」の進め方の説明、発表の分担、就職活動の状況の確認、卒業論文の規程・締め切りの確認など。

第2回 本調査の結果報告(1)

各自のテーマに沿って行った本調査の状況を報告する(第1グループ)。

第3回 本調査の結果報告(2)

各自のテーマに沿って行った本調査の状況を報告する(第2グループ)。

第4回 本調査の結果報告(3)

各自のテーマに沿って行った本調査の状況を報告する(第3グループ)。

第5回 分析結果の見直しの報告(1)

分析のストーリー、問いに対する答え、分析方法の問題点の修正結果を報告する(第1グループ)。

第6回 分析結果の見直しの報告(2)

分析のストーリー、問いに対する答え、分析方法の問題点の修正結果を報告する(第2グループ)。

第7回 分析結果の見直しの報告(3)

分析のストーリー、問いに対する答え、分析方法の問題点の修正結果を報告する(第3グループ)。

第8回 論文執筆内容の確認と執筆計画

論文に記載すべき事項を確認し、今後の執筆計画を立てる。

第9回 草稿の執筆とチェック(1)

各自が論文の執筆を進め、随時指導教員がコメントし、修正する(第1グループ)。

第10回 草稿の執筆とチェック(2)

各自が論文の執筆を進め、随時指導教員がコメントし、修正する(第2グループ)。

第11回 草稿の執筆とチェック(3)

各自が論文の執筆を進め、随時指導教員がコメントし、修正する(第3グループ)。

第12回 ピアレビュー

ゼミ生同士で相互の論文を読みあい、チェックする。

第13回 卒業研究発表資料の作成

PowerPointで研究発表資料を作成する。

第14回 研究発表(1)

PowerPointで研究発表を行う(第1グループ・第2グループ)。

第15回 研究発表(2)

PowerPointで研究発表を行う(第2グループ・第3グループ)。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

中野 雅至

-----  
<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業では卒業論文を書くために様々な能力を培うとともに、実際に書くことを目的とする

<到達目標>

卒業論文を書くこと

< 授業の進め方 >

各学生の進捗状況をみながらともに議論して卒業論文の創作を進めていきたい

< 授業時間外に必要な学修 >

予習1時間、復習1時間を行うこと

< 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度 ( 50% ) 提出物等の成果物 ( 50% )

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

この授業の進め方などについて解説する。

第2回 卒業研究の意義 ( 1 )

卒業研究の意義について解説する。

第3回 卒業研究の意義 ( 2 )

卒業研究の意義について解説する。

第4回 卒業研究についての議論 ( 1 )

様々な角度から卒業研究についての議論を行うことにする。

第5回 卒業研究についての議論 ( 2 )

様々な角度から卒業研究についての議論を行うことにする。

第6回 個別相談 ( 1 )

卒業論文に関して個別相談を行う。

第7回 個別相談 ( 2 )

卒業論文に関して個別相談を行う。

第8回 個別指導 ( 1 )

卒業論文に関して個別指導を行う。

第9回 個別指導 ( 2 )

卒業論文に関して個別指導を行う。

第10回 卒業研究の再検討 ( 1 )

これまでの議論などを踏まえて卒業研究の再検討を行う。

第11回 卒業研究の再検討 ( 2 )

これまでの議論などを踏まえて卒業研究の再検討を行う。

第12回 卒業研究についての再議論 ( 1 )

卒業研究の最終段階に向けた議論を行う。

第13回 卒業研究についての再議論 ( 2 )

卒業研究の最終段階に向けた議論を行う。

第14回 授業の総括 ( 1 )

授業の最終的な総括を行う。

第15回 授業の総括 ( 2 )

授業の最終的な総括を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

中村 恵

-----  
< 授業の方法 >

演習 ( 対面授業 )

< 授業の目的 >

担当教員の指導のもとで卒業研究を作成する。これによって論理的な思考力、文章力、主体的に社会を考察し分析する力を育成する。ゼミ で設定されたテーマに基づき、参考文献について調査し、その読み込みと考察を行うとともに、統計分析あるいはアンケート調査、聞き取り調査を進め、その結果を整理し分析する。その内容をまとめて中間発表会で公表する。文章の構成やその論理性の担保については、担当教員が個人指導を重ね、論文完成に導く。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成する。

< 到達目標 >

・卒論テーマに即した参考文献を読み、論理的な整理を行うことができる。

・卒論テーマに即した統計データを解析することができる

・卒論テーマに即した事例研究を実施することができる

・参考文献を的確に位置づけ、課題設定を明確にしたうえで、適切なデータ・事例を用いた論理的な論文を書くことができる

< 授業の進め方 >

主に教員による学生個人への個別指導を中心としながら、共通する課題、問題点については講義形式やグループディスカッション方式を用いて指導を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習、卒論草稿作成、完成原稿作成などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

学生が作成した卒論草稿等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上あるいは口頭にてコメント等のフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

卒論執筆にかかる態度 ( 50% )、提出草稿の形式的完成度・進捗度 ( 25% )、卒論内容の論理展開度 ( 25% )、により評価する。

< 授業計画 >

第1回～第3回 文献整理とデータ解析 ( 1 )

各自の卒論テーマに即して、読み込んだ参考文献の整理及び使用されるデータの解析結果についての報告を行う。

第4回～第6回 文献整理とデータ解析 ( 2 )

報告に対する教員コメントを参考にし、参考文献の整理及び使用されるデータの解析結果を修正し、文章として組み立てる。

第7回～第9回 中間発表

卒業論文中間発表を行う。

第10回～第12回 卒業論文作成

中間発表に対する教員のコメントを参考にし、形式にも意を払いながら卒業論文執筆を行う。適宜、教員に草稿の提出が求められ、検討が行われる。

第13回～第15回 最終調整と卒論の提出

教員との複数回の検討結果を踏まえ、最終的な修正を図りながら卒論を完成させ、提出を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

日高 謙一  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

卒業論文を完成させることを通じて、DP 2 に掲げる学士の学位にふさわしい思考力・判断力・表現力を獲得することを目的とする。

< 到達目標 >

学部で定める卒業論文様式にしたがい、卒業論文を完成させる。

< 授業の進め方 >

各自の卒業論文の進捗報告、中間報告の提出、添削、ものづくり計画の見直しというサイクルで、ものづくりと卒業論文を完成させていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文の作成に少なくとも30時間の授業時間外学修が必要である。

< 提出課題など >

都度添削とコメントを与える。

< 成績評価方法・基準 >

製作物の商品としての完成度（50％）、卒業作成プロセスにおける計画性と調査の充実度（50％）により評価する。

< 授業計画 >

第1回 中間報告書の検討

中間報告を添削し、個別に指導する。

第2回? 第3回 追加的な資料検索

前回の添削指導にもとづき必要となる追加資料・データの収集方法を個別に指導する。

第4回 ものづくりの進捗報告

ものづくりの進捗状況の報告、特に試作品についてのユーザーの反応について調査し報告する。

第5回? 第6回 追加資料の検討

追加収集した資料をどのように読み込んだか報告し、論文にどのように活用するか個別に指導する。

第7回? 第8回 卒論本文初稿の完成

卒論本文の初稿を完成させ提出する。

第9回? 第10回 指導教員による本文チェック

指導教員に卒論本文を提出し、個別に添削を受ける。

第11回 推敲の確認

前回の最終添削にもとづく各自の文章推敲を確認・再修正を行う。

第12回 卒論要約の作成

作成した論文要旨を個別に添削、指導する。

第13回 参考文献リストの作成

参考文献リスト、脚注などを完成させ、指導教員によるチェックを受ける。

第14回 卒論の最終確認

卒論様式等の最終チェックを行い、提出準備する。

第15回 卒論の共有

卒業論文の要旨を発表し、受講生どうして卒論内容を共有する。  
-----

2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

前田 拓也  
-----

< 授業の方法 >

演習形式（対面）

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に従い、（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握及びその解決策を探索することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目（ゼミナール）に位置づけられ、4年間の学びの集大成として卒業論文を完成させる。オリジナルな「問い」の発見、理解、およびそれらの解決のための方法などについて、みずからの生活世界のリアリティにもとづいて論じることができるようになることを目指す。

各人が個別に発表をおこなうことを通じて、卒論執筆状況の進捗報告、必要な文献、資料、データ、および分析の精緻化を試みる。その際には、各自の分析および計画に対する学生相互の批判的な議論が必要となる。

< 到達目標 >

・論文執筆のための技法を習得し、アカデミックなスタイルに則った、論理的な論文を書くことができる。

・オリジナルな研究を発表し、他者と共有、議論することができる。

< 授業のキーワード >

社会調査 / 質的調査 / フィールドワーク / エスノグラフィ

< 授業の進め方 >

学生各自の研究進捗状況の報告を中心に進める。

< 履修するにあたって >

ゼミは、教員の授業や他の学生の発表を一方的に「聴く」ためにあるのでなく、その場にいる者が「議論をおこなう」ためにある。活発な議論を期待したい。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習：卒論のテーマに関して、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくこと（目安：1時間程度）。

・事後学習：収集した資料（調査によって得られたデータ、各種統計資料、文献など）を再確認し、精査すること（目安：1時間程度）。

< 提出課題など >

・授業でおこなったプレゼン資料の提出

・卒業論文の提出  
（それぞれ授業中にコメントする）

< 成績評価方法・基準 >

ゼミにおける発表 50%、卒業論文 50%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進めかたについてあらためて説明すると同時に、発表の順番などを決定する。

第2回 調査結果の報告 1

テーマに関連して実施した調査の結果および現状を報告する。

第3回 調査結果の報告 2

テーマに関連して実施した調査の結果および現状を報告する。

第4回 分析結果再検討の報告 1

分析の内容、方法がもつ問題点の再検討および修正結果を報告する。

第5回 分析結果再検討の報告 2

分析の内容、方法がもつ問題点の再検討および修正結果を報告する。

第6回 卒論執筆形式の確認と計画の確定

論文の形式を確認し、執筆のためのタイムスケジュールを確定する。

第7回 分析結果の見直しと精緻化 1

データの分析を精緻化するとともに、「問い」と「答え」の一貫性を確認する。

第8回 分析結果の見直しと精緻化 2

データの分析を精緻化するとともに、「問い」と「答え」の一貫性を確認する。

第9回 草稿の執筆とチェック 1

各自が論文の執筆を進めるとともに、指導教員によるコメントをもとに修正する。

第10回 草稿の執筆とチェック 2

各自が論文の執筆を進めるとともに、指導教員によるコメントをもとに修正する。

第11回 ピアレビュー 1

ゼミ生同士で互いの論文を読みあい、チェックし、修正する。

第12回 ピアレビュー 2

ゼミ生同士で互いの論文を読みあい、チェックし、修正する。

第13回 卒論最終報告 1

これまでの研究成果を発表し、最終的な議論をおこなう。

第14回 卒論最終報告 2

これまでの研究成果を発表し、最終的な議論をおこなう。

第15回 卒論提出のための確認

卒論の内容、および提出のための形式などを確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

松田 ヒロ子  
-----

< 授業の方法 >

対面授業と遠隔授業の併用

ZOOM?とパスワードは履修者に別途お知らせします。

< 授業の目的 >

この授業の目的は、それぞれが行った社会調査で得たデータを分析、考察し、卒業論文を完成させることです。授業では各履修者が順番に研究経過の報告をし、他の履修者や教員からフィードバックをもらうことによって論文を完成させます。現代社会学部のDPが示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、現代社会における諸課題の発見、把握及びその解決策の探求と実践能力を養うことを目指します。

< 到達目標 >

（1）論文執筆の技法を習得し、学術的スタイルに則った論文を書くことができる。

（2）オリジナルな研究を発表し、それについて他者と議論することができる。

< 授業の進め方 >

履修者による研究報告と議論が中心です。論文執筆の技法については、プリントを用いて教員が説明します。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文の執筆は各自で行います。授業中に順番に研究報告をしてもらいます。レジュメの作成などに2時間程度の準備が必要です。

< 提出課題など >

提出物に対するフィードバックは授業中あるいは個人面談を通じて行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中のプレゼンテーション（10%） 卒業論文（90%）

< 授業計画 >

第1回 はじめに

授業の進め方について確認し、発表者の順番を決めます。

第2回 中間報告（1）

各履修者が研究の途中経過を報告します。

### 第3回 中間報告(2)

研究の途中経過を報告し、他の履修者や教員からフィードバックをもらいます。

### 第4回 中間報告(3)

研究の途中経過を報告し、他の履修者や教員からフィードバックをもらいます。

### 第5回 論文の書き方：構成を考える

論文のアウトラインの組み立て方について学びます。

### 第6回 論文の書き方：先行研究のレビュー

先行研究のレビューの書き方を学びます。

### 第7回 論文の書き方：本論を書く

調査結果の提示の仕方とそれに基づいた議論の組み立て方を学びます。

### 第8回 論文の書き方：図・グラフ・表

論文中で効果的に図表やグラフを示す方法を学びます。

### 第9回 論文の書き方：引用

様々な資料を引用しそれを論文中でルールに則って提示する方法を学びます。

### 第10回 論文の書き方：脚注と参考文献

脚注のつけ方と参考文献リストの作成方法を学びます。

### 第11回 論文の書き方：結論を書く

説得力のある結論の書き方を学びます。

### 第12回 最終報告(1)

これまでの研究の成果を発表します。

### 第13回 最終報告(2)

これまでの研究の成果について他の履修者や教員と議論します。

### 第14回 最終報告(3)

これまでの研究の成果を発表し、他の履修者や教員と議論します。

### 第15回 卒論の提出に向けて

論文提出前の最終チェック事項を確認します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

現代日本社会に生きる人々の生活における経験／実践に迫るような研究を各自が行う。普段自分自身が当たり前だと思っていることが、万人にとっての常識であるとは限らない。調査対象者が生活上のささいな出来事をどのように感じ、理解しているのかを明らかにすることで、

わたしたちはかれ／かのじょらが生きるリアリティを垣間見ることができ、それはわたしたちが生きる社会を理解することにつながるだろう。

調査によって得られたデータの分析や論文の記述に関して、発表を通じて内容を精査し、卒業論文の完成を目指す。

< 到達目標 >

卒業論文の執筆を通じて、自律的に問題を発見し、それを理解し、解決に向けたアイデアを生み出す能力を養う。

< 授業の進め方 >

ゼミでの研究報告と、指導教員による個別指導を行う。

< 履修するにあたって >

自らの研究報告のみならず、他の学生の報告にコメントすることも自身の学びにつながる。積極的な参加を求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：先行研究の読み込みと整理、調査データの分析、論文の執筆（目安として週3時間程度）。

事後学習：論文の構成・内容・体裁の見直し（目安として週2時間程度）。

< 提出課題など >

卒業研究の進捗状況報告書

（ゼミ中にコメントでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究進捗状況の報告内容と資料 100%

< 授業計画 >

第1回 調査結果報告

夏季休暇中の調査結果について報告し、追加調査の必要性やデータの解釈について検討する。

第2回 調査結果報告

夏季休暇中の調査結果について報告し、追加調査の必要性やデータの解釈について検討する。

第3回 調査結果報告

夏季休暇中の調査結果について報告し、追加調査の必要性やデータの解釈について検討する。

第4回 調査結果報告

夏季休暇中の調査結果について報告し、追加調査の必要性やデータの解釈について検討する。

第5回 調査結果報告

夏季休暇中の調査結果について報告し、追加調査の必要性やデータの解釈について検討する。

第6回 卒論進捗状況報告

卒業論文のとりまとめにむけて、卒業研究の進捗状況を報告する。また、同時進行で追加調査の結果報告を随時行う。

第7回 卒論進捗状況報告

卒業論文のとりまとめにむけて、卒業研究の進捗状況を報告する。また、同時進行で追加調査の結果報告を随時

行う。

#### 第8回 卒論進捗状況報告

卒業論文のとりまとめにむけて、卒業研究の進捗状況を報告する。また、同時進行で追加調査の結果報告を随時行う。

#### 第9回 卒論進捗状況報告

卒業論文のとりまとめにむけて、卒業研究の進捗状況を報告する。また、同時進行で追加調査の結果報告を随時行う。

#### 第10回 卒論進捗状況報告

卒業論文のとりまとめにむけて、卒業研究の進捗状況を報告する。また、同時進行で追加調査の結果報告を随時行う。

#### 第11回 卒業論文とりまとめ

卒業論文作成指導を通じて、完成を目指す。

#### 第12回 卒業論文とりまとめ

卒業論文作成指導を通じて、完成を目指す。

#### 第13回 卒業論文とりまとめ

卒業論文作成指導を通じて、完成を目指す。

#### 第14回 卒業論文とりまとめ

卒業論文作成指導を通じて、完成を目指す。

#### 第15回 研究成果発表

ゼミ内で卒論発表会をおこない、成果を共有する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

山本 努

-----  
< 授業の方法 >

演習（対面授業）。ゼミ生に報告が主になる。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

< 授業の目的 >

各自で設定したテーマに関し、先行研究の文献調査を進め、調査を実施し、結果を分析する。それらの成果をふまえて、卒業論文を作成する。

現代社会に係る諸事象を多面的・総合的に理解し、その問題解決の方途を探求する能力を高める点において、この授業は現代社会学科のディプロマ・ポリシー1・2に深く関連する。

< 到達目標 >

自分の問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。論理的な文章を書く高い能力を身につける。

< 授業のキーワード >

社会学と社会調査

< 授業の進め方 >

論文を制作する。

< 履修するにあたって >

積極的かつ主体的に取り組んでほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各2時間程度。各自のテーマについて調査研究をおこない、論文を執筆する。

< 提出課題など >

論文の計画表、目次構成、初稿、修正稿、完成原稿の提出が求められます。論文の評価については、個別指導の時間にフィードバックをおこないます。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究への取り組み（100%）：文献一覧表の作成、草稿の執筆、添削をふまえた書き直し、校正、製本など一連の取り組みを総合的に評価する。

< テキスト >

必要に応じて指示します。

< 参考図書 >

授業で指示します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション/ガイダンス

この授業の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しい説明を受ける。

連絡はmanabaに出します。

以後の授業も含めて。

第2回 卒業研究の計画

卒業研究の制作に向けて、重要事項について解説する。各自の関心を社会的な研究へと展開していく方法について検討する。

第3?4回 全体の構想

論文の全体の構想を練る。論理的な構成を検討し、目次を作成する。

第5?7回 初稿の作成

目次に沿って初稿を執筆する。書式、注、参考文献の記載方法について学ぶ。

第8?9回 論文指導

卒業論文の完成に向けた指導を受ける。個別指導が中心となる。文章の添削をおこなう。

第10?11回 卒業論文の作成

初稿を修正して、より完成度の高い卒業論文を執筆する。書けた部分を提出し、論文指導を受ける。

第12回 内容に関する最終検討

論文の完成に向けた検討をおこなう。注や参考文献の書式なども再度チェックする。

第13回 校正・製本

卒業論文の校正作業をおこない、完成原稿を製本する。

第14回 卒論ゼミ発表

半年間のゼミを振り返りのレポートを作成する。  
第15回 全体の振り返りと研究指導  
卒業研究の取り組みを振り返り、反省点や残された課題、  
どの点で成長できたかについて検討する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

伊藤 亜都子

-----  
< 授業の方法 >

演習

対面授業

< 授業の目的 >

本科目は現代社会学部DPIに示す、思考力・判断力・表現力  
等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ  
態度を見につけることを目指す。

< 主題 > ゼミナール に続き、各自のテーマに基づき、  
互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。

< 目標 > 卒業論文の調査を進め、卒業研究論文を完成  
させる。

< 到達目標 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業  
論文をまとめる

研究テーマの研究動向について理解する。(知識)

・各自で調査を実施することができる。(技能)

・計画的に資料の収集を行うことができる。(態度・習  
慣)

・研究目的に基づいた分析方法を実施することができる  
(技能)

・結果について解釈することができる。(知識)

< 授業のキーワード >

卒業論文の執筆

< 授業の進め方 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業  
論文をまとめる。最終的に研究発表会を実施する。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習・復習、卒業論文の執筆などを毎日2時間以  
上。

< 提出課題など >

提出期日に卒業論文を提出する。進んだ部分を随時提出  
し、指導を受ける。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑、グループワーク、発表30%、卒業論  
文70%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業を始めるにあたって、授業の進め方等についての  
ガイダンスを行う。

第2回 研究の背景と研究目的

第1章の研究の背景と目的の書き方を理解する。各自が  
設定したテーマが持つ課題は何か、なぜ研究をする必要  
性があるのかを考える。

第3回 研究背景と目的の書き方

第1章の研究の背景と目的を様々な論文から書き方を学  
び、完成させる。

第4回 「研究方法」の書き方

調査方法、調査の流れについて整理し、まとめる。

第5回 資料収集

研究資料の収集を行う

第6回 分析

研究資料の分析を行い、結果をまとめる

第7回 「研究結果」の書き方

調査をした結果のまとめ方を学ぶ。また、図・表の作成  
方法を学ぶ。

第8回 「考察」

先行研究結果や類似の調査との比較を行い、考察を加え  
ていく

第9回 「引用文献」

引用文献の表現を学び、論文中の引用文献の書き方を統  
一する。

第10回 「目次」「要旨」

論文全体が完成してきたら目次を修正し、論文を1枚で  
表現する要旨を作成する。

第11回 研究発表の仕方を学ぶ

各自でプレゼンを準備しまとめた内容の発表準備をする

第12回 研究発表と討論

各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分  
を修正する

第13回 研究発表と討論

各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分  
を修正する

第14回 論文の推敲と完成

意見交換での指摘を修正し、論文各章の最終推敲を行う  
。目次、本文、引用、図表などに間違いがないか最終  
チェックを行い、完成させる。

第15回 論文発表準備

卒業論文を発表するための準備、発表練習をする。これ  
までの活動・研究を総合的に振り返る。

-----  
2022年度 後期  
2.0単位  
卒業研究  
江田 英里香

-----  
< 授業の方法 >  
前半は合同で卒論の書き方について学びます。後半は卒

論執筆が中心となりますので、個別指導をします。

前半は骨組みであるフレームワークづくり、資料の集め方調べ方を学習した上で、卒業論文に取り掛かってもらいます。各人のペースで課題を毎回出しますので、その課題を次回持参してもらい、進めていきます。

< 授業の目的 >

ゼミナールで行ってきた研究の最終段階として、卒業研究を完成させます。個々人でテーマが異なることから、個別指導を行います。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連します。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

卒業研究を完成することができる。

< 授業の進め方 >

ゼミナール全体での発表や、個別指導と討論を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内では、卒業論文の書き方や体裁の整え方、中身のチェックなどを行います。

それ以外の卒業論文執筆は授業時間外に行ってもらいます。

各自必要な資料と文献を用いて行います。

< 提出課題など >

卒業研究 manabaやLINEでのやり取りをします。

授業内での質問やコメントについては、毎回の授業内でフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

討論時の意見内容や活動内容 50%

卒業研究 50%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

今までの卒業研究を踏まえ、今後の課題と計画を立てます。

第2回 卒業研究の基礎

論文作成スケジュールと研究テーマの精査をします。

第3回 卒業研究

論文の体裁、研究方法の確認を行います。

第4回 研究指導

調査内容の精査と分析の方法の確認を行います。

第5回 研究指導

考察について指導します。

第6回 個人研究基礎指導

学生一人一人の卒業論文の基礎的内容に関する指導、討論を行います。

第7回 個人研究基礎指導

学生一人一人の卒業論文の基礎的内容に関する指導、討論を行います。

第8回 個人研究応用指導

学生一人一人の卒業論文の本論に関する発表と指導、討論を行います。

第9回 個人研究応用指導

学生一人一人の卒業論文の本論に関する発表と指導、討論を行います。

第10回 個人研究最終指導

学生一人一人の卒業論文の全体の構成や論理展開に関する指導、討論を行います。

第11回 個人研究最終指導

学生一人一人の卒業論文の全体の構成や論理展開に関する指導、討論を行います。

第12回 研究論文確認

学生同士による論文の最終確認と教師による指導を行います。

第13回 卒業論文確認

学生同士による論文の最終確認と教師による指導を行います。

第14回 提出と振り返り

論文を完成させての学生一人一人の反省とこれからの展望についての指導と話し合います。

第15回 審査に向けてのプレゼンテーションの方法

論文審査にむけてのプレゼンテーションの指導を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

中田 敬司  
-----

< 授業の方法 >

講義 演習 (対面授業および遠隔授業併用)

< 授業の目的 >

本科目は現代社会学部DPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度を見につけることを目指す。

< 主題 > ゼミナールに続き、各自のテーマに基づき、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。

< 目標 > 卒業論文の調査を進め、卒業研究論文を完成させる。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

< 到達目標 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業論文をまとめる

研究テーマの研究動向について理解する。(知識)

・各自で調査を実施することができる。(技能)

・ 計画的に資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

・ 研究目的に基づいた分析方法を実施することができる(技能)

・ 結果について解釈することができる。(知識)

< 授業の進め方 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業論文をまとめる。最終的に研究発表会を実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習・復習や、卒業論文の執筆などを毎日1時間以上行う。

< 提出課題など >

提出期日に卒業論文を提出する。進んだ部分を随時提出し、指導を受ける。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑、グループワーク、発表30%、卒業論文70%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス  
本授業を始めるにあたって、授業の進め方等についてのガイダンスを行う。

第2回 研究の背景と研究目的  
第1章の研究の背景と目的の書き方を理解する。各自が設定したテーマが持つ課題は何か、なぜ研究をする必要があるのかを考える。

第3回 研究背景と目的の書き方  
第1章の研究の背景と目的を様々な論文から書き方を学び、完成させる。

第4回 「研究方法」の書き方  
調査方法、調査の流れについて整理し、まとめる。

第5回 資料収集  
研究資料の収集を行う

第6回 分析  
研究資料の分析を行い、結果をまとめる

第7回 「研究結果」の書き方  
調査をした結果のまとめ方を学ぶ。また、図・表の作成方法を学ぶ。

第8回 「考察」  
先行研究結果や類似の調査との比較を行い、考察を加えていく

第9回 「引用文献」  
引用文献の表現を学び、論文中の引用文献の書き方を統一する。

第10回 「目次」「要旨」  
論文全体が完成してきたら目次を修正し、論文を1枚で表現する要旨を作成する。

第11回 研究発表の仕方を学ぶ  
各自でプレゼンを準備しまとめた内容の発表準備をする

第12回 研究発表と討論  
各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分

を修正する

第13回 研究発表と討論  
各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分を修正する

第14回 論文の推敲  
意見交換での指摘を修正し、論文各章の最終推敲を行う

第15回 論文の完成と提出  
目次、本文、図表、引用文献、要旨に間違いがないか最終チェックを行い論文を提出する。

-----

2022年度 後期  
2.0単位  
卒業研究  
船木 伸江  
-----

< 授業の方法 >  
講義 演習

< 授業の目的 >  
本科目は現代社会学部DPに示す、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度を見につけることを目指す。

< 主題 > ゼミナール に続き、各自のテーマに基づき、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。

< 目標 > 卒業論文の調査を進め、卒業研究論文を完成させる。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

< 到達目標 >  
個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業論文をまとめる  
研究テーマの研究動向について理解する。(知識)

・ 各自で調査を実施することができる。(技能)

・ 計画的に資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

・ 研究目的に基づいた分析方法を実施することができる(技能)

・ 結果について解釈することができる。(知識)

< 授業の進め方 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業論文をまとめる。最終的に研究発表会を実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習・復習や、卒業論文の執筆などを毎日1時間以上行う。

< 提出課題など >

提出期日に卒業論文を提出する。進んだ部分を随時提出し、指導を受ける。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑、グループワーク、発表 30%、卒業論文 70%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業を始めるにあたって、授業の進め方等についてのガイダンスを行う。

第2回 研究の背景と研究目的

第1章の研究の背景と目的の書き方を理解する。各自が設定したテーマが持つ課題は何か、なぜ研究をする必要があるのかを考える。

第3回 研究背景と目的の書き方

第1章の研究の背景と目的を様々な論文から書き方を学び、完成させる。

第4回 「研究方法」の書き方

調査方法、調査の流れについて整理し、まとめる。

第5回 資料収集

研究資料の収集を行う

第6回 分析

研究資料の分析を行い、結果をまとめる

第7回 「研究結果」の書き方

調査をした結果のまとめ方を学ぶ。また、図・表の作成方法を学ぶ。

第8回 「考察」

先行研究結果や類似の調査との比較を行い、考察を加えていく

第9回 「引用文献」

引用文献の表現を学び、論文中の引用文献の書き方を統一する。

第10回 「目次」「要旨」

論文全体が完成してきたら目次を修正し、論文を1枚で表現する要旨を作成する。

第11回 研究発表の仕方を学ぶ

各自でプレゼンを準備しまとめた内容の発表準備をする

第12回 研究発表と討論

各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分を修正する

第13回 研究発表と討論

各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分を修正する

第14回 論文の推敲

意見交換での指摘を修正し、論文各章の最終推敲を行う

第15回 論文の完成と提出

目次、本文、図表、引用文献、要旨に間違いがないか最終チェックを行い論文を提出する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

前林 清和  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。前期のゼミナールで行ってきた研究の最終段階である。研究の完成にむけて、個人研究を行っていく。論文の内容は、もとより、体裁や内容チェックの方法などを学び、完成度の高い研究成果を目指す。

< 到達目標 >

卒業研究を完成することができる。(知識、技能)

< 授業の進め方 >

各人が作成している卒業研究の個別指導と討論によって展開していく。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度

< 提出課題など >

卒業研究の提出 授業の中で、解説・講評並びにフィードバックやコメントを行う。

< 成績評価方法・基準 >

討論時の意見内容や活動内容 50%

卒業研究

50%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方

第2回 卒業研究の基礎1

論文作成スケジュールと研究テーマの精査

第3回 卒業研究の基礎2

論文の体裁、研究方法の確認

第4回 全体研究指導1

調査内容の精査と分析の方法の確認

第5回 全体研究指導2

考察のポイント

第6回 個人研究基礎指導1

学生一人一人の卒業論文の基礎的内容に関する指導、討論

第7回 個人研究基礎指導2

学生一人一人の卒業論文の基礎的内容に関する指導、討論

第8回 個人研究応用指導1

学生一人一人の卒業論文の本論に関する発表と指導、討論

第9回 個人研究応用指導2

学生一人一人の卒業論文の本論に関する発表と指導、討論

論

第10回 個人研究最終指導 1

学生一人一人の卒業論文の全体の構成や論理展開に関する指導、討論

第11回 個人研究最終指導 2

学生一人一人の卒業論文の全体の構成や論理展開に関する指導、討論

第12回 研究論文確認 1

学生同士による論文の最終確認と教師の指導

第13回 研究論文確認 2

学生同士による論文の最終確認と教師による指導

第14回 提出とふりかえり

論文を完成させての学生一人一人の反省とこれからの展望についての指導と話し合い

第15回 審査にむけてのプレゼンテーションの方法

論文審査にむけてのプレゼンテーションの指導

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

松山 雅洋

-----  
< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は現代社会学部ディプロマポリシーの思考力・判断力・表現力等の能力、及び主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度の取得に関連する。< 主題 > 各自のテーマに基づき、互いに意見交換・発表を行いながら研究を深めていく。< 目標 > 卒業論文の調査を進め、卒業研究論文を完成させる。

なお、この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防防災行政で実務経験のある教員である。実務経験を踏まえて、分かりやすく解説する。

< 到達目標 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業論文をまとめる

研究テーマの研究動向について理解する。(知識)

・各自で調査を実施することができる。(技能)

・計画的に資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

・研究目的に基づいた分析方法を実施することができる(技能)

・結果について解釈することができる。(知識)

< 授業のキーワード >

卒業論文のオリジナリティ、研究成果の社会的価値

< 授業の進め方 >

個別の研究指導、調査、学生同士の意見交換を経て卒業

論文をまとめる。最終的に研究発表会を実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習に各1時間程度。

< 提出課題など >

提出日に卒業論文を提出する。進んだ部分を随時提出し、指導を受ける。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑、グループワーク、発表30%、卒業論文70%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業を始めるにあたって、授業の進め方等についてのガイダンスを行う。

第2回 研究の背景と研究目的

第1章の研究の背景と目的の書き方を理解する。各自が設定したテーマが持つ課題は何か、なぜ研究をする必要があるのかを考える。

第3回 研究背景と目的の書き方

第1章の研究の背景と目的を様々な論文から書き方を学び、完成させる。

第4回 「研究方法」の書き方

調査方法、調査の流れについて整理し、まとめる。

第5回 資料収集

研究資料の収集を行う

第6回 分析

研究資料の分析を行い、結果をまとめる

第7回 「研究結果」の書き方

調査をした結果のまとめ方を学ぶ。また、図・表の作成方法を学ぶ。

第8回 「考察」

先行研究結果や類似の調査との比較を行い、考察を加えていく

第9回 「引用文献」

引用文献の表現を学び、論文中の引用文献の書き方を統一する。

第10回 「目次」「要旨」

論文全体が完成してきたら目次を修正し、論文を1枚で表現する要旨を作成する。

第11回 研究発表の仕方を学ぶ

各自でプレゼンを準備しまとめた内容の発表準備をする

第12回 研究発表と討論  
各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分を修正する

第13回 研究発表と討論

各自の研究発表を行い、意見交換し、わかりにくい部分を修正する

第14回 論文の推敲

意見交換での指摘を修正し、論文各章の最終推敲を行う

第15回 論文の完成と提出

目次、本文、図表、引用文献、要旨に間違いがないか最

最終チェックを行い論文を提出する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

水本 有香

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のDP2-2（思考力・判断力を身につける）に関連する科目であり、現代社会の多面的、総合的な理解、諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践ができることを目指す。これまでの事例の検証およびゼミナールにおける実践的な経験を通して、新たな途上国の視点、新たな日本の視点を見出し、地域社会の多面的な把握とグローバル化の内実の深い洞察に基づいたテーマを設定する。自らが設定したテーマに関する分析を進めると同時に、地域社会、国際社会において豊かで幸福なくらしの実現およびその持続可能なあり方を自らの中やゼミナール、社会との対話の中で追及しつつ卒業論文を完成させる。

また、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災のほか、国内外の自然災害関連資料を調査する施設に勤務した実務経験のある教員です。且つ実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

卒業研究を完成させることを通じて、一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。

< 授業のキーワード >

開発教育、国際協力、国際理解、自然災害

< 授業の進め方 >

各自のテーマに従って、全体で検討、討論、発表などを行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて積極的に情報収集して授業に臨んでください。

授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

毎回、授業中に意見交換や発表などを求め、学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献（45%）、レポート等（25%）、及び発表（30%）により評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の全体、授業の進め方、評価の仕方など。

第2回 データの整理・分析

収集したデータを整理し、分析する。

第3回 データの整理・分析

収集したデータを整理し、分析する。

第4回 データの整理・分析

収集したデータを整理し、分析する。

第5回 報告

各自が設定した研究内容を報告する。

第6回 報告

各自が設定した研究内容を報告する。

第7回 報告

各自が設定した研究内容を報告する。

第8回 修正

各自が設定した研究内容を修正する。

第9回 修正

各自が設定した研究内容を修正する。

第10回 まとめ

調査、分析結果をまとめ、論文を執筆する。

第11回 まとめ

調査、分析結果をまとめ、論文を執筆する。

第12回 まとめ

調査、分析結果をまとめ、論文を執筆する。

第13回 発表準備

発表会に向け、発表準備を行なう。

第14回 発表準備

発表会に向け、発表準備を行なう。

第15回 発表準備

発表会に向け、発表準備を行なう。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

安富 信

-----  
< 授業の方法 >

12月中旬の卒業委論文締め切りに向けて、自宅等で執筆し、研究室ではその進捗状況を点検する。

対面授業

< 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2（現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる）を身に付ける。災害情報、災害報道の現状と課題を総ざらいする。前期のゼミナールで行ってきた卒業研究の最終段階である。研究の完成にむけて、個人研究を研鑽する。論文の内容はもとより、体裁や内容チェックの方法なども学び、完成度の高い研究成果を目指す。読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、そ

れによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされておられ、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

卒業論文を完成することができる。

<授業の進め方>

各人が作成している卒業研究論文の個別指導と討論をする。

<授業時間外に必要な学修>

卒論に向けて1日最低2時間以上研究、調査する。

<提出課題など>

卒業研究論文の提出

<成績評価方法・基準>

討論時の意見内容や活動内容 40%

卒業研究 60%

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒業論文作成の進め方

第2回 卒業研究の基礎 1

論文作成スケジュールと研究テーマの精査

第3回 卒業研究の基礎 2

論文の体裁、研究方法の確認

第4回 全体研究指導 1

調査内容の精査と分析方法の確認

第5回 全体研究指導 2

考察のポイント

第6回 個人研究基礎指導 1

学生一人一人の卒業論文の基礎的内容に関する指導、討論

第7回 個人研究基礎指導 2

学生一人一人の卒業論文の基礎的内容に関する指導、討論

第8回 個人研究応用指導 1

学生一人一人の卒業論文の本論に対する指導、討論

第9回 個人研究応用指導 2

学生一人一人の卒業論文の本論に対する指導、討論

第10回 個人研究最終指導 1

学生一人一人の卒業論文の全体の構成や論理展開に関する指導、討論

第11回 個人研究最終指導 2

学生一人一人の卒業論文の全体の構成や論理展開に関する指導、討論

第12回 研究論文確認 1

学生同士による論文の最終確認と教師の指導

第13回 研究論文確認 2

学生同士による論文の最終確認と教師の指導

第14回 提出と振り返り

論文を完成させた学生一人一人の反省と今後の展開についての指導と話し合い

第15回 審査にむけてのプレゼンテーションの方法

論文審査にむけてのプレゼンテーションの指導

-----  
2022年度 後期

2.0単位

卒業研究

佐伯 琢磨  
-----

<授業の方法>

ゼミナールを通して、防災に関する専門知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

今までのゼミナールで行ってきた研究や実践活動をもとに、卒業研究論文作成をするために、よりテーマを絞った個人研究の内容とする。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

<到達目標>

各自がオリジナリティを十分に盛り込んだ「卒業論文」の完成を目指す。

<授業のキーワード>

災害発生の原因、および時系列的な被害拡大原因を理解すること。

<授業の進め方>

発表者の内容についてみんなで議論し、発表内容をより高次のものにしてゆく。

<履修するにあたって>

将来、社会に出た際に役立つ内容と思われるので、積極的に参加すること。

<授業時間外に必要な学修>

研究テーマに関する文献収集など、自主的に取り組む姿勢が求められる。

<成績評価方法・基準>

途中段階でのプレゼンテーションなどを評価対象とする。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒業研究の進め方について、説明する。

第2回 中間発表の振り返り(1)

ゼミナール での中間発表について、各自振り返りを行う。

第3回 中間発表の振り返り(2)

ゼミナール での中間発表について、各自振り返りを行う。

第4回 テーマ発表および討議 1 -

グループ の学生の研究テーマについて、パワーポイントを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第5回 テーマ発表および討議 1 -  
グループ の学生の研究テーマについて、パワーポイントを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第6回 テーマ発表および討議 1 -  
グループ の学生の研究テーマについて、パワーポイントを作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第7回 テーマ発表および討議 2 -  
グループ の学生の研究テーマについて、パワーポイントに加え発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第8回 テーマ発表および討議 2 -  
グループ の学生の研究テーマについて、パワーポイントに加え発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第9回 テーマ発表および討議 2 -  
グループ の学生の研究テーマについて、パワーポイントに加え発表梗概を作成したうえで、研究発表を行い、討議する。

第10回 卒論発表に向けた最終調整 ( 1 )  
卒論発表に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第11回 卒論発表に向けた最終調整 ( 2 )  
卒論発表に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第12回 卒論発表に向けた最終調整 ( 3 )  
卒論発表に向けて、各グループそれぞれ最終調整を行う。

第13回 振り返り、まとめ ( 1 )  
卒論発表を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

第14回 振り返り、まとめ ( 2 )  
卒論発表を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

第15回 振り返り、まとめ ( 3 )  
卒論発表を終えて、各グループそれぞれ振り返り、およびまとめを行う。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

岩本 茂樹

-----  
< 授業の方法 >

演習

メールアドレス

iwamoto`css.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

主題：卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、3年間から始まるゼミナール、  
を通して学んできた知識とフィールドから得た調査分析を基に、グローバルな視野と豊かな教養を兼ね備えた学士の学位を得るにふさわしい論文を目指す。また、現

代社会学科ディプロマ・ポリシー 1「文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用すること」を狙いとする。

目標：各ゼミナールを担当する教員から専門性の高い助言を受け、そのことを理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通して、学術的な思考に加えて、問題可決能力を高めることを目指す。

< 到達目標 >

4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成。

< 授業の進め方 >

「卒業研究」を履修する必要がある。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、別途定める。「『卒業論文』作成の手引き」「卒業論の提出要項」を配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間程度の学習研究、並びに執筆活動を必要とする。

< 提出課題など >

研究成果、並びに研究経過の報告・提出を行うこと。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。卒業論文の可否は卒業論文審査委員会によって審査される。審査に合格すれば、専門演習である「卒業研究」とは別に4単位与えられる。

< 授業計画 >

第1回

「卒業論文」は授業を行わない。同時に履修する「卒業研究」において各ゼミナール担当教員より学術的な研究の指導を受けて作成した論文を提出し、審査を経て単位を与えられる。詳細については、「卒業研究」を参照すること。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

岡崎 宏樹

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「社会と文化」をテーマとした卒業論文を作成する。各自で設定したテーマに関し、先行研究の文献調査を進め、調査を実施し、結果を分析する。それらの成果をふまえて、卒業論文を作成する。

現代社会と現代文化に係る諸事象を多面的・総合的に理解し、その問題解決の方途を探求する能力を高める点において、この授業は現代社会学科のディプロマ・ポリシー 1・2に深く関連する。

< 到達目標 >

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。論理的な文章を書く高い能力を身につける。

< 授業のキーワード >

文化社会学

< 授業の進め方 >

「社会と文化」に関連するテーマに関する論文を制作する。文章に関しては個別指導を受ける。

< 履修するにあたって >

積極的かつ主体的に取り組んでほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習各2時間程度。各自のテーマについて調査研究をおこない、論文を執筆する。

< 提出課題など >

論文の計画表、目次構成、初稿、修正稿、完成原稿の提出が求められます。論文の評価については、個別指導の時間にフィードバックをおこないます。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究への取り組み(100%)：文献一覧表の作成、草稿の執筆、添削をふまえた書き直し、校正、製本など一連の取り組みを総合的に評価する。

< テキスト >

使用しません。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション/ガイダンス

この授業の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しい説明を受ける。

第2回 卒業研究の計画

卒業研究の制作に向けて、重要事項について解説する。各自の関心を社会学的な研究へと展開していく方法について検討する。

第3回 全体の構想

論文の全体の構想を練る。論理的な構成を検討し、目次を作成する。

第4回 全体の構想

論文の全体の構想を練る。論理的な構成を検討し、目次を作成する。

第5回 初稿の作成

目次に沿って初稿を執筆する。

第6回 初稿の作成

書式、注、参考文献の記載方法について学ぶ。

第7回 初稿の作成

目次に沿って初稿を執筆する。書式、注、参考文献の記載方法について学ぶ。

第8回 論文指導

卒業論文の完成に向けた指導を受ける。

第9回 論文指導

卒業論文の完成に向けた指導を受ける。個別指導が中心となる。文章の添削をおこなう。

第10回 卒業論文の作成

初稿を修正して、より完成度の高い卒業論文を執筆する。  
第11回 卒業論文の作成

初稿を修正して、より完成度の高い卒業論文を執筆する。書けた部分を提出し、論文指導を受ける。

第12回 内容に関する最終検討

論文の完成に向けた検討をおこなう。注や参考文献の書式なども再度チェックする。

第13回 校正・製本

卒業論文の校正作業をおこない、完成原稿を製本する。

第14回 卒論ゼミ発表

半年間のゼミを振り返りのレポートを作成する。

第15回 全体の振り返りと研究指導

卒業研究の取り組みを振り返り、反省点や残された課題、どの点で成長できたかについて検討する。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

都村 聞人

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門分野科目に位置づけられ、「市民と生活」「仕事と産業」「地域と文化」の3領域のなかから自らの興味関心に基づきテーマを選択し、卒業論文を執筆することを目的としている。

受講生各自のアカデミックな関心にしたがって、研究テーマを設定し、卒業論文を執筆する。3年次のゼミナールをふまえ、学部4年生が自らの力で試行錯誤しながら分析を行うことができる問題を設定する。また、当該問題に対してどのような研究がなされてきたかをレビューし、そのうえで自らが何をなし得るかを考えてもらう。仮説、データの説明、分析方法の説明、分析結果の提示、考察、参考文献、脚注という学術的な論文スタイルに則りながら自らの考えを表現することを実践的に学習する。

< 到達目標 >

自らの興味関心を基礎として、アカデミックなテーマ設定・問題設定ができる。

当該問題に関する先行研究をレビューできる。

調査の説明、分析方法の説明、分析結果の提示、考察、参考文献、脚注という学術的な論文スタイルにしたがって、卒業論文を執筆できる。

卒業論文を適切に要約した要旨を作成できる。

< 授業のキーワード >

## 卒業研究、卒業論文

### < 授業の進め方 >

ゼミナール、卒業研究を履修すること。その他、適宜個別指導を行う。

### < 履修するにあたって >

卒業論文の書式、提出形式などについては、現代社会学科の規程に従うこと。規程については、ゼミナール、卒業研究のなかで随時確認する。

### < 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に、各自が文献探索、文献のまとめ、調査、データ整理、分析、図表作成、本文執筆、文献リスト整理などを行うことになる。

### < 提出課題など >

卒業論文の進度に従って、複数回草稿を提出してもらう。

### < 成績評価方法・基準 >

卒業論文：100%

(ただし、規程の書式にしたがわない論文、剽窃等が行われている論文は評価の対象外となる)。

### < テキスト >

ゼミナール、卒業研究において、資料を配布する。

### < 参考図書 >

各自の論文作成に関連する文献などを随時紹介する。

### < 授業計画 >

#### 卒業論文指導

「卒業論文」は授業科目ではない。4年次に履修する「ゼミナール」、「卒業研究」において執筆指導を行う。また、その他の時間も適宜個別指導を行う。1年間のプロセスについては、ゼミナール、卒業研究のシラバスを参照のこと。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

中野 雅至

### < 授業の方法 >

演習

### < 授業の目的 >

これまでの学びを基盤にして、学習成果としての卒業論文を書き上げることを目的とする。

### < 到達目標 >

各自が各自の研究成果をきちんと卒業論文にまとめあげること。

### < 授業の進め方 >

全体での議論だけでなく個別指導を行っていく。

### < 授業時間外に必要な学修 >

必要な文献を精読すること

### < 成績評価方法・基準 >

授業参加度(20%)、卒業論文の中身(80%)

### < 授業計画 >

## 第1回 インTRODクシヨN

授業の進め方などについて説明を行う。

## 第2回 卒業論文の経過報告(1)

夏休み中の研究成果を盛り込んだ研究経過の報告を行う。

## 第3回 卒業論文の経過報告(2)

夏休み中の研究成果を盛り込んだ研究経過の報告を行う。

## 第4回 卒業論文の文章・構成指導(1)

卒業論文の構成、文章表現などについて指導を行う。

## 第5回 卒業論文の文章・構成指導(2)

卒業論文の構成、文章表現などについて指導を行う。

## 第6回 個別指導(1)

各自の卒業論文の指導を行う。

## 第7回 個別指導(2)

各自の卒業論文の指導を行う。

## 第8回 個別相談(1)

各自の卒業論文に関する質問などを受けて指導を行う。

## 第9回 個別相談(2)

各自の卒業論文に関する質問などを受けて指導を行う。

## 第10回 卒業論文の発表(1)

卒業論文の発表を行う。

## 第11回 卒業論文の発表(2)

卒業論文の発表を行う。

## 第12回 卒業論文の最終チェック(1)

卒業論文の提出に向けて最終チェックを行う。

## 第13回 卒業論文の最終チェック(2)

卒業論文の提出に向けて最終チェックを行う。

## 第14回 卒業論文座談会と総括(1)

卒業論文の作成を通じて学んだことなどについて総括を行う。

## 第15回 卒業論文座談会と総括(2)

卒業論文の作成を通じて学んだことなどについて総括を行う。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

中村 恵

### < 授業の方法 >

演習(対面授業)

### < 授業の目的 >

担当教員の指導のもとで卒業研究を作成する。これによって論理的な思考力、文章力、主体的に社会を考察し分析する力を育成する。ゼミで設定されたテーマに基づき、参考文献について調査し、その読み込みと考察を行うとともに、統計分析あるいはアンケート調査、聞き取り調査を進め、その結果を整理し分析する。その内容をまとめて中間発表会で公表する。文章の構成やその論理性の担保については、担当教員が個人指導を重ね、論文完成に導く。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」すべてと関係し、それを育成する。

<到達目標>

・卒論テーマに即した参考文献を読み、論理的な整理を行うことができる。

・卒論テーマに即した統計データを解析することができる

・卒論テーマに即した事例研究を実施することができる

・参考文献を的確に位置づけ、課題設定を明確にしたうえで、適切なデータ・事例を用いた論理的な論文を書くことができる

<授業の進め方>

主に教員による学生個人への個別指導を中心としながら、共通する課題、問題点については講義形式やグループディスカッション方式を用いて指導を行う。

<授業時間外に必要な学修>

卒業論文の完成に向けて、15週合計で120時間の授業外学修を目安とする。

<提出課題など>

学生が作成した卒論草稿等はmanabaに提出することを基本とし、それらに対して適宜manaba上あるいは口頭にてコメント等のフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

卒論内容100%で評価する。

2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

日高 謙一

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

「ゼミナール」、「ゼミナール」、「ゼミナール」、「卒業研究」の最終的な成果と位置付けられ、大学での学修の集大成として、学士の学位を得るのにふさわしい専門性と論理性を備えた論文を完成させる。したがって、すべてのDPIに関わる。

<到達目標>

論文としての様式を満たした上で専門性のある8,000字以上の論文を完成させる。

<授業の進め方>

「ゼミナール」及び「卒業研究」の授業で作成する成果物に対する単位であり、授業はない。

<授業時間外に必要な学修>

ゼミナール・卒業研究での活動および卒業研究における授業時間外に必要な学修を合わせ、調査、製作、執筆に120時間以上の学修時間が必要である。

<成績評価方法・基準>

論文の内容(100%)により評価する。

2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

前田 拓也

<授業の方法>

演習形式(対面授業)

<授業の目的>

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に従い、(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策を探求することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目(ゼミナール)に位置づけられ、4年間の学びの集大成として卒業論文を完成させる。オリジナルな「問い」の発見、理解、およびそれらの解決のための方法などについて、みずからの生活世界のリアリティにもとづいて論じることができるようになることを目指す。

各人が、個別のアカデミックな関心にしたがって執筆したの卒論の進捗報告、必要な文献、資料、データ、および分析の精緻化を試みる。

<到達目標>

・論文執筆のための技法を習得し、アカデミックなスタイルに則った、論理的な論文を書くことができる。

・オリジナルな研究を発表し、他者と共有、議論することができる。

<授業のキーワード>

卒業研究 / 卒業論文 / 社会調査

<授業の進め方>

「ゼミナール」、「卒業研究」における担当教員からの指導をもとに、卒業論文を執筆する。その他、必要に応じて、これらの授業時間外においても、適宜個別指導をおこなう。

<履修するにあたって>

卒業論文の書式、提出形式などについては、現代社会学科の規程に従うこと。規程については、ゼミナール、卒業研究のなかで随時確認する。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に、各自が文献探索、文献のまとめ、調査、データ整理、分析、図表作成、本文執筆、文献リスト整理などを行うことになる。

<提出課題など>

卒業論文完成までに草稿を複数回提出する。これらについて、「卒業研究」の授業中にコメントし、フィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文：100%

< 授業計画 >

第1回 卒業論文指導

「卒業論文」では「授業」はおこなわない。「ゼミナール」、「卒業研究」における担当教員からの指導をもとに、卒業論文を執筆する。提出された論文は、審査を経ることで単位が与えられる。

第30回

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

松田 ヒロ子

-----  
< 授業の方法 >

個人指導

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示される、現代社会を多面的、総合的に理解する能力を伸ばし、現代社会における諸課題の発見、把握、及びその解決策を探求し実践する能力を高め、グローバルな視野と豊かな教養を持つ人間へと成長することをねらいます。

指導教員から助言を受けたり、学生と意見を交換しながら、社会科学的な調査を実施し、その結果をもとに論文を執筆します。

< 到達目標 >

4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文を執筆することができる。

< 授業の進め方 >

卒業論文は授業は行いません。指導教官より研究指導を受けながら、個人で単著論文を執筆します。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に、調査をするほか、論文を執筆する時間として毎週平均8時間程度が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容で100%評価します。卒業論文の合否は指導教官が判定します。

< 授業計画 >

第1回

「卒業論文」は授業を行いません。同時に履修する「卒業研究」で教員に指導を受けながら単著論文を執筆し、審査を得て単位を与えられます。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、特に3年次以降のゼミナールで得られた知見に基づき、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成をめざすものである。

< 到達目標 >

4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文を作成する。

< 授業の進め方 >

「ゼミナール」、「卒業研究」において指導教員からの論文作成指導を受けながら、卒業論文の完成を目指す。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：先行研究の読み込みと整理、調査データの分析、論文の執筆（目安として週3時間程度）。

事後学習：論文の構成・内容・体裁の見直し（目安として週2時間程度）。

< 提出課題など >

卒業論文

（「卒業研究」の授業中に研究成果報告会を開催し、講評を行うことでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。

< 授業計画 >

研究指導

卒業論文は授業を行わず、ゼミ担当教員から学術的な研究指導を受けて作成した論文を提出し、審査を経て単位を与えられる。

-----  
2022年度 後期

4.0単位

卒業論文

山本 努

-----  
< 授業の方法 >

演習。

< 授業の目的 >

4年間の学業の集大成として、卒業論文テーマを定め、3～4年次生におけるゼミナール、卒業研究で学んだ知見と研究手法を生かして、現代社会学部DPに準拠した学士の学位を得るのにふさわしい卒業論文を完成することを目的とする。

< 到達目標 >

4年間の学業の集大成として、自らたてた「問い」をテーマに、各種調査やゼミ生との討論などを重ねてその「

解」を考察し、学士の学位を得るのにふさわしい卒業論文を作成する。

< 授業の進め方 >

「卒業研究」を履修することが必要。

< 授業時間外に必要な学修 >

論文執筆及び文献調査等に、週10～12時間。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%。

< 授業計画 >

第1回～第15回

「卒業論文」の授業は行わないが、同時に履修する「卒業研究」において研究指導を受けた卒業論文を提出し、審査を経て単位を与えられる。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

多文化共生

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解を目指すものである。

本授業では、多文化主義論の批判的検討と、日本社会におけるマイノリティ問題に関する学習を通じ、単なるスローガンにとどまらない、具体的かつ実践的な多文化共生のあり方について考察する。

< 到達目標 >

「差異」の承認を過度に強調するのではなく、マイノリティ＝マジョリティ間に実在する不平等関係や非対称的な歴史的関係を注視し、マイノリティの存在を脱政治化することなく共生の具体像を描き出すような視点を身につける。

< 授業のキーワード >

多文化共生、人権、差別、定住外国人

< 授業の進め方 >

講義形式で授業を行う。授業内容と関連するドキュメンタリー映像を視聴してもらう場合もある。

< 履修するにあたって >

「正しい人権感覚」に基づいて書かれた「お手本」的なレポートを必ずしも評価するわけではない。与えられたテーマをどれだけ自分自身の立場性に引きつけて考えられているかを重視する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習：講義ノートや配布資料を復習すること（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

・不定期でのショートレポートの提出を求める（計7回程度）

（manaba上でコメントすることでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

ショートレポート 100%

< テキスト >

なし。資料は授業中に提示する。

< 参考図書 >

塩原良和『共に生きる 多民族・多文化社会における対話』弘文堂

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

多文化共生という概念に対するイメージを語り合う。

第2回 多文化共生の困難さ

世界で起きている多文化共生を阻むような事件や出来事を紹介しながら、その実現の困難さについて具体的に知る。

第3回 多文化主義国家の政策

多文化主義を採用する国家（カナダ、オーストラリア）はエスニック・マイノリティをどのように扱っているのかを知る。

第4回 アメリカにおける多文化主義

アメリカ合衆国における多文化主義のあり方について知る。

第5回 日本は単一民族国家か？

古代と近世の隣国との交流史を紐解くことで、日本は古来から単一民族国家であるとする言説について検証する。

第6回 多民族帝国としての日本

日本帝国期における隣国との交流史を学び、帝国領内において様々な人の移動があったことを知る。また、敗戦を機に国境が引き直されることで生じた様々な問題について把握する。

第7回 棄民としての中国残留日本人

戦後の国民国家形成の過程で棄民として扱われることになった中国残留日本人の歴史と現状を知る。

第8回 在日朝鮮人の排除

戦後の国民国家形成の過程で、日本に居住しながらも法的・政治的に日本社会から排除されることになった在日朝鮮人の戦後史と現状について把握する。

第9回 文化相対主義

多文化共生言説がはらむ矛盾のひとつである、文化相対主義の問題について、具体例を交えながら考察する。

第10回 文化本質主義

多文化共生言説がはらむ矛盾のひとつである、文化本質主義と社会構築主義のジレンマについて、具体例を交え

ながら考察する。

#### 第11回 包摂と排除

日本の公教育におけるマイノリティ教育の歴史を概観し、そこで多文化共生言説がいかなる役割を果たしてきたのかを批判的に検討する。

#### 第12回 複合差別

多文化共生はマイノリティ差別を乗り越えるための思想であるが、実際のところ差別は決して加害と被害の二元論で捉えることのできない、複雑なものであることを学ぶ。

#### 第13回 日本の市民運動と在日朝鮮人運動

60年代以降の日本の市民運動が、在日朝鮮人運動といかに交わってきたのかを知ることで、日本で多文化共生を実現するために乗り越えなければならない具体的な課題を明らかにする。

#### 第14回 地域社会における多文化共生

京都・東九条でおこなわれている、多文化共生をコンセプトにした祭り「東九条マダン」の実践に学ぶことで、日本で多文化共生を実現していくためのヒントを得る。

#### 第15回 「多文化共生」を再定義する

従来の多文化共生言説がもつ問題点を改めて整理したうえで、グローバル化時代の新たな価値観/コミュニケーション様式としての「多文化共生」の可能性を探る。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

男女共同参画研究

菊川 裕幸  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目では現代社会学部のDPにある、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」を身につけ、男女共同参画社会の実現に向け、どのような考えや行動が必要かを考え、実践できる方法を習得することを目指す。男女共同参画とジェンダーに関わる基礎的な知識を習得し、日常のくらしの問題と結びつけて説明できるようになる。また、グループワークを通して、多様な意見を聞き、自分との相違点を発見・分析できる力を身につける。なお、この科目の担当者は、兵庫県において高等学校の教員として8年間勤務した、実務経験のある教員である。その経験も活かし、教育現場や行政における男女共同参画の取り組みについて具体的事例を交えて講義を行う。

< 到達目標 >

我が国だけでなく、全世界において、性別によらず誰もが輝ける男女共同参画社会の実現は重要な課題である。様々な現場（社会・教育・地域等）においても、性差のない対応・処遇が求められている。男女の関係なく一人一人が役割を担い、輝ける社会づくりについて行動でき

る人材になることを目指す。

我が国の男女共同参画の関連法規、行政、自治体での取り組み事例について説明できるようになる（知識）。講義をともに受ける学生の多様な視点や様々な意見を尊重し、協調性をもち、男女共同参画社会の実現に向けたディスカッションができるようになる（態度）。自分の考えや他者の考えをまとめ、総合的に考察し、適切な方法を用いてそれらを他者に伝達することができる（技能）。

< 授業のキーワード >

男女共同参画社会、ジェンダー、ワーク・ライフ・バランス、他者理解

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めるが、発問への回答、受講生同士のディスカッション、外部講師を招聘してのディスカッションや質疑応答等を行うことがある。

< 履修するにあたって >

積極的な講義への参加（発問に応える、活発なディスカッション等）を求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、講義の対象となる内容について、インターネットや参考文献などで1時間程度の予習や予備知識を習得しておくこと。事後には、1時間程度で学んだことを振り返り、ショートレポート等（毎回の提出は不要）にまとめておくこと。

< 提出課題など >

外部講師を招聘した場合や、グループディスカッションを行った場合等、隔週でショートレポートを提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験60%（基礎的な知識を問う問題60%、応用力を問う問題40%）、授業中の発表、質疑応答の積極性など20%、ショートレポート20%の割合で総合的に評価する。

< 参考図書 >

男女共同参画白書（男女共同参画局）：Web上で閲覧可能（[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/index.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html)）

< 授業計画 >

第1回 授業のガイダンス、男女共同参画の概要について

担当教員の自己紹介ならびに授業のガイダンスを行う。受講生の男女共同参画に対する現状の知識や考えを共有するために、ショートレポートを作成する。第1回はそれをもとに男女共同参画について、概要を説明する。

第2回 男女共同参画の概要について、法的理解と兵庫の取り組み

第1回に引き続き、男女共同参画白書についてデータに基づきながら現状の解説を行う。また、兵庫県内での取り組みについて、事例を交えて紹介する。（事前学習は白書の予習を30分、事後学習はショートレポートの作成を30分）

### 第3回 ジェンダーの多様性（世界と日本の比較）

我が国だけでなく、諸外国におけるジェンダーの多様性やその課題について比較検討する。先進国と途上国などの差異についても解説を行う。（事前学習は白書の予習を30分、事後学習は調べてみたい国のジェンダー問題について30分程度調査）

### 第4回 教育現場におけるジェンダー問題と男女共同参画の取り組み

教育段階（初等・中等教育）におけるジェンダー問題について学ぶ。児童・生徒側だけでなく、教員側の視点も取り入れて解説する。（事前学習は白書の予習を30分、事後学習は第5回に向けて、教育現場のジェンダー問題の予習を30分）

### 第5回 教育現場において性差をなくすためには（グループディスカッション）

第4回の講義を踏まえて、教育現場における性差をなくすための方策をグループ内で協議する。各班おおよそ30分の協議のうえ、15分でまとめ、3分？5分で発表、発表後、全体のまとめを行う。（事後学習として、1時間程度、協議した内容や自分の意見をショートレポートにまとめて、提出する。）

### 第6回 地域社会におけるジェンダー問題と男女共同参画の取り組み

我が国における地域社会のジェンダー問題や男女共同参画の取り組みについて外部講師を招聘して、ディスカッションを行う予定である。NPOや企業などの実践事例を紹介する。（事後学習として、第7回に向けて情報収集を30分程度行う）

### 第7回 地域社会において性差をなくすためには（グループディスカッション）

第6回の講義を受け、地域社会において性差をなくすための具体的取組について、グループ内で協議する。各班おおよそ30分の協議のうえ、15分でまとめ、3分？5分で発表、発表後、全体のまとめを行う。（事後学習として、1時間程度、協議した内容や自分の意見をショートレポートにまとめて、提出する。）

### 第8回 ジェンダー問題の歴史（家庭内での諸問題について）

ジェンダー問題の歴史について、とりわけ家庭内での諸問題について、様々な事例を交えながら、法整備の過程などを解説する。（事前学習は白書の予習を30分、事後学習はショートレポートの作成が30分）

### 第9回 暴力・貧困・家庭のジェンダーについて

コロナによって様々な環境の変化が発生した。コロナ前、アフターコロナなど、この数年のDV件数など具体的な数値で変遷を解説する。現状を知り、その解決に向けた具体的な方策を整理する。（事前学習は白書の予習を30分）

### 第10回 男性が直面するジェンダー問題と解決に向けた取り組みについて

女性だけではなく、男性側の様々なジェンダー問題につ

いて整理し、その解決策について考える。（事前学習は男性のジェンダー問題に関する予習を30分）

### 第11回 暮らしと仕事の問題とその歴史（ワーク・ライフ・バランスについて）

ワーク・ライフ・バランス「生活と仕事の調和・調整」について、様々な業種、性別といった視点からその問題や歴史の変遷について学ぶ。（事前学習は白書の予習を30分）

### 第12回 女性が活躍する社会の実現、取り組みについて（様々な活動について事例を交えて紹介する）

女性のエンパワーメント原則（Women's Empowerment Principles）について学ぶ。WEPとは、企業がジェンダー平等と女性のエンパワーメントを経営の核に位置付けて自主的に取り組むことであるが、その具体的事例について解説する。

### 第13回 男女共同参画社会への取り組みについて考える（グループディスカッション）

これまでの講義を振り返り、我が国における男女共同参画社会の実現に向けた具体的な取り組みについて、グループディスカッションを行う。第14回の発表に向けて、各グループで発表内容をパワーポイント等にまとめる。教員は適宜机間巡視し、質疑応答の時間を確保する。

### 第14回 男女共同参画社会への取り組みについて考えを発表する

第13回でまとめた内容を発表する。自分たちのグループの協議内容をわかりやすく発表するだけでなく、他グループの発表も傾聴し、受容できるようにする。（事後学習として、1時間程度、協議した内容や自分の意見をショートレポートにまとめて、提出する。）

### 第15回 最終試験

これまでの講義の振り返りとして、最終試験を実施する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域デザイン論

菊川 裕幸  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

兵庫県には大きく分けて5つの地域があり、それぞれに地域の特性や課題がある。現代社会学部DP（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握およびその解決策の探求と実践に準拠し、兵庫県の各地域の現状を把握し、持続可能な地域社会の創造や地域の今後について考える。担当教員はこれまで行政や地域おこし協力隊等と連携した地域活性化に取り組んできた実務経験のある教員である。その経験を活かし、地域活性化や地域再生等の事例についても紹介する。

< 到達目標 >

兵庫県全体および各地域の現状と課題について学ぶ（知識）。そのうえで、持続可能な地域づくりや一人一人が地域において貢献し、活躍できる方法を習得し、学びを地域に還元できるようにする（態度・技能）。講義の中では、SDGsやESD、ソーシャルデザインなどのキーワードも紹介する。

< 授業のキーワード >

地域活性化、ソーシャルデザイン、SDGs、産官学連携

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めるが、地域おこし協力隊など、地域で活躍している人材をゲストとして招聘し、意見交換や情報共有を行うことがある。

< 履修するにあたって >

地域が直面する課題について適切に理解し、その解決策を「自分事」として捉えることができる、持続可能な地域づくりに積極的に取り組める姿勢を求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前、事後学習として各回1時間程度を要する。文献検索や事例調査などができる環境があることが望ましい。

< 提出課題など >

ショートレポートの提出（隔週）および発表用パワーポイント等の提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

評価は授業態度（質疑応答、ゲストとの意見交換の際の積極的な発言等）を30%、グループディスカッション（コロナの状況によってはレポート等）の取り組み30%、最終試験40%の割合で総合的に評価する。

< 授業計画 >

第1回 授業のガイダンス、兵庫県の人口動態と地域について

授業の進め方、教員の自己紹介を行う。兵庫県について、受講生がどの程度の知識や興味・関心を持っているのかを共有するため、ショートレポートを作成する。それをもとに、兵庫県および各地域について解説する。（事後学習として兵庫県の人口や地域についての復習を30分程度行う）

第2回 兵庫県における人口と社会の構造の変化

兵庫県における人口や産業構造の変化等、歴史の変遷を踏まえて解説する。（事前、事後学習として、兵庫県の興味のある地域について情報収集を30分程度で行う）

第3回 兵庫県の5つの地域の現状とその課題について（SDGsについても関連部分について紹介）

兵庫県内の5つの地域について、詳細にデータを見ながら学ぶ。データの読み取り方やそこからの考察の方法などを解説する。SDGsと兵庫県の地域デザインについても解説を行う。（事前学習として1時間程度SDGsについて予習する）

第4回 各地域における課題解決に向けた取り組み事例の紹介（行政における取組の紹介）

兵庫県内の特所のある、地域課題解決に向けた取り組み

を紹介する。特に行政に特化した内容を事例を交えて解説する。

第5回 各地域における課題解決に向けた取り組み事例の紹介（地域おこし協力隊や任意団体等における取組の紹介）

兵庫県内の特所のある、地域課題解決に向けた取り組みを紹介する。特に市民活動に特化した内容を事例を交えて解説する。必要に応じて地域おこし協力隊関係者を招聘し、意見交換を行う。（事後学習として地域における課題解決の方法を1時間程度でショートレポートにまとめる）

第6回 兵庫県内において持続可能な地域創造について考える

一過性のイベントや施設建築などに頼るのではなく、長期的な視点で地域活性化や地方創成ができるようになるためには、どのような方法が必要かを学ぶ。

第7回 少子高齢化や認知症等の社会課題への地域の取り組み事例の紹介

以前からの問題でもあるが、近年顕著になっている少子高齢化や認知症等の社会課題について理解し、その現状を知る。認知症という疾患についても解説する。

第8回 少子高齢化や認知症等の社会課題への地域の取り組み事例の紹介

少子高齢化や認知症予防の取り組み事例について解説する。現状を知り、その解決のための具体的方策を理解する。（事前・事後学習として、少子高齢化や認知症者数などのデータを確認しておく）

第9回 兵庫県内において持続可能な地域創造について考える

教育の視点から、地域づくりやふるさと学習の実際について知り、自分たちがこれまでに初等・中等教育で学んできたふるさと意識の醸成について振り返る。

第10回 兵庫県の第一次産業（とりわけ農業）の現状と課題。中山間地の農業についてフォーカスし、紹介する。兵庫県の根幹産業でもある農林水産業について、その現状と課題をデータを交えて解説する。特に中山間地の特有の課題について具体的事例を交えて紹介する。

第11回 兵庫県の第一次産業を活性化する方策について第10回の講義を受け、第一次産業を活性化させる方法について考える。必要に応じて第一次産業に従事する実務家を招聘し、意見交換等を行う。

第12回 産官学連携による地域での取り組み（協働した地域づくり）

産官学連携とはなにか。地域と行政、教育機関が連携して得られる効果やその取り組みを知る。

第13回 社会的課題に対応した地域づくりについて考える

これまでの講義を活かし、社会的課題に対応した地域デザインについて、具体的な方策をグループで話し合い、発表できるようにまとめる。グループディスカッション

の際は、行政、企業、住民といった役割を決め、各立場に沿った意見を述べること。

第14回 今後の兵庫県の地域社会の変化および必要な取り組みについて

第13回でまとめた内容をプレゼンテーションする。各グループの意見やアイデアを尊重し、活発な質疑応答や議論ができるように心がける。(事後学習として、提出用のショートレポートを1時間程度で作成する)

第15回 最終試験

これまでの講義を振り返り、地域デザインとは何か、与えられたテーマに沿って論述する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域とくらし

松田 ヒロ子  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業の目的は、「地域調査」の方法やフィールドワークの基礎について学ぶことです。現代社会学部では2年次以降地域社会で実習を行う機会が多々あります。この授業はそれらの実習授業をより有意義なものとするための基礎的な学びをします。

現代社会学部のDPが示す、現代社会の多角的、総合的な理解と、現代社会における諸課題の発見、把握、その解決策の探究と実践能力を養うことを目指します。

< 到達目標 >

(1) 様々な「地域調査」の主体とその目的、手法を理解し、説明できる。

(2) 「フィールドワーク」の方法や考え方を理解し、説明できる。

(3) 地域調査のプロセスを理解し、説明できる。

< 授業の進め方 >

教員による講義とグループワーク、学生によるプレゼンなど。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定された記事や論文などを読んで授業の予習としたり、調べ物をする課題が出されることがあります(平均1時間程度)。授業中での配布物等を読んで授業の復習をすることが期待されます(平均1時間程度)。

< 提出課題など >

授業中に課題をやって頂くことがあります。提出いただいたものについては次週の授業中に講評します。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に提出する課題(60%)、小レポート(40%)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や評価の方法について説明します。

第2回 「地域調査」とは何か?

地方自治体、大学など様々な主体によって行われる地域調査を類型化し、その目的と方法を学びます。

第3回 「フィールドワーク」とは何か?

「地域調査」と「フィールドワーク」の関係を整理し、フィールドワークにおける「フィールド」の意味を学びます。

第4回 農村と都市

都市部と地方で行う地域調査やフィールドワークをそれぞれ比較検討します。

第5回 地域と移動者

地域調査において、地域社会に定着せず移動する人たちをどのように調査対象とするのか考えます。

第6回 異文化と地域調査

海外で地域調査すること、或いは地域社会において外国をルーツとする人びとを調査する方法について考えます。

第7回 フィールドワークの手法I: 観察とエスノグラフィー(1)

地域調査の手法の一つである、「観察」と「エスノグラフィー」について学びます。

第8回 フィールドワークの手法I: エスノグラフィー(2)

「観察」と「エスノグラフィー」を通じて、地域や人びとのくらしの何がわかるのか、考えます。

第9回 フィールドワークの手法II: インタビュー(1)

地域調査で行われる様々なインタビューについて学びます。

第10回 フィールドワークの手法II: インタビュー(2)

インタビューを通じて、地域や人びとの暮らしの何がわかるのか、考えます。

第11回 フィールドワークの手法III: アンケート調査(1)

地域調査で行われる様々なアンケート調査について学びます。

第12回 フィールドワークの手法III: アンケート調査(2)

アンケート調査を通じて、地域や人びとの暮らしの何がわかるのか、考えます。

第13回 地域調査、フィールドワークの倫理(1)

地域調査やフィールドワークをめぐる様々な倫理的問題について、過去の事例を通じて学びます。

第14回 地域調査、フィールドワークの倫理(2)

地域調査やフィールドワークをめぐる様々な倫理的問題とその対応について考えます。

第15回 総括

今学期学んだ内容を振り返ります。

2022年度 前期

2.0単位

地域とくらし

菊川 裕幸

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

現代社会学部DP、(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握およびその解決策の探求と実践に準拠し、地域社会とくらしについて、歴史やその変遷を知る。また、現代社会における地域(ここでいう地域とは郊外、農村部)の課題の抽出について考え、その解決策を提示できるようになる。なお、担当教員は兵庫県内の高等学校の教員として8年間、市町村の教育行政職として2年間勤務し、地域づくりに携わってきた、実務経験のある教員である。加えて、この科目は地域おこし協力隊経験者等の外部講師も必要に応じて招聘し、現場での実践を知るなど、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

最初のステップとして、学びの場でもあり、地域性が色濃く残る兵庫県の地域と暮らしについて学び、第3者に兵庫県の魅力や特色を発信できるようになることを目指す(知識)。次に、「地域を愛して、地域に愛される」人材となるべく、地域の歴史や文化を尊重し、住民等とコミュニケーションが円滑に取れるような社会的スキルを習得する(態度・技能)。最終的には、その学びを自身の出身地やフィールドとする場所で活かし、地域とくらしをより良い形で未来へとつなぐ人材となることを目指す(技能)。

< 授業のキーワード >

地域活動、持続可能性、SDGs、地域課題、生涯学習

< 授業の進め方 >

基本的には講義とグループディスカッションを中心に進めるが、必要に応じて地域で活躍する人材(地域おこし協力隊、地域おこしコーディネーター等)を招聘し、意見交換する回も設ける予定である。

< 履修するにあたって >

自分の出身地や研究活動として考えているフィールドに対して、興味関心を持ち、地域社会の一員として自覚をもって、講義に臨む姿勢があること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習や事後学習を中心に各30分程度の学修を求める。また、パワーポイントなどのプレゼンテーションツールの使用方法を習得しておくこと。

< 提出課題など >

隔週のショートレポートや発表用パワーポイントのデー

タ等の提出。

< 成績評価方法・基準 >

本講義は、双方向のコミュニケーションやまとめる力を重視します。そのため、ショートレポート30%、授業中の質疑、発表30%、最終試験40%の割合で総合的に評価します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと兵庫県の地域性について

担当教員の自己紹介、授業の進め方などのガイダンスを実施する。受講生の兵庫県や出身地域への理解度や熱意を共有するため、ショートレポートを作成する。(事後学習として、気になった地域のことを1時間程度で調査する)

第2回 兵庫県の各地域の特色や歴史の変遷について  
兵庫県では「五国豊穰」や近年では「U5H(兵庫五国連邦)」と言ったキーワードで表現されることがある。その意味を知り、歴史の変遷とともに兵庫の進化について解説する。(事前学習、事後学習として、兵庫県の観光協会等のHPを参照し、地域の持つ魅力について知識を習得しておく)

第3回 兵庫県の各地域の特色や歴史の変遷について  
近年の兵庫県の各地域の特色ある取り組みや観光ビジョンなどを紹介する。地域とくらしについて、グループディスカッションを行い、簡単に地域の特色や魅力について発表する。(事前学習は興味のある地域の調査を30分、事後学習は1時間程度で提出用のショートレポートを作成する)

第4回 兵庫県が抱える地域課題について

兵庫県に限らず、全国規模の課題であるが、少子高齢化、農村人口の減少など、中山間地域が抱える社会課題について学ぶ。学びの中で、その課題解決の方法を知り、実践できるような下地を醸成する。

第5回 兵庫県が抱える地域課題の解決に向けた具体的方策の提案

第4回の学びを活かし、グループに分かれて与えられたテーマ(課題)についてディスカッションを行い、その解決方法をまとめて発表する。その際に生じた疑問等を、第6回の講師との意見交換で解決する。

第6回 地域に入って活動するためには

地域に入って活動するためのノウハウや、地域との関係性の構築について、地域おこし協力隊経験のある外部講師を招聘し、事例紹介や意見交換を行う。(事後学習として、本時の内容を提出用のショートレポートに2時間程度でまとめる)

第7回 地域とくらしを意識した様々な活動について

第6回の外部講師のように、地域で活動する高校生? 社会人、企業など多様な取り組みについて教員のこれまでの活動も交えて紹介する。

第8回 持続可能な地域のデザインについて

SDGsとは何か、またそれを地域に落とし込むための考え

方を解説する。事前学習としてSDGsについて30分程度予習し、事後学習として、ローカルSDGsについて30分程度調査する)

#### 第9回 持続可能な地域のデザインについて

地域資源の発見や、その活用方法について具体的事例を交えて紹介する。その際の、行政や地元団体等との連携の方法についても解説する。

#### 第10回 地域における社会教育

地域において、その伝統や文化、学術的価値を伝える手段として、博物館や資料館がある。近年新たに設置された兵庫県内の博物館についてそのミッション等を解説し、社会教育の必要性を学ぶ。

#### 第11回 地域における生涯学習

人は、生涯学び続ける権利があり、それが地域いつまでも活躍し続け、輝き続けるための糧となる。地域で行われている生涯教育活動の内容を紹介し、受講生が自ら講師となって活躍できるようなビジョンを描く。

#### 第12回 全国規模の地域活動(農福連携)の紹介

近年「農福連携」という農業×福祉の連携による障害者雇用や地域活性化が盛んに取り組みられている。その枠組みを紹介し、兵庫県内での落とし込みについて考える。

#### 第13回 魅力的な地域と、豊かなくらしの探求

これまでの講義を振り返り、魅力的な地域づくりと豊かなくらしを継続していくためにはどのような活動や方策が必要か、グループディスカッションを行い、第14回でまとめたものを発表する。(事後学習として約1時間の発表準備)

#### 第14回 魅力的な地域と、豊かなくらしの探求

第13回でグループディスカッションを行い、まとめた成果物を発表する。教員や外部講師、他グループからの質疑応答の時間も設け、その場で評価をフィードバックする。

#### 第15回 最終試験

これまでの講義を振り返り、地域とくらしについて、与えられたテーマについてまとめる。ここで、学びの成果やその表現方法等の技能を評価する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域と産業

谷口 義子  
-----

< 授業の方法 >

講義(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示す「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができる」能力の育成を目指す。地域を理解するにあたって、その地理的特性や歴史的背景を学ぶこと

は不可欠である。また、地域特性や優位性を理解することで、現状課題の解決方法を発見し、実践することになげたい。

将来、職業人として社会生活をおくる上において、身につけておきたい知識や思考力、判断力を養い、自ら成長する意欲を育む。

この科目の担当者は、15年以上にわたって神戸市広報および兵庫県広報の企画・制作に携わっており、実務経験の豊富な教員である。加えて、神戸および兵庫県の地域学に関する書籍の執筆実績が豊富である。時には過去の事例を挙げて、地域と産業について、わかりやすく説明する。また、地域の歴史と行政との関わりについても具体的かつ実践的な解説を行う。

< 到達目標 >

神戸の現在とその発展過程についての知識をもとに、神戸の産業形成に関する具体例を説明することができる。(知識)

講義を聞き取り、理解してノートを作成し、そのノートをもとに、90分の授業について10分程度でレジメを書くことができる。(態度・習慣)

地域の産業に関する興味を持ち、市内の企業ミュージアムへ足を運んだり、図書資料を読んだりして知識を深める。(態度・習慣)

地域産業に関する統計データなどを読み取り、経年変化や問題点などを発見することができる。(技能)

地域産業の課題を理解し、歴史的経緯や地域特性を踏まえて、その解決方法を具体的に文書化することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

神戸 近代産業 都市戦略 生活文化 産業構造の変化  
< 授業の進め方 >

時代背景や産業の具体的なイメージ、歴史的経緯などを補助するため、パワーポイントによる画像資料を示しながら授業を進める。

毎回、要点メモ用紙を配付する。授業を聞いて要点をメモし、ノートを作成することによって、社会人にとって必須の技能である「聞き取り」と「要約」のトレーニングを行う。また、授業ノート作成の習慣を身につける。

授業中に作成したノートを基に、授業の最後にレジメを作成して提出する。レジメ(小テスト)は授業15回のうち5回実施し、成績評価の対象とする。(遠隔授業の場合は小テストの回数を変更する)

< 履修するにあたって >

中学・高校で学んだ日本史の基礎知識が授業理解に役立つ。予習として、中学・高校の日本史の教科書(特に近代以降)を再読してほしい。

新聞を読む習慣をつけること。特に、経済面、地方面を読んで地域の産業に関する情報を収集すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の中で、神戸の産業史や近代史、都市形成の理解に役立つ参考図書を紹介する。事後学習として読んで理解を深めてほしい（目安として毎回30分程度）。

授業中に作成した要約メモを整理し、読みやすいノートを作成する（目安として毎回30分程度）。学習内容を知識として蓄えるノートとして活用してほしい。

#### < 提出課題など >

授業の最後に講義の聞き取りと要約を目的とした小テストを行う（10分程度）。小テストは採点し、コメントを記載してフィードバックする。返却時に前回授業の振り返りを行う。

期末レポート（2000字程度）を執筆して提出する。期末レポートのテーマは授業中に説明する。

#### < 成績評価方法・基準 >

小テスト50%（5回実施。要約文としての完成度、授業の理解度を評価）

期末レポート50%（授業で学んだ内容を掘り下げ、新たに図書資料などを参照し、各自がテーマを設定してレポートを作成する。2000文字以上。テーマ選定については授業の中で説明する）

#### < テキスト >

授業時にレジュメや資料を配布する。

#### < 参考図書 >

田辺真人・谷口義子『神戸の歴史ノート』神戸新聞総合出版センター

田辺真人・監修『灘の歴史』神戸新聞総合出版センター

『新修神戸市史 産業経済編4 総論』神戸市 2014年

#### < 授業計画 >

### 第1回 ガイダンス

神戸を知る

本講義の狙いと目的、講義の進め方について解説。神戸の産業を学ぶ上で知っておきたい地理や地域特性について理解する。

### 第2回 近世の地域産業

江戸時代に神戸で発展した廻船業（兵庫）と酒造業（灘）について、基礎的な産業史を学び、地域産業の歴史的資源を理解する。

### 第3回 開港と近代化

幕末に兵庫（神戸）が開港したのはなぜか。開港によってもたらされたものは何か、近代産業の黎明期について学ぶ。

### 第4回 鉄道と港

物流の変化

官営鉄道と私鉄の山陽鉄道の発展史を学ぶ。また、加古

川舟運と阪鶴鉄道の関係を事例として、物流が地域経済に与える影響を理解する。

### 第5回 近代産業のあゆみ

（軽工業）

神戸で興った近代産業を歴史的に学ぶ。軽工業（マッチ、繊維、製紙、ゴム）を中心に、軽工業と貿易業の関連について理解する。

### 第6回 近代産業のあゆみ

（重工業）

基幹産業であった造船・鉄鋼などの重工業の発展史を学ぶ。重厚長大産業が神戸にもたらした影響と産業構造の変化について考える。

### 第7回 近代産業のあゆみ

（貿易業）

明治後期？昭和初期に飛躍した鈴木商店を中心に、貿易商社の発展史を学ぶ。また、鈴木商店が現在の産業に及ぼした影響を考える。

### 第8回 私鉄による

生活文化産業

阪神間および神戸において、明治末から昭和初期に急速に私鉄が発達した。私鉄がもたらした生活文化産業について学ぶ。

### 第9回 産業の発展と自治体

産業発展がもたらした人口増加は、自治体にも影響を与えた。大正期の神戸の産業構造と都市戦略との関連を理解する。

### 第10回 食文化と産業

神戸開港によってもたらされた西洋の食文化は地域に根付き、地域を代表する産業に成長した。その歩みを学び、未来を考える。

### 第11回 ファッション産業

戦後、アパレルやケミカルシューズ、スポーツ靴などの産業が興った。地域特性が産業の創造や発展に及ぼす影響について考える。

### 第12回 流通小売業の

開拓者たち

コープこうべの賀川豊彦とダイエーの中内功を中心に引き上げ、流通小売業の変化と発展の歴史を学ぶ。

### 第13回 「山、海へ行く」

ポートアイランド、六甲アイランド、神戸空港の埋立造成が神戸にもたらしたものは何か。都市開発と産業の関係について考える。

### 第14回 都市戦略による

自治体サバイバル

「医療産業都市」「デザイン都市」「グローバルMICE都市」など、神戸市が進める都市構想について学び、都市の将来像を考える。

#### 第15回 本講義のまとめ

地域産業のあゆみを総括するとともに、現状を理解し、課題を探り、2030年の神戸の未来絵図を構想する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

地域と情報

中野 雅至、池崎 光恭、澤田 隆三  
-----

#### < 授業の方法 >

講義

連絡先は nakano@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目取扱いについて  
通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

#### < 授業の目的 >

地域活性化ということがしきりに言われるようになってから久しいが、非都市部ではシャッター通りなどの疲弊が著しい。その一方で、情報化は社会全体に大きな影響を及ぼすと言われる。本授業では、情報化が地域にどのような影響を与えるのか、特に、地域活性化という視点を中心に据えて学ぶことを目的とする。

なお、本事業は実務経験のある教員による授業である。また、ディプロマポリシーの「現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、解決の方途を探求し、自らその解決策を実践することができる」に基づくものである。

#### < 到達目標 >

地域が抱える様々な課題の一方で、情報技術の可能性について理解するとともに、具体的に情報通信技術をどう使えば地域に役立つのかを考えることができるようにする。

#### < 授業の進め方 >

毎日放送から招く外部講師の授業を含めて講義を中心に進める

#### < 履修するにあたって >

講師が3人になることや、日程が複雑であることに鑑み、第一回目はオリエンテーションを兼ねた授業録画をmanaにアップするため、4月9日に出席の必要はない。以下、澤田先生の授業日、池崎先生の授業日は以下の通りです。

澤田先生 （1）4月15日（金）（2）4月22日（金）（3）5月13日（金）（4）5月20日（金）

池崎先生 4月16日、23日、5月7日、14日、21日、28

日、6月4日、11日、18日（それぞれ土曜日）2限目です。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

予習1時間、復習1時間を行うこと

#### < 提出課題など >

授業で課されるレポートなどについては授業での復習を踏まえて、自ら考えて回答を作り上げることを重視する

#### < 成績評価方法・基準 >

レポート（70%）授業参加度（30%）

#### < 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方などについて説明する

第2回 現代日本の地域事情

シャッター通りなど疲弊する現代日本の地域社会などを解説する

第3回 現代のマスコミ（1）

マスコミについて解説する

第4回 現代のマスコミ（2）

マスコミについて解説する

第5回 現代のマスコミ（3）

マスコミについて解説する

第6回 現代のネット（1）

ネットについて解説する

第7回 現代のネット（2）

ネットについて解説する

第8回 現代のマスコミと社会（1）

現代社会のマスコミの受け止めを解説する

第9回 現代のマスコミと社会（2）

現代社会のマスコミの受け止めを解説する

第10回 現代のマスコミと社会（3）

現代社会のマスコミの受け止めを解説する

第11回 ローカル放送の役割（1）

テレビ局現場の実態も交えてローカル放送局の役割を説明する

第12回 ローカル放送の役割（2）

テレビ局現場の実態も交えてローカル放送局の役割を説明する

第13回 ローカル放送の役割（3）

テレビ局現場の実態も交えてローカル放送局の役割を説明する

第14回 ローカル放送の使命

ローカル放送局が果たすべき使命について考える

第15回 講義のまとめ

これまでの授業の復習を行う

-----  
2022年度 前期

2.0単位

地域と文化入門

岡崎 宏樹、岩本 茂樹、菊川 裕幸、山本 努  
-----

< 授業の方法 >

4名の教員によるオムニバス講義

< 授業の目的 >

この授業では、地域と文化に関連する多様な主題について、4名の教員がオムニバス形式で入門的な講義をおこなう。コミュニティ、農村文化、都市文化、音楽文化、食文化、方言、メディアの共通語、言葉の階級性、地域課題、地域の持続可能性などの主題が取り上げられる予定である。

この授業は現代社会学部のディプロマポリシー1と2に深く関連する。

< 到達目標 >

この授業の到達目標は、受講者が文化を多角的に考察する方法を修得し、「地域と文化」の関連性を的確に説明できるようになることにある。

< 授業のキーワード >

コミュニティ、農村文化、都市文化、音楽文化、食文化、方言、メディアの共通語、言葉の階級性、地域課題、持続可能性

< 授業の進め方 >

毎回、特定の主題を選び、全体像を概説するとともに、個別的な内容を深く掘り下げる。

資料や課題についてはmanabaを確認してください。

< 履修するにあたって >

毎回レポートを書いてもらいます。きちんとノートを取り、配布資料を丹念に読んで予習復習するように心がけてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習各2時間程度。地域や文化に関するニュースに関心を向け、授業で紹介された文献や文化コンテンツを参照し、学びをさらに深めてほしい。

< 提出課題など >

各担当者から提示されたテーマや課題に関するレポートの総合点により、成績評価をします。レポートの評価については、フィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

レポート・課題100%。毎回の講義（オンデマンド）に関しレポート・課題に取り組む。担当者がそれぞれで採点して、その平均点で成績評価を行う。

< テキスト >

使用しない。

< 参考図書 >

授業の中で適宜紹介する。文化の社会学に関しては、井上俊・長谷正人編著『文化社会学入門- テーマとツ-

ル』 ミネルヴァ書房（2010年刊行）を参照。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション/文化とアイデンティティ  
はじめに、このオムニバス授業の進め方について説明する。次に、文化とアイデンティティの問題を考察する。授業では、18歳成人の制度に注目し、通過儀礼という視点から成人式を考察し、青年期のアイデンティティ形成の課題、アイデンティティの文化表現を検討する。受講後manabaの課題に取り組む。担当：岡崎宏樹 メールアドレス：okazaki@css.kobegakuin.ac.jp  
第2回 地域連携プロジェクト

現代社会学科で取り組んできた地域連携プロジェクトの事例を検討し、私たちが地域から何を学ぶことができるのかを考える。受講後manabaの課題に取り組む。受講後manabaの課題に取り組む。担当：岡崎宏樹

第3回 地域と食文化

和食の無形文化遺産登録や和食の世界発信をめぐる諸課題を検討することを通じて、食と地域の観光・文化政策のあり方を考える。受講後manabaの課題に取り組む。担当：岡崎宏樹

第4回 現代のサブカルチャー

現代のサブカルチャーについて考察する。ここではキャラクター商品に象徴される「カワイイ文化」をとりあげ、その特徴を検討し、これが日本独自の文化として海外に発信されている状況を分析する。担当：岡崎宏樹

第5回 兵庫県の地域課題の抽出

兵庫県内の地域（特に農村的環境）について、その地域の特徴や課題について紹介する。その中で、兵庫県の地域課題と全国規模の課題の相違点について考察する。担当：菊川裕幸

第6回 地域課題解決のための課題解決型学習（PBL）の方法

第5回で学んだ地域課題について、その解決のためのアプローチや地域に入って活動するために必要なスキルなど、事例を交えて紹介する。担当：菊川裕幸

第7回 持続可能な地域づくり

兵庫県内の各地域において、様々な産業や食文化、伝統文化、芸術などにフォーカスしたまちづくりの事例を紹介し、その持続可能性について考察する。担当：菊川裕幸

第8回 文化という言葉について

文化という言葉と、その周辺の重要関連用語をお話しします。ミニ社会学入門にもなっています。テキストをmanabaに置いておきます。各人プリントして授業に出てください。担当：山本努

メールアドレス：yamamoto@css.kobegakuin.ac.jp

第9回 文化という言葉について（続）

文化という言葉と、その周辺の重要関連用語をお話しし

ます。ミニ社会学入門にもなっています。テキストをmanabaに置いておきます。各人プリントして授業に出てください。担当：山本努

#### 第10回 都市の文化、農村の文化

「都市の空気((city air)は人間を自由にする(ドイツのことわざ)」そうですが、都市と農村の文化の違いを考えます。ミニ地域(都市)社会学入門にもなっています。テキストをmanabaに置いておきます。各人プリントして授業に出てください。担当：山本努

#### 第11回 都市の文化、農村の文化(続)

「農村は儲けるところではなく、暮らすところ(熊本の矢部村の農民の言葉)」だそうですが、都市と農村の文化の違いを考えます。ミニ地域(農村)社会学入門にもなっています。テキストをmanabaに置いておきます。各人プリントして授業に出てください。担当：山本努

#### 第12回 方言をめぐって

これまで使っていた言葉が、方言であったことを知って驚くことがある。言語の違いに焦点を当てることから、地域と文化について考える。授業の後に、授業内容についての意見をmanabaにて提示する。担当：岩本茂樹

メールアドレス： iwamoto@css.kobegakuin.ac.jp

#### 第13回 メディアにおける共通語と方言

新聞、ラジオ、テレビなどメディアで使用される共通語と、方言が時代の変遷のなかでどのように扱われてきたのかを考える。授業の後に、授業内容についての意見をmanabaにて提示する。担当：岩本茂樹

#### 第14回 言葉と階級

映画『マイ・フェア・レディ』から、言葉の使用と階級問題について考える。担当：岩本茂樹

#### 第15回 まとめと理解の確認

言語をめぐる文化をふりかえるとともに、講義内容の要点を確認する。これまでの授業内容についての確認のための課題をmanabaにて提出する。担当：岩本茂樹

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域行政論

藤森 龍

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は現代社会学部のDPで示す、思考力・判断力・表現力の取得及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の取得に該当する。

現在の地方自治体は、国の制度改革などにより、幾度となくその姿(自治体の機能)を変えてきた。そして、今、社会経済構造の大きな変革により、人口の一極集中化や少子高齢化等を招き、地域コミュニティの衰退や機

能そのものを維持することが困難になるなどの課題を地方自治体、地域社会は抱えている。さらにITやICT等によりグローバル化の波がローカル社会にも大きな影響を与えている。地方自治体は、住民とともに地域資源を発掘、活用しながら独自性を発揮して課題を乗り越え、活力ある未来を切り開いていく必要性に迫られている。本授業では、地方自治体及びその制度を多角的な視点で捉え、理解するとともに、国と地方との関係の中で、持続可能な地域社会として発展しようとする地方自治体の現状を知ることを通じて、地域行政を考える基礎を学んでいきます。

なお、この科目の担当者は地方行政の職員として40年近く実務に関わり、政策の事業化を経験した教員である。授業では、地方自治制度を踏まえて国、県、市町村との関係や地方自治体の現状及び課題を行政事例などを取り混ぜてより分かりやすく説明したい。

< 到達目標 >

地域行政の現状と人口減少社会の課題の中で、地方自治体(地域社会)がどのような政策及び事業で活力を維持し、持続可能な存在として発展できるのかを習得し、説明できる。

公務員志望者、教員志望者の進むべき方向性選択の理解を深めさせる。

具体的な課題に対する方向性を論述することで、文章の作成能力を高めることが出来る。

< 授業のキーワード >

国と地方の関係、地方分権、分権型社会、団体自治、住民自治

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めますが、受講生に自発的な発言を求めて、双方向の授業を重視します。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後の復習(1時間)と次回のテーマに沿った予習(1時間)を行って理解を深める

< 提出課題など >

履修者から出たコメントや質問に対しては、フィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業における発言および貢献度(20%)、授業の中で説明したテーマに関するレポート(30%)、小論文(50%)の割合で総合的に評価する。

< 参考図書 >

『Next教科書シリーズ地方自治論[第2版]』(弘文堂)

< 授業計画 >

第1回 地域行政論で何を学ぶか

ガイダンス(授業の進め方・地域行政論概要)

第2回 近代国家に至るまでの地方自治

地方自治の淵源を他国の都市自治体に学ぶ

第3回 近代国家建設における中央集権化と地方自治

明治憲法下における中央集権体制と地方行政

第4回 日本国憲法下の地方自治  
憲法第9章「地方自治の本旨」から学ぶ - 新たな仕組みと組織 -  
第5回 地方財政  
自立した地方財政の推進と限界  
第6回 自主立法権の確立  
条例の制定権と機関委任事務・法律との関係  
第7回 地方行政の担い手  
地方公務員の姿  
第8回 レビュー  
第1回 - 第7回の内容の理解度をはかる。  
第9回 国と地方との関係  
国土計画と地方公共団体  
第10回 地方自治体の変遷と分権改革  
地方の時代における地方公共団体の在り方、昭和、平成の市町村大合併の功罪  
第11回 自治体の政策  
自治体における政策形成  
第12回 地域の主権者としての住民参加  
新しい公共とは、住民の参画と協働による地域行政  
第13回 地域創生への取組  
行政事例に学ぶ  
第14回 地方自治体としての災害対応  
災害多発時代における地方自治体の対応力と限界  
第15回 まとめー地方行政に携わって  
地方行政の現場の経験からの今後の行方を探る

-----  
2022年度 前期

2.0単位

地域社会論

山本 努

-----  
< 授業の方法 >

・テキストを使って講義をおこないます。。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

< 授業の目的 >

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法による、現代地域社会の解読を示しながら、地域社会学の基礎的概念や考え方を紹介します。具体的には、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。地域社会論では、都市に力点をおいて授業を行います。

< 到達目標 >

1. 地域社会学の基本的考え方を理解できるようになる。  
2. それによって、地域社会学の専門的な書籍を読みこなすことができるようになる。  
3. そこから、現代の地域社会(都市・農村)が、興味深い探求の課題(つまり、「問題」)であることを理解できるようになる。  
4. その結果、現代社会一般への興味や関心が高まるようになる(ことをめざします)。

< 授業のキーワード >

家族、地域、都市、農村、社会問題、社会調査、過疎、限界集落

< 授業の進め方 >

テキストを使って授業をおこないます。テキストを必ず持参して授業に出席して下さい。

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。私語など受講生に迷惑となる行為には厳しく対処します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

< 提出課題など >

授業で指示します。必要に応じて、授業やmanabaでコメントします。

< 成績評価方法・基準 >

・課題提出(または定期試験)・・・100%出席  
\*ただし、欠席の多い場合は単位を認めない。

< テキスト >

山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房

< 参考図書 >

山本努編『地域社会学入門』学文社

また、テキストの各章末に文献を示している。参照して欲しい。

< 授業計画 >

第1回 地域社会学とはどのような学問か?

ガイダンス

第2回 社会学と地域社会学

社会学の中での地域社会学の位置について

第3回 社会学の中での地域社会学の課題とは?

社会とは何か。地域社会も社会の一部なので、まずは社会とは何かから考える。

#### 第4回 社会の概念をめぐって

「狭義の社会」と集団と準社会（富永健一の社会概念）  
第5回 社会の概念をめぐって

集団社会と集団外社会（高田保馬の社会概念）

第6回 社会の概念をめぐって  
社会関係と集団と繊維社会（高田説と富永説の比較、高田説の優位）

#### 第7回 社会の概念をめぐって

集団と全体社会（オルムステッド、蔵内、富永、高田の学説の比較、優劣）

#### 第8回 地域社会概念の必要性

全体社会と地域社会

#### 第9回 地域社会の概念をめぐって

地域社会には都市と農村（村落）がある：ソローキンの学説

#### 第10回 地域社会の概念をめぐって

地域社会には都市と農村（村落）がある：奥井復太郎の学説

#### 第11回 都市と農村の把握

都市的生活様式と、その限界など：倉沢進の学説

#### 第12回 都市と農村の把握

農村的生活様式の切り崩し：高度経済成長と地域の変容、安達生恒の過疎論

#### 第13回 都市と農村の把握

農村的生活様式の切り崩し：高度経済成長が終わって以降の地域変容、大野晃の限界集落論

#### 第14回 都市と農村の把握

大野晃の限界集落論への異論：木下謙治、徳野貞雄、山本努の生活構造論調査

#### 第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内（授業の進行次第では、試験を行う）

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域社会論

山本 努  
-----

< 授業の方法 >

テキストを使って講義をおこないます。授業の進行次第で受講生の皆さんとの質疑応答なども含めたく思います。

・manabaに示した課題、連絡等を必ず毎週の授業で確認して下さい。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

< 授業の目的 >

DP（ディプロマ・ポリシー）の「（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の方法による、現代地域社会の解読を示しながら、地域社会学の基礎的概念や考え方を紹介します。具体的には、家族、地域（都市・農村）、地域福祉、過疎問題、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。地域社会論では、農山村に力点をおいて授業を行います。

< 到達目標 >

1. 地域社会学の基本的考え方を理解できるようになる。2. それによって、地域社会学の専門的な書籍を読みこなすことができるようになる。3. そこから、現代の地域社会（都市・農村）が、興味深い探求の課題（つまり、「問題」）であることを理解できるようになる。4. その結果、現代社会一般への興味や関心が高まるようになる（ことをめざします）。

< 授業のキーワード >

家族、地域、都市、農村、社会問題、社会調査、過疎、限界集落

< 授業の進め方 >

・講義（対面授業及び遠隔授業の併用）の予定です。

・授業はテキストをもとに進めます。受講生は必ずテキスト持参で授業にのぞんで下さい。

< 履修するにあたって >

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つように

してください。私語など受講生に迷惑となる行為には厳しく対処します。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

・参考図書は課題の提出に必要なになります。詳細はmanabaに示します。

< 提出課題など >

授業で指示します。必要に応じて、授業やmanabaでコメントします。

< 成績評価方法・基準 >

・課題提出（または定期試験）・・・100%出席  
\*ただし、欠席の多い場合は単位を認めない。

< テキスト >

山本努編『地域社会学入門』学文社

< 参考図書 >

山本努『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房中川

< 授業計画 >

第1回 地域社会学とはどのような学問か？

ガイダンス

第2回 地域社会

地域社会とはどのような概念か

第3回 地域社会

地域社会には都市と農村がある

第4回 地域社会

都市のいい(悪い)ところ、農村のいい(悪い)ところ

第5回 都市(シカゴなど)

アメリカ都市社会学:シカゴ学派など

第6回 都市(サンフランシスコ・ベイエリアなど)

アメリカ都市社会学:下位文化論など

第7回 都市(日米の比較)

アメリカ都市社会学と日本都市社会学

第8回 都市(日米の比較)

日本都市社会学:福武直の学説、日本の都市とアメリカの都市の違い

第9回 都市(日本の都市)

日本都市社会学:統合機関論、結節機関論

第10回 都市(日本の都市)

日本都市社会学:第3空間論、正常生活論

第11回 農村と都市の関係

ソロークインの半農半都市化論

第12回 農村

高度経済成長と過疎

第13回 農村

過疎問題の変容(少子高齢化など)と限界集落論

第14回 農村

人口遷流と定住経歴

第15回 まとめ

質疑応答、今後の勉強のための文献案内  
(試験を実施するかもしれない)

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域防災コミュニティ論

伊藤 亜都子

-----  
< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)、2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

地域社会に関する基礎的な知識を学び、地域の力を知ること、地域に関心を持つこと、自分の地域に愛着を持つこと、自ら地域で問題解決のために実践できることについて考えます。多くの事例をとりあげながら、特に地域防災とコミュニティの関係について理解を深めます。

なお、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災の震災資料の収集整理を行う震災資料専門員として、被災者個人および仮設住宅、災害ボランティア団体などを数多く訪問してきた実務経験のある教員である。従って、当時の様子について、実際に見聞きしてきたものを当時の資料を活用しながら、解説する、実践的教育から構成される授業科目である。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 到達目標 >

地域社会に関心を持ち、地域活性化と地域防災の重要性について認識し、積極的に実践するための知識を身につ

ける。

< 授業のキーワード >

地域コミュニティ、まちづくり、地域力、地域防災、震災復興

< 授業の進め方 >

講義形式、グループワークをとりまぜながら進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習と復習(各1時間程度)。関心を持ったことについて自主的に深く調べる。

< 提出課題など >

講義の理解状況、講義で学んだことに対する自分の考えについて授業中に数回、小レポートを実施する。

レポートについては、授業内に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内小レポートおよび授業取組態度(60%)、グループワーク発表(10%)、授業内小テスト(30%)

< テキスト >

特に指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

シラバス説明と今後の授業の進め方。コミュニティって何？

第2回 『まちづくりの実践』を読む

テキストを読みながら、「まちづくり」の実践事例について考えます。

第3回 『まちづくりの実践』を読む

テキストを読みながら、住民が地域の課題解決のために動き出す事例について考えます。

第4回 大震災と地域社会

阪神・淡路大震災後の避難所、仮設住宅、災害復興公営住宅におけるコミュニティの概要を学ぶ。

第5回 大震災と地域社会

阪神・淡路大震災の記録映画から、仮設住宅と地域コミュニティについて学びます。

第6回 大震災と地域社会

記録映画の続き。避難所、仮設住宅、災害復興公営住宅と人々の生活のかかわりを考えます。

第7回 大震災と地域社会

阪神・淡路大震災後の災害復興公営住宅の現状と、高齢化社会における地域社会の役割について考えます。

第8回 大震災とまちづくり

阪神・淡路大震災の後の復興まちづくりの概要を学び、長田区の事例について学習します。

第9回 大震災とまちづくり

震災復興まちづくりにおける公園づくりの事例について紹介します。どの地域にもある身近な「公園」が地域で果たす役割について考えます。

第10回 大震災とまちづくり

阪神・淡路大震災のまちづくりについて、いくつかの事例を紹介しながらまとめます。

第11回 東日本大震災と地域社会

東日本大震災で津波被害にあった地域を事例として、復興の経緯と現状を学びます。

第12回 東日本大震災と地域社会

東日本大震災で津波被害にあった地域を事例として、地域産業、高齢化、コミュニティ、地域文化などと関連づけて現状について考えます。

第13回 東日本大震災と地域社会

東日本大震災で津波被害と原発被害にあった福島県の人々について現状を知り、理解を深めます。

第14回 東日本大震災と復興

東日本大震災の後の東北地方の現状についてまとめます。

第15回 日本の地域防災コミュニティ

授業全体をふりかえり、「まちづくり」について総合的にまとめ、各自の理解を深めます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

地域防災コミュニティ論

伊藤 亜都子  
-----

< 授業の方法 >

対面

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー 1 (知識・技能)、2 (思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

地域社会に関する基礎的な知識を学び、地域の力を知ること、地域に関心を持つこと、自分の地域に愛着を持つこと、自ら地域で問題解決のために実践できることについて考えます。多くの事例をとりあげながら、特に地域防災とコミュニティの関係について理解を深めます。

なお、この科目の担当者は、阪神・淡路大震災の震災資料の収集整理を行う震災資料専門員として、被災者個人および仮設住宅、災害ボランティア団体などを数多く訪問してきた実務経験のある教員である。従って、当時の様子について、実際に見聞きしてきたものを当時の資料を活用しながら、解説する、実践的教育から構成される授業科目である。

連絡先 itoa@css.kobegakuin.ac.jp

< 到達目標 >

地域社会に関心を持ち、地域活性化と地域防災の重要性について認識し、積極的に実践するための知識を身につける。

< 授業のキーワード >

地域コミュニティ、まちづくり、地域力、地域防災、震災復興

< 授業の進め方 >

授業ないで資料を配布しながら、学びます。課題について思考を深めるためにグループワークも複数回取り入れ

ます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習と復習(各1時間程度)。関心を持ったことについて自主的に深く調べる。

< 提出課題など >

講義の理解状況、講義で学んだことに対する自分の考えについて授業中に数回、小レポートを実施する。

レポートについては、授業内に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

毎授業内の小レポートおよび取組態度(70%)、授業内の小テスト(30%)。

< テキスト >

特に指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

シラバス説明と今後の授業の進め方。コミュニティって何？

第2回 『まちづくりの実践』を読む

テキストを読みながら、「まちづくり」の実践事例について考えます。

第3回 『まちづくりの実践』を読む

テキストを読みながら、住民が地域の課題解決のために動き出す事例について考えます。

第4回 大震災と地域社会

阪神・淡路大震災後の避難所、仮設住宅、災害復興公営住宅におけるコミュニティの概要を学ぶ。

第5回 大震災と地域社会

阪神・淡路大震災の記録映画から、仮設住宅と地域コミュニティについて学びます。

第6回 大震災と地域社会

記録映画の続き。避難所、仮設住宅、災害復興公営住宅と人々の生活のかかわりを考えます。

第7回 大震災と地域社会

阪神・淡路大震災後の災害復興公営住宅の現状と、高齢化社会における地域社会の役割について考えます。

第8回 大震災とまちづくり

阪神・淡路大震災の後の復興まちづくりの概要を学び、長田区の事例について学習します。

第9回 大震災とまちづくり

震災復興まちづくりにおける公園づくりの事例について紹介します。どの地域にもある身近な「公園」が地域で果たす役割について考えます。

第10回 大震災とまちづくり

阪神・淡路大震災のまちづくりについて、いくつかの事例を紹介しながらまとめます。

第11回 東日本大震災と地域社会

東日本大震災で津波被害にあった地域を事例として、復興の経緯と現状を学びます。

第12回 東日本大震災と地域社会

東日本大震災で津波被害にあった地域を事例として、地

域産業、高齢化、コミュニティ、地域文化などと関連づけて現状について考えます。

第13回 東日本大震災と地域社会

東日本大震災で津波被害と原発被害にあった福島県の人々について現状を知り、理解を深めます。

第14回 東日本大震災と復興

東日本大震災の後の東北地方の現状についてまとめます。

第15回 日本の地域防災コミュニティ

授業全体をふりかえり、「まちづくり」について総合的にまとめ、各自の理解を深めます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地域防災実践論

安富 信、伊藤 亜都子、佐伯 琢磨、諏訪 清二、中田 敬司、船木 伸江、松山 雅洋

-----  
< 授業の方法 >

講義・実習(対面授業)

< 授業の目的 >

近年、地震をはじめたい風や大雨による水害、土砂災害が多発している。そのなかで、災害に市民レベルで対応する必要性がますます高まっているといえよう。そのような現状において防災を専門的に学ぶ者にとって地域の防災力を強化するための知識と技能を有する必要がある。その一環として、防災士の資格を取得することも一つの目標と言える。

本講義は、防災の基本を学ぶとともに、防災士の資格取得を目指す授業である。

< 到達目標 >

- 1) 防災士の資格を取得する
- 2) 自然災害、防災、減災などの知識を身に着ける
- 3) 防災士として活動するための知識と態度を身に着ける

< 授業のキーワード >

防災士養成

< 授業の進め方 >

講義を基本とするが、ワークショップも交えながら、実践的な取り組みを行っていく。

< 履修するにあたって >

テキストは、必ず購入すること。購入しないと受講できません。また、試験に合格すべく積極的に授業に臨むこと。

なお、試験をうけるために受験料、合格した際には登録料が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前および事後学習にそれぞれ1時間程度。復習の際、毎回、補充レポートがあるので、それを実施したうえで

必ず提出すること。

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題50%、試験50%

< テキスト >

日本防災士機構 『防災士教本』 3,500円（本科目は、防災士養成講座のため、テキストを購入しない者は受講できません）

\*テキストは、現代社会学部助手実習室で直接販売します。メルカリ等ネットでの購入は不可。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス 自然災害1

地震・津波による災害、近年の主な自然災害（担当：安富、諏訪）

第2回 自然災害2

気象災害・風水害、土砂災害（担当：諏訪）

第3回 自然災害3

火山災害、災害と損害保険（担当：佐伯）

第4回 災害情報1

災害関連情報と予報・警報、被害想定・ハザードマップと避難情報（担当：安富）

第5回 災害情報2

災害情報の活用と発信、耐震診断と補強（担当：安富）

第6回 防災行政1

行政の災害対策と危機管理、広域・大規模火災（担当：松山）

第7回 防災行政2

行政の災害救助・応急対策、復旧・復興と被災者支援（担当：松山）

第8回 災害医療とインフラ

災害医療とこころのケア、ライフライン・交通インフラの確保（担当：中田）

第9回 ワークショップ1

災害図上訓練（担当：中田、ゲストD-MAT）

第10回 災害の備えと企業

地震・津波への備え、企業・団体の事業継続（担当：佐伯）

第11回 災害の備え

風水害・土砂災害等の備え（担当：船木）

第12回 ワークショップ2

災害時のタイムライン作成（担当：船木）

第13回 地域防災

自主防災活動と地区防災計画（担当：伊藤）

第14回 避難所と地域

避難所の設営と運営協力、地域防災と多様性への配慮（担当：伊藤）

第15回 防災士とボランティア

災害ボランティア活動、防災士に期待される活動（担当：安富、ゲスト防災士）

第16回 試験

防災士試験

-----  
2022年度 後期

2.0単位

地球環境論（連携）

中島 一憲  
-----

< 授業の方法 >

講義（対面）

< 授業の目的 >

地球環境問題の解決策を考える上で、経済学の視点から考えることは必要不可欠である。そのため、ミクロ経済理論に基づく環境経済学の基礎的な考え？を習得し、環境問題が発？する経済的要因、最適な資源配分の達成、環境政策の問題点および望ましい政策のあり？等に関して、理解を深めていくことを目的とする。また、経済学で？いられる数学に関しては適宜紹介する。なお、本講義は現代社会学科および社会防災学科のディプロマポリシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

< 到達目標 >

本講義は環境問題を経済学的視点から分析するために、環境経済学の基礎理論およびその応用を理解することを目標とする。具体的には、環境問題をどのように経済学的に考えるのか、環境問題を解決するために、どのような手段が有効なのか、環境をどのように評価するのか、ということについて、図を用いながら説明することができる。

< 授業のキーワード >

費用便益分析、消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰、市場の失敗、外部性、公共財、規制的手段、環境税、補助金、環境評価、支払い意思額、受取補償額、割引現在価値

< 授業の進め方 >

・講義はパワーポイントを用いて説明する。  
・講義資料はmanabaもしくはOneDriveよりダウンロードし持参する。（講義内での資料の見方は、印刷して持参、ノートPC・タブレット・スマホで見る等、どのような形態でも構わない）  
・講義終了後に講義に関する質問やコメントを書いてもらい、次の講義の最初に教員が質問に答えたり、コメン

トを紹介するなどして情報共有をはかる。

<履修するにあたって>

講義内容に関する質問、地球環境だけでなく防災をはじめとする様々な公共事業に関する質問、私の研究に関する質問など歓迎します。気軽にお声がけください。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、講義の対象となる講義資料を前もって読んでおくこと(目安として1時間程度)

事後学習として、講義で出てきた図を用いて自分で一から説明する、講義資料の練習問題を解くなどして、講義内容を再確認すること(目安として1時間程度)

<提出課題など>

- ・中間テスト、期末テストを行う。
- ・中間テスト受験者、期末テスト受験者に対して、テストの成績が悪かった場合に任意で追加レポートの提出を認める(ただし、課題については教員から指定する)。

新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、定期試験の実施が困難となる可能性も想定されるため、レポートでの評価に変更する場合もある。

<成績評価方法・基準>

・中間テスト(40%)、期末テスト(60%)を基準として、追加レポートおよび受講態度(積極的な発言や質問等)を含めて総合的に評価する。

・期末テスト後の追加レポートの提出資格は、中間テストおよび期末テストの両方を受験すること。

新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、定期試験の実施が困難となる可能性も想定されるため、レポートでの評価に変更する場合もある(この場合、中間レポート(40%)、期末レポート(60%)を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する)。

<参考図書>

- ・日引聡・有村俊秀『入門 環境経済学』(中公新書、2002)
- ・栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ 第3版』(有斐閣、2016)

<授業計画>

## 第1回 ガイダンス

本講義の概要および目標

## 第2回 消費者行動と生産者行動(1)

需要曲線を理解する: 効用最大化問題、需要曲線、消費者余剰

## 第3回 消費者行動と生産者行動(2)

供給曲線を理解する: 利潤最大化問題、供給曲線、生産者余剰

## 第4回 市場と社会の利益

市場のはたらきを理解する: 市場均衡、社会的余剰

## 第5回 外部性と市場の失敗(1)

環境問題はなぜ起こるのか: 外部性、市場の失敗

## 第6回 外部性と市場の失敗(2)

公共財がなぜ環境問題を引き起こすのか: 公共財、フリ

ーライダー

## 第7回 公共財供給問題としての環境問題

ゲーム理論によるアプローチ

## 第8回 中間テスト

中間テストと解説

## 第9回 最適な資源配分の達成

環境問題の下での資源配分、環境政策の比較

## 第10回 交渉による環境問題の解決

コースの定理、排出権取引

## 第11回 環境の価値評価(1)

環境評価の考え方

## 第12回 環境の価値評価(2)

環境評価の計測手法、適用事例

## 第13回 費用便益分析

費用便益分析の考え方、応用

## 第14回 期末テスト

期末テストと解説

## 第15回 到達度の確認

本講義のまとめと到達度の確認

-----  
2022年度 前期

2.0単位

地震災害研究

佐伯 琢磨、望月 智也、森永 速男

-----  
<授業の方法>

講義形式で解説する。

【連絡先(メールアドレス、LMS)】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

有史以来、人類は地震発生すれば大きな被害を被ってきた。特に、尊い人命を失うという惨劇を繰り返してきた。

地震災害論では、まず、阪神・淡路大震災の被害と比較しながら東日本大震災の被害を説明し(第2~3回)、以降次の3つの項目について、分かりやすく説明する。

【ハード面】地震の基礎知識、地震被害と構造物(第4~8回)

【ソフト面】地震災害関連の法律、地震保険、および企業防災の実務(第9~10回)

安全で安心な社会の実現に向けて(第11~14回)

【ハード面】では、地震の発生メカニズムから地震被害の歴史、現在どのような観測体制で地震の解明に対処しているか、および構造物の設計法などを解説する。

【ソフト面】では、地震災害関連の法律、地震保険、および企業防災の実務を解説する。「安全・安心な社会の実現に向けて」では、地震発生時の防災および被害軽

減手法の最前線までを解説する。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ講義を行う。

<到達目標>

受講後は地震動の姿に関するイメージを各人が持つことができ、災害防止・軽減の最前線までを理解し、知識を身につけることができる。

<授業のキーワード>

地震災害と防災・減災対策

<授業の進め方>

映像や配布資料を用いて、地震災害および防災・減災対策について説明する。また、各回のテーマについて理解を深めるために、議論することもあります。

<履修するにあたって>

地震災害の様々な面に、興味を持つこと。

<授業時間外に必要な学修>

我々の周りで発生している地震報道に対し、積極的に興味を持つこと。

<提出課題など>

- ・地震災害に関する課題のレポートを求めます。
- ・定期試験を実施します。

<成績評価方法・基準>

定期試験（70%）、課題（30%）で評価する。

<テキスト>

指定しない、適宜資料を配布する。

<参考図書>

- ・「地震災害論」 京都大学防災研究所編 山海堂、
- ・「地震防災学」 大塚久哲編著 九州大学出版会

<授業計画>

#### 第1回 ガイダンス

本講義の目標、進め方について説明する。

#### 第2回 東日本大震災について（1）

東北地方太平洋沖地震による被災（特に、津波による被害）の概要を説明する。

#### 第3回 東日本大震災について（2）

兵庫県南部地震による被害との比較も加えて、東日本大震災による被災の特徴を説明する。

#### 第4回 地震発生のメカニズム

「深海でなぜ地震が発生し、津波が付随するか」と「陸域で発生する地震とその原因」について説明する。

#### 第5回 地震動の測り方

地震動記録を観測し、地震予知の実現を目指す地震観測の現況について説明する。

#### 第6回 地震時被害の歴史

構造物を含めた社会インフラの地震被害（社会経済的インパクトを含めて）と発生理由について解説する。

#### 第7回 構造物の設計法の変遷

構造物の被害を踏まえて設計法が高度化した変遷について説明する。

#### 第8回 耐震改修・補強のあり方

低成長時代に入っている日本において、巨大地震が発生した際、大きな災害となる可能性の高い大都市では耐震化が重要な課題である。この二律背反の課題に対して、経済効率（費用対効果）を考慮した大都市圏における耐震補強のあり方について解説する。

#### 第9回 建築にかかわる法律と地震保険について

建築基準法、建築物の耐震改修の促進に関する法律、住宅品質確保の促進等に関する法律など建築にかかわる法律について説明する。さらに、罹災証明書、被災者生活再建支援法、災害対策基本法についても説明する。

あわせて、地震保険等についても説明する。

#### 第10回 地震発生後の時系列対応

発生直後からの緊急・応急・復旧・復興という時間経過を考慮した被災対応について解説する。特に、対応時の関連法律についても述べる。

#### 第11回 企業防災の実務（応用編）

災害リスクマネジメント企業の実務担当者を講師に迎え、企業防災の実務の応用を学ぶ。

第12回 巨大地震による被災からの復興に向けて（1）東日本大震災のような巨大地震による被災からの復興について、特に福島第一原子力発電所の事故の概要を中心に説明する。

第13回 巨大地震による被災からの復興に向けて（2）東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故を受けての避難区域の指定や、復興に向けての取り組みおよび風評被害について、紹介する。

#### 第14回 安全で安心な社会の実現に向けて

地震が巨大化している現在、設計時以上の地震が襲来しても、大きな災害を引き起こさないように災害都市論としての「壊れないものをつくる」について紹介する。

#### 第15回 ふりかえり

地震災害に対する基礎知識からハードからソフトまでの災害軽減の最前線までをおさらいする。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

都市防災論

田中 綾子

-----  
<授業の方法>

講義

対面またはZoomを利用したリアルタイム授業

警報等が発令した場合においてもZoom実施が可能であれば授業を行います。

<授業の目的>

この講義は専門基幹科目の専門共通分野の一つで、専門分野科目群への導入となる科目である。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー-1(知識・技能)、2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

災害の大きさは単に自然現象の大きさではなく、人命・身心や人工物、活用資源への被害の大きさといえる。そしてそれは主に、Hazard（自然災害の規模）、Exposure（災害にさらされる人口）、Vulnerability（社会の脆弱性）の3要素の影響を受ける。つまり、同規模のHazardであっても、多くの人口が脆弱な社会に集中していれば大規模な災害となってしまう。したがって、災害対策において都市化への対応は非常に重要であるといえる。この授業では都市化をキーワードに、現代社会における防災に係る社会的諸問題を学際的かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を提案・実践する能力を身につけることを目的とする。

#### <到達目標>

都市化に伴う災害の様相変化や都市生活における防災上の課題についての知識を身につけ、事例をあげて説明できる。

人為的な環境ならではの災害発生のメカニズムに注目し、リスク評価の必要性を理解し、解決のために検討する積極的な態度を身につける。

今後の都市災害対策の要点を検討し、解決策を具体的に提案することができる。

#### <授業のキーワード>

都市防災、マンション防災、ライフライン、コミュニティ防災、電力依存、物流

#### <授業の進め方>

講義とグループワークを行う。遠隔の場合もZoomのブレイクアウトルームを活用しグループワークを実施する。

#### <履修するにあたって>

身近な事例も取り上げるので、積極的な発言と参画を求める。

#### <授業時間外に必要な学修>

毎回 事前学習 30分程度 アサインメント 30分程度  
課題 3時間程度

#### <提出課題など>

グループワークのワークシート3回分と最終提案プレゼンテーション 授業中のコメントまたは記入等によりフィードバックする

#### <成績評価方法・基準>

アサインメント取り組み状況 20点  
授業への貢献度（発言等） 20点  
グループワーク成果物 10点×3  
最終課題 提案パワーポイント 30点

#### <テキスト>

使用しない。毎回授業資料・ワークシート等を配布または共有する。

#### <参考図書>

『近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害』渡辺浩一・マシュー・デービス（編） 勉誠出版  
『都市防災学地震対策の理論と実践 改訂版』梶秀樹（

編著）学芸出版社

『江戸の災害史 徳川日本の経験に学ぶ』倉地克直（著）中央公論新社

『災害復興の経済分析 持続的な地域開発と社会的脆弱性』林 万平（著）勁草書房

『都市計画学：変化に対応するプランニング』中島 直人 他（著） 学芸出版社

#### <授業計画>

##### 第1回 都市化と災害リスク

<イントロダクション> 都市型災害はどのような要因で被害が大きくなるのかについて学び、リスク評価の視点を得る。

##### 第2回 都市の脆弱性

交通インフラの麻痺や帰宅困難者の想定やコミュニティの多様性から、都市生活の自助について考える。

##### 第3回 都市の脆弱性

都市生活のエネルギー依存とライフライン復旧までのプロセスについて知る。

##### 第4回 都市の脆弱性

高度な流通網によって実現している物流が、災害時にはどのような影響を受けるのかを知り、備蓄について考える。

##### 第5回 グループワーク【1】

グループに分かれて、大規模イベント主催者の立場で災害発生シミュレーションを行う。

##### 第6回 マンションの防災

都市においては多数派となるマンション生活の防災について考える。

##### 第7回 マンションの防災

エレベーター・排煙設備・放送設備・給水システム等、マンションの設備について知る。

##### 第8回 マンションコミュニティにおける防災

マンションにおける自主防災組織のあり方について考える。

##### 第9回 都市コミュニティにおける防災

都市の共助においては、企業なども昼間人口の多くを占める重要なコミュニティの構成員となる。企業がどのような役割を担うのかを考える。

##### 第10回 グループワーク【2】

100戸300人が暮らすマンションの防災マニュアルを考える。

##### 第11回 都市開発と災害

都市開発に伴う自然環境への人為的な働きかけと災害リスクについて、江戸や海外の事例から学ぶ

##### 第12回 東京都の防災対策

ビルの防災対策、防災公園の整備、防災産業の発展のほか、災害に関連する条例や市民防災啓発の事例などを学ぶ。

##### 第13回 被災都市の復興

被災によって都市の産業にどのような影響があるのか事

例から学ぶ。

#### 第14回 グループワーク【3】

グループごとに都市を選び、20年後の防災上の課題について調べ発表する。

#### 第15回 都市防災対策への提案

今後も変化していく都市と、それに対応できる防災対策とは何かを考える。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

東洋の歴史【法 〃 現社】

川口 ひとみ  
-----

#### < 授業の方法 >

講義形式

対面講義予定

コロナの状況により遠隔授業（オンデマンド）になる可能性があります。

#### < 授業の目的 >

東アジアの中心である中国の通史を中心に、西アジア史も適時合わせて東洋史一般について学ぶ。古代から現代まで各時代の基本的な事項、特徴、変化を学び、基礎的な知識を深める。さらに、その知識を西方諸国との交流や発展と合わせることで、広い視野から東洋の歴史について考察する。なお、この授業の担当者は高校での実務経験を4年間経験している実務経験のある教員であるので、教員志望の学生にはより実践的な観点から教育の現場の解説ができる。

現代社会学部DP：（知識・技能）

広い視野から東洋の歴史を学び、現代社会における人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができる。

（思考力・判断力・表現力等の能力）

アジアとヨーロッパとの交流、当時の人びとの暮らし、仕事と産業、および文化の形成における諸問題を学際的かつ科学的に発見・把握するとともに、現代社会の諸問題の解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる。

法学部DP：（汎用的技能）

東洋の歴史からうかがうことのできる現代に繋がる社会における各種の問題について、その要点を把握し、必要な情報を収集・分析して、法的思考に基づいた説得力ある解決指針を示すことができる。

（志向性）

アジアとヨーロッパとの関係や思考の微細な違いなどを歴史的に見、地域社会から国際社会に至る国内外の公共的事柄に関心と責任感を持ち、公平性と客観性を重視した判断および行動ができる。

#### < 到達目標 >

- 1 中国史の各王朝の基本的な事項について説明できる。
- 2 東アジアと西方諸国の交流を理解し、その影響について考察できる。

#### < 授業のキーワード >

東洋史 東西交流 中国文明

#### < 授業の進め方 >

パワーポイントを使用して講義を進めます。

授業終わりにコメントカードを記入してもらい次回授業時に共有します。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

学習した範囲の基本事項を復習して、覚えておくこと。予習や復習の際には、高校の世界史で使用していた教科書や資料集も活用すること。（次回までに1時間）

#### < 提出課題など >

##### \* 対面授業の場合

毎回授業終わりに出席カードに指定した課題（授業のまとめなど）を書き提出（次回授業時フィードバック）（35%）

中間確認プリント（25%）

期末確認プリント（40%）

##### \* 遠隔授業の場合

【授業の資料、課題提出はドットキャンパスで行なう】

・予習・授業・復習での作業は？ 書きで？ なう。

・？ 書きの作業に？ いるため、ノートを必ず？ 意しておかなければならない。

・ノートに書いた課題は、撮影して提出する。

・課題を提出する期限は授業の？ なわれた？ を含めて授業の4日後とする。

・課題提出期限とは別に、クイズ形式（4択問題）で答える際に回答時間制限（10問を10分で答えなさいなど）を設ける場合がある。課題はドットキャンパスでおこなう。

#### < 成績評価方法・基準 >

対面授業の場合

毎回の課題提出（35%）、授業内の中間（25%）、期末確認プリント（40%）の評価を以って成績を評価する。

##### \* 遠隔授業の場合

・提出された課題に対する評価を以て成績を評価するための材料とする。

・最終的な成績は中央値補正法によって補正を？ なう。

#### < テキスト >

指定なし。

#### < 参考図書 >

指定なし。

#### < 授業計画 >

## 第1回 ガイダンス、東洋史のあゆみ

講義の進め方について説明し、東洋史の形成と発展について学ぶ。

## 第2回 中国文明のはじまり

中国文明の開始と殷から漢までの各王朝の基本的な事項を学ぶ。

## 第3回 秦帝国

中国最初の統一国家と言われる秦帝国について学ぶ。

## 第4回 漢帝国

漢帝国の特徴について学ぶ。

## 第5回 古代の東アジアと西方諸国

漢代までの東アジアと西方諸国の東西交流について学び、それが物や文化に与えた影響について考察する。

## 第6回 魏晋南北朝時代

中国の分裂と周辺諸民族の活動について学ぶ。

## 第7回 隋唐帝国

唐の制度と文化、周辺諸国との関係について学ぶ。

## 第8回 中間確認プリントと中国から見た倭国

中間確認プリントと、唐代までの中国と日本の関係総括

## 第9回 宋と北方民族

宋代の社会の発展と文化、北方民族の動きについて学ぶ。

## 第10回 モンゴル帝国

モンゴル帝国の発展と、それが東西交流に与えた影響について学ぶ。

## 第11回 イスラーム世界

イスラーム諸国の形成と発展について基本的な事項を学ぶ。

## 第12回 明と清

明清時代の基本事項について学ぶ。

## 第13回 近代ヨーロッパとアジア総括

近代における西欧諸国のアジア進出と植民地化について学ぶ。

## 第14回 近現代の中国

中国の近代化と日本との関わりについて学ぶ。

## 第15回 全体を俯瞰する

期末確認プリントをするとともに、授業内容を確認しながら、学生の習熟度を測る。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史【法 ～ ・現社】

久岡 道武  
-----

### < 授業の方法 >

- ・対面授業です。
- ・講義の資料は、ドットキャンパス上で配布します。

### < 授業の目的 >

- ・現在の日本社会は、政治・経済・社会・環境のあらゆる面で困難に直面しています。これまで日本社会が歩んできた発展や変化、諸問題について、その過程や要因を

学ぶことで、これからの日本はどうなるのか、どうあるべきかを読み解き、考えることができる学力を身につけます。

- ・本講義の担当者は、京都市内の博物館に勤務していません。文書や書画、工芸、映像などの歴史資料からどのような史実が読み解けるのかを解説します。

### < 到達目標 >

- ・本講義を通じて、日本史の基礎的な知識を身につけます。

- ・本講義を通じて、文化財への関心を高めます。

### < 授業の進め方 >

- ・全15回にわたって古代から高度経済成長期までを解説します。

### < 履修するにあたって >

- ・受講前に『山川日本史』など高校の教科書をあらかじめ一読しておいてください。

### < 授業時間外に必要な学修 >

- ・毎回配布する資料や講義で紹介した文献などを参考にして講義内容をまとめ直すなど、こまめに復習してください。

- ・質問は、授業後もしくは掲示板にて受け付けます。

### < 成績評価方法・基準 >

- ・定期試験（100％）で評価します。講義で扱ったテーマの中から出題し、内容を正しく理解できているか、論理的に回答が出来ているかどうかを評価します。

- ・定期試験は論述式です。講義で話したキーワードを使って簡潔にまとめてください。キーワードを使っているか、内容が正しく記述できているかを採点基準とします。

- ・試験解答文については、読みにくい字や悪文（主語・述語が不明、一文が長すぎるなど）、箇条書き、回答とは無関係の記述などがあれば減点とします。

- ・大学の基準に従って、S・A・B・Cで評価します。

### < テキスト >

特に指定しません。

### < 参考図書 >

特に指定しません。

### < 授業計画 >

#### 第1回 歴史を学ぶ意義

なぜ歴史を学ぶのかを、歴史資料や歴史をみる視点を通じて考える。

#### 第2回 大陸伝来の制度と文化

律令制度は政治・経済、佛教は宗教・思想・美術など、その後の日本社会の基礎のひとつとなった。本講義では、その内容と伝来の過程について解説する。

#### 第3回 律令国家の変質

律令制度の整備とともに頻りに遷都が行われ、その最後の都城が「平安京」であった。しかし、それと同時に律令に基づく土地制度も崩壊しつつあった。本講義では、律令国家の変容を土地制度から解説する。また、平安京の発掘についても紹介する。

#### 第4回 宮廷政治と荘園の発達

律令制度の崩壊は、朝廷内における貴族政治の発展へ向かった。その過程と彼らの経済的基盤である荘園制について解説する。

#### 第5回 武士のおこり

荘園制の発達とともに、武士団が形成される。そして、政治の主導権は貴族から武士へと移っていく。本講義では、武士団の起こりと院政期から執権政治までの過程を解説する。

#### 第6回 武家社会の転換

唐滅亡後の大陸は大きく変動し、やがてモンゴル帝国が誕生した。そして、日本においても蒙古襲来後に鎌倉幕府が滅亡し、室町幕府が成立した。本講義では、その過程と日明貿易、農商業の発達について解説する。

#### 第7回 戦国から天下統一へ

室町幕府は守護大名の抗争が続き、やがて応仁文明の乱となり、戦乱の世の中となった。本講義では、戦乱のはじまりから天下統一までの過程と近世社会の基盤となった太閤検地について解説する。

#### 第8回 幕藩体制の成立

江戸幕府は、幕藩体制と各種統制を通じて長期間にわたり社会秩序を安定させた。本講義は、その内容について解説する。

#### 第9回 江戸時代の経済成長

江戸時代は内的な経済成長をとげた時代である。その基盤として、人口・三都・貨幣制度について、またその成長の過程として地回り経済圏の形勢について解説する。

#### 第10回 幕府の諸改革

社会秩序の安定と経済成長は、幕府政治の方向性を次第に変化させていった。武断政治から文治政治へ、そして享保・寛政・天保の諸改革は、幕府権威の維持と経済問題の困難さにあった。本講義は、これら諸改革について解説する。

#### 第11回 開国から明治維新へ

18世紀末から19世紀において、列強は強力な軍力を背景にアジア諸国を植民地にしつつ、日本にも通商を求めた。本講義では、開国とその影響について解説する。

#### 第12回 明治の近代化政策

明治政府は様々な近代化政策を進めるが、そのためには財政的基盤を固める必要があった。本講義では、地租改正と秩禄処分、殖産興業、そして、1880年代後半からの産業革命について解説する。また、近代化遺産についても紹介する。

#### 第13回 大陸政策の展開

近代国家となった日本は、次第に近隣諸国への軍事的・政治的に展開していった。日清日露戦争とその後の国際関係、台湾・朝鮮半島・満州における植民地経営について解説する。

#### 第14回 経済恐慌と世界大戦

第1次世界大戦後の長期不況と恐慌、協調外交の行き詰

まりは軍部の台頭となり、悲惨な戦争をもたらした。本講義は、その過程について解説する。

#### 第15回 戦後復興から高度成長へ

敗戦後の日本は、GHQによる軍国主義の除去からはじまった。日本が敗戦からどのように復興し、高度経済成長につながったのかを解説する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

日本近現代史

松田 ヒロ子

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

近年、日本の安全保障をめぐる法整備や日本国憲法の改正を巡り、大きな議論をよんでいます。これらの議論を理解し、自分なりの意見を表めできるようになるためには、自衛隊や過去の日本陸軍・海軍についての歴史的な理解が不可欠です。この授業の目的は、軍事組織（日本軍・自衛隊）と民軍関係（軍隊と市民社会の関係）に着目しながら、日本近現代史の大きな流れと各時代の特色を理解することにあります。現代社会学部のDPに示す、現代社会の多面的、総合的な理解と、グローバルな視野と豊かな教養を身につけることを目指します。

<到達目標>

(1) 日本の近現代史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色をふまえて説明できる。

(2) 日本における軍事組織と市民社会との関係の歴史的発展を説明できる。

(3) 世界における日本の果たすべき役割を認識しながら、日本の自衛隊の現状を評価し、そのあるべき姿について自分の意見を表明できる。

<授業の進め方>

基本的に教員による講義形式です。

<授業時間外に必要な学修>

授業の配布物を予習復習として読んでください。（予習復習合わせて2時間程度）

<提出課題など>

提出課題に対するフィードバックは授業中に適宜行う。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する課題（50%）、定期試験（50%）

<授業計画>

第1回 授業の概要説明

授業進め方や評価方法を説明します。

第2回 近代的軍隊と日本

近代国家の成立に伴い、日本も近代的な軍隊を編成するようになりました。「近代的な軍隊」の特徴とは何か、そして日本はそれをどのように編成したのか学びます。

第3回 帝国軍と日本社会

日本が近代国家として確立していく中で、日本軍がどのように発展し、軍隊は社会とどのような関係性にあったのか考えます。

#### 第4回 戦争と軍隊

日本は日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦と第二次世界大戦を戦いました。戦争を経て軍隊がどのように発展・変容していったのか考えます。

#### 第5回 日本軍の解体と占領

アジア・太平洋戦争終結後、日本軍が解体され、連合軍の占領統治のもとで軍隊や軍人の位置づけがどのように変化したのか考えます。

#### 第6回 自衛隊の創設

朝鮮戦争勃発に伴い警察予備隊が設立され、保安隊、陸上自衛隊へと発展、さらに海上自衛隊と航空自衛隊が創設された経緯を学びます。

#### 第7回 冷戦と自衛隊

冷戦体制下で自衛隊が発展していった経緯を学び、国際的及び国内的に自衛隊が期待された役割について考えます。

#### 第8回 自衛隊と地域社会

1950年代から日本各地に自衛隊の駐屯地他の関連施設が建設されるようになりました。自衛隊と駐屯地等の周辺の地域社会との関係性について考えます。

#### 第9回 民生支援・協力活動

自衛隊は戦闘訓練の他、災害派遣を含む様々な民生支援活動を行ってきました。その実態と意義について考えます。

#### 第10回 自衛隊の是非をめぐる論争

自衛隊は創設直後から、「戦争放棄」を掲げる日本国憲法第9条の条文（解釈）をめくって、その存在の是非が論議的となってきました。日本社会における自衛隊の存在の是非をめぐる論争とその意義について考えます。

#### 第11回 沖縄の日本「復帰」と自衛隊

沖縄の施政権が日本に返還され、1970年代より沖縄県内にも自衛隊が駐留するようになりました。自衛隊と沖縄の地域社会や住民との関係について考えます。

#### 第12回 自衛隊とPKO

PKO協力法が成立して以降、1990年代初頭から自衛隊は海外における「国際連合平和維持活動（PKO）」に参加するようになりました。自衛隊の海外での「平和維持活動」について考えます。

#### 第13回 自衛隊イメージの現在

2000年代以降に自衛隊がマスメディアでどのように表象され、国民は自衛隊をどのように認識してきたのか考えます。

#### 第14回 憲法改正論争と自衛隊

日本国憲法改正をめぐる議論の中で自衛隊の是非がいかに議論されているか考えます。

#### 第15回 授業の振り返り

これまでに学んだことを振り返ります。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

岩本 茂樹  
-----

< 授業の方法 >

対面による演習形式の授業です。

< 授業の目的 >

ゼミナールというのは、大学教育のいわば典型的な授業形態である。一方的に講義を聴講するのではなく、積極的に参加し、ひとりひとりの研究内容を発表し、意見交換し、時には、ワークショップなども行いながら、互いに研鑽を積むことがねらいである。本学部では、1年前期から4年後期まで全期間をつうじて、ゼミナールを開講し、学生のみなさんが、自発的に学び、積極的に意見交換し、旺盛な好奇心を培いながら、4年間かけて、ひとりひとりがオリジナルな研究をまとめる能力を培っていくことをめざしている。

とりわけ、現代社会学科専門教育科目、専門基礎科目に位置づけられている「入門ゼミナール1」では、はじめてのゼミナールということもあり、まずは、学生のみなさんが、人前で話すこと、人の話を聴いてコメントすること、質問することなどの力を高める機会としたい。そのうえで、ゼミナールの基本として、大学における学び方を実際に体験しながら、講義ノートのとり方、本の読み方、文献の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、そして、ディスカッションの仕方などについて、ゼミ仲間と一緒に習得することを目的とする。

この演習は、現代社会学科ディプロマ・ポリシー3（価値観、意見、立場の異なるさまざまな人びとと議論し、深め、協働して社会に貢献すること）に関連する。なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、よグループ学習指導の経験を生かした演習を行うものである。

< 到達目標 >

（1）約20名のゼミ生同士が、ゼミ仲間として、楽しく協力し合いながら学習できる関係づくりをめざす。

（2）大学における学び方として、必要な文献を探す、自分で文献で調べる、レポートをまとめるといった調べ学習のための基礎的技法を習得する。

（3）ゼミ発表のために、レジュメの作り方、パワーポイントの作り方、報告の仕方などを体験しながら基礎を習得する。

ゼミナールのメンバーが、共に協力しながら、現代社会の課題を見つけ、その解決に向けた探究心を抱く。

< 授業の進め方 >

新聞資料や、データなどを採り上げた演習を中心に行う。入学して初めて学問の扉をあけた履修生のみなさんが大

学生生活をスタートするにあたって、クラスのメンバーの状況や興味関心を考慮しながら進めたい。そのため、授業計画等若干の修正・変更を行なうこともある。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習 1 時間、復習 1 時間程度を行うこと。

< 提出課題など >

( 1 ) 主題ごとに課題の提出を求める。

( 2 ) 期末レポートの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

課題の発表40% 課題レポート60%

< テキスト >

特に使用しない。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の進め方についてオリエンテーションを行う。

自己紹介のやり方を話合う。何を話すかなど。

2から3人で一組になり、お互いを自己紹介する。その後、全員でシェアする。

第2回 大学の学びについて

担当教員が、大学の学びについて、また、自らの学問と研究方法について概説する。その内容を受けて、受講生と質疑応答を行う。必ず、全員が発言できるようにする。

第3回 ノートを取る

大学の授業における「ノートを取ること」の意義について概説する。学生が、実際に、20分程度の模擬授業を受けて、ノートを取るワークを行う。

第4回 ノートを取る

1週間の授業中に、どのようにノートを取ったかについて、具体例を紹介し合いながら、ノートの取り方についてアドバイスを行う。20分程度の模擬授業を受けて、ノートを取るワークを行う。

第5回 図書館ツアー（予定）

図書館を見学し、図書館の使い方、文献の検索の仕方など、説明を受けるとともに、実際に体験する。

第6回 グループ・ワーク

担当教員が用意する課題について、グループで話合ったり、調べたりして、まとめて発表する。

第7回 グループ・ワーク

前回とは異なるグループで、新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

第8回 グループ・ワーク

前回とは異なるグループで、新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

第9回 薬物等の講演会（予定）

薬物や喫煙等について、研修を受ける。

第10回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、図表なども作成、貼り付けしながら、レポートをまとめる技法を学ぶ。（情報処理室にて）

第11回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、レポートを作成する。特に、文献を引用する際の留意点、参考文献の標記の仕方などを習得してほしい。（情報処理室にて）

第12回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントでスライドを作成し、発表する準備を行う。

第13回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

第14回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

第15回 ゼミナールのふりかえりとまとめ

これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。学期末の課題についてアナウンスをおこなう。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

岡崎 宏樹  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

現代社会学部における学びの仕方について、グループワークを交えながら修得する。本演習では、人間と社会の関わりに焦点を当てたライフヒストリー/ライフストーリーの研究を主題に、文献調査から発表・討論に至る一連の学習を実践する。新聞記事を批判的に読解したり、聞き取り調査の質問項目を作成したり、ネット上に存在する社会統計の調査を行うことなどを通じて、2年次以降の学習の基礎力を培う。この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。現代社会学科のディプロマ・ポリシー 1・2 に深く関連する。

< 到達目標 >

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。プレゼンテーションや討論をおこなう基礎的能力を修得する。

< 授業のキーワード >

グループワーク、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

グループワークを中心に演習を進める。課題によっては個人による学習、資料作成、考察、報告を求める。

< 履修するにあたって >

演習は休まず出席・参加するのが原則です。積極的に主体的な取り組みを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後に各 2 時間程度。地域研究やレポートの作成など。

< 提出課題など >

発表のレジюмеや期末レポートの提出が求められます。  
レジюмеとレポートの評価については授業内に講評し、  
フィードバックをおこないます。

<成績評価方法・基準>

授業内の取り組み（資料作成・発表・討論）80%、レポート20%

<テキスト>

使用しません。

<授業計画>

#### 第1回 インTRODクシヨン/ガイダンス

この演習の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しく説明し、相互の情報交換のためのグループワークを実施する。

#### 第2回 課題設定と情報検索

(1)グループで地域研究に関する調査課題を設定する。(2)課題に関連した文献資料を収集する。

#### 第3回 事前学習

各グループで、研究対象地域の情報を課題に即して整理し、事前学習を深める。

#### 第4回 地域フィールドワーク

地域研究をさらに深める。各グループの課題に即した調査を実施する。

#### 第5回 成果発表

文献研究から得られた知見を発表し、レポートを作成する。

#### 第6回 グループワーク(1)

(1)テーマに関する文献資料の収集する。(2)収集した文献の内容をまとめる。(3)パワーポイント資料とレジюмеを作成する。

#### 第7回 グループワーク(2)

(1)テーマに関する文献資料の収集する。(2)収集した文献の内容をまとめる。(3)パワーポイント資料とレジюмеを作成する。

#### 第8回 プレゼンテーションの準備(1)

(1)グループでテーマを設定し、質問項目を作成する。(2)聞き取り調査を実施する。(3)調査結果について話し合う。

#### 第9回 プレゼンテーションの準備(2)

(1)プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。(2)用意した文章を読み上げるのではなく、演習参加者に語りかけるように話すことができるよう、話し方のトレーニングをおこなう。

#### 第10回 プレゼンテーション(1)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

#### 第11回 プレゼンテーション(2)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

#### 第12回 統計データ実習

インターネット上に存在する社会統計をどのように活用するかを実習を通じて学ぶ。統計データの検索、ダウンロード、パワーポイント資料への活用方法を習得する。

#### 第13回 聞き取り調査(1)

(1)グループでテーマを設定し、質問項目を作成する。(2)聞き取り調査を実施する。(3)調査結果について話し合う。

#### 第14回 聞き取り調査(2)

(1)グループでテーマを設定し、質問項目を作成する。(2)聞き取り調査を実施する。(3)調査結果について話し合う。

#### 第15回 全体の振り返りと研究指導

半年間のゼミを振り返りのレポートを作成する。また各自の興味・関心にそくした研究を進めるには何が課題かを指導する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

中野 雅至

-----  
<授業の方法>

演習

連絡先は [nakano@css.kobegakuin.ac.jp](mailto:nakano@css.kobegakuin.ac.jp)

特別警報（すべての特別警報）または暴風発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目取扱いについて  
通常授業時の取扱いと同様に、休講とします

<授業の目的>

[主題] ゼミナールというのは、大学教育のいわば典型的な授業形態である。一方的に講義を聴講するのではなく、積極的に参加し、ひとりひとりの研究内容を発表し、意見交換し、時には、ワークショップなども行いながら、互いに研鑽を積むことがねらいである。本学部では、1年前期から4年後期まで全期間をつうじて、ゼミナールを開講し、学生のみなさんが、自発的に学び、積極的に意見交換し、旺盛な好奇心を培いながら、4年間かけて、ひとりひとりがオリジナルな研究をまとめる能力を培っていくことをめざしている。

とりわけ、入門ゼミナール1では、はじめてのゼミナールということもあり、まずは、学生のみなさんが、人前で話すこと、人の話を聴いてコメントすること、質問することなどの力を高める機会としたい。そのうえで、ゼミナールの基本として、大学における学び方を実際に体験しながら、講義ノートのとり方、本の読み方、文献の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、そして、ディスカッションの仕方などについて、ゼミ仲間と一緒に習得してほしい。

[目標]

(1) 約20名のゼミ生同士が、ゼミ仲間として、楽しく協力し合いながら学習できる関係づくりをめざす。

(2) 大学における学び方として、必要な文献を探す、自分で文献で調べる、レポートをまとめるといった調べ学習のための基礎的技法を習得する。

(3) ゼミ発表のために、レジュメの作り方、パワーポイントの作り方、報告の仕方などを体験しながら基礎を習得する。

<到達目標>

ゼミ生同士が協力して学習できる関係作り、学習のための基礎的技法の習得などを目標とする

<授業の進め方>

学生や教員の議論・発表を中心に授業を進めていく

<授業時間外に必要な学修>

予習1時間、復習1時間を行う

<提出課題など>

(1) 主題ごとに課題の提出を求める。

(2) 期末レポートの提出を求める。

<成績評価方法・基準>

(1) 毎回、授業のテーマに関する課題を行って、それを評価する(45%)。

(2) 順番にゼミ発表を行い、その結果を評価する(30%)。

(3) 達成度判断のために、学期末レポートを作成する(25%)。

<テキスト>

特に使用しない。

<参考図書>

特に使用しない

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業の進め方についてオリエンテーションを行う。

自己紹介のやり方を話合う。何を話すかなど。

2から3人で一組になり、お互いを自己紹介する。その後、全員でシェアする。

第2回 大学の学びについて

担当教員が、大学の学びについて、また、自らの学問と研究方法について概説する。その内容を受けて、受講生と質疑応答を行う。必ず、全員が発言できるようにする。

第3回 ノートを取る

大学の授業における「ノートを取ること」の意義について概説する。学生が、実際に、20分程度の模擬授業を受けて、ノートを取るワークを行う。

第4回 ノートを取る

1週間の授業中に、どのようにノートを取ったかについて、具体例を紹介し合いながら、ノートの取り方についてアドバイスをを行う。20分程度の模擬授業を受けて、ノートを取るワークを行う。

第5回 図書館ツアー(予定)

図書館を見学し、図書館の使い方、文献の検索の仕方など、説明を受けるとともに、実際に体験する。

第6回 グループ・ワーク

担当教員が用意する課題について、グループで話合ったり、調べたりして、まとめて発表する。

第7回 グループ・ワーク

前回とは異なるグループで、新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

第8回 グループ・ワーク

前回とは異なるグループで、新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

第9回 薬物等の講演会(予定)

薬物や喫煙等について、研修を受ける。

第10回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、図表なども作成、貼り付けしながら、レポートをまとめる技法を学ぶ。(情報処理室にて)

第11回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、レポートを作成する。特に、文献を引用する際の留意点、参考文献の標記の仕方などを習得してほしい。(情報処理室にて)

第12回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントでスライドを作成し、発表する準備を行う。

第13回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

第14回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

第15回 ゼミナールのふりかえりとまとめ

これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。学期末の課題についてアナウンスをおこなう。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

高梨 薫  
-----

<授業の方法>

オンライン授業

授業の方法：リアルタイム授業

Zoom接続用URL：

<https://zoom.us/j/98853694187?pwd=MUUxSEdRR0RYM01YSHBHczF3N3JMZz09>

ミーティングID: 988 5369 4187

パスワード: 109536

資料配布：リアルタイム授業で説明します

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/gk131170\\_ge\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EvoqeKe5pIZBI-1T3nFzjN4B\\_Ij-ME5HYPowRYQszp8SSw?e=mvQWxR](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/gk131170_ge_kobegakuin_ac_jp/EvoqeKe5pIZBI-1T3nFzjN4B_Ij-ME5HYPowRYQszp8SSw?e=mvQWxR)

E-mail: takanasi@ge.kobegakuin.ac.jp

特別警報または暴風警報発令の場合の本科目の取り扱いについて 遠隔授業のため原則として授業を実施します。

ただし、非難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

ゼミナールは大学の典型的な授業形態で、一方的に講義を聴講するのではなく積極的に参加し、ひとりひとり発表し意見交換し、グループワークなども行いながら、互いに研鑽することがねらいである。学生のみなさんが、自発的に学び、積極的に意見し、旺盛な好奇心を培いながら、4年間かけて、ひとりひとりが自身の研究をまとめる能力を培っていくことをめざしている。

入門ゼミナール1では、はじめてのゼミということもあり、まずは、みなさんが人前で話すこと、人の話を聴いてコメントすること、質問することなどの力を高める機会とする。そのうえで、大学における学び方を、講義ノートのとり方、本の読み方、文献の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、そして、ディスカッションの仕方などについて、ゼミ仲間と一緒に修得してほしい。

このゼミナールは学部ディプロマ・ポリシーのうち、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度」と関係し、それを育成するものである。

#### < 到達目標 >

1) 大学における学び方として、必要な文献を探す、自分で文献で調べる、レポートをまとめるといった基礎的技法を修得する。

2) ゼミ発表のために、レジュメの作り方、パワーポイントの作り方、報告の仕方などを体験し、その基本を修得する。

3) ゼミ生同士が、ゼミ仲間として、協力し合いながら学習できる関係を作り上げる。

#### < 授業の進め方 >

講義、グループワーク、プレゼンテーション、個人指導を適宜行い授業を進める。

学生各自がお互いに意見を述べ、かつ他者の意見を聞くという態度、姿勢を重視する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習、レジュメ・レポート作成などを含めて、前期各回の合計で60時間の授業外学修を目安とする。

#### < 提出課題など >

(1) 主題ごとの課題

(2) レポートの提出を求める。

#### < 成績評価方法・基準 >

(1) 授業のテーマに関する課題を行って、それを評価する(75%)。

(2) 学期末レポートを作成する(25%)。

#### < テキスト >

特に使用しない。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 イン트로ダクション

授業の進め方についてオリエンテーションを行う。

自己紹介のやり方を話合う。何を話すかなど。

2から3人で一組になり、お互いを自己紹介する。その後、全員でシェアする。

##### 第2回 大学の学びについて

担当教員が、大学の学びについて、また、自らの学問と研究方法について概説する。その内容を受けて、受講生と質疑応答を行う。その際は全員が発言できるようにする。

##### 第3回 ノートを取る

大学の授業における「ノートを取ること」の意義について概説する。

##### 第4回 ノートを取る

1週間の授業中に、どのようにノートを取ったかについて、具体例を紹介しあう。

##### 第5回 図書館ツアー(予定)

図書館を見学し、図書館の使い方、文献の検索の仕方など、説明を受けるとともに、実際に体験する。

##### 第6回 グループ・ワーク

担当教員が用意する課題について、グループで話合ったり、調べたりして、まとめて発表する。

##### 第7回 グループ・ワーク

新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

##### 第8回 グループ・ワーク

新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

##### 第9回 薬物等の講演会(予定)

薬物や喫煙等について、研修を受ける。

##### 第10回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、図表なども作成、貼り付けしながら、レポートを作成する方法を学ぶ。

##### 第11回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、レポートを作成する。特に、文献を引用する際の留意点、参考文献の標記の仕方などを修得してほしい。

##### 第12回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントでスライドを作成し、発表する準備を行う。

#### 第13回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

#### 第14回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

#### 第15回 ゼミのふりかえりとまとめ

これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

松田 ヒロ子  
-----

#### < 授業の方法 >

演習

#### < 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPが示す、現代社会における諸課題の発見、把握及びその解決策の探求と実践能力を養うことを目指す。ゼミナールというのは、大学教育のいわば典型的な授業形態である。一方的に講義を聴講するのではなく、積極的に参加し、ひとりひとりの研究内容を発表し、意見交換し、時には、ワークショップなども行いながら、互いに研鑽を積むことがねらいである。本学部では、1年前期から4年後期まで全期間をつうじて、ゼミナールを開講し、学生のみなさんが、自発的に学び、積極的に意見交換し、旺盛な好奇心を培いながら、4年間かけて、ひとりひとりがオリジナルな研究をまとめる能力を培っていくことをめざしている。

とりわけ、入門ゼミナール1では、はじめてのゼミナールということもあり、まずは、学生のみなさんが、人前で話すこと、人の話を聴いてコメントすること、質問することなどの力を高める機会としたい。そのうえで、ゼミナールの基本として、大学における学び方を実際に体験しながら、講義ノートのとおり方、本の読み方、文献の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、そして、ディスカッションの仕方などについて、ゼミ仲間と一緒に習得してほしい。

#### < 到達目標 >

- (1) レジューメを作成してそれを使ってプレゼンテーションができる。
- (2) 大学の図書館で必要な文献を探し、それを使ってレポートを作成することができる。
- (3) レジューメやレポートを作成するときに適切に参考文献を引用し、参考文献リストを作成できる。

#### < 授業の進め方 >

グループワークや学生によるプレゼンテーションを適宜取り入れながらゼミナール形式で進める。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に発表の準備やレポート作成をすることが求められます。(予習、復習として合計2時間程度)

#### < 提出課題など >

課題へのフィードバックは主に授業中に行います。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業への参加状況(50%)、提出課題(50%)

#### < 授業計画 >

##### 第1回 イントロダクション

授業の進め方についてオリエンテーションを行う。

教員とゼミの学生同士で自己紹介する。

##### 第2回 図書館ツアー

図書館を見学し、図書館の使い方、文献の検索の仕方など、説明を受けるとともに、実際に体験する。

##### 第3回 自分の言葉で話す

大学では自分の言葉で話す力、自分の意見を述べる力が問われる。自分の言葉で人前で話す練習をする。

##### 第4回 自分の言葉で話す

大学では自分の言葉で話す力、自分の意見を述べる力が問われる。自分の言葉で人前で話す練習をする。

##### 第5回 文献の探し方、読み方

大学での学びに必要な文献や資料の探し方、読み方について学ぶ。

##### 第6回 文献の探し方、読み方

大学での学びに必要な文献や資料の探し方、読み方を学ぶ。

##### 第7回 危険薬物講演会

外部講師による、違法薬物、危険ドラッグ、飲酒などの危険性などについての講演会(現代社会学科、社会防災学科合同)。

##### 第8回 文章の書き方

授業中に実際に与えられた課題について文章を書き、どうすればより優れた文章を書くことができるのか学ぶ。

##### 第9回 文章の書き方

授業中に実際に与えられた課題について文章を書き、どうすればより優れた文章を書くことができるのか学ぶ。

##### 第10回 レポートの書き方

レポートを書く際の、テーマ設定と内容の構成の仕方について学ぶ。

##### 第11回 レポートの書き方

レポートを書く際の引用の仕方を学ぶ。

##### 第12回 レポートの書き方

レポートを書く際の参考文献リストの作り方を学ぶ。

##### 第13回 プレゼンテーション

それぞれが書いた小レポートを発表する。大学での研究発表の仕方について学ぶ。

## 第14回 プレゼンテーション

それぞれが書いた小レポートを発表する。大学での研究発表の仕方について学ぶ。

## 第15回 ゼミナールのふりかえりとまとめ

これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

梅川 由紀  
-----

### < 授業の方法 >

演習および実習形式で行います。

### < 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

ゼミナールとは大学の典型的な授業スタイルの一つです。受動的に講義を聴講するのではなく、自分の意見を発表し、ゼミ生全員でディスカッションをしながら、受講生の皆さん一人一人が主体的に動き、学ぶ場です。本授業は、こうしたゼミナールを行うための基礎的なスキルを取得することを目的とします。具体的には、大学の学びについて、文献検索について、レポートの書き方について、プレゼンテーションの仕方について学びます。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。より実践的なアドバイスを行うことが可能です。

### < 到達目標 >

1. データベースを活用し、適切な文献検索ができるようになること。
2. レジューメを作成できるようになること。
3. パワーポイントを使ってプレゼンテーションできるようになること。
4. ゼミ生同士親睦を深め、協力して課題を達成できるようになること。

### < 授業のキーワード >

大学の学び、文献検索、レポートの書き方、パワーポイント、プレゼンテーション、グループワーク

### < 授業の進め方 >

授業は演習および実習形式で行います。一部講義形式による説明の時間なども設けますが、基本的には各自・グループで調べてきたことを発表したり、クラス全体・グループでのディスカッションを行いながら、テーマに関

する理解を深めていきます。

### < 履修するにあたって >

ゼミナールの場合、授業へ出席することはもちろん、主体的な参加が重要です。積極的に授業に参加することのできる学生を歓迎します。

### < 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。授業後、次回授業までに文献調査、成果物作成、発表資料作成、レジューメ作成などの作業が発生します。

### < 提出課題など >

1. 文献検索実習の成果物を提出し、成果物の内容について発表してもらいます（グループワーク）。
2. プレゼンテーション実習の成果物を提出し、成果物の内容について発表してもらいます（グループワーク）。
3. レジューメを作成・提出し、レジューメの内容について発表してもらいます（個人ワーク）。
4. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

### < 成績評価方法・基準 >

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加）：30%、文献検索実習の成果物・発表：20%、プレゼンテーション実習の成果物・発表：20%、レジューメ作成・発表：30%で評価します。

### < テキスト >

なし。

### < 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

### < 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション

授業の進め方について説明します。また、ゼミ生で自己紹介を行います。

#### 第2回 大学の学びについて

大学生活の基本について講義します。具体的には、大学の授業、ノートのとり方、勉強方法、試験、学生生活などについて学びます。

#### 第3回 図書館ツアー / 文献検索の仕方

文献検索の方法について学びます。特にデータベースの使い方や図書館の活用方法について講義します。

#### 第4回 文献検索実習（グループワーク）

文献検索の知識を用いたグループワークを行います。

#### 第5回 文献検索実習（グループワーク）

前回到引き続き、文献検索の知識を用いたグループワークを行います。ディスカッションなどを行いながら、さらに内容を充実させていきます。

## 第6回 薬物講演会

薬物やその依存症に関する講演を聞きます。

## 第7回 レポートの書き方

レポートの書き方について学びます。レポートの書き方に関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表します。

## 第8回 レポートの書き方

前回に引き続き、レポートの書き方について学びます。前回とは異なる内容の、レポートの書き方に関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表します。

## 第9回 調査の仕方

調査の仕方について学びます。社会学的な調査に関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表します。

## 第10回 調査の仕方

前回に引き続き、調査の仕方について学びます。前回とは異なる内容の、社会学的な調査に関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表します。

## 第11回 プレゼンテーションの方法

パワーポイントを?いたプレゼンテーションについて学びます。

## 第12回 プレゼンテーションの準備 (グループワーク)

グループごとに課題に関する?献検索、考察を?い、その結果についてプレゼンテーションするための準備をします。

## 第13回 プレゼンテーションの準備 (グループワーク)

前回に引き続き、グループごとに課題に関する?献検索、考察を?い、その結果についてプレゼンテーションするための準備をします。ディスカッションなどを?いながら、さらに内容を充実させていきます。

## 第14回 プレゼンテーション実習 (グループワーク)

グループごとに次週のプレゼンテーションに向けて、最終確認を行います。

## 第15回 プレゼンテーション実習 (グループワーク)

グループごとにプレゼンテーションを行ってもらいます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

山本 努

-----  
<授業の方法>

・テキストを使って演習をおこないます。受講生の皆さ

んには指定されたテキストの精読、課題対応などが求められます。

・manaba掲示板、又は、yamamoto@css.kobegakuin.ac.jpにて連絡受け付けます。

<授業の目的>

DP(ディプロマ・ポリシー)の「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」に関連する授業です。社会学の初歩(基礎的概念や考え方)を学びます。具体的には、人間・文化・社会、集団・組織、家族、地域(都市・農村)、福祉、社会問題・社会病理、社会調査などの主題から、受講生の様子もみながら、授業を進めていきます。

<到達目標>

1.社会学や社会調査の基本的考え方を理解できるようになる。2.高校までの勉強とは違う主体的な勉強の仕方を身につける。

<授業のキーワード>

社会、文化、集団、制度、社会構造、行為、家族、地域、社会問題、社会調査

<授業の進め方>

テキストを使って授業をおこないます。テキストを必ず持参して授業に出席して下さい。

<履修するにあたって>

新聞などをよく読んで、現代の動きに関心を持つようにしてください。ゼミですから、学生の主体的参加が求められます。ゼミでの議論を楽しめるようになって下さい。

<授業時間外に必要な学修>

事前事後学習各2時間程度。授業で紹介した文献を少なくとも1冊は通読し、かつ、授業や教科書の正確な理解が必要です。

<提出課題など>

授業で指示します。必要に応じて、授業やmanabaでコメント致します。

<成績評価方法・基準>

・課題の提出(50%)。  
・授業中での質疑・報告(50%)。  
・欠席が多い場合は単位は認定しません。

<テキスト>

日本社会分析学会 監修『生活からみる社会のすがた(シリーズ:生活構造の社会学 1)』学文社

<p>&lt;参考図書&gt; 授業で指定します。</p>	<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回 現代社会を解読するために（社会学入門）</p>	<p>第10回 現代社会を解読するために（現代の重要問題は何か、考えてみる）</p>
<p>ガイダンス</p>	<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>
<p>第2回 現代社会を解読するために（社会学入門）</p>	<p>第11回 現代社会を解読するために（現代の重要問題は何か、考えてみる）</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>
<p>第3回 現代社会を解読するために（社会学入門）</p>	<p>第12回 現代社会を解読するために（現代の重要問題は何か、考えてみる）</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>
<p>第4回 現代社会を解読するために（社会学の研究成果を読む）</p>	<p>第13回 現代社会を解読するために（社会学入門できたらどうか？ 考えてみる）</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>
<p>第5回 現代社会を解読するために（社会学の研究成果を読む）</p>	<p>第14回 現代社会を解読するために（社会学入門できたらどうか？ 考えてみる）</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>
<p>第6回 現代社会を解読するために（社会学の研究成果を読む）</p>	<p>第15回 まとめ</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>質疑応答、今後の勉強のための文献案内</p>
<p>第7回 現代社会を解読するために（社会学の方法論的課題に触れる）</p>	<p>----- 2022年度 前期</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>2.0単位 入門ゼミナール 伊藤 亜都子</p>
<p>第8回 現代社会を解読するために（社会学の方法論的課題に触れる）</p>	<p>----- &lt;授業の方法&gt; 演習（対面授業）</p>
<p>社会分析の成果や方法を考える文献や素材をもちより討議する</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 本ゼミナールは、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、大学での学習についての基本的な知識と考え方、態度について、その基本について学</p>
<p>第9回 現代社会を解読するために（社会学の方法論的課題に触れる）</p>	

ぶことを目的とします。特に、本学部のアクティブラーニングやサービラーニングについての基本的な学習態度を身につけることを目指します。具体的には、大学生生活の基本となるキャンパスライフのスケジュール管理、授業の受け方、情報収集の方法、対人関係のあり方、組織における行動のあり方について、学生主体の演習形式で行います。さらに、夏期休暇における研究課題についての基礎的な調査方法や調査内容について学びます。

<到達目標>

全体として、本学科で学んでいくための基本的な態度、マナー、コミュニケーション能力などを身につけることを目指します。

<授業のキーワード>

基礎力、学習態度、コミュニケーション能力

<授業の進め方>

講義、グループ学習、研修形式などをとりまぜて行います。

<履修するにあたって>

毎回の学習、課題の積み重ねによって基礎的な知識と学習力を身につけます。学部や学科に関する重要な連絡事項も伝えますので、必ず毎回、参加してください。

<授業計画>

#### 第1回 インTRODクシヨン

はじめに半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。また、履修登録についての質問や確認を行いこれからの大学生生活に備えます。

#### 第2回 キャンパスライフ

有意義な大学生活を送るために、キャンパスの全体像を学びます。神戸学院大学の学生として、また社会人の一員としてのマナーや自分の身を守ること(薬物・飲酒・喫煙など)について学びます。さらに、自分の将来の姿を描き、仕事とは何か、将来どのような仕事をしたいかなどについて考え、それを実現するために、大学での学びと生活をどのように過ごすか考えます。テキストとして「大学生活入門2022」(配布)を使用します。

#### 第3回 学習の方法I

大学の授業では、高校までとは違い、自分できっちりとノートが取れなければ、試験やレポートのときに苦労することになります。ここではノートの取り方についての練習を行います。また、レポートの書き方についての基本を学びます。

#### 第4回 学習の方法

情報の収集方法について学びます。新聞やインターネット、テレビ、ラジオ、雑誌などからどのように情報を得るかについて、ワークショップ形式で行います。

#### 第5回 キャンパスライフ

大学生活を有意義なものにするために、薬物の正しい知識やその被害実態、予防などについて学びます。

#### 第6回 ワークショップ

まちづくりやボランティア、企業などさまざまな場面で意見を出し合っけてまとめていくときの手法「ワークショップ」のKJ法に挑戦します。仲間づくり、大学生生活について考えることにも役立てます。

#### 第7回 学習の方法

図書館ツアーを行います。学生にとって図書館をいかにうまく使いこなせるかが、大学での学習の要となります。実際に図書館に行き、内部を見学するとともにその使い方についてのガイダンスを受けます。

#### 第8回 グループ学習

グループごとにテーマを設定して調べる、まとめる、という作業をします。コミュニケーション能力、1つのテーマについて多面的に調べる力、まとめていく構成力などを身につける練習になります。

#### 第9回 グループ学習

グループごとに、まとめた成果をプレゼンします。それぞれの発表に対して、ディスカッションを行ってお互いの理解を深めます。プレゼン能力、聞いて理解する能力、議論を通じて深める方法を学びます。また、グループ学習は、夏季休暇の課題を個々人で取り組むための準備になります。

#### 第10回 救命の方法

私たちは、人間として市民として人を助けることが求められます。あなたは、家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていたら応急手当ができますか。ここでは、そのための知識を学びます。なお、これは、正式な神戸市の市民救命士講習です。

#### 第11回 救命の方法

実際に倒れた人を救うためには、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取り扱い方法などの応急処置を的確に行えなければなりません。そのための技術を学びます。なお、この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます。

#### 第12回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

#### 第13回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

#### 第14回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

#### 第15回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

佐伯 琢磨  
-----

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

本ゼミナールは、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、大学での学習についての基本的な知識と考え方、態度について、その基本について学ぶことを目的とします。特に、本学部のアクティブラーニングやサービスラーニングについての基本的な学習態度を身につけることを目指します。具体的には、大学生活の基本となるキャンパスライフのスケジュール管理、授業の受け方、情報収集の方法、対人関係のあり方、組織における行動のあり方について、学生主体の演習形式で行います。さらに、夏期休暇における研究課題についての基礎的な調査方法や調査内容について学びます。なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員です。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行います。

< 到達目標 >

全体として、本学科で学んでいくための基本的な態度、マナー、コミュニケーション能力などを身につけることを目指します。

< 授業のキーワード >

基礎力、学習態度、コミュニケーション能力

< 授業の進め方 >

講義、グループ学習、研修形式などをとりまぜて行います。

< 履修するにあたって >

毎回の学習、課題の積み重ねによって基礎的な知識と学習力を身につけます。学部や学科に関する重要な連絡事項も伝えますので、必ず毎回、参加してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で完了しなかったグループワークなどについて、次回の授業までに取り組んでもらうことがあります。

夏季休暇を中心にそれぞれが調査研究を行います。

< 提出課題など >

レポートなど

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

随時紹介します

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

はじめに半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。また、履修登録についての質問や確認を行いこれからの大学生活に備えます。

第2回 キャンパスライフ

有意義な大学生活を送るために、キャンパスの全体像を学びます。神戸学院大学の学生として、また社会人の一員としてのマナーや自分の身を守ること（薬物・飲酒・喫煙など）について学びます。さらに、自分の将来の姿を描き、仕事とは何か、将来どのような仕事をしたいかなどについて考え、それを実現するために、大学での学びと生活をどのように過ごすか考えます。テキストとして「大学生活入門2021」（配布）を使用します。

第3回 学習の方法

大学の授業では、高校までとは違い、自分できっちりとノートが取れなければ、試験やレポートのときに苦労することになります。ここではノートの取り方についての練習を行います。また、レポートの書き方についての基本を学びます。

第4回 学習の方法

情報の収集方法について学びます。新聞やインターネット、テレビ、ラジオ、雑誌などからどのように情報を得るかについて、ワークショップ形式で行います。

第5回 キャンパスライフ

大学生活を有意義なものにするために、薬物の正しい知識やその被害実態、予防などについて学びます。

第6回 大学生活を充実させるために

大学生活を充実させるために、担当教員が考えるコツやヒントを元に考えます。

第7回 学習の方法

図書館ツアーを行います。学生にとって図書館をいかにうまく使いこなせるかが、大学での学習の要となります。実際に図書館に行き、内部を見学するとともにその使い方についてのガイダンスを受けます。

第8回 大学生活を充実させるために

大学生活を充実させるために、担当教員が考えるコツやヒントを元に考えます。

第9回 大学生活を充実させるために

大学生生活を充実させるために、担当教員が考えるコツやヒントを元に考えます。

#### 第10回 救命の方法

私たちは、人間として市民として人を助けることが求められます。あなたは、家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていたら応急手当ができますか。ここでは、そのための知識を学びます。なお、これは、正式な神戸市の市民救命士講習です。

#### 第11回 救命の方法

実際に倒れた人を救うためには、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取り扱い方法などの応急処置を的確に行えなければなりません。そのための技術を学びます。なお、この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます。

#### 第12回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

#### 第13回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

#### 第14回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

#### 第15回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

舩木 伸江  
-----

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

< 主題 >

本ゼミナールは、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、大学での学習についての基本的な知識と考え方、態度について、その基本について学ぶことを目的とします。特に、本学部のアクティブラー

ニングやサービラーニングについての基本的な学習態度を身につけることを目指します。具体的には、大学生生活の基本となるキャンパスライフのスケジュール管理、授業の受け方、情報収集の方法、対人関係のあり方、組織における行動のあり方について、学生主体の演習形式で行います。さらに、夏期休暇における研究課題についての基礎的な調査方法や調査内容について学びます。

< 到達目標 >

< 目標 >

全体として、本学科で学んでいくための基本的な態度、マナー、コミュニケーション能力などを身につけることを目指します。

< 授業のキーワード >

基礎力、学習態度、コミュニケーション能力

< 授業の進め方 >

講義、グループ学習、研修形式などを取りまぜて行います。

< 履修するにあたって >

毎回の学習、課題の積み重ねによって基礎的な知識と学習力を身につけます。学部や学科に関する重要な連絡事項も伝えますので、必ず毎回、参加してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で完了しなかったグループワークなどについて、次回の授業までに取り組んでもらうことがあります。

夏季休暇を中心にそれぞれが調査研究を行います。

< 提出課題など >

レポートなど

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

随時紹介します

< 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション

はじめに半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。また、履修登録についての質問や確認を行いこれからの大学生生活に備えます。

#### 第2回 キャンパスライフ

有意義な大学生生活を送るために、キャンパスの全体像を学びます。神戸学院大学の学生として、また社会人の一員としてのマナーや自分の身を守ること（薬物・飲酒・喫煙など）について学びます。さらに、自分の将来の姿を描き、仕事とは何か、将来どのような仕事をしたいかなどについて考え、それを実現するために、大学での学びと生活をどのように過ごすか考えます。テキストとして「大学生活入門2022」（配布）を使用します。

#### 第3回 学習の方法I

大学の授業では、高校までとは違い、自分できっちりとノートが取れなければ、試験やレポートのときに苦労することになります。ここではノートの取り方についての練習を行います。また、レポートの書き方についての基本を学びます。

#### 第4回 学習の方法

情報の収集方法について学びます。新聞やインターネット、テレビ、ラジオ、雑誌などからどのように情報を得るかについて、ワークショップ形式で行います。

#### 第5回 キャンパスライフ

大学生活を有意義なものにするために、薬物の正しい知識やその被害実態、予防などについて学びます。

#### 第6回 防災講演会 1

防災の現場で活躍される方からお話を伺います

#### 第7回 学習の方法

図書館ツアーを行います。学生にとって図書館をいかにうまく使いこなせるかが、大学での学習の要となります。実際に図書館に行き、内部を見学するとともにその使い方についてのガイダンスを受けます。

#### 第8回 防災講演会 2

災害で被災をされた方からお話を伺います

#### 第9回 防災教育を学ぼう

防災教育教材（ゲームなど）を体験して防災についての学びを深めます。

#### 第10回 救命の方法

私たちは、人間として市民として人を助けることが求められます。あなたは、家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていたら応急手当ができますか。ここでは、そのための知識を学びます。なお、これは、正式な神戸市の市民救命士講習です。

#### 第11回 救命の方法

実際に倒れた人を救うためには、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取り扱い方法などの応急処置を的確に行えなければなりません。そのための技術を学びます。なお、この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます。

#### 第12回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

#### 第13回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

#### 第14回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のア

ドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

#### 第15回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

松山 雅洋  
-----

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

本ゼミナールは、現代社会学部のDP1（知識を習得する）に関連する科目であり、大学での学習についての基本的な知識と考え方、態度について、その基本について学ぶことを目的とします。特に、本学部のアクティブラーニングやサービスマーケティングについての基本的な学習態度を身につけることを目指します。具体的には、大学生生活の基本となるキャンパスライフのスケジュール管理、授業の受け方、情報収集の方法、対人関係のあり方、組織における行動のあり方について、学生主体の演習形式で行います。さらに、夏期休暇における研究課題についての基礎的な調査方法や調査内容について学びます。

< 到達目標 >

全体として、本学科で学んでいくための基本的な態度、マナー、コミュニケーション能力などを身につけることを目指します。

< 授業のキーワード >

基礎力、学習態度、コミュニケーション能力

< 授業の進め方 >

講義、グループ学習、研修形式などをとりまぜて行います。

< 履修するにあたって >

毎回の学習、課題の積み重ねによって基礎的な知識と学習力を身につけます。学部や学科に関する重要な連絡事項も伝えますので、必ず毎回、参加してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で完了しなかったグループワークなどについて、次回の授業までに取り組んでもらうことがあります。夏季休暇を中心にそれぞれが調査研究を行います。

< 提出課題など >

レポートなど

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

## < 授業計画 >

### 第1回 インTRODクシヨソ

はじめに半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。また、履修登録についての質問や確認を行いこれからの大学生活に備えます。

### 第2回 キャンパスライフ

有意義な大学生活を送るために、キャンパスの全体像を学びます。神戸学院大学の学生として、また社会人の一員としてのマナーや自分の身を守ること(薬物・飲酒・喫煙など)について学びます。さらに、自分の将来の姿を描き、仕事とは何か、将来どのような仕事をしたいかなどについて考え、それを実現するために、大学での学びと生活をどのように過ごすか考えます。テキストとして「大学生活入門2022」(配布)を使用します。

### 第3回 学習の方法I

大学の授業では、高校までとは違い、自分できっちりとノートが取れなければ、試験やレポートのときに苦労することになります。ここではノートの取り方についての練習を行います。また、レポートの書き方についての基本を学びます。

### 第4回 学習の方法

情報の収集方法について学びます。新聞やインターネット、テレビ、ラジオ、雑誌などからどのように情報を得るかについて、ワークショップ形式で行います。

### 第5回 キャンパスライフ

大学生活を有意義なものにするために、薬物の正しい知識やその被害実態、予防などについて学びます。

### 第6回 講話

ゲストスピーカーを招いて防災をあらゆる角度から見る視野を養います。

### 第7回 学習の方法

図書館ツアーを行います。学生にとって図書館をいかにうまく使いこなせるかが、大学での学習の要となります。実際に図書館に行き、内部を見学するとともにその使い方についてのガイダンスを受けます。

### 第8回 講話

ゲストスピーカーを招いて防災をあらゆる角度から見る視野を養います。

### 第9回 講話

ゲストスピーカーを招いて防災をあらゆる角度から見る視野を養います。

### 第10回 救命の方法

私たちは、人間として市民として人を助けることが求められます。あなたは、家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていたら応急手当ができますか。ここでは、そのための知識を学びます。なお、これは、正式な神戸市の市民救命士講習です。

### 第11回 救命の方法

実際に倒れた人を救うためには、胸骨圧迫や人口呼吸、

AEDの取り扱い方法などの応急処置を的確に行えなければなりません。そのための技術を学びます。なお、この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます。

### 第12回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

### 第13回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

### 第14回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

### 第15回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

前林 清和  
-----

## < 授業の方法 >

演習

接続用URL : <https://zoom.us/j/93660278726?pwd=RkVwZ3ZlZUhUMTh0YUdCdGR5TXc0dz09>

ミーティングID: 936 6027 8726

パスワード: 000418

\* 上記は、第1回のみ有効、2回目以降は、manabaで呈示します。

資料等もmanabaで配布します。

質問等: [maebayashi@css.kobegakuin.ac.jp](mailto:maebayashi@css.kobegakuin.ac.jp)

警報発令時に休講とする場合

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの以下の場所に記載されているので、ご確認ください。URL:<https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>

#### < 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2(現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探索し、自らその解決策を実践することができる)を身に付ける

大学での学習についての基本的な知識と考え方、態度について、その基本について学ぶことを目的とします。特に、本学部のアクティブラーニングやサービ斯拉ーニングについての基本的な学習態度を身につけることを目指します。具体的には、大学生活の基本となるキャンパスライフのスケジュール管理、授業の受け方、情報収集の方法、対人関係のあり方、組織における行動のあり方について、学生主体の演習形式で行います。さらに、夏期休暇における研究課題についての基礎的な調査方法や調査内容について学びます。

#### < 到達目標 >

全体として、本学科で学んでいくための基本的な態度、マナー、コミュニケーション能力などを身につけることを目指します。

#### < 授業の進め方 >

プレゼンテーションや消防学校でのフィールドワーク、調査などの方法を駆使して進めます。

#### < 履修するにあたって >

積極的に取り組んでいきましょう。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習、事後学習をそれぞれ1時間程度行ってください。また、課題に対しては、提出までに完成させること。

#### < 提出課題など >

レポート

#### < 成績評価方法・基準 >

プレゼンテーション50%、レポート50%

#### < 授業計画 >

##### 第1回 インTRODクシヨN

はじめに半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。また、履修登録についての質問や確認を行いこれからの大学生活に備えます。

##### 第2回 キャンパスライフI

有意義な大学生活を送るために、キャンパスの全体像を学びます。神戸学院大学の学生として、また社会人の一員としてのマナーや自分の身を守ること(薬物・飲酒・喫煙など)について学びます。さらに、自分の将来の姿を描き、仕事とは何か、将来どのような仕事をしたいかなどについて考え、それを実現するために、大学での学びと生活をどのように過ごすか考えます。テキストとして「大学生活入門2022」(配布)を使用します。

##### 第3回 学習の方法

大学の授業では、高校までとは違い、自分できっちりとノートが取れなければ、試験やレポートのときに苦労することになります。ここではノートの取り方についての

練習を行います。また、レポートの書き方についての基本を学びます。

##### 第4回 学習の方法

情報の収集方法について学びます。新聞やインターネット、テレビ、ラジオ、雑誌などからどのように情報を得るかについて、ワークショップ形式で行います。

##### 第5回 キャンパスライフ

大学生活を有意義なものにするために、薬物の正しい知識やその被害実態、予防などについて学びます。

##### 第6回 特別講義

外部講師の講演

##### 第7回 学習の方法

図書館ツアーを行います。学生にとって図書館をいかにうまく使いこなせるかが、大学での学習の要となります。実際に図書館に行き、内部を見学するとともにその使い方についてのガイダンスを受けます。

##### 第8回 特別講義

外部講師の講演

##### 第9回 特別講義

外部講師の講演

##### 第10回 救命の方法

私たちは、人間として市民として人を助けることが求められます。あなたは、家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていたら応急手当ができますか。ここでは、そのための知識を学びます。なお、これは、正式な神戸市の市民救命士講習です。

##### 第11回 救命の方法

実際に倒れた人を救うためには、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取り扱い方法などの応急処置を的確に行えなければなりません。そのための技術を学びます。なお、この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます。

##### 第12回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

##### 第13回 調査研究の方法

大学では、授業を受けるだけでなく、積極的に自分でテーマを決めて調査したり研究することが求められます。ここでは、調査や研究のためのテーマ設定の仕方や方法について、その基本を学びます。

##### 第14回 調査内容の発表

集団活動を行うための基本的な行動様式を学科全員で学びます。神戸市消防学校にて実施します。

##### 第15回 調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、原則として母校において、防災や社会貢献に関する調査を行います。ここでは、その調査テーマや方法について、各自が発表し、教員のアドバイスを受けることで、実施に向けての準備を行います。

す。  
第16回  
第17回  
第18回  
第19回

-----  
2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール 【再履修クラス】

和田 まり子  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習（対面）

（資料等がある場合はmanabaに載せます）

< 授業の目的 >

ゼミナールというのは、大学教育のいわば典型的な授業形態である。一方的に講義を聴講するのではなく、積極的に参加し、ひとりひとりの研究内容を発表し、意見交換し、時には、ワークショップなども行いながら、互いに研鑽を積むことがねらいである。本学部では、1年前期から4年後期まで全期間をつうじて、ゼミナールを開講し、学生のみなさんが、自発的に学び、積極的に意見交換し、旺盛な好奇心を培いながら、4年間かけて、ひとりひとりがオリジナルな研究をまとめる能力を培っていくことをめざしている。

とりわけ、現代社会学科専門教育科目、専門基礎科目に位置づけられている「入門ゼミナール1」では、まずは、学生のみなさんが、人前で話すこと、人の話を聴いてコメントすること、質問することなどの力を高める機会としたい。そのうえで、ゼミナールの基本として、大学における学び方を実際に体験しながら、講義ノートのとり方、本の読み方、文献の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、そして、ディスカッションの仕方などについて、ゼミ仲間と一緒に習得することを目的とする。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

< 到達目標 >

（1）ゼミ生同士が、ゼミ仲間として、楽しく協力し合いながら学習できる関係づくりをめざす。

（2）大学における学び方として、必要な文献を探す、自分で文献で調べる、レポートをまとめるといった調べ学習のための基礎的技法を習得する。

（3）ゼミ発表のために、レジュメの作り方、パワーポイントの作り方、報告の仕方などを体験しながら基礎を習得する。

ゼミナールのメンバーが、共に協力しながら、現代社会の課題を見つけ、その解決に向けた探究心を抱く。

< 授業のキーワード >

持続可能な、成長する力

< 授業の進め方 >

新聞資料や、データなどを採り上げた演習を中心に行う。入学して初めて学問の扉をあけた履修生のみなさんが大学生活をスタートするにあたって、クラスのメンバーの状況や興味関心を考慮しながら進めたい。そのため、授業計画等若干の修正・変更を行なうこともある。

< 履修するにあたって >

「最高学府で学ぶとは」ということを、意識して授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞やTVのニュースについて関心を持ち、自分の考えをまとめる習慣をつける。（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

（1）主題ごとに課題の提出を求める。（manabaにアップ）

（2）期末レポートの提出を求める。（manabaにアップ）

manabaでコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

（1）毎回、授業のテーマに関する課題を行って、それを評価する（50％）。

（2）ショートレポート2回（20％）。

（3）達成度判断のために、学期末レポートを作成する（30％）。

< テキスト >

資料をmanabaで配布

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の進め方についてオリエンテーションを行う。

自己紹介のやり方を話合う。何を話すかなど。

2から3人で一組になり、お互いを自己紹介する。その後、全員でシェアする。

第2回 大学の学びについて

担当教員が、大学の学びについて、また、自らの学問と研究方法について概説する。その内容を受けて、受講生と質疑応答を行う。必ず、全員が発言できるようにする。

第3回 ノートを取る

大学の授業における「ノートを取ること」の意義について概説する。学生が、実際に、20分程度の模擬授業を受けて、ノートを取るワークを行う。

第4回 ノートを取る

1週間の授業中に、どのようにノートを取ったかについて、具体例を紹介し合いながら、ノートの取り方についてアドバイスを行う。20分程度の模擬授業を受けて、ノートを取るワークを行う。

第5回 図書館ツアー（予定）

図書館を見学し、図書館の使い方、文献の検索の仕方など、説明を受けるとともに、実際に体験する。

#### 第6回 グループ・ワーク

担当教員が用意する課題について、グループで話合ったり、調べたりして、まとめて発表する。

#### 第7回 グループ・ワーク

前回とは異なるグループで、新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

#### 第8回 グループ・ワーク

前回とは異なるグループで、新たな課題について、話合ったり、調べたりしてまとめた結果を発表する。

#### 第9回 薬物等の講演会（予定）

薬物や喫煙等について、研修を受ける。

#### 第10回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、図表なども作成、貼り付けしながら、レポートをまとめる技法を学ぶ。（情報処理室にて）

#### 第11回 レポートの書き方

担当教員が用意する課題について、レポートを作成する。特に、文献を引用する際の留意点、参考文献の標記の仕方などを習得してほしい。（情報処理室にて）

#### 第12回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントでスライドを作成し、発表する準備を行う。

#### 第13回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

#### 第14回 プレゼンテーション

現代社会に関する課題について、パワーポイントのスライドを作成し、発表し合う。

#### 第15回 ゼミナールのふりかえりとまとめ

これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。学期末の課題についてアナウンスをおこなう。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

岡崎 宏樹

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

入門ゼミナール1に引き続き、現代社会学部における学びの仕方について、グループワークを交えながら修得する。本演習では、人間と社会の関わりに焦点を当てたライフヒストリー/ライフストーリーの研究を主題に、文献調査から発表・討論に至る一連の学習を実践する。新聞記事を批判的に読解したり、聞き取り調査の質問項目を作成したり、ネット上に存在する社会統計の調査を行うことなどを通じて、2年次以降の学習の基礎力を培う。

この授業は、実践的教育から構成される授業科目である。現代社会学科のディプロマ・ポリシー1・2に深く関連する。

< 到達目標 >

みずからの力で問題・課題を発見し、関連する情報を収集・分析・編集できる。プレゼンテーションや討論をおこなう基礎的能力を修得する。

< 授業のキーワード >

グループワーク、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

グループワークを中心に演習を進める。課題によっては個人による学習、資料作成、考察、報告を求める。

< 履修するにあたって >

演習は休まず出席・参加するのが原則です。積極的に主体的な取り組みを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後に各2時間程度。地域研究やレポートの作成など。

< 提出課題など >

発表のレジュメや期末レポートの提出が求められます。レジュメとレポートの評価については授業内に講評し、フィードバックをおこないます。

< 成績評価方法・基準 >

授業内の取り組み（資料作成・発表・討論）80%、レポート20%

< テキスト >

使用しません。

< 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション/ガイダンス

この演習の主題・目標・内容・スケジュールなどを詳しく説明し、相互の情報交換のためのグループワークを実施する。

#### 第2回 課題設定と情報検索

(1)グループで地域研究に関する調査課題を設定する。(2)課題に関連した文献資料を収集する。

#### 第3回 事前学習

各グループで、研究対象地域の情報を課題に即して整理し、事前学習を深める。

#### 第4回 地域フィールドワーク

地域研究をさらに深める。各グループの課題に即した調査を実施する。

#### 第5回 成果発表

文献研究から得られた知見を発表し、レポートを作成する。

#### 第6回 グループワーク(1)

(1)テーマに関する文献資料の収集する。(2)収集した文献の内容をまとめる。(3)パワーポイント資料とレジュメを作成する。

#### 第7回 グループワーク(2)

(1)テーマに関する文献資料の収集する。(2)収集した文

献の内容をまとめる。(3)パワーポイント資料とレジュームを作成する。

#### 第8回 プレゼンテーションの準備(1)

(1)グループでテーマを設定し、質問項目を作成する。(2)聞き取り調査を実施する。(3)調査結果について話し合う。

#### 第9回 プレゼンテーションの準備(2)

(1)プレゼンテーションの本番に備えた準備をおこなう。(2)用意した文章を読み上げるのではなく、演習参加者に語りかけるように話すことができるよう、話し方のトレーニングをおこなう。

#### 第10回 プレゼンテーション(1)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

#### 第11回 プレゼンテーション(2)

(1)各グループでパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2)報告内容にかんしてコメントする方法を実践的に学ぶ。

#### 第12回 統計データ実習

インターネット上に存在する社会統計をどのように活用するかを実習を通じて学ぶ。統計データの検索、ダウンロード、パワーポイント資料への活用方法を習得する。

#### 第13回 聞き取り調査(1)

(1)グループでテーマを設定し、質問項目を作成する。(2)聞き取り調査を実施する。(3)調査結果について話し合う。

#### 第14回 聞き取り調査(2)

(1)グループでテーマを設定し、質問項目を作成する。(2)聞き取り調査を実施する。(3)調査結果について話し合う。

#### 第15回 全体の振り返りと研究指導

半年間のゼミを振り返りのレポートを作成する。また各自の興味・関心にそくした研究を進めるには何が課題かを指導する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

菊川 裕幸  
-----

< 授業の方法 >

演習、講義

< 授業の目的 >

本講義では、現代社会学部のDP(1)現代社会の多面的、総合的な理解について、地域社会や行政の現場での取り組みを知り、それぞれの課題について学び、その解決方法や実践ができるような主体的な行動のための基礎知識や技術を習得することを目的とする。この授業では学外の実務家講師を招聘し、地域社会や行政で活躍されてい

る人から実践的な話を伺い、意見交換を行う、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

現代社会において必要な地域社会や行政の知識や技術を習得する。ここでいう地域社会とは、郊外や中山間地等の地域であり、農村部を含む地域での活動方法や、その活動を支える人材や、施策を構築する行政職員との講義によって具体的な知識を得るとともに現状を知ることができる(知識)。また、得られた知見をもとに、課題を抽出し、その解決に向けた方法を考案し、プレゼンテーションすることができるようになる(技能)。これらの基礎的な知識、技術を活かして、ゼミナール以降の学習を深化させる。

< 授業のキーワード >

地域活性化、中山間地域、SDGs、まちづくり、バックキャスト

< 授業の進め方 >

地域や行政で活躍する外部実務家を必要に応じて招聘し、現場の実践的な知見を得るとともに、講義での学びを活かし、最終的にはテーマに沿ってグループディスカッションを行い、発表する。

< 履修するにあたって >

多くの演習やプレゼンテーションの機会があるので、主体的に学び、積極的に参加できる姿勢が必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポート作成、文献調査などの事前、事後学習に各回1時間程度が必要。

< 提出課題など >

ショートレポート、パワーポイント等の成果物の提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

授業時の意見交換などの発言、外部講師とのコミュニケーションの積極性など(20%)、ショートレポートの評価(30%)、グループディスカッションおよび発表内容(30%)、最終レポート(20%)の割合で、総合的に評価する。

< 授業計画 >

#### 第1回 ガイダンス、自己紹介

講義の目的、習得を目指すスキル等の説明、教員の自己紹介を行う。

#### 第2回 地域活性化とまちづくり

地域活性化やまちづくりなどが盛んに言われているが、その具体的な内容や政策について解説する。また、理想の地域づくりとはなにか?バックキャストなどの技法を取り入れて解説する。(事後学習として、30分程度の復習)

#### 第3回 まちの幸福論

コミュニティデザインについて考え、そのまちに適合した具体的な取り組み事例やステークホルダーとのかわり方について学ぶ。

#### 第4回 政策提案の実際

兵庫県内の中山間地でユニークな政策を打ち出し、実践している自治体の事例を紹介する。本時の学びや生まれた疑問を第5回の外部講師と共有する。(事前学習として中山間地の定義について約30分の予習)

#### 第5回 政策提案の実際

中山間地での勤務経験のある行政職員を招聘し、政策提案についての手続きやその実際、そして提案後の評価等について学ぶ。(事後学習として2時間程度で提出用のショートレポートを作成する)

#### 第6回 地域活動の実際

中山間地での地域活動の実績のある外部の実務家を招聘しての意見交換や具体的な活動事例の紹介を聞き、グループワークにつなげる。

#### 第7回 地域活動の実際

中山間地での地域活動の実績のある外部の実務家を招聘しての意見交換や具体的な活動事例の紹介を聞き、グループワークにつなげる。(講師との調整がつかない場合は、教員による事例紹介を行うことがある)

#### 第8回 大学生ができる地域活性化とは

大学生が地域づくりに参画するためにはどのような考え方や地域調整が必要であるかを学ぶ。(事前事後学習として、各地での若者の地域づくりの先行事例を30分程度で調査する)

#### 第9回 大学生ができる地域活性化とは

丹波篠山市を舞台に、地域づくりに関わっている高校生や大学生の事例を紹介する。それをもとに、自分たちが何ができるかを考える。

#### 第10回 プレゼンテーションの方法

グループワークに向けて、説得力のあるプレゼンテーションの方法やパワーポイントの作成のポイントについて解説する。

#### 第11回 グループワーク

グループに分かれて、地域課題や今後取り組んでみたい活動などをディスカッションし、発表用のパワーポイントをまとめる。

#### 第12回 グループワーク

第11回に引き続き、まとめる作業や先行事例調査などを行い、発表内容をブラッシュアップする。教員は適宜机間巡視し、意見交換や助言を行う。

#### 第13回 グループワーク

第12回に引き続き、発表の準備を行う。原稿の作成やリハーサルも実施する。また、発表時の質疑応答への対応等も検討する。

#### 第14回 グループ発表会

グループワークの成果を発表する。発表内容だけでなく、その後の質疑応答への回答、他グループへの意見のフィードバック等も評価の対象とする。

#### 第15回 講義のまとめと振り返り

これまでの講義やグループ発表を踏まえて、与えられた

テーマについて論じる。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

都村 聞人  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定に関する基本方針)に規定された「(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)現代社会における諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践」を目指している。

本科目は、専門基礎科目(ゼミナール)の導入に位置づけられ、大学において必要な学習の基礎を身につけることを目的としている。

入門ゼミナールに続き、現代社会学部における学びの方法について、グループワークを交えながら修得する。新聞記事を活用して時事問題に関心を持つ、量的調査に必須の社会統計やアンケート調査への関心を高める、聞き取り調査など質的調査の重要性を理解する、学内を中心にして実際にアンケート調査や聞き取り調査を体験するなどの活動を行う。これらの分析結果の報告を学生相互で行うことによって、それぞれの調査手法の知識及びそれぞれの意義と限界について学び、2年次以降の学習の基礎を身につける。

<到達目標>

A4サイズ2枚程度の「レジュメ」を作成することができる。

PowerPoint等を利用し、10枚程度のスライドを作成し、発表できる。

演習参加者の理解を促すような効果的なプレゼンテーションができる。

新聞記事の検索、統計データのダウンロードなど、簡単なデータベースの利用ができる。

簡単なアンケートの質問項目の作成等の経験を通じ、その長所・短所を説明できる。

<授業のキーワード>

社会問題、官庁統計、社会調査、アンケート、グループワーク

<授業の進め方>

前半は個人発表にもとづいたディスカッション、後半はグループワークとなります。

積極的に発言するようにしましょう。

<履修するにあたって>

入門ゼミナールで学んだことを生かしましょう。

個人発表、グループ発表の際には、遅刻・欠席しないように気を付けてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業時間外に、インターネット、図書館、データベース等を利用し、資料を検索する機会が多いですので、積極的に取り組んでください(目安として1時間程度)。

事後学習として、個人発表、レポート、グループワークなどに関しては、配布資料をよく読んで、各自作業をしてください(目安として1時間程度)。

< 提出課題など >

新聞記事・雑誌記事を用いた社会問題の考察  
(フィードバック：発表もしくはレポートに対してコメントを行います。)

各府省庁発行の白書資料を利用した考察  
(フィードバック：発表もしくはレポートに対してコメントを行います。)

アンケート調査のグループ発表  
(フィードバック：発表に対してコメントを行います。)

< 成績評価方法・基準 >

新聞記事・雑誌記事を用いた社会問題の考察：30%

各府省庁発行の白書資料を利用した考察：30%

アンケート調査のグループ発表：30%

各回のゼミへの取り組み：10%

< テキスト >

演習時にプリントを配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

簡単な自己紹介のあと、演習の進め方について説明する。

第2回 新聞記事を用いた社会問題の発表と議論(1)

新聞記事から身近な社会問題を見つけ、レジюмеを作成し、議論してみよう(第1グループ)。

第3回 新聞記事を用いた社会問題の発表と議論(2)

新聞記事から身近な社会問題を見つけ、レジюмеを作成し、議論してみよう(第2グループ)。

第4回

新聞記事を用いた社会問題の発表と議論(3)

新聞記事から身近な社会問題を見つけ、レジюмеを作成し、議論してみよう(第3グループ)。

第5回 雑誌記事を用いた社会問題の発表と議論(1)

雑誌記事から身近な社会問題を見つけ、レジюмеを作成し、議論してみよう(第4グループ)。

第6回 雑誌記事を用いた社会問題の発表と議論(2)

雑誌記事から身近な社会問題を見つけ、レジюмеを作成し、議論してみよう(第5グループ)。

第7回 簡単な社会統計の探索と利用(1)

各府省庁発行の白書から興味のある資料を選び、読み取り・活用を行う(第6グループ)。

第8回 簡単な社会統計の探索と利用(2)

各府省庁発行の白書から興味のある資料を選び、読み取り・活用を行う(第7グループ)。

第9回 簡単なアンケート調査の作成(1)

グループ別に簡単なアンケートの調査項目を検討してみよう。

第10回 簡単なアンケート調査の作成(2)

グループ別に簡単なアンケートの質問項目を検討してみよう。

第11回 簡単なアンケート調査の集計(1)

アンケート調査のデータ入力をしてみよう。

第12回 簡単なアンケート調査の集計(2)

アンケート調査の集計と分析をしてみよう。

第13回 アンケート調査結果の発表資料の作成

アンケート調査の分析結果などをPowerPointのスライドにまとめ、発表の準備を行おう。

第14回 アンケート調査結果の発表(1)

アンケート調査結果のグループ別発表を行おう(第1グループ)。

第15回 アンケート調査結果の発表(2)

アンケート調査結果のグループ別発表を行おう(第2グループ)。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

日高 謙一  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

入門ゼミナール1に引き続き、現代社会学部における学

び方について、グループワークを交えながら修得する。DP2の思考力・判断力・表現力等の能力の獲得を目的としている。ワークショップを通じて失敗することへの恐怖や不安を取り除き、対話の創造性に気づき、また創造性を刺激する問いかける技術や能力を育てる。

<到達目標>

対話を通じて物事に対する自分自身のフレームに気づくことができるようになる。

思考を刺激し、創造性を刺激する問いかけができるようになる。

論文の課題を見つけるための資料の読み方ができるようになる。

<授業の進め方>

小グループでの調査、議論、発表が中心となる。ブックレポートのみは個人ごとの準備、発表である。

<授業時間外に必要な学修>

各回の振り返り、テキストの事前学習、ブックレポートの作成を中心に30時間の授業時間外の学修が必要である。

<提出課題など>

ブックレポートを課す。どのようなブックレポートを求めているかは第6回授業で解説する。その趣旨に沿ったレポートである必要がある。

全体講評は授業内で行い、個別の評価はmanabaで行う。

<成績評価方法・基準>

授業内の取り組み（発表、討論、提出課題）80%、論文・レポート20%

<テキスト>

戸田山和久（2012）、『論文の教室 レポートから卒論まで』、NHK出版

<授業計画>

第1回 創造性を解放させる場づくり

授業の進め方を説明し、さらに新しいクラスで安心して発言できるような場づくりを数回かけて行ってゆく。

第2回 創造性を解放させる場づくり

共同作業を通じて、「今、ここ」の自分の人との関わり方を振り返る。

第3回 創造性を解放させる場づくり

対話から生まれる新たな意味、対話の創造性を体験的に学ぶ。

第4回 うまく行かないコミュニケーション

コミュニケーションがうまく行かない体験をし、互いの前提を問う意義を考える。

第5回 失敗を楽しむ

うまく行かないことをあえて称え、失敗を楽しむことを体験する。

第6回 まずいレポート

テキストにもとづき、「論文」と言われる文章はどのような文章か学び、自身がこれまで書いてきたかもしれない「まずい」レポートを振り返る。

第7回 インタビューの方法

人から話を引き出すためには、適切な問いかけが必要である。ワークショップを通じて問いかける練習をする。

第8回 ハラスメント講習会

専門家を招き、大学生活で経験するかもしれないハラスメントと、加害者にも被害者にもならないための知識を学ぶ。

第9回 問いかける技術

新たな視点に気づかせたり、これまでの固定観念を気づかせるような問いかけ方を学び、練習する。

第10回 論文を書く準備

テキストにもとづき、論文を書くための準備、資料の読み方を学ぶ。

第11回 ストーリーを作る

チームで協同して物語を創作することを通じて、対話から生まれる新たな意味に気づく。

第12回 論文の骨格をつくる

テキストにもとづき、論文の骨格（アウトライン）をつくる練習をする。

第13回 作りながら考える

限られた材料と時間の制約の中で、グループでの対話を通じて意味を探しながら、それを具体的な形に仕上げる練習をする。

第14回 人生を学ぶ

ゲストスピーカーを招き、今の仕事や取り組みを始めた人生の契機や体験を聞き、学ぶ。

第15回 ブックレポートを発表する

テキストに紹介されている論文を書くための読み方にもとづき、自ら選んだ本をレポートする。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

前田 拓也  
-----

<授業の方法>

演習（対面授業）

<授業の目的>

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に従い、（1）現代社会の多面的、総合的な理解、（2）諸課題の発見・把握及びその解決策を探求することを目指す。

また、この科目は、専門基礎科目（ゼミナール）の導入に位置づけられ、大学において必要な学習の基礎を身につけることを目的とした、実践的教育から構成される授業科目である。

このゼミでは、「入門ゼミナールⅠ」につづいて、現代社会学部における学びの方法について、ク

ワークを交えながら修得する。

新聞記事などを用いて、特定の「社会問題」あるいは「時事問題」を取り上げ、それぞれの「問題」にかかわる基本的な情報を集めたり、「問題」を構成する前提となっている知識や社会的文脈などを理解することを目指す。また、これらを達成するための情報探索の方法や、議論の方法や作法などを学ぶ。

#### <到達目標>

- ・データベース上の新聞・雑誌記事の検索や、統計データのダウンロードを行い、それらに基づいて資料を作成することができる。
- ・A4で2枚程度の「レジュメ」を作成できる。
- ・パワーポイントを用いて、スライド10枚程度のプレゼンテーションを、一定の時間内でおこなうことができる。

#### <授業のキーワード>

社会学 / 社会問題 / プレゼンテーション / 文献検索 / データベース検索 / レポート作成

#### <授業の進め方>

数人(4?5人)グループワークにもとづいた発表とディスカッション、およびレポートの作成をおこなう。

#### <履修するにあたって>

ゼミは授業を一方向的に「聴く」ためにあるのではなく、受講生全員で「議論をおこなう」ためにあります。積極的な発言を期待します。

#### <授業時間外に必要な学修>

- ・事前学習：演習の対象となるテーマについて、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくことで一定のイメージをつかんでおくこと(目安：1時間程度)。
- ・事後学習：ノートなどの資料を再確認し、講義内で紹介した各種統計資料や文献を積極的に読むこと(目安：1時間程度)。

#### <提出課題など>

- ・受講者それぞれが自由にテーマを選択したうえで、レジュメおよびパワーポイントを用いた発表資料を作成し、それをもとにしたプレゼンテーションをおこなう(授業中にコメントし、フィードバックする)。
- ・発表資料作成の過程で得ることのできた知識をレポートとしてまとめ、提出する(manabaでコメントし、フィードバックする)。

#### <成績評価方法・基準>

授業中の質疑・応答 20%、プレゼンテーション 40%、期末レポート 40%

#### <テキスト>

担当者が作成した資料を用いる。

#### <参考図書>

授業中に適宜紹介する。

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

授業の進めかたについてあらためて説明すると同時に、受講者の自己紹介などをおこなう。

##### 第2回 ディスカッションのトレーニング 1

複数の小グループに別れ、教員が指定した「社会問題」に関する資料をもとに、グループ内で議論する。

##### 第3回 ディスカッションのトレーニング 2

教員が指定した「社会問題」に関する資料をもとに、グループ内で議論した内容を、発表資料としてまとめる。

##### 第4回 ディスカッションのトレーニング 3

「社会問題」について、グループ内で議論した内容をそれぞれ発表する。

##### 第5回 プレゼンテーションの基礎 1

レジュメを用いたプレゼンテーションの技法について学ぶ。

##### 第6回 プレゼンテーションの基礎 2

PowerPoint を用いたプレゼンテーションの技法について学ぶ。

##### 第7回 データベース利用の方法

新聞・雑誌記事データベースの利用方法を、PC教室を利用して実習形式で学ぶ。

##### 第8回 雑誌・新聞記事を用いた議論 1

データベースで検索、発見した記事をもとに発表資料をまとめる。

##### 第9回 雑誌・新聞記事を用いた議論 2

データベースで検索、発見した記事をもとに発表、議論する。

##### 第10回 雑誌・新聞記事を用いた議論 3

データベースで検索、発見した記事をもとにした発表内容について、受講生同士で論評し合う。

##### 第11回 個人でのプレゼンテーション 1

ここまでで学んだことをもとに、提示されたリストの中から選んだ特定の「社会問題」について発表する。

##### 第12回 個人でのプレゼンテーション 2

提示されたリストの中から選んだ特定の「社会問題」について発表する。

##### 第13回 個人でのプレゼンテーション 3

各受講者による個々のプレゼン内容について、受講生同士で論評し合う。

##### 第14回 レポートの書きかた

レポート、ないしアカデミックな論文の書きかたの基礎について学ぶ。

##### 第15回 授業全体のまとめ

これまでの授業内容の要点を振り返ると同時に、次年度からの学びとの関連を明確にする。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

李 洪章

-----  
< 授業の方法 >

演習・実習

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解、および諸課題の発見と解決策の探求を目指すものである。

入門ゼミナール に引き続き、現代社会学部における学びの仕方について、グループワークを交えながら修得する。新聞記事から興味のあるものを選び、スライドを用いて報告し、ディスカッションを行うことで、他の学生と問題関心を共有する。また、質的調査の手法について学んだうえで、実際に学内で聞き取り調査を行い、レジユメを用いて報告することで、社会学的な考え方への関心を深め、質的調査法の意義と限界について学ぶ。

なお、本授業は、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

- ・ 分かりやすいレジユメを作成することができる。
- ・ パワーポイントを作成することができる。
- ・ プレゼンで分かりやすく丁寧な報告をすることができる。
- ・ ディスカッションに積極的に参加することができる。
- ・ 社会学的な考え方や社会調査法の基礎を身につけることができる。

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークを取り入れる。

プレゼンテーション、ディスカッションを通じたアクティブ・ラーニングを実施する。

< 履修するにあたって >

グループワークを行うには、授業中の出席（遅刻・早退しないこと）はもちろんのこと、授業時間外のグループメンバーとの自主的な学習や調査が必要になります。大学での学びは受講者ひとりひとりの積極的な姿勢なくしては成立しません。それを実感することも、この入門ゼミナールが持つ意義のひとつです。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習： 予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習： 配布資料や調査の内容を確認し、次回ゼミで

の課題を自ら発見すること（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

・ フィールドワーク参加記

（manaba上で講評することでフィードバックする）

< 成績評価方法・基準 >

授業中の課題 60%、調査報告レポート 40%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

入門ゼミナール で何を学んだのか、自己紹介とともに発表する

第2回 「流行」について調べる

最初の調査テーマは「流行」とする。ディスカッションを通じて紹介したい流行をひとつ選び、まずはその流行の概要について調査する。

第3回 テーマに沿った調査

調査対象の流行の背景や要因、影響について調べを進める。

第4回 発表資料の作成

ノートタイプのホワイトボードを用いてプレゼン資料を作成する。取り上げる流行を知らない人も理解できるような資料の作成を心がける。

第5回 プレゼンテーション

各班の発表と質疑応答を行うことでテーマへの理解を深める。

第6回 「誰でもトイレ」のマークを考える

第二の課題として、従来の男女に明確に区分されたトイレ、あるいは「身障者用トイレ」を使用しづらい人々も気軽に利用できる「誰でもトイレ」のマークを考えることを通じて、「排除」について学んでいく。

第7回 テーマに沿った調査

従来のトイレからはどのような人々が排除されているのか、トイレマークの代替案としてどのようなものが考えられるのか、そもそも「誰でも」というコンセプト自体実現可能なのか、などについて考察を深める。

第8回 パワーポイントの作成

前回の考察内容を整理し、パワーポイント資料を作成する。

第9回 プレゼンテーション

各班の発表と質疑応答を行うことでテーマへの理解を深める。

第10回 国際都市・神戸を知る

第三の課題として、外国人が多く暮らす街である神戸をフィールドに、出自の異なる人々との共生に向けた課題と可能性について考察する。

第11回 事前学習

学外実習に向け、神戸に暮らす外国人の形成史と現状について、事前学習をおこなう。

第12回 学外実習

外国人集住地域であり、震災の被害が大きかった長田区や、震災以降多文化共生に向けた取り組みをおこなう「

たかとりコミュニティーセンター」での実習をおこなう。  
第13回 発表資料の作成  
実習で撮影した写真や、フィールドノートにもとづいて、「参加記」を作成する。

第14回 プレゼンテーション  
完成度の高い発表資料を数点選び、プレゼンをすることで、各自の調査内容を共有する。

第15回 振り返り  
調査の意義や、他者に情報を伝えることの難しさ、「排除」や「国際社会」などといった社会学的テーマについての振り返りをおこなう。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

梅川 由紀  
-----

< 授業の方法 >

演習および実習形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は専門基幹科目の一つです。ディプロマ・ポリシー（現代社会学科）の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「現代社会とペット」という共通テーマをきっかけ、授業の前半はゼミ生全員で同じ文献を読み、レジюмеを作成し、ディスカッションのスキルを磨きます。授業の後半は、入門ゼミナールの総まとめとして、グループごとに「現代社会とペット」に関連したテーマを設定し、調査・考察を行います。そして、その結果をパワーポイントを用いてプレゼンテーションしてもらいます。入門ゼミナール に引き続き、ゼミナールを行うための基礎的なスキルを取得することを目的とします。

なお本授業の担当者は、経営コンサルタントとして、調査、資料作成、プレゼンテーションを専門的に担当した、実務経験のある教員です。より実践的なアドバイスを行うことが可能です。

< 到達目標 >

1. レジюмеを作成できるようになること。
2. 建設的なディスカッションができるようになること。
3. データベースを活用し、適切な文献検索ができるようになること。
4. パワーポイントを使ってプレゼンテーションできるようになること。
5. ゼミ生同士親睦を深め、協力して課題を達成できるようになること。

< 授業のキーワード >

現代社会とペット、文献講読、レジюме作成、ディスカ

ッション、グループワーク、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

授業は演習および実習形式で行います。一部講義形式による説明の時間なども設けますが、基本的には各自・グループで調べてきたことを発表したり、クラス全体・グループでのディスカッションを行いながら、テーマに関する理解を深めていきます。

< 履修するにあたって >

ゼミナールの場合、授業へ出席することはもちろん、主体的な参加が重要です。積極的に授業に参加することのできる学生を歓迎します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。授業後、次回授業までに文献調査、成果物作成、発表資料作成、レジюме作成などの作業が発生します。

< 提出課題など >

1. レジюмеを作成・提出し、レジюмеの内容について発表してもらいます（個人ワーク）。
2. 実習の成果物を提出し、成果物の内容について発表してもらいます（グループワーク）。
3. これらのフィードバックは全て授業内に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加（授業内での発言、ディスカッションなどへの積極的参加）：30%、レジюме作成・発表：40%、実習の成果物・発表：30%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の進め方、共通テーマやその主旨について説明します。また、ゼミ生同士の自己紹介を行います。

第2回 入門ゼミナール の復習と文献の読み方

入門ゼミナール のポイントについて復習するとともに、文献を読む際のポイントについて講義します。

第3回 文献講読

現代社会とペットに関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジюмеを作成し、内容について発表してもらいます。

第4回 文献講読

前回とは異なる内容の、現代社会とペットに関する文献

をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表してもらいます。

#### 第5回 ディスカッション

現代社会とペットに関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表したのち、クラス全体でディスカッションを行います。

#### 第6回 ディスカッション

前回とは異なる内容の、現代社会とペットに関する文献をゼミ生全員で読みます。あらかじめ指名されたゼミ生はレジュメを作成し、内容について発表したのち、クラス全体でディスカッションを行います。

#### 第7回 DV講演会

DVに関する講演会を聞きます。

#### 第8回 文献検索の仕方

文献検索の仕方について講義します。

#### 第9回 文献検索実習 (グループワーク)

文献検索に関する実習を行います。

#### 第10回 文献検索実習 (グループワーク)

前回に引き続き文献検索に関する実習を行い、理解を深めます。

#### 第11回 調査実習 (グループワーク)

グループごとに「現代社会とペット」に関するテーマを設定し、調査・分析を行います。

#### 第12回 調査実習 (グループワーク)

前回に引き続き調査・分析を行い、内容を深めていきます。

#### 第13回 パワーポイント実習 (グループワーク)

調査実習で明らかにした内容を整理し、パワーポイントにまとめます。

#### 第14回 パワーポイント実習 (グループワーク)

前回に引き続き、パワーポイントの作成を行います。

#### 第15回 プレゼンテーション実習 (グループワーク)

グループごとに調査実習、パワーポイント実習の成果を発表します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

江田 英里香  
-----

< 授業の方法 >

演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

本科目はDP (知識を習得する) に該当する。

本ゼミナールでは、入門ゼミナール で学んだ大学での学びの基本をもとに、具体的な事例を通じて「学び」を実感していきます。自分の興味を興味として終わらせずに、文献を調べたり、調査をしたりして考えるという研究の態度を学ぶとともに、グループで活動したり、討論

する能力を身につけます。なお、入門ゼミナール で出された夏休み課題に基づくプレゼンテーションを全員が行うことで、プレゼンテーションの基礎を身につけていきます。さらに、学科全員で夏休み期間中に神戸市消防学校において「集団活動トレーニング」と「基本的災害対応トレーニング」を実施し、防災や社会貢献活動のリーダーの素養を養います。

< 到達目標 >

自主的に、調査、研究、実践などができるようになる基礎を学び、2年次からの専門的なゼミでしっかり学習できるための準備を万全にする。

< 授業のキーワード >

グループ研究、レポート作成、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

個人やグループに対して課題に取り組み、その準備や調査、そして発表と評価をすることを中心とします。

一人ひとりが自主的に取り組むことを重視します。

< 履修するにあたって >

入門ゼミナール は、2年次生からの専門的なゼミのための準備段階です。自ら研究したり、発表したり、評価する力をつけ、専門的な知識を学ぶ態度を身につけるために積極的に取り組みましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

プレゼン準備、グループ発表のための準備など。

< 提出課題など >

レポート。レポートについては、添削の上、授業内で解説、返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

随時紹介します

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

9月から半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。

#### 第2回 レポート作成方法

大学生としてのレポート作成方法について学びます。

#### 第3回 プレトレーニング

神戸市消防局における実習のためのプレトレーニングを行います。

#### 第4回 連絡の方法について

大学生としてのメールや電話での連絡の仕方について、学びます。

#### 第5回 プレトレーニング

神戸市消防局における実習のためのプレトレーニングを行います。

#### 第6回 集団活動トレーニング

集団活動を行うための基本的な行動様式を学科全員で学びます。夏休み期間中に神戸市消防学校にて実施します。

#### 第7回 プレゼンテーションの方法

パワーポイントを使ったプレゼンテーションの方法について学びます。次回の授業から各自が夏休み休暇課題についてプレゼンテーションできるように、その知識と技法について学びます。

#### 第8回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

#### 第9回 ハラスメント講習会

学部合同で外部講師を招きハラスメントに関する講演会を行います。

#### 第10回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

#### 第11回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

#### 第12回 現代社会学会講演会(学部合同開催)

現代社会における様々な課題解決に取り組む方のおはなしをお伺いします。

#### 第13回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

#### 第14回 スーパープレゼンテーション

各クラスの代表者が、学生全員の前でプレゼンテーションを行います。聴衆する学生は、それぞれの発表の評価を行います。

#### 第15回 ふりかえり

全体の振り返りと2年次にむけての展望

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

安富 信

-----  
<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

本科目はDP1(知識を習得する)に該当する。

本ゼミナールでは、入門ゼミナールで学んだ大学での学びの基本をもとに、具体的な事例を通じて「学び」を実感していきます。自分の興味を興味として終わらせずに、文献を調べたり、調査をしたりして考えるという研究の態度を学ぶとともに、グループで活動したり、討論する能力を身につけます。また、テーマを決め、プレゼンテーションの基礎を身につけていきます。さらに学科全員で夏保期間中に神戸市消防学校において「集団活動トレーニング」を実施し、防災や社会貢献活動のリーダーの素養を養います。

<到達目標>

- 1) プレゼンテーション能力が向上する
- 2) 自分で情報を集める力を身に付ける
- 3) 規則を守り、自律的に活動する能力と態度を身に付ける

<授業のキーワード>

グループ研究、レポート作成、プレゼンテーション

<授業の進め方>

個人やグループに対して課題に取り組み、その準備や調査、そして発表と評価することを中心とします。一人一人が自主的に取り組むことを重視します。

<履修するにあたって>

入門ゼミナールは、専門的なゼミのための準備段階です。自ら研究したり、発表したり、評価する力をつけ、専門的な知識を学ぶ態度を身につけるために積極的に取り組みましょう。

<授業時間外に必要な学修>

プレゼンテーションの準備として、テーマに関する情報収集法と情報の整理法を資料手帳などを活用してプレゼン準備に備えてください。また、プレゼンテーションの発表練習を自主的に行ってください。

<提出課題など>

レポート

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

<テキスト>

特になし

<授業計画>

第1回 インTRODクシヨン

9月から半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。

第2回 入門ゼミ の考え方

入門ゼミでの学びと、授業での考え方を説明します。

第3回 プレトレーニング1

神戸市消防局における実習のためのプレトレーニングを行います。

第4回 安富ゼミでの学び

新聞を読んだり、ニュースを理解する方法を学ぶ。

第5回 プレトレーニング2

神戸市消防局における実習のためのプレトレーニングを行います。

第6回 集団活動トレーニング

集団活動を行うための基本的な行動様式を学科全員で学びます。夏休み期間中に神戸市消防学校にて実施します。

第7回 プレゼンテーションの方法

パワーポイントを使ったプレゼンテーションの方法について学びます。次回の授業から各自が夏休み休暇課題についてプレゼンテーションできるように、その知識と技法を学びます。

第8回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は発表者の評価や意見交換をします。

第9回 ハラスメント講習会

学部合同で外部講師を招き、ハラスメントに関する講演会を行います。

第10回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は発表者の評価や意見交換をします。

第11回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は発表者の評価や意見交換をします。

第12回 現代社会学会講演会(学部合同開催)

現代社会における様々な課題解決に取り組む方のお話を聞きます。

第13回 プレゼンテーション

各自が、夏休みに行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は発表者の評価や意見交換をします。

第14回 スーパープレゼンテーション大会

各クラスの代表者が、学生全員の前でプレゼンテーションを行います。聴衆する学生は、それぞれの発表の評価を行います。

第15回 入門ゼミの総括

各自の今後の学習の方向性と学習課題について整理する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

中田 敬司  
-----

<授業の方法>

対面授業・講義・実習及びオンライン、資料配布(オンラインのIDおよびパスワードはmanabaに掲載)

別途計画により実施する。初回の授業にて計画を提示する。初回授業はZOOMでの授業、IDおよびパスワードはmanabaに掲載

keiji-n@css.kobegakuin.ac.jp

<授業の目的>

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。ゼミナールでは、入門ゼミナールで学んだ内容を基本に、具体的なコミュニケーション能力向上をめざし自らの体験や事例を発表する。入門ゼミナールで出された夏休み課題に基づくプレゼンテーションを全員が行うことで、プレゼンテーションの基礎を身につけ、さらに、学科全員で神戸市消防学校において「集団活動トレーニング」と「基本的災

害対応トレーニング」を実施する。さらにディベートの基礎を身に付け、防災や社会貢献活動のリーダーの素養を養う。

<到達目標>

文献を調べたり、調査することによる研究方法を身に付け、グループ活動、討論やプレゼンテーションの基礎を身につける。

<授業のキーワード>

プレゼンテーション、討論、エビデンス、論拠

<授業の進め方>

夏期休暇課題に基づくプレゼンテーションを行い、さらにグループ活動・討論へと進んでいく。

<履修するにあたって>

本ゼミでは、主張に対して、証拠と論拠に基づくことの重要性の理解を持ってもらう。

<授業時間外に必要な学修>

講義の内容について、予習・復習にそれぞれ1時間程度。合計2時間。

<提出課題など>

レポート・報告書及び<sup>o</sup>ディベート立論案作成。

<成績評価方法・基準>

課題レポート80% 課題発表 20%

<テキスト>

その都度、提示したり、紹介する。

<参考図書>

特になし

<授業計画>

#### 第1回 集団活動トレーニング

集団活動を行うための基本的な行動様式を学科全員で学ぶ。授業期間中に神戸市消防学校に体験入校する。

#### 第2回 基本的災害対応トレーニング

災害時の適切な対応能力を学科全員で学ぶ。授業期間中に第1回と2日続きで神戸市消防学校で実施する。

#### 第3回 イン트로ダクション

9月から半年間の授業の内容や進め方を学ぶ。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行う。

#### 第4回 プレゼンテーションの方法

パワーポイントを使ったプレゼンテーションの方法について学ぶ。次回から各自が夏期休暇課題についてプレゼンテーションできるように、その知識と技法を学ぶ。

#### 第5回 プレゼンテーション

各自が夏期休暇中に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていく。また聴く側の学生は、発表者の評価や意見交換などを実施する。

#### 第6回 プレゼンテーション

各自が夏期休暇中に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていく。また聴く側の学生は、発表者の評価や意見交換などを実施する。

#### 第7回 プレゼンテーション

各自が夏期休暇中に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていく。また聴く側の学生は、発表者の評価や意見交換などを実施する。

#### 第8回 プレゼンテーション

各自が夏期休暇中に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていく。また聴く側の学生は、発表者の評価や意見交換などを実施する。

#### 第9回 スーパープレゼンテーション

各クラスの代表者が、学生全員の前でプレゼンテーションを行う。聴衆する学生は、それぞれの発表の評価を実施する。

#### 第10回 ディベートの基礎知識

ディベート基礎知識、トールミングモデル、また大会に必要な論題に対する、立論構成を学ぶ。

#### 第11回 反対尋問と反駁

反対尋問の実施の仕方、反駁の方法と議論接合のポイントについて理解する。

#### 第12回 エビデンス(証拠)と論拠

エビデンス(証拠)の収集の仕方、評価、カート<sup>o</sup>の作成方法を理解する。

証拠や論拠を明らかにし試合に望む準備をする。

#### 第13回 試合準備

立論見直し、エビデンス収集、チームスパリングを実施し試合に備える。

#### 第14回 試合

ミニディベート、巴戦を実施しディベートを体験する。

#### 第15回 試合

表4グループでディベート試合を2試合実施する。他の学生はジャッジとなり試合の評価方法について学ぶ。

#### 第16回 学んだ内容の整理と確認

全体の振り返りと2年次生にむけての展望

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

水本 有香  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本ゼミナールでは、入門ゼミナールで学んだ大学での学びの基本をもとに、具体的な事例を通じて「学び」を実感していきます。自分の興味を興味として終わらせずに、文献を調べたり、調査をしたりして考えるという研究の態度を学ぶとともに、グループで活動したり、討論する能力を身につけます。なお、入門ゼミナールで出された夏休み課題に基づくプレゼンテーションを全員が行うことで、プレゼンテーションの基礎を身につけてい

きます。本科目はDP（知識を習得する）に該当する。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室、国際復興支援プラットフォーム（IRP）で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

<到達目標>

・文献を調べたり、調査をしたりして考えるという研究の態度を学びます。

・グループで活動したり、討論する能力を身につけます。

1. 防災の基礎的用語を理解し、社会における防災のあり方を知る（知識）

2. 防災の調査・プレゼンテーションを行う（技能）

3. 防災教育の実践により、授業力を養う（技能）

<授業の進め方>

少人数のグループワークや調べ学習を取り入れます。

<履修するにあたって>

入門ゼミナールは、2年次生からの専門的なゼミのための準備段階です。自ら研究したり、発表したり、評価する力をつけ、専門的な知識を学ぶ態度を身につけるために積極的に取り組みましょう。

<授業時間外に必要な学修>

プレゼンテーション準備、グループ発表のための準備など。事前・事後学習にそれぞれ1時間程度。

<提出課題など>

レポート。レポートについては、添削の上、授業内で解説、返却する。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

<参考図書>

随時紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

はじめに半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。また、履修登録についての質問や確認を行いこれからの大学生活に備えます。

第2回 【遠隔】調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、行った防災やボランティアに関する調査についてクラスで発表します。

第3回 【対面】学習の方法

図書館ツアーを行います。学生にとって図書館をいかにうまく使いこなせるかが、大学での学習の要となります。実際に図書館に行き、内部を見学します。

第4回 【遠隔】調査内容の発表

各自が夏期休暇を利用して、行った防災やボランティアに関する調査についてクラスで発表します。

第5回 【対面】プレトレーニング

秋季に行う神戸市消防局における実習のためのプレトレーニングを行います。

第6回 【遠隔週ですが対面】集団活動トレーニング  
集団活動を行うための基本的な行動様式を学科全員で学びます。神戸市消防学校にて実施します。

第7回 【対面】プレゼンテーション

各自が夏期休暇を利用して、行った防災やボランティアに関する調査についてクラスで発表します。

第8回 【遠隔】ハラスメント講習会

学部合同で外部講師を招きハラスメントに関する講演会を行います。

第9回 【対面】プレゼンテーション

各自が、行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

第10回 【遠隔】救命の方法

私たちは、人間として市民として人を助けることが求められます。あなたは、家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていたら応急手当ができますか。ここでは、そのための知識を学びます。なお、これは、正式な神戸市の市民救命士講習です。

第11回 【対面】救命の方法

実際に倒れた人を救うためには、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取扱方法などの応急処置を的確に行えなければなりません。そのための技術を学びます。なお、この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます。

第12回 【遠隔】アセスメントテスト

学修成果の可視化のための、外部アセスメントテストを実施します。

第13回 【対面】プレゼンテーションの方法

(学科合同開催)

各クラスの代表者が、学年全員の前でプレゼンテーションを行います。聴衆する学生は、それぞれの発表の評価を行います。

第14回 【遠隔】現代社会学会講演会(学部合同開催)

現代社会における様々な課題解決に取り組む方のおはなしをお伺いします。(11月13日5限の振り替え)

第15回 【対面】まとめ

全体の振り返りと2年次生にむけての展望

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール

佐伯 琢磨  
-----

<授業の方法>

ゼミナールを通して、大学生活に必要な知識を習得する。

【連絡先(メールアドレス、LMS)】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、

あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー2-2(現代社会における防災に係る社会的問題を学際かつ科学的に把握するとともに、解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる)を身に付ける。

本ゼミナールでは、入門ゼミナール で学んだ大学での学びの基本をもとに、具体的な事例を通じて「学び」を実感していきます。自分の興味を興味として終わらせずに、文献を調べたり、調査をしたりして考えるという研究の態度を学ぶとともに、グループで活動したり、討論する能力を身につけます。なお、入門ゼミナール で出された夏休み課題に基づくプレゼンテーションを全員が行うことで、プレゼンテーションの基礎を身につけていきます。さらに、学科全員で夏休み期間中に神戸市消防学校において「集団活動トレーニング」と「基本的災害対応トレーニング」を実施し、防災や社会貢献活動のリーダーの素養を養います。なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員です。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行います。

< 到達目標 >

入門ゼミナール で出された夏休み課題に基づくプレゼンテーションを全員が行うことで、プレゼンテーションの基礎を身につけていきます。さらに、学科全員で夏休み期間中に神戸市消防学校において「集団活動トレーニング」と「基本的災害対応トレーニング」を実施し、防災や社会貢献活動のリーダーの素養を養います。

< 授業の進め方 >

入門ゼミナール は、2年次生からの専門的なゼミのための準備段階です。自ら研究したり、発表したり、評価する力をつけ、専門的な知識を学ぶ態度を身につけるために積極的に取り組みましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習したことは、今後の基礎となるため、しっかり復習し、体得すること。

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み態度50%、プレゼンテーション20%、レポート30%

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

随時紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

9月から半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。

第2回 プレゼンテーションの方法

パワーポイントを使ったプレゼンテーションの方法について学びます。次回の授業から各自が夏休み休暇課題についてプレゼンテーションできるように、その知識と技法について学びます。

第3回 プレゼンテーション

各自が、夏期に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

第4回 プレゼンテーション

各自が、夏期に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

第5回 プレゼンテーション

各自が、夏期に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

第6回 プレゼンテーション

各自が、夏期に行った調査・研究についてまとめたものをプレゼンテーションしていきます。また、聴衆する学生は、発表者の評価や意見交換などを行います。

第7回 スーパープレゼンテーション

各クラスの代表者が、学生全員の前でプレゼンテーションを行います。聴衆する学生は、それぞれの発表の評価を行います。

第8回 ハラスメント講習会

学部合同で外部講師を招きハラスメントに関する講演会を行います。

第9回 レポートを書くには

レポートとは何か、基本的な書式等について講義する。

第10回 レポートを書くには

新聞や本など、自分が読んだものについてレポートを書いてみる。

第11回 レポートを書くには

「レポートを書くには」で書いたレポートに対し、講評する。

第12回 より良いレポートを書くには

「レポートを書くには」での反省点を活かし、再度自分が読んだものについてレポートを書いてみる。

第13回 より良いレポートを書くには

「より良いレポートを書くには」で書いたレポートに対し、講評する。

第14回 より良いレポートを書くには

振り返り、まとめ。

第15回 まとめ

全体の振り返りと2年次生にむけての展望

-----  
2022年度 後期

2.0単位

入門ゼミナール 【再履修クラス】

今井 愛子  
-----

< 授業の方法 >

「講義」、「実習」、「実技」

< 授業の目的 >

・この科目は現代社会学部での学びの基礎となる思考力  
・判断力・表現力の習得を目的とします。  
・グループワークの在り方、進め方を学ぶことを通して、  
主体性を持って多様な人びとと共同  
して学ぶ態度の習得を目的とします。  
・本講座を担当する教員(今井愛子)は航空業界での約2  
0年の経験を活かし、実践的教育から構成  
される授業科目である。

< 到達目標 >

- 1) プレゼンテーション能力が向上する
- 2) 自分で情報を集める力を身に付ける
- 3) 規則を守り、自律的に活動する能力と態度を身に付  
ける

< 授業のキーワード >

地域と企業、地域とつながり、消防学校、情報

< 授業の進め方 >

前半は夏期休暇課題に基づくプレゼンテーションを行い、  
後半は情報の収集の仕方を学びます。

< 履修するにあたって >

入門ゼミナール は、専門的なゼミのための準備段階で  
す。自ら研究したり、発表したり、評価する力をつけ、  
専門的な知識を学ぶ態度を身につけるために積極的に取  
り組みましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

プレゼンテーションの準備として、テーマに関する情報  
収集法と情報の整理法を資料手帳などを活用してプレ  
ゼン準備に備えてください。また、プレゼンテーショ  
ンの発表練習を自主的に行ってください。

< 提出課題など >

ふりかえりレポート、プレゼンテーション資料、発表、  
報告書

< 成績評価方法・基準 >

ふりかえりレポート、授業の取り組み態度50%、プレゼ  
ンテーション30%、レポート20%

< テキスト >

特になし

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

9月から半年間の授業の内容や進め方を学びます。次に  
同じクラスの仲間を知るために自己紹介などを行います。

第2回 プレゼンテーションの方法

パワーポイントを使ったプレゼンテーションの方法につ  
いて学ぶ。学科ごとに専門分野に関するテーマを決め、  
そのテーマについてプレゼンテーションできるように、  
知識と技法を学びます。

第3回 プレゼンテーションの企画発表準備

各自のプレゼンテーマに関する調査・研究についての発  
表内容を企画し、企画発表の準備をします。

第4回 プレゼンテーションの企画発表準備

各自のプレゼンテーマに関する調査・研究についての発  
表について企画を発表します。

第5回 プレゼンテーションの基礎練習1

各自のプレゼンテーマに関する調査・研究についてまと  
めたものをプレゼンテーションしていく。また聴く側の  
学生は、発表者の評価や意見交換などを実施します。

第6回 プレゼンテーションの基礎練習2

各自のプレゼンテーマに関する調査・研究についてまと  
めたものをプレゼンテーションしていく。また聴く側の  
学生は、発表者の評価や意見交換などを実施します。

第7回 プレゼンテーションのスキルアップ1

各自のプレゼンテーマに関する調査・研究についてまと  
めたものを基本を踏まえたうえで、自分なりの工夫を加  
えプレゼンテーションしていく。また聴く側の学生は、  
発表者の評価や意見交換などを実施します。

第8回 プレゼンテーションのスキルアップ2

各自のプレゼンテーマに関する調査・研究についてまと  
めたものを基本を踏まえたうえで、自分なりの工夫を加  
えプレゼンテーションしていく。また聴く側の学生は、  
発表者の評価や意見交換などを実施します。

第9回 プレゼンテーション1の準備：概要決定

「防災」、「社会貢献」、「国際協力」、「地域と企業  
」、「地域の綱書き」などをテーマとして、新聞記事な  
どを利用し、防災の基礎と地域社会についてのプレゼン  
テーションを準備します。第9回はプレゼンテーショ  
ンの構成・パワーポイントのアウトラインを決定します。

第10回 プレゼンテーション1の準備：パワーポイント  
作成  
プレゼンテーションの内容に沿って、パワーポイントと  
台本の作成をします。

第11回 プレゼンテーション1発表

プレゼンテーション1の発表練習(リハーサル)後、発表  
を実施します。

第12回 プレゼンテーション2：概要決定

「防災」、「社会貢献」、「国際協力」、「地域と企業  
」、「地域の綱書き」などをテーマとして、新聞記事な  
どを利用し、防災の基礎と地域社会についてプレゼン  
テーション1で学んだことを活かし、プレゼンテーショ  
ン2では聴衆の行動につながるプレゼンテーションを実施  
します。

第13回 プレゼンテーション2：パワーポイント作成  
プレゼンテーションの内容に沿って、パワーポイントと

台本の作成をします。

#### 第14回 プレゼンテーション2：発表

プレゼンテーション2の発表練習(リハーサル)後、発表を実施します。

#### 第15回 授業の振り返りと報告書の作成

各自の今後の学習の方向性と学習課題について整理します。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ネットワーク論

宮田 尚子  
-----

#### < 授業の方法 >

講義、演習

#### < 授業の目的 >

本科目は、現代社会学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本？針）に示す「現代社会における？びとの暮らし、仕事と産業、および？化の形成に係る諸事象を多？的、総合的に理解」するうえで有効な知識と考え方を？につけることを目指す。

本科目では、ネットワーク論の理論や考え方の枠組みを使って、人びとの行動や態度（価値観や社会意識を含む）を検討する際のアプローチ？法や、分析？法を学ぶ。また、？献の内容にもとづき、？分？？や周りの状況にあてはめて、同じ理論で説明できる部分と説明できない部分を検討しながら、ネットワーク論の知識や考え方を実践的に活？できるようになることを目的とする。

講義でテキストの内容について解説するとともに、グループでの共同作業やディスカッションをつうじて学生同士で意見や考え方を共有することで、テキストの内容の理解を深める。また、リアクションペーパーや課題レポートをつうじて、教科書の内容と自分の身のまわりの事例の共通点・相違点を文章で説明する練習をおこなう。

なお、この授業は、意識調査を実施するシンクタンクで約4年の実務経験のある教員が担当し、定量的な社会調査データを用いた？びとの価値観や社会意識のよみとり方や、社会意識や態度が社会的属性や社会環境によって異なることについても解説する。

#### < 到達目標 >

(1) ネットワーク論の基本的な理論や概念、アプローチ？法について書かれた学術的な文献を、批判的に読み解くことができる。

(2) ネットワーク論の基本的な理論や概念、アプローチ？法を用いて、「現代社会における？びとの暮らし、仕事と産業、および？化の形成」に関する現象を、批判的に検討することができる。

(3) ネットワーク論の基本的な理論や概念、アプローチ？法を用いて、「現代社会における？びとの暮らし、仕事と産業、および？化の形成」に関する身近な例を、

教科書の事例とは別に、2つ以上説明できる。

#### < 授業のキーワード >

パーソナルネットワーク、中心性、同類性、埋め込み

#### < 授業の進め方 >

(1) 基本的に講義中心で進めるが、グループワークをしたり受講生同士で議論し意見をまとめたり発表したりする機会を設ける。

(2) 受講生は毎回、課題レポートやリアクションペーパーをつうじて、授業でとりあげた？献で提？されている概念や理論、分析結果と同様の理屈で説明できる事例や、そのように考える理由・根拠など、授業内容に関連した課題を作成する。課題は、指定した期限までに提出する。

(3) 受講生が提出した課題は、授業のなかで紹介する。そうすることで、受講生が提示した事例を受講生同士で共有し、内容の理解を深める手がかりとする。

#### < 履修するにあたって >

社会学概論Ⅰ・Ⅱで扱われている内容を理解していることが望ましい。

ゼミなどで、？献の内容を要約しレジュメを作成して報告した経験をもつことが望ましい。？献の内容を要約し、レジュメを作成して報告した経験がない場合は、アカデミック・スキルに関するテキストを読むなどして、事前に勉強しておくこと。

毎回授業後に、課題レポートかリアクションペーパーを課す。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

##### (1) 事前学習：

授業計画の各回で指示された？献（教科書）の章を読むこと。そのうえで、学術用語の意味などを調べたり、内容に関してわからない点を整理し、授業の際に質問できるよう準備したりすること。（目安として1時間）

##### (2) 事後学習：

各回でとりあげた章を再読し、そのなかで提示されている概念や理論、分析結果と同様の理屈で説明できる身近な事例を探し、そのように考える理由・根拠も含めてレポートを作成する。たとえば、自分自身や家族や友？、知り合いにあてはめたり、新聞やテレビ、インターネットの記事で見聞きした社会問題と比較したりして、レポートを作成し、応？しながら内容を理解すること。（目安として1時間）

#### < 提出課題など >

・ 各回の章の内容と同じような理屈に説明できる事例と、各回の章で提？されている説明があてはまらない事例の両方を探し、そのように考える理由・根拠も記載した課題を提出する。課題の詳細は、その都度指示する。  
・ 上記の課題とは別に、各回の内容に関連した課題を提

示することがある。

・ 次回の授業のときに受講生のリアクションペーパーやレポートをいくつか紹介し、前回の授業内容を振り返るきっかけとする。

< 成績評価方法・基準 >

- (1) 授業中の自発的な発言、グループワーク、ディスカッションへの貢献：20%
- (2) 各回の課題レポート、リアクションペーパー：40%
- (3) 期末レポート：40%

< テキスト >

ジャクソン, マシュー・O. 【著】 / 依田 光江【訳】  
『ヒューマン・ネットワーク 人づきあいの経済学』  
早川書房 2020年 2200円(税込)

< 参考図書 >

授業で適宜、紹介します。

< 授業計画 >

#### 第1回 イントロダクション

パーソナルネットワークに関する社会学の研究分野について紹介し、その特色や社会的背景を概説する。

#### 第2回 ネットワークの中心性(1)

教科書「第1章 序論」「第2章 パワーと影響力」：  
ネットワークを手がかりに社会現象を読み解く意義について解説し、ネットワークの中心性という考え方を紹介する。

#### 第3回 ネットワークの中心性(2)

教科書「第2章 パワーと影響力」：  
前回の授業に引き続き、ネットワークの中心性という考え方について、具体例を挙げながら説明する。

#### 第4回 ネットワークの中心性(3)

教科書「第2章 パワーと影響力」：  
前回の授業のリアクションペーパーや課題レポートをいくつか紹介し、教科書の内容を補足する。また学生同士のグループワークや話し合いをつうじて、ネットワークの中心性という考え方にもとづき、実際の社会現象を自分たちで読み解く。

#### 第5回 ネットワーク構造(1)

教科書「第3章 拡散と伝染」：  
人と人とのつながりの構造(ネットワーク構造)に注目し、情報などの情報の伝達のしやすさについて検討する。

#### 第6回 ネットワーク構造(2)

教科書「第3章 拡散と伝染」：  
前回の授業のリアクションペーパーや課題レポートをいくつか紹介し、教科書の内容を補足する。また、教科書の内容と類似した事例を探し、学生同士で議論しながら、内容の理解を深める。議論をつうじて、ネットワーク構造に注目して、現代社会における諸現象を読み解く。

#### 第7回 ネットワークの同類性(1)

教科書「第5章 同類性」：  
「自分と似た人とつきあいたがる」という同類性の性質

に注目し、人と人との関係の結びつき方や分断について、具体的な社会現象を例に挙げながら解説する。

#### 第8回 ネットワークの同類性(2)

教科書「第5章 同類性」：  
前回の授業のリアクションペーパーや課題レポートをいくつか紹介し、教科書の内容を補足する。また、教科書の内容と類似した事例を探し、学生同士で議論しながら、内容の理解を深める。議論をつうじて、人と人とのつながりに結合と分断が生じる社会的メカニズムについて検討する。

#### 第9回 ネットワークの同類性(3)

教科書「第7章 群衆は賢くもなり愚かにもなり」：  
ネットワークの同類性と分断の議論を踏まえ、パーソナルネットワークが人びとの意見や意識形成に与えるメカニズムについて、解説する。

#### 第10回 ネットワークの同類性(4)

教科書「第7章 群衆は賢くもなり愚かにもなり」：  
前回の授業に引き続き、ネットワークの同類性と分断の議論を踏まえ、パーソナルネットワークが人びとの意見や意識形成に与えるメカニズムについて、解説する。

#### 第11回 ネットワークの同類性(5)

教科書「第7章 群衆は賢くもなり愚かにもなり」：  
前回の授業のリアクションペーパーや課題レポートをいくつか紹介し、教科書の内容を補足する。また、教科書の内容と類似した事例を探し、学生同士で議論しながら、内容の理解を深める。議論をつうじて、パーソナルネットワークが人びとの意見や意識形成に与えるメカニズムについて、自分たちが提示し合った具体例にあてはめながら検討する。

#### 第12回 ネットワーク構造と埋め込み(1)

教科書「第8章 友だちと身近なネットワークの構造」：  
ネットワーク構造と埋め込みの議論を踏まえ、パーソナルネットワークが人びとの行動や意識形成に与えるメカニズムについて、解説する。

#### 第13回 ネットワーク構造と埋め込み(2)

教科書「第8章 友だちと身近なネットワークの構造」：  
前回の授業のリアクションペーパーや課題レポートをいくつか紹介し、教科書の内容を補足する。また、教科書の内容と類似した事例を探し、学生同士で議論しながら、内容の理解を深める。議論をつうじて、ネットワークへの埋め込みが人びとの行動や意識形成に与えるメカニズムについて、検討する。

#### 第14回 総合議論(1)

各回でとりあげた教科書の内容をふり返り、ネットワーク論の理論や考え方をを使って社会現象を読み解く意義や利点、限界を検討する。

#### 第15回 総合議論(2)

各回でとりあげた内容を?らの状況にあてはめて、? 献

のなかで提? された概念や理論で説明できるもの、説明がむずかしいものについて学生同? で議論する。ネットワーク論のアプローチを活? しながら、現代社会における? びとの暮らしや意識を理解する。また、ネットワーク論の応? 可能性についても検討する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

犯罪学

綿村 英一郎  
-----

< 授業の方法 >

講義 (実習あり)

< 授業の目的 >

犯罪学 (Criminology) は犯罪発生 of 生物学的要因から刑事政策までを含むかなり広範な学問分野であるが、「人が集団の中で起こすある種の望ましくない行為とそれに対する一連の社会的反応」に関する科学的知見の総体ととらえると心理学的に整理し・体系づけることも可能である。本講義では、講師が専門とする「心理学」の視座から犯罪学を概観する。具体的には、犯罪原因論・犯罪捜査・防犯・犯罪者の処罰や矯正・裁判員制度などのテーマを各回1つずつとりあげ、その背景に当事者や社会にいかなる心理が関わっているのかを考察しながら論じていく。なお、この科目は現代社会学部のディプロマポリシーにある(1)現代社会の多面的、総合的な理解、(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践に対応する。地方行政における実務経験のある教員として、犯罪学と政策決定プロセスを絡めた議論も行います。

< 到達目標 >

この科目を学習することにより、「犯罪学に関する基礎理論について説明できる」、「刑事政策に関して自分の意見を述べることができる」、「他人の意見を尊重し、協調的、建設的な議論ができる」以上の目標を達成する。

< 授業のキーワード >

犯罪原因論, ポリグラフ, 目撃証言, プロファイリング, 責任, 刑罰, 司法制度

< 授業の進め方 >

対面による講義形式の授業です。講義一辺倒ではなく、実習としてグループディスカッションやフィールドワークなどのアクティブ・ラーニングを積極的に行います。

< 履修するにあたって >

授業計画の一部を変更する可能性があります。

②集中講義なので大変ですが、ときどき休憩もはさむのでおたがい頑張りましょう。講義期間の1か月前くらいから、履修方法や成績評価などの重要な情報を掲示板で発信することがありますので、ご確認ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

普段目にする犯罪報道を材料に、授業で学んだ用語を使って再解釈し、理解を深めること(可能なら、受講生同

士でディスカッションすることが望ましい)。また、授業で随時紹介する資料についても目を通すこと(事後学習の目安:60分程度)。

< 提出課題など >

随時小レポートを課す(フォーマットや回答例については、課題を出すときに説明する)。

< 成績評価方法・基準 >

出席点50%+最終テスト50%

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

「犯罪学」とは何か?心理学との関連で考える。

第2回 日本の犯罪

日本の犯罪の実態や近年の刑法犯の特徴について、世界と比較しつつ概観する。

第3回 犯罪の原因論

犯罪はなぜ起こるのか?研究誕生の背景,生物学的要因,近年の神経科学的知見について解説する。

第4回 犯罪の原因論

犯罪発生 of 心理学的要因,社会的要因について説明する。

第5回 犯罪捜査 虚偽検出

ポリグラフ検査の実際や心理学的メカニズム,裁判における証拠としての有用性と限界について説明する。

第6回 犯罪捜査 プロファイリング

プロファイリングの社会的背景,実例,関連する理論や研究方法について,映像を交え説明する。

第7回 犯罪捜査 目撃証言

ラインナップや供述に関する研究,実際の裁判や問題点,監視カメラやDNA鑑定技術が進んだ現在のありようについて考察する。

第8回 フィールドワーク

いくつかのグループに分かれ,学内でデータを収集する(データの検討については別途時間を設ける)。

第9回 防犯

防犯に関する理論,日本における防犯対策について説明する。

第10回 グループディスカッション

講義内で出された課題について集団で討議を行い,グループで発表する。

第11回 責任の認知

バッシングや責任の認知など,規範・ルールを逸脱した者に対するヒトの心理全般について概説する。

第12回 司法制度 裁判員制度

法律の専門家と非専門家の考え方の違い,評議の影響について説明する。

第13回 司法制度 死刑制度

死刑制度をめぐる国際情勢,今後の展望,国内外の研究動向について説明する。

第14回 司法制度 被害者参加

犯罪被害者や遺族の心理,修復的司法について説明する。

第15回 最終テスト

これまでの授業の理解度を確認するためにテストを実施する。テスト後はふりかえりを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

犯罪心理研究

桐生 正幸

-----  
< 授業の方法 >

対面授業。

また、適宜、キャンパス内のフィールドワークや、インターネット情報の収集など、座学以外の演習も組み合わせ講義を進める予定である。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況が悪化した場合は、オンライン講義（Zoomを利用）にて、講義を進める。

< 授業の目的 >

この科目は、現代社会学部のDPに示す、現代社会の多面的、総合的な理解を身につけること、諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践を行うことを目指す。犯罪行動を多様な観点から検討するのが犯罪心理学である。犯罪は、加害者、被害者、監視者や目撃者、空間要因（場所、時間）のそれぞれの要素が、ダイナミックに組み合わせることによって形成される。本講義では、それらの要素を客観的に捉えながら、行動科学の一つである心理学の手法を用いて明らかにされてきた犯罪行動などを学ぶことを目的としている。特に、本講義では犯罪捜査場面にて応用されている「ポリグラフ検査」「犯罪者プロファイリング」を中心に学ぶ。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。なお、担当教員は、犯罪捜査場面にて心理学的知見を用いた捜査支援、心理鑑定を実施してきた経歴を持つ。その実務経験を基礎とした研究にて学位（学術）を取得しており、実務場面の内容や心理学研究の内容を盛り込みながら講義を進めるものである。

< 到達目標 >

この科目を学習することにより、「犯罪心理学の基礎理論について説明できる」「事件分析に関して自分の意見を述べるができる」「他人の意見を尊重し、協調的、建設的な議論ができる」「犯罪情報分析を通じて情報収集と情報の収斂の仕方を獲得することができる」以上の目標を達成する。

< 授業のキーワード >

犯罪心理、ポリグラフ検査、犯罪者プロファイリング、目撃証言

< 授業の進め方 >

進め方について、必ずmanabaを読んで確認して下さい。

[https://css-manaba2.kobegakuin.ac.jp/ct/course\\_152](https://css-manaba2.kobegakuin.ac.jp/ct/course_152)

60

各重要事項に関し小レポートの作成提出を求める。加えて、犯罪情報分析を行ってもらい、その結果報告を提出してもらう。

なお、映像や配布資料などについては、OneDriveを用いて行う。

< 履修するにあたって >

犯罪に関するニュースや、これまでの事件について興味関心を抱いておいてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、授業後に振り返りを行うこと。また、次回までの課題は、必ず行うようにすること。（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

毎回、講義の終盤に伝える。テキストから課題などを出しますので、忘れずに携帯してください

< 成績評価方法・基準 >

・受講するためには、テキストをしっかりと読み、予習・復習することを前提とします。テキストなどを用いて、100%、レポート課題にて行います。

< テキスト >

「悪いヤツらは何を考えているのか：ゼロからわかる犯罪心理学入門」

桐生正幸 SBクリエイティブ 1,100円

<https://www.sbcr.jp/product/4815604448/>

< 参考図書 >

「司法・犯罪心理学入門」 桐生正幸・板山昂・入山茂 福村出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方を説明。

第2回 捜査心理学とはなにか

犯罪科学の視点から犯罪を学ぶ。

第3回 捜査心理学における手法

FBIの犯罪者プロファイリングを学ぶ。

第4回 犯罪者プロファイリング

FBIの犯罪者プロファイリングの実例を学ぶ。

第5回 振り返り

FBIの犯罪者プロファイリングを、振り返りレポートにまとめる。

第6回 カンターの犯罪者プロファイリング

カンターらの犯罪者プロファイリングを学ぶ。

第7回 分析例を知る

犯罪情報分析の実例を学ぶ。

第8回 犯罪情報分析 データ収集

小グループにて、持ち寄った犯罪データの分析を行う。

第9回 犯罪情報分析 統計処理

小グループで、データの統計処理を行う。

第10回 分析結果報告

各グループによる犯罪情報分析の結果を発表する。

#### 第11回 目撃証言

目撃証言に関する研究動向を学ぶ。

#### 第12回 記憶と生理反応

記憶と生理反応の関連を学ぶ。

#### 第13回 ポリグラフ検査

犯罪捜査場面におけるポリグラフ検査について学ぶ。

#### 第14回 グループ検討と発表

犯罪心理学の各手法を用いた事件へのアプローチを検討し発表する。

#### 第15回 総括

これまでの学びに関する総括レポートを提出してもらう。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

阪神・淡路大震災研究

松山 雅洋、青木 利博、菅原 隆喜、手塚 亮介、出口 佳孝、中嶋 知之、福永 尚美、古川 厚夫、丸一 功光

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

(主題)

本授業は現代社会学部のDPに示す知識・技能の習得及び思考力・判断力・表現力の習得に該当する。

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は近代的な都市を襲った未曾有の大災害であった。この地震での都市の被害（建物、都市施設、ライフラインなど）、被災者のケア（避難所、健康管理、仮設住宅）、火災の発生等について解説することにより、大災害の全貌を明らかにする。

阪神・淡路大震災の概要を理解することで、当時いかに地震に備える準備が欠如していたかを考えて理解する。今後、発生が確実視されている南海トラフ地震への備えを考える。

なお、この科目は9人の教員によるオムニバス授業であるが、阪神・淡路大震災の発生時から復興事業の完了までの実務を経験した神戸市役所の職員（内7人は元職員）であり、また東日本大震災での復旧にかかわってきた。授業の進捗過程で必要な具体的事例を交えて、より実践的で分かりやすく説明したい。

< 到達目標 >

1. 震災による被災者の生活困難さを経済活動への影響を説明することができる
2. 行政の復旧・復興の活動と被災者支援活動の状況を説明することができる
3. 脆弱だった市街地の復興にあたっての考え方と復興事業の進め方を説明することができる
4. 復興に際しての被災した住民のまちづくりへの参加

のあり方を考えるようになる

5. 予期しない自然災害に備える危機管理を考えるようになる

< 授業のキーワード >

復旧時の生活維持の困難性、都市の脆弱性、創造的復興

< 授業の進め方 >

毎回のテーマを小レポートに記入することで共通の理解を深める。

< 履修するにあたって >

授業は阪神・淡路大震災の発生直後から復興までの間、神戸市役所の職員として復旧・復興に携わった講師による実践経験に基づく授業を行う。manabaの使用方法を確認しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の授業テーマに沿った予習（1時間程度）と学んだことの復習（1時間程度）を行って理解を深める。

< 提出課題など >

毎回の授業で小レポートを実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業の毎回のテーマに応じた課題に対する小レポートによる回答を授業理解度として評価する

< 授業計画 >

#### 第1回 授業ガイダンス

シラバスの説明と授業の進め方。

#### 第2回 神戸市災害対策本部と報道

災害対策本部と報道の最初の1か月の動き。

#### 第3回 大規模火災への対応

大規模火災の消火活動と消防応援体制について。

#### 第4回 ライフラインの被災とその影響

市民生活を支えるライフライン（水道・下水道・ガス等）の被災と生活支援のための緊急復旧について。

#### 第5回 被災者支援事業

被災者支援事業の内容と展開について。

#### 第6回 被災者の健康管理指導

避難所での健康管理・健康相談、応急仮設住宅での健康管理・健康相談の実態と応援職員を含めた行政の体制について。

#### 第7回 避難所と救援物資

避難所に避難してきた被災者への支援の方法について。

#### 第8回 道路・鉄道施設の被災とその影響

道路・鉄道施設の被災とその社会的影響と復興対策について。

#### 第9回 建物の倒壊と応急仮設住宅

建物の倒壊と応急仮設住宅の建設と募集のあり方について。

#### 第10回 2段階都市計画

密集市街地の創造的復興と2段階都市計画について。

#### 第11回 ライフラインの復興とその考え方

生活の再建に欠かせない水道・下水道・ガスのライフライン

- インの耐震化による復興の進め方。  
 第12回 住民と行政によるまちづくり  
 住民と行政の対立の構造と協働のまちづくりの仕組み。  
 第13回 復興事業の進め方  
 復興公営住宅と震災復興再開発事業について。  
 第14回 創造的復興の実現への仕組み  
 震災復興事業土地区画整理事業について。  
 第15回 総括

危機管理への取り組み。

-----  
 2022年度 後期

2.0単位  
 比較社会論  
 李 洪章

-----  
 < 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は、現代社会学部のディプロマ・ポリシーに示す、現代社会の多面的・総合的理解を目指すものである。

比較社会学は、私たちが生きる社会における「常識」を、改めて問い直すうえで有効な考え方である。本授業では、比較の視点を取り入れた社会学の古典を紹介したうえで、各国(特に東アジア諸国)の教育制度や家族制度のあり方を比較することで、日本の現状を客観的にみる視点を養う。また、各国における人種・民族問題の取扱い方やマイノリティ概念の相違に触れた後、具体例として世界に散在するコリアンを取り上げ、マイノリティ自身のアイデンティティ・文化・生活の特徴を多角的な視点から比較・検討することで、日本のエスニック・マイノリティの現状を明らかにする。

< 到達目標 >

比較社会学の基礎を学ぶことを通して、自らが生きる社会において自明とされていることを客観的にとらえる視点を身につける。

< 授業の進め方 >

講義形式で授業を進める。受講人数によってはグループワークを行う場合もある。

< 履修するにあたって >

授業の進度によってシラバスとは異なる内容の授業をする場合もある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：予告した次回講義テーマに関して下調べを行い、疑問点を明確にしておくこと(目安として1時間程度)。

事後学習：講義ノートや配布資料を復習すること(目安として1時間程度)。

< 提出課題など >

隔週でショートレポートを提出してもらう(計6回)。(manaba上でコメントすることでフィードバックする)

< 成績評価方法・基準 >

ショートレポート(計6回) 100%

< 参考図書 >

『コリアン・ディアスポラと東アジア社会』松田素二・鄭根植編著、京都大学学術出版会

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の進め方と、本講義の基本的な考え方について概説する。

第2回 比較社会学とは何か

比較社会学の学説史を紹介する

第3回 比較社会学の古典：自殺論、プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神

デュルケム『自殺論』とヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を解説する

第4回 比較社会学の名著：時間の比較社会学

真木悠介『時間の比較社会学』を解説する

第5回 幸福度調査

幸福度調査を概観することで、日本社会の現住所を把握する。

第6回 日韓米における教育の比較

日韓米における教育制度のあり方や、人々の教育に対する考え方を比較することで、日本における教育の特徴や問題点を明らかにする。

第7回 日韓における家族制度の比較

日韓米における家族制度のあり方や、人々の家族観を比較することで、日本における教育の特徴や問題点を明らかにする。

第8回 ナショナリズム比較

各国におけるナショナリズムのあり方を比較・検討する。比較社会学という視点の限界についても学ぶ。

第9回 日韓芸能比較

kpopとjpopの比較を通じて、日韓の音楽文化・音楽ビジネスの違いについて考える。

第10回 ことばと文化の日韓比較

日本と韓国の「ことば」の違いから、文化のあり方の共通点と相違点について考える。

第11回 東アジアのITメディア環境の比較

日中韓のネットカフェの利用状況の比較を通じて、各国における社会関係のあり方の違いについて考える。

第12回 マイノリティ政策の比較

在日コリアンの現状について簡単に触れながら、各国のコリアン・ディアスポラの現状や、マイノリティ政策の比較を行うことで、日本のマイノリティを取り巻く状況を浮き彫りにする。

第13回 中国朝鮮族の歴史と現状

中国朝鮮族の歴史と生活やコミュニティの現状について

学ぶ。

#### 第14回 在米コリアンの歴史と現状

在米コリアンの歴史と生活やコミュニティの現状について学ぶ。

#### 第15回 振り返り

韓国の政治・文化・経済・福祉・教育などの比較を通じて見てきた日本社会の特徴と課題について振り返る。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

ファシリテーター・トレーニング A

和田 まり子  
-----

#### < 授業の方法 >

対面授業（講義と演習）

< 9月20日（月）～10月2日（土）までの授業形態 >

遠隔授業（ZOOMによるリアルタイム授業）

\* 10月4日以降の授業形態は、感染状況や履修者数に鑑みて決定し、改めてお知らせいたします。

#### < 授業の目的 >

現代社会の課題の多くは、幾つもの要素が複雑に絡み合った複合体として存在する。そこに求められるのは、人間的な弱さや悩みに共感する能力であり多様な個性を尊重しながらグループとしての力を引き出していくファシリテーション（援助）能力である。本講座では、その前提となる「人間」の尊厳 "いまここ" に生きる という価値観や人間観を身に付ける。NPO、NGOなど多様な組織運営に不可欠なファシリテーション型リーダーシップのベースとなる能力を養成する。この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

#### < 到達目標 >

- ・人間の尊厳に興味を持つ
- ・「いまここで」に生きることを習得する
- ・関係の中で生きるという価値観や人間観を習得する
- ・共感する能力を獲得する
- ・ファシリテーターの体験を通して、全体を俯瞰する能力を習得する

#### < 授業のキーワード >

・共感力 ・リーダーシップ ・グループプロセス ・内面的プロセス ・外面的プロセス ・聴く ・民主的

#### < 授業の進め方 >

講義、グループワーク、体験学習を中心に進めます。

#### < 履修するにあたって >

コミュニケーションが得意でなくても、履修を機会に積極的な態度で臨んでください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

受講内容を日常で意識して実践してください。本や新聞を読む習慣を身に付けてください。（事前・事後学習

各1時間程度）

#### < 提出課題など >

レポート1200字以上2000字以下を14回目の講義の時に提出。

授業の内容、または関連する内容から事前に課題を出す。manabaにコメントします。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑・発表・30% ショートレポート10%

レポート30%

プレゼンテーション30%

#### < テキスト >

・資料配布

・ワークシート配布

#### < 授業計画 >

##### 第1回 イントロダクション

- ・ファシリテーター・トレーニングとは
- ・授業の考え方、ねらい、進め方
- ・グラドルールと評価について

##### 第2回 ファシリテーターとリーダーシップ

- ・ファシリテーターとは
- ・ファシリテーター型リーダーシップとは
- ・ファシリテーターの役割
- ・ふりかえりカードにコメントを書く

##### 第3回 ソーシャルスキル演習 1

##### 傾聴スキルアップ

- ・傾聴について
- ・傾聴演習

##### 第4回 ソーシャルスキル演習 2

##### アサーション

- ・アサーションについて
- ・アサーション演習
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

##### 第5回 共感する力（1）

- ・共感力とは
- ・グループインタビューによる体験学習
- ・フィードバックとふりかえり
- ・カードにコメントを記入

##### 第6回 共感する力（2）

- ・共感力とは
- ・グループインタビューによる体験学習
- ・フィードバックとふりかえり
- ・カードにコメントを記入

##### 第7回 グループプロセスを読む

- ・グループプロセスとは
- ・外面的プロセス
- ・内面的プロセス
- ・ふりかえりカードにコメントを記入

##### 第8回 ナラティブアプローチとは（1）

- ・体験を語るということ

- ・「語り」がもたらす変革
  - ・グループワーク
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入
- 第9回 ナラティブアプローチとは (2)
- ・チームを決定
  - ・チームでナラティブアプローチを試みる
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入
- 第10回 ファシリテーター・トレーニング  
ファシリテーター体験(1)
- ・グループを観る力を養う
  - ・ファシリテーターとしての役割を体験する
  - ・エクササイズ
  - ・介入の試み
  - ・フィードバック
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入
- 第11回 ファシリテーター・トレーニング  
ファシリテーター体験(2)
- ・グループを観る力を養う
  - ・ファシリテーターとしての役割を体験する
  - ・エクササイズ
  - ・介入の試み
  - ・フィードバック
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入
- 第12回 プレゼン資料作成準備
- ・グループを観る力を養う
  - ・ファシリテーターとしての役割を体験する
  - ・エクササイズ
  - ・介入の試み
  - ・フィードバック
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入
- 第13回 プレゼン資料作成準備
- ・ファシリテーションに必要なプレゼン力のスキルアップ
  - ・便利な資料の作成方法
  - ・プレゼン資料作成
- 第14回 プレゼン資料最終仕上げ  
リハーサル
- ・チーム4~5名で8分~10分発表の練習
  - ・チームでふりかえり
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入
- 第15回 プレゼン本番
- ・後期ふりかえりと講評
  - ・プレゼンの講評
  - ・グループワーク 目標のゴール到達度について
  - ・ふりかえりカードにコメントを記入

-----  
2022年度 後期

1.0単位

ファシリテーター・トレーニング B

今井 愛子  
-----

<授業の方法>

「講義」、「演習」、「実技」

<授業の目的>

- ・本講座は現代社会学の基礎知識、専門知識についてより理解を深めるために必要なグループ活動における各メンバーのあり方・進め方を学ぶことを目的とする。
- ・ファシリテーション力を実践するプロジェクトを通して、「主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度」を身につけ「思考力、判断力、表現力」の向上を図る。
- ・この科目は専門基礎分野の科目のひとつで、受講生自らがプロジェクト企画、運営体験を通して個人の成長を促進することを第一の目的としている。
- ・本講座を担当する教員(今井愛子)は航空業界での約20年の経験を活かし、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

1. ファシリテーションの理論を理解し、説明できる。(知識)
2. ファシリテーション型リーダーシップを理解し、説明できる。(知識)
3. ファシリテーション型リーダーシップを実施し、企画、運営できる。(技能)
4. 体験したファシリテーション型リーダーシップの技法を使いこなすことができる。(技能)
5. 価値観の違いを理解しようとし、自分を支える人々の存在に気づく。(態度、習慣)
6. 状況を考えて、発言したり、行動したりできる。(態度、習慣)

<授業のキーワード>

ソーシャルスキル、アサーション、アセスメント、グループダイナミックス

<授業の進め方>

- ・少人数のグループワークを中心にすすめ、受講後manaから授業のふりかえりレポートを提出する。
- ・第3回まででファシリテーションの基礎を学び、4回目からのプロジェクトでファシリテーションの知識を実践する。尚、プロジェクトのテーマは「キャリアデザイン」「就職対策」に関連するものとする。

<履修するにあたって>

- ・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーシ

ョンなどへの積極的な参加を推奨する。

・グループメンバーに迷惑のかからないよう行動することを原則とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

回、次回の授業内容に必要な準備について説明しますので、必ず準備してください。また、毎回の授業で学んだことを日常生活でソーシャルスキルを意識し、ファシリテーション技法を実践し、その効果・感想などをまとめてください。

< 提出課題など >

・毎回の授業報告（ふりかえりレポート）の提出  
・プロジェクト報告レポートの提出"

< 成績評価方法・基準 >

ふりかえりレポート、受講参画態度 40%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 20% の割合で総合的に判断します。

< 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

・アイスブレイク(リレー紹介、人間ビンゴ)：「関わる力」の必要性を体感する。

・授業概要の説明(授業の目的とゴール、ふりかえりシート、授業の進め方、評価方法、など)

・ファシリテーションの概要を理解する。

#### 第2回 ソーシャルスキル

傾聴の復習とレベルアップを図る

・傾聴について理解を深める。  
・傾聴演習としての「質問練習」「オウム返し練習」を通して、傾聴力のレベルアップ法を理解する。

#### 第3回 ソーシャルスキル演習 アサーションについて学ぶ

・アサーションについて理解する。  
・アサーション演習を通して、ソーシャルスキルの重要性を理解する。

#### 第4回 グループダイナミクス

・プロジェクトの内容、実施方法を理解する。  
・企画書について理解する。  
・テーマについてブレインストーミングし、チームの企画内容を決定する。

・プロジェクト企画案を作成する。

#### 第5回 ソーシャルスキル実践

・チーム内の役割分担を決定し、作業する。  
・作業 プロジェクト企画書作成  
・作業 プロジェクト企画プレゼン資料作成

#### 第6回 価値観の違いと考え方の多様性の理解

・他チームの企画を知ることで、自分のチーム内容を再考する。  
・プロジェクト企画についてプレゼンテーションを実施

する。

#### 第7回 アセスメント活動とファシリテーター

・プロジェクト実施におけるアセスメント活動を確認をする

・プロジェクト内容の詳細を決定し、再度役割分担する。

#### 第8回 アサーションと自己ストレス

・プロジェクト作業においてアサーティブな対応を意識し、自己ストレスを考察する。

・作業(グループ)ルールの必要性を確認する。

#### 第9回 グループダイナミクス

・プロジェクト作業におけるグループダイナミクスを意識し、ファシリテーターの要素の重要性を確認する。

#### 第10回 グループダイナミクス

・他者のファシリテーションを観察し、プロジェクト作業との関連性を考察する。

#### 第11回 傾聴と共感的理解

・プロジェクト作業のスムーズな進行の為に、共感的理解を実践し、グループ作業をまとめることを実践する。

#### 第12回 グループの状況確認と行動修正

・プロジェクト作業の進捗状況に合わせて作業修正を実施する。

#### 第13回 グループの状況確認と行動修正

・プレゼンテーションリハーサルを通して、グループメンバー全員で目標が達成できるよう修正する。

#### 第14回 グループの目標達成と行動の仕方

・他グループのプレゼンテーションを通して、グループ目標達成のための行動について考察する。

#### 第15回 プロジェクト報告書の作成

・「プロジェクト」についてふりかえりディスカッションを実施する。  
・ディスカッションを踏まえて、各自で報告書を作成する。

-----  
2022年度 後期

1.0単位

ファシリテーター・トレーニング C

浜中 恵美子  
-----

< 授業の方法 >

・講義 ・演習 ・実習

< 授業の目的 >

私たちはさまざまなグループの中で多くの時間を過ごしている。家族、友人、学校、職場、地域などのグループの中では日々、様々な問題が発生している。 その問題

は時に、人間的な弱さや辛い悲しみであったり、怒りであったり、幾つもの要素が複雑に絡みあった複合体として存在する。この社会にあって、過不足なく他者とコミュニケーションを交わし、健康な人間関係を維持していくことは決して容易ではない。

そこに求められるのは、共感できる能力であり多彩な人々の個性を尊重しながら、グループとしての力を引き出していくファシリテーション能力である。

さまざまなグループの中で個人を生かすためのファシリテーター能力が求められている。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、NTLA（National Training Laboratory Association）の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20年以上の実務を持つ教員である。グループのファシリテーター、ヒューマンリレーションについてより実務的な視点から解説するものといえる。

<到達目標>

・人間の尊厳、「いま、ここで」に生きる、「関係の中で生きる」という価値観や人間観を習得する。

・体験の場を通して、様々な人と関わり、他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他

者理解への気づきを深めることができる。

・感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話をす

ることを学び、自己成長することができる。

・プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロール

し、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得する。

・メンバーの能力を引き出し共感していく、民主的な組織運営に不可欠なファシリテーター型

リーダーシップのベースになる能力を身につける。

・これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになること

を目標とする。

<授業のキーワード>

・民主的 ・自己理解・他者理解・リーダーシップ ・グループプロセス ・聴く ・観察 ・気づき

・自己表現

<授業の進め方>

・体験学習を中心にグループワークを取り入れます

・授業の最後にはコメントカードを記入し、共有し気づきを深めます

<履修するにあたって>

・前期開講「グループ・アプローチ」を併せて体験すると、より理解を深めることができます。

・積み上げ授業のため、全日程の参加を望みます。

・主体的に参画することを望みます。

・状況により授業内容を変更する場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。

（事前・事後学習各1時間程度）

<提出課題など>

・授業内で指示をします。

<成績評価方法・基準>

1. 授業に取り組む姿勢を評価70%

（ ・授業に積極的な参画 40% ・課題ワーク・ファシリテーター体験 30% ）

2. 課題レポート（30%）、などを総合的に評価

<テキスト>

・ワークシート、資料などmanabaで配信

<授業計画>

第1回 イントロダクション

・ファシリテーター・トレーニング授業の概要

・コミュニケーションとグランドルールについて

・授業の考え方、ねらい、進め方、評価について

第2回 ファシリテーターと

リーダーシップ

・ファシリテーターとは

・ファシリテーター型リーダーシップとは

・ファシリテーターの役割

・エクササイズ、ふりかえり

第3回 身体表現とコミュニケーション

・効果的なコミュニケーションとは

・身体が語る言葉とは ・非言語コミュニケーションの有効性

・ファシリテーター体験 \*小グループ

・エクササイズ、ふりかえり

第4回 「聴く力」と「対話」の

コミュニケーション

・コミュニケーションの弊害について

・「聴く力」「対話する力」「観る力」

・支援と聴く力・共感 ・受容 ・承認 ・重視

・ファシリテーター体験 \*小グループ

・エクササイズ、ふりかえり

第5回 体験を物語る

ナラティブ・アプローチ

・「語り」がもたらす変革 ・ナラティブ思考

・相互理解を深める「共感」、「受容」、「承認」、「重視」

・エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

第6回 集団における意思決定と

ファシリテーター

- ・ 集団意思決定とは ・ 集団意思決定の留意点
- ・ グループプロセスとは ・ どのようにグループプロセスを理解するか
- ・ グループの中で何が起きているか ・ 介入とは
- ・ 介入の試み
- ・ ファシリテーター体験 「コンセンサス」 ・ ふりかえり

#### 第7回 ファシリテーター体験

- ・ グループを観る力を養う
- ・ ファシリテーターとしての役割を体験する
- ・ グループプロセス、介入の試み
- ・ 「エクササイズ 1」 (集団)
- ・ 全体フィードバック

#### 第8回 ファシリテーター体験

- ・ グループを観る力を養う
- ・ ファシリテーターとしての役割を体験する
- ・ グループプロセス、介入の試み
- ・ 「エクササイズ 2」 (集団)
- ・ 全体フィードバック

#### 第9回 ファシリテーター体験

- ・ グループを観る力を養う
- ・ ファシリテーターとしての役割を体験する
- ・ グループプロセス、介入の試み
- ・ 「エクササイズ 3」 (集団)
- ・ 全体フィードバック

#### 第10回 ファシリテーター体験

- ・ グループを観る力を養う
- ・ ファシリテーターとしての役割を体験する
- ・ グループプロセス、介入の試み
- ・ 「エクササイズ 4」 (集団)
- ・ 全体フィードバック

#### 第11回 さわやかな自己表現

- 「アサーション」
- ・ 民主的で自他尊重のコミュニケーション「アサーション」とは
- ・ 自分の気持ちをきちんと伝え、相手の気持ちを理解する
- ・ エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

#### 第12回 問題解決とアサーション

- ・ 問題解決への試み
- ・ 協力、歩み寄りの道を拓く
- ・ エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

#### 第13回 論理的思考とアンガーマネジメント

- ・ コミュニケーションスタイルの修正
- ・ 論理的思考とは ・ 認知構造の見直し
- ・ アンガーマネジメント「怒り」をコントロールする
- ・ 「怒り」のメカニズム
- ・ エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

#### 第14回 図解表現「自分を語る」

自己表現「自分の考えを語る」

- ・ 全体でのファシリテーション
  - ・ 『私のヒストリーとこれから未来に向かって』を構造化する
  - ・ 「自己理解」「他者理解」を促進する
- 第15回 これまでのふり返りと今後に向けて
- ・ グループの成長を促進するためにグループが成長するとは
  - ・ グループとメンバーの関係性
  - ・ 日常生活、社会貢献、ボランティア活動、対人援助などに必要とされる
- ファシリテーター型リーダーシップのこれから

-----

2022年度 後期

1.0単位

ファシリテーター・トレーニング D

浜中 恵美子

-----

< 授業の方法 >

・ 講義 ・ 演習 ・ 実習

< 授業の目的 >

私たちはさまざまなグループの中で多くの時間を過ごしている。家族、友人、学校、職場、地域などのグループの中では日々、様々な問題が発生している。その問題は時に、人間的な弱さや辛い悲しみであったり、怒りであったり、幾つもの要素が複雑に絡みあった複合体として存在する。この社会にあって、過不足なく他者とコミュニケーションを交わし、健康な人間関係を維持していくことは決して容易ではない。

そこに求められるのは、共感できる能力であり多彩な人々の個性を尊重しながら、グループとしての力を引き出していくファシリテーション能力である。

さまざまなグループの中で個人を生かすためのファシリテーター能力が求められている。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2（思考力・判断力・表現力等の能力）とディプロマシー3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に関連する。

授業の担当者は、NTLA (National Training Laboratory Association)の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20年以上の実務を持つ教員である。グループのファシリテーター、ヒューマンリレーションについてより実務的な視点から解説するものといえる。

< 到達目標 >

- ・ 人間の尊厳、"いま、ここで"に生きる、"関係の中で生きる"という価値観や人間観を習得する。
- ・ 体験の場を通して、様々な人と関わり、他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深めることができる。

- ・感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話をすることを学び、自己成長することができる。
- ・プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得する。
- ・メンバーの能力を引き出し共感していく、民主的な組織運営に不可欠なファシリテーター型リーダーシップのベースになる能力を身につける。
- ・これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とする。
- <授業のキーワード>
  - ・民主的 ・自己理解・他者理解・リーダーシップ ・グループプロセス ・聴く ・観察 ・気づき
  - ・自己表現
- <授業の進め方>
  - ・体験学習を中心にグループワークを取り入れます
  - ・授業の最後にはコメントカードを記入し、共有し気づきを深めます
- <履修するにあたって>
  - ・前期開講「グループ・アプローチ」を併せて体験すると、より理解を深めることができます。
  - ・積み上げ授業のため、全日程の参加を望みます。
  - ・主体的に参画することを望みます。
  - ・状況により授業内容を変更する場合があります。
- <授業時間外に必要な学修>
  - ・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。
- (事前・事後学習各1時間程度)
- <提出課題など>
  - ・授業内で指示をします。
- <成績評価方法・基準>
  1. 授業に取り組む姿勢を評価 70%
    - ( ・授業に積極的な参画 40% ・課題ワーク・ファシリテーター体験 30%)
  2. 課題レポート(30%)、などを総合的に評価
- <テキスト>
  - ・ワークシート、資料などmanabaで配信
- <授業計画>
 

第1回 イントロダクション

  - ・ファシリテーター・トレーニング授業の概要
  - ・コミュニケーションとグラドルールについて
  - ・授業の考え方、ねらい、進め方、評価について

第2回 ファシリテーターとリーダーシップ

  - ・ファシリテーターとは
  - ・ファシリテーター型リーダーシップとは
  - ・ファシリテーターの役割

- ・エクササイズ、ふりかえり
- 第3回 身体表現とコミュニケーション
- ・効果的なコミュニケーションとは
  - ・身体が語る言葉とは ・非言語コミュニケーションの有効性
  - ・ファシリテーター体験 \*小グループ
  - ・エクササイズ、ふりかえり
- 第4回 「聴く力」と「対話」のコミュニケーション
- ・コミュニケーションの弊害について
  - ・「聴く力」「対話する力」「観る力」
  - ・支援と聴く力・共感 ・受容 ・承認 ・重視
  - ・ファシリテーター体験 \*小グループ
  - ・エクササイズ、ふりかえり
- 第5回 体験を物語るナラティブ・アプローチ
- ・「語り」がもたらす変革 ・ナラティブ思考
  - ・相互理解を深める「共感」、「受容」、「承認」、「重視」
  - ・エクササイズ \*小グループ 、ふりかえり
- 第6回 集団における意思決定とファシリテーター
- ・集団意思決定とは・集団意思決定の留意点
  - ・グループプロセスとは ・どのようにグループプロセスを理解するか
  - ・グループの中で何が起きているか ・介入とは
  - ・介入の試み
  - ・ファシリテーター体験 「コンセンサス」 ・ふりかえり
- 第7回 ファシリテーター体験
- ・グループを観る力を養う
  - ・ファシリテーターとしての役割を体験する
  - ・グループプロセス、介入の試み
  - ・「エクササイズ 1」 (集団)
  - ・全体フィードバック
- 第8回 ファシリテーター体験
- ・グループを観る力を養う
  - ・ファシリテーターとしての役割を体験する
  - ・グループプロセス、介入の試み
  - ・「エクササイズ 2」 (集団)
  - ・全体フィードバック
- 第9回 ファシリテーター体験
- ・グループを観る力を養う
  - ・ファシリテーターとしての役割を体験する
  - ・グループプロセス、介入の試み
  - ・「エクササイズ 3」 (集団)
  - ・全体フィードバック

第10回 ファシリテーター体験

- ・グループを観る力を養う
- ・ファシリテーターとしての役割を体験する
- ・グループプロセス、介入の試み
- ・「エクササイズ 4」（集団）
- ・全体フィードバック

第11回 さわやかな自己表現

- 「アサーション」
- ・民主的で自他尊重のコミュニケーション「アサーション」とは
- ・自分の気持ちをきちんと伝え、相手の気持ちを理解する
- ・エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

第12回 問題解決とアサーション

- ・問題解決への試み
- ・協力、歩み寄りの道を拓く
- ・エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

第13回 論理的思考とアンガーマネジメント

- ・コミュニケーションスタイルの修正
- ・論理的思考とは ・認知構造の見直し
- ・アンガーマネジメント「怒り」をコントロールする
- ・「怒り」のメカニズム
- ・エクササイズ \*小グループ、ふりかえり

第14回 図解表現「自分を語る」

- 自己表現「自分の考えを語る」
- ・全体でのファシリテーション
- ・『私のヒストリーとこれから未来に向かって』を構造化する
- ・「自己理解」「他者理解」を促進する

第15回 これまでのふり返りと今後に向けて

- ・グループの成長を促進するためにグループが成長するとは
- ・グループとメンバーの関係性
- ・日常生活、社会貢献、ボランティア活動、対人援助などに必要とされる

ファシリテータ型リーダーシップのこれから

2022年度 前期

2.0単位

福祉社会学

前田 拓也

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に従い、学修を通じて、諸課題の発見・把握及びその解決策の探求を目指す。

わたしたちが幸福につつがなく暮らすためには、十全な社会保障のシステムが不可欠である。福祉社会学とは、こうした「福祉」のためにおこなわれる諸実践を対象とした社会学のことである。本講義では、さまざまな福祉実践、とくに、被差別あるいは貧困状態などを含めた困難のなかにある人びとの生存と生活を保障するための配慮や支援、およびそれを可能にする政策のありかたについて考察する。個別具体的な事例を扱うことにより、受講者それぞれの具体的な「福祉」観の確立をめざす。

< 到達目標 >

- ・暮らしや生存に困難を抱えた人びとのありように関する具体的な知識を獲得することができる。
- ・人びとの抱える困難や不利益、および、「福祉」のためになされるさまざまな「支援」の営みを、社会学の視点・枠組みからとらえ、説明することができる。
- ・関連するさまざまな差別事象、差別現象、人権にかかわる問題について、応用して問題設定できる。

< 授業のキーワード >

福祉 / 支援 / 配慮 / 排除と包摂 / 差別 / 権利

< 授業の進め方 >

- ・対面形式でおこなう。
- ・各回に課題が提示される。

< 履修するにあたって >

後期の「福祉社会学 II」もあわせて受講することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：講義の対象となるテーマについて、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくこと（目安：1時間程度）。  
事後学習：講義ノートを再確認し、講義内で紹介した各種統計資料や文献を積極的に読むこと（目安：1時間程度）。

< 提出課題など >

各回に課題を提示する。また、中間レポート と期末レポートを課す。

< 成績評価方法・基準 >

各回の課題：60%

中間レポート + 期末レポート：40%

< 参考図書 >

{武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明編『よくわかる福祉社会学』（ミネルヴァ書房、2020年）, <https://www.minervashobo.co.jp/book/b505235.html> }  
{筒井淳也・前田泰樹『社会学入門 社会とのかかわり方』（有斐閣、2017年）, <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150461> }

{小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』（講談社現代新書、2019年）,https://gendai.ismedia.jp/list/books/gendai-shinsho/9784065154298}

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義全体の進めかたを説明し、目標を確認する

第2回 「福祉」を考えるための視座

身近にある「困難」を捉える基本的な視座について理解する。

第3回 家族モデルと福祉 1

現代社会における家族の現状をもとに、「日本型福祉社会」を批判的に検討する。

第4回 家族モデルと福祉 2

「家族をつくること」の困難について、統計データと社会学的視座をもとに検討する。

第5回 社会的排除と貧困 1

相対的貧困の概念から貧困の現状について理解する。

第6回 社会的排除と貧困 2

ホームレス支援の現状と課題について理解する。

第7回 労働と福祉 1

「ふつうに働くこと」の困難について、若年無業者の現状をもとに検討する。

第8回 労働と福祉 2

「ふつうに働くこと」の困難について、雇用のありかたの変動をとおして検討する。

第9回 生活保護の実際 1

公的扶助の基礎としての生活保護制度を理解する。

第10回 生活保護の実際 2

生活保護受給の実態を統計的事実から理解する。

第11回 子どもへの支援と福祉 1

児童虐待事例と家族への社会的支援の現状を検討する。

第12回 子どもへの支援と福祉 2

児童養護の現状と課題を検討する。

第13回 高齢者への支援と福祉 1

介護保険が高齢者介護をどのように変えたかを理解する。

第14回 高齢者への支援と福祉 2

「老い衰えゆくこと」のリアリティと認知症高齢者への支援の現状を理解する。

第15回 授業全体のまとめ

講義全体をふりかえり、要点を再確認する

-----  
2022年度 後期

2.0単位

福祉社会学

前田 拓也

-----  
< 授業の方法 >

講義形式（対面）

< 授業の目的 >

この科目では、現代社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に従い、学修を通じて、諸課題の発見・把握及びその解決策の探求を目指す。

わたしたちが幸福に繋がなく暮らすためには、十全な社会保障のシステムが不可欠である。福祉社会学とは、こうした「福祉」のためにおこなわれる諸実践を対象とした社会学のことである。

本講義では、さまざまな福祉実践のなかでもとくに、障害者の生活と生存を保障するための配慮や支援、およびそれを可能にする政策のありかたについて、「配慮の平等」の観点から考察する。できるだけ多様な事例を参照することにより、受講者それぞれの具体的な「障害者支援」像の確立をめざす。

なお、この講義の担当者は、障害当事者団体での障害者介助の業務を8年間経験した、実務経験のある教員である。経験的データおよび実際の観点から、「障害者の暮らし」の実態を明らかにすることを目指す。

< 到達目標 >

・人びとの「福祉」のためになされるさまざまな支援の営みを社会学の視点からとらえ、説明することができる。特に、障害者への配慮と支援の技法を検討することを通して、持続可能な社会の形成を構想するための能力を獲得することができる。

・「配慮の平等」をキーワードに、暮らしや生存に困難を抱えた人びと、特に障がい者の暮らしの具体的なありようと、かれらを支援する実践を踏まえ、これからの社会と制度のありかたを考える。

・関連するさまざまな差別事象、差別現象、人権にかかわる問題について、応用して問題設定できる。

< 授業のキーワード >

福祉 / 支援 / 配慮 / 排除と包摂 / 差別 / 権利

< 授業の進め方 >

- ・講義形式でおこなう。
- ・映像資料などを適宜視聴する。
- ・各回に課題が提示される。

< 履修するにあたって >

前期の「福祉社会学Ⅰ」もあわせて受講することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：講義の対象となるテーマについて、インターネットを利用し、新聞・ニュース記事を読んでおくこと

で一定のイメージをつかんでおくこと（目安：1時間程度）。

事後学習：講義ノートを再確認し、講義内で紹介した各種統計資料や文献を積極的に読むこと（目安：1時間程度）。

< 提出課題など >

各回に課題を提示する。また、中間レポートと期末レポートを課す。

< 成績評価方法・基準 >

各回の課題：60%

中間レポート + 期末レポート：40%

< 参考図書 >

倉本智明『だれか、ふつうを教えてください！』（理論社、2006年）

{渡辺一史『なぜ人と人は支え合うのか 「障害」から考える』（ちくまプリマー新書、2018年）、<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480683434/>}

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義全体の進めかたを説明し、目標を確認する

第2回 「障害者」とはだれか 1

福祉制度における「障害」の定義について批判的に検討する。

第3回 「障害者」とはだれか 2

障害の個人モデルと社会モデルを理解する。

第4回 配慮の平等 1

障害者への「合理的配慮」の必要性と意義を理解する。

第5回 配慮の平等 2

障害の社会モデルと障害者への「合理的配慮」について、具体例とともに理解する。

第6回 身体の社会性 1

社会学が人間の「身体」をどのように扱ってきたのかを理解する。

第7回 身体社会性 2

逸脱した身体/ふつうの身体がどのように差異化されるのかを検討する。

第8回 障害と優生思想 1

近代を席卷した「優生思想/優生学」について、歴史的な文脈を踏まえ、批判的に検討する。

第9回 障害と優生思想 2

かたちを変えて社会に浸透しつつある「あたらしい優生思想」について検討する。

第10回 障害文化 1

障害者の生活様式のなかに独特の「文化」を見出す視点について理解する。

第11回 障害文化 2

障害文化のひとつとされる「ろう文化」の意義について理解する。

第12回 障害者と「自立」

障害者にとって「自立して生きる」とはどのようなことか、障害者運動における議論を踏まえて検討する。

第13回 障害とアイデンティティ 1

軽度障害者の生活世界と日常的な経験について検討する。

第14回 障害とアイデンティティ 2

障害者の日常的な相互行為を通じた「アイデンティティ管理」の方法について検討する。

第15回 授業全体のまとめ

講義全体をふりかえり、要点を再確認する

-----  
2022年度 前期

2.0単位

復興基礎論

宮定 章  
-----

< 授業の方法 >

「講義」、「演習」、「実習」

< 授業の目的 >

災害からの復興について、時系列的に流をつかみ、その時々を生じる問題について把握することを目標とする。特に、被災者の生活再建・住まいの再建に注目する。

本講義は、防災地域支援の実務経験のある教員が、地域に焦点を充てる実践的教育から構成される授業科目である。

避難生活、住宅再建、産業の復興などの現在の政策や法制度について学ぶことにより、被災から自分の命・生活を守ると共に、それらを説明できるようになり、周辺の人にも伝えられるようになることを目的とする。

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

< 到達目標 >

被災者の生活再建に必要な工夫・制度・法律を、講義、フィールドワークにて、学際的に把握することにより、平常時における生活や家族の持続性について考え、災害に備えるとはどういうことかを意識、知識を得ることを到達目標とする。

< 授業のキーワード >

災害救助法、災害弔慰金法、被災者生活再建支援法、義援金、災害対策基本法、激甚災害法

< 授業の進め方 >

コロナウィルス対応のため、授業の内容を調整しながら実施します。

講義、グループワーク、現地フィールドワーク等を取り入れて授業を進める。

「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を休日に行う。それには、4講義分を充当する。よって、大学の教室では、11講義である。現地フィールドワークの日程等については、講義の前半に伝える。

履修希望者は初回と2回目の授業に「必ず」出席のこと。受講上の諸注意事項（約束事・講義開催日の日程、現地フィールドワークの日程）、授業内小レポートの執筆・提出等についての規定について初回と2回目の授業で「一度だけ」詳しく説明しますので、必ず出席してください。

受講者の理解度により、講義を進めていく中で、各回のテーマや事例を若干変更する可能性があります。

#### <履修するにあたって>

小レポートは、議論を深めるため受講生同士で、各々書いた文章を見せ合あいます。小レポートを元に、発表や議論したり等を行うことがあります。

フィールドワークでは、被災した方等に出会います。震災の事を、真摯に受け止めることを基本とします。

#### <授業時間外に必要な学修>

小レポート（3回/15回中）を書くために、準備が必要な場合。（事前・事後学習各1時間程度）

#### <成績評価方法・基準>

授業内容の区切り（2～3週ごと）に、3回の小レポートを執筆していただきます。

講義最終日にを行います。

小レポート3回の得点（200点満点×3回）と授業内試験（400点満点）の合計点（1000点）を100点に圧縮して評価点とします。

小レポートは記述方式で、講義のテーマに沿って、自身の考えとの共通部分、相違点を、記述していただきますので、講義に出席することをお勧めします。

#### <参考図書>

災害対応ハンドブック（2016年5月法律文化社）

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

講義の概要と配点の説明

##### 第2回 被害軽減

避難対策・耐震補強等

##### 第3回 避難生活

災害救助法の種類の説明

##### 第4回 仮設住宅

仮設住宅の建設（立地・戸数・入居条件等）、事例紹介

##### 第5回 住まいの補修

補修の制度（金額、条件等）、事例紹介

##### 第6回 住まいの再建

再建の支援制度（金額、条件等）、事例紹介

##### 第7回 住まいの再建をシュミレーションしてみよう（演習）

生活再建カードゲーム（開発 弁護士 永野海氏）により、自分の再建をシュミレーションしてみる。

##### 第8回 仕事の再開

雇用者、雇用主への支援制度

##### 第9回 地震保険・住宅再建共済

兵庫県/兵庫県住宅再建共済制度等について

##### 第10回 災害時の法制度（上記以外）

被災自治体（地方財政）を支える法制度等

第11回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

第12回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク②（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク②（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

第13回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

第14回 上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

上記講義の途中で、「阪神・淡路大震災」現地フィールドワーク（1回/日）を祝・土・日曜日を使用して行う。日程等については、最初の講義で説明する。

第15回 授業内試験と答え合わせ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

法律学の基礎

笹川 明道  
-----

#### <授業の方法>

講義

#### <授業の目的>

私たちが暮らす社会では、自分が必要とする物を、その物を所有している人を見つけて、売買や賃貸借といった契約を結んで入手するのが一般的です。そうして自らの必要を満たしながら、自分自身の意思で自分自身の生活を築き上げています。すなわち、契約を用いて自らの生活を自らの意思決定で組み立てていく社会ということができます。そのような社会を「契約社会」と呼んだりし

ます。この契約社会を規律している法律がほかならぬ民法です。すなわち、国家の基本的な在り方を定めているのが憲法だとすれば、民法は社会の基本的な在り方を定める法律なのです。

この授業では、私たちが暮らす「社会」とそれを規律している「民法」について学びます。まず、私たちの暮らす社会の基本的な成り立ちについて民法の視点から学びます。また、私たちが暮らす社会には様々な問題が生起していますが、その中から民法と関係するいくつかの問題について学び、そうした問題の解決のために民法がどのように役立つかについても学びます。

本授業は、私たちの暮らす社会をより深く認識し、社会についての興味・関心を広げるとともに、私たちの社会を規律する民法の基本的事項を学ぶのが目的です。

この科目は、現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー1（知識・技能）に関連します。

<到達目標>

(1) 私たちが生活する社会がどのような社会であるかを民法の視点から説明することができる。

(2) 私たちが暮らす社会に生じた問題のいくつかについて認識を深め、また、それをどのように解決すべきかについて自分の意見を述べることができる。

<授業のキーワード>

民法、契約社会、私的自治、紛争解決

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めますが、理解を深めるためときどき受講者全員に対する発問をして、挙手による回答を求めることがあります。

<履修するにあたって>

六法を毎回持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

この科目では、予習・復習等のために1回の講義あたり4時間の講義時間以外での学修が必要です。予習・復習の割合および学修方法については、必要に応じて指示します。

<提出課題など>

・小テスト（マーク式）を計2回実施し、各回の当日に正答を掲示します。

・定期試験（マーク式および論述式の組み合わせ）を実施し、その当日に正答および解説を掲示します。

<成績評価方法・基準>

定期試験（約80%）および小テスト（約20%）で評価します。

<テキスト>

増成 牧・笹川明道 編 『ナビゲート民法：契約社会を賢く生きるための14章』

（北大路書房、2019年） ¥2,400 + 税（予定）

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション(1)

この授業の進め方、民法のあらまし

第2回 イン트로ダクション(2)

民法にかかわる具体的事例の紹介

第3回 契約(1)

教科書の「第2章 契約とは」にあたる部分の解説

第4回 契約(2)

教科書の「第3章 契約の成立」にあたる部分の解説

第5回 契約(3)

教科書の「第6章 人」にあたる部分の解説

第6回 契約(4)

教科書の「第4章 契約の履行(1)」にあたる部分の解説

第7回 契約(5)

教科書の「第5章 契約の履行(2)」にあたる部分の解説

第8回 契約(6)

教科書の「第5章 契約の履行(2)」にあたる部分の解説

第9回 契約(7)

教科書の「第7章 代理」にあたる部分の解説

第10回 物権(1)

教科書の「第8章 物権」、「第9章 物権変動」にあたる部分の解説

第11回 物権(2)

教科書の「第10章 債権の実現を確実にする諸制度」にあたる部分の解説

第12回 不法行為

教科書の「第11章 不法行為」にあたる部分の解説

第13回 親族(1)

教科書の「第12章 親族」にあたる部分の解説

第14回 親族(2)

教科書の「第12章 親族」にあたる部分の解説

第15回 相続

教科書の「第13章 相続」にあたる部分の解説

-----  
2022年度 後期

2.0単位

法律学の基礎

恩地 紀代子

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー1（知識・技能）に関連する。法的素養を身につけること、法的思考に基づいた説得力ある解決指針を示すことを目指す。行政法を初めて学ぶ学生を対象とし、行政法の全体構造を概観しながら、その基本と特徴を学ぶ。

<到達目標>

受講者が、行政法の全体構造を理解し、行政法の基礎概念、基礎用語、基本判例について、ひとつおりの説明ができるようになる。

<授業のキーワード>

行政法、行政法総論、行政救済法、行政行為、行政処分  
< 授業の進め方 >  
講義形式で行なう。なお、授業の進み具合、その他の状況により、授業計画の内容・順序を変更することがある。  
< 授業時間外に必要な学修 >  
事前学習として、教科書の該当部分を読んでおくこと（目安として1時間）。  
事後学習として、授業の内容を再確認すること（目安として1時間）。  
< 成績評価方法・基準 >  
定期試験（100％）による。  
< テキスト >  
恩地紀代子『入門・行政法（改訂四版）講義用テキスト』（2022年）丸善プラネット（神戸学院大学教科書販売書店・ブックカフェハオンで教科書販売期間扱）。  
< 参考図書 >  
斎藤誠・山本隆司『行政判例百選 ・ 〔第8版〕』有斐閣（2022年）  
< 授業計画 >  
第1回  
行政法の全体構造  
行政の意義、法律による行政の原理  
第2回  
行政組織  
行政上の法律関係、行政組織  
第3回  
行政行為（1）  
行政行為の意義  
第4回  
行政行為（2）  
行政行為の種類、行政行為の効力  
第5回  
行政行為の附款  
行政行為の附款と限界、附款の種類  
第6回  
行政裁量  
行政裁量の意義、種類、裁量権の踰越・濫用  
第7回  
瑕疵ある行政行為（1）  
職権取消と撤回  
第8回  
瑕疵ある行政行為（2）  
取消と無効、違法性の承継、瑕疵の治癒、違法行為の転換  
第9回  
行政行為以外の行政作用（1）  
行政立法、行政計画、行政契約、行政指導  
第10回  
行政行為以外の行政作用（2）  
行政強制、行政罰

第11回  
行政行為以外の行政作用（3）  
行政手続  
第12回  
行政不服審査法  
行政不服審査の意義、種類、不服申立の手続  
第13回  
行政事件訴訟法（1）  
行政事件訴訟の意義、種類  
第14回 行政事件訴訟法（2）  
取消訴訟の訴訟要件、行政事件訴訟の特色  
第15回 国家賠償法  
国家賠償の意義、国家賠償法1条・2条、国家賠償法の特色  
-----  
2022年度 前期  
2.0単位  
防災まちづくり論  
松山 雅洋  
-----  
< 授業の方法 >  
講義  
< 授業の目的 >  
(主題)  
本授業は現代社会学部のDPに示す、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の能力の習得に該当する。近年、地震、津波、豪雨による災害が多発し、多くの被害が発生している。これらの被害を軽減するには、都市の不燃化や防潮堤等のハードの取り組みと地域住民の自主防災活動等のソフトの取り組みが相互補完することによって達成できる。このことから、防災ものづくり、防災ことづくり、防災ひとづくりについて学び、防災まちづくりに関する知識、技能を習得することを目的とする。なお、この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防防災行政で実務経験のある教員である。実務経験を踏まえて分かりやすく解説する。  
< 到達目標 >  
1．まちづくりとは何かを説明できる。  
2．防災ものづくり、防災ことづくり、防災ひとづくりについて説明できる。  
3．まちづくりの支援技術が身につく。  
4．地域住民が責務を持って主体的に取り組む「減災のまちづくり」を考えることができる。  
< 授業のキーワード >  
防災ものづくり、防災ことづくり、防災ひとづくり  
< 授業の進め方 >  
知識が身に着くように実例示して授業を進める。  
授業の終わりに、各回の重要なテーマについて復習のための小レポートを提出することで、理解を深める。  
< 履修するにあたって >

講義の内容に関心を持ち、積極的に受講すること。mana baの使用方法を確認しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前事後学習に1時間程度。

< 提出課題など >

授業の理解度に関する小レポートを毎回実施し、次の授業時に総評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度20%、小レポート40%、課題レポート40%

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

シラバスの説明と授業の進め方。

第2回 まちづくりとは何か

まちづくりの概念と方法について学ぶ。

第3回 まちづくりの歴史

神戸市の事例からまちづくりの歴史を学ぶ。

第4回 総務省「まづくり大賞」に見る防災まちづくり  
防災まちづくり大賞から防災ものづくり、防災ことづくり、  
防災ひとづくりを考える。

第5回 復興まちづくり

行政主導だけではなく住民参加による防災まちづくりを考える。

第6回 自主防災組織と地区防災計画

自主防災組織による地区防災計画について学ぶ。

第7回 豪雨と防災まちづくり

豪雨災害と地域住民の取り組みについて学ぶ。

第8回 地震と防災まちづくり

地震と地域住民の取り組みについて学ぶ。

第9回 津波と防災まちづくり

津波と住民の「津波防災計画」について学ぶ。

第10回 災害時要配慮者と防災まちづくり

住民による災害時の障害者等への避難支援について学ぶ。

第11回 住民による避難所運営

住民による避難所運営について学ぶ。

第12回 まちづくり支援技術

ワークショップでの合意形成の技術等を学ぶ。

第13回 まちづくり支援技術

地域の防災力を知るー防災マップ作りの技法ーを学ぶ。

第14回 まちづくり支援技術

クロスロードゲーム等の様々な防災ワークショップを学ぶ。

第15回 総括

全講義の要点を確認し、防災まちづくりについての理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災教育学

船木 伸江、中嶋 洋子  
-----

< 授業の方法 >

「講義」、「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、社会防災学科のディプロマポリシー 1（知識・技能）、2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

災害が多発する現代社会において、防災教育の必要性は各方面で訴えられている。それと同時に、防災教育は、国、地方公共団体、学校をはじめ地域社会、防災関連施設等で活発に行われている。つまり、防災教育は様々な方面で開催され、年々、発展を続けているのである。防災教育とは、災害による被害から自分を守り、身近な人を守る、さらには地域社会で助けあう力を養うものである。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

< 到達目標 >

本講義では、防災教育の総体系、社会的位置づけを明確化し、理解を深めることを目的としている。具体的には、防災教育の基礎概念、過去の災害歴史と防災教育の変遷の関係、現在の防災行政における防災教育について学ぶとともに、学校や地域社会における防災教育の事例について学習する。防災教育の総体系、社会的位置づけを理解し、防災教育の複数事例を知る。

1. 防災教育の特性を理解する（知識）
2. 既存の防災教育教材について学び、それぞれの利点を知る（知識）
3. 既存の防災教育に足りない部分についての理解を深め、その解決に導く方法を考える（技能）

< 授業の進め方 >

授業は講義形式で進めていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に講義のテーマとなる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献度（30%）、小テスト（30%）、期末レポートもしくはテスト（40%）

< 参考図書 >

『夢みる防災教育 - 人間力・生活力・市民力』（晃洋書房）

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

本講座の概要と進め方

第2回 防災教育とは

現在の日本の防災行政と防災教育をなぜ学ぶ必要があるのか（阪神・淡路大震災～東日本大震災の事例とともに）

第3回 防災教育の歴史

近年の災害の歴史と防災教育の発展について理解する

第4回 防災文化と災害文化

社会、文化と深く結びついた災害・防災について学ぶ

第5回 地域と防災教育

地域における防災教育の取り組みを学び、現状と課題について理解する

第6回 学校と防災教育

学校における防災教育の取り組みを学び、現状と課題について理解する

第7回 防災教育の現状

地震や津波など災害のメカニズム理解を深めるとともに、どのように伝えるべきか考える。

第8回 防災教育の問題点

震災経験をどのように語り継ぐべきかについて現状と課題を理解する

第9回 防災教育プログラムのデザイン1

防災教育をどのように実践すべきか、地域社会の現状を踏まえ、どのような防災教育が行われているか、どのような防災教育が望ましいか考える

第10回 防災教育プログラムのデザイン2

防災教育をどのように実践すべきか、地域社会の現状を踏まえ、どのような防災教育が行われているか、どのような防災教育が望ましいか考える

第11回 防災教育の事例紹介

幼稚園向け防災教育の教材、手法を学ぶ（ぼうさいダック、防災紙芝居など）

第12回 防災教育の事例紹介

小学生向け防災教育の教材、手法を学ぶ（非常持ち出し袋を考える）

第13回 防災教育の事例紹介

防災ゲームクロスロード教材体験、手法を学ぶ

第14回 防災教育教材作成のコツ

クロスロードの問題作成を通じて防災ゲームクロスロードの理解を深める

第15回 防災教育ツールの効果的な授業への活用法

これまでの講義で学んだ防災教育の教材や事例をもとに、学校教育で活用する方法を学ぶ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

防災教育学

船木 伸江、岡田 夏美、杉山 高志  
-----

< 授業の方法 >

講義 演習（対面）

< 授業の目的 >

国や行政をはじめ、小学校、中学校、高等学校、地域社会において地域の防災力を向上させるべく防災教育の取り組みが行われている。しかし、防災対策に取り組むべきだと思っている人は多いが、災害への備えを「主体的」かつ「継続的」に行っている人は少ない。その背景として、防災教育を実施する側とされる側とが峻別・固定されていたり、使用される教材に限りがあったりとさまざまな課題が存在している。この授業では、防災教育学Iを踏まえ、防災教育における多くの課題をどのように改善できるか、どのように継続して実践していくかについて考えていく。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

< 到達目標 >

防災教育の課題を認識し、主体的かつ継続的に実践できる能力を育む

< 授業のキーワード >

主体性、ワークショップ、ゲーム、教育教材

< 授業の進め方 >

講義、ワークショップ、個人発表を中心に進める。

< 履修するにあたって >

毎回の学習、課題の積み重ねによって基礎的な知識と学習力を身につけます。防災教育の現状を楽しく、真剣に学びましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

関心を持った課題について自主的に深く調べる（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

授業参加・小レポート（40%）

期末レポート（60%）

< 参考図書 >

夢みる防災教育 晃洋書房

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

授業の進め方と内容の概要の説明

第2回 防災教育の現状と課題

ぼうさい甲子園や防災教育チャレンジプランを通じた防災教育の実践例 船木  
第3回 防災教育の現状と課題  
学校教育における防災テーマの学習の変遷と課題、克服のための実践 岡田  
第4回 防災教育の実践事例  
防災マップ作成活動を通じた、学校と地域が協働する地域防災活動 岡田  
第5回 防災教育の実践事例  
学校と家庭の間に存在する児童館で行われている防災教育活動と地域活動との連携 岡田  
第6回 防災教育の実践事例  
学校と家庭の間に存在する児童館で行われている防災教育活動と地域活動との連携 岡田  
第7回 防災教育の実践事例  
特別支援学級における防災教育のチャレンジ 船木  
第8回 学生が介在することによって成立した新しい防災教育  
高校生や中学生がスマホアプリ「逃げトレ」を使って要配慮者を一緒に行った避難訓練、その訓練を踏まえた上で学生が行政に避難環境の改善を提言した事例など 杉山  
第9回 地域住民に対する防災教育 1  
要配慮者対策として行う屋内避難訓練やお試し避難、訪問式の家具固定など 杉山  
第10回 地域住民に対する防災教育 2  
「まねっこ防災」をキーワードに水平展開される地域防災など 杉山  
第11回 海外の防災教育の事例 1  
日本とメキシコの中学生が合同で実施した遠地津波訓練をきっかけにした相互交流など 杉山  
第12回 海外の防災教育の事例 2  
JICA研修生と高校生が行う「未来へのメモワール」の防災授業など 杉山  
第13回 高齢化地域における防災活動の実践事例  
学校と地域が連携して防災活動を進めていた地域での学校閉校にともなう、学校閉校後の地域防災活動に対する新たな地域防災フレームワーク 岡田  
第14回 まとめとふりかえり  
防災教育の問題点を克服するために、問題解決の方途を探究し、その解決策を提案し、発表する  
第15回 今後の防災教育に向けて  
これまで講義で学んだ防災教育の実践法をふりかえり、今後は小学校、中学校、高等学校、地域社会さまざま現場（フィールド）でどのように活用するのかを考える

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災教材作成論

船木 伸江  
-----

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

この科目は、社会防災学科のディプロマポリシー 1（知識・技能）、2（思考力・判断力・表現力等の能力）に関連する。

防災教育副読本、DVD、防災かるた、紙芝居、絵本、カードゲーム、すごろくなど、防災を教えるための様々な教材がある。これらはどのような目的で作成されたのか、またどのようなことを伝えるのに適しているのか、本講義ではまずさまざまな防災教育の教材を調査し、教材の仕組みを理解する。そして、自分たちで伝えたい内容を伝える方法（防災教育教材）を作成するプロセスからさらに教材についての理解を深めていく。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から防災について理解を深めていく。

< 到達目標 >

様々な防災教育の特性を理解し、オリジナルの防災教育教材を作成する力をつける。

- 1．防災教育の特性を理解する（知識）
- 2．既存の防災教育教材について学び、それぞれの利点を知る（知識）
- 3．既存の教材に足りない部分を補うオリジナルの教材を作成し、相互に実践しあう（技能）

< 授業の進め方 >

授業は講義、ワークショップ形式で進めていく。

< 履修するにあたって >

防災教育学、防災教育学を受講していることが望ましい

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に講義のテーマとなる内容について図書や雑誌、メディアなどを通じて情報収集して授業に臨んでください。授業後は、授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問するなどしてください。なお、予習には1時間の学修を要する。

< 提出課題など >

各自が作成したレポート等

< 成績評価方法・基準 >

100%レポート課題による

< 授業計画 >

#### 第1回 授業ガイダンス

本講座の概要と進め方

#### 第2回 様々な防災教育の教材（副読本）

防災教育の主な教材について理解し、特に教育委員会が作成する防災教育副読本について学ぶ。

#### 第3回 様々な防災教育教材（ゲーム）

すごろく、かるたなどの教材の特性やどのような内容を伝えることに適している教材化を理解する。

#### 第4回 様々な防災教育教材（クイズ）

防災の授業では導入にクイズが取り入れられたりする。しかし、シチュエーション次第で対応行動が異なる（答えが異なる）防災ではクイズを作成するのは難しい。クイズ問題の作成方法やポイントの置き方を理解する。

#### 第5回 様々な防災教育教材（クロスロード）

災害時のジレンマをもとにしたクロスロードの質問は、表現を少し変えるだけでジレンマにならないこともある。既存の問題をもとに、どうしてジレンマとして各自が考えるのか問題の仕組みを理解する。

#### 第6回 防災教育の手法

学んだ教材の内容と方法論を整理し、テーマに適した教育法への理解を深める。

#### 第7回 教材作成を通じて学ぶ

教材を作るプロセスや実践を通じて防災教育の方法論の理解を深める。実際に、グループでオリジナルの方法論を用いた防災教育教材を考える。

#### 第8回 教材作成を通じて学ぶ

教材を作るプロセスや実践を通じて防災教育の方法論の理解を深める。実際に、グループでオリジナルの方法論を用いた防災教育教材を考える。

#### 第9回 地域で活用される教材

地域で行われている防災のイベントでどのような形で教材が取り入れられているかを学び、作成教材のアイデアに活かす。

#### 第10回 学校で活用される教材

学校教育の中で防災教育教材がどのように授業に取り入れられているかを学び、作成教材のアイデアに活かす。

#### 第11回 指導

作成した教材を、互いに発表しあうと共に、指導教員だけでなく地域や学校現場で防災教育に携わる人などから、現場で活用しやすい方法についてアドバイスを受ける。

#### 第12回 指導

作成した教材を、互いに発表しあうと共に、指導教員だけでなく地域や学校現場で防災教育に携わる人などから、現場で活用しやすい方法についてアドバイスを受ける。

#### 第13回 改訂

アドバイスを受けた点を改善し、教材の構成を検討しなおす。

#### 第14回 改訂

アドバイスを受けた点を改善し、教材の構成を検討しなおす。

#### 第15回 作成した教材の実践

作成した教材を相互に紹介しあい体験をし、最終版をレポートとしてまとめ完成品とする。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災行政学（法規含）

松山 雅洋  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

（主題）

この科目は社会防災学科のDP1知識・技能に関連する。防災行政学とは、国や、都道府県、市町村レベルの行政組織が、地震、豪雨、列車事故等の様々な災害・事故の危機に対し、どのような体制を構築し備え、またどのように対応しているのかを学び考える学問である。

本授業では、わが国の防災行政・危機管理行政・消防行政について、その制度・現状及びそれに関わる組織について、詳細に解説する。そしてこれらの行政分野が抱える課題及び解決策を学び理解することを目的とする。

なお、この科目の担当者は、総務省消防庁、兵庫県、神戸市の消防や危機管理部門の実務経験のある教員である。実務経験を踏まえ、わかりやすく解説する。

< 到達目標 >

防災・減災対策の制度の基本となる災害対策基本法の構造を理解する。

災害に対して取り組む国、都道府県、市町村の役割と責務を理解する。

住民、企業、ボランティアの役割と責務を理解する。

防災行政について、基礎的事項および専門的事項を習得し、地震や豪雨等の災害種別毎の課題と対応策を指摘できるようになる。

< 授業の進め方 >

知識が身につくように実例を示し、対話型も取り入れて授業を進める。

< 履修するにあたって >

災害報道に関心を持ち、積極的に調べること。manabaの使用方法を確認しておいてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前事後学習に1時間程度。

< 提出課題など >

授業の理解度に関する小レポートを毎回実施し、次の授業時に総評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度20%、小レポート40%、課題レポート40%

< 参考図書 >

生田長人「防災法」信山社 2013年 3,800円

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

シラバスの説明と授業の進め方。

第2回 災害対策基本法の構造

災害対策基本法の災害の定義と構造を学ぶ。

第3回 防災責任と防災関係組織

国、都道府県、市町村、指定公共機関等の責務について学ぶ。

第4回 防災計画と災害応急対策

国、都道府県、市町村の防災計画について学ぶ。

第5回 災害救助法

災害救助法の救助と避難について学ぶ。

第6回 災害復旧と災害復興

災害復旧と災害復興について学ぶ。

第7回 危機管理行政の制度

国、都道府県、市町村の危機管理行政を学ぶ。

第8回 消防行政の制度

消防法、消防組織法から消防機関の役割を学ぶ。

第9回 日本の豪雨対策

行政の豪雨対策を学ぶ。

第10回 日本の地震津波対策

行政の地震・大火・津波対策を学ぶ。

第11回 災害と広域応援体制

都道府県、市町村、消防、警察、自衛隊の応援体制について学ぶ。

第12回 防災行政と住民

コミュニティ行政と自主防災組織について学ぶ。

第13回 防災行政と企業

企業の防火管理体制、防災管理体制について学ぶ。

第14回 災害とボランティア

災害時のボランティアの位置づけと役割を学ぶ。

第15回 総括

全講義の要点を確認し、防災行政についての理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災史

前林 清和

-----  
< 授業の方法 >

講義とワークショップ（対面授業）ただし、9月20日（月）～10月2日（土）までは、リアルタイム（ZOOM）で行います。

< 授業の目的 >

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連する。

日本は、今も昔も大小さまざまな災害を受けてきた。国連大学が毎年出している「ワールドリスク報告書」によると、日本は災害に遭いやすい国として、常に世界の上位（二〇一七年四位、二〇一八年四位、二〇一九年九位、二〇二〇年は十位）にランキングされている。

わが国は、気候も地形も変化に富んだ美しい国であるが、同時に世界でも有数の災害多発国なのである。つまり、日本は自然災害に襲われやすく、その際の危険性も相当高いのである。その理由は、日本の地理的な位置と気候、地形などにある。

しかし、学校の社会や日本史の授業において、災害についてはほとんど習ってこなかった。なにより、日本の歴史書には、災害のことはほとんど扱われていない。大規模な災害なら、それだけで何万人と人が死に、いくつもの町が壊滅するのである。また、災害を被った後、人々が苦難を乗り越えて、復旧・復興を成し遂げて営々と歴史を刻んできた、その延長上に私たちが今生きているのにも関わらず、災害は歴史のなかから葬り去られてきたのである。しかし、この幾多の災害からの、復旧・復興の過程こそが、私たち日本人の文化や哲学の形成にかかわっているのである。

そして、なにより重要なことが、過去の災害を知ること、これからの災害に対応していく術を得ることができるからである。

このように考えると、過去にどのような災害と被害があり、その時、私たちの祖先はどのように考え、どのように対応したのか、ということを知ることが、今を生きる私たちがこれから起こるであろう災害を予測し、それに対してどのような考えをもって対処していくかを検討するために必要不可欠な情報なのである。地震や火山噴火、台風など、これから起こるであろう天変地異そのものは人間にはコントロールできない自然の脅威であるが、その未来の天変地異に備え、起きた時にどのように対応するかによって、その天変地異で引き起こされる被害を大きくも小さくもできるのである。つまり、未来は変えられるのである。ここに災害の歴史と思想を知る意義があるのだ。

本授業の目的は、日本の災害の歴史、その時々々の思想を知ることだけではなく、将来起こるであろう天変地異の際の被害を最小限に押さえ、少しでも明るい未来を創り出すための歴史的知識を得ることである。

< 到達目標 >

- 1、わが国の災害とその思想の歴史を理解することができる。（知識）
- 2、過去の災害と人間の関わりについて深く考えることで、自分自身の存在価値や他者の存在、社会への関わりについて防災の視点で捉えなおすことができる。（態度・習慣）
- 3、一つの課題について、みなで討論する能力が身に付

く。(技能、態度・習慣)

<授業のキーワード>

災害、歴史、思想

<授業の進め方>

テキストを使って授業をすすめる。また、テーマごとにワークショップを実施し、参加型授業を展開する。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの予習・復習、各2時間程度

<提出課題など>

レポート

<成績評価方法・基準>

授業に対する積極的な参加40%、レポート20%、確認テスト40%

<テキスト>

前林清和『日本災害思想史』神戸学院大学出版会 1800円

<授業計画>

#### 第1回 ガイダンス

授業の概要、進め方、評価の仕方などの説明、自己紹介、グループ作りなど

#### 第2回 古代の災害と思想1

わが国の古代における時代背景、主な災害、地震と天皇、菅原道真と地震について学ぶ。

#### 第3回 古代の災害と思想2

わが国の古代における災害と思想に関するワークショップを個人またはグループで行い発表する。

#### 第4回 中世の災害と思想1

わが国の中世における時代背景、主な災害、災害と武士、災害と無常観について学ぶ。

#### 第5回 中世の災害と思想2

わが国の中世における災害と思想に関するワークショップを個人またはグループで行い発表する。

#### 第6回 近世の災害と思想1

わが国の近世における時代背景、主な災害、江戸時代の災害観、武士道と社会貢献思想について学ぶ。

#### 第7回 近世の災害と思想2

わが国の近世における時代背景、災害と藩、災害と民間、濱口梧陵と「稲むらの火」、二宮尊徳の報徳思想について学ぶ。

#### 第8回 近世の災害と思想3

わが国の近世における災害と思想に関するワークショップを個人またはグループで行い発表する。

#### 第9回 近代の災害と思想1

わが国の近代における時代背景、主な災害、災害と支援、赤十字について学ぶ。

#### 第10回 近代の災害と思想2

わが国の近代における渋沢栄一、天譴論争、外国人から見た関東大震災と日本人について学ぶ。

#### 第11回 近代の災害と思想3

わが国の近代における災害と思想に関するワークショップを個人またはグループで行い発表する。

#### 第12回 現代の災害と思想1

わが国の現代における時代背景、主な災害、自助・共助・公助、ボランティア元年について学ぶ。

#### 第13回 現代の災害と思想2

わが国の現代における災害とCSR、災害と「心のケア」とい思想、被災者の倫理、受援の思想、持続可能な社会と防災について学ぶ。

#### 第14回 現代の災害と思想3

わが国の現代における災害と思想に関するワークショップを個人またはグループで行い発表する。

#### 第15回 総括

-----  
2022年度 前期

2.0単位

防災実習

安富 信  
-----

<授業の方法>

原則、対面授業とします。但し、新型コロナウイルスの感染状況が不確定であるため、訪問先の機関の受け入れ等がまだ決まらないので、訪問先は確定ではありませんし、訪問中止、順番変更もあります。コロナ感染が拡大して、対面授業が不可能になって場合は、オンライン（Zoom等）で行う場合があります。その際の、ID、パスワードなどはマナバでお知らせします。

なお、特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

も、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

ディプロマ・ポリシー3（グローバルな視野を有した一市民としての自覚と自ら成長し続ける意欲を有するとともに、価値観、意見、立場の異なるさまざまな人びとと議論し、学びを深め、協働して社会に貢献することが出来る）を身に付ける。阪神・淡路大震災から復旧・復興した神戸の街を現地調査したり、震災の教訓から生まれた各地の防災機関や施設を視察したりすることにより、将来起きる大災害に備える。読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

様々な現場を訪れることにより、教室では学べない現場の声を聞き、体験した方々の話を聞き、防災・減災への

学びを深くする。

< 授業のキーワード >

阪神・淡路大震災、復興、教訓

< 授業の進め方 >

複数個所の現場や施設を訪れるが、原則的にはその学びを確かなものにするために、適宜、振り返りとまとめの作業を行う。防災実習は3クラスあり、60人全員で訪れる施設とクラスごとに行く施設等がある。実習の進捗状況に応じて、内容の変更もある。

< 履修するにあたって >

校外の施設を訪れる場合は、学科ジャンパーを持参のうえ、ズボンかスカート（半ズボン、サンダル等は不可）。動きやすい服装で。シラバスは行く先の都合で変更することがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

最低1時間、予習、復習する。

< 提出課題など >

個人のレポートはA4で2000字以上（図と表は別）。レポートは評価付けをして返却する。

< 成績評価方法・基準 >

100%レポート課題による

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

この実習の進め方を説明し、自己紹介をした後、グループ分けする。

兵庫県災害対策センターなどの事前学習をする。

第2回 日本の防災体制を学ぶ

県の災害対策活動の中核を担う県災害対策センターで県の防災体制について学び、県警本部で警察の110番・交通管制システムを学ぶ。

第3回 日本の防災体制を学ぶ

振り返りと事前学習

第4回 阪神・淡路大震災の基礎を学ぶ

人と防災未来センターを視察する

第5回 阪神淡路大震災の基礎を学ぶ

振り返りと事前学習

第6回 日本の危機管理を学ぶ

神戸市危機管理室の振り返りと、次週訪れる予定の人と防災未来センターの事前勉強をする

第7回 日本の危機管理を学ぶ

振り返りと事前学習

第8回 日本の災害医療体制を学ぶ

兵庫県災害医療センターを視察し、災害時の医療体制を学ぶ

第9回 日本の災害医療体制を学ぶ

振り返りと事前学習

第10回 災害報道を学ぶ

翌週に訪れる神戸新聞社での学習に向けて、災害報道を学ぶ。

第11回 災害報道を学ぶ

神戸新聞社を視察し、阪神・淡路大震災の災害報道について学ぶ。

第12回 災害報道を学ぶ

神戸新聞社の振り返り

第13回 プレゼンテーションを作る

これまで学んだことをグループごとにプレゼンテーションにまとめる。

第14回 成果発表

学んだことをグループごとにプレゼンする

第15回 成果発表

学んだことをグループごとにプレゼンする

-----

2022年度 前期

2.0単位

防災実習

佐伯 琢磨

-----

< 授業の方法 >

実習を通して、知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

阪神・淡路大震災を経験した神戸に所在する、各種防災関係機関の現地視察を通じて、わが国の防災体制の一端を理解する。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

社会防災学科在籍中に持つべき防災に関する知識を、現地視察を通して学ぶ。

< 授業のキーワード >

現場から学ぶ。

< 授業の進め方 >

防災行政機関、企業、住民等の防災に関する取組について現地視察を行い、それぞれの役割や装備等について学び、その結果をワークショップを通して議論し理解を深める。

< 履修するにあたって >

原則的に校外の施設を訪れる場合の服装は学科ジャンパー持参、サンダル・半ズボンはNGです。集合時間は厳守してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に視察先について学習しておくこと。（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

【提出課題レポート】 A4 10.5ptサイズの文字 2,000字 程度 課題レポートは記述のポイントを解説する。  
<成績評価方法・基準>  
実習貢献度（プレゼンテーション）60%、レポート40%  
<授業計画>  
第1回 ガイダンス+事前学習  
シラバス説明と今後の授業の進め方、自己紹介とグループ作り。兵庫県災害対策センター・兵庫県警本部の事前学習。  
第2回 兵庫県災害対策センター・兵庫県警本部の視察  
兵庫県災害対策センター・兵庫県警本部の防災体制を学ぶ。  
第3回 振り返り+事前学習  
兵庫県災害対策センター・兵庫県警本部の振り返り、人と防災未来センターの事前学習。  
第4回 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターの視察  
阪神・淡路大震災の知識や経験が集約された人と防災未来センターで学ぶ。  
第5回 振り返り+事前学習  
人と防災未来センターの振り返り、神戸市危機管理室・神戸市消防局の事前学習。  
第6回 神戸市危機管理室・神戸市消防局の視察  
神戸市危機管理室・神戸市消防局の防災体制を学ぶ。  
第7回 振り返り+事前学習  
神戸市危機管理室・神戸市消防局の振り返り、兵庫県災害医療センターの事前学習。  
第8回 兵庫県災害医療センターの視察  
兵庫県災害医療センターの防災体制を学ぶ。  
第9回 振り返り+事前学習  
兵庫県災害医療センターの振り返り、神戸新聞社の事前学習。  
第10回 神戸新聞社の視察  
災害時の報道機関のあり方を、神戸新聞社で学ぶ。  
第11回 振り返り+事前学習  
神戸新聞社の振り返り、二葉地区防災福祉コミュニティの事前学習。  
第12回 二葉地区防災福祉コミュニティの視察  
二葉地区防災福祉コミュニティの防災体制を学ぶ。  
第13回 振り返り+発表準備等  
二葉地区防災福祉コミュニティの振り返り、発表準備。  
第14回 成果発表会  
学んだことをパワーポイントで発表する。  
第15回 成果発表会  
学んだことをパワーポイントで発表する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

防災実習

高原 耕平  
-----

<授業の方法>

実習（防災関連施設等の現地見学）、講義（事前学習）、演習（議論・発表形式によるふりかえり学習、最終報告）を組み合わせで行う。

<授業の目的>

社会における「防災」の実際の働きと課題を理解し、考え始めることを目的とする。

本授業は、学習の対象において社会防災学科のディプロマ・ポリシー1（知識・技能）に関連し、学習の実践において2（思考力・判断力・表現力等の能力）および3（主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度）に該当する。ただし2のうち、「解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる」ところまでは本授業は求めない。

なお担当教員は「人と防災未来センター」研究員として自治体災害対応の現地支援および自治体危機管理部署職員への研修等の実務経験のある教員であり、現実の災害対応の知見を講義に随時組み込む。

<到達目標>

「防災とは何か」という問いに対して、自分のことばで問いを掘り下げる。その問いに対して、他の受講生等と議論を重ねながら、暫定的な答えを出せる。その答えを出発点として、災害・防災に関する知識や技能や経験を構造化してゆくことができる。

<授業のキーワード>

防災と社会

<授業の進め方>

防災関連施設の「事前学習」「施設の現地学習」「ふりかえり学習」までをひとまとまりのセットとして行う。現地学習での経験を深めるため、事前学習・ふりかえり学習では、各施設・組織が担っている社会的な機能を読み取り、自分自身のことばで考え、説明する訓練を重ねる。

<履修するにあたって>

校外の施設を訪れる場合は、学科ジャンパーを持参のうえ、ズボンかスカート（半ズボン、サンダル等は不可）。動きやすい服装で。シラバスは行く先の都合で変更することがある。

<授業時間外に必要な学修>

各週の学習内容に関して、おおむね1時間ずつを目安として、大学附属図書館情報システムやCiniiやJstage等で文献を収集し、内容を確認すること。

<提出課題など>

各回授業後に、manaba上で小課題を課す。

最終報告会（第14-15回授業）では、グループごとに発表を行う。発表と教室内での質疑応答の直後に、着眼点・発表の筋立ての明晰性・質疑による論点の掘り下げ方などについて教員が指摘・指導を実施する。

最終報告後、個人レポート（2000字）を課す。

<成績評価方法・基準>

授業後の小課題（25%）、最終報告での発表内容（25%）、レポート課題（50%）により評価する。

なお本授業「防災実習」の名前のおり専門機関職員等の講演聴講や現地実習が重要であるため、これらの出席を評価の前提とする。

<テキスト>

指定しない。

<参考図書>

神戸市消防局「雪」編集部・川井龍介編『炎と瓦礫のなかで 阪神淡路大震災消防隊員死闘の記』旬報社、2012  
樽川典子編『喪失と生存の社会学 大震災のライフ・ヒストリー』有信堂、2007

河田恵昭『都市大災害 阪神・淡路大震災に学ぶ』近未来社、1995

塩崎賢明『復興 災害 - 阪神・淡路大震災と東日本大震災』岩波新書、2014

野田正彰『災害救援』岩波新書、1995

神戸新聞社編『守れいのちを 阪神・淡路大震災10年報道』神戸新聞総合出版センター、2005

今福龍太・鶴飼哲編『津波の後の第一講』岩波書店、2012

永野三智『みな、やっとの思いで坂をのぼる - 水俣病患者相談のいま』ころから、2018

李静和『つづやきの政治思想』岩波現代文庫、2020

R. J. リフトン『ヒロシマを生き抜く』岩波現代文庫、2009

その他、必要に応じて授業時間中に紹介する。

<授業計画>

第1回 初回ガイダンス

自治体防災1（事前学習）

授業全体の目標、班分け、各班の関心とテーマ設定、フィールドワークの方法など

第2回 自治体防災1（現地学習）

兵庫県災害対策センターの見学

第3回 自治体防災2（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義

基礎自治体における危機管理ミッションの具体的事例、日本の防災法制

第4回 自治体防災2（現地学習）

神戸市危機管理室の見学

第5回 ふりかえり学習事前学習

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義災害報道の役割、神戸新聞社の事例

第6回 災害報道（事前学習）

神戸新聞社の見学

第7回 災害医療（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
災害医療体制の変遷

第8回 災害医療（現地学習）

兵庫県災害医療センターの見学

第9回 災害伝承（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
災害伝承の社会史と課題

第10回 災害伝承（現地学習）

人と防災未来センターの見学

第11回 自治体防災3（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
災害時の消火・救出・救命の変遷（関東大震災、空襲、

阪神大震災など）

第12回 自治体防災3（現地学習）

神戸水上消防署の見学

第13回 ふりかえり学習

最終報告の準備

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
PPTの作成方法、発表の方法、準備議論

第14回 最終報告

各班が関心とテーマに沿って発表を行い、教室内で質疑  
応答を行う。

第15回 最終報告

各班が関心とテーマに沿って発表を行い、教室内で質疑  
応答を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災実習

伊藤 亜都子  
-----

<授業の方法>

現地調査、講義、グループワーク

対面と遠隔を併用

<授業の目的>

本科目は、現代社会学部のDPに示す思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度を見につけることを目指す。

阪神・淡路大震災、東日本大震災などこれまでの教訓に学び、今後想定される巨大災害の減災にむけた取り組みを考える。

実際に、復興まちづくりや災害対応にあたっている現場を調査し、お話を聞き、調査報告書を作成する。

現場を重視する実習であり、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

神戸の復興の進捗状況の視察、語り部体験などから減災力を身につける。

< 授業のキーワード >

現場に学ぶ、防災、復興まちづくり

< 授業の進め方 >

現場を視察して実際にお話しを聞き、グループごとに調査報告書にそれぞれをまとめていく。最後に調査報告会を実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習と復習、調査のまとめ

< 提出課題など >

グループごとのふりかえり調査報告、個人によるレポート（A4用紙2枚以上）。

< 成績評価方法・基準 >

実習に対する取り組み態度（40%）、グループごとに調査報告プレゼンテーションと調査報告書、（30%）、レポート（30%）

< テキスト >

特に指定しない

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

シラバス説明と今後の授業の進め方、自己紹介とグループづくり。

第2回 消防の災害時の活動を学ぶ（神戸市水上消防署）  
神戸市水上消防署で消火活動、救助活動、救急活動等の消防活動を学ぶ。

第3回 警察の災害時の活動を学ぶ（神戸水上警察署）  
神戸水上警察署で大災害時の警察の活動を学ぶ。

第4回 振り返り  
水上消防署、水上警察署で学んだことについて振り返り、まとめをおこなう。

第5回 語り部体験

「神戸市立本山第二小学校」視察と講話

第6回 語り部体験

「神戸市立本山第二小学校」まとめ

第7回 復興まちづくりの事例に学ぶ  
六甲道駅北地区（神戸市灘区）を調査し、震災当時の復興まちづくりの経緯についてお話を聞く。

第8回 振り返り

六甲道駅北地区の震災復興まちづくりと現在についてまとめる。

第9回 自衛隊の災害時の活動を学ぶ（自衛隊兵庫地方協力本部）  
自衛隊兵庫地方協力本部で、大災害時の自衛隊の活動について学ぶ。

第10回 振り返り

自衛隊兵庫地方協力本部で学んだことを振り返り、まとめを行う。

第11回 「稲村の火」に学ぶ

和歌山県広川町「稲村の火の館 津波防災教育センター

」視察調査

第12回 「稲村の火」に学ぶ

和歌山県広川町「稲村の火の館 津波防災教育センター」視察調査

第13回 振り返り

自衛隊、稲村の火について学んだことを振り返り、まとめる。

第14回 調査まとめと発表準備

調査発表会にむけて準備をすすめる。仕上げ、プレゼンのリハーサルなど。

第15回 成果発表

グループごとにパワーポイントで調査報告を発表する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災実習

佐伯 琢磨  
-----

< 授業の方法 >

実習を通して、知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

阪神・淡路大震災を経験した神戸に所在する各種防災関係機関のほか、過去の大津波の教訓を活かしている和歌山県の現地視察を通じて、わが国の防災体制の一端を理解する。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3（主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度）に関連する。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験における実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

< 到達目標 >

社会防災学科在籍中に持つべき防災に関する知識を、現地視察を通して学ぶ。

< 授業のキーワード >

現場から学ぶ。

< 授業の進め方 >

防災行政機関、企業、住民等の防災に関する取組について現地視察を行い、それぞれの役割や装備等について学び、その結果をワークショップを通して議論し理解を深める。

< 履修するにあたって >

原則的に校外の施設を訪れる場合の服装は学科ジャンパー持参、サンダル・半ズボンはNGです。集合時間は厳守してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に視察先について学習しておくこと。（事前・事後

学習各1時間程度)

< 提出課題など >

【提出課題レポート】 A4 10.5ptサイズの文字 2,000字程度 課題レポートは記述のポイントを解説する。

< 成績評価方法・基準 >

実習貢献度(プレゼンテーション)60%、レポート40%  
< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、事前学習

シラバス説明と今後の授業の進め方、自己紹介とグループ作り。水上警察の事前学習。

第2回 兵庫県神戸水上警察署の視察

兵庫県神戸水上警察署の防災体制を学ぶ。

第3回 振り返り+事前学習

水上警察の振り返り、水上消防の事前学習。

第4回 神戸市水上消防署の視察

神戸市水上消防署の防災体制を学ぶ。

第5回 振り返り+事前学習

水上消防の振り返り、大型商業施設の事前学習。

第6回 大型商業施設umieの視察

大型商業施設umieの防災体制を学ぶ。

第7回 振り返り+事前学習

大型商業施設の振り返り、自衛隊の事前学習。

第8回 和歌山研修(稲村の火の館ほか)

和歌山県広川町にある稲むらの火の館 津波防災教育センターで、稲むらの火で有名な浜口悟陵の功績と今なお語り継がれる防災の話について学びを深める。

第9回 自衛隊兵庫地方協力本部の視察

自衛隊兵庫地方協力本部の防災体制を学ぶ。

第10回 振り返り、これまでの視察について振り返りワークショップ

自衛隊の振り返り、これまでの視察で得たことを意見として出しあい、討論する。

第11回 これまでの視察について振り返りワークショップ

これまでの視察で得たことを意見として出しあい、討論する。

第12回 プレゼン資料作成

成果発表に向けて、これまで学んだことをパワーポイントにまとめる。

第13回 成果発表会

学んだことをパワーポイントで発表する。

第14回 成果発表会

学んだことをパワーポイントで発表する。

第15回 振り返り・総まとめ

振り返りワークショップを行い、今までの視察で得たことに対しさらに理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災実習

高原 耕平  
-----

< 授業の方法 >

実習(防災関連施設等の現地見学)、講義(基礎講義、事前学習)、演習(議論・発表形式によるふりかえり学習、最終報告)を組み合わせで行う。

< 授業の目的 >

社会における「防災」の実際の働きと課題を、「防災・災害対応・復旧・復興・伝承」の時間軸を視野に入れて理解し、考え始めることを目的とする。

本授業は、学習の対象において社会防災学科のディプロマ・ポリシー1(知識・技能)に関連し、学習の実践において2(思考力・判断力・表現力等の能力)および3(主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度)に該当する。ただし2のうち、「解決の方途を探究し、自らその解決策を実践することができる」ところまでは本授業は求めない。

なお担当教員は「人と防災未来センター」研究員として自治体災害対応の現地支援および自治体危機管理部署職員への研修等の実務経験のある教員であり、現実の災害対応の知見を講義に随時組み込む。

< 到達目標 >

「防災とは何か」という問いに対して、自分のことばで問いを掘り下げる。

その問いに対して、他の受講生等と議論を重ねながら、暫定的な答えを出せる。

その答えを出発点として、災害・防災に関する知識や技能や経験を構造化してゆくことができる。

また、防災に関するさまざまな課題について、自分自身の意見や参画の可能性を表明することができる。

< 授業のキーワード >

防災と社会

< 授業の進め方 >

防災関連施設等の「事前学習」「施設の現地学習」「ふりかえり学習」までをひとまとまりのセットとして行う。現地学習での経験を深めるため、事前学習・ふりかえり学習では、各施設・組織が担っている社会的な機能を読み取り、自分自身のことばで考え、説明する訓練を重ねる。

< 履修するにあたって >

校外の施設を訪れる場合は、学科ジャンパーを持参のうえ、ズボンかスカート(半ズボン、サンダル等は不可)。動きやすい服装で。シラバスは行く先の都合で変更することがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

各週の学習内容に関して、おおむね1時間ずつを目安と

して、大学附属図書館情報システムやCiniiやJstage等で文献を収集し、内容を確認すること。

< 提出課題など >

各授業後にmanabaで小課題を課す。

最終報告では各班の発表と教室での質疑応答の直後に、着眼点・発表の筋立ての明晰性・質疑による論点の掘り下げ方などについて教員が指摘・指導を実施する。

最終報告後に個人レポート（2000字）を課す。

< 成績評価方法・基準 >

ふりかえり学習の小レポート内容（25%）、最終報告での発表内容（25%）、期末試験（50%）により評価する。上記「提出課題など」のフィードバック項目に加えて、共通する評価基準として(1)関連施設や防災法制等に関する事実の正確な記述、(2)各施設・組織が担っている社会的な役割についての考察の深さと視野の広さ、(3)「復興」そのものについての考察の深さと現地学習との関係付け、以上を重視する。

< テキスト >

指定しない。

< 参考図書 >

神戸市消防局「雪」編集部・川井龍介編『炎と瓦礫のなかで 阪神淡路大震災消防隊員死闘の記』旬報社、2012  
樽川典子編『喪失と生存の社会学 大震災のライフ・ヒストリー』有信堂、2007

河田恵昭『都市大災害 阪神・淡路大震災に学ぶ』近未来社、1995

塩崎賢明『復興 災害 - 阪神・淡路大震災と東日本大震災』岩波新書、2014

野田正彰『災害救援』岩波新書、1995

神戸新聞社編『守れいのちを 阪神・淡路大震災10年報道』神戸新聞総合出版センター、2005

今福龍太・鶴飼哲編『津波の後の第一講』岩波書店、2012

永野三智『みな、やっとの思いで坂をのぼる - 水俣病患者相談のいま』ころから、2018

李静和『つばやきの政治思想』岩波現代文庫、2020

R. J. リフトン『ヒロシマを生き抜く』岩波現代文庫、2009

その他、必要に応じて授業時間中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 初回ガイダンス基礎講義

授業全体の目標、班分け、各班の関心とテーマ設定、フィールドワークの方法など

第2回 基礎講義

災害対応1（事前学習）

復興とは何か

災害時の救出・治安維持

第3回 災害対応1（現地学習）

神戸水上警察署の見学

第4回 災害復興（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
災害後の住宅供給について

第5回 災害復興（現地学習）

西宮市社会福祉協議会と復興住宅の見学

第6回 災害伝承1（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
民間運営の伝承・学習施設の特徴と課題

第7回 災害伝承1（現地学習）

野島断層保存館の見学

第8回 災害対応2（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
自衛隊の災害救助活動の特徴と歴史

第9回 災害対応2（現地学習）

自衛隊兵庫地方協力本部の見学

第10回 防災教育（事前学習）

前週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義  
地域に根ざした伝承と防災教育の課題

第11回 防災教育（現地学習）

ふたば学舎の見学

第12回 災害伝承2（現地学習）

稲村の火の館の見学

第13回 最終報告の準備

前週・前々週の現地学習のふりかえりと、補足事項の講義

PPTの作成方法、発表の方法、準備議論

第14回 最終報告

各班が関心とテーマに沿って発表を行い、教室内で質疑応答を行う。

第15回 最終報告

各班が関心とテーマに沿って発表を行い、教室内で質疑応答を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

防災実習

佐伯 琢磨

-----  
< 授業の方法 >

実習を通して、知識を習得する。

【連絡先（メールアドレス、LMS）】

下記「遠隔授業情報」欄のメールアドレス、あるいは、manabaで連絡をください。

< 授業の目的 >

関東地方に所在する各種防災関係機関の現地視察を通じて、わが国の防災体制の一端を理解する。この科目は社会防災学科ディプロマポリシー3(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)に関連する。

なお、担当教員は、損害保険やリスクコンサルティング業界における実務経験のある教員である。業務経験にお

ける実践的な事例を盛り込んだ授業を行う。

<到達目標>

社会防災学科在籍中に持つべき防災に関する知識を、現地視察を通して学ぶ。

<授業のキーワード>

実際の防災施設から現場感覚を養う。

<授業の進め方>

防災行政機関等の防災に関する取組について現地視察を行い、それぞれの役割や装備等について学び、その結果をレポートにまとめ理解を深める。

<履修するにあたって>

実習は、夏期休暇期間中（8月ごろ）に、関東エリアの各施設で行います。

その際の宿泊交通費は、学生各自で負担することになります。

<授業時間外に必要な学修>

事前に視察先について学習しておくこと。（事前・事後学習各1時間程度）

<提出課題など>

提出課題など

【提出課題レポート】 A4 10.5ptサイズの文字 2,000字程度 課題レポートは記述のポイントを解説する。

<成績評価方法・基準>

実習貢献度 レポート

<授業計画>

第1回 ガイダンス、事前学習（1）

授業内容についてのガイダンス、および見学予定の施設に対する事前学習を行う。

第2回 事前学習（2）

見学予定の施設に対する事前学習を行う。

第3回 施設見学：そなエリア東京（1）

東京・有明に所在する内閣府の防災施設である「そなエリア東京」を見学する。

第4回 施設見学：そなエリア東京（2）

東京・有明に所在する内閣府の防災施設である「そなエリア東京」を見学する。

第5回 施設見学：そなエリア東京（3）

東京・有明に所在する内閣府の防災施設である「そなエリア東京」を見学する。

第6回 施設見学：首都圏外郭放水路（1）

東京および埼玉にまたがる地域の水害を防ぐために建設された「東京外郭放水路」を見学する。

第7回 施設見学：首都圏外郭放水路（2）

東京および埼玉にまたがる地域の水害を防ぐために建設された「東京外郭放水路」を見学する。

第8回 施設見学：首都圏外郭放水路（3）

東京および埼玉にまたがる地域の水害を防ぐために建設された「東京外郭放水路」を見学する。

第9回 施設見学：白鬚東防災団地、および東京都慰霊堂（1）

1923年関東大震災の際に火災旋風により多くの犠牲者を出した跡地に建てられた「東京都慰霊堂」、および市街地火災の延焼を防ぐ目的で作られた「白鬚東防災団地」を見学する。

第10回 施設見学：白鬚東防災団地、および東京都慰霊堂（2）

1923年関東大震災の際に火災旋風により多くの犠牲者を出した跡地に建てられた「東京都慰霊堂」、および市街地火災の延焼を防ぐ目的で作られた「白鬚東防災団地」を見学する。

第11回 施設見学：白鬚東防災団地、および東京都慰霊堂（3）

1923年関東大震災の際に火災旋風により多くの犠牲者を出した跡地に建てられた「東京都慰霊堂」、および市街地火災の延焼を防ぐ目的で作られた「白鬚東防災団地」を見学する。

第12回 施設見学：防災科学技術研究所（1）

茨城県つくば市に所在する「防災科学技術研究所」で防災に関する講義を受け、耐震および降雨に関する国内最大級の実験施設を見学する。

第13回 施設見学：防災科学技術研究所（2）

茨城県つくば市に所在する「防災科学技術研究所」で防災に関する講義を受け、耐震および降雨に関する国内最大級の実験施設を見学する。

第14回 施設見学：防災科学技術研究所（3）

茨城県つくば市に所在する「防災科学技術研究所」で防災に関する講義を受け、耐震および降雨に関する国内最大級の実験施設を見学する。

第15回 振り返り、まとめ

上記の施設見学についての振り返り、およびまとめを行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災情報研究

添田 孝史、川西 勝、安富 信  
-----

<授業の方法>

講義、実習

<授業の目的>

この科目は、学部のDPに示す防災に係る社会的諸問題を学際的かつ科学的に把握するとともに、自らその解決策を実践する力を習得することを目指している。

減災に欠かせない「情報」について、デマとパニック、災害報道、リスク、安否情報などの切り口から、その捉え方を学ぶ。後半では、原子力防災についての知識を習得し、県や市レベルの地域防災計画における原子力等防災計画編が理解できるようになることを目的とする。

なお、この科目は、実務経験のある教員が担当する。前半が読売新聞記者を30年以上務めた川西、後半は元朝

日新聞記者でジャーナリスト歴30年以上の添田が担当する。具体的な災害現場の取材事例を交えて、より分かりやすく防災情報の取り扱いについて解説したい。

<到達目標>

1. マスメディアによる災害報道について、情報とはなにか、防災情報、デマとパニック、リスクと情報、適切な安否情報の発信や伝達という観点から、自分の言葉で説明できる。

2. 代表的な原発事故である東京電力福島第一原子力発電所の事故の概要について説明できる。

3. 原子力災害時の防災情報におけるバイアスや、メディアの問題について、過去の事例を引いて具体的に説明できる。

4. 突発的な大災害に際し、情報を総合的に検討し、適切な行動を選択することができる。

<授業のキーワード>

災害リスク、災害報道、デマ、パニック、原子力災害

<授業の進め方>

基本的に講義中心で進める。教材の記事やビデオを見て受講生からの意見や疑問点について自発的な発言を求める。放射線測定装置を使った環境放射線計測の簡単な実習もする。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、講義の対象となる参考書の該当部分や、記録映像に目を通しておくと理解しやすい。(目安として1時間)

事後学習として、講義の対象となった配布記事、レジュメを復習し、参考とされた過去の災害について自分で再確認すること(目安として1時間)

<提出課題など>

毎回の授業時に、出席カードを提出してもらう。カードに記載されたことに対して、次の授業時に、総評などを行う。

前半の川西担当授業の終了時に中間レポート、添田の授業終了時に期末レポートを提出してもらう。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言や出席カードの記載内容(40%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)

<参考図書>

『記者は何を見たのか 3.11東日本大震災』(2011、読売新聞社、中公文庫)

『止まった刻(とき) 検証・大川小事故』(2019、河北新報社報道部、岩波書店)

『原発と大津波 警告を葬った人々』(2014、添田孝史、岩波新書)

『東電原発事故 10年で明らかになったこと』(2021、添田孝史、平凡社新書)

『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』(2020、吉田千亜、岩波書店)

映画『Fukushima50』(2020 若松節朗監督)

ノンフィクションドラマ『チェルノブイリ』(2019 ヨハン・レンク監督)

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本講義を担当する川西と添田の紹介と、全講義のスケジュールについて説明する。

第2回 情報とメディア

講義の出発点として、情報とは何か、その概略を把握する。情報を伝達し、社会に伝えるメディアの働きについても知る。

第3回 防災情報 気象情報を中心に

予報、警報や避難指示など、専門機関は災害による被害を軽減するため、様々な防災情報を出している。気象情報を中心に、防災情報の内容と働きを学ぶ。

第4回 デマとパニック

災害時にはデマ(流言)が発生することが多い。デマの発生、伝播を、災害情報や社会心理と関係づけて理解する。パニックと情報の関係についても考察する。

第5回 災害報道

マス・メディアによる災害報道について、求められる働き、活字と放送による違い、取材の問題点などの観点から考える。

第6回 災害報道

災害取材の現場で、記者たちは何を考え、どう行動しているのか。現場における実践的な活動の実態と、記者たちの葛藤を知る。

第7回 リスクと情報

私たちは様々な情報を通じてリスクを感知しているが、リスクを適切に認知し、回避行動につなげるのは難しい。リスクと情報について、社会心理の観点から学ぶ。

第8回 命を救うための情報・報道

前半のまとめとして、東日本大震災における宮城県石巻市立大川小学校の悲劇を

題材に取り上げ、防災に求められる情報、報道のあり方を考える

第9回 神戸と原発

京阪神地方は約1800万人が住んでいる世界10位の人口集中地帯である。その100キロ圏内には15基も原発がある。地震多発地帯でもあることから、京阪神は世界で最も原発事故リスクの大きな地域と考えられている。もし事故が起きたらどんな被害が予想されるのだろうか。兵庫県が策定した原子力等防災計画をもとに、福島原発事故と比べながら、大学の所在地である神戸市における災害イメージの概要をつかむ

第10回 被曝と避難の基本

原発事故の被害でもっとも怖いのは放射線による被曝である。放射線が人体に影響を及ぼす仕組みや、強さの度合いを示す線量の測り方、兵庫県や神戸市におけるモニタリングの現状について学ぶ。被曝リスクの大きさを、

他の健康リスクとの比較からも考えてみる。簡単な線量測定の実習もする。

#### 第11回 福島で防災計画はうまく働いたのか

東電福島事故では防災計画が十分機能せず、原発周辺の病院の患者がすぐに避難できず放置されて数十人も亡くなったり、近隣住民が高い放射線量のもとに数日間さらされ続けたりした。防災計画のどこに問題があったのか、それは解消されたのかを検証する。

#### 第12回 福島は安全、それとも危ない？風評被害とは何か

現在の福島の環境は、どの程度の健康リスクがあるのだろうか。子どもの甲状腺がん多発は、どう考えると良いのか。「食べて応援」に、なぜ賛否があるのか。災害にともなう風評被害とは何か。

#### 第13回 役に立たなかったジャーナリズム

事故の十数年前から地震の研究者は福島に大津波が起きる可能性を警告していたのに、原発事故を防ぐことはできなかった。新聞やテレビは、なぜそれを見逃してしまっただろうか。そして事故発生後もメルトダウンしている状況や、深刻な汚染状況を報道することが遅れ、「大本営発表」と揶揄された。防災情報を担わなければならない報道は、なぜ失敗したのか、その問題点を探る。

#### 第14回 福井の原発は大丈夫か？

福井県にある高浜、大飯、美浜、敦賀の原発群が、再稼働の手続きを進めている。原発の安全対策や、万一事故が起きた場合の防災計画は十分なのだろうか。具体事例を取り上げて見ていきたい。

#### 第15回 原発のメリットとコスト

世界の原発や再生可能エネルギーの現状を取材した映画「日本と再生」の短縮版（34分）を鑑賞し、原発のメリットとデメリットについて話し合い、これから原発とどのように付き合っていくのか考える。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

防災心理学

矢守 克也

-----  
< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

東日本大震災をはじめ、近年、国内外で頻発する自然災害をうけて、「防災」と並んで、「減災」という用語が盛んに用いられるようになった。「防災」が、地震動など自然の災害因そのものに働きかけ、その予測・制御を試みるのに対して、「減災」は、たとえば、防災教育の実施、避難所の適切な運営、被災者への支援など、事前・事後の施策を通して、災害因による人間や社会への衝撃を低減化しようとする。よって、「防災」がほぼ純粹に自然科学の領域に属しているのに対して、「減災」

には、自然科学だけでなく、心理学をはじめ、人文・社会科学が大きく関与することになる。本講義では、講義担当者が専門とする社会心理学、グループ・ダイナミックスの研究と減災研究とをリンクさせて論じる。具体的には、講義担当者が防災・減災実践の領域で実施したアクションリサーチと、その理論的あるいは実践的基盤となった社会心理学やグループ・ダイナミックス関連の著名な研究とをセットにして講義する。グループごとの討論、映像資料の鑑賞とそれに関する共同討議、および、ゲーミングなどのワークショップを多用するので、それらに積極的に参加することを期待する。

この科目は社会防災学科ディプロマポリシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)に関連する。

< 到達目標 >

本講義では、防災・減災実践の領域で実施したアクションリサーチと、その理論的あるいは実践的基盤となった社会心理学やグループ・ダイナミックスについて、グループごとの討論、ワークショップを通じて理解を深めることを目的とする。

< 授業のキーワード >

防災 減災 グループ・ダイナミックス アクションリサーチ

< 授業の進め方 >

講義に加え、グループごとの討論、映像資料の鑑賞とそれに関する共同討議、および、ゲーミングなどのワークショップで授業を進める

< 授業時間外に必要な学修 >

社会心理学やグループ・ダイナミックス関連の著作を読む

災害、防災に関する情報を習得する

(予習1時間、復習1時間程度)

< 提出課題など >

レポートなど(授業内に、課題に関する解説を行う)

< 成績評価方法・基準 >

レポートを中心に評価する。グループワークにおける意見や活動も評価対象とする。

レポート65% 授業内の質疑、発表など35%

< 参考図書 >

矢守克也・諏訪清二・船木伸江 『夢みる防災教育』 晃洋書房 2007年刊 行矢守克也(著) 『アクションリサーチ』 新曜社 2009年刊行 ¥2900矢守克也(著)

『防災人間科学』 東京大学出版会 2009年刊行 ¥3800矢守克也(著) 『増補版：生活防災のすすめ - 東日本大震災と日本社会』 ナカニシヤ出版 2005年刊行 ¥1300

矢守克也他(編著) 『ワードマップ：防災・減災の人間科学』 2011年刊行 ¥2400矢守克也・吉川肇子・網代剛(著) 『ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション：クロスロードへの招待』 ナカニシヤ出版 2005年刊行 ¥2100

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

授業の目的、進め方について説明する

第2回 心理学研究1

スモールワールド研究

第3回 防災・減災研究1

共助とソーシャルキャピタル、被災地間交流

第4回 心理学研究2

(実習)鏡読実験 - 他者になることの身体的基盤

第5回 防災・減災研究2

ボランティアと被災者理解

第6回 心理学研究3

集団意思決定:「十二人の怒れる男」と(実習)「NASAゲーム」

第7回 防災・減災研究3-1

ゲーミングを活用した防災教育(実習:「防災ダズン」)

第8回 防災・減災研究3-2

ゲーミングを活用した防災教育(実習:「クロスロード」)

第9回 心理学研究4

ナラティブアプローチと「ワンダフルライフ」

第10回 防災・減災研究4-1

「語り部グループ1995」の活動

第11回 防災・減災研究4-2

イベント「災害メモリアルK0BE」の概要

第12回 心理学研究5

教育/学習とは何か:実践共同体論にもとづいて

第13回 防災・減災研究5

生活防災と災害文化

第14回 防災教育の現状と課題

学校現場の課題:防災教育の手法にもとづいて

第15回 被災地の現状と課題

津波被災地の現状と課題:避難訓練トライアルの試みから

-----  
2022年度 後期

1.0単位

ボランティア・インターンシップ

中村 恵  
-----

< 授業の方法 >

実習、講義(対面授業)

< 授業の目的 >

社会における活動は労働や経営等何らかの対価を得ることを目的とした活動だけではなく、自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する多くの行為、すなわちボランティア活動からも成り立っている。本授業の目的は、ボランティア活動に参加することを通じて、参加する団体が取り組んでいる課題の社会的背景を理解し、実践的な課

題を発見することです。また、活動中に会おうさまざまな人とのコミュニケーションを通じて多様な価値観を学ぶと同時に主体的に課題に取り組む力を養うことを狙いとします。本科目は現代社会学部のDPが示す(1)現代社会の多面的、総合的な理解、と(2)諸課題の発見・把握及びその解決策の探求と実践を育成することを目指します。本科目は実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

- ・自らが関心をもつ社会的課題に取り組む非営利組織に主体的に参加し、自主的に受入団体と話し合って、みずから参加する活動内容を決めることができる。
- ・自分が参加する団体が取り組んでいる課題の社会的背景を理解し、団体の活動の意義を第三者に説明することができる。
- ・ボランティア活動を通じて実践的な課題を発見し、解決策を考えることができる。
- ・ボランティア活動中に出会う様々な人と円滑にコミュニケーションをはかり、多様な価値観を尊重し、協調し合いながら、主体的に課題に取り組むことが出来る。

< 授業の進め方 >

1. 履修条件 原則として2019年4月から2021年3月までの間に60時間以上、非営利で社会貢献活動や事前活動に取り組んでいる組織(注1)でボランティア活動に従事した学生が履修できる。
2. 履修登録 ボランティア・インターンシップIと同様に後期に履修登録を行う。
3. 受入団体 原則として学生が、非営利で社会貢献活動や慈善活動に参加している組織を選び、ボランティア・インターンシップ運営委員会での承認を経て、活動に参加する。
4. 事前・事後研修 事前研修、事後研修は実施しない。ボランティア活動後はボランティア・インターンシップIと同じ要領で活動日報と事後レポートを提出する。

< 履修するにあたって >

ボランティア・インターンシップIIは、原則として履修者である学生が、自主的に受入団体を選び、主体的に受入団体と活動内容について話し合う。これを履修するためには、5月中旬までに参加申込書を提出し、学部ボランティア・インターンシップ運営委員会の承認を受けなければならない。  
なお、活動の最中で何らかのトラブルが生じた場合は、学生の指導教官とボランティア・インターンシップ運営委員が、実習助手の協力を得ながら対応する。

< 授業時間外に必要な学修 >  
インターンシップの振り返り・反省・準備、事前レポート作成、事後レポート作成などを含めて、15週合計で30時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

- ・受け入れボランティア団体に関する事前レポートの作成・提出
- ・ボランティア活動中の活動日報
- ・ボランティア活動後の事後レポート

提出されたレポート等については、事後報告会において講評を行う

< 成績評価方法・基準 >

単位認定は、

2018年6月1日から2019年1月13日までの間に学部ボランティア・インターンシップ運営委員会に承認を受けた受け入れ団体で60時間以上の活動に参加するとともに、

( 1 ) 受入団体に関する事前レポート ( 運営委員会に提出 ) ・ ・ ・ 10%

( 2 ) ボランティア活動後の事後レポート ・ ・ ・ 10%

( 3 ) 受入ボランティア団体からの活動に対する評価 ・ ・ ・ 80%

によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方について説明します。

第2回 活動前の準備

担当教員に、自分の参加する団体の活動の意義などを説明し、活動計画を話し合う。

第3回 受入団体での研修

それぞれの受入団体におけるボランティアの役割について理解を深めます。

第4回～第14回 受入団体での研修

ボランティア活動に参加します。

第15回 事後報告会

自らの活動を振り返り、他の学生と自分の経験を共有します。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ボランティア論

江田 英里香

-----  
< 授業の方法 >

【授業の方法】

授業は、「対面」で実施します。

授業の前半は、前回の授業のフィードバックや質問に対する回答を中心にを行います。

授業の後半は、テキストを利用して授業を行います。テキストの内容を補足的にお話しますので、ノートをとるようにしてください。

授業の最後には、その日の授業に対するショートレポートをオンライン ( manaba ) にて提出していただきます。

【中間レポート】

中間レポートを課しますが、レポートの提出後は学生同士がお互いのレポートを読み合う回を設けます。自分のレポートの書き方を客観的に見て、レポートの書き方そのものを学んでいただくことが狙いです。

< 授業の目的 >

私たちの社会において、ボランティアの役割が大きくなってきています。しかし、実際にボランティア活動を行うには、敷居が高く感じたり、何をすればよいのかわからないということが少なくありません。そこで、本講義では、実際にボランティア活動に参加するための準備として、ボランティア活動について基本的な定義や役割、その種類などを学びます。

また、実際に自分たちの周りにあるボランティア活動を探し、自分たちができることを考えることで、ボランティア活動の社会的役割を理解します。

本科目は社会防災学科ディプロマポリシー1(知識・技能)に関連します。なお、本科目は実務経験のある教員であること、実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

ボランティアについての定義や歴史など基本的な知識を取得する。

ボランティアがなぜ必要とされているのかを理解する。

ボランティアを自分たちで企画することによりよりボランティアについての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ボランティア活動、地域社会、コミュニティ

< 授業の進め方 >

テキストを中心とした講義形式の授業となります。受講の際には、メモやノートを取りながら理解を深めていきます。

< 履修するにあたって >

事前にテキストをご用意ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

実際に個人でボランティア活動に参加する機会があればとても良いと思います。

なければ、どの様なボランティアがあるのか、授業の事前・事後学習に各1時間程度充てて学習をしましょう。

< 提出課題など >

授業後のショートレポート

中間レポート

最終レポート

これらに対するコメントは授業内にて随時フィードバックします。

<成績評価方法・基準>

授業後のショートレポート 40%

中間レポート 30%

最終レポート 30%

以上を総合的に評価します。

<テキスト>

『ボランティア解体新書』江田英里香編、2019年、木立書店

\*テキストをもとに授業を実施しますので、準備をしてください。

<参考図書>

随時指定します

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

全15回の授業の概要説明を行います。

第2回 ボランティアとは

ボランティアの定義や歴史などの基本的な知識を学びます。【ボランティアとは】

第3回 ボランティアとは

ボランティアが求められている私たちの社会の現状を紐解いていきます。

第4回 ボランティアと幸福

ボランティアがなぜ求められているのか学びます。

第5回 ボランティアと宗教

ボランティアと宗教にどのような関りがあるのか検討します。

第6回 ボランティアと歴史と現状

ボランティアの歴史と現状について検証します。

第7回 ボランティアの種類

どのようなボランティア活動があるのか検証します。

第8回 ボランティア活動を調べてみよう！

ボランティア活動について調べてまとめます。【ワーク】

第9回 ボランティアと民主主義

ボランティアの成り立ちを海外の事例から検討します。その上で、ボランティア活動における「公共性」について検証します。

第10回 ボランティア教育

ボランティア教育がどのように行われているのか、海外の事例も取り入れながら検討していきます。

第11回 ボランティアとやりがい搾取

ボランティアの無償性や有償ボランティアについて、またボランティアにおけるやりがい搾取について検討します。

第12回 ボランティアと教育

ボランティア教育について、学校でボランティア活動を実施することの意味について検討します。【ボランティアと教育】【ボランティアの事前事後】

第13回 ボランティアと災害

災害時におけるボランティア活動について検討します。

【ボランティアと防災】

第14回 大学生のボランティア

学生が自分たちでできるボランティア活動を考えます。

第15回 ボランティアと国際協力

国際協力におけるボランティア活動について検証します。

【ボランティアと国際協力】

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ボランティア論 (災害ボランティアの方法)

吉橋 雅道  
-----

<授業の方法>

スクリーンでPPTを使った講義形式で行います。また動画なども時々活用します。

<授業の目的>

昨今、気候変動などの影響で日本国内だけでなく世界各地で災害が多発しています。このような状況で国などによる公的援助だけでは到底被災者すべてを救う事は不可能です。そこでボランティアの役割が非常に重要になってきます。

本科目では、ボランティア、特に災害ボランティアについての基礎地域や国内外でのボランティアの現状などを学び、学生にできる事、学生にしかできないボランティアのあり方を考えます。そして来る災害に備えた防災・減災、そしてボランティア活動を担う人材の育成をめざします。

この授業を通して災害やボランティアの専門的かつ基礎的な知識を身につけます。

また、ボランティア活動において重要である対象者（被災者）とのコミュニケーションの手法や重要性を学び、豊かな人間関係を築けるようにします。

また、ボランティア論を学ぶことで人が人を支える社会の重要性や災害時の助け合いが人間的な成長につながり、学生自身が社会貢献を担う一人であることを意識付けしていきます。

なお、本科目の講義内容は、1995年の阪神・淡路大震災以降、27年間、国内外の災害現場で

ボランティア活動に従事してきた教員自身の経験と実践を元に構成しています。

<到達目標>

ボランティアの歴史、意義、あり方、現状などの基礎知識を学びます。そして学生という立場を活かしたボランティアのあり方を共に考え、災害が起きた際には何かし

らの行動を起こせるような人材を育成していきます。

< 授業のキーワード >

ボランティア、災害、国際協力、NGO

< 授業の進め方 >

講義形式を基本に授業を進めますが、随時、学生に質問を投げかけていきます。また、随時、経験豊かなゲストスピーカーなども迎え、ワークショップなども取り入れていきます。

< 履修するにあたって >

私語禁止。原則、遅刻は認めない。

< 授業時間外に必要な学修 >

実際にNGOやNPOを通じて被災地でのボランティア活動に参加することが望ましいです。また、ボランティアに関する推薦文献を読むことなど。

< 提出課題など >

各回のコメントカードやレポートなどの提出

< 成績評価方法・基準 >

各回のコメントカードの内容約70%

その他、レポートや質疑応答などで総合的に評価します。

< テキスト >

「震災被災者と足湯ボランティア」吉椿雅道、他共著（2015 生活書院）

「災害から一人ひとりを守る」吉椿雅道、他共著（2019 神戸大学出版）

「暮らしのアーキズム」松村圭一郎（2021 ミシマ社）

\* 購入の必要はありません。読みたい方はお貸しします。

< 参考図書 >

「災害ボランティアの心構え」村井雅清（2011 ソフトバンク新書）

「KOBEB災害救援」CODE（神戸新聞総合出版センター）など

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

全講義15回の内容を説明すると同時に学生の知りたい、聴きたい内容を聴き、講義に活かします。

第2回 災害ボランティアについて

ボランティア（災害）の起源、歴史、意義、現状を学びます。

第3回 災害ボランティアセンターについて

災害ボランティアセンターの現状、役割、課題を学びます。

第4回 避難所運営とボランティア

避難所におけるボランティアの役割、存在について考えます。

第5回 避難所ワーク「HUG」

避難所運営ゲームを使って、避難所での役割を考えます。

第6回 復興支援とボランティア

復興期におけるボランティアの役割について学びます。

第7回 足湯ボランティアとは

阪神・淡路大震災の時に始まった足湯ボランティアについて知り、被災者への傾聴やコミュニケーションにあり方を学びます。

第8回 災害ボランティアのネットワーク

ボランティア・NGO・NPOのネットワークの変遷や現状について解説します。

第9回 ボランティアとコミュニティ

災害時におけるボランティアとコミュニティについて学びます。

第10回 海外のボランティア

フィリピンの台風災害を事例に現地のボランティアや助け合いを考えます。

第11回 海外のボランティア

中国四川大地震を事例に、中国のボランティア元年の動きを学びます。

第12回 海外のボランティア

災害多発国でもあるイタリアを事例に、現地のボランティアの状況を学びます。

第13回 ボランティアと若者・働き方

ボランティアにおける若者の役割、そして働くことについて考えます。

第14回 災害とジェンダー

災害時に起きるジェンダーの問題について考えます。

第15回 NGOとボランティア

NGOとNPOの本質的な違い、そしてボランティアとのかかわりについて考えます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

マーケティング

日高 謙一  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目は前期に開講されている「消費と流通」の授業を受け、マーケティングに関する基礎的知識を習得することを目的とする。DP1の知識や技能の獲得を目的としている。マーケティングは様々な経営機能のうちの一つであり、その特徴は市場（顧客）との対話（コミュニケーション）を起点として経営目標を達成することにある。こうしたマーケティング発想は経営戦略の中心に位置づけられており、営利・非営利を問わず非常に重要な経営機能である。

< 到達目標 >

組織を取り巻くマーケティング環境を分析するための知識を習得する。

マーケティングの基本的なフレームワークを説明できる。学んだ知識やフレームワークを活用してマーケティング計画書等の企画案を作成することができる。

#### < 授業の進め方 >

主として講義形式で進める。情報の整理・振り返りのための時間を何度か設ける。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

情報量が多い授業であり各回1時間以上の復習は必要である。それに加えてミニレポート作成やテスト勉強に合計5時間程度の時間外学修が必要である。

#### < 提出課題など >

ミニレポートは授業の振り返りを目的とし、中間テスト、定期試験は理解度の確認を目的とする。ミニレポートはトピクスごとに随時行い、授業内で解説とコメントを行う。中間テストは授業の進み具合によって1回あるいは2回行う。中間テストについては授業時間内で解説する。

#### < 成績評価方法・基準 >

ミニレポート(30%)、中間テスト(30%)、定期試験(40%)で評価する。

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

講義の概要、進め方、評価の方法及び時間外学習のための文献を紹介する。また、マーケティングの理論やフレームを学ぶ前に、マーケティングのキーコンセプトについて学ぶ。

##### 第2回 マーケティングの基本フレーム

マーケティングでは「市場」をどのようにとらえるかを学んだのち、マーケティングのSTPCと呼ばれる基本的フレームを学ぶ。

##### 第3回 市場はどのような顧客で成り立っているのか

第2回の基本フレームを理解したことを前提に、多様な顧客を分類する手法及び実践知を学ぶ。

##### 第4回 顧客のロイヤルティ

顧客をその購買履歴から分類する手法を学び、それぞれの顧客に対しどのようなマーケティング戦略をとりうるかを考察する。

##### 第5回 消費者をどう理解するか

消費者の購買行動を、購入前、購入時、購入後と広くとらえ、そこにはいくつかのプロセスが存在していることを学ぶ。その上で、各プロセスにおいて消費者の認知や行動に強く影響を与える要因について学び、その消費者ごとの違いがとるべきマーケティング戦略に違いをもたらしていることを理解する。

##### 第6回 消費者インサイトのとらえ方

消費者の行動の背後にある認識の複雑さを洞察する(非論理的に見える行動なども含め)ことの重要性を理解し、明言されないニーズを探索するいくつかの手法を学ぶ。

##### 第7回 提供物の価値とは何か

提供物(製品やサービス)の価値は何かを考え、製品コンセプトを開発するフレームを学ぶ。その上で、製品や企業のおかれている環境によってどのような製品コンセ

プトが望まれるか戦略的対応方法を学ぶ。

##### 第8回 中間振り返り

これまでの回で学んだ知識を確認し、定着させるため、中間テストとその解説を行う。

##### 第9回 ブランド

ブランドとは何か理解し、ブランド価値の次元やブランド価値を高める戦略について学ぶ。

##### 第10回 価格の意味

売手、買手にとっての価格の意味を理解する。特に、売手にとって価格は利益に大きなインパクトを与えるマーケティング戦略変数であることを理解する。

##### 第11回 価格はどのように決定されるのか

需要、消費者の価格に対する認知、競争、コストなどの価格決定において考慮しなければならない要因と価格設定方法を学ぶ

##### 第12回 マーケティング・コミュニケーション

コミュニケーション目標を達成するために、複数のコミュニケーション・チャンネルを用いる。例えば、広告はコミュニケーション・チャンネルの1つである。コミュニケーション目標設定の考え方とそれぞれのコミュニケーション・チャンネルの特性を理解する。

##### 第13回 マーケティング・コミュニケーション

コミュニケーション・チャンネルの中でも特に広告で用いられる各メディアの特徴と広告戦略について学ぶ。

##### 第14回 流通チャンネル

マーケティング・チャンネルの中の流通チャンネルの役割を理解し、消費者に製品を届けるための経路の設計と管理手法を学ぶ。

##### 第15回 全体の振り返り

情報量の多い授業であるため、講義全体を通じて学んだ知識の体系を整理確認する。加えて、本講義では扱えなかった課題と独習のための参考文献を紹介する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

マスコミ論

安富 信

#### < 授業の方法 >

原則対面授業とします。

わからないことがあれば、直接メール(yasutomi@css.kobegakuin.ac.jp)で聞いてください。

なお、特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)

も、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

ディプロマ・ポリシー1(社会科学および人文科学を中

止とした学際的な学修を通じて、現代社会で起こりうる災害に対する事前の備えや、事後の社会的混乱の最小化を実現するための専門知識を身につけ活用することができる)を身に付ける。

今の学生たちは新聞をほとんど読まない。新聞を読むことは、文章の読解力を付けるための必要最小限の方法だと認識しているので、ゆゆしき現状だ。新聞を読まない学生たちに、1日10分でもいいから新聞を読む時間を作ってほしい。そのために、新聞を楽しく読める方法、新聞の構成、新聞づくりの現場や裏話なども講義で話す。こうした新聞の基本を知ったうえで、文章を書いてみたり、見出しについて考えてみたりして、文章のリテラシーを向上させたい。災害報道の重要性を占めるラジオのニュースも聴いて、理解してもらおう。新聞のほか、テレビやラジオなどが国のマスコミ業界の現状を知ってもらうために、適宜、マスコミの現場で働く外部講師をお招きすることもある。インターネット全盛時代の今、新聞、テレビ、ラジオの存在意義を考えたい。

読売新聞大阪本社記者としての実務経験のある教員で、デスク時代に阪神・淡路大震災を経験し、その後、災害担当編集員として、神戸の街を見続けてきたことと、それによって培われた人脈が、この授業に大いに生かされており、実践的教育から構成される授業科目である。

#### <到達目標>

少なくとも毎日10分間は新聞を読む習慣を身に付け、その日のニュースについて、解説できるくらいの力と、A4 1枚のレポートを簡単に書ける力を身に付ける。

#### <授業のキーワード>

新聞、テレビ、ラジオ、インターネット、SNS

#### <授業の進め方>

授業の入りは、今日・昨日のニュースから始めたい。多くの学生にニュースの解説をしてもらう。その中から重要なニュースを選び細かく解説する。途中、NHKラジオの14時のニュースを聴き、要点をまとめて発表してもらおう。そのうえで適宜、新聞、テレビ、ラジオの歴史と現状、課題を学び、レポート用紙などを使ってニュースの断面や新聞の見出しなどについて考え、書くこともする。日本の、世界のニュースを出来るだけビビッドに伝えたいので、必ずしもシラバス通りに進まないことが多い。情報を如何に見るか、フェイクニュースに騙されないように、政権のファクトチェックも紹介する。

#### <履修するにあたって>

新聞記者の体験をもとに、出来るだけ現場に近い話をしたい。また、知人にテレビやラジオ関係者もいるので、余裕があれば、講師として招きたい。

#### <授業時間外に必要な学修>

自宅や下宿でも出来るだけ、新聞を読み、テレビを見て、ラジオを聴くなどの予習、復習を最低2時間する。

#### <提出課題など>

適宜、レポート提出を求め、最終日には、講義ノートを提出してもらい、評価付けして返却する。

#### <成績評価方法・基準>

100 %レポート課題による

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

本講座の概要と進め方

##### 第2回 マスコミとは

新聞、テレビ、ラジオなどの種類とその成り立ち

##### 第3回 新聞を読もう 読み方

1日10分で新聞を読む方法

##### 第4回 新聞を読もう 歴史

どうやって新聞は出来るのか

##### 第5回 新聞を読もう 見出し

新聞を読んで見出しを考えてみよう

##### 第6回 新聞を読もう 意見

今日の新聞で一番気に入った記事を選んで、所感を述べてみよう

##### 第7回 新聞を読もう 作文

新聞的な文章で自分のPRメッセージを書いてみよう

##### 第8回 テレビメディアと災害報道

テレビはどんな災害報道を出すのか

##### 第9回 ラジオメディアと災害報道

災害時のラジオの役割は

##### 第10回 FMコミュニティーラジオの役割

災害時のコミュニティーFMラジオが果たす役割

##### 第11回 阪神・淡路大震災とマスコミ

阪神・淡路大震災でのマスコミはどうだったのか

##### 第12回 東日本大震災とマスコミ

東日本大震災でのマスコミ報道はどうだったのか

##### 第13回 南海トラフの巨大地震とマスコミ

近い将来必ず来ると言われている南海トラフの巨大地震に対し、マスコミはどうしているのか

##### 第14回 マスコミの浮沈を賭けた戦い

インターネットに押されて斜陽化するマスコミ、果たして存在感を示すことができるのか

##### 第15回 振り返り

全14回で学んだ日本のマスコミについて語り、ノートを点検する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

マスメディアと文化

岩本 茂樹  
-----

#### <授業の方法>

対面による講義形式

(ただし、新型コロナウイルスの儒教次第で、オンデマンドになることもある。その場合は、シラバスへの追加、manabaへの連絡をします)

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

#### < 授業の目的 >

本講義科目は、現代社会学科における専門科目内の「地域と文化」の領域に位置づけられている。マスメディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけではなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えている。そのことから、まず日常におけるコミュニケーションに着目し、現代社会学科ディプロマ・ポリシー 2 に準じて、マスメディアが発信する文化の形成に係る諸問題を科学的かつ社会的に発見・把握するとともに、その解決の方途を探求することを目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、より実践的な観点からメディアと文化について解説するものである。

#### < 到達目標 >

マスメディアが発信するコンテンツから、現代社会の問題や人間の生き方、文化を読み解くことを通して、文化の発信するマスメディアと受け手である消費する側との重層的な文化構成過程を学び、説明することができる。

#### < 授業のキーワード >

メディア、ファッション、シンボル

#### < 授業の進め方 >

講義中心の授業を進めるが、授業後に学んだ内容についての意見を求め、次回の授業でフィードバックする双方向型の授業を展開する。また、文学作品や、映画なども取り入れて、深みのある授業にしたいと考えている。

授業形態は対面による講義形式

ただし、新型コロナの状況でオンデマンド（オンライン）の授業となった場合は以下のURLとなる。

Zoomミーティングの参加は以下のものです。

<https://zoom.us/j/2671218210?pwd=Mkpnc2MzYnQyOHdCNGRZd3Y1TW5Qdz09>

ミーティングID: 267 121 8210

パスコード: 083349

#### < 履修するにあたって >

授業計画に沿って進めるが、受講生から授業にかんするコメントを求め、次回の授業でフィードバックを行うため、講義計画が若干変更する場合がある。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

メディアや文化に関心を持って授業にのぞんでほしいことから、新聞などのニュースは事前に吸収しておくこと。

また、授業で採り上げる文学作品などは読んでもらいたい。

なお、教科書と連動した授業、また課題があるため、教科書を読んで予習なり復讐をしてください。

#### < 提出課題など >

回によって、授業後に授業内容についてのコメント・レポートを提出すること。

なお、コメント・レポートについては、授業を通してフィードバックする。

なお、フィードバックによる双方向の授業を進める関係で、予定の変更が生じる場合があるため、授業中のアナウンスと合わせてマナバの掲示をしっかりと確認してください。

#### < 成績評価方法・基準 >

授授業内の小テスト(80%) レポート(・コメント(20%))

\* テストは教科書のみ持ち込み可

レポートは教科書からの課題

#### < テキスト >

岩本茂樹『コミュ障のための社会学 - 「生きづらさ」の正体を探る』中央公論新社、2022年（1500円+税） [3月刊行予定]

#### < 参考図書 >

岩本茂樹『自分を知るための社会学入門』中央公論新社、2015年

岩本茂樹『思考力を磨くための社会学』中央公論新社、2018年

#### < 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義目的、評価方法等について説明する

第2回 異性からの告白：ホント/ウソ

メッセージの内容とその内容に隠れた意味を考える。

第3回 ボディランゲージ

私たちの身体表現によるメッセージの裏に潜む文化を理解する。

第4回 流行

ファッションを主とした流行現象を社会学的なアプローチで考える。

第5回 社会の先取り

初めてのデートもこなせるのはどうしてなのか。マスメディアと私たちの成長との関係を考える。

第6回 セクシーさとは

セクシーなしぐさや行為を通して、しぐさに刻まれた文化を学ぶ。

第7回 映像を読み解く(1)

映像を視聴することを通して人間の行為とその意味解釈を考える。

第8回 映像を読み解く(2)

映像を読み解くことから、意味解釈の理論について理解

する。

#### 第9回 シンボルに動かされる

シンボルによる欲望などの現象を、映像を視聴しながら考える。

#### 第10回 社会的人間になるために

文学を通して、人間の社会化について学ぶ。

#### 第11回 私探しゲーム

文学を通して、現代社会のアイデンティティの揺らぎを考える。

#### 第12回 欲望のメカニズム

文学作品の世界から、人間の欲望について考える

#### 第13回 文化の抵抗

受け手である消費者側のマスメディア文化への抵抗について考える

#### 第14回 三角関係の世界

<授業内テスト>

文学の世界にえがかれた人間社会について整理する。

#### 第15回 授業全体の整理

これまでの講義内容を振り返る

-----  
2022年度 後期

2.0単位

マネジメントの基礎

日高 謙一、田中 健一  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

DP1の知識の獲得を目的とするが、本講義科目は専門基礎科目に属し、現代社会学科、社会防災学科の両学科の学生が履修する科目であることを考慮し、マネジメントの体系だった知識の習得というよりも、営利か非営利かを問わず事業を行う上で理解する必要がある組織のマネジメントの要点を学ぶことを目的とする。なお、この科目の担当者（田中）は、実務経験のある教員であり、小売店における売り場づくりや消費者の行動について実践的な観点から解説する。

<到達目標>

組織マネジメントの概要を説明できる。

組織とそれを取り巻く環境の関係を分析できる。

実務の現場で起きる様々な問題点を解決するための思考法を身につけることができる。

<授業のキーワード>

組織のビジョン、組織と個人、事例研究、マネジメントの実務

<授業の進め方>

本講義は2名の教員が担当し、主に講義形式で授業を進める。まず、マネジメントの基礎知識を講義し、その後身近な企業の事例を紹介する。最後に実務の現場でマネ

ジメントの知識を活用する方法を講義する。

<履修するにあたって>

企業事例を紹介するので経済ニュースなどにも目を配ること

<授業時間外に必要な学修>

知識を整理するための復習や小テスト、ミニレポートに各回1時間程度の学修が必要である。

<提出課題など>

ミニレポートまたは小テスト（計3回）を課す。

ミニレポートまたは小テストは授業内容の振り返りを目的とするものである。小テストはmanabaで行い、正答と解説は回答締め切り後にmanabaで公開し、ミニレポート課題は授業内で評価のポイントを解説する。

<成績評価方法・基準>

小テスト及びミニレポート3回（各回20%の配分）、定期試験（40%の配分）を総合して評価する。

<テキスト>

特になし

<授業計画>

#### 第1回 ガイダンス

講義の主題、進め方、評価方法に関するガイダンス、組織運営においてマネジメントが何故必要なのかを解説する。（担当：日高謙一）

#### 第2回 マネジメント理論の展開

代表的なマネジメント理論と、個別のマネジメントの領域を概観し、以降の講義の準備をする。（担当：日高謙一）

#### 第3回 マネジメントの基礎知識

企業の使命と事業の定義について解説する。（担当：田中健一）

#### 第4回 マネジメントの基礎知識

組織作りと人材育成方法について解説する。（担当：田中健一）

#### 第5回 マネジメント・サイクル

マネジメントの運営と計画・実行・評価・改善サイクルについて解説する。（担当：田中健一）

#### 第6回 事業を定義する

一度は行った事があるであろう身近な存在の「サイゼリア」。国内外で1300店舗以上の巨大レストランチェーンである。巨大レストランチェーンをどのように運営をしているのか。299円のミラノ風ドリアに込められた戦略・マネジメント手法を解説する。（担当：田中健一）

#### 第7回 目標を設定するために

超高級素材を使用しながらも低価格で提供する「俺のフレンチ」「俺のイタリアン」等を運営する俺の株式会社。低価格販売でありながら、利益を生み出すことが出来るマネジメント方法を解説する。（担当：田中健一）

#### 第8回 新しいマーケットを創る

低価格帯のホームファニッシング（家具、ホームファッション）というジャンルを作り出したニトリ。それを生み

出す事が出来たSPAのマネジメント方法を解説する。(担当: 田中健一)

#### 第9回 消費者ニーズを把握する

誰もが持っている「ユニクロ」。ユニクロのマネジメント方法だけでなく、ブランド戦略などについても紹介する。また、ユニクロだけでなく、今後の日本のアパレル業界はどのような方向性に進むのか等も解説する。(担当: 田中健一)

#### 第10回 マーケティングとイノベーション

経営危機から復活したUSJ。ジェットコースターが逆向きに走るアトラクションからハリーポッターエリアオープンまでの流れに注目し、そこで行われていたマネジメントを解説する。(担当: 田中健一)

#### 第11回 戦略計画

2016年末に発売された「Amazon Dash Button」等、次々と新しいサービスを提供し、消費者の購買行動に変化を起こし続ける、Amazon。新サービスを次々と提供できるAmazonのマネジメント方法を解説する。(担当: 田中健一)

#### 第12回 実務でのマネジメント運用方法

企業の最も重要な要素は「人」である。いかにしてやる気を引き出すか、成果に対する評価をどのようにするか。業種毎のマネジメント手法を紹介する。(担当: 田中健一)

#### 第13回 実務でのマネジメントの運用方法

実務を行う際、全てが上手く進むとは限らない。様々なリスクを想定しながら事業を行っていくリスクマネジメントについて紹介する。(担当: 田中健一)

#### 第14回 Webマネジメント

現代のビジネスではWebの活用は最重要項目である。Webサイトの運営方法や評価手法について説明し、SNSの活用法なども取り上げる。(担当: 田中健一)

#### 第15回 全体振り返り

今までの14回の講義を振り返り、学んだ知識を整理した上で、今後の実務で重要となるであろうマネジメント課題を紹介する。(担当: 田中健一)

-----  
2022年度 前期

2.0単位

メンタルヘルスの基礎

浜中 恵美子  
-----

< 授業の方法 >

・ 講義 ・ 演習 ・ 実習

< 授業の目的 >

現代社会は多様で複雑な健康課題を抱えている。この社会にあって過不足なく他者とコミュニケーションを交わし、健康な人間関係を維持していくことは決して容易なことではない。

WHOは日常的に起こるライフイベントやさまざまな危

機において、より建設的で効果的に対処する方法をライフスキル(心理的社会能力)として提案している。

本講座は従来のメンタルヘルス(ストレス対処)を超えて 自己肯定感の形成 意思決定能力

自己認知能力 対人関係能力 他者に対する共感的理解 危機的な災害、非常時において相応しい対応できる能力などのスキルが受講生の相互活動(ワーク)によって自然に身に着くよう構成した。

この科目は現代社会学科と社会防災学科のディプロマシー2(思考力・判断力・表現力等の能力)とディプロマシー3(主体性を持って多様な人びとと共同して学ぶ態度)に関連する。

授業の担当者は、大学、企業、外資系企業、病院、金融機関、官公庁などで、教育やカウンセラー、メンタルヘルスアドバイザーなど20年以上の実務経験のある教員で、より実務的な視点から 解説するものといえる。

< 到達目標 >

メンタルヘルスの基礎知識を習得することができる。

・ ストレス社会がつくるさまざまな「心の病」について習得する。

・ 物事の捉え方や考え方によりストレスが変化していく身体のメカニズムを理解することができる。

・ 気持ちが落ち込んだ時、ネガティブな感情に振り回されず「折れた心」を育て上手にストレス

と付き合うストレスコーピングを習得することができる。

・ ものの見方や捉え方が一面的になりがちなこと気づき、多様な考え方をするための基礎を

身につけることができる。

・ ストレス環境を上手に乗り越えるための認知行動療法、レジリエンス、マインドフルネスの意

味や考え方が理解できるようになる。

・ 災害、危機的な状況において他者を支援することを習得する。

・ 自己肯定感を高め、生き方やキャリアを変容させるスキルを習得する。

・ 自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができる。

・ これからの人間関係を肯定的に捉え、可能性に満ちた学生生活のきっかけにすることができる。

< 授業のキーワード >

・ ストレス・コーピング ・ レジリエンス ・ 認知行動療法 ・ アクティブリスニング

・ 自己肯定感 ・ アンガ マネージメント ・ セルフケア ・ マインドフルネス

< 授業の進め方 >

・ ワークシートの課題や事例をとおして自己のメンタルヘルスを理解する。

- ・参画型体験学習も取り入れる。

<履修するにあたって>

- ・積み上げ授業のため、全日程の参加を望む。
- ・主体的な参画を望む。
- ・状況により日程、授業内容を変更する場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

- ・自己のストレスを知り、セルフケアできるように学習する。
- ・授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけていく。
- ・日常会話の中でアクティブリスニングを意識化し身につけて行く。
- ・日ごろからボランティア活動（災害支援において被災者など）のメンタルヘルスの支援ができるよう心がける。

<提出課題など>

- ・授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

1. 授業に取り組む姿勢を評価 70%  
（・授業に積極的な参画 30% ・課題ワーク、発表 40%）
2. 課題レポート（30%）、などを総合的に評価する

<テキスト>

- ・ワークシート、資料などをmanabaで配布します

<授業計画>

第1回 イントロダクション

- ・メンタルヘルスの概要
- ・授業の考え方、ねらい、進め方、グランドルール、評価について

第2回 メンタルヘルスのストレス理論と身体のメカニズム

- ・健康の定義とメンタルヘルス ・今日の社会現象とストレス
- ・WHOによるメンタルヘルスの考え方 ・わが国のメンタルヘルス
- ・ストレス理論
- ・ストレスが及ぼす身体のメカニズムについて

第3回 ライフイベントにおけるメンタルヘルス

- ・ライフイベントとは ・ライフイベントが及ぼす影響
- ・さまざまなライフイベントを理解し、それに及ぶストレスを確認する。

第4回 COVID-19とメンタルヘルス

- ・COVID-19とは ・免疫系のメカニズムについて
- ・コロナ禍が与える免疫系への影響について
- ・集団感染と心理的影響

第5回 ストレスと精神疾患

- ・ストレスが一要因となって起こる「心の病」について理解する

- ・「心の病」への対応、早期発見・早期対処
- ・事例から学ぶ

第6回 青年期特有のストレス

- ・ストレスが一要因となって起こる青年期特有のメカニズムを理解する
- ・青年期特有のさまざまなストレスを理解する
- ・事例から学ぶ

第7回 依存症とメンタルヘルス

- ・依存症とは ・依存症のメカニズム
- ・さまざま依存症について理解する
- ・事例から学ぶ

第8回 ハラスメントとメンタルヘルス

- ・さまざまなハラスメントを理解する ・ハラスメントと人権
- ・ハラスメントが及ぼす影響 ・ハラスメント対策
- ・ハラスメントの事例

第9回 ストレスマネジメントとストレス・コーピング

- ・ストレスマネジメントとは
- ・上手くストレスと付き合う対処法であるストレスコーピングを理解する
- ・自己のストレスコーピングを確認する
- ・他者とストレスコーピングをわかち合う
- ・自律訓練法、マインドフルネスなどの方法を体験する

第10回 ストレスマネジメントとマインドフルネス

- ・マインドフルネスとは
- ・マインドフルネスとアウェアネスについて
- ・自律訓練法、マインドフルネスの方法を体験する

第11回 レジリエンス

- ・レジリエンスとは
- ・ネガティブな感情に振り回されずコントロールできる
- ・レジリエンスの考え方を理解し、建設的な考え方や生き方を促進する

第12回 認知行動療法とメンタルヘルス

- ・認知行動療法とは ・自動思考とスキーマ
- ・さまざまな思考の歪みを確認する。非合理の「思い込み」を理解する。

第13回 認知行動療法とメンタルヘルス

- ・アンガ マネージメント「怒り」について理解する
- ・ネガティブな感情に振り回されずコントロールする考え方を理解する。

第14回 災害、危機のメンタルヘルスと支援

- ・災害、危機のメンタルヘルスについて考える
- ・災害の状況、身体状況、心理状況、環境の変化等、様々な視点から分析する
- ・ボランティア活動をする人、支援者のメンタルヘルスを考える
- ・コミュニケーションの弊害について

・「聴く力」「対話する力」「観る力」「身体表現」  
第15回 これまでのふり取りと今後に向けて  
これまで学んだこと体験したことを総括し、今後の活動の方向性を確認する。

第17回

第18回

-----  
2022年度 前期

2.0単位

ものづくり論

日高 謙一

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

「マネジメントの基礎」、「マーケティング」を基礎に、新たな価値を創造するものづくりの要点を学ぶ。ものづくりに関する知識の獲得（DP1）、およびものづくりの未来を科学的に予測する思考力の獲得（DP2）を目的とする。生産現場における品質管理から、顧客ニーズの変化や経済社会環境の変化をとらえた新製品やサービスのコンセプト開発、そして個人による少量生産のトレンドまで、広範囲のものづくりについて学ぶことを目的とする。

< 到達目標 >

大量生産におけるものづくりの要点を説明することができる。

ものづくりの新たなトレンドを知り、ものづくりのアイデアを考えることができる。

< 授業の進め方 >

講義形式を基本とするが、履修者数によってはワークショップや発表を組み合わせる授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習に1時間レポート作成に合計15時間の時間外学修が必要である。

< 提出課題など >

3回のレポートと適宜小テストを課す。それらについてのフィードバックはe-learningシステムを活用して行う。

< 成績評価方法・基準 >

レポート（75%）、小テスト（25%）によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的、授業計画及びレポート課題について説明し、参考文献を紹介する。

第2回 「ものづくり」とは何か

「ものづくり」という言葉が意味するものは何か？「ものづくり」とは製品設計情報の創造、転写、発信であるという理論を紹介し、ものづくりとマーケティングの関わりについて解説する。

第3回 生産プロセス

工程流れ図、生産プロセスにおけるボトルネックと制約理論について講義する。受講者数によってはワークショップを通過してこれらを学ぶ。

第4回 生産現場の管理

生産現場におけるインプットとアウトプットについて説明し、以後の講義で取り上げる生産現場管理の個別領域について概説する。

第5回 生産性管理と工程管理

生産性という概念を説明し、生産性を向上させる方法をヒト、モノ、設備、方法のインプットの各要素ごとに解説する。

第6回 品質管理

品質、不良の概念を説明し、生産現場における品質管理の取り組みを紹介する。

第7回 国外における生産現場の管理

同じ企業でも国外に生産ラインを移すと生産現場の管理にどのような違いが生じるのか、中国や東南アジアの事例を通して学ぶ。

第8回 フレキシビリティとオープン・アーキテクチャ

生産現場が需要変動にどのように対応してきたのか解説する。

第9回 加工技術

食品加工やプラスチック樹脂加工の要点を解説する。

第10回 加工技術

金属加工の要点を解説する。

第11回 加工現場の視察

例年は、学外から講師を招いて講演、あるいは加工現場を視察して加工技術について学んでいたが、今年度はインターネット上で公開されているバーチャル工場見学を行う。

第12回 ものづくりの歴史

産業革命からフォーディズム、ポストフォーディズム、そしてオープン・イノベーションの時代と呼ばれる現代までのものづくりの歴史を解説する。

第13回 新しいものづくりの考え方

生産設備を持たないメーカーが現れ、個人による少量生産のハードルが低くなった現在、デザインという観点から新しいものづくりのアイデアを生み出す手法を学ぶ。

第14回 ものづくりの未来

IoT（Internet of Things）、あらゆるものがインターネットでつながる未来が実現するとき、ものづくりはどのように変化するのか、現在の議論を整理し、考察する。

第15回 全体の振り返り

講義全体の要点を振り返るとともに、レポート課題について講評する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

ユニバーサル・デザイン論

糟谷 佐紀  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習（キャンパス調査）

< 授業の目的 >

この科目の目的は、障害者・高齢者などの特別なニーズに応えるだけではなく、はじめから誰にでも使いやすいデザインであることを設計概念とするユニバーサルデザインに関する基礎知識の習得、自ら事例を発見できる力を身に付けることである。この科目は現代社会学科のディプロマシー1（知識・技能）に関連する。

本授業は、キャンパス調査を行い、プレゼンテーションをするという、実践的教育から構成された授業科目である。

なお、本科目の担当者は、リハビリテーションセンターにて障害者の生活環境等の改善に関わっていた、実務経験のある教員である。事例として関わった障害者の状況に言及し、具体的なイメージの把握に努める。

< 到達目標 >

ユニバーサルデザインの概念を説明できるようになる。  
（知識）

ユニバーサルデザインの活用例について事例を用いて説明できるようになる。（知識）

ユニバーサルデザインの視点でまちづくりやものづくり、仕組みづくりを考えられるようになる。（態度・習慣）

ユニバーサルデザインの視点でキャンパス内を調査し、工夫や未整備な点を見つかることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、アクセシビリティ、ものづくり、まちづくり

< 授業の進め方 >

1回目はオリエンテーションとし、講義の進め方等について説明する。

講義の中で、ユニバーサルデザイン商品を触ったり使ったりする。また、車椅子を用いたキャンパス調査を行い、その発表を行う。障害のあるゲストスピーカーの講義を聴く。

< 履修するにあたって >

・20分以上の遅刻は特別な事情がない限り、欠席とみなす。

・講義中の私語、飲食、迷惑行為（携帯、メール、ゲーム等）を禁ず。

< 授業時間外に必要な学修 >

日常生活において、街や建物、交通機関や道具などをユニバーサルデザインの視点で見えるようにする。（目安として週に1回程度）（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

キャンパス調査の発表とレポート

鑑賞した映画のレポート

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義終了後、出席カードに書くコメント20%、キャンパス調査の発表とレポート40%、鑑賞した映画のレポート40%で評価する。

定期試験は行わないが、出席回数が講義回数の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象から外す。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

梶本久夫監訳「ユニバーサルデザイン ハンドブック」丸善(株)出版事業部 25,000円（税別）

関根千佳「ユニバーサルデザインのちから」生産性出版 1500円（税別）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

障害者、高齢者、多様性への理解

福祉のまちづくりに関する法律

講義の進め方、評価方法などを理解する。

様々な障害、加齢による身体変化などを学び、社会的な不利、使用困難な道具や環境について理解を深める。バリアフリー法、障害者権利条約、障害者差別解消法などを理解し、説明できるようになる。

第2回 ユニバーサルデザインの背景と7原則

ユニバーサルデザインの概念が生まれた背景と、ユニバーサルデザインの概念、7原則を理解し、説明できるようになる。

第3回 移動しやすさ：まちのユニバーサルデザイン  
バリアフリー法、障害者権利条約（アクセシビリティ）、障害者差別解消法などを理解し、説明できるようになる。街や建築物、バスや電車、駅舎等の交通機関におけるユニバーサルデザインについて事例を通して学ぶ。自らも発見できるようになる。

第4回 住みやすさ：住宅のユニバーサルデザイン  
調理器具や食器などにおけるユニバーサルデザインについて事例を通して学ぶ。調理器具、食器などを使用しながら、商品の工夫、対象者などを理解する。

第5回 使いやすさ：ものづくりのユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン概念で作られた文房具やおもちゃなどを使用しながら、商品の工夫、対象者などを理解する。

第6回 参加しやすさ：

ユニバーサルツーリズム

ユニバーサルサービス

スポーツのユニバーサルデザイン

旅行のしやすさ

パラリンピックの種目などを通じて、スポーツにおける

UDを理解する。

高齢者、障害者を含むすべての人に対するユニバーサルサービスについて学ぶ。多くの接客業がユニバーサルサービスを学ぶ実態を把握する。

第7回 つながりやすさ：ICTのユニバーサルデザイン

パソコン、携帯用端末などのUDに関して、先端事例を通して学ぶ。自らの使用する携帯用端末を用いて、UDを発見する。

第8回 わかりやすさ：伝え方のユニバーサルデザイン  
伝わりやすい文章の書き方、見せ方、伝え方を学ぶ。わかりやすい版とされたパンフレットの工夫や、LLブックについても学ぶ。

第9回 ゲストスピーカーの話聞く

キャンパス調査の発表をグループごとに行う。発表を聞いている者からのコメントに答える。

第10回 キャンパス調査の説明

キャンパス調査の説明、車椅子操作の説明、多機能トイレ（動画）

第11回 キャンパス調査

キャンパス内を様々なユーザーグループになって、福祉用具などを用いて、ユニバーサルデザインの視点で調査する。

第12回 キャンパス調査

11回とは異なるユーザーグループになって、同じ場所を調査する。

第13回 キャンパス調査の発表準備

撮影してきた写真を投影しながら、発表できるように、パワーポイントを作成する。

第14回 キャンパス調査の発表

各グループからの発表を聞く。

第15回 キャンパス調査の発表

各グループからの発表を聞く。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

量的調査法

都村 聞人  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、現代社会学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する基本方針）に規定された「（現代社会における）諸問題を学際的かつ科学的に発見し把握する」ことを目指している。

本科目は、専門基幹科目（専門共通）のひとつであり、一連の社会調査法科目の応用編に位置づけられる。また、社会調査士資格のE科目（多変量解析の方法に関する科目）に該当する。

多変量解析の基本的な考え方について学び、代表的な分析モデルを習得し、量的データの分析ができるようにすることを目的とする。まず、分散分析について学び、独立変数が3つ以上のグループの場合の平均の差の検定を習得する。次に、重回帰分析について学習し、複数の独立変数を用いる回帰分析、独立変数に量的変数だけではなく質的変数を用いる方法を学ぶ。最後に、質的変数（ダミー変数）を従属変数とする分析モデルとしてロジスティック回帰分析を学習する。本講義では、公開された2次データをSPSS等の統計解析ソフトを利用して分析することにより、実践的に学習する。

< 到達目標 >

多変量解析の基本的な考え方や意義・目的を説明できる。

分散分析の考え方を説明し、簡単な分析ができる。

重回帰分析の考え方を説明し、簡単な分析ができる。

ダミー変数の考え方を説明し、分析に利用できる。

ロジスティック回帰分析の考え方を説明し、簡単な分析ができる。

統計ソフトのシンタックスを用いて、簡単な操作ができる。

多変量解析の分析結果、説明、考察に関して、簡単なレポートを作成できる。

< 授業のキーワード >

統計学、多変量解析、データ分析、社会調査士資格E科目（多変量解析の方法に関する科目）

< 授業の進め方 >

統計に関する講義の他に、パソコンを用いた実習作業を行う。

< 履修するにあたって >

・社会調査法、社会統計学の知識を前提とするので、両科目の単位を修得してから受講すること（社会調査士資格の取得を目指し、両科目の単位を今年度に修得予定の場合は、教員に相談すること）。

・2年次の統計学科目（社会調査法、社会統計学）に比べ、授業内容・課題の難易度が上がるため、意欲的に学習することを期待したい。

・社会調査士資格の取得のためには、E科目もしくはF科目の単位修得が必要となる。本学部の場合、3年次前期開講の「質的調査法（F科目）」もしくは「量的調査法（E科目）」いずれかの単位を修得すればよいので、適性を考えたうえで履修すること（ただし、興味がある者は両方の科目を履修しても構わない）。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教科書の箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと（目安として1時間程度）。

事後学習として、講義時の配布資料を再確認し、教科書の練習問題を解いてみる（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

実習作業の結果をレポートとして提出してもらいます。  
(フィードバック: レポートに対してコメントを行います。  
また、正解例を解説します。)

< 成績評価方法・基準 >

レポート (100%)

< テキスト >

岩井紀子・保田時男、『調査データ分析の基礎』、有斐閣、2007年

< 参考図書 >

必要に応じて、参考となる文献を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

この授業で学ぶこと、授業の進め方。

第2回 多変量解析の基本的な考え方

多変量解析とはなにか?、多変量解析の意義と目的、多変量解析のタイプ。

第3回 多変量解析の基本的な考え方

関連と因果、統制変数、3元クロス表の分析、偏相関係数。

第4回 分散分析

分散分析とはなにか?、平均の差の検定と分散分析、一元配置分散分析。

第5回 分散分析

交互作用効果、二元配置の分散分析。

第6回 分散分析の実習

データを用いた実践練習 (SPSS)。

第7回 回帰分析の考え方の復習

単回帰分析、回帰式、回帰線、回帰係数、決定係数、説明力の検定。

第8回 重回帰分析

重回帰分析とは何か?、重回帰分析の意義と目的、分析の具体例、モデルの概要。

第9回 重回帰分析

偏回帰係数、標準化回帰係数、決定係数、偏回帰係数の検定、決定係数の有意性検定、ダミー変数。

第10回 重回帰分析の実習

データを用いた実践練習 (SPSS) (値の再割り当て、変数の合成・計算、シンタックス機能)。

第11回 重回帰分析の実習

データを用いた実践練習 (SPSS) (モデルの作り方)。

第12回 重回帰分析の結果のまとめ方と考察

データを用いた実践練習 (SPSS) (レポートや論文における分析結果のまとめ方)。

第13回 ロジスティック回帰分析

ロジスティック回帰分析とは何か?、ロジスティック回帰分析の意義と目的、分析の具体例、ロジスティック回帰分析の考え方。

第14回 ロジスティック回帰分析

係数の解釈、係数の推定と検定、説明力の評価。

第15回 ロジスティック回帰分析の実習

データを用いた実践練習 (SPSS)。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

労働と経済

中村 恵  
-----

< 授業の方法 >

講義 (対面授業)

< 授業の目的 >

人は、人生の中で必ず何らかの形で労働とかわりをもつ。どのくらいの人が働いているか、どういった産業や仕事で働いているか、あるいはどれほど働いていないかを統計に基づいて理解するとともに、労働の需要と供給及びその総合としての雇用と賃金の決定を労働経済学の理論的フレームワークを用いて学習する。

人口のうち、どのくらいが労働供給とみなされるか、働いている人々はどいった産業や職業に就いているか、働く意欲があるのに働いていないいわゆる失業者はどれほど存在するか、そしてそれぞれその史的推移をどのようなものを統計に基づいて理解する。その上で、基礎的な理論から労働供給曲線と労働需要曲線を導出し、賃金と雇用量の決定に関する理論的フレームワークを学習する。労働供給曲線と労働需要曲線は環境によって変化し、その変化により賃金と雇用量はどのように影響されるかを理解する。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」と関係し、それを育成する。

< 到達目標 >

経済における労働の意義とその実態及び史的推移を学んだ上で、労働市場における賃金と雇用量の決定に関するメカニズムを理解するとともに、それを現実の経済の動きに適用することができる。

< 授業の進め方 >

適宜資料を配布、あるいは投影しながら、質疑応答を取り入れた講義形式で進める。

なお、理解促進のため、適宜練習問題を課し、解説を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習及び定期券対策勉強などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

< 提出課題など >

学生へのフィードバックとして、

(1) 毎回出欠とともに質問等を受け付け、それに対する回答を原則次回の講義にて行う。

(2) 中間テスト結果に関して、個別あるいは全体に対

してコメントを返す。

< 成績評価方法・基準 >

中間テスト（40%）、定期試験（60%）、合計100%で評価する。

< 参考図書 >

大竹文雄『労働経済学入門』日本経済新聞社

小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社

樋口美雄『労働経済学』東洋経済新報社

< 授業計画 >

#### 第1回 労働、労働力、労働市場

労働経済学がヒトの市場である労働市場を分析する学問であることを理解し、その対象である「労働」の特殊性及び「労働力」の概念について学習する。

#### 第2回 労働供給

##### （1）人口と労働力

労働供給の実態について、人口の構造に関して学んだあと、労働力調査における「労働力率」及び「失業率」の概念を具体的な例から理解し、労働力率の時系列変化を、男女別、年齢別の統計的観察から把握する。

#### 第3回 労働供給

##### （2）女子労働力率の推移

労働統計のなかでも国の間で差異の大きい女子の年齢別労働力率を例にとり、国際比較およびその史的变化の観察をおこなう。

#### 第4回 労働需要・・・産業別・職業別雇用者の構造

労働需要の実態について、就業者及び雇用者の産業別構成及び職業別構成を統計的に概観し、その実態と史的推移を把握する。

#### 第5回 労働移動・・・外部労働市場と内部労働市場

実際の労働市場は、企業間労働移動を含む外部労働市場と企業内の内部労働市場の二つに分かれることを理解し、うち外部労働市場における労働移動（離転職）の実態を統計から観察するとともに、その労働市場における役割を学習する。

#### 第6回 失業の構造

労働力調査による失業の定義を復習し、失業の実態を男女別、年齢別等統計を観察することを通して、その史的推移を含めて学習する。

#### 第7回 労働市場の構造と役割

労働市場が労働需要と労働供給によって構成され、それらがグラフでどのように描かれるかを理解するとともに、労働市場でどのように賃金と雇用量が決定されるかを学習する。

#### 第8回 労働供給の理論

##### （1）時間単位の労働供給

労働供給の意味を概説し、所得と余暇に関する効用関数を簡単な数式で特定化し、効用最大化によって個人が時間単位の労働供給決定を行う理屈を理解する。

#### 第9回 労働供給の理論

##### （2）人員単位の労働供給

人員単位の労働供給決定の基礎である「就業・非就業の選択」という考え方を学ぶ。このなかで個人が働き出す最低の賃金という意味での留保賃金の概念を理解し、人員単位の労働供給曲線が必ず右上がりの曲線になることを理解する。

#### 第10回 労働需要の理論

##### （1）利潤最大化行動

労働需要が、企業が生産する製品の需要に対する派生需要であることを理解し、簡単な企業の生産活動と利潤算出式に関する数式を例にとり、利潤最大化行動が最適労働需要をもたらすことを学習する。

#### 第11回 労働需要の理論

##### （2）労働需要曲線の導出

企業の生産関数を特定し、製品価格に応じて最適労働需要がどのように変化するかを計算することを通して、労働需要曲線が右下がりの曲線となることを理解する。

#### 第12回 賃金と雇用の決定

学んだ労働供給、労働需要の理論から、一般的な労働供給関数及び労働需要関数を想定し、連立方程式体系としての賃金と雇用の同時決定を理解する。

#### 第13回 労働供給曲線のシフトとその影響

労働市場でおこる労働供給曲線のシフト要因を理解し、そうしたシフトがどのように賃金と雇用量の決定に影響するかを学習する。

#### 第14回 労働需要曲線のシフトとその影響

労働市場でおこる労働需要曲線のシフト要因を理解し、そうしたシフトがどのように賃金と雇用量の決定に影響するかを学習する。

#### 第15回 労働供給曲線と労働需要曲線の同時シフトとその影響

労働供給曲線と労働需要曲線が同時に動く一般的なケースにおいて、そうしたシフトがどのように賃金と雇用量の決定に影響するかを、具体的な事例を例にとりながら学習する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

労働と経済

中村 恵  
-----

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

仕事の訓練とその配置、勤続年数や賃金・給与決定の実態とその格差、労使関係の在り方について、統計データや有力な理論及び具体的事例の紹介を通して学習しながら、民間企業における労働問題についての理解を深める。民間企業内における労働問題について、企業の組織構造や構成員のタイプを把握するとともに、正規社員においては日欧米とともに、比較的長期に勤続する傾向や年功的

な賃金カーブが共通に存在していること、仕事に必要な技能訓練の在り方から見たとき、その存在には有力理論的根拠があること、それに応じて賃金体系を中心とする人事制度にも欧米との共通性が見られることを学ぶ。さらに差別や給与格差等の諸問題の実態やその説明理論、及びそうした労働問題を解決する装置として労働組合が重要な役割を果たす可能性があることを学習する。

なお、本科目は学部両学科ディプロマ・ポリシーのうち、「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力等の能力」と関係し、それを育成する。

<到達目標>

民間企業における人事管理及び労務管理に関する労働諸問題及び労使関係に関する理解を深めるとともに、企業内人事に関わる理論を学習し、実際の分析に応用できる。

<授業の進め方>

適宜資料を配布、あるいは投影しながら、質疑応答を取り入れた講義形式で進める。

<授業時間外に必要な学修>

予習・復習、小テスト・定期試験対策勉強などを含めて、15週合計で60時間の授業外学修を目安とする。

<提出課題など>

学生へのフィードバックとして、

(1) 毎回出欠とともに質問等を受け付け、それに対する回答を原則次回の講義にて行う。

(2) 練習問題等の解答チェックを個別に行うとともに、正答を全学生に提示する。

(3) 中間テストの採点結果付答案は、全学生に返却する。

<成績評価方法・基準>

中間テスト(40%)、定期試験(60%)、合計100%で評価する。

<参考図書>

小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社

大竹文雄『労働経済学入門』日経新聞社

E.ラジアア『人事と組織の経済学』日本経済新聞社

P.ミルグローム & J.ロバーツ『組織の経済学』NTT出版

<授業計画>

第1回 民間企業の組織とその構成

最も多くの労働者が働いている民間企業の組織のあり方について学習する。人事、経理、営業など複数の機能分野から成り立っていること、従業員のピラミッドは役員(取締役)、マネージャー、一般職員などから成り立っていることを、会社法、労働法もふまえながら理解する。

第2回 正規社員と非正規社員

企業の従業員は一般的に「正規社員」と「非正規社員」からなる。とくに「非正規社員」の種類とその違いを具体的に学習するとともに、その企業内における位置づけについて正確に理解し、その両者が必ずしも断絶されて

いるわけではないことを理解する。

第3回 勤続年数の国際比較

企業で働く人の中には、比較的長く勤め続ける人もいれば、すぐに離職していく人も存在する。離職率や勤続年数などのデータを概観し、いわゆる「長期雇用」という慣行が、日本だけではなく、アメリカやヨーロッパなどでも観察されることを理解する。

第4回 年齢 - 賃金プロファイルの国際比較

企業内の賃金のあり方について、いわゆる年齢 - 賃金プロファイルを観察し、ホワイトカラーではどこの国でもいわゆる年功カーブになっているが、ブルーカラーでは日本だけが年功カーブであることを確認する。

第5回 「人的資本」論

(1) 一般訓練と企業特殊訓練

年功賃金カーブと長期雇用の理論的背景に関する基礎理論のひとつである人的資本理論を学習する。仕事を覚えるのは主に職場での仕事をしながらの訓練(OJT)によっていること、技能の中にはどの企業でも通用する一般技能と、訓練を受けた企業でしか通用しない企業特殊の技能からなっていると想定されることを学習、理解する。

第6回 「人的資本」論

(2) 長期雇用と年功賃金

人的資本理論をさらに学習する。仕事の訓練にはOJTでもコストが伴うこと、そのコストは労働者が企業のどちらか、またはその両方が負担をせざるをえないこと、企業特殊技能の訓練が少しでも存在すれば、コストを両者が負担で分け持つことが最適で、そのとき雇用は長期的になり、賃金カーブが年功的になることを理解する。

第7回 効率賃金仮説とサボリ仮説

長期雇用と年功的賃金カーブを説明するもうひとつの理論である効率賃金仮説を学習する。仕事が複雑で経営によるモニタリングが不完全な場合には、賃金カーブを年功的にすると労働者の努力を最大限に引き出すことができると考えるこの理論の基礎を学び、人的資本理論との考え方の差異も把握する。

第8回 賃金体系の実際

いわゆる年功的な賃金カーブも、企業の現場ではさまざまな手法で実現されている。こうした手法を賃金体系と呼ぶ。ここでは、企業の賃金体系のさまざまな形態を学習し、その違いを理解する。

第9回 職能資格等級制度

日本企業の賃金体系の主流が職能資格制度に基づいていること、この制度の下では賃金だけではなく、昇進・昇格の制度的基礎でもあること、及びその運用においていわゆる人事考課が欠かせないものであることを理解する。

第10回 年功賃金と成果主義賃金

賃金体系の変化をもたらしたとされる最近の成果主義に関する実態とその議論及び問題点を検討し、実際に導入された「成果主義賃金」における真の変化について学習する。

#### 第11回 欧米の賃金体系

欧米の賃金体系が仕事に基づくものではなく、日本の職能資格制度に近いサラリー・グレード制であることを学習し、その上で両者の真の差異を理解する。

#### 第12回 「統計的差別」理論

企業内では差別が発生することがある。現代の代表的な差別のひとつは男女差別である。この男女差別を説明する理論のうち、偏見説と統計的差別理論の概要を理解するとともに、うちより説明力が高い統計的差別理論についてその意義を深く学ぶ。

#### 第13回 労働組合の構造と機能

実際の企業の中には、労働者の組織としての労働組合が存在する。労働組合の構造や諸類型とその歴史、及び期待される機能・役割、存在意義などを、国際比較をとおして学習する。

#### 第14回 労働組合の役割 - 発言と離職

労働組合の企業活動への影響について学ぶ。とくに労働組合の賃金への効果、生産性への効果について複数の視点から学習し、いわゆる内部労働市場において労働組合は「発言」機能を通して企業の生産性を向上させる側面もあることを理解する。

#### 第15回 賃金・所得格差の実態

いわゆる「格差社会」に関する議論を学び、最新の研究に基づいてその実態について理解する。とくに、賃金格差や所得の不平等が言われているほど大きくなっているわけではないことを統計に基づいて把握するとともに、格差に関する真の問題点を理解する。